創刊3周年記念
特大号

前田日明 狙撃事件を斬る!!

2000. 22

紙のプロレス RADICAL



戦慄! 衝撃!! 驚愕!!!
“UWF”クーデター勃発!!
安生洋二
前田狙撃事件座談会

久しぶり、この上ない!
小川vs橋本戦から
チョコボール向井まで
“クエスチョン・タイム”!
馳浩先生

オランダ遠征完了!!
小川直也

この怪物の正体を探れ!!
ゴールドバーグ

本誌独占スクープ!
サスケ、懺悔!!

12・22DDT後楽園進出目前!
木村浩一郎

押忍! 好評につき続編!
田中健一

「逃げるな、ヒクソン!」
ホイラーに完勝、この上ない!
桜庭和志

ヤマケン問題!
オープン・トーナメント!
走りきれるのか、田村!
田村潔司

「田村潔司への爆弾発言!」
……その後。
山本喧一

全日本、本格掲載への道2!

FMW11・23逆噴射リポート!

バトラーツと『紙プロ』を
一刀両断!
池田大輔

アイアンマンのテーマで登場!
ブラッド・コーラー&アニマル・ウォリアー

アイアム・プロレスラー!
長井満也



『PRIDE・GP2000』!!
史上最大の格闘技オリンピック実現!!



グレイシーに

サク完勝!! それが本誌の定説です!!

紙のプロレスRADICAL NO.22

VIVA! やっちゃったね、サク!!

発行元:(株)ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 電話/03-3403-5188

PlayStation

D3スポーツ

発売元：(株)ディースリー・パブリッシャー
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-46-2
青山イースト&ウエスト3F TEL.03-5464-1031
http://www.d3p.co.jp

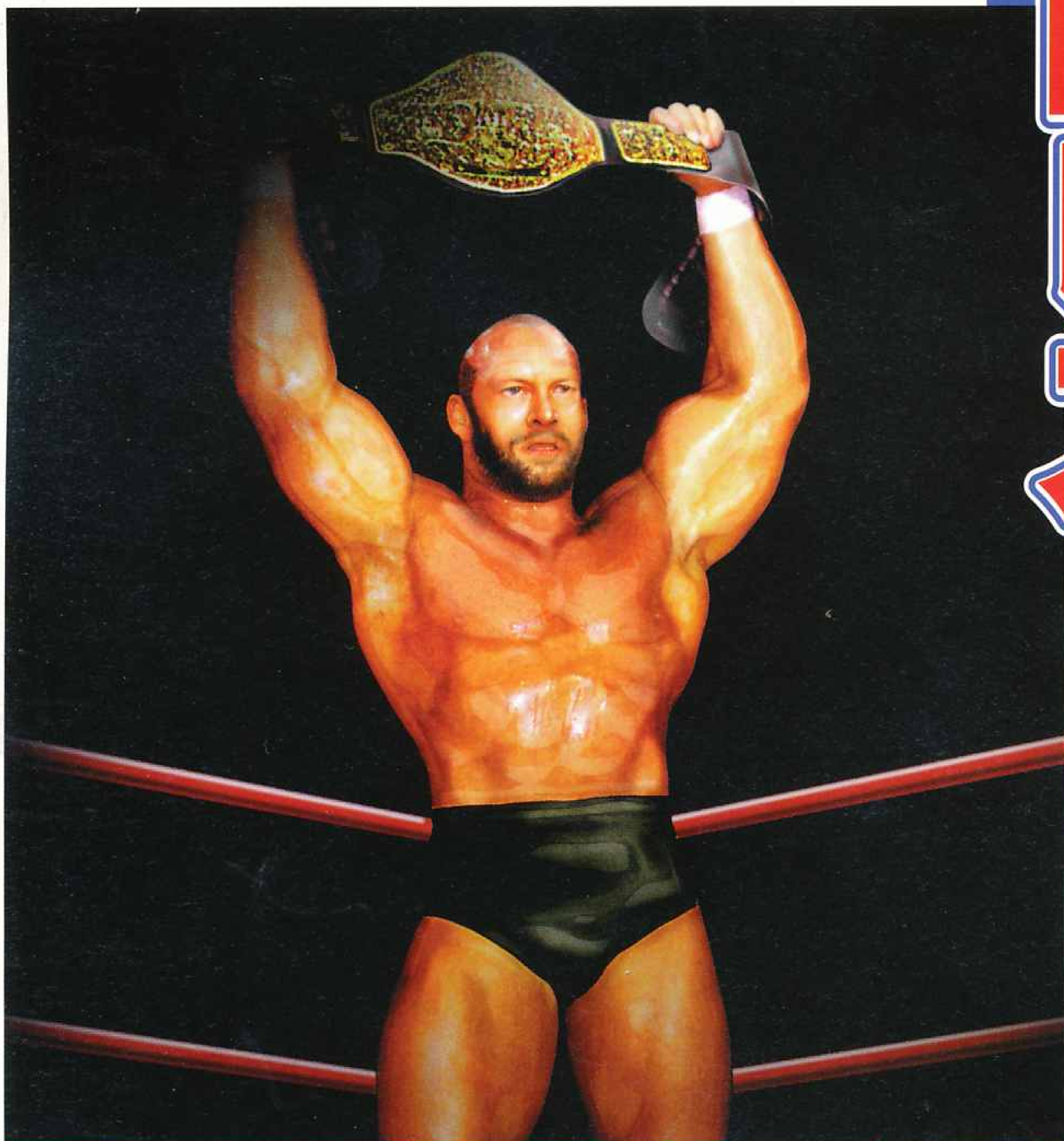
D3 PUBLISHER INC.

SIMPLE 1500 シリーズ

Dスポ。

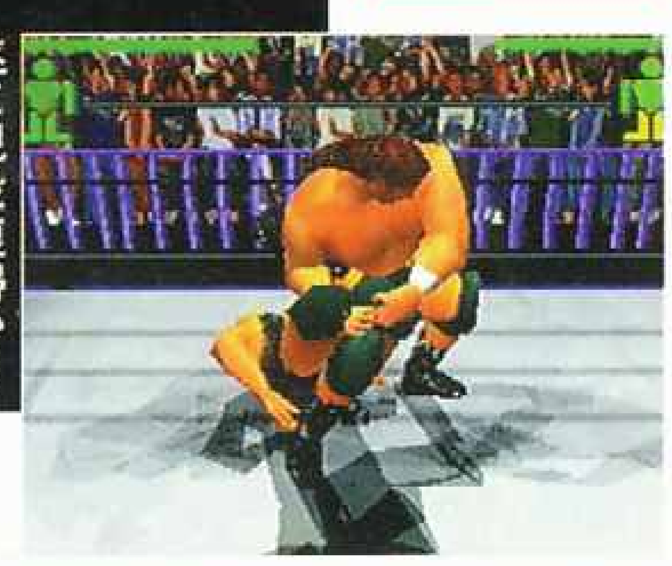
年末、プロレス参戦決定!!

最強を自負する20人のオリジナルレスラーが参戦を表明



プロレスゲーム最強価格で殴り込み!!

シリーズセールス300万本を突破したSIMPLE1500シリーズが、ついにプロレス参戦。フルポリゴンで描かれた迫力のレスラー20人が、シングルマッチ、バトルロイヤル、デスマッチで白熱のバトルを展開する模様だ。2プレイ対戦ももちろん可能。価格は常識破りの1、500円。この冬、格闘ファンはぜったいに見逃せない。



遂に現役復帰か？



蘇る巨人神話!!



平成の巌流島対決再現

レスラーメイキング機能搭載。
謎の出場選手「X」はあなたが決める!!



1.体型・顔・コスチュームを選択

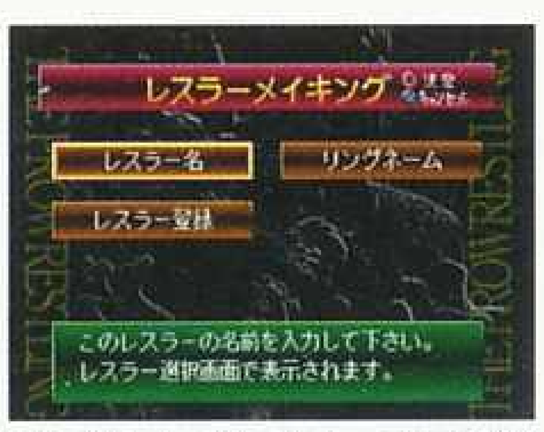


2.能力パラメータを設定

実在の選手も、引退したあの選手も作成できる「レスラーメイキング機能」を搭載。「外見・能力・必殺技・リングネーム」等を自由に設定・保存可能。伝説の名勝負、因縁の闘いも再現できるぞ。



3.持ち技、必殺技を決定



4.リングネーム、キャッチフレーズも自由自在



5.宿敵、強敵を倒し世界最強を目指せ。

新タイトル続々登場!!
12月発売予定



Vol.23［THE ゲートボール］



Vol.24［THE ガンシューティング］



Vol.22［THE プロレス］大ヒット発売中

●1～2プレイ対戦●メモリーカード1ブロック使用●標準価格¥1,500（税抜）


光と陰
SURPRISE
サク、グレイシーに完勝この上なし!!
前田狙撃される!!
この衝撃事件の背景は!?

ね、サク!!

、ヒクソン!!



桜庭和志は、〝ミレニアムの力道山〟である(ちょっと強引)

いまだにどういう意味かよくわからないが、世の中はミレニアムだという。

そんな時代のキーワードは、〝鎧(よろい)〟である。

なぜだ？　それは読めばわかります。

〝鎧〟にまつわる伝説、迫力を帯びた物語は、僕の細胞に深く深く刻み込まれている。

たとえば――。

「人斬りの哲」という親分は、銃弾五発を浴び、「極道」という名の鎧をつけたまま絶命した。

死期が近いのに、机にしがみつくようにしてモノを書き続けた男は、「作家」という鎧をつけていた。

あるギャンブラーは、「勝負師」という鎧を背負って破滅へまっしぐらに突き進んだ。

過労死するまで「企業戦士」という鎧をつけ続けた会社員もいる。

そして、「超人」や「最強」という鎧をまとったプロレスラーたち――。

戦後の混乱期。人々に光を与え、プロレス界を隆盛に導いたのは、力道山という名の、重い鎧を背負った超人だった。その時代から、プロレスラーは、キラキラ輝くオトギ話の主人公のように〝プロレスラーという名の鎧〟をつけ続けてきた。

金槌でガンガンと手の甲を叩き空手チョップを磨き上げた力道山。人前で酒を飲むとコップまでバリバリと食った上田馬之助。一本足頭突きの大木金太郎は、板に額で釘を打ちつけて頭を鍛えあげた。

古き良き時代の〝プロレスラーという名の鎧〟。彼らは、たとえ重いと感じても、〝プロレスラーという名の鎧〟を剥がせなかった。いや、剥がそうとしても剥がれなかった。鎧が剥がれてしまったら、それは「死」を意味するからだ。

そして、鎧を心と身体に張りつけるというシンドイ作業の代償として、彼らは「凄み」と「色気」と「物語」を手に入れた。

話は唐突に変わるが、いまもまた「戦後」である。

「バーリ・トゥード世界大戦」の戦後だ。その大戦では、高田 vs ヒクソン戦を代表とする、プロレス

やっちゃった



U SURPRISE 光

逃げるな

サクの完勝&激怒インタビューはP73より←

ラーの屍が累々と積み上げられていった。

そんな閉塞した時代のなか、力道山のような頑丈な〝鎧〟をつけた戦士の出現を誰もが待ち焦がれていた。そこに、実に頼りなさそうな風貌で現れたのが、ヘラヘラ&クネクネした桜庭和志だった。

桜庭和志は〝鎧〟をつけてはいない。

〝生身〟である。

そして、99・11・21——〝生身〟のサクが、〝グレイシーという名の鎧〟を打ち砕いた！

その1週間前には、まるで戦後のどさくさにまぎれて起こったかのような、非常にネガティブな出来事があった。「11・14前田日明闇討ち事件」——。

それにショックを受けたファン、そして「バーリ・トゥード大戦」での敗戦ショックから立ち直りきってないファンに、サクは明るい光を照らした。

11・21は、力道山とは似ても似つかない桜庭和志が、〝ミレニアムの力道山〟となった日なのだ。

力道山は空手チョップで強豪ガイジンを迎えうったが、サクはアイ〜ン・チョップを引っさげてグレイシー討伐に出ていった。

そして「実像」が「イメージ」を超えなければならないリアルな時代に、サク・スマイルを燦然と輝かせたのである。

なんとも痛快な話だ。

サクには〝鎧〟は必要ない。いや、言い換えれば、サクは、〝生身〟そのものを〝鎧〟にしてしまったともいえる。これは、新しい世紀に通用する、実に身軽で壊れにくい〝鎧〟でもある。

そして、もっとも重要なことは、サクが、リング上の「結果」と「内容」によって、見る者の細胞を叩き起こして光を照らしたということ。非常に「ポジティブ」な方法で、閉塞した時代の扉をこじ開けたということである。

最後に、桜庭和志にこの言葉を贈りたい。

「サク、カッコイイとは、そういうことさ」（ニコニコ）。

【N・Y】

立ち上がれ、

徹底討論!!


前田テロ事件サプライズ座談会

〝U〟イズ・デッド!?

マット界の暗部をさらけ出す大事件が起きた。前田日明狙撃事件——。11・14『UFC—J』の大会後、前田日明が安生洋二に背後から急襲され失神昏倒。その後、黒幕存在説、集団での計画的犯行説まで噴出し、日を追うごとに事件の根の深さが浮き彫りになった。しかし一番の問題は、この膠着したバーリ・トゥードのような、胸に残る〝不快感〟〝嫌悪感〟の源はなんなのかである。ここは思ってることを言うしかない！　告訴覚悟の過激座談会！　行きますか——ッ!!

前田日明はいま、どうしてるのか？





U SURPRISE

陰

"不良が元・番長を呼び出した体育館裏のテンション"の背景にあるものは？

前田日明

"U"クーデター勃発!!

共謀でなければ、これはナチュラル共謀だ!!

タコ　毎度！　大変な事件が起きてしまったというわけですわ!!

山口　最初に言っとくけど、この事件の真犯人はＳｈｏｗだよ。

豪　同感です！（笑）。

山口　そういうことです！　嘘だけど（笑）。

タコ　というわけで、偶然にも事件が起こったときに、会長（山口日昇のアダ名）は至近距離にいたんですよね？

山口　方向的には真横だね。

豪　その現場にはチョロもポッキー（ガンツ）も至近距離にいたんだよね。

タコ　では、その三人の証言をもとにしつつ話を進めていきましょか。とにかくこれは事件ですから、やっぱり情報を直接目撃した人間から聞きたいですわ。

豪　いろんな雑誌に載ってる情報とボクらが聞いている情報とでは、あまりに食い違いがありますからねぇ。

山口　まずね、「パンクラス共謀説」というのが出回ってるけど、ズバリ言って共謀です！

豪　いきなりいきますか、訴えられますよ（笑）。

山口　冗談だよ、冗談（笑）。こういう事件が起こって、マット界全体がいい方向に転がっていけばいいんだけど、俺は、シャレが効かなくなるのが一番嫌なんだよね（笑）。陰湿な恐怖政治みたいな世界になっていくのが。糸井重里さんが、昔、「安穏と表現だけは譲れない」っていうようなこと言ってたけど、俺もシャレと表現だけは譲れない。って、なに言ってるんだ、俺？（笑）。ちょっとコーフンしてます（笑）。でもね、ハッキリ言っておくけど、刑事事件的な「共謀」かどうかっていうのは警察にまかせるとして、俺の見た限りでは、ナチュラル共謀みたいなものですよ。

豪　デビル・アングルですか（笑）。そもそも前田さんは招待されて来たわけですよね。

山口　ＴＫ（高阪剛）はリングスジャパン所属でしょ。本場のＵＦＣを主催してるＳＥＧからダイレクトにブッキングしてるわけじゃないよね。前田日明は、そのＴＫが出場してる団体の社長なわけだから、主賓待遇っていうの？　そういうスタンスで呼ばれるのは当然だよね。

豪　そんな状況で、こういう裏で、なにかいろいろ絡んでると取られかねないようなことが起こったわけですね。

山口　その『ＵＦＣ―Ｊ』とパンクラスは提携関係にあるわけでしょう。ああいう結果を予測していたかどうかはともかく、昔、嫌な目にあった元番長のＯＢを体育館裏に呼び出して、〝やっつけちゃう？〟みたいなテンションはあったし、それは俺も現場にいて感じたよ。それを指して俺はナチュラル共謀って言ってるんだよね。

〝やっちゃう？〟みたいなテンションは現場にあったそれをナチュラル共謀という

豪　なんかそういう気がしちゃいますよね。なにしろ新聞なんかに掲載された『ＵＦＣ―Ｊ』の広告には、「パンクラス、リングス代理戦争勃発！　Ｕ終局……」って書かれてたし、あのコピー自体も実に不可解ですよ。

山口　まあ、それは興行のアオリ文句とも見えないこともないじゃない？

豪　それはそうなんですけど、今回のカードは、全然代理戦争じゃないじゃないですか。リングスとパンクラスが同じ興行に出るっていうポジティブなはずの出来事をえらくネガティヴに表現して、その上に「Ｕ終局」って、なんで同じ興行に出ただけで終わらなきゃいけないんだってことでしょ。前号の『紙プロ』でヤマケンが「勝ったら爆弾発言します」って公言していたことも含めて、最初からこうなることはわかってた気がするんだよなあ。

タコ　でも、そういうメッセージを発する必要って全然ないし、発すると逆に危ないやん。深読みしすぎなんちゃう？　それはヘタすると証拠になってしまうやん。

豪　興行の煽りとしては、それでもいいと思ってたんじゃないかなあ。

ガンツ　だけど単純な話、主催者側からしたら前田さんっていうのはトップランクのＶＩＰですよねえ。その人が昏倒しちゃうような事態になって、その後の打ち上げではしゃいで笑ってられますか？

豪　ああ、坂田（晶）代表の話ね。そのパーティーがまた、大会ではなく何か別のものを祝ってるような空気だったって話もあるけど。

山口　『格通』の安西記者が安生と握手して「ありがとう」って言ってたよね（笑）。

豪　以前、前田日明に、「敵が多くて安生に間違え」られちゃった、グレイシー信者の安西さんですね（笑）。

山口　全試合が終了した後に、俺、リングスの内田マネージャーから「打ち上げはどこでやるんですか？」って聞かれたんだよ。前田日明とふたりして出てたらどうなってたんだろう？

チョロ　ボクも内田さんに「主催者の『ＵＦＣ―Ｊ』の坂田代表に聞いてもわからない」って言われたんですよね。

豪　え？　なんで主催者が打ち上げの場所を知らないの？　それはミステリーですねえ。事件直前に、ちょうどウチのスタッフがパンクラスの山田（学）選手にサインを頼んだら、それどころじゃないっていう表情で断られたらしいんですけど、これもまたミステリーですよね（笑）。



前田テロ事件座談会

[座談会出席者プロフィール]


山口日昇
桜庭のポジティブムーブメントには乗れるが、今回のネガティブムーブメントには乗る気皆無の本誌鬼畜編集長（定説）。

吉田豪
本誌スーパーバイザー。某誌で毎月前田に話を聞く連載をもつ。事件の奥底に潜む何かに不快感を露にした金髪鬼。

松澤チョロ
ヤマケン・ムーブメント賛同者。が、襲撃事件については「こんなことして新しい時代築けますかいな」と批判。

原タコヤキ君
旧「紙プロ」時代から前田ファンとして一部では有名。前田のデコピンでコブを作ったのは勲章。現・カリスマ司会者（無免許）。

堀江ガンツ
ファン時代からの前田＆リングス信者。前田の失神した姿を見てヘコみ、タコヤキ君になぐさめられた本誌練習生。



テロ直後、親指を立ててポーズを取る。
「捕まってもいい」と豪語するだけあって、
目の飛び方が尋常じゃない　©SRS DX

山口　ヤマケンの田村潔司への爆弾発言があって襲撃事件があって、ナチュラルなのか計画的なのかわからないけど、「U終局」というか「Uクーデター」への助走というか、そういう気運があった匂いはプンプンするよね。

豪　それだったらパンクラス勢も共倒れってことなんですけどね。お前ら、試合に負けたくせに何やってんだっていう。

山口　だから、彼らはもう“U”じゃないわけでしょ。〃U〃はターザンじゃなくて（笑）、いまや前田日明という象徴だけになっちゃった。歴史を変えるのには、なんらかのショックは必要だけど、今回の事件は、な〜んか不快さがあるんだよね。

豪　ほんとモヤモヤしたもんが残りまくってますからねえ。でもテレビ放送では「U終結」ならぬ「U集結」って、180度タイトルが変わってたらしいですよ（笑）。

山口　ダハハハハハ！　でもね、さっきガンツも言ってたけど、主催者側には問題多すぎるよ。提携団体のパンクラスも含めて。所属選手を出場させてくれた団体の社長が倒れたときに、いくらいままでの私怨や因縁があるとはいえ、誰も病院にもついていかなかったり、打ち上げに出てたりさ。猪木さんの言葉じゃないけど、明らかに「礼を欠いてる」よね。パンクラスの尾崎社長だって、主催者側の提携団体の長なんだったら、当日、頭を下げるくらいの大人っぷりを見せてくれれば、評価はガラッと変わったと思うよ。それをマスコミ行脚して釈明したってねぇ。

豪　すべてが綺麗事にしか聞こえないんですよ。いちいち大人じゃなくてコトナとでもいうか（笑）。

チョロ　『UFC―J』からはお見舞いの花が届いたらしいですけどね。

山口　前田日明も安生らに対して、これまで「礼を欠いてる」発言はあったとは思うんだけど、どっちが先に言った言わないになったら、これからもまだ泥沼じゃない。

所属選手を出場させてくれた団体の社長が倒れたのに、主催者はパーティーに

タコ　どっちも得せえへん。

山口　で、襲撃直前の話で言えば、前田日明が立ってた後方のプロジェクターの後ろ側に、高橋＆安生の2人が肩を組むかのような感じで回ってね、「あそこにいるゾ」みたいな感じで、高橋（義生）選手が前田日明のほうをちょこっと指さしたんだよ。そのときは暗いし、帽子を被ってたから、もうひとりが安生だとは気がつかなかったけどね、俺は。

豪　後の尾崎社長の発言によると、高橋選手は、その対角線上に尾崎社長がいたから、尾崎社長を指さしたってことらしいんですけどね。社長を襲う気だったのかなあ（笑）。

山口　尾崎社長を指さしたってことは絶対にない。俺、見てるもん。で、高橋選手が指さした方向に前田日明がいて、一瞬のうちに帽子を被った男が背後から襲って、まるでナウマン象が倒れるような感じでもの凄い音を立てて前田日明が倒れたんだよ。殴った瞬間は、位置的に見えなかったけど。で、昏倒してる前田日明を一瞥しながら、山田学が「囲め、囲め！」って言ったのを俺は聞いた。



見てみぃ、このツラッ！「満面の笑み」とはまさにこのことである。また、この握手がパンクラス共謀説が発生するキッカケとなった
©SRSDX

前田日明事件 サプライズ 座談会

前田日明は「マット界がこんなふうになってしまって恥ずかしい」と言っていた

タコ　それは衝撃ですねえ。

豪　渡部謙吾なんかがうろたえながら囲んだって感じですか？

山口　いや、まず報道陣や関係者が「何があったんだ？」っていう感じで、倒れた前田日明を囲んで、その間に割って入るように集まってきた感じだね。だから、パンクラスの若手選手たちは、山田学が「囲め、囲め！」って言っても、なにをどう囲むのかよくわからなかったんじゃないかな。

ガンツ　パンクラス勢が、安生選手をパンクラスの控え室に連れてく様子を見た人はいるんですか？

山口　「アイ・ドント・ノー」（笑）。

豪　日明兄さんが、意識を取り戻したときに言った第一声ですね（笑）。

タコ　もう使っとるで（笑）。

ガンツ　写真から辿っていくと、船木（誠勝）選手と高橋選手でしたよね。しばらくして尾崎社長が（パンクラスの控え室から）出てきたんですよ。それからまたしばらくしたら、高橋選手にかくまわれるようにして安生選手が出てきたんですね。全部写真に撮ってありますけど。

山口　記者陣のなかではアングル説まであがってたね。

豪　インターネットでもアングル説が出ていたし、ある一般誌の人とこの件で話していたときも、「社内の人間はみんな興行の仕掛けだと思ってる」って言ってましたね。猪木が伊勢丹で襲われたようなもんなんじゃないかって。

山口　『ゴング』や『東スポ』の写真を見ればそう思うかもな。あれは何かが起こることがわかってなきゃ撮れないよ。安生サイドがリークしてたらしいし、何かが起こることを知ってた格闘家もけっこういた。

豪　写真に写ってる人の顔を見るとなんとなく怪しい人ってわかるよね。ふてぶてしい顔して腕組んでる人とか。

山口　まあ俺にしたら、どっちが告訴合戦で勝つかなんてどうでもいいんだけど、安生じゃないけど、この『ゴング』の写真を見る限りでは、前田は確実に知らなかったね、何かが起こるのを。

豪　前田の言葉に「プロレスラーの行動は全部アングルや」っていうのがありますけど、この後、どう持っていくんですかね。

山口　う〜ん、流れ的なことは予測がつかないけど、体調的にも、いまは（12月2日現在）、ちょうど流血した側の左目の視力が低下してるらしい。小さい字が読めないって。

タコ　あかんやん、そんなの！

山口　硬膜下のう胞っていう、ヤマケンと同じような腫瘍みたいなものがあるのが、その左目の奥らしんだよ。だから、体調的にも心配だよね。

タコ　う〜ん。

山口　でもね、それとは別に、「後輩たちがいるリング」「所属選手が出てる大会」っていうことで、前田日明が「ここも俺の庭みたいなもんや」っていう思いで事件当日いたとしたら、それはもう、間抜けな話だよ、正直言って。まず俺たちが直視しなきゃいけないのは、ここだよ。今回の前田日明は実にカッコ悪い（笑）。

豪　本人も恥ずかしいっていう思いがあるんですかね？

山口　俺、実は事件当日もその翌日も本人と話したんだよ。「これじゃやったほうもやられたほうも格好悪い」って言ってた。「マット界がこんなふうになってしまって、恥ずかしいわ」とも言ってたね。告訴云々とは別の話でね。「闇討ちでもなんでもしてこい」って、まあ安生に言ったかどうかはわからないけど、最近では小川直也には言ってたよね。そう言ってる前田日明が、敵地だっていう嗅覚が働かなかったのが、俺にとってはちょっと寂しいんだよね。

豪　パンクラスと提携してる団体の興行なわけですからね。

山口　しかも、バックステージとはいえ、いちばん目立つステージのど真ん中に無防備で立たないでよ（笑）。「前田、頼むよ、ホントに」っていう感じだよね。

チョロ　写真を見ればわかるけど、ポケットに手を突っ込んでたら、受け身もとれませんもんね。

タコ　それは重要やねえ（笑）。

山口　安生が浦安署の前でやった会見（11・19）で、『ゴング』の写真見たらまったく無防備じゃないですか。これでよくケンカ1万戦無敗とか言ってますよね」とか言ってたけど、そういう自分の過去の発言をかんがみてみると、本人はそうとうカッコ悪いと思ってるはずだよ。

豪　その発言自体は、ヒクソンの400戦無敗という肩書に対するギャグみたいなものだったにせよ、ですね。

タコ　まあこれはファン的な感想として言うねんけど、前田はすぐやり返しにいくだろうなっていうのは絶対あったと思うんですわ。殴られたら殴り返してファンの溜飲を下げてほしいっていうのはあるんやけど、現段階まで前田日明にそういう動きはまったくないわけやろう。僕の中の前田日明だったらすぐにやりにいってるはずやねんけどなぁ。

豪　警察に行くというのもまずないだろうと。警察に捕まるのならわかるけど（笑）。

山口　前田幻想を持ってる人は絶対そう思うよね。

豪　ただ、世間に蔓延するアングル説を否定するためには、警察沙汰にするしかないとも思うんですけどね。

チョロ　社長業とか、その間に入ってた取材なんかも全部飛んじゃう実害もあるわけですしね。

山口　なんかあったら事故証明は取っとかないとね。あとでエライ目に合うから（笑）。

タコ　さすが、ポルシェに車ぶつけて、事故証明取らんでエライ目にあった人が言うと、切実さが違うなぁ（笑）。そういうのはもちろんそうなんだけど、不意打ち・闇討ちっていうのは、やるのもやられるのも含めて、やっぱり前田ワールドのなかにあるわけだから。

豪　だから正直、安生に対してはそんなに悪い思いはないでしょ。

タコ　ない。僕としては完全に日明兄さんを擁護したいんやけど、後ろからやった安生は卑怯とか、許されない行為っていうだけじゃ全然擁護しきれへんし、それは全然見当違いな擁護の仕方やと思う。

豪　やっぱり重要なのは、後ろからとはいえ、前田がワンパンチでダウンしちゃったことだよね。

山口　そうなんだよ。だけど、これでワンパンチで倒れてなかったら、もっと陰惨なことになってたかもしれないよ。例の山田学の「囲め囲め」っていう言い方からしてみてもね。ひとり対20人近くっていう構図

になってたかもしれないから。

豪　特に高橋＆山田を見てるとそうですね。写真で見ると見事なぐらい見下してるし。

山口　あの山田学の「囲め囲め」にはゾッとした。尾崎社長は「隠せ」っていう意味で言ったんじゃないかって言ってたけど、俺が肉眼で見たものとその場の空気は全然違う。プロのやることとは思えないもん。タチの悪いチーマーかと思ったよ。だって、昏倒して血を流してる相手に何をやろうっていうわけ？　それに山田学は自分で倒してないんだから。自分で倒して、それから「囲め囲め」なら、百歩譲ってまだわかるけど。高橋だって、あとから「共謀説なんて迷惑だ」って言うんなら、前々から「やる」って言ってたんだから、自分がまっさきに行きゃあいいじゃない。

豪　まあ、会社に迷惑かけちゃいけないと思ったのかもしれないですけどね。

山口　前田に「お前の言ってることは気にくわない」って言って駐車場かなんかに呼び出して、ひとりで殴り倒したんだったら

高橋も「共謀説なんて迷惑」と言うなら、自分で真っ先に行けばいい

高橋の株も上がるよ。

タコ　誰も株上がってないですもんね。

山口　そう！　この事件の罪は誰の株も上がってないところなんだよ。

タコ　アングルであれ偶然の事件であれ、プロレスは絶対に誰かしら上がるようになってるから。

山口　まあ『ゴング』と『東スポ』の部数は上がったかもしれないけど（笑）。

豪　でもあの写真のせいで「アングルじゃねえの？」っていう説が蔓延したわけだから、イメージは悪いですよ。

山口　プロが美学の絡まないケンカしてどうすんの？　相手を呼び出して殴るっていうときは、その相手の存在を認めてるかどうかっていうところでチンピラのケンカか、美学のあるケンカかに別れるわけじゃない。ケンカに美学もクソもないって言われたらそれまでなんだけど。そうなったら単なる無法地帯だよね。プロのやることじゃないよ。

タコ　いままでマット界ってケンカには必ず美学を持ち込んでたわけやんか。僕らがリング外のケンカの話でも喜べたのは、そこに美学があったからやもん。それをトンパチって呼んで笑い飛ばせたわけじゃないですか。この事件は笑えんですわ。笑ってる人もおるけど（笑）。

山口　最初にシャレが効かなくなるのが嫌って言ったのは、そういうことです。チョロは「安生がかっこいい」って思ったって言ってたね。

チョロ　かっこいいというか、やっぱり安生に目がいったことは事実ですよね。その後の前田の逆襲も含めてのことなんですけど。

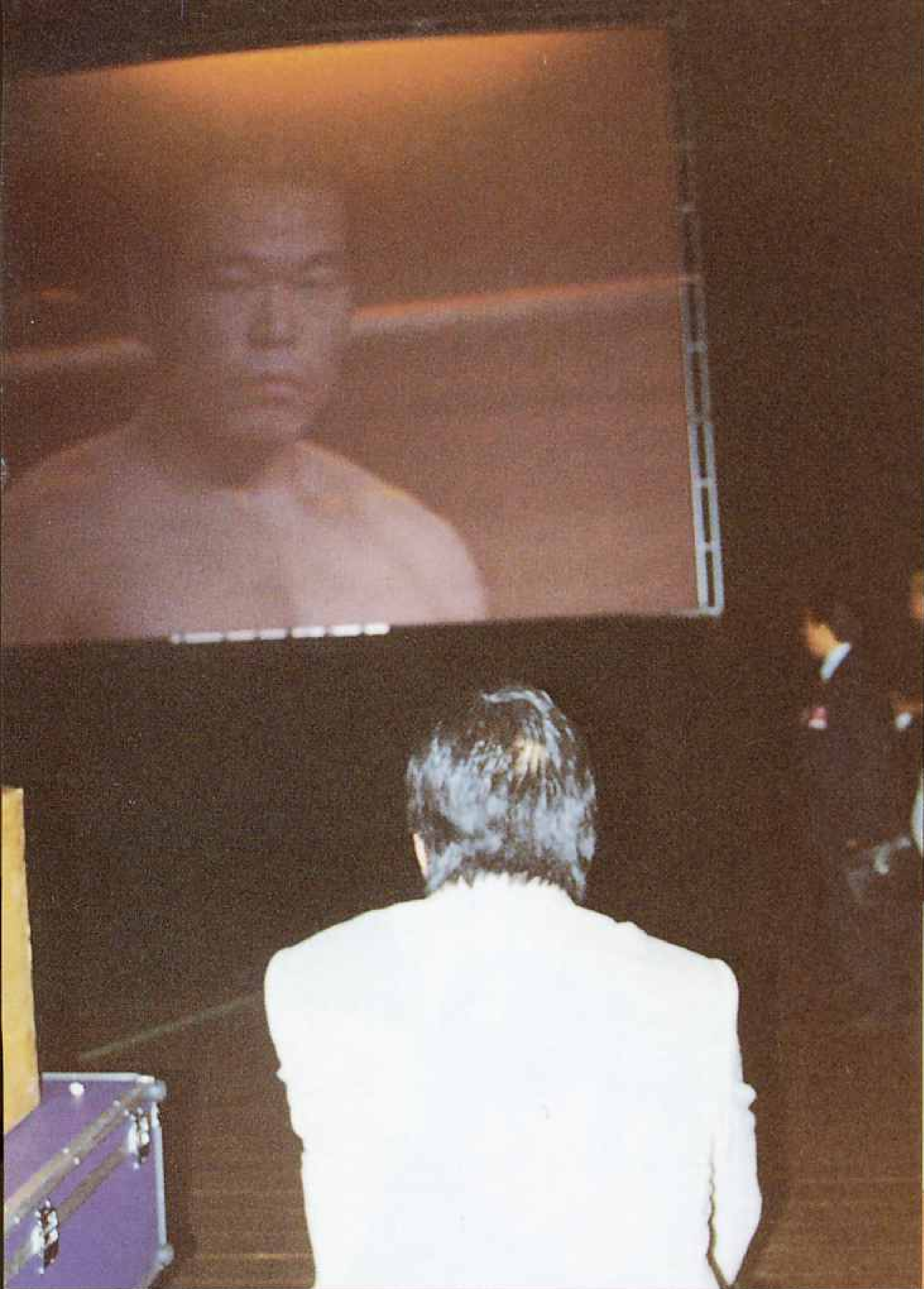
山口　俺もね、安生はもしかしたら許せるなって思ったの。安生には第一次ＵＷＦ時代からの蓄積があって、『サムライ』のパーティーで殴られたっていう伏線もあるし、たしかに前田は安生のことを虫けらのように言ってたこともあったから。だから、安生にはえもいわれぬ感情の蓄積があったと思うんだよ。浦安署前の会見でも「前田さんのことはべつに嫌いじゃない」って言ってるでしょ。だか

ドキュメント前田襲撃事件

●午後3時15分頃『UFC-J』スタート。金原、エンセン、山田が３人で談笑しながら観戦するなど、団体の垣根を超えた交歓風景があちこちで見られる。
●第３試合の山宮VSユージン・ジャクソンの試合中、前田が来場。主催者が用意したリングサイド４列目あたりの席に座る。この試合後、ステージ裏に場所を移す。
●前田は佐竹、Ｍ・スミス、高阪、エンセン、新日本の藤田和之らと談笑。不自然なほどやたらと大勢来ていたパンクラス勢とニアミスするが、高阪とスミス、佐竹が前田とパンクラスの間に入り、立ち技のシャドースパーリングを始め事なきをえる。
●休憩後、前田は佐竹に勧められプロジェクターの横に座り、佐竹、内田マネージャーと共に、スクリーンで試合を観戦。
●第５試合　日本人トーナメントに優勝したヤマケンがマイクで「偽善者・田村潔司！　オレと真剣勝負しろ！」とアピール。前田は「いまなんていったの？」と厳しい表情で周囲に訊ねる。その後、前田を取材陣が囲むと「プロモーターとして、（ヤマケンが）病気を治さない限りマッチメイクできない」とコメント。
●第６試合　ＴＫがペドロ・ヒーゾにＴＫＯ負け、病院に運ばれる。滑川も手のケガが痛みだし帰宅。
●メインイベント終了後、前田は再び記者陣に囲まれ、総評、ルールの問題、高阪の試合の感想、そして再びヤマケン発言などについてコメントする。
●コメント終了後、記者陣が前田の元を離れ、前田は、佐竹、内田マネージャーらと言葉を交わす。その時高橋と安生が前田の後ろ側（プロジェクターの裏）に回り、高橋が前田の方を指さす。次の瞬間、安生が前田に向かい脱兎の如く走りだし、まったく無防備な前田に対して、右後方から、右拳を振り抜き殴りつける。一瞬のうちに前田は、ものすごい音を立てて左側頭部から倒れこみ、失神昏倒。
●床に頭を強く打ちつけた前田の左目尻の上から血が流れ、床に血が広がる。安生は前田をへい睨し、ふてぶてしくそのまま歩き去った。安生と入れ替わるようにして、笑顔をたたえた山田学が倒れた前田を一瞥しながら「囲め、囲め！」と低く叫ぶ。唖然とする取材陣の間に入るようにパンクラス勢が前田をのぞき込むように取り囲む。そこへ安生が再び現れ、取材陣に写真を撮らせるよう親指を立てるポーズを決め、前田にはそれ以上何もせずそのまま立ち去る。この間、モーリス・スミスとそれに続いてジョン・マッカーシーが倒れた前田に駆け寄り介抱。
●高橋が安生の後を追い、船木がそれに続きパンクラスの控え室へと消える。ここまで、前田が昏倒してから約５分ほどの出来事だ。
●騒動を聞きつけたリングスの坂田亘が、パンクラスの控え室に事情を聞きに入る。前田は意識を取り戻し、パンクラス勢の控え室の隣にあるランデルマンのいる控え室に運び込まれる。パンクラス控え室から坂田亘が出てくる。記者陣から前田が不意打ちを食ったことを知らされた坂田亘が、再度パンクラスの控え室に入ろうとするが、内側から鍵が掛けられ入ることができない。尾崎社長がパンクラス控え室から脱出、そのあと安生が高橋に先導されて控え室から出ていく。前田が控え室から出てきて医務室に向かう。前田をガードするのは佐竹雅昭。医務室に前田と内田マネージャーだけが通される。治療を終えた前田が会場の外の車に向かう。前田は医務室から外の車がある場所まで付き添った『UFC-J』の坂田代表に「誰に殴られたの？　何があったん？」と訊ねるなど、この時点でも事態をよく把握できていない。前田と内田マネージャーがワゴンに乗り込み病院へ向かう。
●その頃、ＮＫホール二階ロビーでは外国人選手を中心に、大会の打ち上げパーティーが始まっている。安生がその場でコメントを出し、パンクラス共謀説はこの時点で既に否定。パーティーには坂田代表も参加。パンクラス勢は全員不参加だった。



傷の手当を受けた後、「ちょっとやめて」とフラッシュを遮り、車に乗り込む前田。このときの前田の心境やいかに？



第3試合の山宮恵一郎vsE・ジャクソンの試合中に会場入りした前田日明。しかし、しばらくするとバックステージに下がり、プロジェクターの裏横に陣取り、スクリーンでの観戦に切り換えた。前田の周囲にはたえず高阪や佐竹らがいたのだが、襲撃時には、たまたま誰もいなくなっていた。





ら、殴るだけの理由は安生の中で存在してるような気はする。前田日明という存在を〝デカイ〟と認めてるからやったというところが見え隠れしてるんだよ。前田という存在がデカイからこそ、もう、ああいう方法でいくしかないっていう覚悟は、会見とか聞いててもそこはかとなく見えるし。美学っていうのと辛うじて接点を持ってるような気もする。

タコ　自分でやったってところでちゃんとリスクを背負ってるわけだし。

山口「パンクラスは関係ない」って言ってるわけだし。

豪　男らしいですよねえ。でもそれだったら欠場しないで、試合ぐらいできたんじゃないかって気もするんですけど（笑）。

一同　ガハハハハ！

山口　あの日のなかで、いちばんのKOシーンだったじゃねえかって（笑）。TK対ペドロ・ヒーゾよりも鮮やかなKO劇だったよね（笑）。

チョロ　というよりも、総合格闘技の第0試合でしたね。

山口　お前、それ考えてたろ（笑）。

一同　ガハハハハ！

タコ　も～う、ほんま、やらしいな～、自分（笑）。

チョロ　とにかく前田幻想ってものがあって、倒せなかった後には、なにをしでかすかわからないっていう部分も含めて、安生の覚悟っていうのは見えるものがありますよ。

豪　ただ唐突なんだよね。なんで3年前の伏線をいま引っ張り出してくるのかっていう。

山口　だから、ほんとさあ、パンクラスにしても腹に据えかねるっていう思いはわかるんだけど、普段からストレス溜めないようにすればいいじゃないって思うよねぇ（笑）。

前田日明が行動を起こす場合は常に一人だったから乗れた 複数で囲むなよ、黒幕！

一同　ガハハハハ！

豪　ガス抜きしろよってことですよね。

山口　まあ前田日明の場合はガス抜きしすぎなんだけどさ（笑）。

豪　そんなにガスたまってねえだろって（笑）。でも、前田はどんなに社会的に間違ったことをする場合でも、常に一人だったからこっちも乗れたんですよね。複数で囲むなよ、黒幕！っていうか（笑）。

山口「絶縁」してガスが溜まるんであれば、普段から言い合ったほうが、わかりあえるきっかけは増えると思うんだけどなぁ。ターザン（山本）が『SRS・DX』で、「馬場・猪木」の対立も、結局終わってみたらお互いが両者を活かしていたって言ってたけど、馬場さんと猪木さんの対立なんて、いまの前田vsパンクラスより、ビジネスのスケールは大きいし、個人的にも嫌なことはいっぱいあって根深かったわけでしょ。だけど図らずもお互いが両者を活かしてきった関係がつくれたわけだよね。30年もの間、猪木さんの挑発に耐えた馬場さんも、耐え切ったからこそ、馬場さんの株も地球規模で上がったわけじゃん。だから、パンクラスも旗揚げ当初に「全日本プロレスを目指す」って言ったんだったら30年耐えてみればよかったんだよ（笑）。でも、今回こういうふうになって、お互いが「礼を欠いて」しまったわけだよね。

豪　そういえばこの事件の直後の会長が

前田日明事件 座談会

カッコ良かったんですよ。
山口　は？
豪　「こういう時こそ俺が選手じゃないことを悔やむ時はない」って真顔で言ってたんですよ（笑）。
一同　オー（笑）。
山口　それ載せるのやめてよ（笑）。
タコ　あのね、この人は、高田vsヒクソンとか小川vs橋本とか、大一番の後にわけわかんないこと言って、わけわかんないことやるのよ。なんか瞬間的に選手の気持ちになるんちゃう？
豪　だてに全日受けてないから（笑）。
山口　受けてねえよ。中学校の先生が聞いてくれただけだよ（笑）。
一同　ガハハハハ！
タコ　それにしても、この後の前田日明はどうなるんですかね。
豪　ベストなのは、告訴しておいて自分も告訴されるような報復をするっていうね。
山口　どんなベストだよ（笑）。そういう妄想を考えると正直ワクワクするんだけど、でもこの件に関してはそういう期待をしちゃいけないだろうね。
タコ　それを承知で言えば、僕はやっぱり猪木さんが女性誌に撮られたときに、家に肥を置いといたみたいに、バキュームカーで突っ込んでほしいんですわ。新日イズムで（笑）。
豪　そこで背後から襲われた者同士ということで、長州力と結託だよ。電話一本でクソ買ってさ。
一同　ガハハハハ！
山口　だからあくまでもこれをプロレスと捉えると、次に繋がっていかなきゃおかしいんだよね。
豪　そういう妄想があるから、今度のリングスの大阪のトーナメントに安生が出るんじゃないかっていう噂が、ほんとに流れまくりましたよね。
山口　ひとつ象徴してるのは、前田的なものがいまの時代には許容されないってことだよね。「ダンディズム」とか「美学」っていう部分で明らかに溝ができてきてる気がするね。
タコ　それは組織の在り方もってことですか？
山口　それもそうだし、前田日明的な存在というかさ。
豪　選手たちの物言いを聞いてると、引退してああいうことを言ってるのが許せなかったっていうのもあるみたいですよね。
山口　リング上で決着つけられるときだったら、まだしょうがないっていうね。
タコ　言われてみればその通りやなあ。僕の個人的な意見なんですけど、最近の日明兄さんの言いっ放しっていうか、そういうところはあんまり面白くなくなってきてましたね。
山口　正直な話、確かにバッシングは現役時代より増えてきてたんだよ。だからどっかで歯止めをかけないといけないんだろうけども、まだ、前田日明の〝声〟のほうが大きいわけ。遠くまで届くんだよ。だから、一所懸命若い選手がやっても、前田の声に打ち消されちゃうからジレンマが溜まる。そこらへんに、今回の〝U〟クーデターの抜き差しならない遠因があるかもしれない。
タコ　ヤマケンが「若手のインタビューが全然載らへんやんか！」って言ったように、日明兄さんはもちろん、猪木さんなんかの声が面白すぎて、結局若手の声が伝わらなかったりっていうのはありますよね。
豪　でも、それはしょうがないよ。実際、面白いんだから。
山口　アンケート取ってもそれが1位になっちゃうんだもん。



この事件が発生して以来、ずっと囁かれているのがパンクラス共謀説である。前田襲撃後、高橋が安生と一緒に控室から出て行くなど、不審な点は様々あった（右）。様々な媒体に精力的に出ていき、共謀説を否定している尾崎社長。年内には、リングスもしくは前田日明を名誉毀損、信用毀損、営業妨害で告訴する構えだと語っている。（左）襲撃後、しばらく経ってから前田のもとにかけつけた坂田晶「UFC—J」代表。一見すると笑顔のようだが、非常に焦っているのだろうか？　対する前田は、虚ろな表情でダメージがまだ残っているものと思われる。

豪　こっちとしては、それじゃ困ってるっていう部分もあるんですからねえ。だから若い選手を表紙にしたりして、変えていこうとしてきたじゃないですか。

山口　ウチはずいぶんやってるはずだよ。

豪　『週プロ』より先に表紙になってる人が何人いるよって感じですもんねえ。

山口　でも、確かにサクはあんだけ面白いのに、インタビューの反響って思ったほど多くないんですよね。オーちゃん（小川直也）にしてもそうだし。

タコ　あ、そうなん？

豪　だからってロートル載せなかったらうまくいくのかっていったら……。

タコ　ロートル（笑）。

豪　えーと、じゃOB、（笑）。

山口　言い直してるよ（笑）。

タコ　で、率直に言ってどうなんや、前田ファンとしたら？

ガンツ　いやー、あの事件の直後は腹立ってしょうがなかったですよ。ヘコみました。

豪　君は本気で怒ってたもんねえ。

山口　俺も怒ったよ。高橋義生や山田学がいくら強くても、許されないよ！　プロとして。

豪　ほんとにShowも含めて、事件現場で笑ってる連中は許さないですよ！　そりゃあターザンにやられて笑ってた僕と会長は言えないかもしれないけど（笑）。

一同　ガハハハハ！

タコ　でもホントに業界の暗部ってもんも浮き彫りにされた感じやね。

山口　でも安生に救いがあるのは、殴り倒した後、1回引っ込んだんだけど、また戻って来てるんだよ。

豪　それはいい人ですねえ（笑）。

山口　興奮してるふうにも見えたし、実際に興奮してたんだろうけど、その後になんか攻撃しようとしたってことはないし。心配なんだけど、周りの手前、心配してるように見せられないって感じもあったんだよ。

タコ　だからほんとに安生の単独犯で、偶然前田に会って、正面からボコッて殴って倒したんだったら安生の株はアップするでしょう。

山口　それはむしろ気持ちいいよ。

豪　もっと気持ちいいのは、安生が試合に出て勝った後だったらね。

タコ　こういう事件で、憶測の域を出ないにしろ、共謀説がチラつくっていうのは、安生も損してるし、黒幕だって言われるところだって、著しいイメージダウンやないですか。あんな爽やかなイメージで売ってる人らがねえ。

豪　安生的には前田との対戦っていう方向に持っていきたかったんですよね。自分流のアングルに乗せるというか。

山口　前田日明が復帰しなければしないで、対戦要求して話題をつくるという狙いはあったかもね。それから、これは安生個人というよりも、周りのナチュラル共謀のテンションによって、前田に恥をかかせてやろうっていう腹づもりもあったかもしれない。そういえば前田は、「あの日一番バカだったのは、油断した俺だったね」とも言ってたね。その後が凄くて、「今後はもう大丈夫。学んだから」と言ってました（笑）。猪木さんが破壊王に贈った「かいてかいて恥かいて裸になったら見えてきた本当の自分の姿」っていう詩じゃないけど、今回の件で学んだことを前田日明が今後どう活かすか、楽しみだね。

タコ　元気になっとるんやな、兄さんは。

でも例えば、急転直下で前田対安生が組まれたら、会長乗れます？

山口　うーん……今後の展開によるんじゃない？　ところで『UFC—J』は現時点では見解は出してないの？

ノブ　なにも出してないですね。

「神話を壊すんだったら壊した人が、新しい神話をつくってもらいたいね」

チョロ　リングスの坂田亘は『UFC—J』坂田代表を怒鳴りつけたらしいですけどね。

豪　それは実に前田イズムだね、とりあえず怒鳴りつけるっていう（笑）。

タコ　細々とながら遺伝子は残ってるんやなあ。でもなあ、ヤマヨシ（山本宜久）とかがあの場におったらなあ。

豪　たとえば倍賞美津子が映画のなかで脱いだだけで、新日の若手が映画会社を襲おうとしたとか、そういうのは重要だよね。

山口　でもさあ、安生って前田の付き人だったわけじゃない。それとヤマケンの田村に対する発言もそうだし、確実に秩序がなくなってきてるよね。これは一体どういうことなの？

豪　新世界秩序ですよ！　Uのピラミッドがひっくり返ったんです！　でも安生も、ヒクソン相手にこれができてればねえ。それがほんとに残念なんだよなあ。ヒクソンを路上で後ろからとかさあ（笑）。

山口　ヤマケンの発言とかも含んだ今回の事件で、確実に何かが崩れたよね。でも崩れたことよりも、その後なにを作るのかが問題だからねえ。

タコ　ヤマケンの発言通り、純粋にガチンコだけっていうのはええんやけど、ビジョンもテーマも見えへんしっていうところですよねえ。UWFっていうのはテーマがあったから、あれだけのムーヴメントになったわけですから。Uを否定するんやったら、ちゃんとテーマを提示しないと。みんなガチンコでやろうや、っていうのだけがテーマだったら、それならシューティングがあるからいいじゃないって話やないですか。だから、正味な話、次に来るもののほうが面白そうやったら、僕らも全然乗れるわけやないですか。だって、僕らは猪木さんをずっと見てきて、やっぱり年齢とかの関係でちょっと鈍くなってきたかもなあって思ったときに、前田日明が出てきてUWFができてっていう流れ。それには、思いっきり乗れましたもんね。で、なおかつ猪木さんも面白いっていうスタンスは取れたわけやからね。

豪　古いものの否定のしかたが極端すぎたんですよね。それが後味の悪さにも繋がっていったし。

タコ　極端さもそうやし、日明兄さんが猪木さんを否定するときは、完全に芸の要素があって乗りたくなりましたもん。

ガンツ　前田さんも、昔の猪木さんは素晴らしかったっていうことはちゃんと言ってますしね。

豪　「プロレスやったら、あの人には誰にも勝てない」とかね。

タコ　そこは絶対残してんねやね。いちばん猪木さんのことをボロカスに言ってたころのインタビューでも、「反面教師ではあるけど、猪木さんから学んだのは、絶対あきらめないことやね」っていうのを聞いたとき、前田ってちゃんと猪木さんをリスペ

前田日明事件サプライズ座談会



クトしてんねんなって思ったわけやんか。

山口 猪木さんなんて、まだあきらめてないもんな。何をあきらめてないのかはわからないけど（笑）。

豪 安生にしても、「昔の前田さんは良かったけど」みたいな線引きがあれば違ったわけでしょ。

タコ そやなあ。でも、別にいいんですよ。前田日明を否定することは。

山口 というか、否定していかなきゃダメなんだよ。それはわかるわけ。

豪 次に行けないですからね。

山口 でも、神話を壊したら、新しい神話をつくってもらわないとね神話がないと困

「前田は一発で倒れる〝運〟を持っていた。倒れなかった方が怖い」

るんだよ、人間は（笑）。

タコ 例えばアレク（サンダー大塚）とかサク（桜庭和志）みたいに、もっとフットワーク軽くやっていきたいっていう人たちがいるなかで、ヤマケンは背負おうとしたわけじゃないですか。そこはすごくいいんですよ。

豪 気持ちはホントよくわかるんだよなあ。

タコ そうなんやけど、それだったらなんかを提示したり、芸を見せてほしいですよね。

豪 相手は落として自分は上がるだけっていうのはなあ。相手を光らせてこそ乗れるっていうのがあるでしょ。安生もヤマケンも複数犯の計画的犯行にしか見えないから乗れないんだよね。前田の長州顔面蹴撃にしても、田村の「高田さん、僕と真剣勝負してください」発言にしても、単独犯だし、それによって団体内でペナルティを喰らったからこそオレらも乗れたじゃないですか。

タコ 前田も含めて、昔のレスラーってどんだけ感情的になっても、どっか相手の光を消しきらなかったから。

豪 どっか風車の理論だったよね。それが鈴木みのるあたりから相手の光を平気で消すようになってきたんですよ（笑）。

タコ またパンクラスか（笑）。

山口 でも俺は安生には、まだそれを感じるんだよ。前田が大きな存在だっていうのがわかってる気がする。「1発で倒れるとは思わなかった」と言ってるとはいえ、1発で倒さないと大変なことになるという恐れも見え隠れしてるわけだし。さっきも言ったけど、安生は付き人だったわけだからね。だから、脱兎の如く勢いつけていかないと、変な言い方だけど、やりきれない部分はあったと思う。だから、たまたまその勢いが、ああいう結果になっちゃった、とも言えるよ。でも、安生の闇討ちを肯定するわけじゃないけどね。

タコ やっぱり安生なんかは、日明兄さんが組織の長として責任取ってきてるのを見てると思うし、体力的に全盛だったころの前田も見てるから、前田に対する認識が違うじゃないですか。逆に言うとパンクラスの連中は前田日明をナメてる。

山口 前田日明に対するリスペクトは全然ないよね。

タコ だからなんでしょうね。このモヤモヤは。

山口 不快さの原因はそこかもしれない。船木選手、鈴木（みのる）選手がこの件に関してなにを考えてるか是非聞きたいよね。もしコメントしてくれるんだったら、いくらでも誌面は提供しますよ。でもね、前田日明も、若い選手に対して、もっとリスペクトしなきゃいけない部分もあるよ。パンクラス勢に対しても。リスペクトした上でやりあえば、プラスに持っていけるはずだよ、絶対。あ、前田は「安生がカッコ悪くなったら俺もカッコ悪くなる」とも言ってたよ。

豪 最後に一言つけ加えるなら、安生にはあの時〝一撃〟Tシャツを着ててほしかったね（笑）。

タコ そう落とすか？（笑）。

豪 暗い話題ばかりでもね（笑）。

チョロ あとはやっぱりね、〝ポリスマン〟が捕まっちゃったらいけないと思うんですよ。

タコ うまいっ！（笑）。

山口 みんなネタ用意してんなあ。キミらをリスペクトするよ（笑）。

一同 ガハハハハ！

山口 でもね、これは最後に言っておきたいけど、前田は1発で倒れる運を持ってたってことですよ。ターザン言うところのゴッドアングル降臨ですよ。

吉田 それ、本当は会長が命名したんですけどね（笑）。

山口 ターザンに言わせると違うらしいけどね。でも、いいや。それはターザンにあげる（笑）。だから1発で倒れた運の良さっていうのはあると思う。

吉田 やられてもやたら元気だったらねえ。

山口 もし前田が1発で倒れなかったら、もっと陰惨な事件になってたかもしれない。それにね、人がどんどん離れて孤立化してたでしょ。この先どうなっちゃうんだろうっていう心配はあったよ、俺だって。でも今回の件があって、ピンチに陥った前



まるで大木が倒れるかのように、大きな地響きを立てて崩れ落ちた前田。額の傷も深かったが、あらゆる面でダメージが深過ぎる

前田日明事件

座談会

田日明に佐竹雅昭や高田延彦とか、かつての仲間がエールを送ってるわけじゃない。ビジネス抜きで。ホント偶然に前田の周りにまた人が集まりはじめたよね。今回の事件が起こる前は「このままいったら、孤立化が進行していくかも」っていうのはあったから。

豪　今回は高田が最初に男を見せたじゃないですか。それによって高田の株も一気に上がりましたよね。

ガンツ　最初は言うつもりなかったみたいですけどね。「最後にもうひとつ」って感じで言ってましたからね。「焚つけたりっていう噂を聞いたけど、それが事実なら業界の大問題だ」って言ってましたね。

豪　でも『週プロ』は、なぜかその部分はカットしてましたけどね。

山口　佐竹も「これで安生さんが強いとはならない」って言ってたけど、それはその通りだと思う。だからこの事件は、マスコミ内でも完全に別れるんじゃないの。

タコ　それぞれの立ち位置がわかりますね。

豪　で、こんな問題提起を含んだ大事件を7行しか載せない『格通』っていうのもあったし（笑）。

山口　どうなってんだよ、この業界（笑）。たのむぜチョロ、変えてくれよ。プロレス・マスコミ界のヤマケン！（笑）。

チョロ　モウマンタイ。

山口　ノブ！　お前だってヤマケンと同い年なんだからがんばれよ。

豪　こいつはそういうことできないでしょ（笑）。

タコ　ノブはヤマケンと田村だったらどっちに乗るの？

ノブ　それは絶対にヤマケンですよ。

タコ　そうかー、俺は絶対に田村やねんけどな。

豪　俺も田村なんだよなあ。

ノブ　世代じゃないですか？

タコ　田村みたいな底意地の悪い奴ってなんかビンビン来んねん。いや、いい意味でやで（笑）。

豪　同じ意地悪同士だからね（笑）。気があいそうだし。

ネガティブ・クーデターよりも、リング上から明るい光を照らしてほしいね

山口　今回の事件はネガティブ・クーデターだったけど、やっぱりホイラー（・グレイシー）を完封したサクは凄いよ。サクがやってることはポジティブな革命ですよ。リング上からこのドンヨリした時代に光を照らしたんだからね。

タコ　会長はサクに乗りますか？

山口　うん（ニコニコ）。それから早く前田日明には元気になってほしい。いや、元気はあるんだけど、頭を打ってるっていうところが不安なところではあるんだよね。早く下ネタでも聞きたいね（笑）。やっぱり元気が一番ですよ！

タコ　はい〜。

（文中一部敬称略）

【99年12月2日、東京・ダブルクロスにて収録】



「ボクは被害者」「誰かが教えてやらないと」大会5日後、事件現場であるＮＫホールで記者会見を開き、前田に対する思いをしゃべりまくる安生

速報!!　大注目のリングス

「キング・オブ・キングス」12・22大阪のカード決定！

大阪冬の陣炎上か!?

「キング・オブ・キングス」Ｂブロックのカードが遂に発表された。注目カードをいくつか挙げると、王者・田村は一回戦でいきなりVTミドル級の世界的強豪・ミレティッチと激突。田村は自分のスタイルを貫けるか？　注目の柔術世界王者ブランコの相手はサンボマスター、コピィロフ。ミーシャにつづけ、コピィロフ！　タリエルvsアイブルの超打撃対決も実現。そしてグレイシー狩りには坂田亘が立ち上がった。もし坂田が敗れた場合、二回戦でハンvsヘンゾの夢のカード実現もありうる。リングスはグレイシー狩りに成功するか？　話題沸騰、ＡブロックにつづいてＢブロックも大爆発間違いなし！

12・22 ワールドメガバトルオープントーナメント

KING of KINGS

Ｂブロック対戦表

- 田村潔司（リングス・ジャパン）
- パット・ミレティッチ（アメリカ）
- ボリス・ジュリアスコフ（リングス・ブルガリア）
- ティム・ラジック（アメリカ）
- 髙阪剛（リングス・ジャパン）
- クリストファー・ヘイズマン（リングス・オーストラリア）
- ビターゼ・タリエル（リングス・グルジア）
- ギルバート・アイブル（リングス・オランダ）
- 坂田亘（リングス・ジャパン）
- ヘンゾ・グレイシー（ブラジル）
- ヴォルク・ハン（リングス・ロシア）
- ジョー・スリック（アメリカ）
- リカルド・フィエート（リングス・オランダ）
- タイロン・ロバーツ（アメリカ）
- アンドレイ・コピィロフ（リングス・ロシア）
- カステロ・ブランコ（ブラジル）

11・14「UFC-J」でベルトを巻いた山本喧一が爆弾発言！

ヤマケンの"覚悟"を背負った

魂の叫びを聞け!!

この日、Uを終焉しようとしたヤマケンはUFC-Jベルトという武器を手にした瞬間、今まで被っていた鎧を投げ捨て思いのたけをぶちまけた！ しかしこの発言は案の定賛否両論、物議をかもし出した。なぜ、ここまでヤマケンが激白しなければならなかったのか？ それを知るためにヤマケンが放った魂の叫びを、ほぼ全文掲載する。よって字は小さい。

Uを愛するなら目をそむけるな！ そして、真意を知れ!!

●

（リング上でのマイクパフォーマンス）

「えー、長い間お待っとさんでした！ これだけは新しい時代を築くために言わしてもらいます！ ファンのみんな並びにUインターの選手全員にウソをついた**田村潔司！ こいつだけは、大の偽善者です!!** オレがリングスを辞めた本当の理由はこれです。さあ、結果出したんで、**田村さん！ オレと真剣勝負やる根性あったら、いつでもUFCに来て下さい!!**」

●

（そして、もうとどまることを知らないヤマケンはコメントルームで、約25分にも及ぶ大演説を繰り広げる！）

さあ、勝ったんで何でも正直に言いましょ！ これからは本物を求めてる時代です。UWF神話が終わって、アルティメットの「U」が始まるんです！「U2」とでも言いましょうか？ **ちょっと真剣勝負は、カッコよく終われないですね。**カッコよく終わったつもりなんですけど、キレイには勝てなかったです。でも勝って、スカッとするとこが、今までの勝利とはひと味もふた味も違う。どうですか？

（ここで、リング上での田村発言の真意を聞く質問が飛ぶ）

あのオッサンはね、もう先輩じゃなければ、オレら後輩でもないですよ！ あのオッサンがUインター出て行く時に、オレに言ったことですよ。オレら若手に偉そうに「シュートの世界作る」とか何とかぬかしておいて、自分はリングスで何をやっとるんですか？ ぬるま湯に入ってるのもいい加減にしたらいいんですよ！ それぐらい言わな、あのオッサンわからないんですよ。自覚がない、自覚が！ 何がチャンピオンですか!! チャンピオンベルト巻いて何も仕事してないくせに、偉そうなことぬかすな！「Uインターを守る」だのUインターの全選手悪者にして、あのオッサンが高田さんのことをつべこべ言える状況じゃないんですよ！ 高田延彦を悪者にして……高田さんの方が偉いですよ！ オレら全員の面倒みて育ててね、そのおかげでオレらは練習して食っていけたんですよ。それなのに恩を仇で返しやがって。それどころかオレら下の人間にシワよせがきてるんですよ！ この業界ショッパくして、うやむやにして、ややこしくしてるのは**全部アイツが悪い！** アイツの責任や……一番悪いのは。みんなそれぞれ責任あるけどオレらプロは、もっともっとおもろい世界作れるはずなんですよ！ それを今90年代頑張らなアカンヤツらが、80年代の人たちに、今だにスネかじってぬくぬくと生きとるんですわ。そんなんじゃ上の方で止まって、何も新しいものなんかできませんよ！ ファンはいつもダマされるだけですわ。オレはそれがイヤなんですよ！ そういうのがイヤだったんですよ!! だからイバラの道を選びました。我慢しましたよ。じっと耐えましたよ！ いろんなとこで陰口たたかれようが何しようが我慢して歯を食いしばりました。自分の信じた道……これで勝てなかったら、ハッキリ言ってこんなこと言いませんでした。もう時代はオレの考え方求めてないと思って。今までと同じやり方で、オレも染まって、言うこと聞いて、スネかじって。いや、オレは辞めてましたね。この業界を。オレにはあいません、そんな世界。オレらがやらな次の時代は絶対来ない。21世紀、闘うヤツ集れ！ 80年代、90年代、今だにやってるヤツら一緒に倒そうや！ **新しい時代作ろうや！** 個人闘争しようや!!

今日オレが勝ったっていうことは、これを言うために勝ったんです。神様が、オレに「こういう風にせい！」って言ってるんですわ。これで今までのオレのいろんな行動、意味深な行動、全部つじつま合うでしょ。違いますか？ どうですか？ みんなおかしいと思いませんでした？ 23（歳）の若い選手が団体にオンブにダッコせえへんで、どんどんイバラの道選んで、何考えてると思いました？ **時代変えな！** 他のメジャースポーツに負けないぐらいのもんになれるはずですよ!! 選手だけがプロでもアカン。みんなで頑張って、メジャースポーツにしようや！ どうですか？ マスコミの皆さん。今のこの業界おもろいですか？ U系の選手おもろいことしてまか？ プロレス全体見てもいいですよ。おもろいですか!? 今日オレ、確かに顔面……最後きつかったですよ。結構いいのもらいました。でもこんなボロボロになっても、最後まであきらめんとやればできるんですよ！ **これが格闘技ですよ!!** 勝っても負けても結果につながらない。ギャラはサラリー。ファイトマネーちゃうねん。年俸制で、月割りで、勝っても負けても給料変わらへん。先輩後輩の年功序列。こんなんで上がっていけるわけないでしょ！ 年々、この不景気で、スポンサーもつかへんし。オレらプロが、夢売らんで何するんですか！ みんな金払って出てくるんですか!! 見に来るんですか!? 見に来ないでしょ。いい加減にせえっちゅうねん!! オレらにシワ寄せきてるんや。次の若いヤツが出てこられへんねん。こんなんやから**内弟子も入らへん**。ええ加減にせえ！ マスコミのみんなももっと厳しい目で見て下さい！ ファンもいい加減なことプロがしてたら文句もっともっと言って下さい！ 今の世の中全部こういう風になってたんですよ。でも、これからは違いますよ。オレがベルト巻いたからには違う。変えていく。どんどん**21世紀、闘いたいヤツ、若いヤツ出て来い！** みんなで潰していこうやそういうヤツら。マスコミのみんなも応援して下さいよ。もっともっと、若いヤツらにスポットライト当てて下さいよ。いつまでもオッサンのインタビュー、専門誌なんかも何回も扱ってんじゃねえよ!! 若いヤツをもっとインタビュー載せろよ！ 意見聞いたれよ!! **オッサンのインタビューなんかちょっとでええねん!!** もう終わってるヤツのインタビューなんぼ載せたら気が済むんや。あんなの見たって若いヤツ何とも思わへんねん。もっと若いヤツが夢もって入ってくる世界にしようや!! どうですか？ それがみんなの食いっぷちにもつがるんとちゃいまんの!?

ハァ～、ちょっと言葉が乱暴になっていまいましたけど。オレの言いたい真意はこんな感じです。生意気な口たたいてスンマセンでした。というようなことで、とりあえず今日は、まず勝てたんでヨシとして。

（ここで、ヤマケンは質問してや！ と言いつつもますます熱くなりすぎてノン・ストップ状態！）

あい～や、なんか飲まして。しゃべる方が疲れるわ、試合より（笑）。

もう何でもおもろくするんでね。オレは、おもろい世界にしたいんで。もうオレは**誰の指示も受けへん**し、誰にも気使わんで自分がやりたいようにやっていきます。オレはプロです。オレを見て下さ



世紀末 SURPRISE

い。団体を通して、フィルターを通してオレを見るんじゃなくて、一人のプロ、ヤマケンとして見て下さい。「あっ、おもろい選手おんな、ヤマケンっておもろいな」と、そういうふうに見てください。皆さんにとってもオレらが商品でしょ。違いますか？　その商品育てて下さいよ。オレらも頑張りますから。一緒に面白くしましょうよ！　練習環境もっともっと作って、底辺拡大して、アルティメットっていういいルールできてきたし、やりましょうよ！

ちょっと、頭血のぼってきたなぁ……冷やしたいなぁ。氷持ってきて（笑）。頭シュッシュシュッシュシュッ言うて、沸騰してるわ（笑）。

さあ、この賞金取ったし、おもろいことしよ！　この賞金で何しようか？　リングス12月トーナメントあるし、客入ってへんみたいやから、オレがエントリーさせてもらおうか？　「この100万円あげるから」って言うて。**田村潔司と一回戦やらしてもらおうか？**　100万で足りへんかったらどっかで借金してくるわ。それでもアカンかったら……ちょっと急やし、みんなでツアー組んで、**『ヤマケンと行くリングス大阪観戦ツアー』**どうや！　最前列全部買い占めてみんなで行こか？　大阪もしばらく帰ってへんしなあ〜。ええ土産できたわコレ。これであの人が何ていうのか見物ですわ。前田さんにせいぜいかばってもらうのが、関の山ですわ。あの人は、自分がハッキリ言えないと思いますよ！　いつもモジモジしてるでしょ。ずるいヤツなんですよ。オレだけじゃないですか真実知ってるのは。他の人も知ってるけどただ言わんだけか。オレは違うで！　オレらにシワ寄せきてんねんから。オレは他とは違う。世代も違うし、21世紀闘っていかなアカン。あんなヤツ気使ってられへん。いつまで神輿担いだらいいんですか？　臭いメシ喰ったらいいんですか？　あんなヤツとあんなショッパイ、**アホみたいな試合**させられるために、自分の今までやってきたものを無駄にしたくないですよ。オレにはもう70人も生徒も弟子もおるし、あんなヤツに気使ってたら、オレ首吊らなアカンわ。

（ここで、記者から前田日明社長が、「ヤマケンの今の体調だったらプロモーターとして受けるわけにはいかない」と言っていたことが伝えられる）

先生！　オレの主治医の先生その辺おらへん？　先生呼んで！　ハッキリオレの主治医いるから聞いたらいいでしょう。前田さんにはナンボ言ってもわからないんですよ！　オレは前田さんと筋通して話してきた。オレがこれからやる事って言うのは、**前田さん高田さんにとっても最終的には恩返しになるんよ。**あの人達は確かに偉いよ。一時代を築いたあの人達のプライドまで傷つけるわけにはオレらしたらアカンねん！　せやけどな、田村潔司とあの人達は全然違う！　団体も起こしてへんし、全然違うよ!!　よく考えてみて下さい。あの人が後輩の面倒見てきましたか？　見てきてないんですよ！　高田さんにもゴマすって可愛がってもらって、前田さんにもうまいことやって言うことはいっちょ前に「Uを守る」とか「リングスを守る」とか、あのオッサンは何もしてへん。会社をまとめるどころか自分は何もせえへんで自分だけ良ければそれでいい。他のリングスの選手だってね、内心ムカついてますよ！　**長井さんの気持ちがわかりますよ！**　あんな旗揚げからおった人まで首切られて、ついて行く意味ないでしょ。田村潔司の方が可愛がられて。理由はどうあれ間違ってるよ。そんなん。

（ここで主治医の女医が登場し、ヤマケンの病状説明を行う）

『先天的なもので、透明中核脳胞という病気っていうよりも、いわば**奇形です。**普通の人より膜が一枚多いんですね。普通の人よりは出血しやすいということで、**ボクシングの世界ではプロにはなれない状態です。**でも、幸いなことにプロレスとかでは、透明中核脳胞でプロになれないということはないので現在やってます。ただ、本人にケアできればの問題です。だから、手術どうこうというのではないんです』

みんな聞いてくれましたか！　ここが総合格闘技のおもろいとこなんですよ。いざ、街で喧嘩になって、「透明中核脳胞ですから、頭に腫瘍がありますから」って終われますか？　他の格闘技と差をつけるためには、何かおもろいことないとアカンでしょう。これが、総合格闘技のいいところですよ！　今だから言うけど足も骨折してるんですよ。まだちゃんと治ってないんですよ。そんな事、問題じゃないんですよ！　**勝ちゃあいいんです、**勝ちゃあ。そうでしょ？　勝ちゃあいい世界にオレは、我慢して歯を食いしばってこのチャンス待ったんですよ。その辺のヤツらとは、試合に挑む意気込みがちゃうねん！　他のU系の選手達がこんだけめんどくさいことやって業界のために考えてるヤツどこにおんねん！　オイ、もっと自覚もたんかい！　これでね、他の人達がわかってくれないんだったらオレは辞めますよ。こんなショッパイ業界いたってしゃあないです。オレは**時代が絶対味方してくれる**と思ってるから……今の時代のヤツらが絶対オレのこと応援してくれると思ってるから。さあ、やろう！　さあ、やろうみんなで！　もっと厳しい目でファンも見てくれ。オレだけの力じゃアカンねん……みんなの力借りたいねん……みんなの力借りな変えられへんねん……頼むわ。そのためにジムも作ったし生徒に本物教えてる。オレもそのおかげで強くなってスキルアップしてる。みんなのおかげや。今までと違うねん。後輩入らへん、強くする気持ちも上の人間にない。そんなんやったらいつまでも強い選手育たへん。グレイシーに負けるのも当たり前や。もっともっと練習せな日本人！　もっと強ならな!!　なめられっぱなしやんけ外人に。高いギャラ全部外人が持っていってる。日本人はチャリンや。アカンでこのままやったら夢与えられへんで。こんだけ素晴らしいんや。格闘技は。もっとしっかりしようぜみんなで！


偉そうなこと言ってすんませんでした。さぁ、こんだけ言ったらもう、あとは煮るなり焼くなりね、好きなようにしてくれたらええねん。こんだけ言うてこの業界アカンかったらもう、違う職業就きますわ。ありがとうございました。

●

この熱い叫びを見せたところから、次のページの田村のインタビューは始まった！　さて、田村はヤマケン発言に何と答えるであろうか？　今すぐめくれ！　そして、田村の真意を知れ!!

21世紀闘うヤツ集まれ！新しい時代作ろうや！





12.22
『King of Kings』
Bブロック出陣!


［リングス無差別級チャンピオン］

田村潔司

KIYOSHI TAMURA

聞き手／チョロ
interview by Choro
ヘルプ／大西タマリン
help by Tamarin Onishi
撮影／森"モーリー"鷹博
photographs by Takahiro"morry"Mori

ヤマケン？なんとでも言ってくれ！俺は……逃げる!!



田村潔司！俺と真剣勝負で闘え!!



『UFC―J』日本人トーナメントを制した山本喧一が核爆弾のスイッチを押した。標的はリングス無差別級王者田村潔司であった。「田村潔司は大の偽善者です!!」「田村さん、俺と真剣勝負して下さい!!」。爆撃はこれだけでは終わらず、試合後も、ヤマケンは田村を攻撃しまくった。この攻撃を田村はどう受け止めたのか？ ヤマケンの発言後、田村の肉声を最初にキャッチしたのは『紙プロ』だった。しかし出るのは最後！ 心して聞け！



——え～、田村さんに、最初に聞きたいのが、ヤマ……崎（一夫）さんの……。

田村　アッハッハッハッハッ！

——山崎さんが来年の1月4日で引退することになりましたけど、そういった話は聞かれてたんですか？

田村　いや、まったく全っ然！　……でも寂しいですよね。山崎さんは凄いお世話になった先輩ですから。話しやすいというか、よく声を掛けて頂いたんで。新生Uの時の先輩って言ったら、凄い殺伐としてるんですよ。だから、ボクは、「はい」と「いいえ」しか言えない雰囲気のところで、山崎さんにはいろいろと凄く気をつかってもらって。新弟子じゃないようにしゃべってくれるんですよ。普通はしゃべってくれないですから。やっぱ引退は寂しいです。

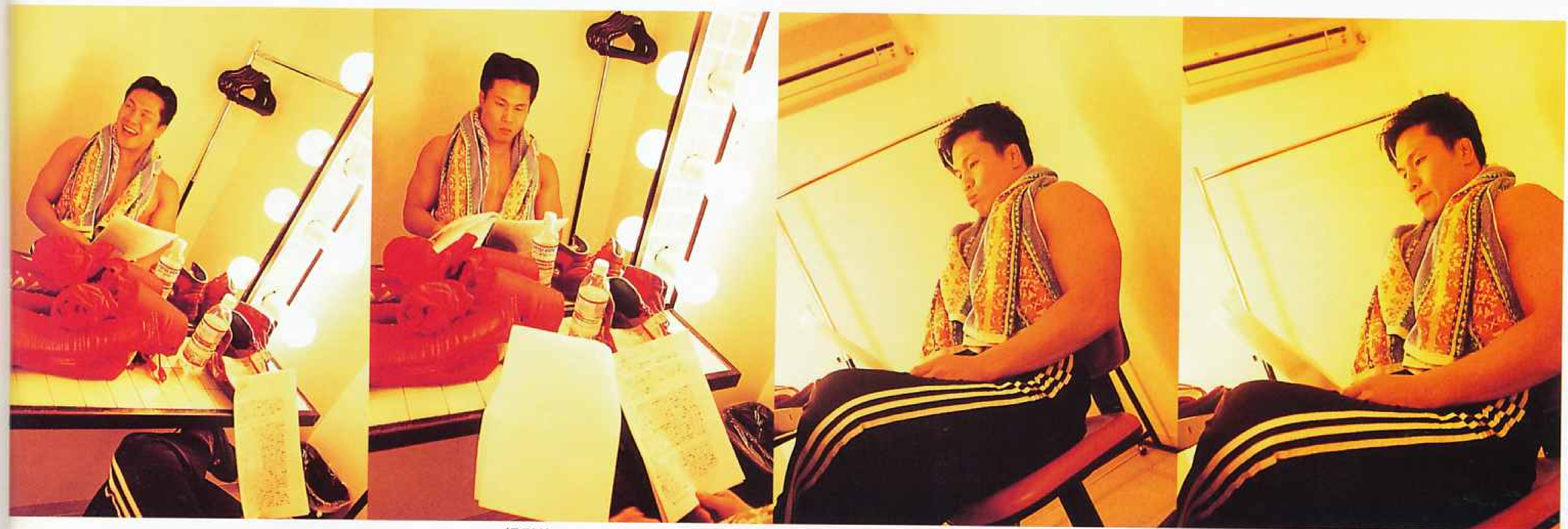
——それで、山崎さんと同じくU系といえば、この間、安生（洋二）さんの前田日明襲撃事件があったわけですけど？

田村　う～ん……難しいッスよねぇ。難しいし、言い方が難しいッスからねぇ。実際これが活字になるわけですから。ただまあ、う～ん……まあ一般常識的に、前田さんが悪いとか、安生さんが悪いとか、そういうのは別にして、人間として、やっぱり人を殴ったりするのは良くないことですから。その件に関しては、ボクも全然どっちが悪いとかいいとかっていう問題じゃないんで、訴えるなら訴えて、裁判所の方で、向こうの判決っていうか、そういうのに任せればいいんじゃないですかね？

——でも、あの現場にリングス勢がいなかったのがちょっと頼りなかったというか。

田村　いや、いたらも～う収拾がつかなかったんじゃないですか？　だって血の気が多い者ばっかりじゃないですか！

——確かにそうですね。そうなったら田村さんも突っかかって行くんですか？



撮影前、UFC-Jトーナメント優勝後のヤマケン発言（約6000字）を田村に読んでもらった。
30分にも渡ったヤマケンの炎上コメントを目にした田村は、開口一番「うわっ長ーッ」と吹き出した。

お互いジムがあるんで、道場破りに来ればいいし、ボクが逆に行ってもいいし。でも……

田村　ボクだってこういう状況だったら絶対、誰かに突っかかっていったと思いますから。だから、リングス勢はいなくて良かったと思いますよ。

——現場にいたらそうなってたでしょうからね。それで、同じ日に山本喧一選手から突っかかれたわけですけど（笑）。

田村　はいはい。

——ヤマケンさんは前々から、「トーナメントで優勝したら爆弾発言する」っていうこと言ってたんですけど、その標的が田村さんだったわけですよ。

田村　う～ん……どうしますかねぇ？

——いや、どうしましょうって聞かれても（笑）。ヤマケンさんは、よく業界全体のためって言ってますけど、Uインター時代の個人的な恨みも多少あるような気がするんですよ（笑）。田村さんは個人的に恨まれる覚えはないですか？

田村　う～ん……まあ、人の捉え方ですからねぇ。インターの時は別に変なイジメもなかったですからね。……ただ、そんなこと言ったら、ボクなんかもみんな言わなきゃいけなくなっちゃうから（笑）。

——アハハハハハ。

田村　ボクの新弟子時代の方がもっとひどかったと思いますけどね。まあそれは、人の捉え方だから、いいように取るか悪いように取るかですから。それは人それぞれですよね。ボクはもう、新弟子の時にいじめられようが陰険なことされようが、それが当たり前のようにやらせてもらってたんで、今となってはどこに出てもね、この業界を外れても、やっていく自信っていうか、そういう思いをしてるんで。

——田村さんも、以前、高田（延彦）さんに「真剣勝負をして下さい」と言って話題になりましたけど、今回のヤマケンさんの発言とは意味合いが違うんでしょうかね？

田村　う～ん……わかんないですね（苦笑）。全然わかんないです。ヤマケンがどういう意味で言ってるのか。

——名指しされたのは気分が悪いっていうのは単純にありますよね？

田村　いや、ボクは全然気分悪くないですけどね。ただそういう批判とかいろいろ言ってるんだったら、気分は悪いことは悪いんですけど……まあ、口だけで言い返すのは簡単ですけど、ヤマケンも実際口に出して突っかかってきてるわけですから、ボクの方はこれだけ言われてるんだったら逃げるところまで逃げて……（自分でウケて笑い出す）アッハッハッ！

——アハハハハハ！　逃げますか（笑）。

田村　関わりたくない（笑）。売られたケンカは逃げますよ、ボクは（笑）。

——「田村潔司、逃げます宣言！」（笑）。

田村　そう、逃げます宣言！（笑）。だから、ボクを侮辱してることに対して、リングスの選手がどう反応をするか見てみたいですね。ボクは新弟子の頃、上の人間をバカにされたら怒るようにしつけられたんで。

——上の人間に噛みつくんであれば、下から這いあがって来いってことですか？

田村　いや……でもね、ヤマケンがこうや

って、しょっぱい試合してるんであれ、優勝は優勝ですからね。ベルトを巻いているわけですから、これはもう認めなきゃいけないことなんで。そこは純粋にボクは認めますよ。なかなか出来ないですよ。ジムもやってて。

——ジム経営っていうことでは、ヤマケンさんとは経営者仲間ですからね（笑）。

田村　そうそう。ヤマケンはまだ若いじゃないですか。その部分は選手として凄い認めますけどね。ただそれ以外に、リングスとしてボクを批判するのであれば、ボク自身のコメントは控えさせてもらって、リングスの関係者、選手の反応に注目します。

——う〜ん、でもそんなこと言われたら、単純に頭に来て「ふざけるな！」っていうのが普通の感覚ですよね？

田村　ボクがですか？

——いや、普通そうでしょう。

田村　ボクは逃げるって言ってるじゃないですか。「すいませ〜ん」て（笑）。

——「すいませ〜ん」って謝ってどうするんですか（笑）。

田村　ボクは逃げます！　逃げさせて下さい（笑）。

——でも、ヤマケンさんは今度のリングス大阪大会に行くって言ってるんですよ。「田村潔司、1回戦のカード空けて待ってろ！」って（笑）。

田村　アッハッハッハッ！　わっけわかんない（笑）。あ、そうなんですか？

——優勝賞金の100万円でリングサイドを買い占めるみたいですよ（笑）。

田村　それじゃあ、ボク、ヤマケンに頭下げますよ。

——アハハハハ！　何でですか？（笑）。

田村　そりゃもうチケット買ってくれるんだったら、（頭を下げ）「ありがとうございます」ですよ、いやマジで。お金払って見る分には何言われても構わないですから。

——例えば、ヤマケンさんが関係者受付から入ろうとしたらどうしますかね？

田村　それは止めなきゃダメですよ。まあでも、そんなことしたらみんなにボコボコにされますよ！

——やっぱり、そうかぁ。でも、「リングスのリングでもいいからやらせろ！」ってことみたいなんですけど、例えリングスルールであってもヤマケンさんの主張は受けたくはない？

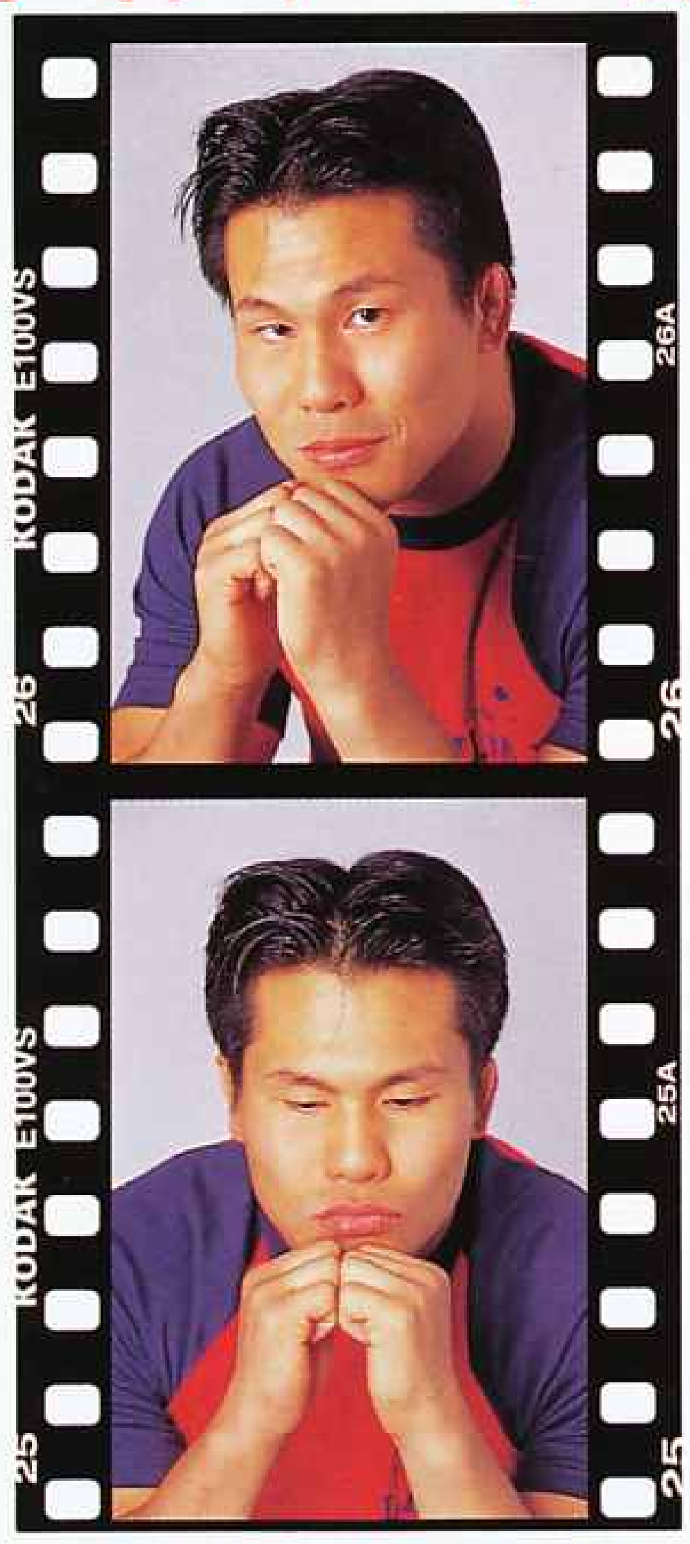
田村　う〜ん……受けたくないと言うか。ボクもヤマケンの気持ちは凄いわかりますよ。ボクも昔、実際そういう発言してるんで。だけど、結局ボクもヤマケンと同じ発言をしたけど、高田さんとはやれてないじゃないですか。だからヤマケンもやれません！

——アハハハハ！　時代は繰り返すわけですか（笑）。

田村　だから、そういうことをもうちょっと考えてやってくれるんであれば、その時点で考えます。今はボクは逃げます！　でも、そこまで言ったってヤマケンはわからないですからね。とりあえず、頑張って下さいとしか言えないですよね。



KIYOSHI TAMURA



——とりあえず逃げると？（笑）。

田村　逃げる……ダッシュして逃げます。チーターより早く逃げます！

——アハハハハ！　それと田村さんのことを「オッサン」呼ばわりしてるんですが、それも別にカチンときてませんか？

田村　いや、全然。

——オッサンでいいんですか？（笑）。

田村　オッサンでいいです（笑）。まあ若いからしょうがないですよ。だから、気持ちはわからないでもないですから。そう、ボクはどっちかって言うと大人なんで（笑）。

——田村さんもそんな時期があったっていう感じなんですかね。

田村　はい。まあ、ヤマケンが……5年、10年経ってから、その発言に対して「悪いな」っていう気持ちになれば、それはそれでいいですよ。

——「高田さんも、なんだかんだ批判されたけど、あの人は若いヤツらを食わせてくれた。でも、あのオッサンは若いヤツに何もしてくれてない」というようなことも言ってたんですけど。

田村　アッハッハッハッ！　そうなんですか（笑）。……ただね、昔のこと言ってもしょうがないですし、水掛け論になっちゃうんで。でも、しゃべりたかったら、勝手にしゃべってくれ‼

——えっ、いいんですか？

田村　でも、本人……が喋りたいんであれば。ただ……そうやって一方的に言われるとムカつくんですよね‼　……でも、ボクがムカついちゃダメなんですよ。

——大人としては（笑）。

田村　そうそう、ボクは大人だから（笑）。ボクが子供だったらいっぱい言ってやりますよ……ま、いいか。

——大人から見ると、ヤマケンさんの発言は若気の至りって感じるんですかね？

田村　うん……若気の至りですねぇ。まあだから、それだったら逆にお互いジムを持ってるわけですから、道場破りに来ればいいし、ボクが逆に行ってもいいし。でも……ヤマケンが来たらチーターより早く逃げるかもしれない（笑）。

——どんな道場破りですか！（笑）。

田村　まあ、リップサービスだったらね……難しいッスね。だから、一回置いた方がいいですよ。ボクはこの件に関しては逃げたいんで。リングスの若い選手もメラメラと来てる……かどうかわからないんですけど、周りの状況を見ながら、ボクは一歩退いた状態で見たいし、まあヤマケンは優勝してるから、「勝った者が一番だ！」と思って勢いでガーッと言ってると思うんですよ。だから記事を見て「ちょっと言い過ぎちゃったかなぁ」って思ってるかもしれないし。

——じゃあ、田村さんはリングスの若い選手がいきり立って「じゃあ俺がやってやる！」という話になったら、止めはしないわけですね？

田村　止めないですよ、全然止めない。イケイケドンドンですよ。逆にそういう選手が出てこないとダメですよ。

やっぱりUWFのスタイルがボクにとっては一番理想的なんで……

―（試合後のコメントを棒読みする）「Uインターの選手全員に大嘘こいた田村潔司、コイツだけは大の偽善者です」と。

田村 ハッハッハッ！ なんでそうやって煽るんですか（笑）。そんならね、Uインターの選手に聞いて、俺が嘘をついたかって多数決取ってみればわかることだから。

―「Uインターの選手みんなも田村潔司のことは嫌っていた」みたいなことまで言ってましたからね（笑）。

田村 （ムッとして）だから、それを聞いてみて下さいよ！ 誰が嫌ってるんだって。……垣原（賢人）嫌ってるのかなぁ？

―アハハハ！ 垣原さんですか（笑）。

田村 あっ、でも、もしかしたら俺のこと嫌ってるかもしれないなぁし。

―それはどういった意味ですか？

田村 ヤマケンの前で垣原が（小声で）「田村さんはダメだ」って言ってるかもしれないじゃないですか（笑）。



―アハハハハ！ そういえば、垣原さんはパワーオブドリームのスパーリング大会に来てましたよ。垣原さんは、田村さんともヤマケンさんとも仲がいいんじゃないですか？

田村 （ふてくされて）じゃあ、ボクは嫌われてるんスかね（苦笑）。

―アハハハハ！ いや、どうなんでしょう（笑）。最近気になるのは、桜庭（和志）さんも田村さんの話になるといきなり〝キラー桜庭〞になるんですよ。普段はニコニコしてますけど、いろんな媒体で、「田村さんとバーリ・トゥードで試合をやったらどうなる？」って聞かれると「俺がボコボコにして勝ちます！」って言いますからね。

田村 でもまあ、それは言うでしょう、みんな（苦笑）。

―だけど桜庭さんはそういうキャラじゃないじゃないですか？

田村 あ、そうですか。じゃあボクは桜庭

にも嫌われてるんですね。

――それも、どうでしょう（笑）。田村さんは、いま闘ったとしても桜庭さんに勝てるって自信があるんですか？

田村　いや、それはわかりません（笑）。も～う、だから、そういうのもホントに嫌なんですよぉ。今はなんとも言えません。

――常に、「ケンカはやめて」って感じなんですね（笑）。

田村　ホントそうですよ。ケンカが嫌いなんですよ。嫌いっていうか……売り言葉に買い言葉っていろいろあると思うんですけど、それだけ言われるとちょっとね。そういうプロレスチックな……そういうのは嫌なんですよ。ボクはUインターの時も人間不信にもなったし。

――人間不信になりましたか（笑）。

田村　ホントなりましたよ。それで前田さんがブン殴られたりしたでしょ？　しかも自分もお世話になった安生さんから。それで、ヤマケンっていう後輩からまた言われるでしょ。だから、も～う関わり合いたくないんですよね。ホント辞めたいんですよ。そういうややこしい話になるんだったら、ホントもう関わり合いたくないです。……この世界って言ったもん勝ちですからね。

――確かにそういう面はありますよね。

田村　……だからもう、これ以上ドロドロしてきたら、ボクはもう辞めたいッスね！

――えっ？『東スポ』でのリングス離脱発言に続いて、一気に引退発言ですか（笑）。引退発言になっちゃうけど（笑）。

田村　まあ、それはないですけど（笑）。う～ん……面倒臭いですねぇ。やっぱり……人と付き合っていくうちに、味方もいれば敵もいますからね。しょうがないですかね。うん……しょうがないですね。

――チャンピオンとして今のリングスの状況はどうですか？

田村　うん……頑張ります。

――頑張って下さい（笑）。でも、こないだのトーナメントAブロックはメチャメチャ面白かったですよ。ファン、関係者も含めて面白いって声が圧倒的でしたから。

田村　あ、そうなんですか？

――まあ、田村さん的には不本意だと思うんですけど（笑）。

田村　ありがとうございます（笑）。

――どうでした田村さん的には？

田村　解説して見てて疲れましたね。でも、今まであんなに金原（弘光）を応援したことはなかったし、山本（宜久）を応援したこともなかったし、山本を心配したこともなかったし、（イリューヒン・）ミーシャが勝って嬉しかったこともなかったし。だから、やっている選手が一番大変ですけど、それ以上にボクはドッと疲れましたね。

――やってる選手以上に疲れちゃったんですか（笑）。田村さんは今回のトーナメントに関しては、「対戦相手よりルールとの闘いだ」ってことをよく言ってますし、トーナメント前の会見でも乗り気じゃないのが露骨に現れてましたよね（笑）。

田村　……アッハッハッハッ。

――金原さんは金の使い道まで考えて嬉しそうにしてましたし、坂田（亘）さんは「ブラジル人をブッ潰す！」って言ってましたけど、田村さんは「上の方にいけるといいなぁ」みたいな感じでしたよね。

田村　うんうん。だから闘い方によって、上に行けるかどうか決まるわけで、うまい選手が上に行けたり、強い選手が負けたりする可能性があるんで、こないだ見た限りでは、三パターンに別れるわけですよ。柔術系のねちっこいヤツと、アメリカ系の大雑把なヤツと、トータル的に総合でできるヤツ。ちょうど表現しやすい、グー、チョキ、パーみたいな感じで。グーのヤツがチョキに勝ったからって、今度はパーには勝てないんで。だからそのすべて、グーにも勝てるパーであって、チョキにも勝てるグーであって、三拍子プラス運がないとダメですよね。

――四拍子揃ってないとダメなんですね。

田村　はいはいはい。

――Aグループでは田村さん的に番狂わせっていうのはありました？

田村　（ヴァレンタイン・）オーフレイムと柔術の強いヤツ。あれは紙一重ですからね。名前忘れたけどブラジルの……。

――アントニオ・ノゲイラですね。

田村　彼は凄いうまい選手ですね。だけど、ノゲイラの首をフロント・ネックロックで取りにいった時に、足のロックが甘かったんですよ、オーフレイムの。あのロックがちゃんとしてれば……。ノゲイラはもしかしたら優勝するかもしれません。

――そういう声が非常に強いですね。

田村　でも、1回戦で当たったオーフレイムに負けてた可能性もあったんですよ。だから、それは彼の運ですよね。勝ったわけですから。足のフックもさせなかったのも、彼の実力ですから。

――田村さん的には、今回のルールは正直どう思ってるんですか？

田村　いや、こういう流れに乗るのもいいことだと思うんですけど……ただ、これだけはハッキリ言えるのは、そういうUのスタイルとかリングスのスタイルっていうのは、絶対に無くしちゃいけないものだと思うんで。ボクが関わっている以上は絶対に無くしたくないですね。

――改めて「Uスタイルはボクが守ります宣言」ということですね。

田村　もうそれがね……原点っていうかね、いろいろ練習したことをお客さんに見せなきゃいけないし、強くなきゃいけないし、金ももらっていかなきゃいけないですし、夢も与えなきゃいけないでしょ？　そうなると、やっぱりUWFのスタイルがボクにとっては一番理想的なんで……だから、うまくて強い選手じゃないと、それはできないと思うんで。そういう選手をいっぱい育てて、素晴らしい試合ができるようにしたいですね。

――田村さん的には、強さプラスうまさがなければダメだってことですか？

田村　そうそうそう。強い選手はいっぱいいますよ。ボクなんかまだまだ、ボクより強い人はいっぱいいると思うし……うん。

――下から「Uスタイルを守る」っていう選手が田村さん以外に出てくればいいんですけど、田村さんも、「今一番闘いたいのは上山です」って以前言ってましたよね。上山（龍紀）さん以外にUスタイルでいい試合が出来そうな選手って誰かいますか？

田村　まあ、U－FILEの上級者の人達ですね。スパーリングを見てても面白いですから。

――もしかしてデビュー間近の選手がいるんですか？

田村　いや、ただデビューとなると体格的に身長が低いとか、体重がないとか、色々な問題があるんですけど、レベルは高いし、練習見てて面白いし、技術面だけで言えば素晴らしいですよ。ボクの5年間を1年間で練習できますから。

――ヤマケンさんも底辺の拡大ってよく言ってますけど。田村さんのところにもUスタイルをやっていく選手が底辺部分ではいっぱい出てきてるんですね。

田村　はいはい。

――でも現時点で、田村さんの闘いたい

KIYOSHI TAMURA

相手が、上山選手って言われると、ちょっと寂しい気がするんですよ。

田村　うん、そうですね……でもそれはね、やりたい人がいる限りは、少なかろうが多かろうが、関係ないと思いますよ。ボクは逆に何も寂しいと思わないし、いま、上山はどうかわからないんですけど、本人に聞いてないんで。彼が「UFCに行きたいです」って言うんであれば、ボクは全然オッケーですよね。行きたいなら「行って来い」っていいますし、ボクのやりたいことって言うのがだいたいわかっていると思うんで、ついてきてくれるんだったら、ついてきてくれればいいし、坂田にしても同じです。逆に今少ないのは……ボクは少ないなりのメンバーで頑張っていきたいと思いますね。

――最近、田村さんは前田道場で練習してるってことを聞いたんですけど？

田村　いや坂田が「来い来い」ってうるさいんで（笑）。

――いままで前田道場ってあまり行ってなかったですよね。

田村　行ってなかったですよね。でも坂田も「来い来い」「来てくださいよ」っていう割には、あいつボクより来るのが遅いんですよ（笑）。

――アハハハハ！　最近は誰と主にスパーリングしてるんですか？

田村　（即座に）坂田です！

――やっぱりファンが注目してるのは、「チャンピオンの田村は優勝できるのか」「田村はこのルールでどこまで対応できるのか」ってことだと思うんですよ。

田村　そうですよね。でも、みんな、どういう闘い方するんですかねぇ……読めないですからね。

――選手として不安な面もあるんですか？

田村　いや、不安は不安ですよね。不安ですけど、知り合いの人とかに、「今度の試合は？」って言われて、「12月22日だ」って、「そんなに開いてるんだ。次はいつ？」、「次は2月に東京で」って言うと、「今回大阪でトーナメントで、大阪で勝ち上がれば、2月に決勝なんだ？」って。「それじゃあ、それ行くよ。残るよね、タムちゃん絶対ね。じゃあ、そのチケットお願いね」って言うんですよ。軽～く言うから、ホント軽～く言うんですよ（笑）。それはもう、ボクがチャンピオンである以上、しょうがないんですけど「あ、ありがとうございます」って言いながら、ムカつくんですよね（笑）。だからまあ、ファンの人がそういう風に見てるのは、しょうがないと。期待に応えるかどうかはボク次第ですから。だから、チャンピオンとして武道館までは残らなければいけない！

――ようやく力強い発言が出ましたね！

田村　だって武道館に残るか残らないで、日本人が残る残らないでチケットの売上げも全然違うと思いますから。

――ガクッ！　チケットのことですか（笑）。でも会社のこと考えてるんですね。ヤマケンさんは、「あのオッサンは会社のことは考えてない」って言ってましたけど（笑）。

田村　考えてますよ！（笑）。でも、だって違うでしょ？　冷静に考えて、日本人が1人いるいないで。3人出るわけですから、3人が決勝に出てくれれば全然オッケーですけどね。その3人でボクは高阪（剛）が残ってくれてもいいし、坂田が残ってもいいし、ボクが残ってもいいんです。ただ、ボクはチャンピオンとしてのところもあるし、リングスの興行的だとかいろんな面を





【95・12・9K―1ヘラクレス／名古屋レインボーホール／vsパトリック・スミス】Uインター勢が新日本との対抗戦を選択する中、ひとり背を向けK―1のリングに立った田村。アルティメット特別ルール（グローブ無し）でパトスミと闘った田村はヒールホールドで秒殺。田村は試合後、負けたら引退を覚悟していたことを告白。

考えて、他の選手が潰れても、ボクだけは残っとかなきゃいけないかなっていう義務感と責任感っていうのがあるんで。

――さすがチャンピオンですねぇ（笑）。それで、今回、決勝に行くには1日2試合勝ち上がらなければならないんですけど、

お前はリングスでは結果出してないんだから、とやかく言われる覚えはない！

田村さんはこれまで経験ないですよね？

田村　2試合？　えっ、ないんですか？

――えっ、経験あります？　高田さんとかは2試合やりましたよね。（デュアン・）カズラスキーと……。

田村　あぁ、あと佐野（なおき）さんですよね。ありましたね。いや、ボクはまた、夜の試合と夜中の試合と……。

――アハハ！　ああ、そっちのファイトですか（笑）。寝技研究会の方ですね。

田村　これはカットしといて下さい（笑）。

――いやダメですよ。チャンピオンですから、それくらいの発言権はありますよ（笑）。

田村　ダメダメダメ、これはダメですよ。カットしなかったらオヤジギャグということで（笑）。

――アハハハハ！　でも真面目な話どうですか、オヤジギャグ抜きで？

田村　2試合ですか？　う～ん……あんま、考えない方がいいんじゃないですかね。2回戦のこと考えてスタミナ温存して1回戦でこけちゃってもあれですから。もうその時に全部の力を出し切って、負けるんだったら負けて。勝って続くようだったら、次の試合に臨めばいいと思うし。だから変な計算は通用しないと思うんで。まあ、慎重かつ大胆に！

――それで、しなやかにいつもの田村さんらしさが出せたら一番いいでしょうけどね。

田村　そう……ですね。

――どうしても、うまさと強さでいったら、強さが全面に出る試合形式だと思うんですけど、いつもの田村さんらしいファイトは見られますかね？

田村　そう……はい。ボクはもう、いつものスタイルで。

――クルクル回ってくれるんですね（笑）。

田村　はい（笑）。

――ちょっと前の話になりますけど、「成

瀬とやりたい！　挑戦者としてベルトに挑戦したい」って言ってましたけど、もう立ち消えになっちゃうんですかね。

田村　ああ、成瀬（昌由）。うん、ちょっと失速しましたね。

――あれはケガで欠場することを知らないで出た言葉なんですか？

田村　知らなかったです（苦笑）。

――知ってて言ったんじゃなかったんですか？　タチの悪いこと言うなぁって思ってたんですけどね（笑）。

田村　アッハッハッハッ！　意地の悪いヤツだと（笑）。

――あれは、チャンピオンとして騒がれてなかったっていうことと、他にも小川（直也）さんとかの話もあって、こっちに目を向けさせたいっていうのもあったんですかね？

田村　いや、そんなことないですよ。うーん……まあ興行的にも面白いし、自分のためにもいいかなと思って。だから単純に成瀬選手に挑戦ってことで。

――小川対山本が騒がれたときは、チャンピオンとして、相当面白くなかったわけですよね。今回も前田襲撃事件であったり、リング外の話題が多くて田村さん的には本意じゃないですよね。

田村　そうですね。本意じゃない？　う〜ん……本意じゃない。やっぱりそうですよね、恐らく。ヤマケンにしたって、ボクへの発言とか、前田さんの件とか、抜かして言えば、これはもう大したことだと思いますよ。いい記事になると思いますよ。人を批判とかしなければ。それで、仮に「ボクがプロレス界引っ張っていきます！」とか、「格闘技はボクに任せて下さい！」とか、ヤマケンも、「俺についてこい！」とか、そういう夢のある発言をしてくれるんであれば、対ファンに夢を与えるって意味でね、全然いいと思いますよ。でも、ヤマケンの発言も、前田さんの件でちょっと消えてるじゃないですか？

――確かにそうですね。

田村　ヤマケンに関しても、ある意味被害者だと思いますよ。しょっぱい試合とはいえ優勝してるんですから。

――前田襲撃事件がなかったら、「田村潔司、俺と真剣勝負しろ！」って表紙になってた可能性も高いですから（笑）。まあ、それも運だと思いますけど、田村さんが言うように、三拍子プラス運がないと、トーナメントは勝ち上がれないわけですね。

田村　まあ、生き残った人が全てですから。ボクもこうやってインターを離れて、ここで負けたら辞めようってことを決めてパトリック・スミスと闘って、そこで勝ったわけですから。それがボクの運であって、リングス来てからも頑張ってチャンピオンになったわけですから。まあ結局これから先も、これで消えるんであれば、それはそれでボクの運命ですから、やっぱり活躍をしてないと……話題とかないと、生き残っていけない世界じゃないですか？　かといってボクはそうやって、ヤマケンみたいなことをやりたいとは思わないですし。



取材翌日、前田道場を訪ねるとチャンコTIMEが始まっていた。ジャパン勢は、ヤマヨシ、成瀬、TK、金原、滑川、そして前田社長などケガ人続出状態である。トーナメントに向け田村は連日、坂田と練習に励んでいる。

K I Y O S H I　T A M U R A

――まあ、今回のリングスのトーナメントルールでヤマケンさんと闘うにしても、当然自信はあるわけですよね。

田村　そう、自信があるっていうか、それはまあ……。

――ヤマケンさんは「田村には勝てる！」ってことなんですけど。

田村　……何でしょうねぇ。それでガーッと言いたいんでしょうね。だから強さの大きさを比較にするのにマイルドセブンを置いて、俺はこれぐらいだよとか……。

――さすが例え上手ですね（笑）。

田村　強さの計りを単純にやるんであれば、じゃあ「ヤマケンは坂田に勝ったのか？」とか……。

――坂田さんには負けてますよね。

田村　まあ、単純にそのことでもわかることなんで。だから坂田には悪いですけど、坂田はまだ伸びる選手だし、ボクと坂田がやっても、ボクは全然負ける気しないし。でも坂田はそれをわかってると思うし、だからボクに頭を下げてきてると思いますから。まあ単純に強さの計りでいったら、坂田とか、滑川（康仁）とかがガーッといって欲しいですね。

――滑川さんも、それだけの力を持ってるということですね。

田村　う〜ん、滑川だったら面白いんじゃないですか。

――ヤマケンさんの相手としてですか？


田村　うん。上山でもいいし。滑川の場合はアイツは経験が少ないんで、でもアイツはどっちかっていうと、戦闘タイプですから。ぶっちゃけた話、滑川と上山と山本と、3人で試合させて誰が一番強いかっていうのは面白いと思いますよ。名勝負数え詩になるんじゃないですか？

――名勝負数え詩になりますか（笑）。

田村　だからまあ、ヤマケンはリングスでは結果は出なかったと。でも、ヤマケンはUFC—Jで結果を出したわけですから、それはそれで評価してあげて欲しいですね。でも、お前はリングスでは結果出してないんだから、お前にとやかく言われる覚えはない！　だから、ボクはもうトーナメントでは頑張りますよ（笑）。

――一気にまとめられちゃいましたね（笑）。トーナメント頑張って下さい！

【11月17日、六本木アートセンターにて収録】



田村潔司！オレから逃げられるとは思うなよ!!

世紀末SURPRISE

聞き手／チョロ
interview by Choro

構成／大西タマリン
text by Tamarin Onishi

撮影／NAHOMIX
photographs by Nahomix

試合写真／黒田史夫
photographs by Fumio Kuroda

ヤマケン　今日は、チョロちゃんに来て欲しかったんよ。山口（本誌鬼畜編集長）さんは前田（日明）世代やろ！

——オッサンのインタビュアーはもういえっちゅうん、と（笑）。ちなみにボク、もう28なんですけど（苦笑）。

ヤマケン（耳に入らず）あのオッサン（田村潔司）は、オレに後ろめたいことがあるから逃げるしかないんですよ！　だからアイツは野村沙知代なんですよ!!

——ということは、ヤマケンさんは浅香光代ということですか？（笑）。

ヤマケン　そうや（笑）。まあ、見ててくださいよ！　オレはミッチーみたいにみんなを巻き込んで、業界盛り上げていきますから。あのオッサンが辞めるか、UFC－Jの舞台で闘うか、それぐらいまで追い込んでやりますよ！

——ウチの人間はみんなサッチー派なんですけど（笑）。とりあえず、賞金で大阪大会にエントリー希望なんですよね。

ヤマケン　そうや！　でもな、インターネットで「お前はリングスに乗り込む勇気があるのか」って書かれてたけど、乗り込んでやりますよ！　今までファンを裏切り続けてきたんですよ、この業界！　これからは違う。オレを信じてくれるヤツを巻き込んで思いっきりリングスへ行きますよ！

——田村さんは、グローブ着用しようが、いつもと変わらない田村潔司の闘い方をするって言ってましたけど。

ヤマケン　やっぱり守られてるなぁ。まあ、下手なことしたら格闘技に関わってるヤツはわかるから。

——それは、マスコミも含めてってことですか？

ヤマケン　そうや。オレは、今までのプロレスは否定しない（キッパリ）。これは歴史があるし、オレもそれほど知ってるわけじゃない。だけどU系は違う！　U系は、それを批判して出てきたわけやから。U系はタブーを犯さないとダメなんだよ。U系は死んでるから。Uイズ・デットやね。だからオレが終止符を打ったんや！

——でもUWFもプロレスなわけだし、実際「Uスタイルを守る」「リングスを守る」っていう考えの人も多いと思うんですよ。

ヤマケン　だから、みんなのケアができないヤツがトップにいるからダメなんですよ！　あのオッサンが、自分で団体おこして、みんなにメシを食わしてるんだったら文句は言いません。前田さんに食わせてもらってるのに、自分がリングスを守ってるようなこと言ってるんですよ。前田日明が守ってるんですよ！　前田日明がいなかったら今のリングスはないんですよ!!

山本喧一

KENICHI YAMAMOTO

［POWER OF DREAM］

前号のインタビューでの「今度の試合に勝ったら爆弾発言しますから楽しみにしてください」の予告通り、ヤマケンがチャンピオンベルトを手にした瞬間「田村さん！　オレと真剣勝負をしてください!!」と大爆炎!!　そしてこのインタビュー当日も烈火のごとく吠えまり、時代を変えることを宣言した。その熱すぎる魂の叫びは、実に3時間以上にもおよぶことになる。ヤマケンのいくら語っても語り尽くせぬ情熱は、田村の心に届くのであろうか？　さあ、どうなる！　とにかく、ヤマケンの行動から目が離せない！　そして、ヤマケンの爆弾発言の全ての謎がここで解き明かされる。


98年12月23日リングス福岡大会。この日ヤマケンは、頭を丸め気合いを入れまくって田村戦に挑んだ。この日から1年後、時代を変えるために再びヤマケンは立ち上がった！

——リングスには、生え抜きの山本（宜久）さんも成瀬（昌由）さんもいるわけじゃないですか。

ヤマケン　だからアイツが何でチャンピオンでいれるかってことなんですよ。チャンピオンってことは、リングスの象徴じゃないですか！　だって、リングスは世界最強の男を決める場所なんでしょ？　だったらアイツが全格闘家のトップじゃないですか。田村潔司がそういうことを自覚してたら一切言わない。

——（熱さに押されながら）でも、ベルトを巻く人っていうのは強さだけではなく、そこまで求められるものなんですか？

ヤマケン　プロレスやってて、リングスで君臨したいのならリングスをまとめろよ。アイツはオレの何倍もの給料もらっててね。下のヤツは腹すかせてピーピー言ってて。オレはそれを終わらせたかった。でも、WOWOWのインタビューで、「6年たってもヤマケンは勝てないでしょう」ってあのままリングスにいたら、そりゃそうや！

——それって福岡（98・12・23）の時のことですか？

ヤマケン　試合終了後、アイツが言いよったんや！　若いヤツは6年間ずっと我慢しろってことか？

——UFC－Jの試合後でもその理由も含めて言ってましたけど、さすがにどこの媒体にも載ってなかったですね。

ヤマケン　それ、載せてええんか迷うんや！　ナマナマし過ぎるやろ？　そこで、オレが全部まだ喋らなかった。それが、オレの才能や！

——さ、才能ですか!?

ヤマケン　そこで、Uインターの暴露話だって、オレは聞かれたらナンボでも喋ったる！　オレは現場におった人間や。オレが1番よく知ってる。だから『赤いパンツの

頑固者』に書いてるのなんて半分以上ウソや！　ホントに田村潔司は、オレの前でいろんなことがあり過ぎたんですよ。

――でも、田村さんは「同じジムやってる者同士、大変なのはよくわかるから頑張って行こう」っていう気持ちはあると言ってるんですよ。

ヤマケン　でもね。オレがジムやろうと思った考え方と田村潔司がジムやってる考え方は全く違いますよ！　アイツは、せいぜいこの業界どうなるかわからないから、「儲かるうちに金貯めてやる」っていう考え方ですよ。その金をリングスが困った時に使うこともないし、後輩のために何かやったろうなんて絶対思いませんよ。

――じゃあ、それが例えばパンクラスの船木（誠勝）さんがそこまで、考えてやっているっていう評価はあるんですか？

ヤマケン　船木さんは、若いヤツにチャンスを与えてるからまだあるよ。いい悪いは別にして組織をちゃんと作ろうとしてる姿勢は、認められるべきだとは思うよね。でも、オレはパンクラスにいたわけじゃないから、何にも言えないよ。

――でも、実際に所属していたUインター、キングダム、リングスには言えると。

ヤマケン　そうだよ。現場にいたオレが不満を言ってても、ついてくるファンがいるんだよ。それは、前田日明は正しい、会社は正しいってインタビューとか載せるでしょ。だから真実がわからないんだよね。

――「オッサンのインタビューはもうええっちゅうねん！」って言ってましたもんね。

ヤマケン　そんなん見ても若い選手は、何とも思わないよ。若い世代に訴えかけるには、若い人の生の声とか頑張りをもっと表現できる雑誌を作らなくちゃ。このままでは、この業界全体がダメになりますよ！

――それが、底辺拡大につながるんですね。

ヤマケン　当然でしょ。それで、若いヤツはシュートやって、強くなって這い上がるんや！　そう思って入ってくるけど、押さえつけばっかりされて強いヤツが育たないんですよ！　だから闘ってもわかりあえないんだよ！

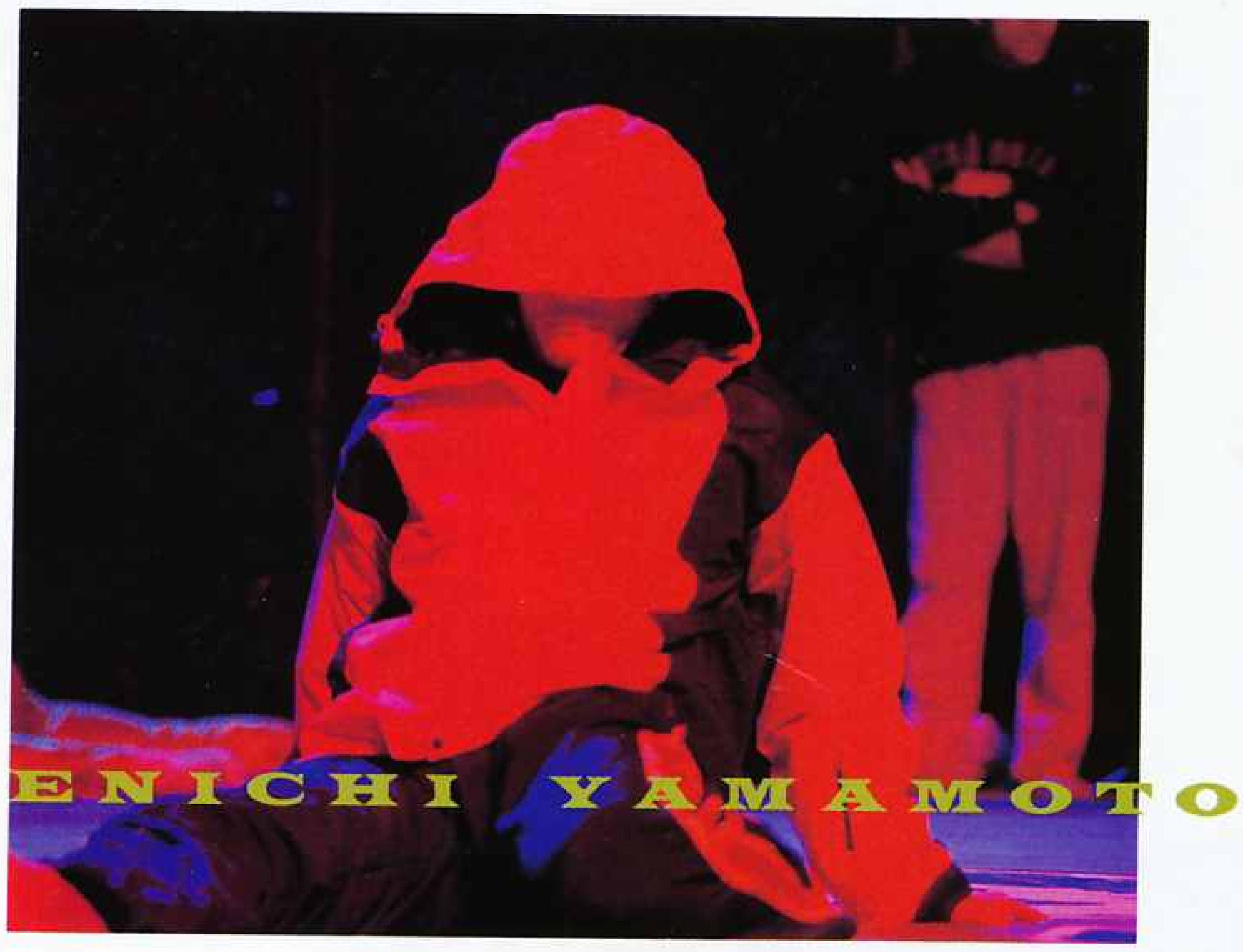
――ヤマケンさんは今、田村さんと闘ったらわかりあえると思ってるんですか？

ヤマケン　あのね、何でオレが闘えって言ってると思う？　ホンマやったら闘う必要なんてないんですよ。オレは、田村潔司が強くないなんて一言も言ってないよね。

――間違いなく強いですよね！

ヤマケン　やればできるんだから「やれよ」って言ってるんですよ！　今こういう状態で、業界のために何もしてないんだから「やれよ」って言ってるんですよ！

――闘って勝つ自信はあるんですか？



ヤマケン　もちろん、ありますよ！　ずっと昔からあるよ。喧嘩の試合見せてやるよ。Uスタイルは、もう古い！

――高阪（剛）さんは、バーリ・トゥードがあきられた頃、将来Uスタイルが浮上してくるって言ってますけど。

ヤマケン　言ってるだけだよ！　じゃあ、何でアイツは、バーリ・トゥードに出る必要があるんや？

――だから、別モノと考えてアメリカでバーリ・トゥードやって、最終的に残るのはUスタイルってことでしょうね。

ヤマケン　そのコメントは、高阪の口から出たとはオレは思えないよ。

――まあ、いろいろやってみて最終的にはUスタイルが残るんじゃないかってことですよね。

ヤマケン　どうしても本心とは思えない。オレな、グラップリング協会を12月に作るから。

――12月って今年のですか？

ヤマケン　そう。グラップルでサブミッションの需要は広がりますよ。そこで今までやってたUスタイルのサブミッションも残していけるよ。総合格闘技ってどれだけ似たようなものがありますか？　プロレスも含めてみんな総合格闘技ですよ。だから、今となってはUスタイルを守るのはムリ。

――U-FILE　CAMPではUスタイルを育ててるらしいですけどね。

ヤマケン　じゃあ、自分とところだけでこじんまり道場マッチやればいいんだよ。育ててるっていうなら、もっと業界を変えて若いヤツがスポット当たるようにしないと。彼は、現実逃避してるだけ。自分がチャンピオンだって言っても裸の王様ですよ！　自分だけうまく世間を渡ってるんですよ。その辺が、彼の怖いところですね。パッとみたら礼儀が正しくて、筋道ちゃんと通してしっかりしてそうじゃない？　でも実際やってることは、筋道全然通ってないよ。

――でも、今回のヤマケンさんの発言に対しては、「ヤマケンの気持ちはわかる。ただ、もうオレも大人だからそういう時期もあったよ」って返答してるんですけどね。

ヤマケン　それは、逃げですよね。彼はオレが言いたい真実がわかってないから。だから、真実を伝えようと思って語ってるわけよ。わからなくてもいいのよ。業界が盛り上がってくれたらって、割り切るよ。

――それで割り切れるんですか？

ヤマケン　田村潔司は、リングスを出る勇気があったら業界を盛り上げていけます。そうじゃないと、リングスごと沈没ですよ。だけど、オレが今やってることは最終的にはリングスにも還元できることなんだよ。これで大阪大会も客入るしね。ファイトマネー全部使うし。いいことじゃないですか！

――バーベキュー大会でジム生に還元するはずだったのに（笑）。でも、『ヤマケンと行くリングス大阪ツアー』は盛り上がりそうですね。

ヤマケン　そやろ！　でもな、娯楽はいっぱいあるんですよ。だから、格闘技に足を運ばせるには強さを求めないといけないんだよ。強さを見失った格闘技の興行に誰が足を運ぶんですか！　誰も夢を持って行きませんよ！　この前、一番武闘派で売ってた橋本（真也）さんが醜態さらしちゃったじゃない。みんながックリきてるよ。「もういいよ。ストロングスタイルは、猪木さんの時代で終わっちゃった」って夢崩れたと思ってるはずだよ。

――でも、エンターテインメントを追及している人もいますよね。

ヤマケン　だから蝶野（正洋）さんとか武藤（敬司）さんとかはいいんですよ。凄い

トーナメントの決勝は、久しぶりにオレの原点である喧嘩をやったよ。

と思いますよ。大仁田（厚）さんにしても。だからオレらU系をやってたヤツが口出ししてはいけない。こっち側で、しかも辞めた人間がとやかく言うから闇討ちされるようなことが起きるんですよ。だって、闇討ちされても文句言えないよ。原因は、自分にあるんだから。

——ヤマケンさんがあの事件の後、坂田（亘）さんに「今までの蓄積ですよ」って言ったと聞いたんですけど。

ヤマケン　「個人的な問題なんだからオレらが口を挟む問題じゃないよ」って。ただそれだけです。

——でも、今回は、高阪さんも参戦してたってことで、前田さんは招待されてた立場ですよね。

ヤマケン　なんで来てたのかは知らないけど。でも、今回のことで告訴とかしたら、どんどん前田さんの株は下がっていきますよ。オレはそういうことにはなって欲しくない。「安生、ドームでやってやるよ！」とか言えば、株は上がるけどね。

——お客さんは入るとは思いますけどね。

ヤマケン　そうでしょう。「退職金代わりじゃ！」って大仁田さんだったら言いますよ。猪木さんとかも頭柔らかいから。

——確かに大仁田さんの持っていき方とかは、そういう部分がありますけどね。

ヤマケン　だからね。もっともっとプロレスやってる人たちの、プロとしてのエンターテイメント性をU系は学ばなくちゃいけないですよね。それがイヤならもう、そろそろ自分で考えないと。現に、オレの今の結果がそうじゃない？　あのまま政治力に押し潰されていれば、今のオレはないわけ。あの時、自分の意志を貫き通してリングスを辞めたのが正解だったんですよ。

——ヤマケンさんは、ホント自分の意志はハッキリしてますよね。

ヤマケン　とことんまで、1回きれいに整理整頓をする必要があるんじゃないかなってオレは悟った。それを結果を出すまで我慢してた。結果を出せなかったら、きれいさっぱり足を洗おうとそう決めてた。それくらいの覚悟はしてたよ。だから、リングス辞めてからずっとチャンスを待ってた。

——でも結果は出しましたけど、試合内容は満足してないですよね？

ヤマケン　でもこれが真剣勝負なんだよ。全て出すつもりでも出せないことが真剣勝負の面白いところや。そこが、喧嘩の醍醐味だよ。オレ、殴られて心地よかった。

——あれだけ顔面殴られたのは、いつ以来かって感じでしょうからね。

ヤマケン　この業界入る1ヶ月くらい前やな。チンピラにリンチされて以来や。

——チンピラですかぁ。それで、試合前半殴られ続けて、最後の最後にどうにか足を極めたって感じだったんですけど。

ヤマケン　久ぶりの試合なんで、「パンチでKOしてやろう」っていう意識も強くって。あそこで、殴られてる時に今までのいろんなことが、走馬灯のようにバーッと流れてん。でも、どんなことがあっても対応できる練習を積んできたから。

——10カ月間、地下に潜ってスキルアップしてきた成果が出たってことですね。

ヤマケン　そうや。試合中ヤマケンコールも聞こえてきて、オレは負けるわけないなって。オレみたいなヤツがこんな舞台立って、声援もらってな。だからオレは、常に上を見て行動しようと前向きなだけや。

——前向きなのはわかるんですけど、あのトーナメントは、技術はあるかもしれませんが知名度がある選手が少なかったじゃないですか。優勝したけど、レベルがわからないっていうところがありますよね。

ヤマケン　それもねぇ。ハッキリ言って強いよ！　アイツら弱くはないよ。オレが、バーリ・トゥード、アルティメットの面白さをこれから存分に教えてやるから。

——1回戦で闘った高瀬（大樹）選手は、体調を崩してるっていう話も出てましたよね。

ヤマケン　田村より強いんじゃない？　バーリ・トゥードに関しては。オレ油断したら負けてたよ。オレには、通用しなかったけど、メチャメチャうまかった。やっててうれしかった。あの攻防は地味に見えるかもしれないけど、バーリ・トゥードを熟知した闘いやった。勝っても負けてもこういうルールやったら、スッキリするんや！

——UWFルールだったら、モヤモヤが残るってことですか？

ヤマケン　あのルールじゃダメだ（キッパリ）。エスケープもあるし。だから、弟子には、技術論は全部教える。そうしたら、本物かどうかすぐわかるわけ。それで、オレの試合をわかれって言えるよね。

——そこまで言うなら聞きますけど、ヤマケンさんは、シュートだワークだって言ったら自分も言われる覚悟をしないといけないわけですよね。決勝戦は、ワークじゃないかっていう噂も流れてるんですけど。

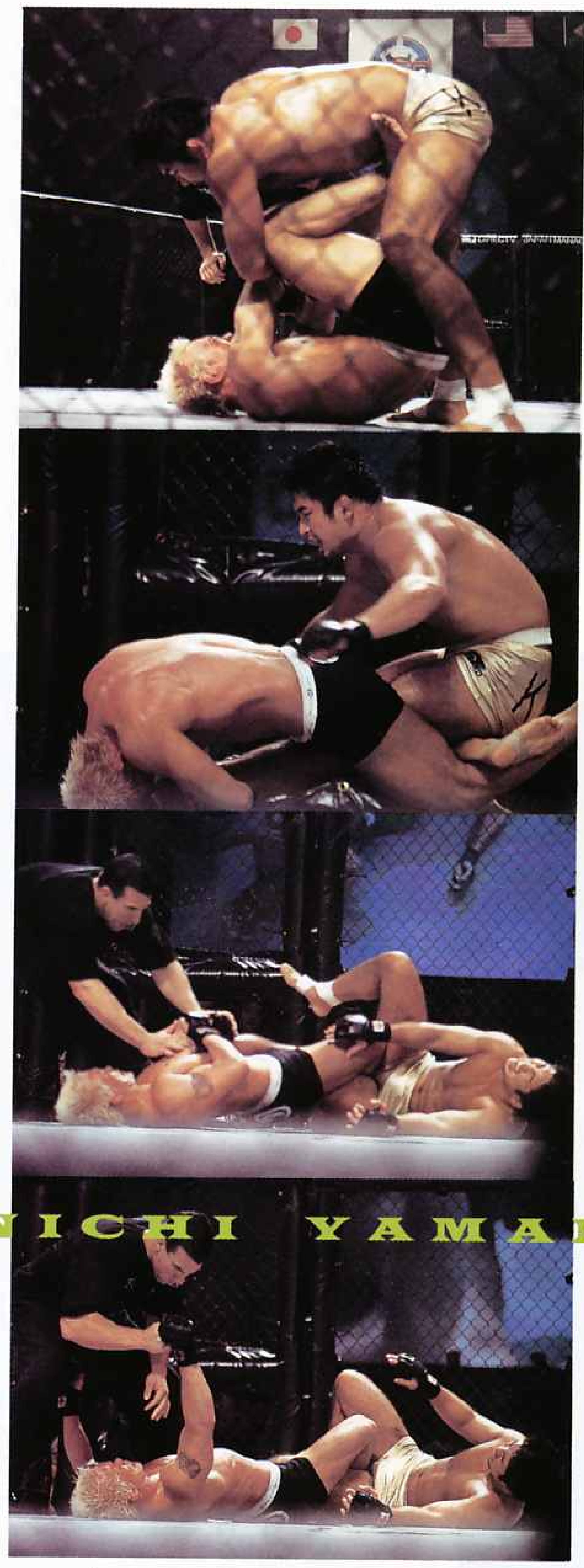
ヤマケン　面白いやん！　本物をやってみればわかるんだよ。ウチのジムのヤツらが、見ればすぐわかるよ、シュートかワークか





トーナメント1回戦は、オクタゴン経験者である和術慧舟會の高瀬大樹であった。ヤマケン曰く「高瀬はメチャクチャ練習してきた。オレは評価してるよ。だからやっててうれしかったよ」と高瀬の強さを認めていた。

「ボクはうどん屋ですから」ってノビてるうどんをいつまで出しっぱなしにしてるねん!



KENICHI YAMAMOTO

なんて。相手にしてられへん。オレは先を行かなアカンから、アルティメットをメチャメチャ研究してるよ。

——アルティメット系で、「これは強い!」っていう選手って誰ですか?

ヤマケン 今、1番トータルバランスがいいのは、フランク・シャムロックだね。倒して終わるだけじゃないから攻防が生まれるんだよ。だからシャムロックはU系の矛盾点がわかっているだろうし、難しさもわかっていると思うよ。

——UWFスタイルはスポーツ、バーリ・トゥードはファイトっていう分け方をしてますよね。でも、田村さんはシャムロックと互角の勝負しましたよ。

ヤマケン あれはシャムロックの勝ちだよ。あのルールで田村潔司が勝てなかったっていうことは、どう考えても負けだよ。

——リングスルールだからですか?

ヤマケン だって、シャムロックってリングスの選手じゃないわけでしょ。もし、リングスの看板選手の田村潔司が負けちゃったら、田村に勝ってる日本人いないんだから全滅だよ。会社は何を考えてるやと。おかしいと思えよ。シュートやってもワークやっても、それが本物やったらオレは文句言わない! 興行が、運営が本物やったら何も言わないよ。

——でも、ヤマケンさんも前田さんに試されたわけですよね。(ヴァレンタイン・)オーフレイム戦とか。

ヤマケン オレは、負けた(キッパリ)。あの試合はオレがナメすぎてた。

——結果を出してない以上、金原(弘光)さんみたいにリングスで上にいけないのはしょうがないですよね。

ヤマケン オレと金原さんは全然違う! 金原さんは、最初から弱い外人とやらしてもらってたから。

——ヒヤッ! でも、結果を出してないから田村さんは、ヤマケンさんと上山(龍紀)さんと滑川(康仁)さんと3人でやったら名勝負数え詩になるんじゃないか? って言うんだと思うんですよ。

ヤマケン ふ~ん。だから、そういう逃げ方は良くないって。オレは、ベルトを獲ったから言ったんや。度胸があるなら来いよ。他の団体の選手と闘って、UFC-Jで優勝して見ろ!

——ヤマケンさんは、同じ土俵に立ってから言えということなんですよね。

ヤマケン そうだよ。だからオレは結果出したんだよ。闘ってないヤツが何も言うな!

——そう思っているのは田村さんも同じだと思うし、やはりサブミッションでは田村さんの方が上回ってると言われてますよね。

ヤマケン 田村さんも素晴らしいけど、オレは自分の方が強いと思ってる。アイツの言うサブミッションって回転体でしょ。技術があるヤツがやったらアルティメットでも残るんだよ。それを一番最初に証明したのは、桜庭和志。桜庭さんの功績は大きいんですよ。その桜庭さんが、「田村は、バーリ・トゥード弱い」って発言をしてるでしょ?

——弱いと言ってるかどうかはともかく、桜庭さんは、田村さんに関しては厳しい発言をしてますよね。

ヤマケン 当たり前や。だって、それを田村潔司はいなして、「高田延彦とやりたい」って言ってるでしょ。バカにすんなよと。桜庭さんは、強豪を全部自分の力で倒してるんよ。だったら、高田さんの名前を出す前に、桜庭和志の名前を出せよ! オレは一番それが腹立つんや。高田さんに対して失礼や!

——でも、「あの時はすいませんでした」って謝ってからやりたいって。

ヤマケン どれだけ、Uインターの時、田村潔司に高田さんはプライド傷つけられて、人間不信に陥って苦しんだと思ってるんや。オレは、その時の高田さんの気持ちをアイツに絶対味あわしてやりますよ!

——それもあって、田村さんが高田さんに言った発言通りにリング上で、ヤマケンさんも同じことを言ったんですね。

ヤマケン まあそういうことや。でも、闘わないで終わることが多いじゃない?

——まともに行ったらリングスは厳しいと思うんですよ。

ヤマケン まともには行かないから。裏口入学(笑)。オレ、プロですからいろんな手考えますよ!

——結果出して、謙虚イズ・ベストも返上したことですしね。

ヤマケン だから、今回選挙、受かったようなものですよ。やっと発言権与えられたっていうね。でも、受かっただけではダメなんですよ。ベルト獲ってても、「ボクは、うどん屋ですから」って言ってるようでは。

——「うどん、うどん言っても、うどんノビてるやないですか!」っていう発言がありましたもんね。

ヤマケン ノビてるうどんを、いつまで出しっぱなしにしてるんだよと。

——正直に言うと、業界を良くして行こうっていう思いとは別に、田村さんへの個人的な恨みもあるとは思うんですけど、どうですか?

ヤマケン 個人的な恨みとかじゃないねん。いや、それも確かにあるよ(笑)。でも、オレは、ファンと業界のために一番なんですよ。それを実現させるために、個人的な恨

みを使ってるだけであってね（笑）。

——でも、これだけ言ってるんだから、本当に実現してもらわないとファンも納得しないですよ！

ヤマケン　オレ、プロですから。発言したからには行動しますわ。それが当たり前なんだよ！　そういう意味で、安生さんが問題提起をしてくれたんですよ！　安生さんが若いヤツの手を汚させないで、終止符を打ってくれたってことは、オレら若手にとって、これからありがたい時代が来るんですよ。だからオレは、もし安生さんに何かあったら全力で守りますよ！

——でも、あの行為自体は褒められたことじゃないですよね。

ヤマケン　それは、もちろんですよ。でもそこまでやらなければいけない状況まで、安生さんを追い込んだっていうね。

——一部マスコミで、パンクラスが関与しているんじゃないか？　っていう報道もされてるんですよ。

ヤマケン　チョロちゃん、ええか？　オレはな、リングスがちゃんとしてたらリングス辞めてないねん。けどな、内輪の人間が不満を抱いて出て行ってるわけよ。その時点でおかしいと思わないと。そこで、リングスにオレが残ってたら、安生さんを殺しに行ってましたよ。親分がやられたら弟子はそれくらいやらなきゃダメですよ。

——でも、やっぱり安生さんとの関係を考えると、疑惑は残りますよね。

ヤマケン　うちは、関係ないですよ（キッパリ）。（強く）ただ、練習に安生さんが来たりするだけで。今回、安生さんがやったことは、全面的にいいとは言わないけど、時代を変えようとしている勇気は讃えますよ。今回のことは、前田さんにも会社にも選手にも原因はあるのよ。でもね、オレが時代の変える方法を伝えるには、「田村コノヤロー」っていうのが、一番みんなにわかりやすいんだよ。

——だからって決して、個人的な恨みだけではないんだけどってことですね。

ヤマケン　オレ、メチャメチャ可愛いがられた方ですよ！　オレなんかより上の人は、いじめられたと思いますよ。

——そういうのがあるから、田村さんも「何でそこまで言われるのかわからない」ってなるんでしょうね。

ヤマケン　虚像と実像は全然違うんですよ。「もっとちゃんと考えろよ」ってことをアイツにわからせるために行動してるんですよ。この世界に愛情がなかったらこんなことしません！

——実際、病気のこともあるでしょうし、一試合一試合が引退試合というような相当な覚悟はしてるってことですね。

ヤマケン　それはない！　格闘技とかスポーツができない体じゃないから。試合後、オレの主治医が言ったこと聞いたでしょ？

——でもあの時、先生が「全然大丈夫です」って言ったならわかるんですよ。でも、「ボクシングができない」って聞いて、「バーリ・トゥードも難しいんじゃないか」って正直思いましたよ。

ヤマケン　確かに、ボクシングはダメだよ。でも、透明中隔脳胞っていう病気は、オレがやってる試合に影響することは全くない。本当はこんなことは言いたくなかったよ。でも、前田さんが「アイツは、脳がおかしくて、焦ってるだけだ」って言うのをみんな信じるでしょ。オレは、前田さんの言うことを聞きたくなかったから「試合で、打たれるとすぐ効くんですよ」ってウソついてたんですよ。だから、大丈夫や！

——ウソついてたら前田さんがそう思うのも当たり前ですよ。でも今回、前田襲撃事件がなかったら、ヤマケンさんが1面飾ってましたよね。

ヤマケン　オレはそういう風には思わない。この事件があったから、オレの発言が真実味をおびてくるんですよ。

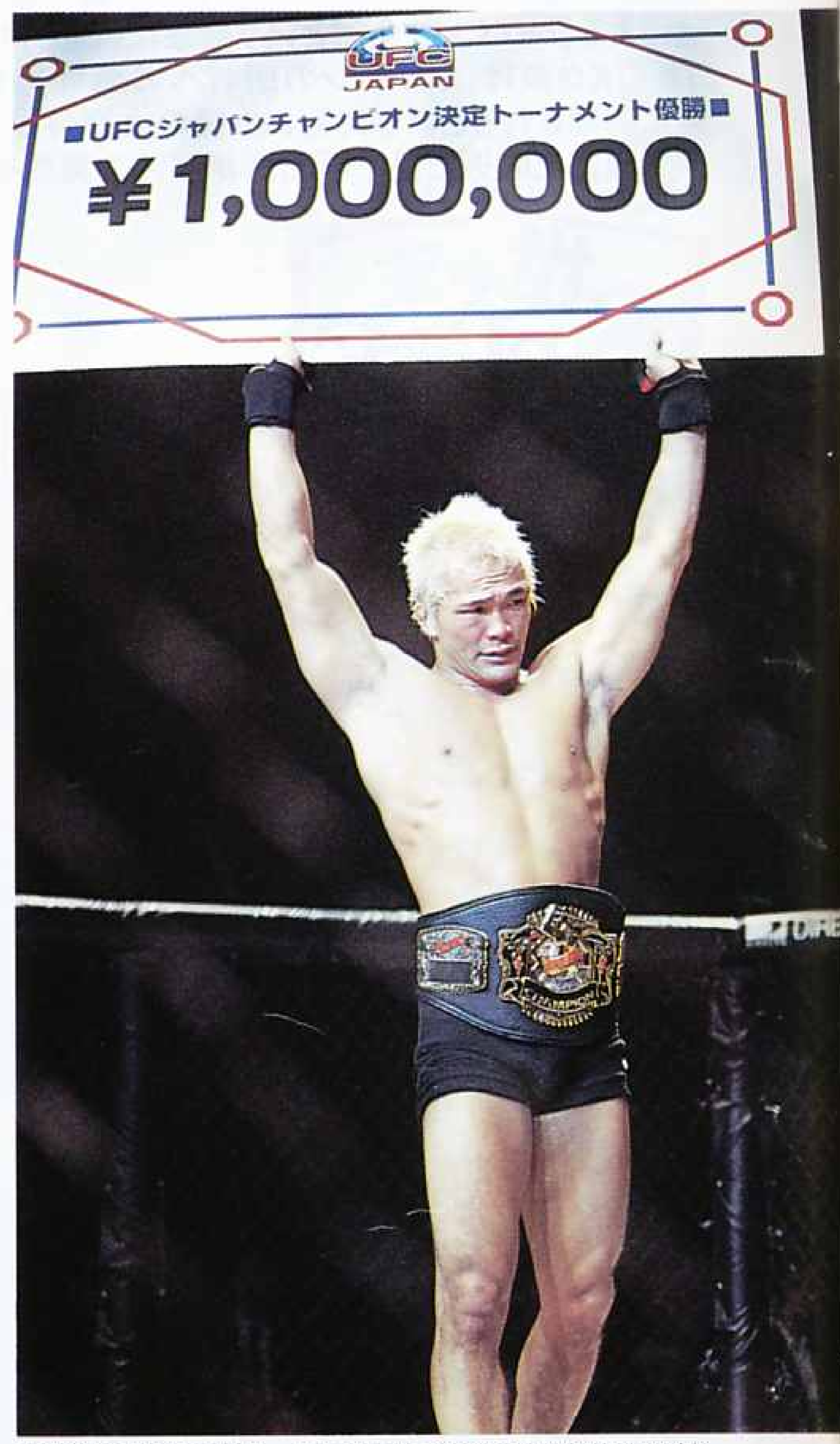
——そういえば、田村さんが「最前列2万円のチケットを買ってくれるんだったら、ヤマケンに頭下げますよ」って言ってましたけど（笑）。

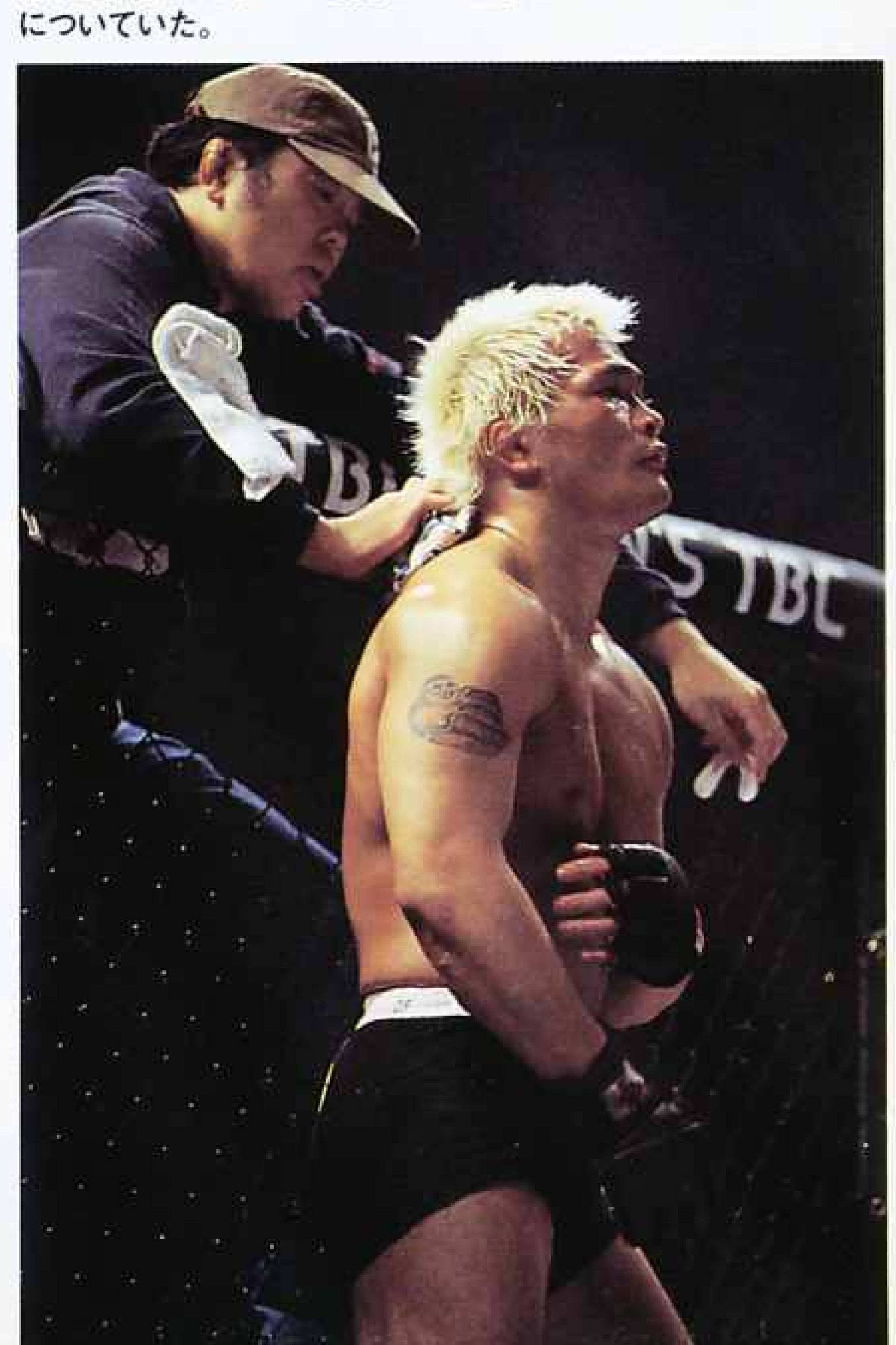
ヤマケン　頭下げてもらいましょ！　オレら最前列全部買い占めて見てやるよ!!

——ハァ〜、今日はヤマケンさんが、3時間以上も激白してくれるとは思いませんでした（笑）。

ヤマケン　あい〜や！　ちゃんと『ヤマケンと行くリングス大阪観戦ツアー』載せといてや！

【11月18日、パワーオブドリームにて収録】





この賞金１００万円で、リングス大阪大会に70人の弟子を引き連れ正々堂々正面入り口から登場するのか!?　（写真下）この日、1番凄いKOシーンを見せつけた安生は、ヤマケンのセコンドについていた。

11月14日、坂田亘はどこに…
前田襲撃事件、山喧発言を
熱血男・坂田が語る!

10・28代々木で開幕した『オープントーナメント King of Kings』はファン、関係者の間で大絶賛の嵐が吹きまくった。それとは裏腹に逆風が吹いたのがリングスジャパン勢である。山本、金原の敗退によるジャパン勢全滅という結果に続き、11・14UFC−Jでは、TKのKO負け、ヤマケンの田村への爆弾発言、そして前田が安生に襲撃されるという50万ドル級の大事件が勃発したのだ。この非常事態を間近で見た坂田亘が事件の真相を熱く語った!

世紀末 SURPRISE

聞き手/チョロ
interview by Choro

撮影/森田友美
photographs by Tomomi Morita



やり場のない、すべての怒りをトーナメントBブロックにブツける!

坂田 亘

RINGS JAPAN

今回の事件は、小川と橋本の乱闘とかと一緒にしたらあかんよ！

――先日の前田襲撃事件について、いろいろと聞きたいんですけど。話せない話も多いとは思いますけど（笑）。

坂田　そうだね（笑）。ただ、ハッキリ言って今回の事件は、小川（直也）選手と橋本（真也）選手が乱闘とかやってたでしょ？　プロレスファンも格闘技ファンもあんな騒ぎと一緒にしたらあかんよ。だいたいこんなので試合とか成り立つわけないじゃん。こんなので試合したら、俺らも新日本とかと一緒だよね。

――実際にそういう風な見方をしてる人もいるんですよね。

坂田　中にはいるでしょうね。だからそういう意味では、とうとう起こったかっていう感じだけどね。でも、それが当たり前のことのようになったらそれこそ大変なことになるからね。まあ、油断って言ったら油断だろうけど、まさかねぇ。

――まさかでしたよね。当日は坂田さんは高阪（剛）さんのセコンドについてましたから、常に前田（日明）さんと一緒にいるってわけにもいかなかったでしょうからね。

坂田　それがいいのかどうかわからないけど、付き人とかそういうのにしても、昔の古き良き時代の伝統みたいのがだんだん崩れてきてるからさ。今時ピッタリくっついている付き人なんてなかなかいないですから。そういう意味では不意を突かれたというか、油断したなってところはありますね。後で聞いたら、ボクと佐竹（雅昭）さんとモーリス（・スミス）が話をしてて、それが捌けて、前田さんが1人になってるときに安生（洋二）さんが来たって言うから。う～ん……とか思うよね。

――ボクは、たまたま前田さんの近くにいたんですよ。それで誰かリングス勢はいないのかって思ったんですけどね。

坂田　逆に、いたら大変ですよ！

――坂田さんをはじめ、血の気が多い選手が多いですからね。

坂田　田村（潔司）さんに言われましたけど、「お前がその場にいなくて良かった」って（苦笑）。

――確かに今以上に大騒動になってたでしょうからね。安生さんが前田さんを殴ったときは、坂田さんは2階の控室に行ってたみたいですね。

坂田　そうそう。試合の途中に一回控室に戻ったら、お金とかも全部置いてあるのに誰もいないからさ、ちょっと嫌だなって思って、俺は全部カバンにしまったりしてたんだよ。それで、汗だくになってるから顔とか洗ったりしててね。

――そしたら外が騒がしかったと？

坂田　バックステージに歩いて行ったら、みんなが前田さんがいたところを取り囲んでるから、なんだろと思って。いつもなら前田さんは頭一つ飛び出てるから、すぐわかるんだけど「あれ、いないな？」って思って、近くに行ったらモーリスがしゃがんでるから「どうしたの？」って、そしたら前田さんが倒れてたから。

――倒れている前田さんを見るまで何があったかわからなかったわけですね？

坂田　そうそう。ただ、俺は1人だけ勘違いしてたっていうか、わけがわからぬままに安生さんを追いかけていって、控室で話を聞いてたんだよね。奥に安生さんがいて「どういうこと？」って聞いたら、「ごめんなさい、ごめんなさい」って言うから、「だから、どういうこと？」って聞いたら、近くにいた山本（喧一）が「いままでの蓄積ですよ」って言ってるから、「なにを！」とか思って。なにを言ったかは覚えてないけど、安生さんは「俺は何年間も中傷されたり、小突かれて、どうのこうの」って言うからさ。俺は安生さんが前田さんになんかを言って、前田さんも言い返して、それでブン殴っちゃったのかなと思ったんですよ。その時点では、いきなり走ってきて後ろから不意打ち喰らわしたとかはなにも知らないから。そうやって謝られたり、「ごめんなさい」って言われて、しかも業界の先輩だと思ってるし、控室に入っていったときも、ちょっと冷静にならなきゃと思ってたから、襲いかかれるわけがないじゃないですか。それで安生さんには、「取りあえず、この場は帰って下さい」って言って控室から出たら、誰かが、「うしろからブン殴った」って言って。「えっ！」と思って、それからもう一回控室に入ろうとしたらカギが掛かっててもうダメだったからね。控室を出たらマスコミが青ざめた顔して、俺に「どうなってるんですか？」って聞くから、「どうもこうもねえだろ」って思って。みんなカメラ構えて待ってたもんね。

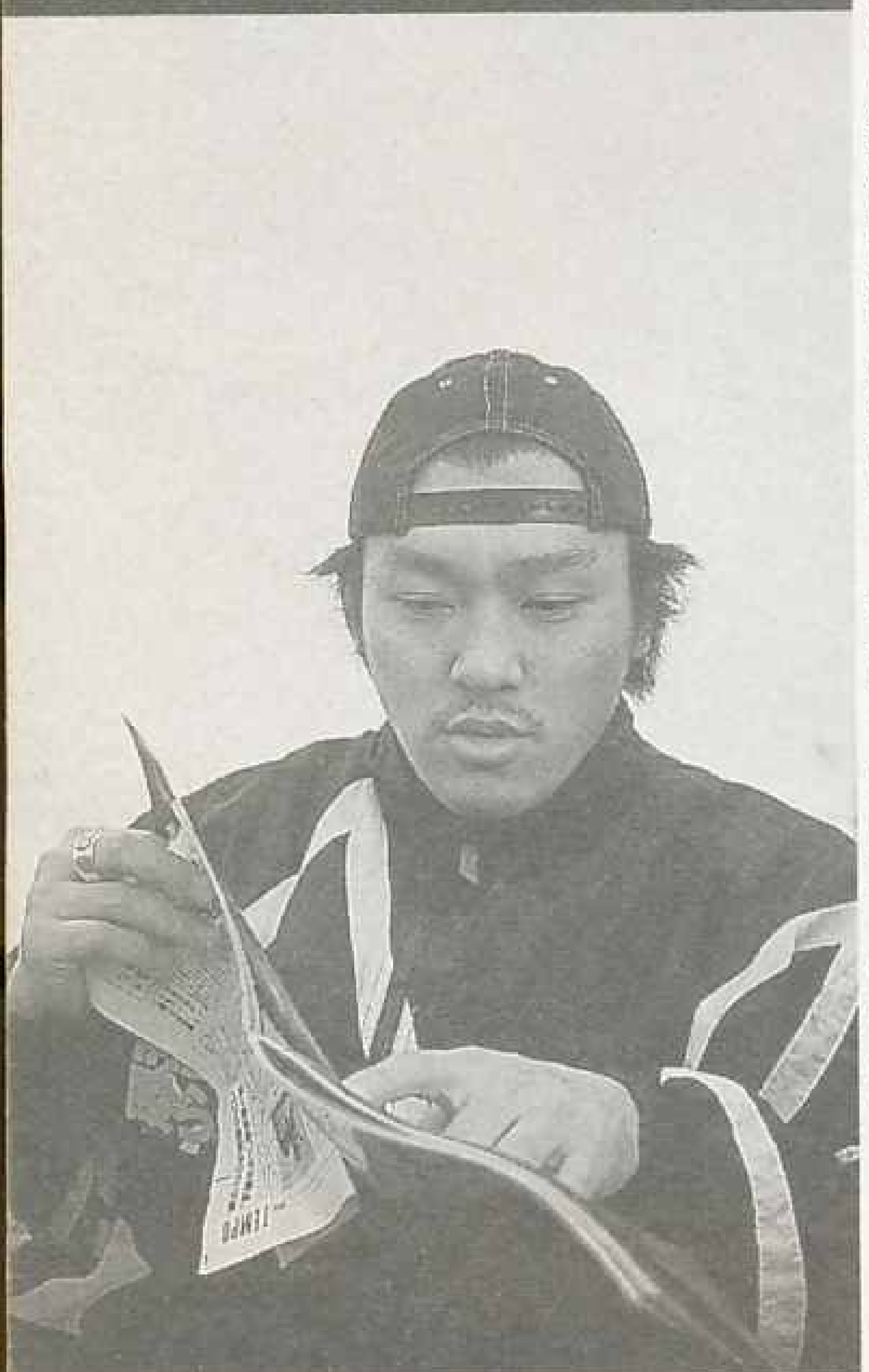
――逆に、なんで坂田さんがパンクラスの控室から出て来るんだと思ってた人が結構いたみたいですからね。インターネットの第一報で「坂田がパンクラスの控室にいた」っていう書き込みもありましたから。

坂田　ふざけんなよ！　誰だよそれは。許さないぞ!!

――でも、坂田さんが現場にいたら、ただじゃ済まなかったですよね。

坂田　いいことではないけど、間違いなく今よりはひどくなってるでしょうね。うしろからっていうのを見て、誰が黙ってるんですか！　そんなことを言ったら「なんでマスコミのヤツらが止めねえんだ」ってな





安生の前田襲撃写真が表紙の『ゴング』を読んでいくうちに、当日の様子が甦ってきたのか、次第に熱い口調＆表情になった坂田。事件が事件だけに掲載できない話もたくさん飛び出したが、この怒りをトーナメントでぶつけてもらいたいものだ。

WATARU SAKATA





前田さんを嫌いな連中は知ってたんだろうね

るけどさ、やっぱり俺らは体もデカいし正直言ったらみんな怖いと思うよ。

――いや、ホントに怖かったですよ。

坂田　例えばさ、「何か起こる」っていう確かな情報があったら言って欲しかったよね。俺らも「何か起こるぞ」って言われたぐらいじゃ、前田さんにそういう危険なことが迫ってるとは気づかなかったかもしれないけど、そういう情報を聞いてた人がいたらホント言って欲しかったよね。

――聞いてたら言ってましたけど、ウチには情報は入って来てなかったですから。

坂田　でもあの事件では、誰を信じていいのかわからなくなってきたよ。前田さんを嫌いな連中は知ってたんだろうね。

――喜んでた人もいたみたいですからね。

坂田　そうみたいだね。それで、安生さんとかみんな消えたときに、誰かが「一発で失神ですよ。ワハハハ！」って笑ってたとか後になって聞こえてきたしね。「一発で」ってうしろからアゴ殴ってんだよ！　アホかよ！　ウチのイメージは悪いのかもしれないけど……、でもやっぱり今になって考えると、控室で安生さんを逃がしたのはまずかったかなって思うよ。こういうことがあると、この先何かがあって、第三者が入ってわだかまりなく絡めるようなイベントがあったとしても、その場にいることも嫌だし、普段はそういうことを口にしない高阪（剛）でさえ「UFCはUFCで別だけど、リング上以外でゴタゴタがあるところとは関わりたくない」って言ってるし。

――それで、その日はヤマケンさんの爆弾発言もあったわけですけど？

坂田　優勝したのは良かったんじゃないの。ただ、あんまり人のことを言いたくないけど、俺にしても、金原さんにしても、俺の近くで見てた某団体の選手とかも（笑）、あんな試合をしてよくあんなマイクアピールができるなって笑ってたよ。俺ももっと早くケリつければいいんじゃないかって思ったけどね。試合を見てた人は、みんなそう思ってるんじゃない。

――内容はともあれ結果を出したことに関しては評価してるわけですよね。

坂田　2回勝って優勝したってことはやっぱり大したもんだと思いますよ。

――その後の一言が、リングス的には引っかかってくるわけですよね。

坂田　だけど、例えばそこで結果を出してどうのこうのって言ったからって、そこまで持っていくのは自分の力が必要なんですよ。だからリングスにいた時にアイツが我慢が出来なかったことがいっぱいあったのかもしれないけど、結局、前田さんがそういう試練を出してるわけですよ。例えば、リー・ハスデルとかウィリー・ピータースもそうだし、結局クリアしてないわけですよ。ルールが難しいとかね、それは金原さんも最初は言ってたよ。だけど金原さんはルールも試練もクリアしてるよ。

――確かに金原さんは結果を出してますし、それにいまでもリングスルールは難しいって言ってますからね。

坂田　俺も難しいと思うもん。やっぱりクリアしてない人間があいうこと言っても、こっちには伝わらないですよ。ファンは面白がるしれないけど。でも結局さ、アイツは話が長いから聞きたくないんだよ（笑）。それに、山本もあんなこと言ったって前田さんはアイツのことを何も悪く言ってないですよ。

――前田さんが、よく言ってるのはヤマケンさんの頭の病気のことですよね。

坂田　それもそれで、ちょっとしつこいんだけどさ（笑）。前田さんも「困ったもんやな、アイツ」ぐらいしか言ってないし。アイツは成り上がるとか言ってたじゃん。

成り上がるんだったら、徹底的に、試合して成り上がれよって感じですよ。

――田村さんの名前を出すなら、俺がやってやるっていうのはないんですか?

坂田　全く知らない人間だったらやると思うけど、変に知ってしまってるし、一時は仲間としてやってた人間だし。だから、そういうことを言った後は、試合を組まれたとしてもやりにくいよね。闘ってなにが残るの?って感じだよね。それに、Uインター時代がどうのこうのって、過去のことばっかり気にしてどうすんの!　それじゃ何も新しいモノは生まれないよ。これから自分たちで作って行こうと思ってるんだったらさ、自分たちの力でそういうものを越えないとさ。ハッキリ言って、いままで田村さんが倒してきた人間と、いま山本が闘ってちゃんとやれるのかって。例えば山本が田村さんとやって、勝ったとしたって誰も認めないよ。お山の大将だよ。俺は別に山本のことを悪く言ったりする気はないし、嫌いなわけでもないし、アイツの言わんとすることはわかるし。だからってあんなことして、なにもなるわけないじゃない。

――この辺で暗い話題はおいといて、トーナメントについて聞かせて下さい。坂田さんは既に相当気合い入ってますよね。

坂田　もちろん!

――会見でも坂田さんは「ブラジル人をブッ倒したい!」って言ってましたけど。

坂田　でも、お金が一番欲しいですよ(笑)。マンションの頭金にしようかなと思ってるから。

――アハハハハ!　Aブロックを見た率直な感想を聞かせて下さい?

坂田　一回試合を見れたからBブロックで良かったなあって思いましたね。俺はどっちかといったらスロースターで相手を見ていくタイプなんですけど、時間的にもそれどころじゃないと思うよ。そういう意味では選手のポテンシャルっていうかさ、そういうのを一気に引き出さなきゃいけないし。そういう意味では試合展開も早いし、面白いんじゃないですか。

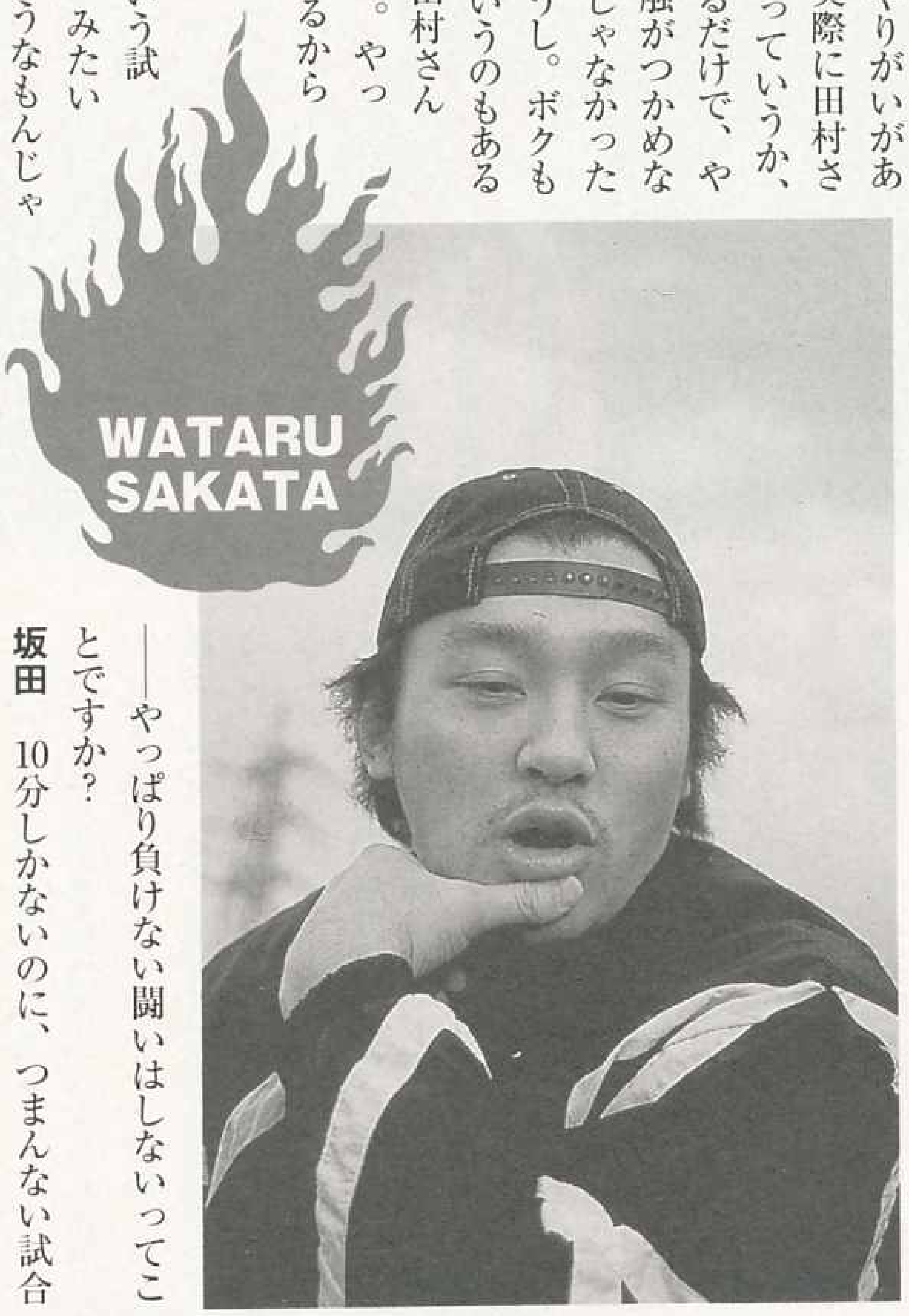
――ファン、マスコミ問わず、評判は凄くいいですよね。田村さんとかは、本来のリングスルールの試合でっていうのがあるでしょうから、そう言われたら面白くないんでしょうけど、坂田さん的にはあのルールが面白いって言われれば?

坂田　やってみて、やりがいがあればいいと思うし。実際に田村さんも乗り気じゃないっていうか、ルールに戸惑いがあるだけで、やるまではそういう感触がつかめないと思うし、乗り気じゃなかったら練習もしないだろうし。ボクも練習相手がいないというのもあるんですけど、ずっと田村さんと練習してますから。やっぱり田村さんも、やるからには勝たなきゃって思ってるから練習するんだろうし。ああいう試合は、「なんかねぇ」みたいな感じで、やれるようなもんじゃないと思いますよ。そういう意味では、田村さんも気合いが入ってるしね。

――Aブロックでリングスジャパン勢は全滅しちゃったわけですけど?

坂田　それよりね、(イリューヒン・)ミーシャしか残らなかったから、日本人とかそういうんじゃなくて、リングスとして、これはなんとしても頑張らなきゃいかんなと思いましたね。

――目に付いた選手は誰かいましたか?



坂田　アントニオ・ノゲイラは強いですね。やっぱり情報不足っていうのもあると思うんですけど、まだまだ世界には強いのがいるなと思って。ブラッド・コーラーとかも山本さんが負ける相手じゃなかったですけど、あのパンチを見た瞬間「このパンチはやばいな」って思ったしね。

――坂田さんは、噂では、強くて名のある選手とあたるみたいですけど?

坂田　まあ、その通りになるんだったらね。試合になって俺が不利だとわかっても「刺し違えても絶対にここで止めてやる!」って気持ちですから。それだけです。

――やっぱり負けない闘いはしないってことですか?

坂田　10分しかないのに、つまんない試合なんて出来ないでしょ?　あのルールは負けない闘いをしたら確実に判定で負けるんで、それは出来ないですね。それをやるヤツはよっぽど根性無しですよ。まあ1回戦で負けたら2月も試合ないだろうし頑張りますよ。やっぱり試合しないと、俺らはいる意味がないからね。

――坂田さん的にはどのくらいの試合間隔がいいわけですか。月イチとかでも全然OKなんですか?

坂田　月イチはね、ちょっと怪我が直らないからね。山本もそんなようなこと言ってたね。その話はわかるけど、だけど、それはこうやって改善されてきてるんだから。アイツは目の前に出されたそういうものをを乗り越えられないんだろうね。

――でも、ヤマケンさんが言ってることで、坂田さんも納得すると思うのは、「オッサンのインタビューはもうええねん。もっと若いヤツの話を載せなきゃダメなんや!」っていう発言なんですけど。

坂田　それはいいこと言ってると思いますよ(笑)。ただ、ボクらにも責任はあると思いますよ。確かに、ボクらがその輝きを出してないのかもしれないけど、いまさら前田さんの講演会の様子を何ページだとか、ちらっと告知だとかだったら構わないと思うけど……(大きな声で)あ、ダメじゃん!　『紙プロ』も前田さんのトークショーとかやってんじゃん!

――い、いや、だからヤマケンさんにも、ウチに対して言われてる様な気がしましたから。でも、いまだに前田さんのインタビューは毎回一番反響がありますからね。

坂田　でもね、大仁田はやめようよ。ちょっと『紙プロ』にはガッカリした!

――ウチは、割とU系寄りの雑誌と思われてるんで、「大仁田は出すな!」っていう声が多いかなって思ってたら、逆に面白いって声が多かったですから。

坂田　どっち寄りっていうのは関係ナシですよ。でも誰がインタビューしたの?

――ボ、ボクがやりました。

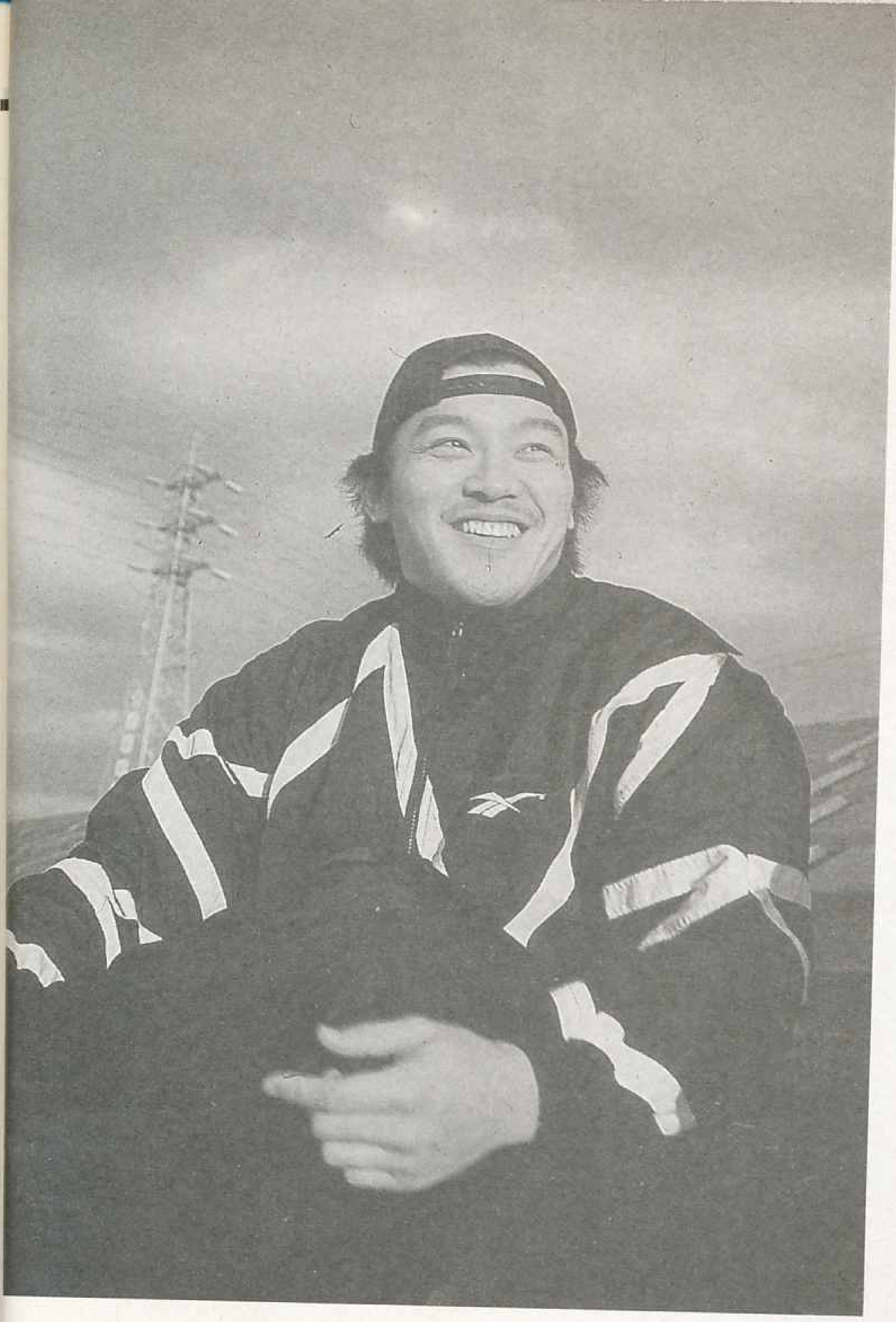
坂田　(脇腹にパンチを入れる)ボコッ!

――ホゲッ!　殴んないで下さいよぉ!　ボクは真鍋アナじゃないんですから。

坂田　なんで大仁田なんかやるんだよ!

――好きなんですよ!　坂田さんは、弱いレスラーは認められないんですか?

大仁田？ 前田さんじゃないけど、寝言は寝て言えだよ！



坂田　そういう問題じゃないよ。

——でも客を呼べるってことはプロとして凄いことじゃないですか？　大仁田さんが出ると視聴率もグンと上がるっていうし。大仁田劇場も面白いですよ。

坂田　う〜ん……そういうのは確かにありだと思うけど、だけど、アイツはおかしいよ。品がない！

——品がない（笑）。なにがそんなに気に入らないんですか？

坂田　むさ苦しい！

——むさ苦しいプロレスラーっていっぱいいるじゃないですか？

坂田　そうかぁ。まあどっちかなんだろうね。俺がたまたまテレビ見たら、大仁田が新日に出てて、「へぇ、へぇ、へぇ、なんとかじゃあ！」って言ってたけどさ。

——見てるんじゃないですか？（笑）。

坂田　たまたまだよ。見てて恥ずかしくなっちゃうよ。それこそさ、前田さんじゃないけど、寝言は寝て言えだよ！

——アハハハ！　前田イズムだ（笑）。

坂田　そういうところでは大仁田には罪がないかもしれないけど、新日にはガッカリしたね。商売を成り立たせなきゃいけないだろうけど。それで、なんか今度は長州さんが復帰するんでしょ？

——そうなりそうですね。

WATARU SAKATA

坂田　やめてよ。そういうことするから、今度の前田さんの事件だって「プロレスのそういうアレでしょ？」ってことになっちゃうんだよ。だから、俺はプロのレスラーですけど、プロレスラーでないですからね。でもプロレスラーじゃないけど、今度のトーナメントは無差別すぎ！（笑）。俺は会場に行って初めて知ったんだけど、生ズネで蹴っていいっていうのは。体重差があるヤツが蹴ったらどうなるの。こっちの足折れちゃうよ！

——田村さんもそれは言ってましたね。やっぱり無差別過ぎですか？（笑）。

坂田　だって俺と田村さんは最軽量になるでしょ。Bブロックで出るリングスのネットワークの選手だけでも。

——でも（ビターゼ・）タリエル対坂田戦は見たいですねぇ。人ごとだから言いますけど（笑）。

坂田　ハッハッハッ！　今回のトーナメントは高額な賞金が懸かってるから、そういう統一性を出さなければいけないけど、例えば次回やるとしたら、いろいろ変わってくると思うけどね。ただ今回はホントに無差別もいいとこだよ！　まあでもそういうとこで勝ち上がっていけば名前に箔が付くんじゃないですか。

——無差別過ぎを乗り越えて、頑張って賞金稼ぎして下さい（笑）。

坂田　外人にしても、特に柔術のヤツらは、よく体重が違うってうるさく言うけど、総額で5千万ぐらいでしょ。みんな出てこいよって感じですよ。こういう賞金が懸かることによって、今まで格闘技を見なかったヤツとかにも目がいってるということでは良かったと思うしね。漠然と何も知らないヤツが、80キロぐらいしかない選手がタリエルみたいな選手に勝ったら「なんじゃ、コイツは？」って思うでしょ。そういう意味では格闘技の醍醐味があるんじゃないですか。

——それはありますよね。まあ、いろいろ嫌な事も続きましたけども、最後ぐらいは、Bブロックのトーナメントに向けて景気のいいことをお願いします！

坂田　俺が優勝したらさ、札束くわえた写真を表紙にして！　パンツにも札束入れるからさ（笑）。

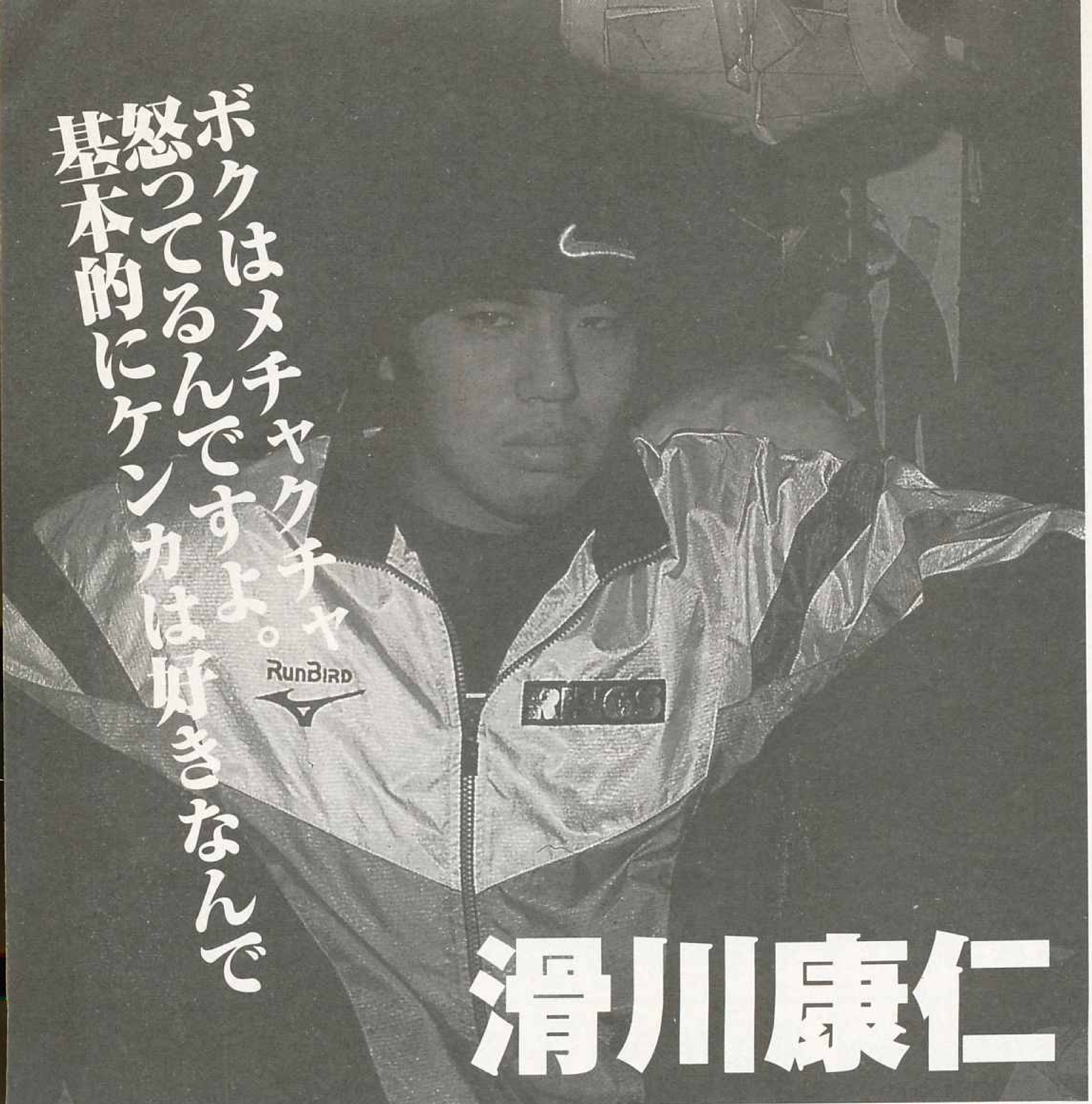
——アハハハハ！　マグナムTOKYOじゃないんですから（笑）。わかりました。優勝したら表紙にしますから、坂田さんじゃなく、その札束を（笑）。頑張って下さい！

【99年11月18日、前田道場にて収録】



【さかた・わたる】■S48・3・11、愛知県出身。持ち前の気の強さで他流試合にも積極的に討って出るリングスの特攻隊長。ズバリ、トーナメントBブロックの要注意人物だ！

リングス激震！
前田襲撃事件＆山喧爆弾発言＆TK病院送り
11・14「UFC-J」NK大会に足を運んだリングス勢の証言!!



滑川康仁
ボクはメチャクチャ怒ってるんですよ。基本的にケンカは好きなんで

—左手のギブスはどうしたんですか？

滑川　この間のトーナメントの試合前に、リー（・ハスデル）とスパーリングしてて靭帯切っちゃって（苦笑）。

—試合もないのに負傷してしまったわけですね。それも第0試合で（笑）。

滑川　みんなにバカにされてます（苦笑）。自分はBブロックのトーナメントにムリヤリ出ちゃおうかなって考えてたんですけど。靭帯だけじゃなく骨も脱臼して浮いてきちゃって。面倒くさい（笑）。

—やっちゃいましたね（笑）。今日は、前田襲撃事件の話を聞きたいんですけど、今回の事件については率直に言ってどう思いましたか？

滑川　うしろから殴るっていうのは、やり方が格闘家じゃないッスよね。正面から言い合いして殴るんならまだわかるんですけど、あれは良くないですよね。

—確かにそうですよね。

滑川　それで、その時ボクは、腕が痛くて、用事もあったんでその場にいれなかったんですよ。だから、最初に話を聞いたときは何のことか全然わからなくて、何で試合もしてないのに前田さんが病院に向かってるんだろうって思ったんですよ。そしたらまた電話が掛かってきて、「前田さんが安生さんに殴られた」とか言ってて。だから、その夜は自分がいなかったことが悔しくて情けなくて眠れなかったです。

—前田さんを心配して眠れなかったっていうのもあったでしょうね。

滑川　もちろんそうですよ！

—それはよくわかります。安生さんは、業界的には先輩ですけど、自分の会社の社長が殴られてるわけですから、安生さんに対しても腹が立つわけですよね。

滑川　あぁ、それはもちろん！　自分自身にも腹が立ってるし、それで、やっぱりボクはメチャメチャ怒ってるんですよ。基本的にケンカは好きなんで……好きなんですけど、こうなんていうか、ボクは人が変わると攻撃的になるんですけど、普段は世界中の人々が平和になることを祈ってるんですよ。でも、前田さんが殴られたとこにいたら、自分では力が劣っていても飛びかかっていったかもしれませんね。そんくらいですかね。

—それはリングスファンにとっても頼もしい発言だと思いますよ。

滑川　そうッスかね。でもその日は、高阪さんが負けてしまったんでショックでしたね。それとヤマケンさんがあんなこと言って。最後には前田さんの事件もあったし、ホントに最悪でしたね。

—リングス勢にとっては波乱の一日になってしまいましたけど、ヤマケンさんの発言についてはどう思ったんですか？

滑川　ヤマケンさんはアルティメットでは結果を出したけど、リングスでは結果を出してないでしょう。結果出してないのに、言い訳だと思いますよ。でもボクはあの人は好きだったんですですよ。チャンコのレシピをノー

YASUHITO NAMEKAWA



10・28代々木大会の試合前、アニマルと記念撮影をしてご機嫌だった滑川だが、その後、金原、ハスデルと立て続けてのスパーリングで左手を負傷。とんだ大怪我を負ってしまった。

ボクは実績もないうちは強気なことはしゃべりたくないんで

トに何枚も書いて下さったり、腕のいいカイロプラティックの先生を紹介してくれたり、下の後輩がいない自分の立場も凄く理解してくれましたから。教えてもらった技術も身についてるし感謝してるんですよ。でも今回のことと話は違いますけどね。あの日の内容でもそんなこと言えるのかって内容でしたから。それに、なんか骨折されてたみたいですけど、『PRIDE.6』で松井選手とニュートン選手が闘って凄くいい試合でボクは感動したんですけど、ヤマケンさんは、あの試合に点数をつけてたみたいじゃないですか。だったら、どんなことがあっても何も言わせない試合をして欲しかったですね。ボクが言うのもなんですけど（苦笑）。

——ヤマケンさんは、田村さんに噛みついたわけですけど、リングスのチャンピオンをケナされるってことは、滑川さんにとっても面白くないわけですよね？

滑川　そうですね。もっとキャリアと実績があったらいろいろと言えると思うんですけど。なんも言えないッスね（苦笑）。ボクは実績もないうちは強気なことはしゃべりたくないっていうのがポリシーっていうか、結果も出してないのに、そういうこと言えないし。強気なことは口があるんで何でも言えるんですけど（苦笑）。実際しゃべれないッスよね。ただ許せないって気持ちはあります。

——滑川さんは、ヤマケンさんとは試合してみたいと思います？

滑川　やれるならやってみたいですね。今回の前田さんの事件でも、最初はリング上で解決できればいいと思ったんですけど、とてもそういうふうになりそうにないので、今はもうやりたくないッスね。やっぱりボクはリングスが好きなんでリングスの中でやっていきたいです。

——滑川さんはリングスに対する愛着が人一倍ありそうですからね。

滑川　あぁ、ありますね。

——トーナメントが始まったんで、しばらく試合から遠ざかりそうですけど、ケガもしてるし（笑）。でもトーナメント出場の可能性もまだ残ってるんですよね？

滑川　ボクですか？　そういう話は最初っからないッスからね（笑）。ただ来年2月にオランダ大会に出してくれるって聞いてるんで凄い楽しみにしてるんですよ。まだ正式には決まってないですけど、（ウィリー・）ピータースとやれるって聞いてるんで。ボクは絶対勝ちますから！　いま海外で3連敗中なんで（苦笑）。それにいろんな怒りが溜まってるんで、今度は絶対勝ちます！

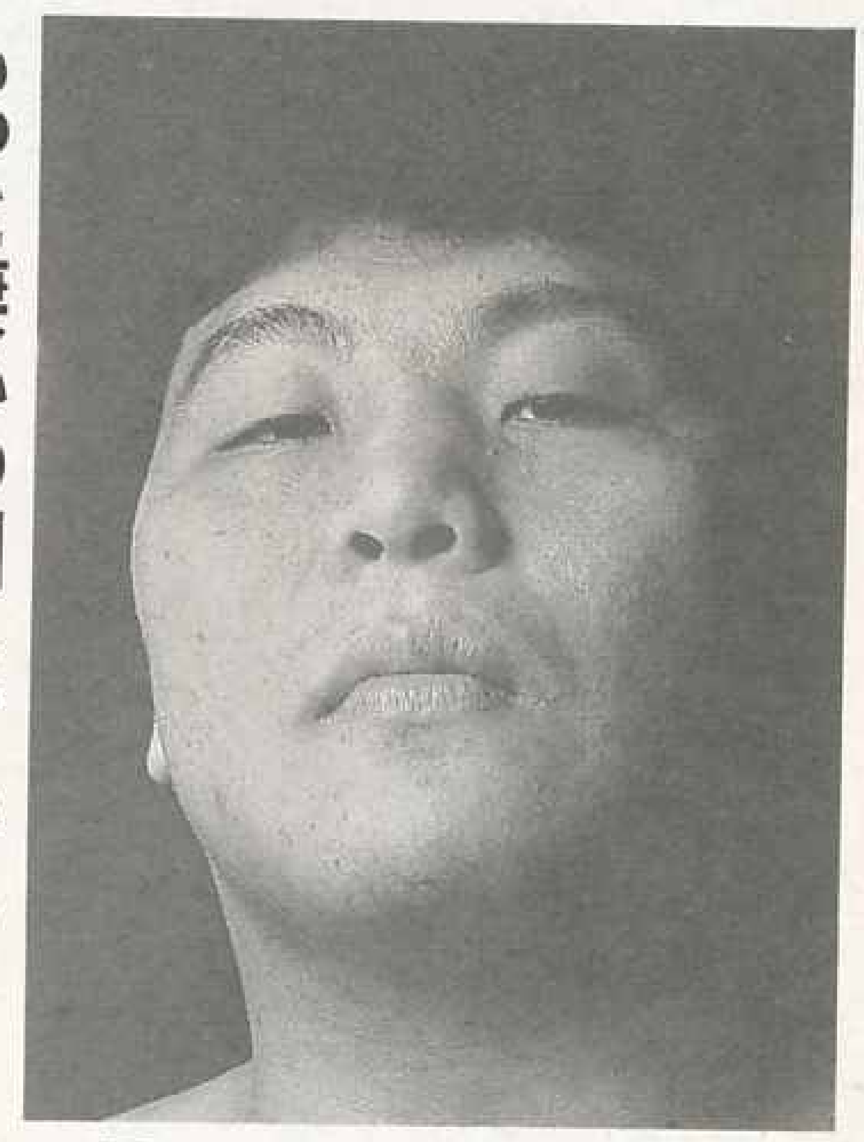
【99年11月18日、前田道場にて収録】

YASUHITO NAMEKAWA

世紀末SURPRISE



金原Tシャツを着て、エンセンと並んで観戦していた金原。ヤマケンが決勝戦でピンチに陥ると、いても立ってもいられずオクタゴンに駆け寄り「殴れ！」と指示をとばしていた。



もっと凄いの倒してから言って下さいって感じだよね

金原弘光

（山喧がトーナメント優勝を決め、マイクアピールを行った直後、金原を直撃した）

——ヤマケンさんの試合はどうでしたか？

金原　あの試合は、あんな爆弾発言できるような試合じゃないでしょう（苦笑）。あれは完全に負けてる試合ですよ。まあ、優勝したことについては良かったと思いますけどね。

——試合後のマイクアピールは？

金原　（怒り気味で）アレは良くないね。本人に向かって言えばって感じだよね。いままで前田さんが猪木さんに噛みついたりしたのも、田村さんが高田さんに噛みついたときだって、本人の前で言ってるわけだし。いないとこで言ってもしょうがないでしょ。でも、あの枠で勝ったぐらいでそんなこと言えないよ。もっと凄いの倒してから言って下さいって感じだよね。だって山本はリングスで結果出してないからね。……いま言ったこと書くの？

——問題ないですよね？

金原　俺が言う分には別に問題ないんじゃない？　山本も俺には「なに！」って言えないでしょう（笑）。それよりヘンダーソン戦の判定のこと書いて下さいよ。あれは、延長か、俺の勝ちですよ。これだけは書いておいて下さいよぉ！

HIROMITSU KANEHARA

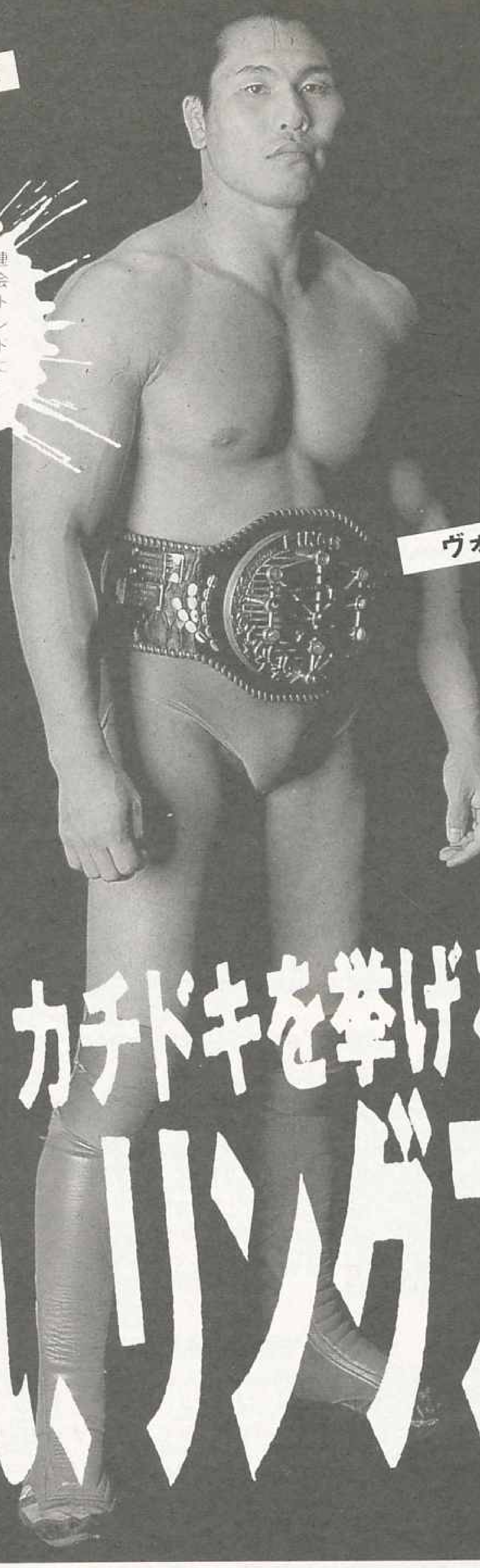
和田良覚レフェリー

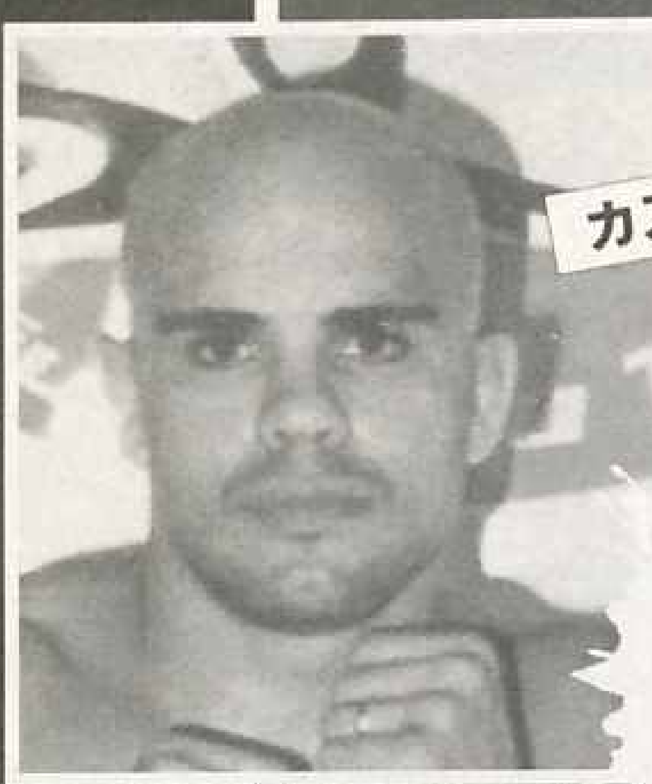


ボクはその日は子供を連れていってて、メインの1Rが終わったら勝負が見えたから子供を寝かしに会場の外へ出たんです。帰ってきたら前田さんが倒れてて、安ちゃん（安生）に後ろから殴られたっていうからビックリしましたね。その日はボクは安ちゃんや（山本）喧一とも話してるんですけど、まさかあんなことが起こるとは思いませんでしたから。安ちゃんとは付き合い長いけど、残念というか許されない行為ですよ。あの時ボクが前田さんのそばにいて、それによって子供に危害が加わったら、安ちゃんだろうが誰であろうが殺しに行きますから。でもホント残念ですね。

REFEREE RYOKAKU WADA

リングス・オープン・トーナメントの“激戦区”Bブロック。12・22大阪で開催！





カステロ・ブランコ

97、98、99年と3年連続ブラジリアン柔術大会を制し、アブソリュート大会での1・ホフチャンチン戦では35分闘ってドローという、あからさまに強そうな経歴を持つ男　優勝候補に決まってる



ヘンゾ・グレイシー

アレクに勝った勢いそのままに、遂にリングス初登場を果たすヘンゾ・グレイシー　アレク戦では85キロ契約を突きつけたヘンゾが、ヘビー級王国リングスでどのような闘いを見せるのか!?



ビターゼ・タリエル

誰もが思うことかも知れないが、あのタリエルの正拳が顔面をぶち抜いたらどうなるのか？　興味はその一点に集中されるだろう　それ以前に合うグローブはあるのか？　そちらも注目



ヴォルク・ハン

リングス創生期から飽きるほど参戦しているにも関わらず、未だに真の実力がベールに包まれていそうなハン　遂に戦場の殺し技解禁か!?　ある意味、今大会再注目選手と言える

カザムキを変えろ！ カチドキを挙げろ！

立ち上がれ、リングス！



“戦犯”ヤマケンは現れるか!?

10・28代々木（Aブロック）は一部で「リングス史上最高の興行」とまで呼ばれ、爆発的な盛り上がりで幕を開けた「キング・オブ・キングス」。Bブロックはメンバーが一層充実し、期待度はMAXに達している。

しかし、いまリングスに逆風が吹いているのもまた事実である。Aブロックは、リングス勢がほぼ全滅。11・14のUFC-JではTKがまさかのKO負け。ヤマケンはマイクで田村を偽善者呼ばわり、そしてトドメが前田襲撃事件である。

そんな中行われるトーナメントBブロック。しかし言い換えれば、これほど注目すべき大会はない。

大注目選手はもちろん田村潔司。ヤマケンが来場予告をする中、「USタイルは絶対になくさない」という田村がどんな闘いを見せるのか？

そしてある意味田村以上に注目なのは、ハンとタリエルだ。強者としての幻想ではリングスナンバー1の彼らにこそ他流試合で勝って欲しい。他流試合と言えば坂田にも注目。「断言します！　やります、安生（ヤマケン、パンクラスでも可）と！」なんて宣言したら最高なんだが…。

一躍優勝候補に躍り出た、アントニオ・ノゲイラを始めとするAブロックで大旋風を巻き起こした他流派選手もさらにグレード・アップ。ヘンゾ参戦でグレイシー狩りというテーマまで内包している。

逆風と言えども、逆境に強いのも前田イズム。ならば今こそ、それを見せるときだ。カザムキを変えろ、カチドキを挙げろ！　立ち上がれ、リングス！

（ガンツ）

ワールドメガバトル・オープントーナメント　KING OF KINGS　Bブロック1・2回戦

日時／12月22日(水)会場／大阪府立体育会館

●入場料　ロイヤルリングサイド……20.000円　アリーナリングサイド……15.000円　リングサイド……10.000円　アリーナSS……6.000円
スタンドS……7.000円　スタンドA……5.000円　スタンドB……3.000円　学生特別優待席A……2.000円　学生特別優待席B……1.000円
※学生特別優待席は高校生以下、チケットぴあのみで販売（購入時に学生証の提示が必要）。

●チケット販売所　チケットぴあ……06－6363－9999　ローソンチケット……06－6369－6633（Lコード57049）他

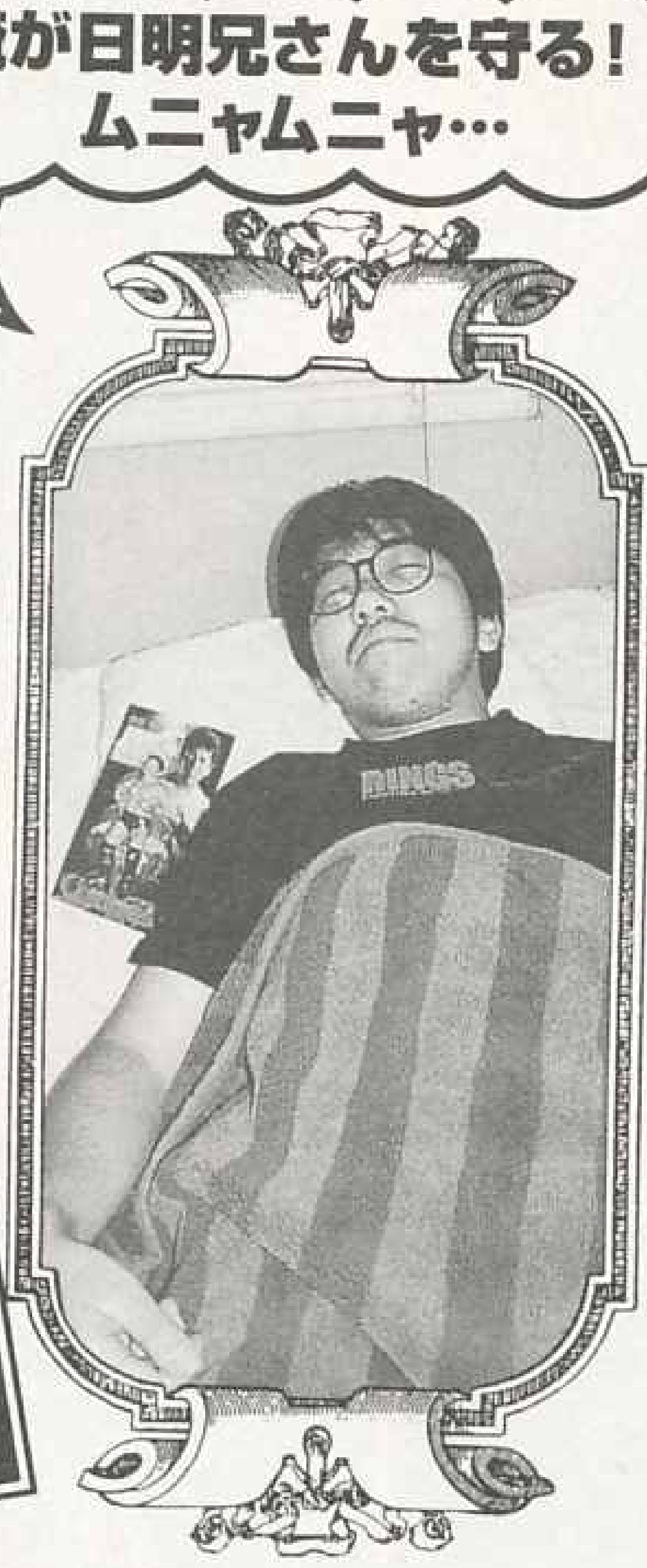
●お問い合せ　リングス大阪インフォメーション……06－6364－9115　WOWOW情報ダイヤル（24Hテープ案内）……045－683－8009

紙のプロレス RADICAL Back Number Information

その弐
堀江ガンツ（助っ人）

俺が日明兄さんを守る！
ムニャムニャ…

「紙プロ記者列伝」
寝ている間も前田フィギュアと一緒。I♥RINGSな男



※『紙のプロレスRADICAL』創刊号からNO.4、NO.6、NO.8は完売しました。

No.21 ★恐怖のプロレス大魔王降臨！



小川直也独占ロングインタビュー
『紙プロRADICAL』初登場じゃあ！大仁田厚
前田日明総帥激白！／本誌独占！　発見八木淳子
『S多重アリバイ』第11弾鶴見五郎／G・アイブル／R・フィエート
本誌先取りB・コーラー／桜庭和志IN青空プロレス道場
エンセン井上／山本喧一／高瀬大樹／アレクサンダー大塚
モハメド・ヨネ／CIMA／田中健一／平直行／コーラ・パワーズ
本誌独占G・サスケ死す！

No.5 ★すべてはここから始まった！



1度目のヒクソン戦直前高田延彦インタビュー
猪木、Puffyほか有名人33人が
高田vsヒクソンを大予想
ドン荒川vs藤原喜明超過激対談!
前田日明の『人生は語らず』
世界格闘技連盟を語りたおす!
佐山聡（タイガーキング）
長井満也／柳澤龍志／ディック東郷
愚乱・浪花／ザ・グレート・サスケ
長与千種／ライオネス飛鳥
ビクター・クルーガー
パンクラス旧合宿所誌上大公開！

No.7 ★特集「反骨の剣」



田村潔司ロングインタビュー
読者もシビレまくり！
黒いパンツの心意気・激白木村健悟
大型不良新人！中原奈々（現在失踪中）
「凶器しか使わないプロレスをしたい！」
みちプロ経営危機の真実を
ザ・グレート・サスケが独占告白！
……ああ、好評すぎて怖い。
寸止めなしの殺戮連載！
前田日明の「人生は語らず」
冨宅飛駈／垣原賢人／モハメド・ヨネ
冬木弘道／MEN'Sテイオー
タンク・アボット

No.9 ★「アントニオ猪木・闘魂連鎖！無礼講大特集!!」



前田日明／ザ・グレート・サスケ／高田文夫
春一番／ターザン山本／石川雄規
衝撃のさらばプロレスマスコミ宣言
業界病を吹き飛ばせ座談会!!
見てみぃ、この面ッ!!
高阪剛ロングインタビュー
前田日明ラス前ロングインタビュー＆
炸裂人生相談
日プロOB吉村道明＆ユセフトルコ＆
遠藤幸吉＆駿河海
大反響!!『格闘家からみたプロレス！』
朝日昇★谷津嘉章／佐野なおき
下田美馬＆三田英津子

No.10 ★特集「灼熱の地殻変動'98」



大和魂は連鎖する!!
前田日明vsエンセン井上スクープ対談！
とにかく元気！高田延彦ロングインタビュー
またもや大爆発！
谷津嘉章インタビュー第2弾！
社長＆会長対談
ザ・グレート・サスケVS松永高司
『紙のプレイボーイ』発進!!
ダイアナ＆宮内美穂
ターザン山本のプロレスマスコミ表紙批評!!
『紙のプロレススーパースター列伝』
北沢幹之★冬木弘道（金村ゆきひろ＆伊藤豪）
ロングインタビュー

No.11 ★特集「格闘Viagra'98」



高田延彦vsエンセン井上エネルギー
エクスチャンジ烈談!!
前田日明ラストマッチ後初インタビュー
ターザン山本のプロレスマスコミ表紙批評！
「格闘か？芸術か？それとも格闘芸術か!?」
佐山聡／スーパー宇宙パワー（木村浩一郎）
福田雅一
★ザ・グレート・カブキ／ダンプ松本
★バト両国進出記念石川雄規
トンパチ・マシンガンズ
★とうとう語られるSWSの真実
『S多重アリバイ』アポロ菅原

No.12 ★特集「格闘TEPODON!!'98」



2度目のヒクソン戦直前！
高田延彦ロングインタビュー
「プロレスファンよ踊れ！祭り囃子を鳴らせ!!」
浅草キッド登場
『S多重アリバイ』第2弾アポロ菅原
★桜庭和志／アレクサンダー大塚／山本健一
神取＆北尾／八木淳子／ダンプ松本
猪木イズム世界一決定戦
石川雄規＆ザ・グレート・サスケ
格闘王から相談王へ
前田日明人生相談「人生は語らず」!!
話題騒然!! What is　プロ格闘家？
菊田早苗＆郷野聡寛

No.13 ★特集「四角いジャングルRADICAL」



実写版『1・2の三四郎』降臨！
アレクサンダー大塚インタビュー
『10・11 PRIDE.4』とは何か？
ザマアミロ雑談会!!
高田延彦がヒクソン戦後の心中をリアルに語った!!
前田日明・エンセン井上が語る
『高田VSヒクソン戦』
谷津嘉章・島田裕二・浅草キッドが見た
『10.11 PRIDE.4』
大反響！『S多重アリバイ』第3弾
ケンドー・ナガサキ
★ボブ・バックランド／松永光弘
リッキー・フジ／堀辺正史

No.14 ★特集「格闘DREAM CAST」



前田日明独占ロングインタビュー
これがカレリンの発した言葉だ!!
山本美憂・山本聖子vs父・親子ゲンカ!?対談
連勝街道爆進中！金原弘光
RADICAL版　ゆく年くる年座談会
谷津嘉章のマット界、目ぇつぶって30秒!!
『高田道場1999！』
高田延彦／桜庭和志／佐野なおき
松井大二郎／豊永稔
『S多重トンパチ』第4弾　折原昌夫
★『虎の尾を踏む男たち'99』
小路晃／4代目タイガーマスク
村上一成／宇野薫

No.15 ★特集1「格闘MARS ATTACKS!」



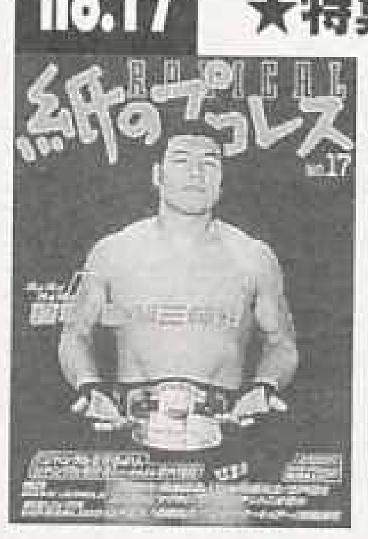
小川直也with.S.Sインタビュー
「佐山聡／4代目タイガーマスク
UFO襲来緊急座談会
★特集2「格闘LAST VOYAGE」
前田日明USA特訓を直撃！
アレキサンダー・カレリン／浅草キッド
アニマル浜口親子
★ジャイアント馬場追悼特集
本誌初登場！SASUKE
『語ろうマサ・サイトー！
『S多重アリバイ』2連発！
佐野なおき＆Mr.W

No.16 ★特集1「格闘ノストラダムス'99」



エンセン井上ロングインタビュー
田村潔司／坂田亘／高阪剛／山本喧一
村上一成／マーク・コールマン／石川雄規
ザ・グレート・サスケ
★特集2「それぞれの旅立ち'99」
アントニオ猪木ロングインタビュー
前田日明引退後初の独占ロングインタビュー！
大好評！「語ろう」シリーズ第2弾！
『語ろうジャンボ鶴田』
大反響！SWSを再検証せよ第7弾
『S多重アリバイ』石川孝志

No.17 ★特集1「格闘MAKE JUNGLE」



UFO襲撃三昧小川直也インタビュー
桜庭和志／高田延彦／アントニオ猪木
豊永稔／マグナムTOKYO／池田大輔
宮戸優光
★特集2「新生リングス
Bone&Blood」
前田日明／山本宜久／成瀬昌由
R・クートゥアー
★「タイガー・戸口／矢口壹琅／『怪物通信』
「ターザン山本さん、目を覚ましてください!!」
イベント炎上鎮火ドキュメント!!

No.18 ★特集「格闘STAR WARS」



カーウソン・グレイシー一派を壊滅!!
桜庭和志VIVAVIVAロングインタビュー
小川直也e-mailインタビュー
高田延彦／エンセン井上／イーゲン井上
小路晃＆宇野薫
格闘STAR WARS座談会
★『S多重アリバイ』第8弾 将軍KYワカマツ
「外人さん、いらっしゃ〜い」
F・シャムロック／G・グッドリッジ
R・グレイシー
『怪物通信』G・アイブル
『闘魂猪木塾とは何か？』

No.19 ★いま一度高田延彦を注視せよ！



マーク・ケアー戦直前
高田延彦インタビュー
リングス、パンクラスにも咆吼三昧!!小川直也
マット界の今後を前田日明CEOが激白！
『紙プロスーパースター列伝』ドン荒川
押忍!（敬礼）掣圏道、急速発進!! 佐山聡
エンセン井上／成瀬昌由
TARUwith AYAKA／宇野薫／A大塚
『怪物通信』4連発！
M・ケアー＆G・グッドリッジ＆
E・F・ブラガ＆G・メッツアー
上田馬之助／井上貴子／川口健次

No.20 ★人間UFO吠えまくる！小川直也インタビュー



独占!!　公開インタビュー前田日明
アレクサンダー大塚
高田延彦爆炎記者会見／佐山聡とは何か？
『語ろう藤波辰爾』／バス・ルッテン
『S多重アリバイ』第10弾ドン荒川
滑川康仁／カール・マレンコ／高阪剛
山本宜久／成瀬昌由／小路晃＆宇野薫
ケビン・ヤマザキ／内藤恒仁
ティト・オーティズ
敗者『紙プロ』追放試合！
ジャイ子vsトイレの大西さん（仮）

【バックナンバー申し込み方法】

●お申し込み方法は現金書留と郵便振替の2種類があります（バックナンバーは通販でしか取り扱っていません。書店では買えません）
●現金書留の場合は希望号数を書いた紙を同封し、
〒151−0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷3−11−3−702（株）ダブルクロス『RADICAL通販』係まで送って下さい。
●郵便振替の場合は用紙裏面の通信欄に希望号数を明記し、
00130−3−769154（株）ダブルクロスまで。
代金はNO.5〜NO.10=680円　NO.11〜NO.19=780円　NO.20=880円　NO.21=840円　送料1冊=310円
2冊=340円　3冊〜4冊=450円　5冊=520円　6冊以上=700円
●『紙のプロレスRADICAL』バックナンバー常備のえらい店
・アイドール新宿店・新宿ファイター・大山アメリカン・プロレスマニア館・チャンピオン東京・チャンピオン大阪・リングパレス・バディスラム・タコシェ・レッスル渋谷店・レッスル池袋店・書泉ブックマート・書泉ブックタワー・書泉グランデ・ヘラクレス和歌山駅前店・横浜"AO"CORNER・下北沢バンバンビガロ・ワールドスポーツプラザKINGS（池袋店・渋谷WEST店・新宿アルタ店・名古屋店・大阪店・札幌店・福岡店）

No.22 Main-Event



紙のプロレス RADICAL

1999
No.22
CONTENTS



Art Director
出田さん●San Ideta

Design
Two Three
ヒサくん●Kun Hisa
マツ●Matsu
村松さん●San Muramatsu
セッキー●Sekky
グッチー●Gutty

Saotome no jimusho
トメオ●Tomeo
ハナエ●Hanae

Cover Model
桜庭和志●Kazushi Sakuraba

Cover Photo
森モーリー鷹博●Takahiro"Morry"Mori

Cover Illustration
中川画伯●Gahaku Nakagawa

Styling
大西タマリン●Tamarin Onishi

Hair & Make
Kazushi Sakuraba

※「RADICALとは何か?」それは「根源的」、「根本的」って意味が「紙プロ」の定説です。

●「サスケ、懺悔!!」はP168です。……………さ、坂田さん!! 表紙に名前入れるの忘れちゃいました。スンマソン。

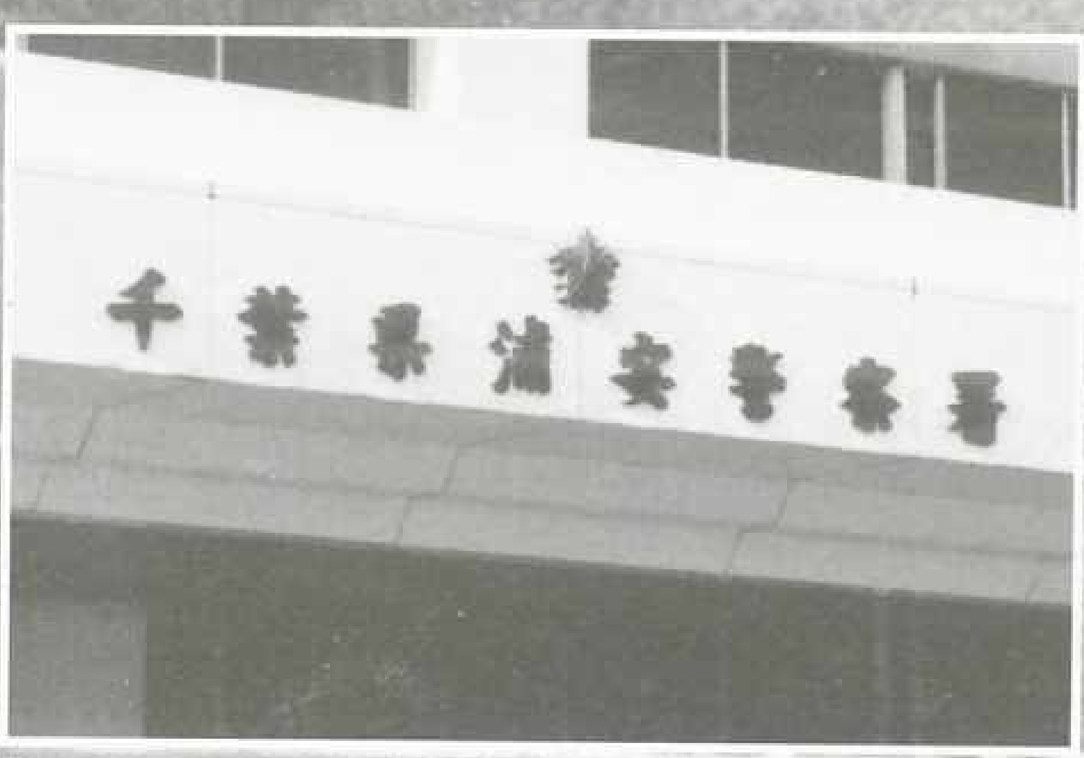
襲撃直後&警察出頭後の会見を全公開

悲しきヒットマン

安生洋二の本心を探れ!!







「一発殴られたから返しただけ」前田日明狙撃事件の実行犯、安生洋二は悪びれることなく淡々とコメントを残した。しかしその言葉の背景と真相には、ただものではないものが蠢いているような気がしてならない。本誌はここに"狙撃犯"のコメントを敢えて全文公開することによって、事件の真相をあぶり出していきたいと思う。

11・14 襲撃直後

ヒクソンへの道場破りが失敗したあと、安生はそのまま何事もなかったように食事に出掛けたという。そして今回の前田襲撃後でもやはり堂々と打ち上げパーティーに出席。安生は取り囲んだ取材陣に対して、いつもと変わらぬ安生節で事件について淡々と語った。

（聞き手は複数）

安生 ボクだって一回やられてますからね、で、雑誌でボロクソに言われて、もう二度と（前田と）会う機会がなかっただけですから。これでリング上で決着付けるんだったら、これが一番キレイじゃないですか。引退したらさらに拍車がかかって人のことボロクソに言って、自分がやらないもんだからって。あれはイカンですよ。

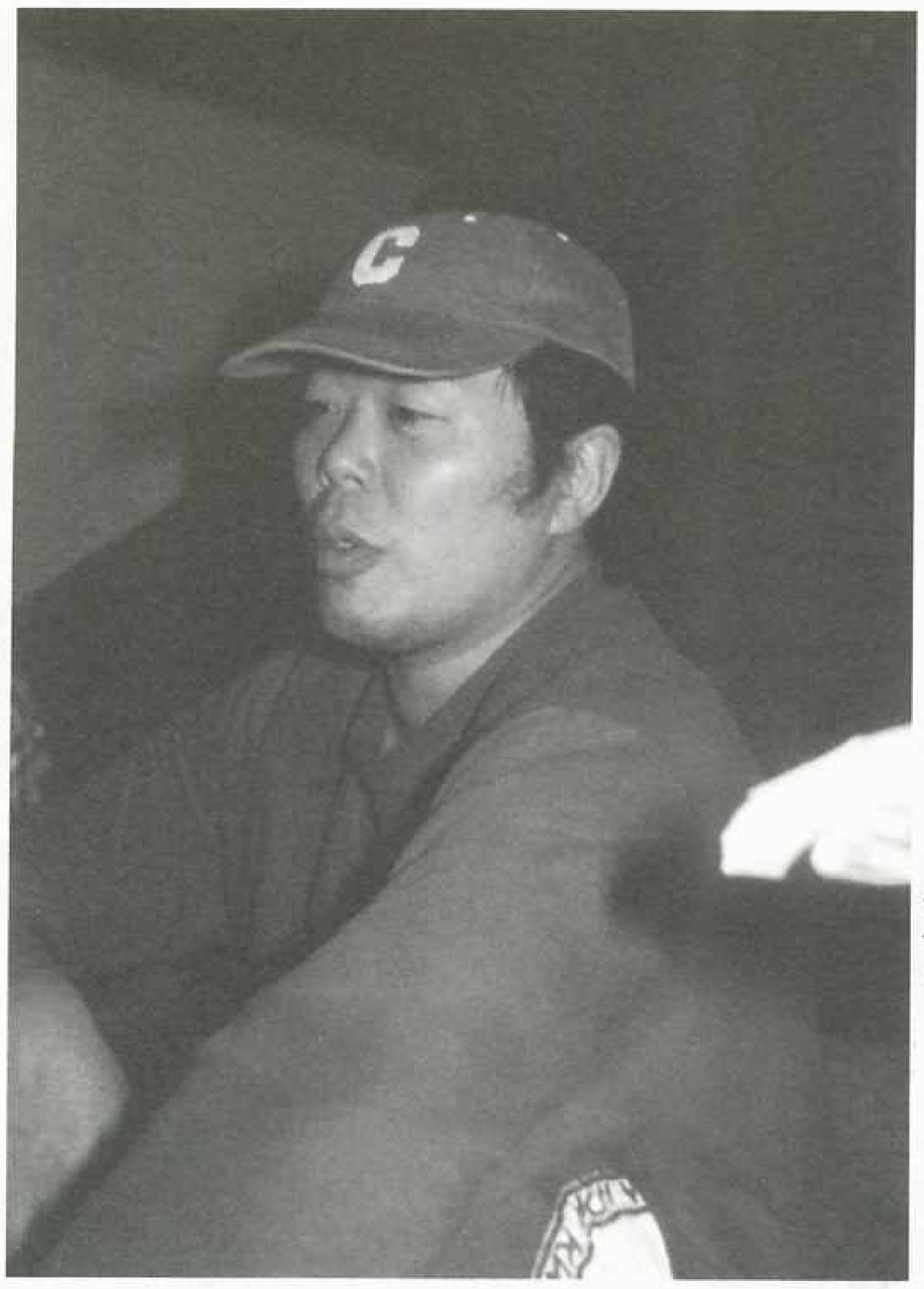
——パンクラスの高橋選手が一緒にいましたが？

安生 ヒャッヒャッヒャ（笑）。なんでそうなるんですか、控室が一緒だっただけですよ。

——襲撃の理由はなんなんですか？

安生 ただ、いるっていうんで。今までいろんないきさつがあって、まあべつにリング上でやればいいんですけどね。そういう機会がなくて、引退したら、今度はいろんな人のことをベラベラとねえ。ダメだって。やらないことをいいことにね。で、またね、ボクの友人に対してや、今回対戦する予定だった相手に対して「アイツとやったら安生は3分で負けるよ」と。そんなふざけたことをオレの聞こえるようにね。そういう憎まれ口を叩いてるから、まあ、今度会ったら何かしようと、それを思ってただけで、それだけですよ。だからこれでアイツが「リング上でみんなの前でケリをつけよう」って言ったら一番いいし。それが出来ないくせにね、いろんな人に対してね、ああだこうだ言い過ぎるって言うのもね、いけないことだなぁ、と。あれでキッチリとね、今までのことだって何を揉めてるんですか。キッチリとリング上で何をしてきてるんですか。ね？ リング上で見せてきてたらボクは何も言わないですよ。

彼がオクタゴンに入った人間を語ることはできないはずですよ。



マット界の大事件を起こしたという自覚がないのか、いつも通り飄々としてコメントを出す安生。ユーモアを交えながらも、前田を痛烈に批判した。

——その怒りが爆発したんですか？

安生 怒りっつーか、ただ彼のいつも言ってる街のケンカじゃないですか。彼が得意なヤツじゃないですか。不意打ちとかね。あるときボクがね、会社を代表して（「SAMURAI！」のパーティー会場に）行ってるときに不意打ちで裏拳一発入れたりね。それで「してやったり！」みたいにね、ふざけたことを各所で言われたら、オレは男として「今度会ったらアイツをイチコロに」ってそりゃあ思うじゃないですか。それをただ今まで引きずってただけで、会う機会もなかったしね。リングでやりゃあいいんですよ、今度。誰ですか？ あと揉めてるのは。高橋義生？ 他は小川もやろうとしてるんでしょ？ やりゃあいいじゃないですか。リングでやりゃあいいじゃないですか。これ、オレらはチンピラじゃないんですからね。リングで闘いを見せてお金を貰ってるんですから。彼の論理はチンピラの論理ですからね。何か気に入らないことがあったら、マスコミに通したりね。それで片やKRSのことは「ヤクザに脅された」って、自分が今までやったのがヤクザの論理じゃないですか。それをね、やっぱり白黒ハッキリさせないのがちょっと嫌だな、と。一発やられたら一発返しただけでね。それであとは何か問題があるんだったらね、オクタゴンに入りぁいいじゃないですか。彼がオクタゴンに入った人間を語ることはできないはずですよ。

——Uインター時代の事件を引きずってるとかは？

安生 それはべつに引きずってないですよ。個人的に嫌いだったわけじゃないですけど。ただやっぱり一発やられたからやり返しただけですよ。ボクは普段は暴力的な人間じゃないですけどね。本来ならリング上でね。いがみ合ってるんだから、アンタだって格闘家って名乗ってるんだから、リング上でケリをつけようよ、と。それだけですよ。一発入れられて一発返しただけですよ。で、後で告訴されてもべつにこれは路上のことだから、それはそれでべつに受けて立ちますよ。それでボクが逮捕されたらそれはそれでしょうがないですよ。ただ、彼は格闘家だったらリングでやらないんですか？ 格闘家とはたぶん誰も思っちゃいないですけどね。

——前田さんが一人になった時を狙ったようですか？

安生 いやいや、そんなことはないですよ。いま、目をケガしてるんでわかんないんですよ。どこに誰がいるんだか。

——一発殴られて殴り返そうというのは、いつ頃から考えてたんですか？

安生 「SAMURAI！」ができたときかな。それでオレが「前田に負けた」みたいにね、マスコミにみんなに書かれたから、そうじゃないでしょって。まあ、そういう記事はいいよ。でも会う機会がなかっただけで、彼と。それだけの話ですよ。だから彼も言った分だけ世間に見せてよと思いますよ。べつにそれ以外、何もないですよ。

——じゃあそこにいたから行っちゃった、と。大きいのが動いたから行ったということですか？

安生 そう。なんか横を見たらいたらしいんで。でも、暗いんでね。彼もね、やっぱり先輩に対してね、呼び捨てにしてるくらいの人間だから。オレがべつにそんなにね、ペコペコする必要はなにもないですから。以上です。

——刑事事件になることも考えられますが？

安生 いや、べつに考える必要はないですよ。当たり前じゃないですか。ただ彼が、じゃあ今まで何をやってきたのかって、洗いざらいボクが言っちゃったら彼も同罪ですからね。前田さんにやられた人間、みんなにボクと一緒に立ち上がろう」って言ったら、彼はボクより入る年数多いっスよ、間違いなく（笑）。それくらいの気持ちでいますから。ボクがリングで一人で片付ければいいんですよ。

——じゃあ、試合ならやるということですね？

安生 いや、仮に試合じゃなくてもいいんだよ、だから。別にルールなしで金網の中に入れちゃえばいいじゃないですか。ファイア

彼がいなければみんな仲良く一つの団体でできたんですよ。

ー・デスマッチでもなんでもやりゃあいいじゃないですか。だから、ボク以外にね、やっぱりかれとキッチリ勝負したいって人間がいるじゃないですか。彼がホントにね、そういう格闘家ならそれを受けてやればいいんですよ。それが男の道じゃないですか！　ただ、ボク上着なくしちゃったんです。

――ワハハハハ。さっきまではあったんですか？

安生　あったのにねえ、まいったな。この格好で帰ったら風邪ひいちゃいますからね。まあ、本来ならね、ボクもこういうことしたくないですよ。彼がそういう人間だからしただけですよ。だって、ボクは街でケンカしたことないですもん、今まで。人生に於いて。素人殴ったりとかないですしね。彼はケンカを売り物にしてるんでしょ？（笑）。格闘技よりケンカを売り物にしてるじゃないですか。

――背後から襲ったことについてはどうですか？

安生　だって見えないんだもん、しょうがないよ。背後じゃなくてもよかったよ。彼が一発で倒れちゃったからね。オレだって不意打ち食らってるわけですからね。正面切って彼に殴られたわけじゃないですから。通りすがりに「ポーンッ！」と来ましたから。でも、ちゃんとした人間に対しては面と向かってやりますよ。彼はその価値がないからね。

――しつこいようだけど、試合で決着つけようと言っても……。

安生　いいんじゃないですか？　見たいでしょ、みんな。やればいいじゃないですか。やりますよ。

――船木選手と一緒だったようですけど？

安生　あれは控室が一緒だったんで。パンクラスは全然関係ないですよ。

――安生選手の個人的な問題ですか？

安生　だから、一発やられたから一発返しただけですよ。ボクはこういうのをやるのはイヤですけどね。

――今日、山本選手がリングス批判をしてたんですけど、それに触発されたということはありますか？

安生　違いますよ、関係ないですよ（笑）。彼もリングス批判をしたわけじゃないですから。田村潔司批判をしただけじゃないですか。要するにリングス批判はしてないと思うよ。まあ、辞めたから何でも許されるのかっていったらね、辞めたら口塞ぎゃあいいのに。ただ個人的に、辞めたね、もう戦場の外で人のことをとやかく言い過ぎですよ。



新生UWF時代、2度対戦している前田と安生。当時前田は安生の成長を認める発言をしていたが、結局、隆盛を極めたUWFも前田と安生、宮戸の対立により崩壊してしまった。

――前田さんから抗議とか来たら、正面から受けますか？

安生　だから、そうなりゃあいいじゃないですか。それだけですよ。あと、上着探さないと。寒いですからね。なんで？　凄いことですか？　凄いんですか、これは？　凄いんだったらなんで今まで前田日明を捕まえてこないんですか？　彼は今まで何をやったんですか？　オレを凄い凄いと言う前に、マスコミのみんなが止められたでしょ。止められる部分であるんじゃないですか？　ああいうのを許しちゃうんですか？

――今回の行動は計画的なんですか？

安生　なんで計画的なんですか？　ただ横にいたからやっただけのことですよ。

――業界を代表してやったとか？

安生　なんで？　前田日明不要論があるんですか、やっぱり業界に？（笑）。

――そういう意味ではなくて刑事事件に近いものですから。

安生　だから、それを言うんだったらその前に彼の暴力事件をなんとかしてくれたらいいでしょ。ムチャクチャな彼に比べたら可愛いもんじゃないですか。

（ここでUインター、キングダムで行動を共にした"ワル健"こと鈴木健氏が現れる）

安生　あ！　来ちゃダメ！　写真に入ったらダメだよ！

ワル健　聞いた。おめでとう！

安生　ダメダメダメっ！　やめてよ〜（笑）。また変な裏読みされて、誰がけしかけたとか書かれるから〜。もうホント、一発やられたからやりかえしただけなんですから。

――殴ったのはフックですか？

安生　いや、ストレート。アゴですね。

――いや〜安生さん、やっぱりK－1の成果だな〜。すごい、すご〜い。

安生　みんな写真撮りながら、ホントは嬉しいんでしょ？（笑）。人を殴ってこんなに喜ばれたの現役生活で初めてですよ（笑）。嫌な世界ですよ。彼は嫌な世界の元凶です

前田・安生 因縁の軌跡

1984
安生UWF押し掛け入門。アポ無しで布団を抱えて前田に入門を直訴。前田は藤原が入門をOKした新弟子と勘違いして入門テストを免除。安生は入門当初合宿所入りが認められず、埼玉の自宅から通いで練習を積む。

1985.7.8
広島県体育館にて安生洋二UWFデビュー。対戦相手は1ヶ月先輩の星名治（引退）。10分40秒羽根折り固めで敗れる。
第1次UWF在籍時、安生は前田の付き人を務める。

1985.12
第1次UWFは興行能力を失い新日本プロレスと業務提携を結び、86年1月より新日に本格参戦。

1988.3
前田日明、新日本プロレスを解雇。前田が新生UWFを旗揚げするため選手に声をかけ、高田延彦、山崎一夫、中野龍男、宮戸成夫、安生洋二が新日本を離脱、UWFに参加。

1988.5.12
新生UWF後楽園ホールで旗揚げ。

1989.7.24
博多スターレーンにて前田日明対安生洋二初対決。安生はこの前月船木を破った勢いにまかせて「今なら前田さんに勝つ自信がある」とこの頃から後の200パーセント節の片鱗を覗かせるが、片逆エビ固めで敗北。

1990.8.13
前田対安生、2度目のそして最後となる対決。裏アキレス腱固めで前田の勝利。

よ。彼がいなければみんな仲良く一つの団体でできたんですよ。

——3年越しですね。

安生　3年越しでしたね。たまたま接点が合っちゃったんですよ。普通はこんなことしませんよ。彼の世界に合わせただけですよ。それだけですよ。彼の世界に合わせただけですよ。面と向かってやらなかったのは彼ですからね。

——船木さんと一緒だったんですけど。

安生　だから控室が一緒だっただけですよ。来るなら不意打ちでもいいですよ。彼ならバットで後ろからバーンとくるかもしれないし。くだらないけど、誰かがそれを教えなきゃいけないってことですよ。弾の飛んでこないところでギャアギャア言っててはダメですよ。

出頭直後

そして事件から5日後、安生は浦安警察署からの要請をうけ出頭。事情聴取を受けたあと〝犯行現場〟NKホール前でミニ記者会見を行った。（11・19）

——どのような経緯で出頭となったんですか？

安生　いや、浦安警察からホントに電話がかかってきやがって、僕もビックリしているんですよ。昨日、警察署の方から聞きたいことがあるってんで、任意で、事情聴取を。早い方がいいなと思って、今日受けたわけですけど、ちょっと長くなってしまいました。まあ、まずね、今回の件で、UFC－Jの会場でね、個人的ないざこざを起こしてしまったんで、坂田代表のほうには、自分の方からお詫びを言ったんですが、まあ、長いいきさつを彼も知ってたんで、悪いようにはしないってんで、それで少しは安心しました。

えー、そうですね、あとは何を聞きたいんでしょうか？

——何時から何時くらいまで？

安生　9時半くらいから、4時半くらいまで。7時間くらいですか？　それで、記者のみなさんも待たせてしまって、ちょっとお叱りをうけたんですけどね。時間的な僕の不手際なんですけど、なにせフリーでやってると、取材がないんで。一人FAX係りだけは用意してそれで終わりにしちゃったんで。2時には終わるだろうと思ってたんで、お待たせして申し訳ありません。プロレスラー同士のケンカなんだから、こういうふうになるとはね…。当然違う形になると思ってたんですけど。とりあえずは、記者会見として、刑事責任があるというのなら、僕は正面から受けて立つつもりで、逃げも隠れもしないですよ。ただ、ほんとになってビックリしてますけどね。



96年6月に行われた「サムライ！」チャンネル設立パーティー。この席上で前田は安生を小突いた。安生が言うように、11・14事件はこの時の一発を安生が返しただけなのか？

——ほんとに警察から電話かかってきて？

安生　ええ、ビックリしちゃいましたけどね。

——いちおう、前田さんの方に詫びは入れてないんですか？

安生　いやあ、詫びを入れるような類の話じゃないですから。今までのいきさつから言っても、まあ、僕も今日、警察に淡々と語ったたんですけど、やっぱり、サムライTVの会場で僕もやられて、そこで僕が大人の対応をしてしまったんで。本来ならあそこで殴りかかってもいいんですけど、僕はやっぱり会社の代表として、極真の松井さんや、正道会館の石井さんやプロレス界ではアントニオ猪木さんの前とかで僕が大暴れするのはあまりだなと思って我慢したら、紙面をみたら愕然としたわけですよ。「安生、殴られる！　前田してやったり」とかね。そういうのがバーンと出たんで、俺かなりバカみたなっていうのが正直。こういう思いだけはもう、したくないなっていうのが、うん。で、ほら、「安生、アイツ、結局ビビッて何もできへんやんけ」みたいなね。いや、そういうもんじゃないだろうって。かといって、僕がここで事を荒立てて、「リング上で勝負だ」って言ったところで、やるわけないんだから、そこで僕は、ずっと我慢してたんですよ。3年6カ月前ですけどね。その思いを今までずっと引きずってき、これまでニアミスも何も接点もなかったんで。お互いに六本木好きなんで、どっかで会うかなって思ってたんですけど、そういうこともなかったしね。

——それで、ようやく会って……。

安生　で、会って、また高橋選手と控え室同じだったから、並んでるとこ見たらフラッシュたくじゃないですか。向こうにもフラッシュたくわけじゃないですか。ああ、これでまたやらなかったら、俺、何か言われるのかなって。「アイツ、こんだけ近くにおったのに、何にもできへんやんけ」ってね。そういうのがまたねぇ、マスコミ紙上に載るのかなぁと。そういうふうに思ったら無性に何かね

1991.1

前田の自宅でUWF再旗揚げのための選手会議が開かれる。この席上前田の「オレを信用できないヤツが一人でもいたら解散だ」の言葉に対し、安生と宮戸が「それじゃ脅迫ですよ」と退席。これが引き金となって第二次UWFあえなく分裂。

1994.1.21

リングスのバトルディメンション・トーナメントに優勝した前田がリング上で「パンクラスもインターも頑張ってるんで、7対7の対抗戦とかいつでもやります」とアピール。しかし、パンクラスは即座に拒否。『週刊プロレス』の表紙に「船木、鈴木、前田に絶縁状」のコピーがおどる。Uインターは静観。

1994.2

Uインター「プロレスリング・ワールドトーナメント（通称・1億円トーナメント）」開催を発表。前田、三沢、橋本、天龍、船木を特別招待選手として参加を呼び掛ける。この席上Uインターは「前田選手は対抗戦を呼び掛けた手前、断る理由はないでしょう」と得意の揚げ足取り。

1994.2

Uインターの呼びかけに各団体が拒否する中、リングスのみ全面対抗戦することを条件にOKの返答を出す。しかしUインター側は2・24武道館大会のリング上で高田が「前田さん、ゴチャゴチャ言わんと1回戦で待ってます」とマイクでアピール、更に宮戸がリングスの外人を〝馬の骨〟呼ばわりして前田大激怒。

1994.4.3

Uインター大阪大会の試合後、安生が「前田日明は全然強くない。200パーセント勝てると発言。当然のように前田は大大激怒し「家族の前で制裁を加える」と発言。Uインターは脅迫罪で告訴を検討。その後、前田が「行きすぎた発言があった」と各団体に謝罪文を送付。Uインターも告訴を取り下げ、騒動はひとまず決着。

1996.6

「サムライ！」開局記念パーティーの席上で、前田が安生に裏拳でこづく。

1999.11.14

安生による前田狙撃事件発生。

ぇ、この場でケリつけなぁ、いけないなって、そういう気持ちになったんですよ。ま、そういったような事を刑事さんに話したんですけどね。

——すべてはリング上でという気持ちはあると思いますが？

安生　まあ、当たり前だと思いますよ。だから、僕にしてみても、あれだけ僕がセコンドでいるっていうのを知っておきながら、自分の席ではなく、バックステージまで入ってきて、ずーっとウロウロしてて。それで、ほんと今回の『ゴング』（12月9日号）の表紙見て、（前田は）ホントに殴られるまでまで気づかなかったんだって。そこまで無防備でいられるってのが、僕ほんとビックリしたんですけど。ふつう、僕としては、向こうも臨戦態勢だろうから。ただ、途中で誰か止めに入ったら、また俺が情けない思いするなっていうので、あの、そういう考えはありましたけどね。ただ、あそこまで無防備でいたっていうのが、僕自身ビックリて。一発殴ったら、スコーンとKOされて、倒れて、僕自身はビックリして。ホントだったら、先制のパンチ入れて、規制事実として、「おら、お前これで逃げれんだろ」って裏で勝負しようって。で、「誰も止めにこさせないで、裏で勝負しろよ」っていう流れを僕は読んでたんですが。

——そうならなかったんですか。

安生　ゴングの表紙を見るまでは、ぼくも殴って、向こうも当然ピリピリしてるもんだと。あれだけ近くにいて僕が何にもしなかったら、また、マスコミ向けに言うんだろうなと。先ほどのセリフを。「アイツビビッて、また何もできない」って。

——それがね。

安生　ちょっと倒れて、後で様子見にいったら、まだノビてるから。思わず、出ちゃった。まぁ、脳震盪だから、すぐ起きあがって来るだろうと思って控えておいて、何か文句言ってきたら、それでまた、やればいいじゃんって。ケンカ1万戦無敗の男ですから、それくらいしてくると思ってたら、なぜか病院に行っちゃったって、聞いてアレッと。

でも、まぁ、一部週刊誌にパンクラス共謀と、プライドも裏で操ってるんじゃないかってね、そういうのちょっと目にしたんですけど、一切ないんで。実際に手を出したの僕一人だし、それで、パンクラスなんかやったとかね、話をぼやけさせてね、僕一人にやられたのは恥ずかしいからそういうふうに言って、話ぼやけさせて逃げようとしてるんじゃないのかな。

——まあ、前田さんのほうもね、リングス側によると、けっこうまだ、頭痛が残ったり……。

安生　そんなこと、俺ないと思うんだけどね。ケンカで俺、今日頭痛起きたからって、ふつう、そのまま病院行きませんよ。そんな。それが、ふうう の一般人殴ったんなら、いいんですけど、だって、1万戦無敗の男ですから。

——まあ、通称ね。はははっ。

安生　1万戦無敗の男だから、僕もアレッと思う行動をとるんで。

——そのあとちょっとね、具合悪いとか出たけど。

安生　だから、僕としては、向こうも臨戦態勢でいるから、この場にいると思ってますから。でなきゃ、だって、そういう気がなけりゃ、バックステージこないですよ。少なくとも僕ら側の控え室の方に。とりあえず、控え室の位置も把握した上でいるわけだから。あんな近くにいるっていうのは、「オラ、いつでも来いや」という、そういうのかなと思ってたんですよね。だからもう、臨戦態勢だし、俺が正面から突っ込んだら止められるの当たり前だし、不意打ちだとかなんとか言われんのは、僕もビックリしてるんですよ。ああ、前田日明のケンカっていうのうは、こういうルールがあったんだって。だから、そういうルールがあるんだなって、初めて知ったんですよね。だから、気を付けようかなって。

——今日、警察で事情聴取の内容っていうのは、そういう安生さんの気持ちとか……。

安生　動機ですよね。何で君、殴っちゃったの？　っていうね。

——調書みたいなのもあるんですか？

安生　ああ。

——あとは、どういう状況で、どう殴ったかという確認ですか？

安生　状況説明とか。まあ、いいケンカさせてもらいましたよ。なかなかね、こういう場面見れないでしょ。

——これ、NKでの現場検証もすぐ終わったんですか？

安生　いや、現場検証じゃなくって、写真1枚撮って、ここでやりましたっていう。ここらへんでやって。

再現みたいのは、向こうの道場でやりましたけどね。



前田日明をちゃんと叱る人間がいないんだよ

世紀末SURPRISE

——じゃ、現場検証で来たわけじゃいと。場所はここですっていう、写真を撮ると。仮想の現場検証っていうのは？

安生　警察署内で。こういうこと言うんですかね？

——向こうが本人に聞いて下さいって言ってましたけど。今後はどういうふうに考えているんですか？　格闘家としてとか。

安生　格闘家としてね、何かね、出てますか？　俺。一部では僕は永久追放だみたいなね。

——一部では新日、賛戦みたいなね。

安生　これ、ドーム向けのアピールじゃねえかなっていう（笑）。

——すごい出てますよね、ドームで決着戦とか。なぜか。

安生　あ、ほんとですか。いいですよね、それ。

——まあ、リングスもトーナメントありますけどね。リングスが許せば出る気はありますか？

安生　ええ、トーナメントで前田日明と決着つけたいと言いたいですけどね。ただ、あの（UFC）ルールじゃないと。顔面もあるし。

——それは、あくまで前田日明個人と決着という意味ですよね。

安生　だって、僕、別にリングスに上がりたいわけじゃないんだから。まあ、できることなら、あの方、一発殴って、「オラッ、俺はまだ気が済まないんだから、オクタゴンがあるからそこでやろうかい！」って言いたかったんすよ。

——逆に安生さん側から手を出してなかったら、あっちからやって来るみたいな雰囲気は？

安生　多分、あの様子じゃなかったんじゃないかな。僕、ほんとビックリしましたよ。殴られる寸前の顔見て。なんでここまで、そばにいるの分かってるわけでしょ。マネージャーだって、ほら、安生そこにいるって言ってたでしょ。なんで、それで……。まあ、ビックリしました。オドロキ！　よく今まで勝ってこれたなって思って。ただね、僕がね、不意打ちを食らわせて、とかね、そういこと言いますけどね、僕はまあ、不意打ちとは思ってないですけどね。僕としては、向こうが認識した上で、あの場にいたと思ってますから。

不意打ちという思いはないんですよ、僕には。ただ、先制のパンチを入れようとは思ってましたよ。不意打ちっていうのとは違いますよ。だって、僕、行く前に「オラー」って一声かけていってるわけですから。

——おらって言っても全然気付いてないから。



この事件で安生は11月30日に浦安署から書類送検された。安生には略式起訴の罰金刑が課せられる公算が高い。この問題はこれからどうなるのか？

安生　でも気づいてると思ったから先制パーンチ！　向こうが怒ったあ、どうするー、ってみんながわあわあって来ちゃう、「おい、俺一発殴られて、このまま済ますわけねえんだから、おまえ、オクタゴンでケリつけようか」って話すりゃいいわけで、そういうふうに僕は読んでたわけですよ。僕的には。それが、誤算に誤算を呼んでしまいました。

——あくまで、レスラー同士のケンカだと思っていたわけですね？

安生　それが、こういう社会的なね、社会人うんぬん語るのは、武勇伝としては素人にからまれて、耳引っ張ったら、ちぎれただのと、こいつは。各マスコミも彼をそういうふうに立てすぎた部分があると思うんですよ。あれが格闘技団体の長かっていう、長とはこういう暴れん坊で、こういう素人にも手を出すっていう。少なくとも、僕は今まで、酒飲んでても素人に手を出したこと、一度もないですから。ましてや路上で絡まれて、そんな、手を出すようなこと、今までないですからね。ただ、その、格闘技のトップという人がそれをやってて、それで僕が格闘技界の威信を墜落させたみたいなね、そう言われたら僕、困っちゃいますよね。僕が殴ったのは一般人じゃないですからね。まして や不意打ちでもないですから、僕的には。また、それをマスコミが許して、僕が悪いと言われるのも、おかしな話ですよ。あんまり、そういう発言載せないで下さいよ。聞いても、気持ちの良い話じゃないですよ。格闘技界の人が素人相手に、イジメと一緒じゃないですか。それを40過ぎて、ケンカを自慢するような人間がトップに立ってるこの業界は、何なの？

ま、だから、前田日明もね、そうやってちゃんと叱る人間がいないんですよ。ちゃんと。みんながもう、おだてちゃって、ちゃんと叱る人間がいないんだよ。

ま、個人的な部分が99・9としたら、0・1はそういう気持ちがあったかなと。

——今後の生活は白紙なんですか？　格闘家としての。

安生　体を治してね、ちゃんとUFCの大会に向けて、トレーニングしていくという、これはもう、全然変わんない。

——次、UFCは？

安生　それは彼らに聞いてみないと分からないよ。

——3月になるかなという話だったんですけど、それまで時間ありますよね。

安生　まあ、それまでいろんなとこ、トレーニング行きたいと思いますけどね。だったら、きっちり仕上げて。

——リングスの方がどういう対応するか、また来週くらいに……。

安生　ま、それ次第になってきますよね。

——とんでもない賠償ふっかけられたらどうします？

安生　そうなったら、僕、試合数増やさなきゃないと。

——また、こういう状況で前田さんと偶然、再会かなんかで……。

安生　現時点ではノーコメントです。

——警察の調べはもう終わったんですか？

安生　はい。方向はどうなりそうだとかは言ってませんから。どうでしょうかね。なにせ、ちょっと、マスコミの皆さん呼んで、株落としちゃったんで。

——警察の口調は厳しかったですか？

安生、いや、そんなことない、簡単だった。

——前田さんに何か言葉をかけるとしたら？

安生　大事にして下さいと。

——あそこで身構えなかったというのは、やっぱり失望しましたか？

安生　みなさんも、あれだけピリピリしてるじゃないですか。カメラも僕に向かってぶわあ、高橋に向かってぶわあ、ってやってる中、ああ、ここはこういう所やって、向こう分かってる訳じゃないですか。それで、まだ、しゃーんと、試合後、席に座るでもなく、そこらへんいるっていうのは、それはもう、襲ってくれって言ってようなもんじゃないですか。自分の今までの発言からしたら。仮に、僕がまたまた大人になったとしましょう。またまた、僕がこらえたと。彼の性格からいったら、どういう発言しました？

——そうですね、逃げたとか…。

安生「俺、裏いってたのに、アイツら何にも仕掛けてこんやんか」ってね。だから、彼によって、殴らされたんですよ。追い込まれたんですよ。ある部分ね。

——ということは被害者は？

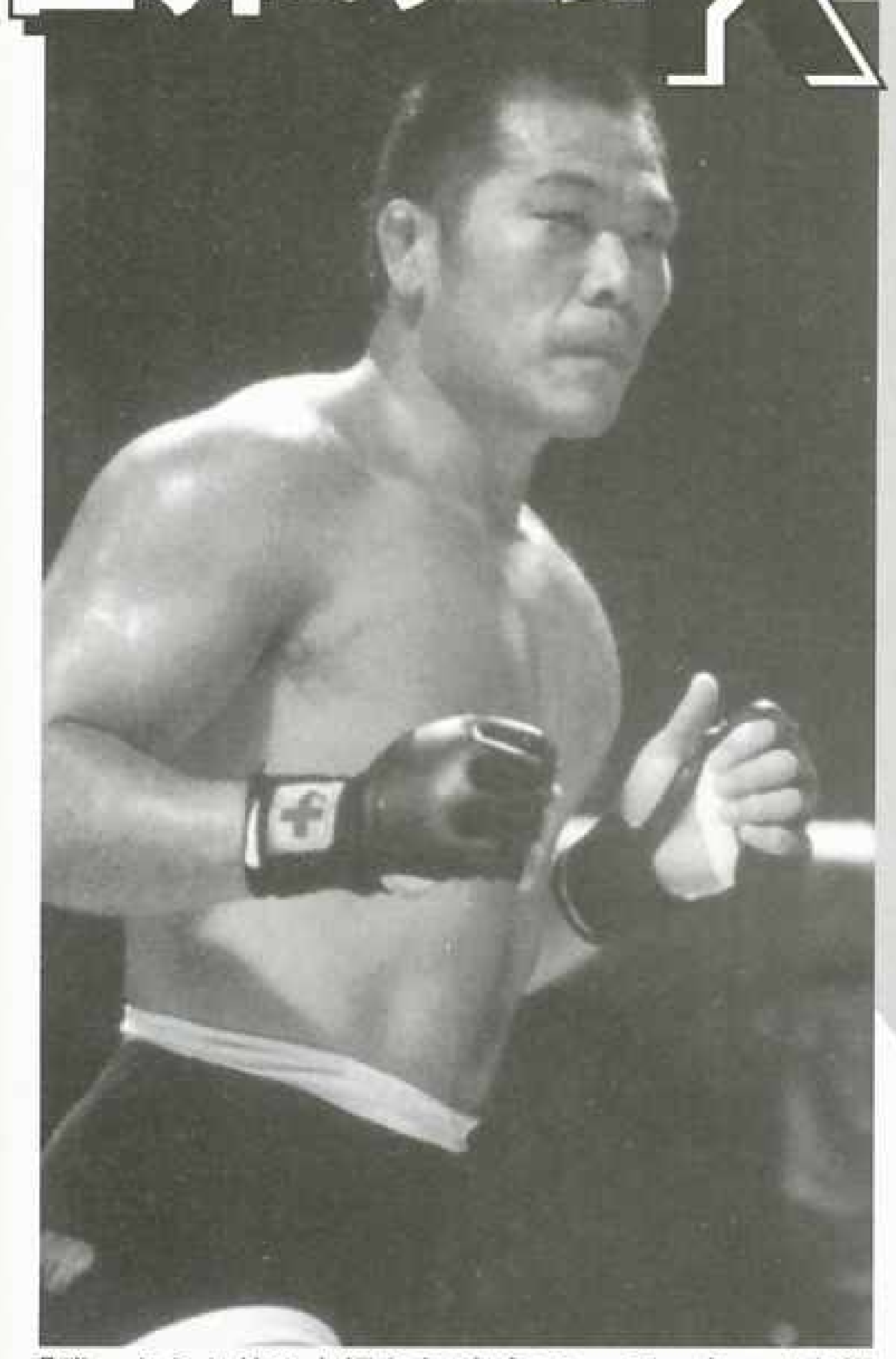
安生　僕です!!　今の突っ込みナイスです！　皆さん、寒いからもう帰りましょう。

世界のTK"初来日"を飾れず!

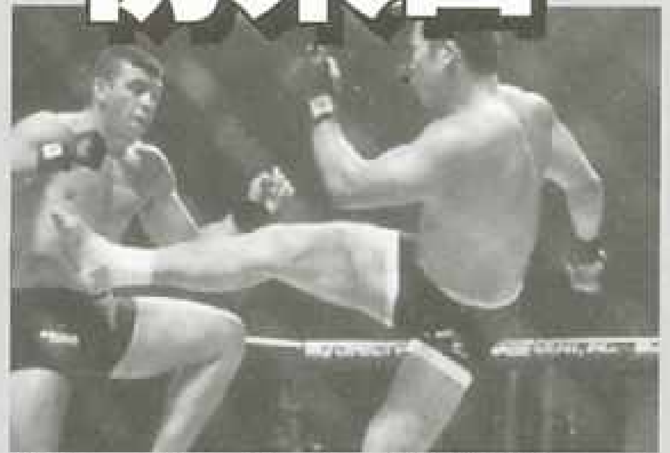
UFC-J試合でも激震!!

11・14東京ベイN・Kホール

安生の前田襲撃事件&ヤマケン発言だけじゃない!!



「勝ったらお前の大好きなビビアン・スーちゃんを紹介するで」という日明兄さんの檄も叶わず敗れたTK。この悔しさを「キング・オブ・キングス」にぶつけろ!



世界レベルのグラウンド技術を持つTKだが、打撃技術もモーリス・スミス・ジムで飛躍的に上達している。



徹底した立ち技勝負にこだわったペドロ。しかしTKは「ペドロは戦士の魂がない」などとは言わない。

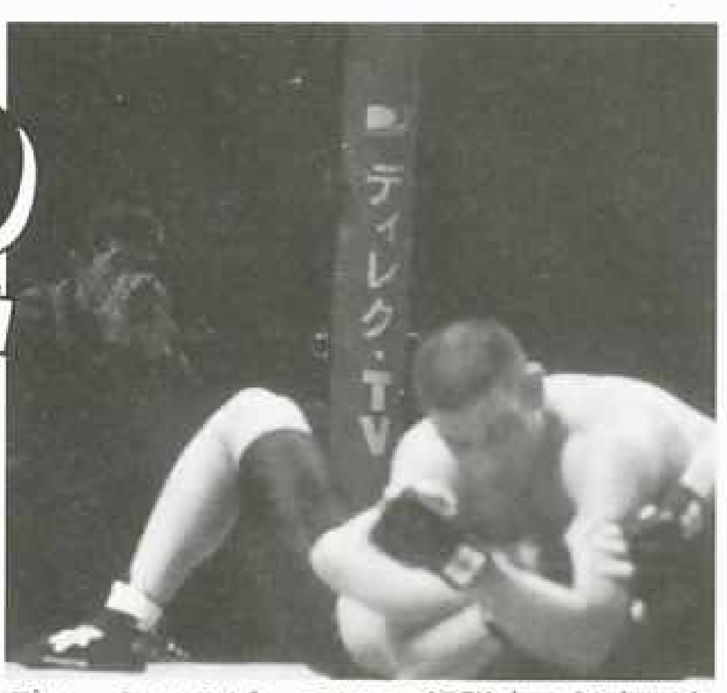


K－1レベルの打撃でTKを病院送りにしたペドロ・ヒーゾ。マルコ・ファスの一番弟子は噂通りの強豪だった。

パンクラス無念の2連敗



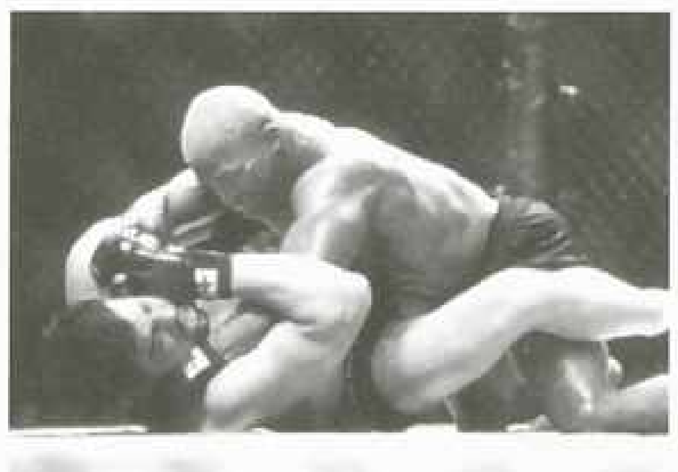
ドツキ合いを挑んだが惜しくも敗れた山宮。最後はクロスカウンターのような形でマットに崩れた。



デルーシアのピンチにTV解説席の船木が急遽セコンドに付く。高田ー北尾戦の時の宮戸のようだ。勝ったジョー・スリックはリングスのKOKでヴォルク・ハン戦が決定!



野生動物が獲物を狩るようなランデルマンのタックル! これぞネイチャーボーイ。

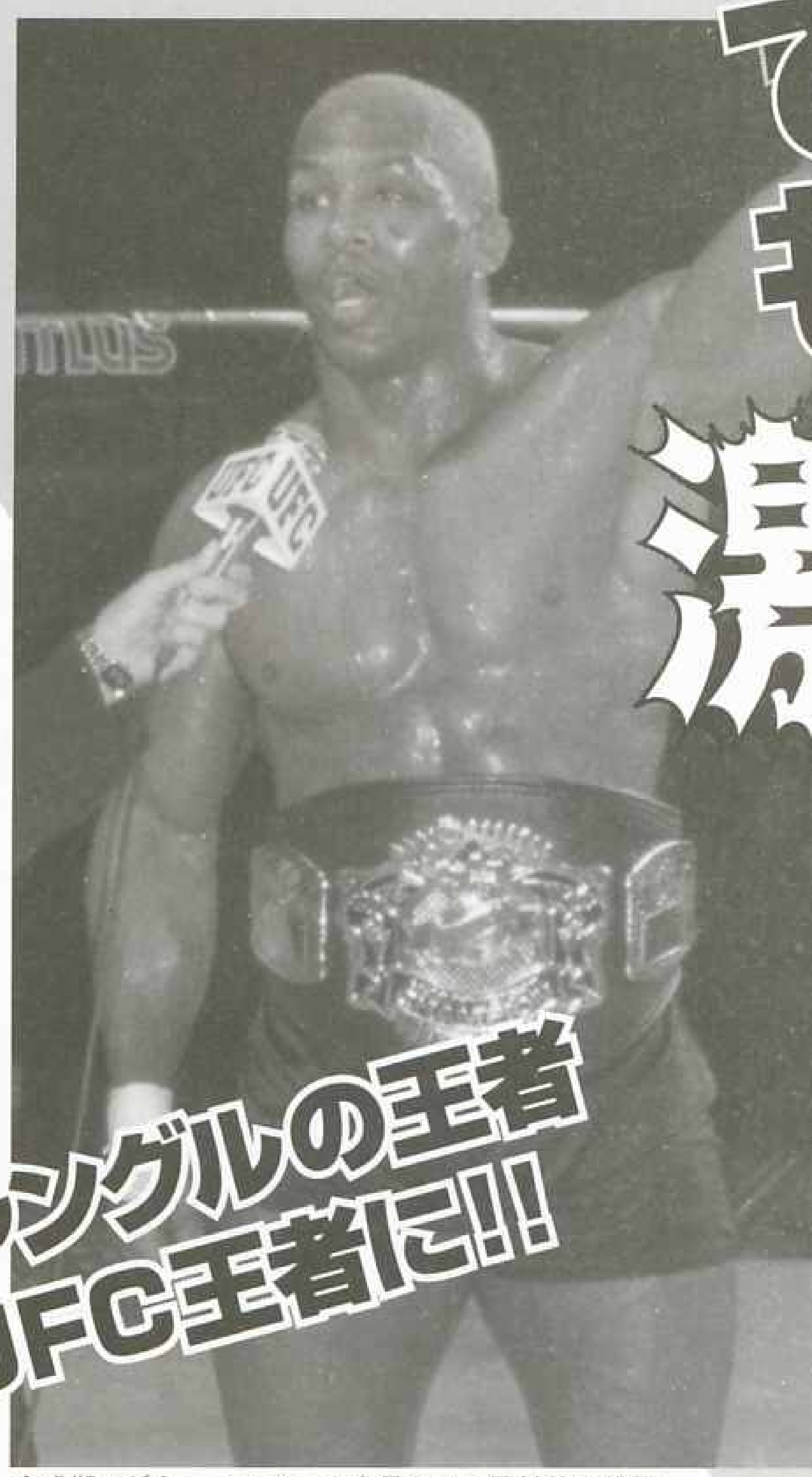


「最悪の試合だ。オレにはサブミッションが足りない」勝っても満足しないランデルマン。その意気やよし。

ジャングルの王者UFC王者に!!



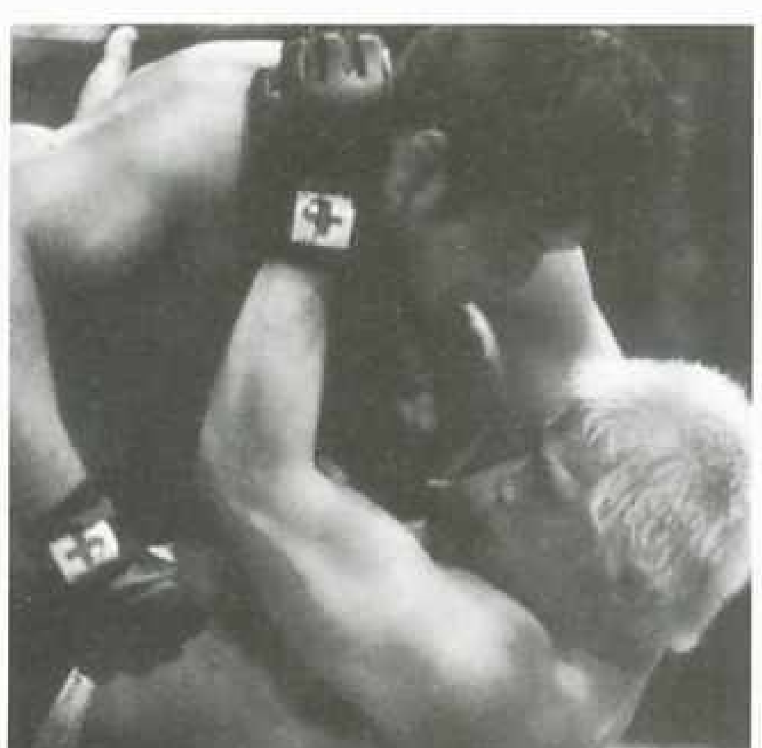
第5代UFCヘビー級王者となったランデルマン。初防衛の相手はTKを破ったペドロだ!



全盛期のジミー・スヌーカを思わせる野性的な跳躍、ターザン張りのワイルドな雄叫び、新UFC王者ランデルマンはまさに"ジャングルの王者"である。

構成／ガンツ
text by Gunts

みんな忘れてないか!? 本場のUFCが待望の日本再上陸を果たしたことを! 第一回大会でサクの歴史的勝利&マイク「プロレスラーは本当は強いんです!」があったあのUFC-Jが帰ってきたことを! やはり襲撃と「偽善者」発言というスキャンダルだけでなく、「怨念でも復讐でもな～い」純粋な闘いも、決して忘れてはならないのだ。ウエルカムUFC! おかえりTK! では行こう、レディーゴー!



大逆転の首固めみたいな負け方で優勝を逃した藤井。山喧をボコボコにした強さと、デカさは今後に期待が持てる。



KO負けを喫したものの、試合を終始リードしていたのはRJWの矢野倍達。差し合いでの強さはさすがだった。



痩せた体を隠すため(?)Tシャツ姿で闘った高瀬。「若いんやから、まず体直せ!」(by前田日明)

★★★プロレス&格闘技専門ビデオショップ★★★

チャンピオン

Champion

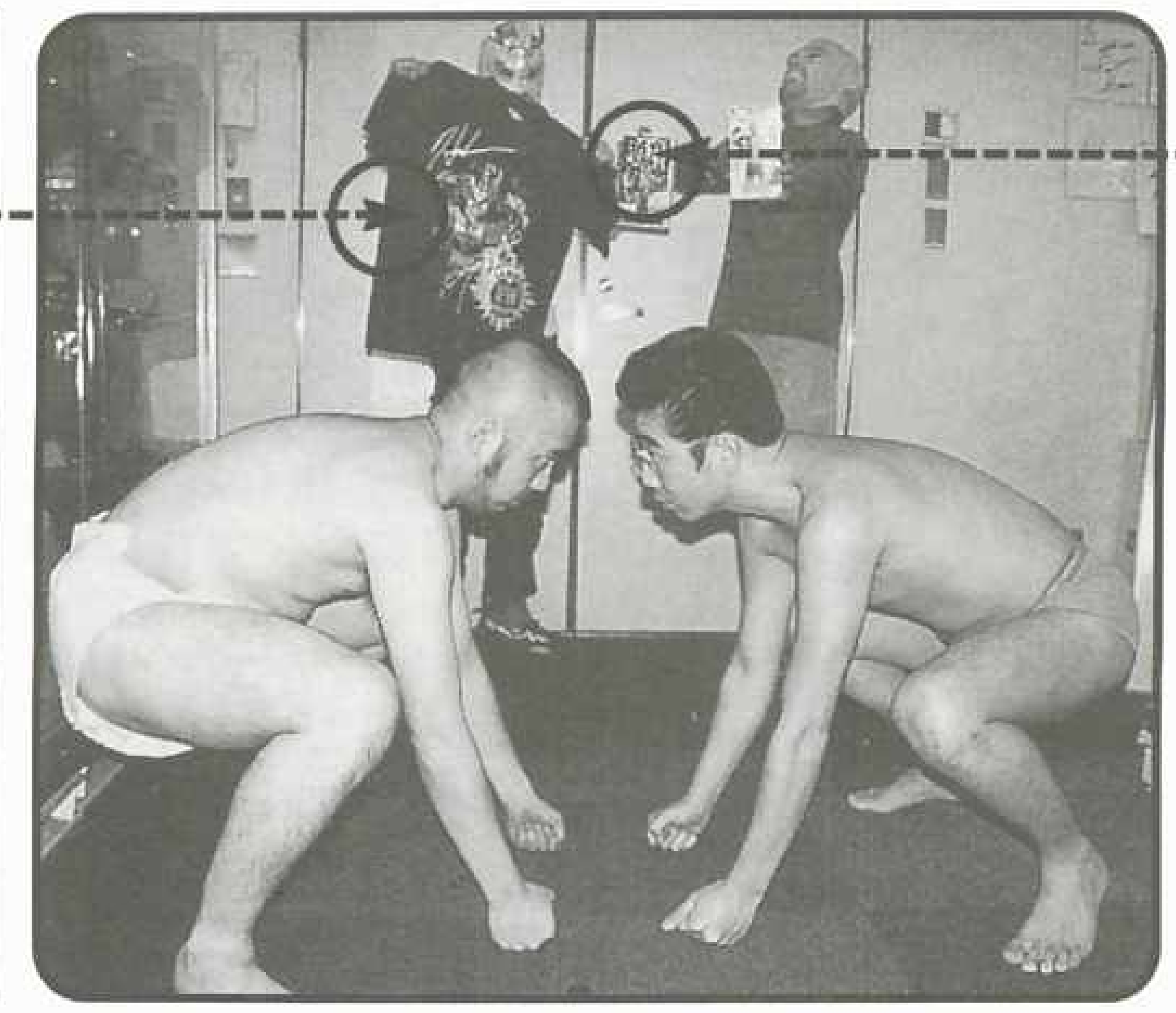
【広告のページです】

賢明な読者の皆さんはとっくにご存知の方だと思うが、このスモウ大会はフィクションです。実際、欲しい商品は買って手に入れて下さい。『チャンピオン』は日本最大の売り場面積を誇る超大型店です。

なぜだ！ チャンピオン東京店で懸賞争奪相撲大会が実現!?

世界をリードするプロレスショップ『チャンピオン』。その店内で、ごくごくひっそりと相撲大会が行われていることをご存知の方は少ないだろう。懸賞にかけられているのは、いずれも『チャンピオン』で扱っている素晴らしい商品ばかり。『チャンピオン』でしか手に入らない貴重な品物も多いので興味のある人は是非、一度お店に行ってみよう。ビデオ、Tシャツ、チケット、マスク、書籍&雑誌、CD……きっと望みの品があるはずだ。

元祖アメプロといえばこのチームだ！ ちなみに『チャンピオン』東京店では6周年記念セールとして現在、アメプロTシャツのセール中だ。WCWでもWWFでも、ドカンと揃っていて他では手に入らないものばかりだ！

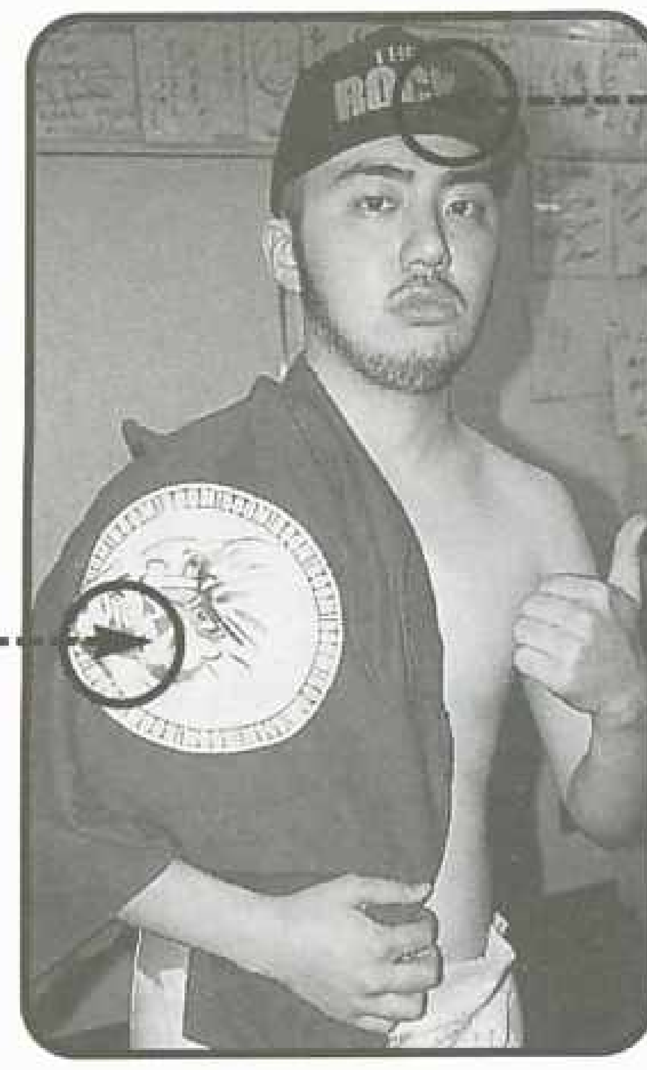


人気爆発の闘龍門グッズも揃ってる！ 最新ビデオ『BeCRAZY』（¥4000）も、もちろん手には入るぞ！ その他、Tシャツも絶賛発売中なので闘龍門ファンなら絶対満足出来る品揃えで、キミの来店を待っているゾ！



『チャンピオン』代表のwDcと『紙プロ』代表のスモー・ノブが激突。「本業が歯医者の男には負けられない」という意地だけで勝利。だが、次回は『チャンピオン』最強の男が名乗りを挙げるはず……。

「チャンピオン」では、インディーブランドのグッズも入荷している。このTシャツは、大阪の「ボクサー」というブランドのイカしたイラストT（¥2500）。その他にもチャンピオンで独占販売中の「格闘ASTRAL」のTシャツも人気爆発中！



勝利者賞を受け取るスモーが被っているのは「ザ・ロック（WWF）」のキャップ。他ではなかなかお目にかかれないアメプログッズが多数あります！ 12月31日まで実施しているアメプロフェアに行くしかない！

燃える商魂 チャンピオン様より懸賞が出ております!!



「I'm the bas」イラストTシャツは特別価格¥3000だ。もう片方は大阪のかっこいいブランド「ボクサー」のTシャツ（¥2500）である。



大人気の春一番Tシャツも絶賛発売中！「闘魂伝笑」「めしべ」「イラストバージョン」など、いろいろ揃ってます！ すべて¥3500

わざわざバス・ルッテンが持ってきた「I'mthe bas」写真Tシャツ（左¥3000）とビバリーヒルズ柔術クラブ特製Tシャツ（右¥3500）は当店独占販売！





元祖ビデオショップだけに、新作の入荷も早い！ 買うもよしレンタルするもよし、とにかく在庫量は日本一！ 新日10・11からK−1ガールズまで幅広いニーズに答えします！

そんなに欲しけりゃ力で手に入れろや！

いつでも!! どこでも!! 誰でも!! 何でも!!
日本中のあらゆるところに配送します!!
史上最高の在庫量を誇る『チャンピオン』の通販を利用しない手はない！

チャンピオンには、ビデオを中心に、雑誌の最新号&バックナンバー、単行本、Tシャツ、フィギュア、テレカ、トレーディング・カード、マスク、選手のコスチュームなどなど、古今東西のありとあらゆるプロレスグッズが揃ってます!! もちろん『紙プロ』のバックナンバーもズラリとあります。さらに限定販売中の『紙プロ』Tシャツも、ここなら買える！ プロレスファンよ、いますぐ来い！ 通販を希望される方は住所・氏名・電話番号を明記の上、1電話・2ハガキ・3FAXいずれかの方法にてご注文ください。代金は、代金引換になりますので、代金+送料をお支払いください。入金確認後、商品を発送いたします。在庫がないものもありますので、TELにて確認の上お申し込みください。

●Championホームページアドレス http://www.champion-j.com

Champion大阪店



〒556-0011
大阪市浪速区難波中3-3-23桧ビル4F
TEL.06-6645-5186 FAX.06-6645-5187
営業時間 11:00〜22:00（年中無休）

Champion東京店



〒101-0061
東京都千代田区三崎町3-8-1西田ビル6F
TEL.03-3221-6237 FAX.03-3221-6267
営業時間 11:00〜22:20（年中無休）

いつ、何時、誰の注文でも受ける！

地方からも利用可能な
チャンピオン独自の
便利なビデオ・レンタルシステム!!
お好きなように借りてくれ！

その1 店頭にてレンタル、店頭へのご返却
その2 店頭にてレンタル、宅配便でのご返送
その3 TEL・FAXにてご注文、往復宅配便レンタル

※東日本地区にお住まいの方は東京店で構いませんが、西日本地区の方は大阪店をご利用ください。
※通信レンタル会員を希望される方は、400円切手を同封の上、住所、氏名、電話番号を必ず記入してChampionまでご郵送してください。

オフィシャルビデオランキング

こんな広告ばっかりだとビデオ・レンタルが本業だということが忘れられそうなので、人気のビデオ・ランキングをつけました。借りるときの参考にしてください！ この他にも古今東西ありとあらゆるプロレス、格闘技ビデオをレンタルしています。

1位『実録ハヤブサ最期の日』（東芝EMI）
2位『FMWリストラ大作戦』（東芝EMI）
3位『天龍vs大仁田WAR7周年記念大会』（クエスト）

疑惑 パンクラス 黒幕 徹底検証

巷に広まる「前田襲撃事件パンクラス共謀説」。これを受けて尾崎社長は「事実無根」という釈明のため、マスコミ各誌（紙）に対してインタビュー行脚を開始。なんと絶賛取材凍結中の本誌に対してまでも「インタビューを受けてもいい」というオファーがあった。しかし既に掲載されたインタビューがズバリ言って、各誌（紙）どれもほとんど変わらない内容なので、本誌はその申し出を勝手に辞退。そのかわり各誌（紙）でのコメントを事件当時の状況とリンクさせて検証していこうと思う。名付けて「尾崎社長の素晴らしき釈明全集」。では行ってみよう。

パンクラス尾崎社長の

まずはツッコミなしで、各誌（紙）に掲載されたパンクラスの数々の疑惑に対する、尾崎允実社長の釈明を掲載させていただく。尾崎社長の言ってることが正しいのか、巷の噂が正しいのか、それともどちらが正しいわけでなく、問題は別に存在するのか？　その答えを紡ぎ出すために、一字一句じっくり読んでいただきたい。

高橋義生の不穏な動きについて

「中央大学の前田氏の講演会にて、当団体の誹謗中傷及び虚偽の発言があったため、ウチの選手が殺気立ってピリピリしていたのは事実です」（パンクラス公式サイト）

「高橋に確認したら『山本喧一選手のことや世間話をしていた』ということでした」（『週刊ゴング』12月9日号）

高橋が前田を指さして、安生に場所を教えてるように見えることについて

「どう……なんでしょう。そこは聞いてないですね。でも、指さしていたのは、ボクも指さしていたんですね。前田氏がバックステージに来たときに『あっ、前田氏が来てるよ』って、ボクも指さしたんですよ」（『SRS・DX』12月9日号）

「安生さんは目をケガしてよく見えないと言ってたんで、青コーナーの入場口はどこどこという話はしてましたけど、あの人（前田）を捜すってことはなかったです」（高橋・談、『週刊ファイト』12月2日号）

「19日に高橋に改めて確認したところ、安生選手が私（尾崎社長）を捜していたので、私を指さしていたということです。事件当時、私は彼らの対角線上にいました。このことが誤解を招く原因になったのかもしれません」（パンクラス公式サイト）

襲撃直後と事情聴取後では内容が異なる安生のコメント

「いま、目をケガしてるんでどこに誰がいるんだかわからないんですよ。そしたらなんか横見たらいたんで、前に一発殴られたから殴り返しただけですよ」（襲撃直後のコメント）

「前田日明が会場にいるって聞いたときから、これでなにもしなかったらまた『あいつらは俺の近くにいたのになにもできなかった』って言うだろうなと思ったんですよ。それで先に一発殴って既成事実を作って、向こうがケンカ腰で来たら『オクタゴンで決着をつけよう』っていうシナリオでしたから」（事情聴取後の会見）

前田が倒れたあと、山田学が「囲め、囲め！」と叫んだことについて

「それは、僕は確認してないですけども、どういう意味でしゃべったのかってことでしょう。『見せるな』っていう意味かもしれないし。まあ、前田氏が危ない倒れ方をしたんで『近寄るな』っていう意味かもしれない。だから、それで共謀だとかいうのは理解できないし、そんなことはないと思いますよ」（『SRS・DX』12月9日号）

「取り囲んだのはカメラマンの方たちと記者の方たちです。ウチの選手はそれを遠巻きに見ていたという感じです。それに船木が『救急車呼んで、救急車！』と叫んでいます」（パンクラス公式サイト）

襲撃後、安生、高橋、船木がパンクラス控室に一緒に入っていったことについて

「安生さんがバッといきなり走り出して、止めようにも止められなかった。安生さんと控室に入ったのは、ボクは自分の荷物を取りに入りました」（高橋・談、『週刊ファイト』12月2日号）

安生と高橋「疑惑の握手」について

「安生さんパーティーに出るというのでどっかに行っちゃったんですよ。ボクも帰ろうと思って駐車場に向かったんです。そしたら出口の所で安生さんに会ったんで『お疲れさま』と言って握手しただけです」（高橋・談、『週刊ファイト』12月2日号）

「インターネットでは安生さんが殴った直後とか流れてますけど、事件発生後から約40～50分経過してから高橋は出口付近で安生選手と会ったそうです。その際に「お疲れさまでした」と握手したそうです。高橋は『嫌いでもない人にムスッとして挨拶する方が変ですよ』と言ってました。高橋の笑顔と握手は、この事件を嘲笑する類のものでは決してございません」（パンクラス公式サイト）



尾崎社長が語る「安生の気持ち」

「ここまでに至る経緯を考えていただけないでしょうか。安生選手は、パーティーの席で大勢の人間の前で殴られました。また家族のいる自宅へ直接前田氏から脅迫めいた電話をかけられ、そして度重なる誹謗中傷を含んだ暴言を、不特定多数の方がご覧になる各メディア上にて行われました。それが前田節となりマスコミやファンの皆さんが持ち上げてきましたが、そこには必ず被害者がいるんです」（パンクラス公式サイト）

前田を告訴することについて

「前田氏の講演会の記事が（週刊）『ゴング』（10月25日号）さんに載って『日本語喋れるんだろうか？』『変な宗教にでも入ってるんじゃないか？』『フジテレビのインタビューでパンクラスの選手がリングスは八百長だと言っている』等ですね、これを見たときに『もう、これはだめだ』と金曜日（11月12日）には『控訴しよう』と決めたんですよ。まあ、変な話、リングスの方からね、『パンクラスが共謀してる』とかってまた言うようだったら、予定通りの行動を、名誉毀損、信用毀損、営業妨害、これで正統的に僕らはやろうと思っています。過去も含めて」（『SRS・DX』12月9日号）

前田に対する選手の感情

「船木はビックリしている状況です。前田氏に関しての気持ちっていうのは船木だろうが鈴木だろうが一緒ですよ。『もう、いい加減黙ってくれませんか』と、気持ち的には選手みんな同じだと思うんですけど、この件に関して船木はね、前田氏ってわかった後でも『救急車！』って2回くらい叫んで、やってるわけだから」（『SRS・DX』12月9日号）

事件に対する尾崎社長の提言

だからもう一回、マスコミやファンの人に考えて貰いたい。前田日明なら何をやっても許される

のかと。前田日明ならこれまでの暴力行為は武勇伝になっていたでしょ？　ファンもマスコミも武勇伝にしてしまった。マスコミにとって前田日明はいいネタを提供するレスラーの最たるものでしょう。だけど、彼の行為を正当化してきた責任は凄くあると思いますよ。（『週刊ファイト』12月2日号）

前田日明なら何をやっても許されるのか!!（尾崎社長）

以上が主な疑惑についての尾崎社長の見解である。さて早速検証に入ろう。この事件は起ってしまった直後から「誰も得をしない事件」と言われていたが、尾崎社長のコメントをまとめてみて、よりその思いを強くした。まず最も得をしなかったというか、ダメージを受けたのはやはり〝被害者〟前田日明。この事件で強者のイメージが少なからず崩れたことは否めない。そして殴った安生も前科者となる可能性が高く、パンクラスは「黒幕」容疑、前田を守れなかったリングス勢も非難を浴び、倒れた前田を助けることのなかった多くの格闘家も、襲撃に参画したようなイメージがついてしまった。そして今回「共謀容疑」釈明のインタビューを受けた尾崎社長もまたイメージダウンに陥ってしまった。いくら正論を吐いても今回は前田が被害者であり、どうしても悪口を言っているように聞こえてしまう。結局、唯一得をしたのは事件を表紙にしてバカ売れした「ゴング」だけという、わけのわからないこの事件。なぜ、こんな事件が起こってしまったのか？

そもそもこの事件が起こる背景は、当然前田のこれまでの言動と行動に問題があるわけだが、それとは別に事件を起こすムードを「ピリピリしていた」というパンクラスの選手始めとして、多くの選手が作りだしていたことが問題である。そしてこのムードこそが、パンクラスへの疑惑を生み出す要因ともなっている。

素晴らしき釈明全集

このムードのために、たとえ高橋が本当に安生とヤマケンの優勝について話していても、ひそひそ話しをしているように見えてしまうし、ましてや高橋は襲撃前、前田の方を指さしていたところを目撃されており、これでは共謀と言われても仕方がないところがある（尾崎社長は「高橋は私を指さしていた」と言っているが、目撃談では明らかに前田を指さしていたという意見が多い）。

安生も犯行直後は「パッと彼（前田）が目に入ったんで、一発殴られた事を思い出して一発殴り返しただけですよ」と盛んに言っていたのだが、事情聴取後の会見では一転殴ってからのことも計算していたことを告白。後者が事実なら山田学の「囲め、囲め！」発言からして、それこそ一歩間違えたら「よってたかって集団リンチ」みたいなことになっていたのでは？　と勘ぐってしまう。尾崎社長は「見せるな」「近寄るな」という意味かもしれないと語るが、写真に写る山田の表情を見ると、とても心配してる風には見えない。

高橋の発言にも疑問な点が多い。高橋は安生が襲撃したあと、前田が倒れている横を倒れた前田と内田マネージャーを一瞥して通り過ぎた。そしてそのあと、再度前田が倒れているところに安生と共に戻ってきたところを取材陣に目撃されている。それなのに「止めようにも止められなかった。安生さんとは自分の荷物を取りに控室に入ろうとしたとき、偶然一緒になった」と語ってしまっているので逆に疑惑が広がるという、皮肉な結果になってしまったのだ。

それともう一つ高橋の疑惑に、有名な〝笑顔で握手〟のシーンがあるが、これも高橋は握手したとき「嬉しかったッス」と言っていたという目撃談が多数あるにも関わらず、「お疲れさま」と言っただけと発言したために、またしても懐疑の眼差しを向けられることになった。

状況検証は以上である。やはりパンクラスは共謀したのではないか？　そう思われる点はいくつかあったが、会場のムードがそう見える土壌を作り出していたのも、また事実である。正直言って目撃談だけでは、この事件の真相はわからない。しかし、会場にキナ臭いムードが漂っていたこと、事件を予言していた格闘家、関係者が複数いたことは事実としてしっかりと記しておきたい。

さて、ここまでは尾崎社長のインタビューを通して疑惑の検証をしてきたわけだが、今回のインタビューで尾崎社長が最も訴えたかったのは、共謀疑惑釈明以上に前田の暴言の数々を告発するためのものだったような気がする。

尾崎社長が言うとおり、確かにこの問題の根源は〝前田節〟と呼ばれるお馴染みの前田過激発言にある。前田風に言えば、前田はオイタが過ぎた。高田が「あの人はいつも二言多い」というように、言わなくていいことまで言っていつも敵を作ってしまうのが前田だ。しかし悪口言いたい放題に見えて、一方でかならず相手をリスペクトしていることも〝前田節〟の特徴である。猪木のことしかり、船木や高橋についてもかならず以前に認める発言をしている。ただ誹謗中傷オンリーの〝前田節〟になるときも当然ある。でもそれは必ず、前田にとって許せないことを言われた（やられた）ときだけなのだ。だから安生が殴るまでの経緯と共に、〝前田節〟が爆発するまでの経緯も少し考えてほしいとボクは思う。

確かに前田の発言は「ウソ（無意識）、大袈裟、誤解を招く表現」が多い。今回の事件も身から出たサビと言える。でも前田は自分の発言に対する批判も賞賛も、必ず自分が全面に出て受けてきた。だからこそ、今回のパンチも全面で受けてしまったわけだが、この常に一人で戦ってきた前田を相手に、大人数で襲撃しようとしたムードがあったことが、やはり今回の事件に残る不快感の原因なのではないだろうか。

以上がボクなりの検証であるが、『紙プロ』練習生であるボクには少し荷が重いテーマであった。そこで最後の結論はやはり『紙プロ』の2大巨頭、山口日昇と吉田豪に語ってもらうことにしよう。「なに長々とつまんないこと書いてんだよ！　こんなの一言で終わりじゃねえか。事件の黒幕はパンクラス。それが『定説』です（笑）」（山口）「やっぱり高橋は〝グル〟だった（笑）」（豪）「悪党ロマンの道を突き進め!!　ピー！！（笑）」（山口）「ピー！出てこ〜ヒ！（笑）」（豪）……どんなに深刻な事件でも全てこんな冗談ですましてしまう『紙プロ』はホントにタチが悪い。そして、それを読んで喜んでる読者もタチが悪い。でもやっぱり一番タチが悪いのは……。

文・堀江ガンツ





ヒャッ!? 「前田襲撃事件」の〝安生&髙橋・疑惑の握手〟の真横で笑っていたShow氏が押しかけ釈明！

～そしてそのShow氏が取ったスクープ！ 〝猪木さんが語る「前田襲撃事件」〟～

つき合い／山口日昇

「前田襲撃事件」で一躍話題となった、〝安生&高橋・疑惑（？）の握手〟の瞬間。その写真は各誌紙の誌面を飾ったが、安生&高橋の横で、大笑いしている男の存在に不快感を持った関係者&ファンは多いことだろう。ネットでも、ファンから矢のような批判を浴びまくり、心が矢ガモ状態なこの男の正体は、言わずとしれたShow氏である。『SRS・DX』等で大車輪の活躍をしているので、ご存じの読者も多いことだろう。しばらく『紙プロ』では仕事をしていないにも関わらず、ネットの「『紙プロ』キャラ不人気投票」ではダントツの1位に輝く敏腕ライターである。なぜにこの男は安生&高橋の横で笑っていたのか？ ゼヒ、その釈明をしたいというのだ。なぜだか、この事件の黒幕はShow氏だと言う人まで出てきて困りはてているという。そもそもそんな場所で笑っている本人が悪いわけで、そんなことは知ったこっちゃあない。だが、地球に優しい本誌は、Show氏が近々刊行する本の取材の際に取った、猪木さんの事件に関するコメントを教えてくれるなら、という条件つきで釈明につき合ってあげたというわけである。

――今日はなに？

Show なにっていうか、まあいろいろですよ。それより腹減ったなあ！ なんかうまいもんでも食いましょうよ。

――けっこうです。時間ないし。

Show それは僕も同じですよ。今度出す単行本『トリプルクロス～電撃プロレス＝格闘技読本～』（メディアワークス刊）の作業の真っ最中なんですから！ その本には山口さんの言った、「お・お・た・に・や・す・あ・き」「さ・ん・ま・の・し・お・や・き」の話も入ってますから。あれ、「お」と「や」と「き」の3文字も合ってるからダメですよね？

――（興味なさそうに）そんなことどうでもいいから、猪木さんの「前田襲撃事件」に関してのコメントを聞かせてよ。

Show いや、その話をする前に、僕はこの取材は山口さんだから受けるんですから！

――誰がキミに取材したいなんて言った？

Show ヒャッ!? 『紙プロ』の「その他大勢」には興味ないんですから。誰が誰だかわかんないし。その他大勢の方は「アマチュア以下（Show氏いわくターザン山本のこと）」とは言いませんけど、僕の考える「プロ」の人じゃないから。

――へ？ 誰のこと言ってるの？

Show あ、すみません。それで察してください。

――なにを？

Show あ、すみません。だから念を押しますけど、僕は山口さんだから取材を受けるんですからね。

――だから！ 取材したいなんてひと言も言ってませんよ。で、猪木さんはなんて言ってたの？

Show それが凄く簡単なんですよ。今回の「前田日明襲撃事件」の話を振ったら、それなりにその話はしたんだけど、最後は「ひと言」っていうか。

――（俄然、身を乗り出して）ひと言？

Show 「だからまあ、それもいい人間修行だろう」って。

――「いい人間修行」！

Show なんかグッときちゃいました。僕、バリバリの佐山聡信奉者なんですけど、最近やっと自分が猪木信奉者だってことも自覚してきたんですから。さすがに遅れてきただけのことはあると。

――キミはコロコロといろんなものを信奉するね。猪木さんが面白いなんて思わないって言ってたじゃない。

Show ヒャッ!? あ、言ってた言ってた。

――もういいよ（笑）。

Show あ、はい。で、猪木さんなんですけど、「人間というのは言っていいことと悪いことがある」と。「それなのに、なにを言ってもいいと思っている。そういうひとつの礼を欠いたことが、結局、事件に巻き込まれてしまう原因になってる」みたいなことを言ってましたね。

――それは前田日明に対して投げかけてる言葉？

Show はい。いや、その言葉を聞いた時にもグッときちゃって、「あっ、そっかあ！」と思ったんですよ。「批判」とか「誹謗中傷」って言葉じゃなくて「礼を欠く」ってことなのかあ！って。で、日明兄さんの場合は「それ（言いたい放題）を売りにしてきたんだろうけど、本当にそう思っているのか、それを演じているのか、それによって違うから。マスコミが書いた記事のイメージ通りに演じるなんて面白くないよ。だから、こざかしく見えてしまうんだ」みたいなことも言ってたんですよね。

――そこだけ抜き出されても、よくわからないね。

Show あ、今回の事件と日明兄さんを絡めて「こざかしい」と言ってるんだと思います。当然、前フリとして「卑怯な手はいかん。やるなら正面から」みたいな言葉があったあとなんですけど。それから、インタビューの途中では、「俺はもうプロレスに興味はねえんだよ。もう引退してるんだから。なんで引退してる人間に、インタビューに来るんだよ？」って怒られちゃいましたよ。もちろんその後に「ンムフフフ」って笑ってましたけど。

――それから？ 猪木さんは他になんて言ってた？

Show 「世界を全部騒がせてみないと、つまらねえというか」とも言ってました。

――ンムフフフ。それから？

Show これ以上は教えられません。あとは、『トリプルクロス～電撃プロレス＝格闘技読本～』を読んでください。

――じゃあ、もう帰ってください。

Show ヒャッ!? で、でも、猪木さんは日明兄さんに関していえば、心配してましたよ。全部読めばわかるけど、全体的には日明兄さんに対するエールみたいな感じになってるし。それは僕がそうしたんじゃなくて、インタビューが終わった段階でそう思いましたから。

――お前、「前田襲撃事件」で安生と高橋が〝疑惑の握手〟してる横で笑ってる写真が載ったから、どうせその言い訳にきたんだろ？ 業界やインターネットで顰蹙買ってるから（笑）。

Show ヒャッ!? まあ、ジェラシーでしょうね（なぜか自信満々に）。ただ、『週刊ゴング』（12月2日号）に掲載されちゃったんですよね。

――『ゴング格闘技』にも載ってたけどね。キミ、あれは顰蹙買いますよ。

Show すみません。深く反省してます。それはホントにそう思います。だから、言い訳をするつもりはないし。もし逆の立場だったら、僕も同じようなことを考えるだろうし。だから「不謹慎」と言われたら返す言葉がありません。

――じゃあ返さなきゃいいじゃない。

Show あ、はい。ただ、自分を正統化するために「あいつはよくない」とかインチキな正義感を振りかざす人がいたら、僕はそれは論旨の擦り替えだと思うから納得できないです。実際、僕に「あれはマズいだろう」って



これが〝疑惑の握手〟と呼ばれた瞬間に笑っているShow氏だ。ヒャッ!?



『週刊ゴング』12月2日号より

言う人、言う人、全員が嬉しそうに言うんだもん。「人の不幸は蜜の味」っていう言葉を実感させられましたよ。

——は？

Show だから、いいとか悪いとかじゃなくて、僕は「納得できない」って言ってるだけだから。

——よくわかんないけど、結局、お前はなんで笑ってたの？



安生は前田襲撃後、フェアウエルパーティーが行われている横で、記者陣を相手にしゃべりまくった（P42参照）。そのコメントを収録しているときもShow氏は、なぜか笑っている。Show氏は「最前線で取材しているときにシカメッ面してコメントなんか聞けない」という釈明をしていたが、他の記者は、どちらかというとシカメッ面である。謎だ。

Show だから、あの時の状況を説明すると、僕は安生選手を追いかけたんですよね。で、一端、安生選手はパーティー会場を探して会場を出るんですけど、そこで他のマスコミの方がパンクラスのことを聞くんですよ。僕のそしたら「パンクラスは関係ないです。僕の単独行動ですから」みたいなことを安生選手が言うんですよね。で、その時にパーティーが会場内で行われるのがわかって、また会場に戻ってくるんですよ。そしたら、たまたまその時に会場の出入口にいた高橋選手とバッタリ会ってしまって、握手を交わすんですよ。そのタイミングがメチャクチャ笑えたっていうか。

——はあ？

Show だって、ほんの何十秒か前に「パンクラスは関係ない」って言ったのに、みたいな感じで二人で握手してるんだもん。実際、その時に安生選手も「さっき『パンクラスは関係ない』って言ったばかりなんだけどなあ」って笑いながら言ってたんですよね。だから、それを見ていたら思わず笑っちゃったんですよ。それを「共謀した」なんて言われたらたまんないですよ。

——は？「共謀した」って誰が誰に対して言ってる共謀？

Show いや、僕もあの事件の裏で共謀してたなんていう人がいるんですよ！ 世の中にはそう思っている人もいるんですから。正直な話、今度も『PRIDE.8』（11月21日、有明）がありますけど、一応、取材で行かなきゃいけないから、僕は気をつけますよ。

——なにを？

Show 日明兄さんのファンには求心的な方もいるだろうから、なにをされるかわかんないし。みんな冗談で「Show狩りが始まってる」なんて言いますけど、言われてる僕は大変なんですから。

——誰もお前なんて相手にしてないよ。

Show マジですよ、これ。でもね、僕だって、日明兄さんが倒れた時には気が動転してしまって、どうしていいのかわかんなかったんですから。ホントにそれは、僕の笑っている写真が掲載された『ゴング』を見ればわかりますけど、日明兄さんの倒れてる横で、僕の引きつった顔というか、心配そうに日明兄さんを覗き込む写真が掲載されてるじゃないですか。だから、僕はただ単に笑っていただけじゃないんですから。でも、あの時にはどうしていいのかわからなかった。僕なんか記憶が飛んでるくらい、動転したんですから。僕はホントに日明兄さんの容態は心配してるし。

ヒャッ!?

——キミがなにに対して釈明してるのか、なんだか全然わかんない。「あのタイミングが笑えた」っていうけど、キミは笑うタイミングがズレてるね、確実に（笑）。そういうタイミングが悪いときにそういう写真を撮られてるっていうところに、キミの運の悪さがある。運が悪いのは、キミになんかしらの原因があるんだよ（笑）。

Show い、いや、悪くても運があるだけいいことだと思うんで（苦笑）。でも素直に反省します。あ、それから山口さん。さっき言った「その他大勢」の方々に言いますけど、会場に取材に来たら、誰っていうことじゃなくて、まず自分の方から挨拶をした方がいいんじゃないですか？ 別に「しろ」って俺が言う権利はないんだけど、挨拶なんてするのは当たり前だと思うし。

——は？ なにをおっしゃってるんだか、まったくわかりません。

Show いや、ある人から『紙プロは山口日昇以外、誰が誰だかわかんないから話かけられない』って言われたし、某マスコミの偉い方曰く「たとえば吉田豪に文句を言いたくても、誰なのかわかんない。『顔を出せ』って言うのはそういう意味だよ」って言ってました。そうじゃなくても豪ちゃんなんか、めったに会場に来ないんだけどさ（苦笑）。

——キミは誌面に出すぎなんだよ。しかもタイミング悪いところで（笑）。

Show ヒャッ!? い、いや、別にそんなことはどうでもいいんですよ。ただ、みんな『紙プロ』への文句とかを俺に言ってくるから大変なんですよ。大変っていうか、タチが悪いんだよ。俺は『紙プロ』の人間じゃないって！

——当然です！

Show そうじゃなくても、ここの世界は村社会なんだから、頼むよ、ホントに。たとえばチョロ氏だって、当時、坂井ノブ氏が「これが今度入りました、松澤（チョロ）くんです」って、僕は挨拶されたもん。基本的に、業界の先輩に対して新参者が足を踏み入れたら、知ってる人には挨拶くらいするでしょう。

ヒャッ!?

——あ、ウチの連中がキミに挨拶しないってことを怒ってるの？ やっとわかった。

Show だから俺の話じゃないんだって！ ただ、高田道場だって、パンクラスだって新弟子は「今度入りました○○です」って挨拶するもん。そこまでしなくたっていいけど、業界の先輩だったら会釈くらいはしますよ。俺だって、嫌いな人には頭さげないけど、そうじゃなければ、普通に挨拶してるんだから。

——あ～、ウチの連中が業界の記者さんたちに挨拶しなかったのをキミが文句言われたわけだ。やっとわかった。でも、お前が挨拶されないとしたら、キミはウチの連中に嫌われてるんだよ（笑）。

Show あ、そっかあ！ 謎が解けましたよ、って喜んでる場合じゃなくてさ。だから、良くも悪くもみんな僕のところに言ってくるのは勘弁してくださ～い！っていう話です。それを含めて僕は「その他大勢の方とはプロ観が違う」って思ってるんだから。

——ねえ、話題がバラバラだよ。あのさ、ところでキミ、日本語しゃべれる？ なんか変な宗教入ってない？ 脳味噌の皺伸ばしてあげようか？（笑）。

Show なに言ってるんですか！ 僕ほどこのニッポン国を愛してる日本人はいないんですから。だから僕は「ニッポン国」っていう宗教に入ってるようなもんですよ。

——俺もう、帰っていい？

Show ヒャッ!?

【事件から6日後の11月20日、都内某所で収録】

●ズバリ言って、猪木さんのコメントは、これだけでもいろいろと推測できる面白いものだったが、Show氏の話は、なにに対して釈明し、なにを訴えたいのかが、まったく謎のまま時間は過ぎていった。結局Show氏が安生&高橋の横で笑っていたのは、笑い上戸なのか？ 単なる変態なのか？ その理由はShow氏にしかわからないもののようだ。ただ、「前田日明が殴られて嬉しくて笑っていた」とか、「事件の影の仕掛人 or 共謀説」は、業界の人間がShow氏をからかって流しているだけの模様。いずれにしても、はっきりモノを言わなすぎたり、無防備すぎたり、肩に余計な力が入りすぎたり、「ヒャッ!?」と言いながら肩をすくませすぎたり、本人にとっては意味のある行動も挙動不審な動作に見えてしまうというShow氏の習性が、いらぬ誤解を招くというだけなのだろう、きっと。

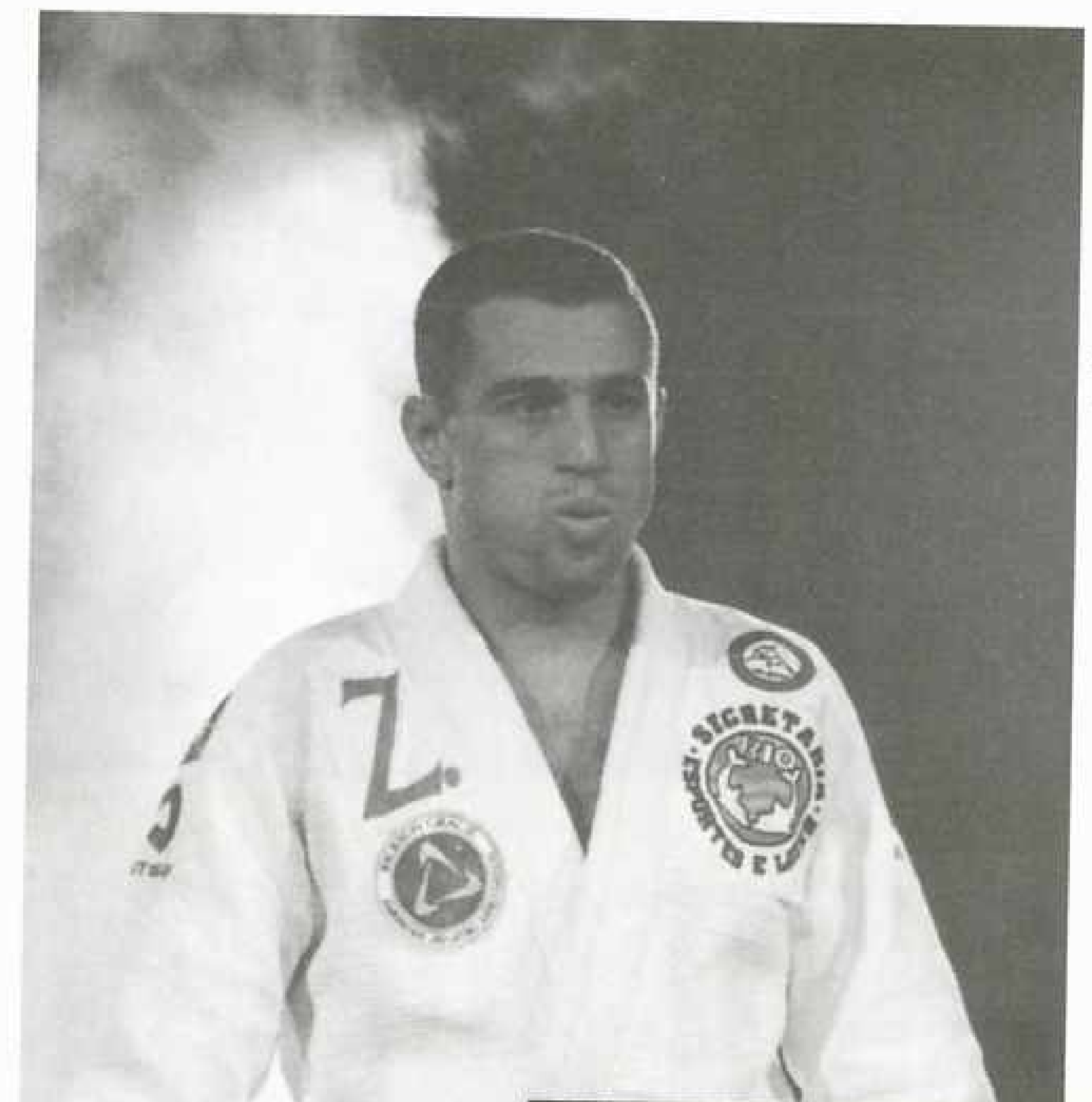
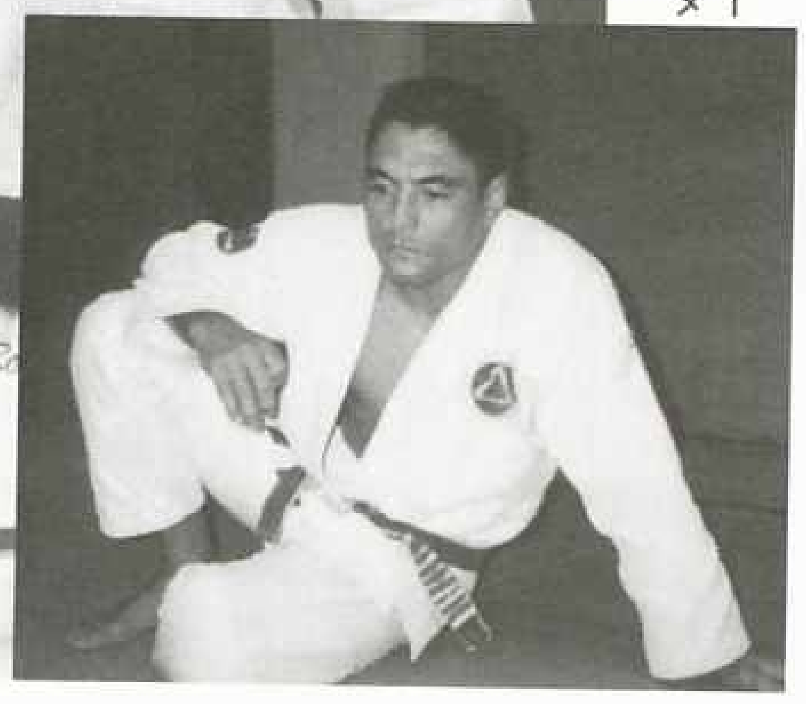
サクvsホイラー戦から2日後に

最後までタップしなかった根性には脱帽！ しかし……
〝グレイシー〟バグる!!

桜庭和志がホイラー・グレイシーに〝完勝〟した2日後の11月23日、台東区リバーサイドスポーツセンターで行われた「ヒクソン・グレイシー柔術」の技術セミナーにヒクソン&ホイラー兄弟が姿を現した。この日はなんと！　本誌に連載している花くまゆうさく先生がヒクソンにレクチャーを受けるという仰天シーンもあり、話題もテンコ盛りだったのだが、仰天と言えば、やはり桜庭vsホイラー戦当日にはノーコメントだった兄弟が、素晴らしく仰天のコメントを連発しまくったことだろう。

ホイラーはサクにアームロックをギシギシに極められながらも、最後までタップしなかった。その〝血族の名誉〟と〝グレイシーという看板〟を守りきるという誇り&根性には素直に脱帽したい。しかし、もはや「グレイシースペース」と化したこの日の発言には、ズバリ言って「？」マークが点灯しまくったのである。グレイシーよ、あなたたちは「サムライ」じゃなかったのか？　何を言っても〝それは、ヒクソンの勝手〟になるのか？　それとも、この発言の裏には巨大な真実が隠されているのか？　グレイシーにはまだまだ大きな謎が残されている。

～11月23日　ヒクソン・グレイシー柔術セミナー（台東リバーサイドスポーツセンター）より～



グレイシーにとっては〝魔の11・21〟となった。その桜庭戦でのホイラーの入場シーン（左）。2日後の11・23、柔術セミナーでのヒクソン。コメントも冴えまくった（下）

取材／中村カタブツ君（36才）
協力／『SRS・DX』orサダハルンバ
構成／本誌編集部

受講生たちを前にして語るヒクソンのコメント

ミスター・サクラバにはがっかりしました。あんな消極的な闘い方をするとは思わなかったからです。彼の戦法は勝つことが目的ではなく、打撃のフリをしているだけにすぎなかった。とてもファイトと呼べるものではありません。

オープンスペースを作るために打撃を使うことを私も否定はしません。だから、彼が1ラウンド目にとった戦法は理解できます。しかし、足を蹴ってるだけでホイラーからタップは絶対に奪えない！　試合後にホイラーは、「ミスター・サクラバのパンチやキックは女の子のようだった」と言っているわけですから。これは事実です。

ミスター・サクラバはストライカーではなく、サブミッションのエキスパートとして知られているはずです。だから、あの日の試合では、彼は、彼が持っている一番のテクニックを生かすものだと思っていました。皆さんもわかると思いますが、ホイラーはミスター・サクラバより体重が20キロ以上も軽く（実際の差はそれ以下）、打撃もうまくはない。しかし、ミスター・サクラバが打撃を望んだ時には立ち技につき合った。ところが、ホイラーが寝技に誘った時には、ミスター・サクラバはそれにつき合おうとしなかった。これも事実です。

私は95年にミスター・ナカイ（中井祐樹）と闘いましたが、あの試合では、彼は、私より体重が軽いだけでなく怪我までしてました。私はそんな人間をパンチで傷つけようとは思いませんでした。それは不公平であり、無礼であると思ったからです。私は、相手の一番弱いところをついて闘うことには賛成できない！

私がミスター・ナカイと闘った時に考えたことは、どれだけ早く寝技に持ち込んで相手を傷つけないで倒すか、ということです。それを自分の課題としました。

私は、それでもミスター・サクラバがタフでテクニカルな選手だとは思います。しかし、この試合を通して彼にはウォリアー（戦士）のハートがないことがわかりました。彼はウォリアーではなく、観客を相手に試合をするのが目的だと感じました。

もう一つ、私ががっかりしていることは、あの日の裁定についてです。ホイラーは凄くハードな試合に耐えてチャンスを待ってました。が、ラスト1分（実際にストップがかかったときの残り時間は1分44秒）のところで、あまりいい体勢ではないというだけの状態でレフェリーは試合を止めてしまいました。リング上で私がレフェリーから聞いたのは「ドクターストップが入ったからだ」ということでした。しかしその後、プロモーターからは「レフェリーがTKOにした」と聞きました。ドクターはそれに賛成するだけで、判断したのはレフェリーだということでした。

ドクターはレフェリーの判断だといい、レフェリーはドクターの判断だと互いに責任のなすり合いをしています。こういうハードなファイトでは選手のタップを待つべきです。その前の試合では、ヘンゾ（・グレイシー）がミスター・オオツカ（アレクサンダー大塚）の腕を極めた時に誰も止めようとしなかった。サブミッションにTKOはありえないのです。私と闘ったミスター・ヤマモト（山本宜久）は、だから失神したんではなかったんですか？　ミスター・タカダ（高田延彦）も腕を怪我しました。TK



「女の子のような蹴り」（ホイラー談）をバッチンバッチン打ち込むサク。ホイラーは、さらに「桜庭はまるでアリがゾウから逃げているようだった」とまで断言。さすが、あの試合で裁定にクレームをつけただけのことはある

これはグレイシーの“定説”なのか?

ヒクソン&ホイラー兄弟の「ああ言えばこう言う録」

Oという裁定はサブミッションにはないんです!

そしてなにより言いたいのは、この結果によってホイラーはすべてを奪われてしまったということです。試合に勝つための“スピリット”を奪われたことが、私は寂しくて仕方ありません。はっきり言えることは、ミスター・サクラバは確かにファイターとは呼べるでしょう。だが、ホイラーはウォリアーだということです。

ホイラーは例え腕が折れたとしてもタップする男ではありません。それは彼がウォリアーのスピリットを持っているからです。私との闘いでは負けはしたもののミスター・ナカイもウォリアーのスピリットを持っていました。しかし、今回の裁定は、そのスピリットをホイラーから奪うものとなってしまったのです。

この試合でミスター・サクラバを凄いと思った人は、私が思うかぎり、バーリ・トゥードの意味があまりわかっていないと思います。ミスター・サクラバの戦法は素晴らしいものでしたが、そこにウォリアー・スピリットはありませんでした。それが非常に残念です。

共同会見におけるホイラーのコメント

私はプロのファイターであり、誰かが私の代わりにタップしてほしくはない。そのために日本に来たわけではない。桜庭選手は

私が寝技に誘っても来ようとはしなかった。まるで蟻が象から逃げているような感じだったね。

〈あの状態で逃げる方法はあったんですか〉

ビデオを見ればわかると思うが、私は動いて動いて動いて体勢を変えていた。あそこで、桜庭選手がもし動いたら、あの体勢を崩せた。あの時のサクラバ選手は抑え込みをしていただけだ。

〈再戦は考えていますか?〉

いまはそのことについて考えたくはない。

共同会見におけるヒクソンのコメント

〈ヒクソンさんが考えるバーリトゥードとはどういうものか?〉

バーリトゥードとは、テクニックやこれまでやってきた練習を試す場所だ。私が、ミスター・サクラバが闘わずに逃げたと言っているのはそういう意味だ。

ミスター・サクラバはリング上でファイトをしていたのではなく、アクションをしていたにすぎない。観客にアクロバットのような技は見せたが、勝ちにはいかなかった。

私は今回の試合を見て、ミスター・サクラバが本来の意味でのウォリアーではないことがわかった。皆さんが思うことはそれぞれあると思うが、今回の『PRIDE.8』の結果を見ても、ホイラーのファイティングスピリットは絶対に負けてはいない。それは声を大にして言うことができる。

ミスター・サクラバは、ただ逃げ回って30分を過ごそうとしているようにしか私には見えなかった。選手としてのハートや心構えを感じることはできなかった。あのままいけば試合はドローだったはずで、彼の勝ちはレフェリーに手伝ってもらったということだ。例え、蹴った数が多くても勝ったわけではない。ホイラーは絶対にタップはしなかったはずだ。『UFC—J』(97・12・21)の(マーカス・)コナン(・シウヴェイラ)戦ではミスター・サクラバは一度下った裁定に不服を申し立てて勝ちを拾ったはずだ。

〈今後、あなたやグレイシー一族が桜庭にリベンジする気はありますか〉

ホイラーは試合には負けてないのだから、私がやる必要はない。レフェリーの質の悪さを見ると、今回の『PRIDE』にはがっかりしている。いまはそういう予定はない。

〈なぜタオルを投げなかったのか〉

ホイラーは危ない体勢ではなかったから。ホイラーはアマチュアではなく、柔術の師範だ。自分がいつタップするべきかはわかっている。逆に私は質問したい。ミスター・オオツカの腕をヘンゾが取った時、なぜ誰もタオルを投げなかったのか?

〈すぐに腕が抜けたからでは?〉

いや。伸ばす時間は十分にあった。柔術を理解している人ならわかる。あれは極めていた。サブミッションにTKOはない。10歳以下の試合では見たことがあるが、それ以外ではない。

〈桜庭選手は腕を折ることを嫌って止めていたんだと語っています。あそこでホイラーはギブアップするべきだろうと語っていますが?〉

彼に腕を折りたくないという優しさがあるんだったら、なぜホイラーの足を紫色に腫れ上がるまで蹴り、顔も蹴ったのか? その言葉はウソだ。サクラバはファイターじゃないだけでなく、その上にウソつきだとはびっくりした。ホイラーは自分が不利だとわかっていても、あえてサクラバの誘いに乗ってスタンドにつき合った。でも、ホイラーが寝技に誘った時には、まるでチキンのように逃げた。

〈あの体勢でホイラーは逃げられたのか〉

それもありえる。しかし、問題は打撃でダメージを与えていたにもかかわらず、サクラバはホイラーの誘いから逃げたことだ。『UFC—J』の時にはサクラバはレフェリーの判定に文句をつけて再試合をしてるのに、なぜそれが今回は認められないのかが不思議でならない。

ホイラーがリングに立つ時点で、彼が不利になったり、いろんな問題が起きることはわかっていた。皆さんがどう思うかわからないが、ホイラーがタップしなかったら、ドローということは決まっていた。トム・エリクソンとブスタマンチがやった試合と同じだ。

〈寝技に付き合わなかったとヒクソンさんはおっしゃってますが、決まり手は腕がらみです。つまり寝技につき合ってるんですが、その辺はどう考えていますか?〉

あれはたまたま寝技の体勢になり、たまたまサクラバに有利な体勢になったというだけ。しかし、それはたまたまだ。自分から寝技に入ろうという意志は私には一度も見えなかった。あれが偶然じゃないというなら、なぜ始めからやらないのか? 出来るというなら、始めからやればいい。20キロも体重差があるんだから。例えば、私が同じ闘い方をミスター・ナカイにしていたらどうなっていたと思う? 私はすでに怪我をしている選手、自分より体重の少ない選手を殴ったり蹴ったりすることに楽しみを感じる人間ではない。そんなことをしても、精神的な納得は得られない。私はミスター・ナカイのファイティングスピリットを凄く認めている。

サクラバのように相手を殴って殴って殴って寝技に持ち込んでしまったら勝てるのかもしれない。そういうことはありえるとは思うが、それは精神的に武士道が足りないと思う。

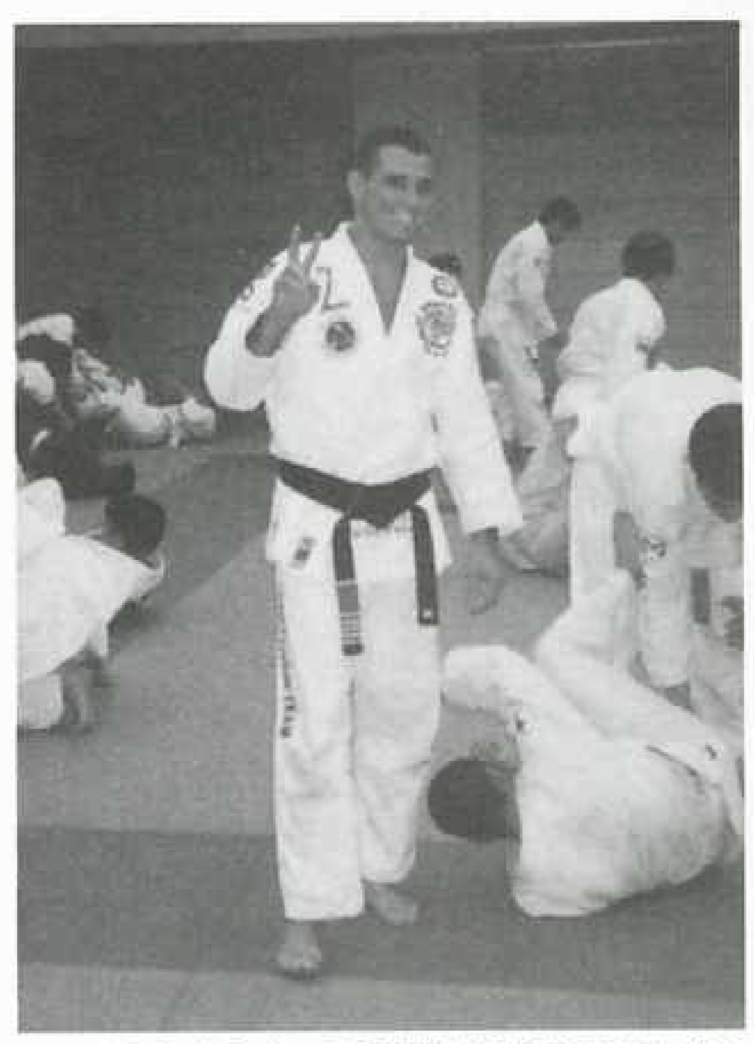
●さて、いかがだろうか。これがサクvsホイラー戦が行われた2日後に出されたグレイシー側のコメントである。

このコメントを聞く限り、ホイラーもサクへのリベンジは考えていないようだし、お兄さんも「ホイラーは負けていないから出ていく必要はない」そうなのである。

ヒクソンの次の相手は、12月2日現在の情報では、パンクラスの船木誠勝戦の実現が濃厚のようだ。

それでいいのか?

確かにヒクソンvs船木というのは夢のカードではあるのだが、その前に、桜庭がホイラーとの一戦を受諾したときに出した「もしホイラーに勝ったら、ヒクソンが出てくる」という条件を実行してほしいものである。侍なんだから(ニコニコ)。



11・23のセミナーで受講生に指導するホイラー。終始ニコニコし、「あのアームロックは極まっていない」と断言しまくっていた。身体が柔らかいのはサクも認めているのだが

相撲とは日本のプロレスのルーツである!!

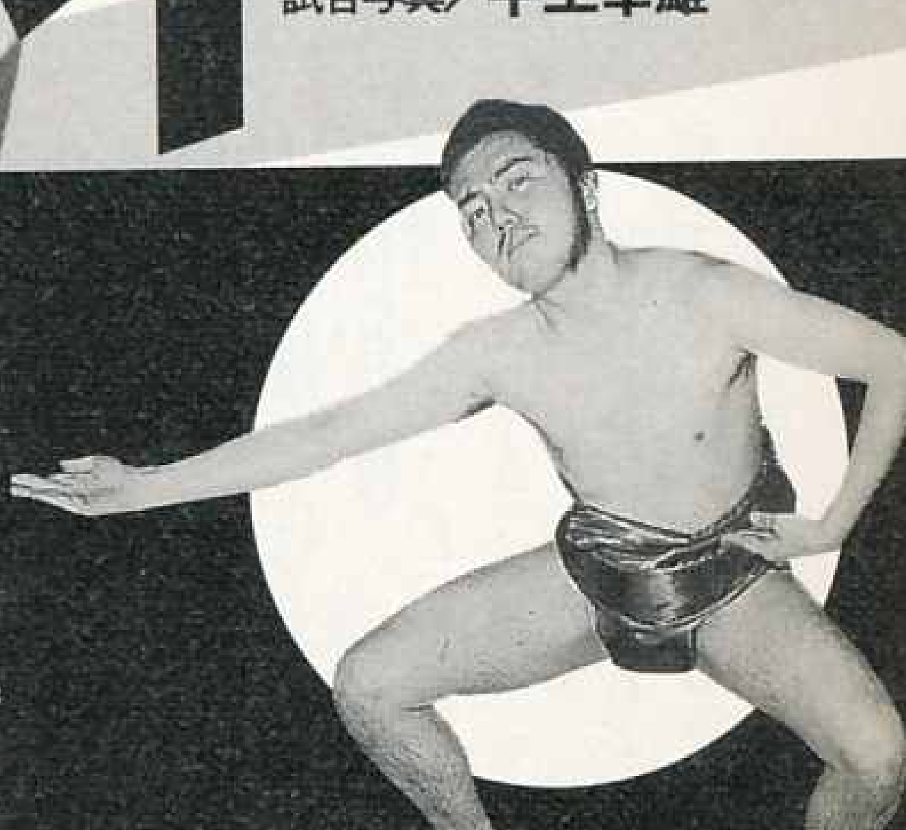


S 相撲多重アリバイ

スモーノブ、がっぷり四つインタビュー

聞き手／スモーノブ
行事＆ピンボケ／チョロ
試合写真／平工幸雄

©日刊スポーツ



はぁ～、どすこ～い！　プロレスも好きだけど、もっと相撲好き！　力士・イズ・ナンバーワン！　そんなワシ、スモー・ノブが相撲を通じてプロレスを語る連載を始めるでごわす。その名も「S～相撲多重アリバイ～」！　「どこかで聞いたことがあるなあ」とか言ってる、そこのヨカタ!!　こっちは相撲オンリーでごわす!!　１００％S・U・M・O!!

なぜ、プロレス雑誌で相撲かって？　そもそも、日本プロレス界の父・力道山先生は大相撲出身でごわす！　相撲のしきたりをプロレスに持ち込んだことで、日本のプロレスは独自の進化を遂げたのは周知の通りっス！　つまり相撲とアメプロの「あいのこ」が、日本のプロレスなのでごわす！相撲を知れば、日本のプロレスが見えてくる「2倍、2倍！（byジェシー高見山）」のお得な企画。「体力の限界っ！（by千代の富士）」まで突っ走るでごわす！　今回、インディー事情にうといスモーノブは行事としてチョロを伴って大刀光関に挑むでごわす。はぁ～、どすこい、どすこ～い！

ガチンコに挑戦したいけど機会がないんだよ!!

相撲から見たプロレス

スモー よろしくでごわす。

大刀光 今日は何を聞きにきたの？ 嫁にも「お父さんに何のインタビューなの？」って不思議がられたよ（笑）。

スモー 相撲出身のプロレスラーは、皆さんカッコいいでごわす。

大刀光 ふ〜ん。そういやぁ、いちばん最後にインタビューを受けたのは相撲雑誌だったなぁ。

スモー 何の企画っスか？

大刀光 （ボソッと）「あの力士はいま……」っていうヤツ（笑）。

スモー アハハハ！ 今日は、その相撲時代のこともおうかがいするでごわす。相撲に入ったのは15歳っスか？

大刀光 18歳だね。

スモー 高校卒業後っスか？

大刀光 いや、オレは高校中退だから。オレが通ってた高校は両国にある安田学園っていうところなんだ。相撲の推薦で入ったんだけど、ケガをしてさ。相撲が嫌になって学校も相撲も辞めちゃったんだ。でも、結局プロの世界に入っちゃったんだけどね（笑）。

スモー 高校を辞めた後は何をしてたでごわすか？

大刀光 いろんな仕事しながら、地元の友達とつるんで遊んでたね。ケンカはナメられちゃいけないときだけしかしなかった。ホントに数える程だよ。

スモー 結構、荒れた生活を送ってたんでごわすね。

大刀光 まあね。その頃は、暴走族やって、右翼やって……。

スモー どすこ〜い！ 右翼！

大刀光 「そろそろ親孝行をしなきゃいけないな」と思って相撲に入ったんだよ。

スモー 千代大海にも負けてないっス！

たしか、相撲では最高で前頭15枚目まで昇進したんでごわすね。

大刀光 うん。相撲に入ったときからひとつの目標があったからね。

スモー 何でごわすか？

大刀光 じつは、高校の1年先輩が寺尾関だったんだよ。寺尾さんには公私ともどもお世話になったよ、小遣いもらったり（笑）。「いいですよ」って言ってるのに、「オレの金が受け取れねえのか？」って無理矢理渡すんだもん。

スモー かぁ〜、かっこいいっス！

大刀光 男気があるよぉ。その恩返しをしようと思って、寺尾さんに勝つことだけを夢見て頑張って幕内に上がったんだよ。それで遂に寺尾さんと当たったんだ。でもさ、いきなり寺尾さんに勝っちゃったんだよ（笑）。

スモー ずいぶん、あっさり目標達成しちゃったんでごわすね（笑）。

大刀光 それで気が抜けちゃったのかな。現役の最後の方は、食っちゃ寝、食っちゃ寝してたなぁ。

スモー そういえば、大刀光さんがいた友綱部屋には、こないだ元・女子プロレスラーの西脇充子さんと結婚した魁皇関がいるでごわすね。

大刀光 あいつとはいまでもたまに電話で話してるよ。

——魁皇関はよくプロレス観戦に来てるみたいですけど、大刀光さんはプロレスは見てましたか？

大刀光 全然見てないよ。あんまり興味なかったなあ。まだ、ボクシングの方が好きだった。スポーツなら野球でもサッカーでも、何でも好きだよ。

スモー 何でも好きだけど、その中にプロレスは入ってなかったんでごわすか（笑）。

大刀光 スポーツだったらスポーツニュースでやるじゃん！ そうでしょ？

——じゃあ、プロレスに入ったのは生活のためだったんですね？

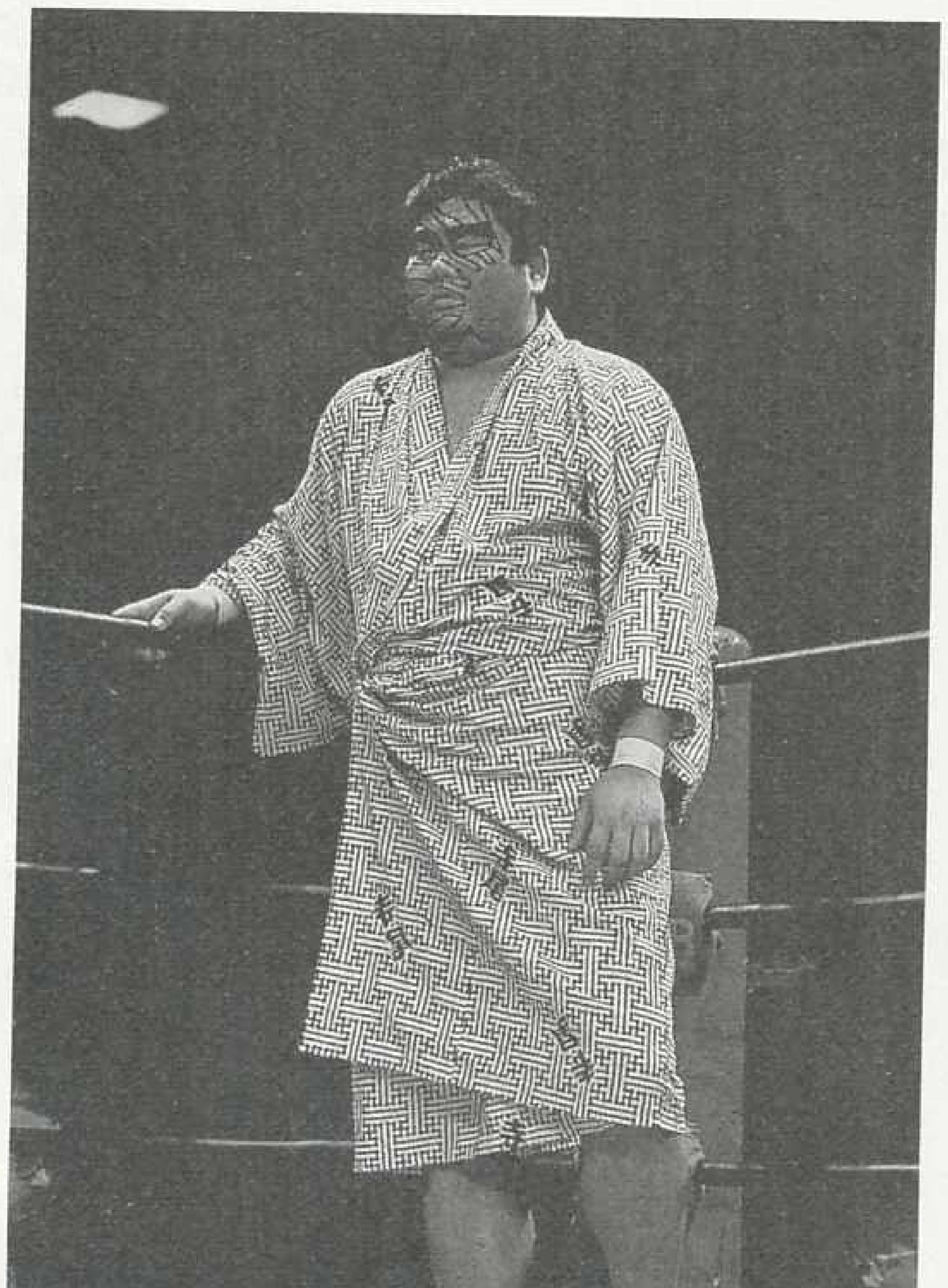
大刀光 そうだね。でも、失敗したかなって思うよ（笑）。

スモー だったら、相撲を引退して親方になる道もあったと思うんでごわすけど。

大刀光 オレがいた頃は、年寄株（※これがないと親方になれない）が一番高かったんだよ。いまじゃ落ち着いて1億円ぐらいだけど、当時は2〜3億円だったからね。

スモー そんなローンを抱えたら、一生働いても返しきれないでごわすね。いまは、何かプロレス以外にもお仕事はあるでごわすか？

大刀光 （ボソッと）水道屋さん。新築の家の給排水の工事をやってるよ。



「大和」というリングネームでデビューした大刀光。アメリカなら大ブレイクしそうな強烈なインパクトがある。是非、この姿でＶＴにも出場していただきたい！

——インディー団体だと、プロレス一本で生活していくのは難しいですね。

大刀光 それが出来るのは全日本と新日本の選手だけだよ。

スモー いまは「寺尾関に恩返しをしたい！」みたいな目標はないでごわすか？

大刀光 ないね（キッパリ）。強いて挙げれば……東京ドームで試合してみたいね。天龍さんが新日に出たときにセコンドに付いたんだけど、あれは凄いな。震えちゃったもん（笑）。あんなところで試合を出来たら気持ちいいだろうなと思うよ。

相撲軍団

スモー あの相撲軍団は、強烈でごわしたなぁ。

大刀光 オレがＷＡＲに入門して1ヶ月だったんだよ。トンガさん（＝ミング）が急に来日できなくなって、オレはプロレスのこと何にも知らないのに試合に出されちゃってさ。

——相撲軍団は誰の発案なんですか？

大刀光 （ボソッと）天龍さん。あれは、オレのプロレス人生で唯一の汚点だよ（笑）。ちゃんとデビューしたかったんだけどねえ（しんみり）。

——ペイントしてたのは素顔を出しちゃまずい理由でもあったんですか？

大刀光 いや。どっから見てもオレだってわかるじゃん（笑）。まあ、あれをやってたときは面白かったけどね。

スモー 相撲軍団を離脱した後はシコ名でプロレスを始めたでごわすな。

大刀光 ……ホントはシコ名は使っちゃダメなんだよね。

スモー シコ名って部屋で代々受け継がれていくものらしいでごわすね。

大刀光 そう、先代の「太刀光」は大関にまでなった人だからね。だから親方にも「シコ名を使うのはまずいぞ」って言われたんだよ。オレもＫＯＮＩＳＨＩＫＩみたいに横文字にしようかなって思ってるんだけどね（笑）。

ガチンコ

——ＷＡＲ時代にはＵＷＦ系の選手とも闘ってましたよね？ 桜庭（和志）選手とも対戦してましたけど。

（バーリ・トゥードに出ても）パンチはしない!!ツッパリで倒す自信はあるから!!

大刀光　ああ、桜庭選手？　軽かった（笑）。でも、彼は性格もいいし、好青年だよ。いま大活躍中だもんね。

スモー　いまの桜庭選手を見て、大刀光さんも「『PRIDE』に出たいな」と思ったりしないでごわすか？

大刀光　ガハハハ、そりゃ出たいけど、お呼びが掛かるわけないじゃん（笑）。お呼びが掛かったら出ると思うけど、ギャラも関係してくるよ。ガチンコでケガして生活出来なくなったら困るからね。ある程度のギャラだったら腕の1本や2本折れてもいいよ。

——谷津（嘉章）さんも同じようなことを言ってましたね。まあ、谷津さんに言わせると「バーリ・トゥードではアマレスが強い」らしいですけど。

大刀光　（呆れ返った様子で）何の競技とか、誰が強いかなんてわかならいじゃん。まあ、人間ががっぷり四つに組み合ってたとするわな。普通の人は倒されるけど、相撲出身は絶対に倒れない！

スモー　たしかに、倒れなかったら負けないでごわす（笑）。

大刀光　長井（満也）選手ってリングスにいたでしょ？「組んで倒す方法を教えてくれ」って、この近所にある阿武松親方（＝元関脇・益荒雄）の部屋に来てたらしいからね。賢い人だと思ったよ。いまのバーリ・トゥードでも、あんなグローブはめてパンチするぐらいだったら、ツッパリの方が絶対に痛いと思うけどね。

スモー　ホ、ホントでごわすか!?

大刀光　ほら、触ってみな（と、掌を突き出す）。

スモー　うわっ、固いっス！

大刀光　そりゃあ、12年間もテッポウをやってたんだから固いよ。

——グローブ装着のパンチか、素手で掌打か選べるとしたら……。

大刀光　（遮るように）パンチはしない！　ツッパリで倒す自信があるから。あんなパンクラスみたいな掌底は効かないよ（キッパリ）。

スモー　うわぁ、大刀光さんがパンクラスに上がって突っ張ってるシーンはぜひ見たいっス！

大刀光　手にサラシを巻いて、水で濡らせばガチガチになるから。相撲協会で禁止にしたぐらい危ないんだよ。

スモー　大刀光さんもバーリ・トゥードに出てほしいでごわす。

大刀光　オレ？　もし、賞金が懸かったら人が変わっちゃうな（笑）。大相撲のときも、賞金争奪のトーナメントで2日間開催して2日とも優勝したことがあるよ（笑）。

——いまリングスで優勝賞金22万ドルのトーナメントをやってるんですけど、興味ないですか？

大刀光　（絶句）……ホント？

スモー　前田日明さん曰く「お金が欲しい人は来てください」っていうことらしいでごわす。

大刀光　それは出てみたいねえ。

スモー　大刀光さんが出たら、絶対盛り上がるでごわす！　やっぱり「ケンカだったら力士が一番強い」でごわす。

——「スタンドでは誰も大刀光にかなわない！」って、北原（光騎）さんが言ってましたよ。

大刀光　ヤクザには勝てないよ（笑）。

スモー　どすこ〜い！　ヤクザと比べてどうするでごわすか（笑）。

——プロレスファンの中にも結構、相撲幻想はありますから。とにかくみんな身体がデカいのは魅力ですよね。

大刀光　なんか、注射打って大きくなってるプロレスラーもいっぱいいるけどさ、あんなの見ても何とも思わないよな。早死にするだけだよ。だいたいさ……（以下、延々と〝身体が大きくなる注射〟の話が続く。掲載不可能な話なのでカット）。

スモー　どすこ〜い！　まあ、注射の話は載せられないので、そのへんで水入りでごわす（笑）。

——そういえば、今年の『週プロ』選手名鑑で「ガチンコに挑戦したい」って書いてましたけど（笑）。

大刀光　よく読んでるね（笑）。やりたいけど機会がないんだよ。



'96・7・21　WARの武道館大会で、桜庭和志と対戦した大刀光。この試合中、コーナーに両足を固定して、ツッパリ連打で桜庭をダウンさせる荒技を披露した。また見たい！

スモー　そういう発言するからには、普段のプロレスに不満があるっスか？

大刀光　なんつーか、飽きちゃった。

スモー　アハハハ！　飽きたっスか？

大刀光　こないだも、SPWFで電流爆破マッチがあったけど、ああいうの嫌だもん。ケガしたくないよ。

スモー　でも、相撲もプロレス並に大きなケガをしそうでごわす。

大刀光　でも、デスマッチのスリ傷とか切り傷って痛いじゃん！

スモー　骨折も痛いでごわす（笑）。

大刀光　いや、別に骨は折れても構わないんだ。そもそも相撲時代から、オレはケガしなかったから。「それだけ真剣に稽古やってないんだ」ってよく言われたけどね（笑）。WARの頃、荒谷のムーンサルト・プレスを受けたときにヒザが顔面に落ちてきたことがあったけど、全然ケガしなかったもんな。

スモー　うわっ、危ないでごわす！

大刀光　頭に来ちゃったからさ、「テメエ、あとで覚えとけよ！」って言ったら、荒谷はビビってたよ（ニコッ）。

スモー　笑いながら言われると余計に怖いでごわす（笑）。

相撲上がり

スモー　これも『週プロ』の選手名鑑に書いてあったんですけど、ライバルに新日本の安田（忠夫）選手を挙げてたでごわ

ターザン後藤みたいな序二段の相撲取りと比べないでよ

す。

大刀光 やっぱり相撲上がりは仲良くなるよね。同じ時期に現役で相撲を取った人には特に連帯感があるからさ。

スモー 同じ時期に現役だった人って誰でごわすか？

大刀光 田上（明）さんは、会えば必ず声をかけてくれるよ。そういえば、WARに入団した後に田上さんに会ったんだけど、そのとき「なんで全日に来ないんだ」って言われたよ（笑）。でも、別に後悔はしてないよ。泉田（純）が先輩っていうのも気にくわないじゃん。アイツ、幕下までしか行ってないからね。

スモー やっぱり番付が下の人が先輩だとイヤでごわすか？

大刀光 そりゃそうでしょ。

スモー そういえば維新力さんも同じ時期に相撲をやってたっス。

大刀光 そうだね。じつはオレ、維新力さんの紹介でWARに入ったんだ。

スモー あっ、そうでごわすか？

——SPWFのリングでは対立関係にありますけど、ターザン後藤さんも相撲出身ですよね。

大刀光 やめてよ。あんな序二段の相撲取りと比べないで。オレから見たら〝相撲を逃げたヤツ〟だから。高木さんが「ガチンコでやっちゃえ」って言ってたよ。

スモー どすこ～い（笑）。やっぱり相撲出身のプロレスラーでも「ここから上じゃないと認めない」という境界線はあるでごわすか？

大刀光 ある。1回でも関取になった人は認めるよ。北尾さんの場合は幕内以上じゃないと認めないみたいだけどね。まあ、序二段や三段目で逃げるヤツがデカい顔するなってことだよ。それだけの実力しかなかったんだから。怖くも何ともねえや。

スモー とすると、元・小結の安田さんは相当強いでごわすな。

大刀光 新日でいちばん強いんじゃないの？ 小川（直也）が来た頃はよく練習相手をやってたみたいだけど、「イヤになっちゃうよ。たいして強くもないのにさ」って言ってたよ（笑）。

スモー アハハハハ、どすこ～い！ 安田さん、凄いっス！

大刀光 「どこが強いんだ」って言ってたよ（笑）。

お米（お金）とハガミ（借用書）

スモー 大相撲の場合は、頑張った先には、お米も付いてくるでごわすな。

大刀光 うん。十両になれば月給40万円は出るからね。どっか行けばご祝儀をもらえるようになるし、給料には手を付けなくても済むんだよ。ただ、幕下以下だと、2ヶ月に8万円の手当しか出ないんだよ。

スモー 厳しいでごわす！ そうすると、関取は、自分の付き人にもごっつあんするでごわすな？

大刀光 うん（ニコッ）。「土俵には金が埋まってる」って、よく言ったもん。実際に埋まってると思い込んで掘ったバカもいたけどね（笑）。「米と昆布しか出てこねえ」って言ってた（笑）。

スモー アハハハハ！ 掘らずにはいられないくらいほどに苦しいんでごわすな。ちなみに、相撲用語で「ハガミ」という言葉があるっスよね？

大刀光 給料の前借りのことだね。プロレスラーもよくやってるよ。オレも巡業先で、パチンコ負けて金がないときは「ハガミ、ごっちゃんス」とか言って借りてる。別に嫌な顔もされないしね。だって、メシを食えないのが一番辛いもん（笑）。

スモー なるほど、ハガミがちゃんとシステムになってるっスね。ウチの会社も見習わせてもらうっス。

かわいがり（トレーニング？）

スモー 相撲のかわいがりは、メチャクチャ厳しいという話を聞いたことがあるでごわす。

大刀光 そうだね。門限を破ったり、手癖の悪いヤツはやられてるな。

スモー どんなことをするっスか？

大刀光 凄いよ。竹刀だと一発で折れちゃうから、固い青竹を使うんだけど、それすら折れるぐらいブン殴られるから（笑）。ひどいヤツになると、スコップでブン殴られてたな（笑）。

スモー うおぉーい!! 強くするためのかわいがりはないんでごわすか？

大刀光 あるよ。それは延々とぶつかり稽古をするんだ。普通は2、3分で終わるところを15分～20分やるからね。普通の人がやったら死んじゃうよ。オレも口から内蔵が出てくるかと思ったもん（笑）。泣いちゃったこともあるよ。

スモー かぁ～、壮絶でごわすね。

大刀光 ブッ倒れても、口に砂を突っ込まれたり、粗塩をブチ込まれたりしてさ。あの頃が、いちばん苦しかった。

スモー じゃあ、大刀光さんが逆にかわいがったときは、どんな気持ちっスか？

大刀光 オレは自分がブン殴られてきたからさ、それを下のヤツにはやりたくなかったんだよ。

スモー 優しいでごわすなぁ。

大刀光 だから、新弟子には「いい人」で通ってたよ（ニコッ）。

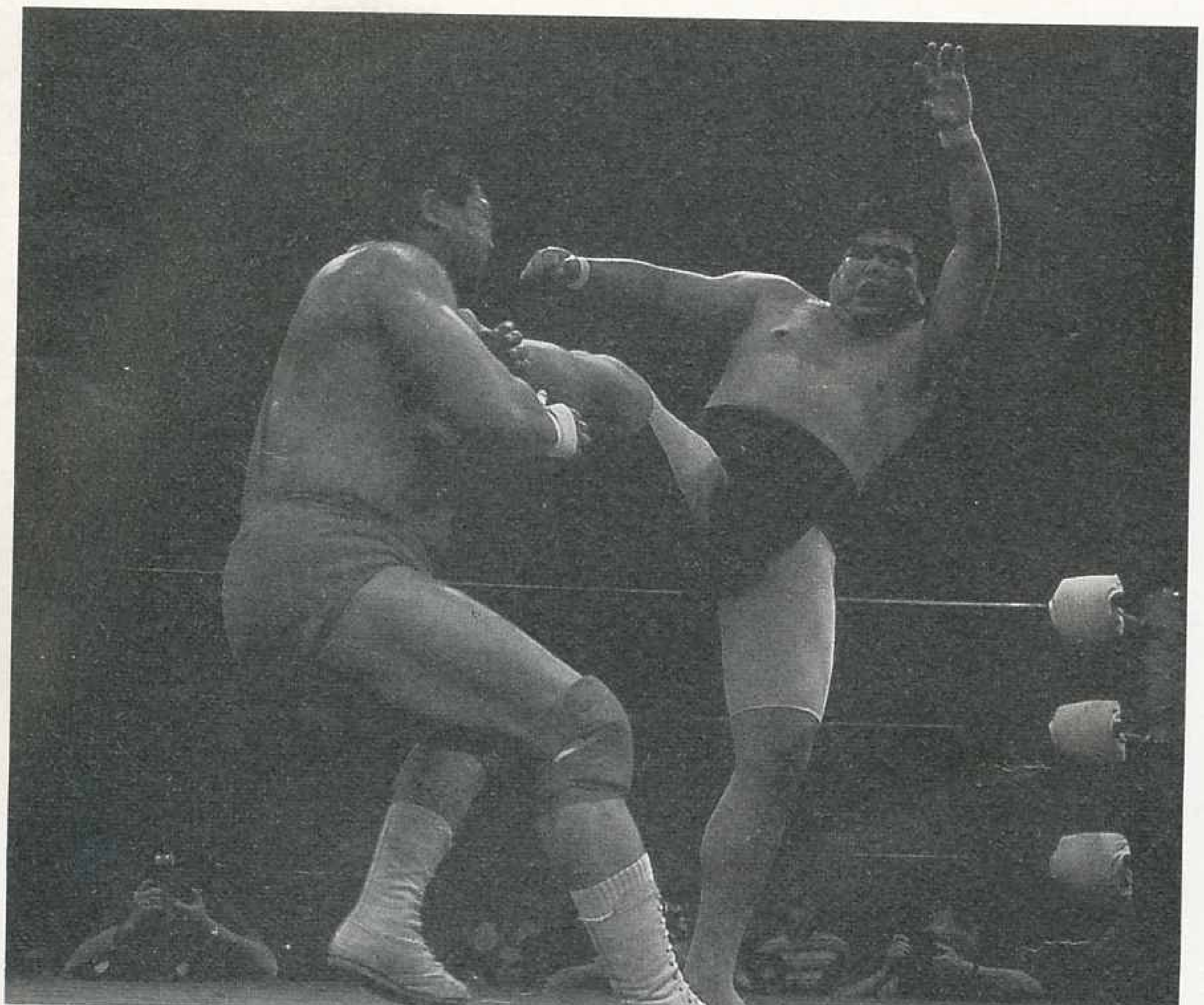
スモー はぁ～、どすこ～い！ そういう厳しい思いをしてるから、いまでも体力的な貯金があるわけですね。

大刀光 最近は歳を取ってきたから、貯金もだいぶ減ってきたかな（笑）。

馬力（お酒）とタニマチ（後援者？）

スモー 馬力の話をうかがうっス。

大刀光 いろいろ相撲用語を知ってるね（笑）。じゃあ「首投げ」って知ってるか



スモウレスラーの魅力はデカい身体と、とてつもない破壊力であろう。まさに谷津の言うところの「デカくて¥1000」という世界である。“ありがたみ”を感じずにはいられない

プロレスラーが相撲用語を使ってると頭に来るよ!!

い？　ハッハッハッ！

スモー　もちろんでごわす！（笑）。

大刀光　プロレスラーも、よく相撲用語を使うよね。

スモー　いいことでごわすな。

大刀光　そう？　たまに腹が立つことあるよ。「コノヤロー、プロレスラーのくせに相撲用語を使いやがって！」って。まあ、プロレスラーはいいけど、普通のヨカタが「ごっちゃんス」とか言ってると頭に来るんだよ！

スモー　ひょっとして、ワシにも怒ってないでごわすね（笑）。で、話を戻しますけど馬力はどれぐらいいけるんでごわすか？

大刀光　最近は弱くなったからなぁ。

スモー　一升ぐらいいっスか？

大刀光　それぐらいは軽いよ。

――軽い（笑）。聞くところによると、プロモーターの接待には、身体の大きい大刀光さんが行くことが多いみたいですね。

大刀光　慣れてるからね（ニコッ）。だって若い連中は、失礼なことばっかりしてるんだもん。こないだも、若い連中が勝手に大騒ぎしてたから、「てめえら、コノヤロウ！　誰のお陰で酒が飲めると思ってやがるんだ！」って怒鳴ってやったんだよ！　やっぱり、タニマチは立てないと。ヨイショしながら自分たちも楽しむならわかるんだけどね。

スモー　相撲とプロレスではタニマチにも差があるでごわすか？

大刀光　相撲の場合は、表でタニマチと会ったりしてると騒がれるからね。でも、気を使うって意味では同じだよ。だから酔えねえわ。

スモー　それも厳しいでごわすなぁ。

大刀光　でも、こないだの大会後は記憶がなくなるまで飲んじゃったね。途中でブッ倒れて、飲み屋のネエちゃんも怖がってたみたい（笑）。

スモー　接待で行くのは、おネエちゃんのいるお店が多いっスか？

大刀光　それは基本でしょう（キッパリ）。どっちかっていうとオレは、酒が好きで飲んでるわけじゃないからね。基本的にスケベだからさ（笑）。

スモー　よく「ごっちゃん体質」って批判されることが多いですけど、ボクは別にいいと思うんですよね。

大刀光　嫌だったら、金を出す方も出さないと思うからね。しょうがないよ。

金星(美女)

スモー　力士の方はモテるでごわす。あやかりたいでごわすな。

大刀光　（小声で）あのな、基本的にお相撲さんはスケベなんだ。

スモー　アハハハハ！

大刀光　でも、プロレスラーもスケベだね。それに薄情だ！　みんなヤリ捨てだもん。●道とかね（笑）。

スモー　本当に〝金星ハンター〟なんでごわすな（笑）。

――力士とプロレスラーだったら、力士の方がモテるんですか？

大刀光　うん。チョンマゲ付けてる人間はヘタなことが出来ないから、安心できるんでしょう。普段はムッとしてるヤツが多いけど、話すとみんな優しいからね。

――そのギャップがたまらない（笑）。

スモー　いろいろと、いい思いもしたと思うんでごわすが……。

大刀光　そこそこね（ニコッ）。

――（興味深そうに）何人も同時につきあってたんですか？

大刀光　当たり前でしょ!!（キッパリ）。

スモー　かぁ～、カッコいいでごわす。

――北尾さんの場合は、ホテルのドアの前に女性が何人も並んでたって話を聞いたことがあるんですけど。

大刀光　えっ!?　誰か違う人なんじゃないの（笑）。

スモー　横綱だったら、それぐらいはモテて当然でごわすな（笑）。では、そろそろ時間もないので、結びの一番をごっつあんです。

大刀光　何？　相撲するの？

スモー　胸を貸してほしいっス！

大刀光　ホントォ？　ケガしても知らないよ（ニコッ）。

※山のような大刀光関の不敵な笑いが怖すぎる！　果たして、スモー・ノブはデビュー戦から生還出来たのか!?

【99年11月7日、千葉県・JR幕張本郷駅内の『プロント』にて収録】



な、涙で相撲が見えへん…



山のような大刀光!!



見ろ!(見えない?)この体格差

本日のむすびの一番

スモー・ノブ、世紀の初土俵！をお送りするはずでしたが、カメラマンのチョロが、写真をすべてピンボケで撮りやがったので、弱火写真館アトリエ・チョロに変更となります。あしからず。

アトリエ・チョロ



「弱火ギャグ」に代表されるような、姑息な自己主張しかしないチョロがまたもやノブに姑息な復讐！　写真をピンボケにするという最低の自己主張をやらかした。「チンピラでごわす、チンピラ！」と本家・ノブばりに、オムツ姿で子供にバカにされながら砂まみれになったスモー・ノブも写真を見て激怒！　大刀光さんとこちらのスケジュールも合わず、再撮影もかなわなかったので、このままいきます。文句or苦情orその他諸々はすべてチョロまで。

書評は平和ではない
書評は戦いである
武器のかわりが毒舌であるだけで
それは地上における最も激しい厳しい
自らを捨ててかからねばならない
戦いである――（ネール元インド首相の娘への手紙）

吉田文豪人生劇場

書評の星座

PART2

読者の方から「書評の批判をすれば名前を出してもらえるんでしょうか？」というハガキが届いたが、そんなことはねえんです！　むしろボクは褒められなければ原稿を書く気がしなくなるタイプなので、「面白い記事」として票を投じてくれた山本貴司君、福田透君、津崎貴光君、宮脇博司君、山岡正明君、前山勲君、そして「書評がいちばん面白い」と発言している新日本の倉掛さんといったセンス溢れる方々のおかげで連載が続いている書評コーナー。

女子プロレスNEWアイドルFAN★BOOK （芸文社）



ハッキリ言って選手の悪い面にスポットの光を当てた相手の光を消すグラビア（特に納見佳容、浜田文子、田村欣子、阿部幸江）は全くいただけないが、モノクロページは無闇に熱いので押さえておいた方がいいムック。

なぜなら匿名ライターが**「陳腐なアングル」**など物騒な単語を使って新日のフロント陣なんかをバッシングしたり、**「ムタニタ戦のような滑稽な試合（というよりもショーか？）」**だの**「男女混合プロレス（ミックスド・マッチと称しているが）などという場末酒場のコミックショー」**（カッコ内も原文ママ）だのとピュアなハートで毒舌を爆発させていくのみならず、こんな衝撃情報までひっそりと織り混ぜているわけなのである。

「全女はメドゥーサと専属契約し、売り出しにかかる。メドゥーサはミネアポリスのマーキー・インターナショナルと契約していたため、全女はマーキーと契約を交わした」

なんだか不思議と聞き覚えのある事務所名である。……って、これは『スター爆笑Q&A』の元構成作家で、言わずと知れたミネアポリス在住の歌手・元プリンスが設立したペーズリー・パークの日本事業部総代理でもあった『ボーイズはボーイズ』作者・斎藤文彦先生の事務所の名前だよ！

この情報によってフミ斎藤先生がメドゥーサのことを「メの字」などとえらくフランクに呼ぶ理由が、ようやくわかった次第なのである。

オ〜っと！危ないマンガプロレス毒本 （古川一朗／芳賀書店）



どう考えても猪木本人が書いているとは到底思えない**「Dr.古川のプロレスマンガは私も大ファン。一押しの一冊です。アントニオ猪木より愛をこめて」**なる帯のコメントも衝撃的なら、なぜか古川先生の全てがわかるロングインタビューをたっぷりと収録している構成自体もいちいち衝撃的すぎる、物好きな古川マニアにはたまらなすぎる一冊。

このインタビューがまた、日本のプロレス史を古川先生が振り返るという不可解極まりない内容なのも悪い意味で衝撃的なんだが、聞き手を務める元・東スポ記者のKoji Shiraishiなる謎の男が過去に外人担当としてモンスターマンの面倒をみたりルー・テーズのマネージャーをしてきたというシビレるエピソードの持ち主なので、それだけでもうノー問題なのである。

なにしろKoji Shiraishiは、かつて猪木と異種格闘技戦を行うために来日したW・ルスカが日大アマレス部で行った出稽古も目撃しているのだが、そのとき五分に戦えたのは当時一年生の谷津嘉章だけだったとキッパリ証言。

これについては、ゴッチ道場を1日で辞めた谷津が「あれ（＝ゴッチ道場）は子供騙し」などと問題発言をブチかましまくる雑誌『問題実話』のインタビューでも、「クリス・ドールマンも一緒だったけど、これは2〜3分で息が上がってまったくダメ。でも、ルスカは僕と互角の勝負をしたんだ」と谷津もキッパリ証言していたから、さすが日本アマレス・ヘビー級最強の男。「眼をつぶって30秒」発言は伊達ではなかったのである。

そんな東スポ記者の暴露トークに乗せられたためなのか、なぜか古川先生もSWSによる武藤引き抜き未遂事件を**「もう時効だから言っちゃいますが、某団体のM選手を呼ぶのに『契約金＋マンション＋車』という条件だった」**と正直にブチまける始末。

それに続いて、なぜか引退してから成功しているレスラーの具体名としてスナック店主のキラー・カーンなんかと一緒に栗栖正信と藤原組長の名前もついでに挙げるという、とんでもない失態を晒してしまうのであった。

もしかして、これが古川先生の「毒」なのか？

ちなみに『ゴング名勝負シリーズ・三沢光晴BEST100』（日本スポーツ出版社）なる本にも、「菅原信義（現・引退）」という失礼な表記を発見。アポロには悪いが、どうやら関係者の方々でさえ誰が現役で誰が引退しているのかサッパリわかっちゃいない様子なのである。

真剣勝負 （前田日明＆福田和也／草思社）

キャッチフレーズが**「平成の暴れ論客」**というだけあって、かつて『SPA！』誌上で「グレート・カブキの正体は高千穂遥」だとズバリ言い切る見事な暴れっぷりを披露したため、ターザン山本にまで叩かれてしまった男・福田和也。

言うまでもなくカブキの正体は高千穂明久であり、高千穂遥とはカブキと永源遙をペンネームの由来とするSF作家なのだが、間違い自体はどうだっていい。

ただ、プロフィールにデッド・ケネディーズやパンクなどの単語を入れていい顔では絶対にないと個人的には常々思っていた次第であり、そんな福田和也が同じ保守派でもある前田日明とたっぷり語り下ろす対談本をリリース！



予想以上に会話がスイングしているためプロレス系のネタは少ないんだが、作家・北方謙三が酒を飲めないと聞くなり前田が**「それじゃ、なんちゃってハードボイルドでしょう（笑）」**といつもの調子で断罪したりと、それ以外のネタも非常に楽しめる一冊である。

しかし、福田君がプロレスを**「ある種の予定調和のストーリーが成立する格闘技」**、リングスを**「リアルファイトの世界」**と暴れ論客らしく定義付け、**「頭につくりものの角を生やしたり、顔にペイントしたり、NWOと言うんでしたっけ」**などと手探り状態のまま無闇に新日批判を繰り広げたりすることだけは、本当にいただけないのだ。

そもそも前田に言わせれば、プロレスとはこう定義付けられるべき代物なのである。

「プロレスというものは、純粋にスポーツとして見ようとしたら、勝ち負けではなくて、試合のイニシアチブの取り合いを楽しむものだと思うんです。ロープに投げ飛ばしたら返ってくる。相手との絡みのなかで技を仕掛ける。受ける。反撃する。こうしたやりとりは、一応、各自が瞬時に選びながらやっているんです。新日本プロレスの全盛時代というのは、そのときの前座はみんなそうだったんですよ。イニシアチブを取り合うゲームという感覚でやると、あれほどいいスポーツはないですよ。充実感もあります。それにちゃんとイニシアチブをとれれば、自然な形で相手が思うように動いてくれるんです。でも、いまのプロレスは、そういう動きのなかで何か決め事をつくったりとかして、選択の幅を狭めている」

これはいわば前田版『ケーフェイ』宣言のようでありながら、不思議とプロレス愛を感じさせる発言だろう。つくづくUWFとはプロレスの原点回帰運動だと痛感させられる次第なのだ。

思えば一部の頭の悪いマスコミが「UWFは真剣勝負だ！」と無闇に騒ぎ立て（一般誌方面に多かった）、その幻想を船木のような外部の選手までもが鵜呑みにしてしまったのが問題だったわけであり、前田はいつ何時でも理想的なプロレスラーであり続けたのだから。

さらに、前田はこれまで批判してきた村松友視先生の『私、プロレスの味方です』についても、**「村松さんのをはじめて読んだとき、俺もハッとしたんです。これはすごいなと思った」**と評価してみせたりと、引退後ゆえなのか素直になった発言にはシビレを感じずにはいられないはずなのである。

「自分の感情を素直に言えば、UWFの仲間は俺から離れていった、絶対に許せない連中なんです。許せないんですけど、一方で何とか彼らを理解しようとしている自分がいる。理知的な部分で何とか理解しようとしているんだけれど、それによって今度はどんどん自分の感情に自分が傷つけられる。それが錯綜しているうちにだんだん訳が分からなくなってきて、ますます自分を苦しめてしまう」

こんなことを告白していた人間が数カ月後にはUWFの仲間に後ろからブン殴られ、一撃で失神KOされたところをUWFの仲間に囲まれてしまうんだから、つくづく世の中わからない。

ちなみに事件の数週間前にボクが他誌で行った取材で、どんなに揉めても相手を理解しようと努める姿勢について前田はこう語っていた。

「それが『関わる』っていうことじゃない？　それがホントの人間関係ですよ。どっかに熱いものとか激しいものがないと、人間って絶対分かり合えない」

やはりレスラーや格闘家であるならば絶縁だの訴訟だのではなく、激しい関わり合いをしていってもらいたいものなのである。だから安生は許す。

格闘家に告ぐ！　実戦格闘技論 （小島一志／ナツメ社）

ボクもいままで知らなかったのだが、格闘技の試合を興行などで**「簡単に観て楽しもうという姿勢は、彼ら（格闘家）に対する冒涜」**であり、**「格闘技とはそれを学ぶ実践者のためにあるのだ」**そうである。はあ。そうでしたか。

これは、そんなお堅い考え方をした幻のフルコン初代編集長が、**「格闘家を自認する者たちに告ぐ！　あなたたちは、いまこそ格闘技を自分たちの手に戻すことを考えるべきなのだ」**と、とことん読者を限定しきった熱い主張をブチ上げる、かなり不思議な一冊なのだ。

ここまで堅苦しい考え方では、もはや認められるのは大会を開かない少林寺や合気道ぐらいになること確実であり、そんなわけで著者が絶賛しているのは大会もしていなければ館長の芦原英幸が公式な試合もしていない空手流派・芦原会館というわけなのであった。

言っちゃあ悪いが、試合をしないことによって梶原一騎が生み出した幻想を守り続けたケンカ十段・芦原やゴッドハンド・大山倍達は、著者が嫌うプロレスラーの姿勢にも非常に通じるものがあるとボクは思う。

ところが著者はレスラーに対して**「彼らの鍛え方は半端ではない。その辺にいる柔道家や空手家よりもずっと厳しい鍛錬に耐えている」**とフォローを入れつつも、**「プロレスは『格闘演劇』であり、プロレスラーは『役者』」**だの**「リングスやパンクラスのアマチュア部門は単なるファンクラブ」**だの何だのと失礼なことばかり言いやがるわけなのだ。

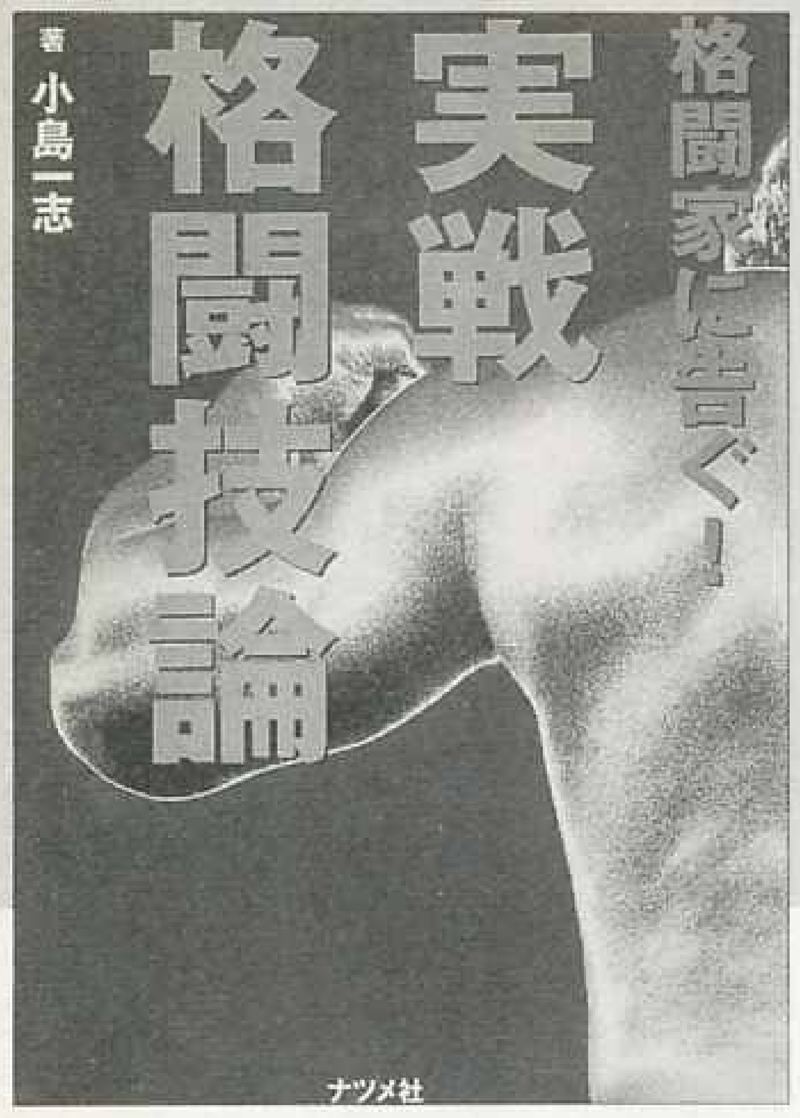
「リングス・ルールといわれる格闘技スタイルによる試合だが、滑川康仁や山本宜久の試合を見るかぎりでは、かつてのUWFから何一つ進化していない『プロレス』」

「（前田と闘った）カレリンは、レスリングのマットで見せる迫力とは程遠いただの大男でしかなかった。両者の戦いからは、最初から最後まで、本来格闘技の試合にあるべきはずの緊張感が感じられなかった」

「パンクラスの試合についていうならば、基本的に選手たちは『競技』として戦っていると私は見ている。ただ、幾つかの試合にかぎっては『演劇的要素』が含まれていることもまた否定できない」

これらの発言は、なんだかアマレス五輪メダリスト・太田章みたいだと思ったら、どうやらこの2人には親交もある様子。

ゆえに、太田章とのスパーリングでは最強・谷津嘉章さえも**「子供同然に弄ばれていた。組んではバックを取られ、そこから簡単にホールドを決められてしまう」**状態だったことを証言したり、太田章による**「いまの極真には三瓶さんがチャンピオンになっているけれど、実戦実戦ってあまりいわないほうがいいと思うよ。僕はもし三瓶さんと戦ったならば10秒以内に勝つ自信がありますから」**という谷津ばりの「目をあけて10秒」発言まで紹介するから、さすがなのだ。



こうして著者は猪木対ウイリー・ウイリアムス戦が八百長だのと空手家らしくさんざん主張した後で、**「ただ、プロレスラーが行った異種格闘技戦のなかで、唯一『競技』つまりは真剣勝負として行われたと思える試合がある」**として、プライド1&4の高田対ヒクソンを挙げるのだった。

それだけかよ、おい！

結局、こういう人には「プロレスラーが何もできずに負けた試合」しか「競技」には見えないわけなのだろう。チンケな話だ。

なお、ヒクソンに負けた高田がA級戦犯だと叩かれるなら、図体の馬鹿デカいだけのイゴール・メインダートに不可解な負け方をした上、さらにそのメインダートが新日本に参戦して敗れるという失態を晒した黒澤浩樹もA級戦犯だとボクは常々主張しているのだが、その辺りは黒澤本を多数リリースしてきた著者としてはどうなのか。

そう思ったらメインダート戦は**「完全なる『競技』として行われたかどうかについてもはなはだ疑問に思っている」「試合は最悪の茶番劇だった」**と、著者は男らしく全面否定。

まあ、黒澤に感情移入しすぎてプライドの観客は**「イベントを見にきたのである。男たちの戦いではなく、アイドルに見立てた選手たちの姿を見にきたのだ」**と勝手に決め付けたりするのは全くいただけないが、こうして実際に接点のあった人物を批判する部分だけは抜群に面白いのも事実なのである。

つまり、**「正道会館の長である石井和義を、武道家として、いやそれ以上に一人の人間として評価していない」「ドスを効かせた声はまるでヤクザまがい」**だの、マス大山の娘婿は**「その傲慢で卑屈な性格は、武道家以前にもはや人間以下」「三瓶啓二は常に松井を影で罵倒し続けてきた。何度、民族差別的な言葉を三瓶から聞かされたか、私自身数え切れないほどである」**だのと、空手関係者への感情的な批判は、いちいちエゲツなさすぎるので、もう文句なし。

なぜ太田章が唐突に三瓶の名前を出してアピールしたのか、非常にうなずける次第なのである。

それに比べると、プロレスに関してはろくな接点もないのに狭い視野で批判するから決定的にリアリティが全く感じられないわけなのだ。

著者はこうも主張している。

「なぜ『極真空手は最強である』と大山は言い切ったのか？ 私は思う。『極真空手を学ぶ人間ならば、常に最強を目指せ』と大山は言いたかったに違いないと。そしてそのためにも、極真会館の道場生たちに『妥協のない厳しい鍛錬』を強い、同時に『最強を求めるプライド』を持たせようとしたのだと私は理解している」

大好きな大山倍達にはこんなに甘いのに、どうして「最強を求めるプライド」を持ってキング・オブ・スポーツを標榜してきたプロレスには噛み付くのか、それがボクには全く理解できないのであった。猪木が言ってることと主旨は全く同じじゃねえか。

最狂・超プロレスファン列伝

（徳光康之／まんだらけ出版）



プロレスそのものではなく周辺の雑多な出来事だけを徹底してファンの視点で熱く描くプロレス漫画の金字塔が、なぜか唐突に復刻開始。オリジナル版を持っているボクも思わず買い直したほどの、全巻に単行本未収録作品と録り下ろし対談を必ず入れるという親切極まりない構成の一冊である。

とにかく「力道山が木村政彦に負けたためプロレスの代わりにプロ柔道がブレイクした、力道山が死ななかった世界」を描く3巻ラスト周辺の異様な盛り上がりは本当に泣けるので必見であり99年2月発売予定の、オール書き下ろしによる4巻も期待大なのだ。

ちなみに、馬場（戸羽）と猪木（猪狩）のノー・ピープル・マッチに、なぜか馬場の急死騒動まで絡めて描いた『グラップラー刃牙外伝』（板垣恵介／秋田書店）もようやく単行本化されたので、こっちもマスト！

UWF系は嫌いでもBI砲に対する愛はたっぷり溢れている板垣先生や、河口仁すら超越する全方位に向けたプロレス愛を持つ徳光先生の姿勢を、できれば少しは前田襲撃事件を至近距離から、それも腕を組んでクールに眺めていた猿渡先生にも見習って欲しいものなのである。

プロレス最強神話は終わった

（竹内宏介／日本スポーツ出版社）

長年、プロレスを守り続けてきた『ゴング』の良心・竹内さんが、とうとう**「プロレスは"最強"の看板を掲げ続けることにも無理が感じられる」**などと素直に本音を漏らしてしまうという、桜庭が身体を張って「プロレスラーは本当は強いんです」ということを主張したいまとなってはちょっとタイミングの悪い一冊。

それでもプロレスから"最強"の看板を勝手に下ろしたことで肩の荷がすっかり下りたためなのか、随所にいい感じのネタばらしが散りばめられているのであった。

つまり、アマレス協会の八田一郎会長が当初モハメド・アリvsジャンボ鶴田を考えていたこと。バーリ・トゥード出身の新日留学生イワン・ゴメスの挑戦をゴッチが拒否したこと。「格闘家というよりも奇人変人」（猪木・談）だったレフトフック・デイトンの首絞めパフォーマンスでロープを引っ張ったのがウォーリー山口と竹内さんだったこと。**「現職の警官で空手の達人」**キム・クロケイドが**「カナダのカルガリー地区においてカラテ・キッドの名前で活躍していたプロレスラーであった」**こと。**「山崎一夫が小林邦昭に対して長州—前田戦を再現したような喧嘩試合を仕掛けた」**ことなどなど。



新格闘プロレスの敗北に一切触れられていないことを除けばいい情報満載なのだが、個人的に最も興味深かったのはターザン山本幻想が膨らみまくるこんなエピソードであった。

旧UWFで藤原と闘い、**「どうだ、見たか！これが格闘技なんだ」**と前田が叫んでも、**「観客の大半はまだ十分に、その事を理解してはいなかった」**し、**「我々、取材陣に関しても"前田の1人よがり"という見方をしていた人が多かった」**ような頃。

記者が**「いつもの試合後の会見のようなたわいのない質問を浴びせ」**ていると、いきなりターザンが**「今日は何回ぐらい決められた？」**と前田に質問。**「決める」**＝**「相手からフォールを取ること」**という解釈ぐらいしかなかった当時としてはあまりにもシュート極まりないこの質問に対して、前田は理解された喜びから**「前田は初めて嬉しそうな表情を見せながら『4回ぐらい腕が折れる寸前までいったね』」**と答えたため、竹内さんはショックを受けてしまったのだという。

「こんなやり取りは、それまでの選手と取材記者の間では絶対に交わされた事のないやり取りだった。私はそのやり取りを側で聞いていて自分の知らない分野のプロレスが、すでに始まっていた事を知らされた」

ヒール、ケーフェイ、アングルといったプロレス界の隠語をどんどん表に出していったのみならず、こんな革命まで起こしていたターザン。こうしてターザンはUWFブームの原点を生み出して、プロレスに致命的な打撃を与えることとなったわけである。罪作りな男だ。

しかし、果たして現在、本当にプロレス界は格闘技幻想に飲み込まれつつあるのだろうか？

冷静に考えてほしい。ヒクソンが藤波社長を表敬訪問したり、桜庭が「出てみたい」と口にしたり、猪木&小川と復縁したり、LAボクシングジムと提携したり、道場内で絶賛バーリ・トゥード特訓中という噂が流れてきたり、中西というプロレスでは不器用でも明らかに強いであろう男がG1の頂点に立ったり、10・11の東京ドーム大会に「ノー・ホールズ・バード」と名付けてみたり、おそらく交渉決裂前にはそこで高田と誰かが対戦するつもりだったであろうことを考え合わせてみる限り、明らかに新日本で何かが動いているはずなのだ。

下手したら数カ月前、インターネット上で「木村健悟が秘密裏にグレイシーと闘って勝ったという噂を聞いたんですが……」という、えらく真剣な、おそらく木村政彦と間違えたのだと思われる書き込みを目撃したこともあるのだが、それも夢ではなくなるわけである。

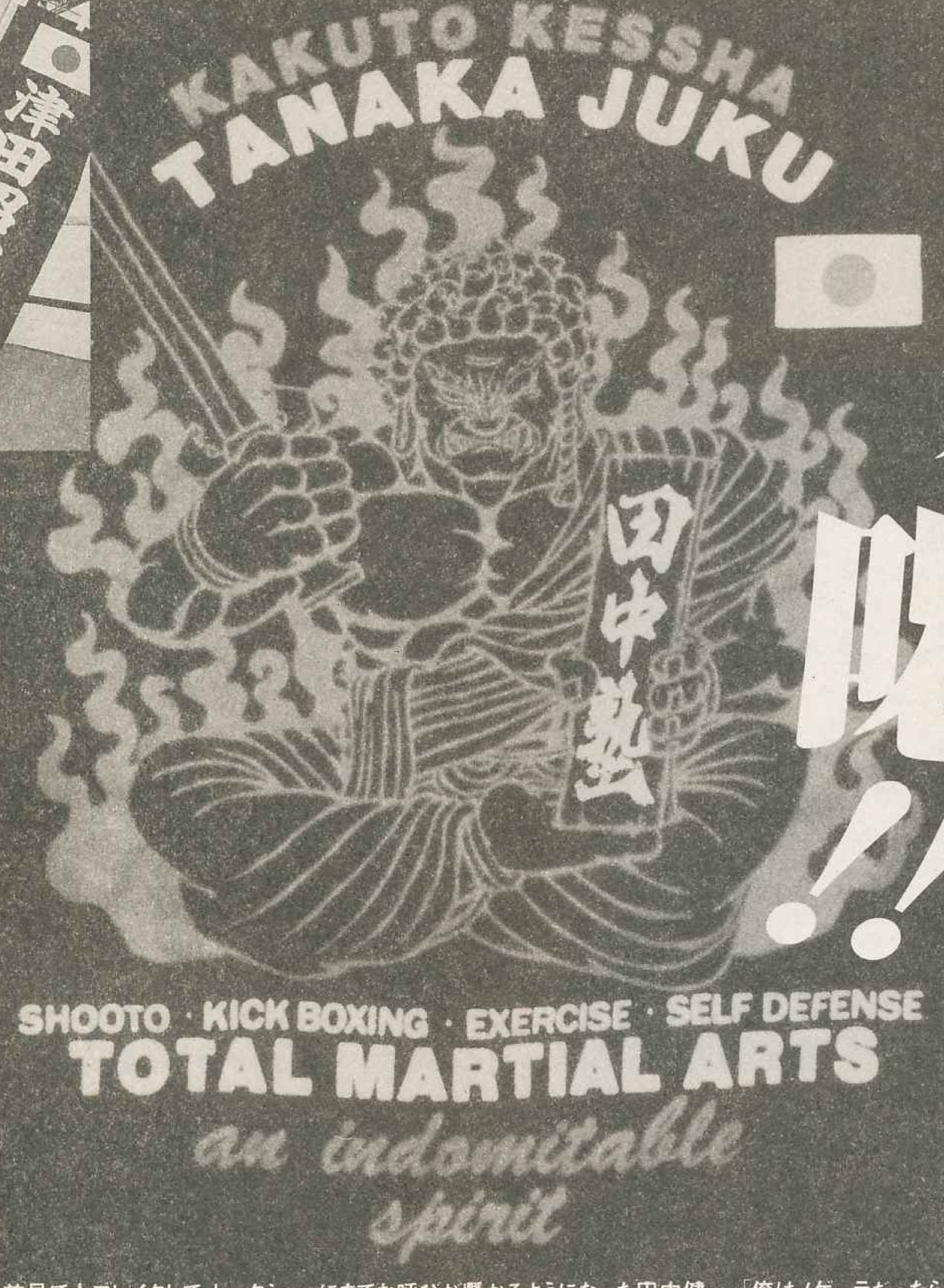
中西にアルゼンチン・バックブリーカーで担がれても身体が柔らかいので大丈夫だったが、健悟のトライアングル・スコーピオ（通称キムラ・ロック）で屈辱のタップを奪われるホイラー！ 山ちゃん引退試合の相手が急遽、永田からヒクソンに変更し、高田の仇を取る山ちゃん！ 新日マットで桜庭vsキモが再び実現し、リベンジを果たした桜庭の「プロレスラーは本当は強いんです」というマイクに大きくうなずく小島や高岩と、それを横目に「相撲の方が強いっス」と小声でつぶやく安田！ 悪の首脳陣・永島勝司とマイクでシュートな舌戦を繰り広げる高田（セクシーマネージャー・向井亜紀付き）！ その流れに一枚噛もうとして記者と歓談中の長州を後ろから殴り、「プロレス道にもとる」と言われて追放される安生！「僕と真剣勝負して下さい！」と、場違いなマイクアピールをして黙殺されるヤマケン！ そして、またもや当たり前のように行われるライガーvs佐野！ これこそまさに、何でもありだ！

そんなプロレス幻想ならぬ妄想ばかり考えていたら竹内さんみたいに意気消沈する必要なんか全くないはず。結局の所、プロレスはやっぱりキング・オブ・スポーツなのである。



［後編］

曲がったことが大嫌い!! 男・田中健一 現代日本人に喝!!



格闘結社
田中塾
代表師範

田中健一

前号で大ブレイクして、トークショーにまでお呼びが懸かるようになった田中健一「俺はノゲーラだったら勝てると思うんスよ!」「弱い外国人を倒して満足しないで、世界に出て行け!」若い世代の活躍で人気爆発中の修斗を基本的には認めつつも、熱い男魂で噛みつきまくる侠客・田中健一！　格闘技界で飛ぶ鳥を落とす勢いの修斗に噛みつけるのはタナケンぐらいのものだろう 前回は、タナケンのファイターとしての根源の部分に光を当てたわけだが、今回はそんなタナケンから見た「修斗論」「格闘技論」、果ては「戦争論」まで熱く語り尽くす!

聞き手／吉田豪
interview by Go Yoshida
撮影／チョロ
photographs by Choro

——田中さんは格闘技を始めた当初、コーラを飲んで落ち込んだっていう話を聞いたんですけど（笑）。

田中　そうッスね（笑）。あの頃は変なことばっか考えてましたね。新聞とかTVを見ない時期が2年ぐらいあったんスよ。世の中がどうなってるかもわかんなくて!

——ダハハハハハ!

田中　どうなったら強くなるかとか、どういうトレーニングをやったら筋肉がつくかとか、そういったことばっかり考えてて。いまは食生活もそんなにうるさくはないんスけど、牛乳とお茶と果汁100%のジュース。この三つしか自分は飲まなかったんですよ。

——ホントに厳しかったって言われてましたもんね。

田中　あの頃は自分でも不思議なくらい……、ハッキリ言ってキ●ガイでしたよ。

——ダハハハハ!

田中　親にも言われたんスよ。なんか取り憑かれたような感じになっちゃったって（苦笑）。それでコーラって若者がみんな飲んでるじゃないスか。「これはどんな味がするんだろう」と思って。それで、ある日フトしたことで妥協して飲んじゃったんスよ（苦笑）。（頭を抱え）「俺はなんてことしてしまったんだ!」と。格闘技の選手が、ましてプロの選手とあろうものが、こんなことしてしまったと。いま考えるとバカでしたよね（苦笑）。まあいい意味でのバカだったんスけど。

とにかく俺はハカイダーのような男でいたいんスよ!

―格闘技バカだったんですね（笑）。

田中　そうッスね（苦笑）。

―さすがの佐山さんも「コイツは変人だ」と思うぐらいの（笑）。

田中　そ〜うですね。佐山先生もよく疲れたような顔してましたね。

―ダハハ！　ところで最近はコーラとか飲まれてるんですか？

田中　付き合い程度ですね（キッパリ）。でもウーロン茶は飲みますよ。どのメーカーのウーロン茶か当てられますよ！

―ダハハハハ！　利き茶できますか！

田中　その中に一本、伊藤園が入ってれば完璧ですよ！　一発でわかりますから!!

―伊藤園が一番美味しいわけですね。

田中　やっぱ伊藤園ッスね。例えれば、伊藤園はシューティングですね。

―他のウーロン茶はまがいものが混じってますか（笑）。

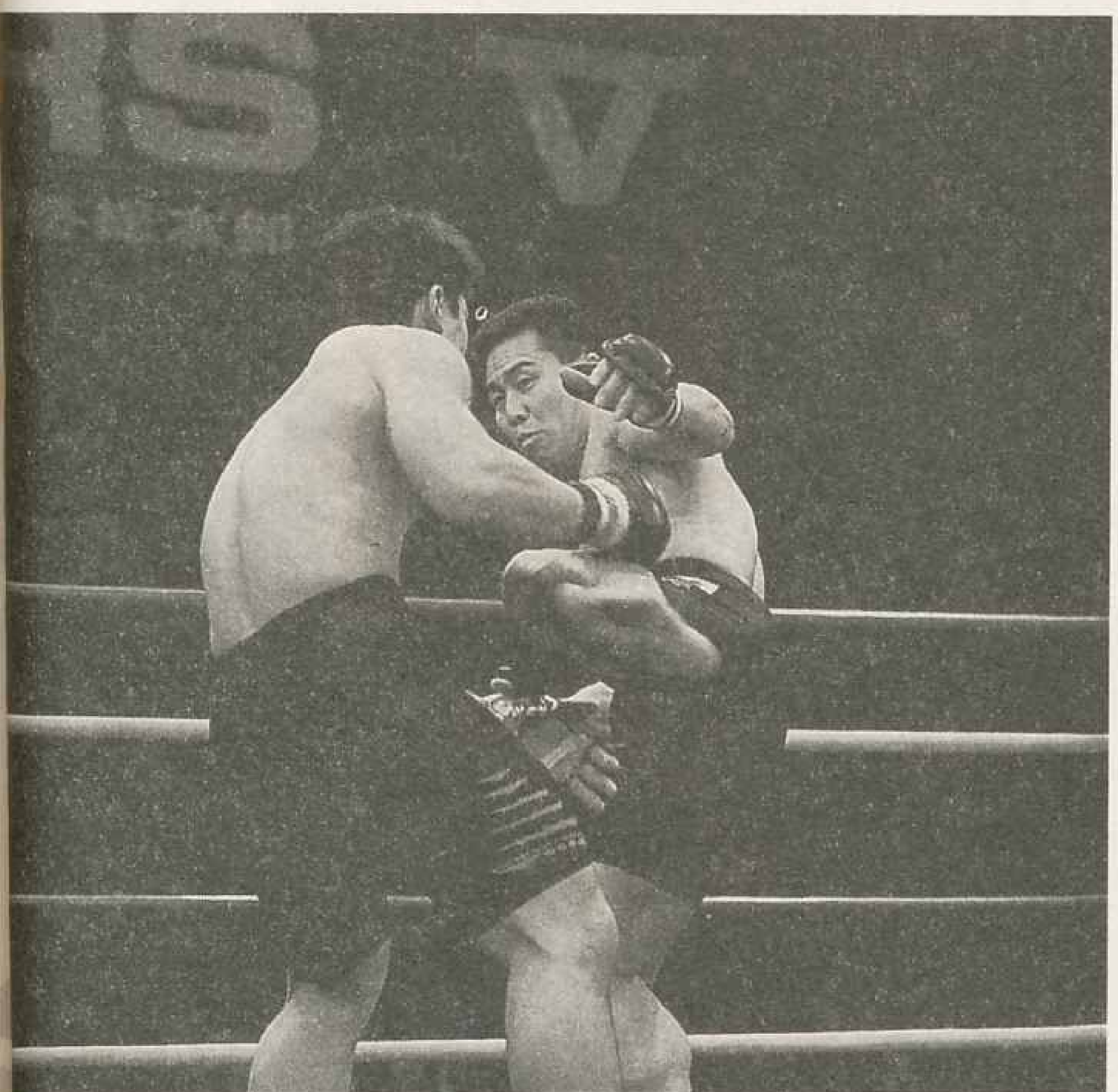
田中　そうッスね。言ったら怒られちゃうけど、ポッ●だとか。ニ●レイだとかね（笑）。たま〜に田舎とかに行くと滅多に売ってないようなウーロン茶があるじゃないスか。やっぱ興味本位で飲むんですよ。でもマズイッスよ！　伊藤園以外はダメですね（キッパリ）。

―ダメですか（笑）。話は変わりますが、田中さんの一番最近の試合というと、大道塾「THE WARS」（99年4月8日＝後楽園ホール）での小川（健一）戦になるわけですよね。結果的には引き分けでしたけどダウンを奪ってますよね。

田中　小川選手は初のダウンじゃないですか？　自分は2年振りの試合で、総合の試合は5年振りだったんスよ。だから、デビュー戦のようにガチガチになるなと思ったんですけど全然落ち着いてましたね。やっぱ歳取った分、経験なんでしょうね。でも、あの時は体調が最悪だったんですよ。

―最悪の割には凄い試合でしたけどね。

田中　本音を言えば、試合の当日バックレようかと思いましたもん。試合の一週間ぐらい前に脇腹の筋肉がプッツて肉離れしちゃって。やっぱり試合やるのは久々でしたから、コンディション調整がヘタクソになっちゃったんでしょうね。無理に「練習！　練習！」みたいな感じでオーバーワークになっちゃって。道場生のみんなもいろいろ協力してくれて、気を使ってくれたんスけどね。



【99・4・8 vs小川健一】「プロレスと格闘技は全然別もんですよ。特に試合前と試合後の控室は全っ然違いますね。キックとかの試合前は死刑執行されるような感じですから」と語るタナケン。次の試合を見てみたい!!

©長尾 迪

―気合いと根性で試合に挑んだわけですか？

田中　いや、いろいろ病院回って、最後は麻酔打って出るしかないなと思ったんスよ。でも医者の先生が麻酔やっちゃうと足とか手まで効いちゃって感覚がなくなっちゃうか、全然効かないかどっちかだって言うんスよ。そんな状態だったら、気合い入れて我慢してやっちゃった方がいいなと思って。それで、やっぱり自分は日本人ですから西洋医学より東洋医学の方を信じて、試合の3日前に針治療の方に行ったんですけど治らなかったですね。針治療が効かないんじゃないかってバカにしてるわけじゃなくて、自分のケガには効かなかったんですよ。これは仕方ない、気合い入れてやるしかないと。自分が寝技に行かなかった理由はそれもあったんですよ。

―小川戦は、ほとんどスタンドでの打ち合いでしたけど、そういう事情があったわけなんですか。

田中　90％は自分の意地でしたよね。まあキックやってた頃の経験を活かして、絶対立ち技でやってろうと。あとは相手が小川選手だってことで燃えましたね。昔っから自分は大道塾には一目置いてましたから。ましてやチャンピオンですからね。

―あの試合を見て、まだ充分現役でいけるんじゃないかなって思いましたからね。坂本（一弘＝修斗プロデューサー）さんもそう思ったわけですよね。

田中　どうなんスかね。まあやるんだったら小川選手との再戦でしょうね。もう一回やりたいッスよ。まあとにかく俺はハカイダーのような男でいたいんスよ！　常に挑戦者のような状況で強いヤツのみと闘うっていう精神で。

―確かにハカイダーは渋いッスけどいきなり何ですか（笑）。（道場内に貼られているアニメ、特撮モノのポスターに目をやり）さっきから気になってたんですけど、アニメとか特撮とかお好きなんですか？

田中　自分は水木一郎の大ファンなんスよ！　この間も千曲ライブ行きましたよ。

―ダハハハハ！　ムチャクチャ長かったって評判のヤツですね。

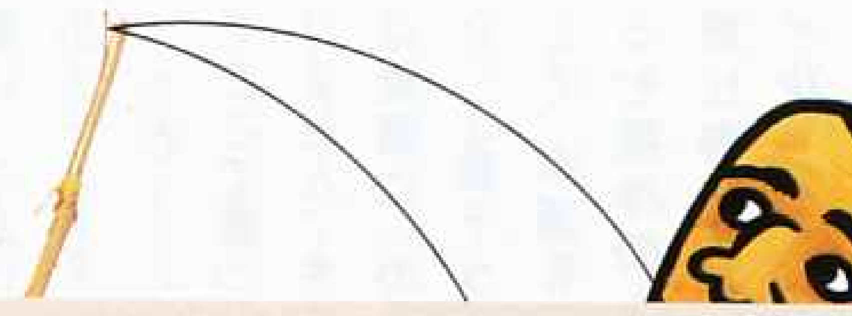
田中　やっぱ水木一郎ッスよ！　最高ッスよ！　あの声とあの歌は最高ッスね。自分が復活して「THE・WARS」に出たのも、あれは水木一郎さんの影響もあるんですよ。聞いてるうちに燃えてきちゃって。

―ダハハハハ！

田中　自分はテーマ曲は水木一郎さんの歌を使うんですよ。それをばっちりテープに入れて試合のビデオと一緒に水木一郎さんの事務所に送っちゃいましたもん。

―ダハハハハハ！

田中　（嬉しそうに）その後のライブで水木さんが歌ってるとき、目と目が合うんですよ。それで俺の方を見てシャドーをやったんですよ。もちろん、グレートマジンガーだったら「♪キックだパンチだ



ハリーケ〜ン」ってありますよね。その時はちょっとパンチとかキックとか出したりするんですけど、それとは関係ない曲のときに自分と目があって軽くシャドーやったんですよ。「あっ、見てくれたんだな」って思って（笑）。

——ダハハハハ！　電波が届いたんですね（笑）。

田中　毎日聞いてますからね。ちなみに、俺はカラオケの一番最後の方のアニメ特撮コーナーは全部歌えますよ！

——ダハハハハ！　でも、ボクも大体そっち系ですね（笑）。

田中　水木一郎さんは千曲ライブであれだけ客も集まって、いまもう一回脚光を浴びてるじゃないですか。自分はリアルタイムで、あの歌と声を聞いて育ってきた世代じゃないですか。俺らの世代は絶対誰も聞いてるわけですよ。ですから水木一郎さんがあんなに認められるとなんか自分が認められたような気がして嬉しかったッスね。

——シューティングが脚光浴びるよりそっちの方が嬉しかったと（笑）。

田中　そうッスね（笑）。実際嬉しかったですよ。なんかGLAYだのなんだのが幕張メッセで何万人も集めましたよね？

——20万人ライブですね。

田中　冗談じゃねえと！　いまの日本人って人が行くとこに行きたがるじゃないですか。みんながこっち行くから私もこっち行くみたいに。アリが群がるように興味本位でポンポンポンポン人につられて流されてますよね。ですから、そんな感じなんですよ、GLAYも！

——ダハハハ！　GLAYも（笑）。

田中　TVで心理学の先生が言ってましたもん。いまの日本人はみんなの行きたがるとこに必ず行くって。いまのシューティングもそれに近いもんがあると思いますよ。

——雑誌とかを使って、戦略的にもうまいやり方をしてますよね。

田中　それはあると思いますね。

——であれば俺は水木一郎ライブに行くと（笑）。

——同感です（笑）。あと『ビバリーヒルズ高校白書』のポスターも貼ってありますけど（笑）。

田中　あぁ、アレはいまの若者にそって、ちょっと違ったのも貼ろうかなと思って。アレは妥協した部分ですよ（苦笑）。

——ダハハハハ！

田中　自分は、アメリカ行ってアメリカ人に対する認め方が変わりましたから。認めるとこは認めようと。エリック（・パーソン＝初代修斗ライトヘビー級チャンピオン）なんかアメリカ人の中でも変わってますから。普通アメリカ人っていうのは、科学的なウエートトレーニングをガンガンやってプロテイン飲んでって、そんな感じじゃないですか？　エリックは全然やんないですから。

——結構、タイプ的には近いんじゃないですか？

田中　いや、エリックは根性とかではなくて、技術の追求のみですから。いきなり「技教えてくれ！」って来ますからね。それにアイツは食生活もいい加減ですからね。

——そうなんですか？

田中　ホントに気の向くままにですからね。寝たいときに寝て、食べたいときに食べて、練習やりたいときにやってって感じですね。それにアイツはコーラも飲んでますから。

——ダハハハハ！

田中　でもエリックは人脈もあって、いろんな人間から好かれてますよね。アイツの家に居候させてもらってたんですけど、自分はツアーで行った訳じゃないですから、英語も使えなければ全然言葉も通じませんし、嫌でも英語を覚えなきゃいけなかったですから。まあエリックのおかげでいろいろと学びましたね。自分はアメリカのいいところを吸収して帰ってきましたから。やっぱりなんだかんだいってアメリカは日本に戦争で勝ってますから凄いッスよ。

——いきなり戦争の話ですか（笑）。

田中　でも日本もロシアに勝ってますけどね。

——ダハハハ！　日露戦争は勝ちましたからね（笑）。

田中　日本も凄いッスよ。でもそれで調子こいてアメリカとやっちゃったからダメだったんスよ。

——いやぁ〜、しかし昔は全然喋れなかったとは思えないほど話が面白いですね（笑）。

田中　でも本当ッスよ！　喋んなかったッスよ。こんな長い会話なんて、ましてこうやって質問されて具体的に答えるなんてとんでもなかったですから。ホント最近ですよ。普通に喋れるようになったのは。

——そうだったんですか（笑）。それで、田中さんがいまの修斗で認めてる選手っていうと、（佐藤）ルミナさんとマッハ（桜井速人）さんということでしたけど。

田中　認めるって言った覚えはあんまりないんですけどねぇ。

——アラッ！（笑）。でも、「若い選手でも認めてる選手もいます」って、2人の名前上げてましたよ。

田中　あぁ、ルミナの場合はコンバット（レスリング）とか出てますよね。そういう他流派に出てるって姿はいいなって思ってますよ。修斗ルールだけに限らず、やっぱ他の世界とも闘わなきゃダメッスよ。

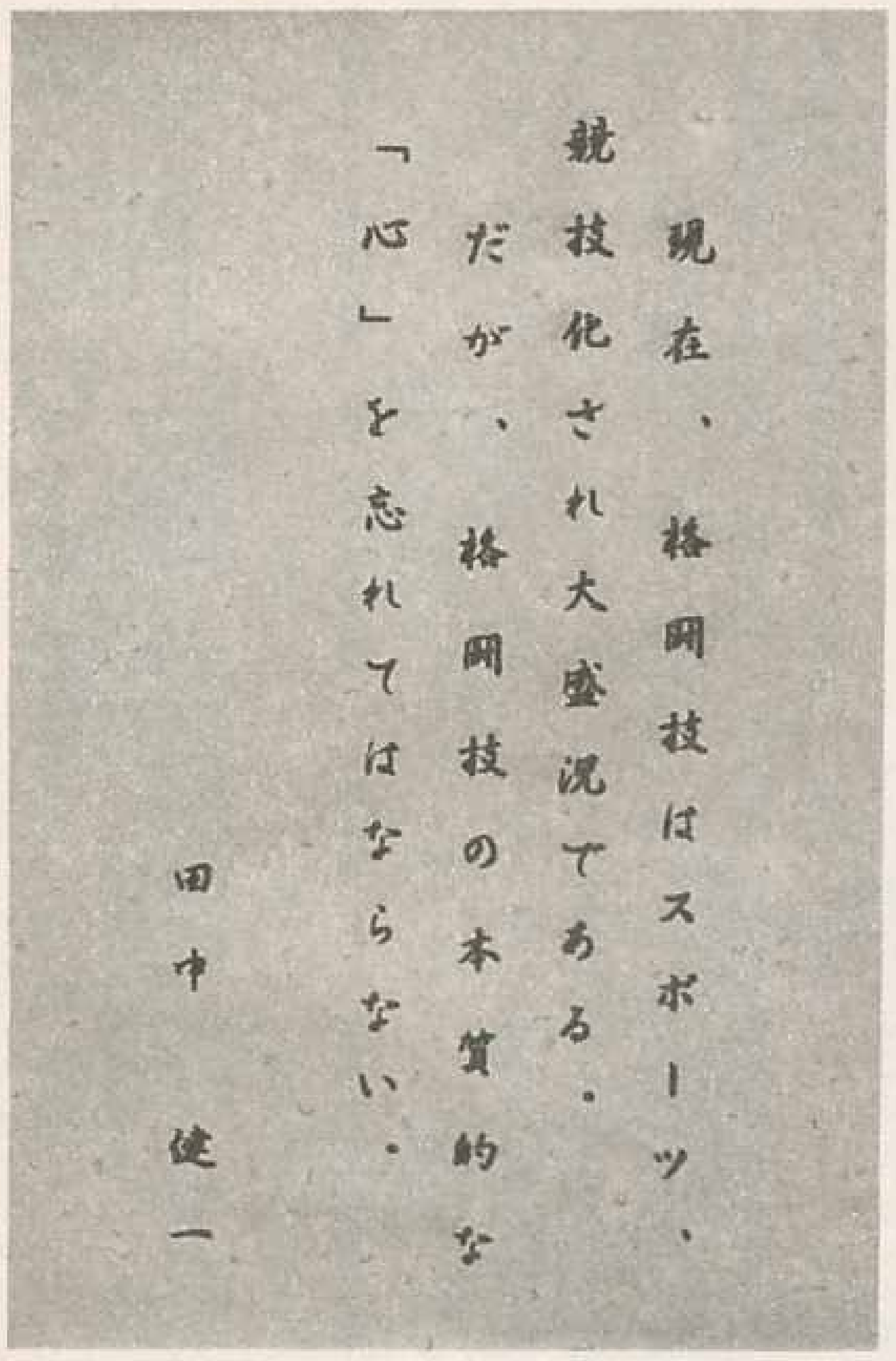
——田中さんは、キックの選手にも打撃で渡り合えるくらいにならなければダメだと思ってキックルールに挑戦したわけですね？

田中　そうッスね。そもそも実戦を想定すれば最重視するのは立ち技ですからね。

——実戦といえば、初期シューターの横山哲雄さんが書いた『修斗創生期』の中で、田中さんがオウム真理教の武闘派から勧誘を受けたっていう話が載ってたんですけど（笑）。真相はどういった話なんですか？

田中　ああ、ありましたね。オウムのヤツらが子供連れて道場に来たんスよ。まだこの道場を建て直す前で、麻原（彰光）が捕まる前でしたね。練習中に、おばさんと子供が手つないで来て、それでい

俺、オウム武闘派から名指しで勧誘受けたことあるんスよ



現在、格闘技はスポーツ、競技化され大盛況である。だが、格闘技の本質的な「心」を忘れてはならない。

田中健一

11月28日には茨城県土浦で格闘結社田中塾主催の大会が開催された。田中健一いわく、この大会は"裏掣圏道"と呼ばれ、本家・掣圏道以上の過激さだったということだ。

俺は同じ「押忍！」でも「押忍！」(敬礼)は嫌いですから

きなり、「田中健一さんですよね」って言って。

――ダハハハハ！　名指しですか（笑）。

田中　名指しで来たんスよ。「私達の武闘派にお入り願い下さいませんか？」って。何が何だかわかんなくて。それで、そのとき変なカードみたいなのをくれて、そのカードに住所が書いてあったんスよ。それ見て「ああオウムだな」ってわかったんで帰しましたけどね。

――オウムが一番騒がれてた時期ですよね？

田中　ちょうどオウムの全盛期でしたから。それにオウムの発祥地で総本山は船橋ですもん！　それで俺の友達にボクサーがいるんですけど、そこにもオウムが行ったみたいなんスよ。だから格闘技やってる選手をグルグル回ってたみたいッスね。

――田中さんだから勧誘に来たってわけじゃなかったんですね（笑）。

田中　なんかの噂でオレのこと聞いて知ってたんでしょうね。それで「給料も支給しますから。それにオウム食じゃありませんよ。普通食以上に豪華なものを用意します」って。

――普通食以上ですか（笑）。

田中　それと「娯楽も女性の方も付きますから」と。

――それは心動かされますね（笑）。女性といえばロシア美女、ロシア美女といえば掣圏道ですけど（笑）、いま掣圏道で、「押忍！」っていうのがトレードマークみたいになってますよね。あのシステムはどう思ってるんですか？

田中　う～ん、佐山さんから、「押忍！」っていうイメージは、昔っから想像すれば、そんなことは有り得ないような感じだったんですけどね。逆に「押忍！」って言ったら、ブッ飛ばされた練習生もいたっていう噂も聞きましたから。

――えっ？　どういうことですか？

田中　佐山代表は上下関係は無しにして、堅苦しくない明るい雰囲気でスポーツ的にやりたいっていうようなことを主張してましたからね。それと佐山代表は英語が好きでしたね。なんでもアルファベットで。それがいまは、掣圏道って漢字ですからね。よくわかんないッスね（笑）。

――修斗も漢字でしたけどね（笑）。

田中　たぶん誰かそういう武道系の人と出会って、それで影響されたんだと思いますよ。それをこの前、佐山先生に聞こうかと思ってたんだけど聞くの忘れちゃいましたね（笑）。

――田中さんもジャッジとして紹介されると「押忍！」ってやってますけど、佐山さんには合わないですか（笑）。

田中　合わないッスね！　それに俺は同じ「押忍！」でも、（掌を内側に向けて敬礼する）「押忍！」は嫌いですから（キッパリ）。

――ダハハハハ！　やっぱり空手とかの（腕を交差させる）「押忍！」の方が好きなわけですね。

田中　そっちの「押忍！」が好きですね。まあ自分も渡部（優一）さんが近くにいるからまだいいんですけど、「ここにいちゃいけない人間なんじゃないか？」って思うことありますよ。一緒にプロレスラーとバスに乗って行動してると、「俺はみんなと違う思想の人種なのにここにいていいのか？」って。やっぱ渡部さんがいるから一緒にいるっていう感じッスね。

――田中さんにとって、佐山さんより渡部さんの方が絆は深いわけですか？

田中　やっぱ同じ選手で、同じ修斗の初代王者だったということで渡部さんッスよ。まあシューティングの時から一目おいて尊敬してたのが渡部さんと関島（康人）さんでしたからね。

――それと、掣圏道で頑張ってる坂本一世さんは田中さんの後輩だってうかがったんですけど。

田中　彼は自分と同じ千葉県人ですけど、学校は違いますよ。でも向こうは俺の高校の名前を聞いたらビビってましたね。

――ダハハハハ！　地元ではかなり有名校だったんですね（笑）。あと聞きたかったのが、本間（聡）さんが『ＰＲＩＤＥ．４』で佐野（なおき）さんに勝ったあとに「あんな勝てそうなプロレスラーとやるな」って言われてたみたいですけど。

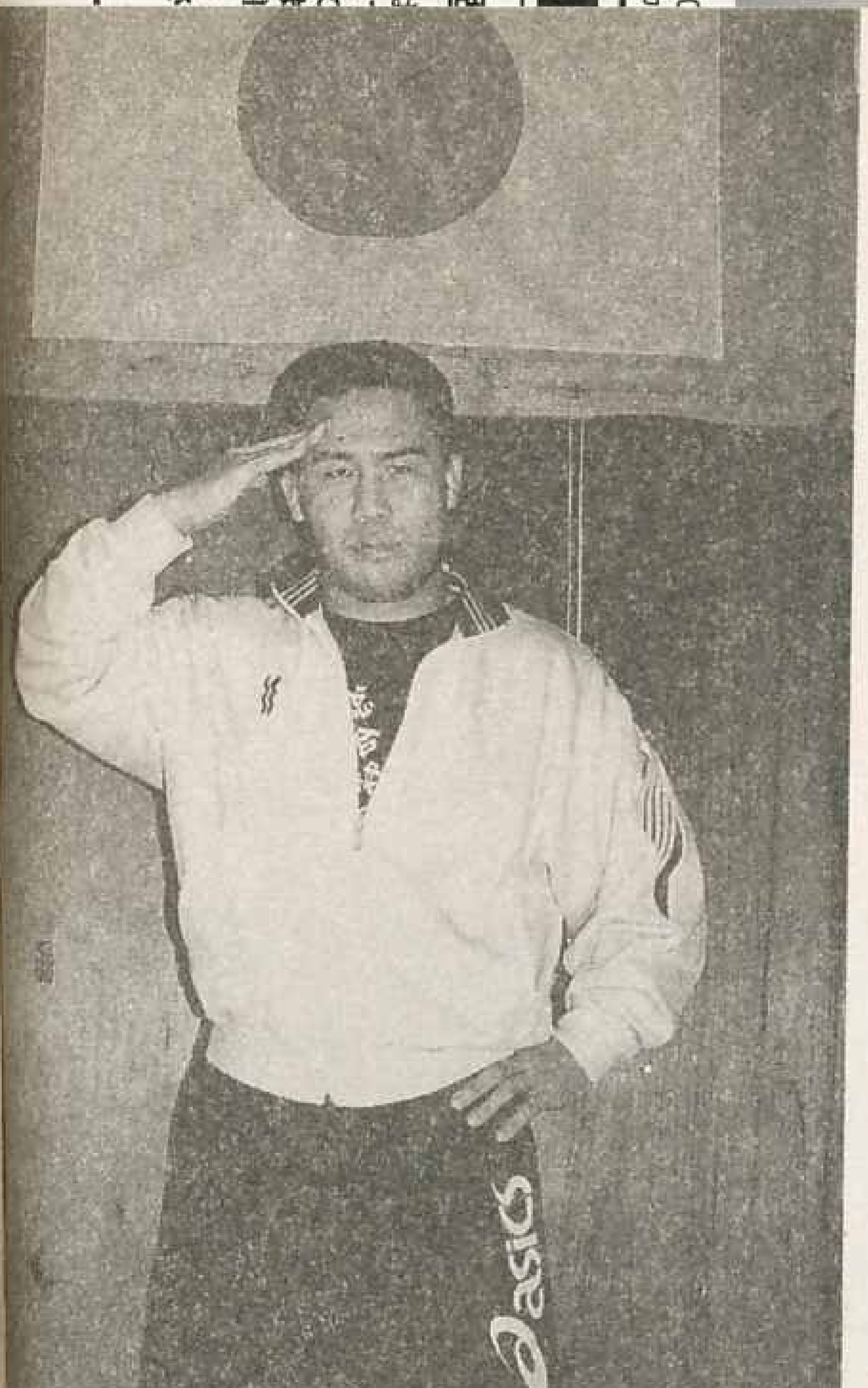
田中　（しばらく考え）そんなこと言いましたっけ？　覚えてないッスね。ガリバーが『ＰＲＩＤＥ』ってヤツでプロレスラーとやって勝ったんスか？

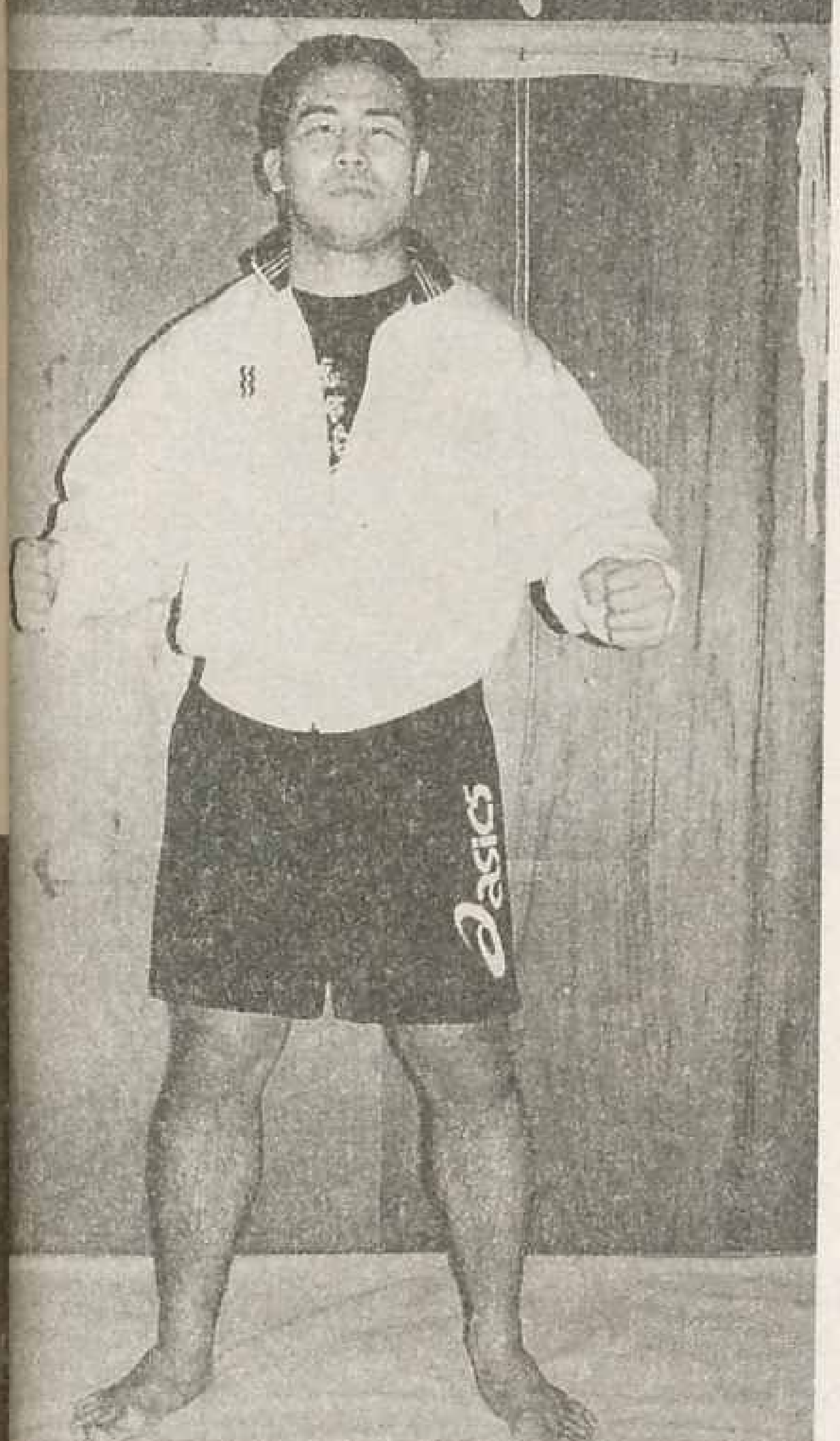
――えっ？　ガリバーって本間さんのことなんですか（笑）。

田中　佐山代表がつけたんスよ（笑）。ガリバーは修斗時代に川口健二と試合をやって、いい試合はやりましたけど、ほとんどドローに近いような試合で結果としては勝ってないわけですよ。山田学にしてもコイツら二人は勝ってないわけですよ。勝ってないのに他の世界に行っちゃったじゃないスか？　そうじゃねえだろと。男なら勝つまでやれと。俺は本間聡にライトヘビー級のチャンピオンベルトを巻いて欲しかったんスよ！　一緒に練習やってたし、合宿も九十九里とかでやってたし。それを他の世界に行っちゃって、川の水のように流されて！

――ダハハハハ！　川の流れのように（笑）。

田中　まあ山田学にしてもそうで





「押忍」ひとつにもこだわるのが田中塾。「女の子も２人いたんスけどね、何だか知らないんスけど、やめちゃうんスよ」一本気な日本男児、大和撫子は田中塾へ集まれ！



すよね。やっぱ筋が通ってないと思うんスよ。勝って他の競技に行くんならいいんすよ。例えば大道塾の市原（海樹）選手とか加藤（清尚）さん。彼らは大道塾の北斗旗でチャンピオンになってるじゃないですか。それで加藤さんはキックに行って、市原選手はアルティメットに出たりしましたよね。あれは筋通ってますよ！　あれは男ッスよ。ああいう風になんなきゃダメですよ、絶対に！　だから俺もたまたまシューティングの初代ライトヘビー級チャンピオンっていう肩書きがありますけど、もしなってなかったら意地で続けてますよ（キッパリ）。だから、そういう中途半端なヤツがいるから言ったんスよ！　そのことですよ。いま思い出しました（苦笑）。

──ダハハハ！　中途半端な位置でプロレスラーを倒して喜んでるんじゃないと言いたかったわけですね？

田中　弱いヤツとやって勝って喜ぶなと言いたかったんスよ。「俺が決めたカードじゃない」って言ったって、シューティングがやりたかったらもう一回戻ってくればいいじゃないですか。

──山田さんに対しても同じ思いがあるわけですね。

田中　山田学は、もうプロレスラーになっちゃったんですよね？　いいんじゃないスか。ガリバーもそうなりそうッスよね。ガリバーは人間的に性格がいいヤツですからね。……バカですけど（笑）。

──ダハハハ！　ところで田中さんが格闘技を始めるにあたって一番影響を受けた人って誰になるわけですか？

田中　自分は（アントニオ）猪木さんか倉田保昭さんですね。それで自分は極真空手のファンでもあったんスよ。やっぱ、ウィリー（・ウィリアムス）vs猪木戦は興奮しましたよ。

──どっち側を応援してたんですか？

田中　もちろんウィリーですよ。でも猪木も好きだったから「猪木も頑張れ！」みたいな感じでしたけどね。どっちが勝ってもいいみたいな感じで、凄い試合になるなと思ってましたね。あとは『四角いジャングル』ですね。自分はベニー・ユキーデに憧れてましたから。

──プロレスに対する思いっていうのはシューティングに入ったぐらいでちょっと崩れた部分ってあったわけですか？

田中　いや、ないッスよ。やっぱり、もともと柔道とかから始めてる人はわかりますよ。十字極められてロープに逃げるとかできるわけないじゃないスか。一瞬自分も思いましたよ。プロレスラーだから逃げられる、我慢できるんだなと。やっぱり柔道なら柔道、レスリングならレスリングとかやって初めてわかるんですよ。自分はキックボクシングもファンでしたね。



格闘結社田中塾には初期シューティングのレアポスターがたくさん貼ってある。もちろんポスターには若き日の田中塾長（写真右）。掣圏道のリングで恒例の市街地型実戦講座。毎回暴漢の役をやらされているのが田中健一である。いつの日か正義の役をともくろんでいる田中だが、全ては佐山創始の腹ひとつである（写真下）。

ファンっていうかオタクっていうか好きでしたよね。キックボクシングは詳しいッスよ。それと、話は変わりますけど、自分は戦後直後に生まれたかったんスよ。

──ダハハハ！　戦後直後ですか（笑）。

田中　そうッスね。生まれた時期をちょっと間違えましたね。

──なんか村上竜司さんと似たようなこと言われますね。

田中　自分、添野（義二＝士道館）館長にも同じこと言われたんですよ。「お前変わってるよなぁ。昔の人間だよなぁ。お前の祖先はサムライだろ」って言われたんスよ。「そこまではいってないです」って答えましたけど（笑）。

──ダハハハ！　でも、練習方法から考え方から昭和の格闘家って感じですよね。

田中　そうッスね。まあマジメな話、自分は終戦直後に生まれたかったッスね。その時代の人間たちと親しみたかったたですし、一緒に生活したかったんですよ。いまの同年代とは考え方もやっぱり合いませんし、喋ってても合わないし、やることなすこと考え方が昔になっちゃうんですよね。いろんな人から「古い古い」って言われますけどね。

──村上竜司さんはその時代に生まれて安藤組に入りたかった言われてましたけど、田中さんの場合はそういう系ではないんですか？

田中　まあ思想は日の丸ですけどね（キッパリ）。

──ダハハハ！　雑誌とかに右翼とか書かれてましたけど。

田中　やっぱり悪い政治家がいっぱいいますからね。本当の意味での政治家っていまの日本にはいませんからね。

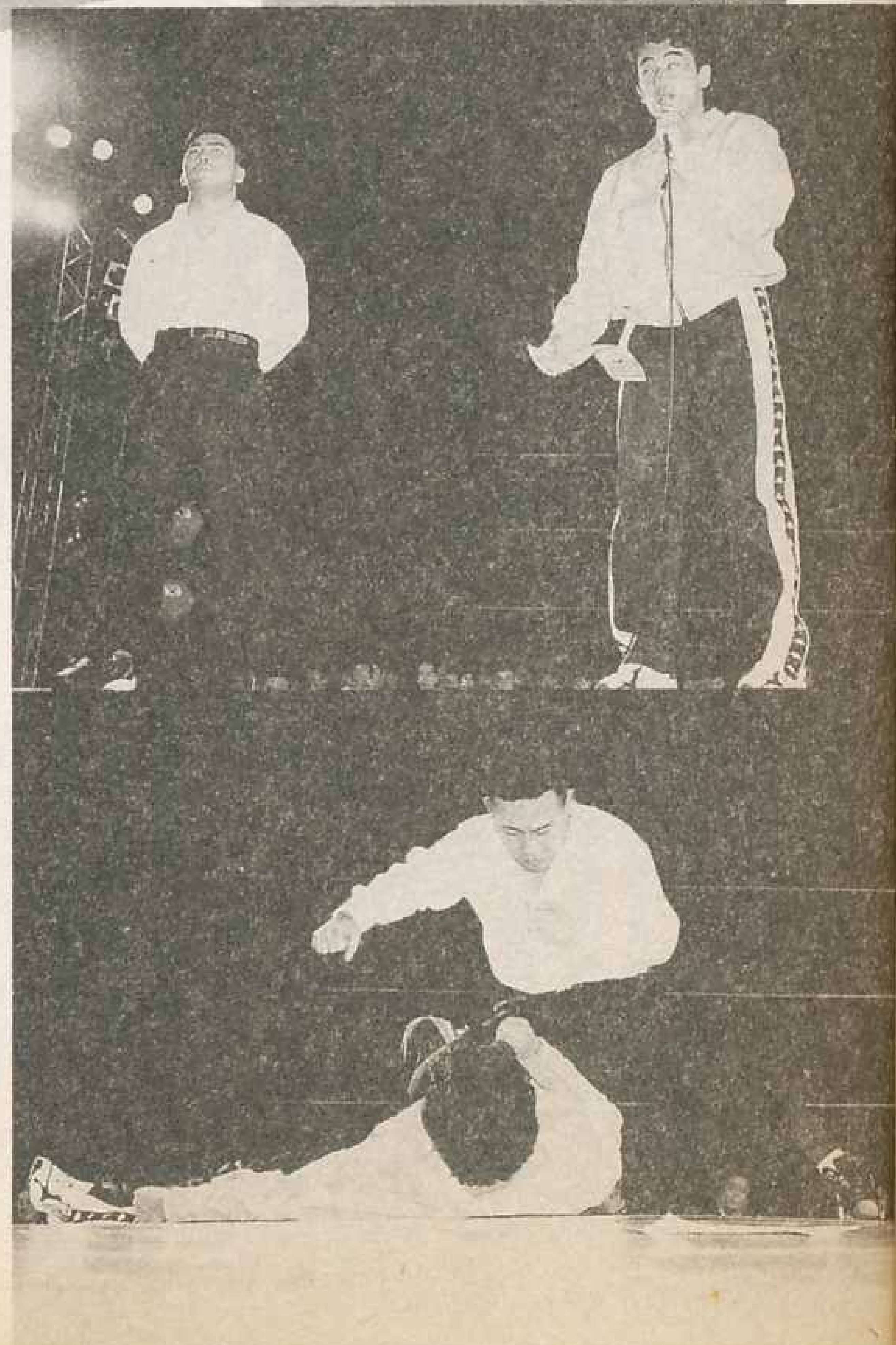
──いませんか？（笑）。

田中　だからクリントンには日本に対して一言キツイ言葉を言って欲しいんですよ。「オマエら何やってんだ！」と。なんだかんだ言っても日本は戦争でアメリカに負けてるわけですよ。俺も最初にアメリカに行くときは、「なにコノヤロー、なにがギブミーチョコレートだ！」って思ってたんスよ。でもやっぱアメリカは凄いッスよ。食べるもんから筋力トレーニングから栄養面まで、やっぱ凄いッスよ。最先端いってますよ。あれじゃ日本も戦争に勝てるわけないッスよ。

──竹槍で勝てるわけないですからね。

田中　そうなんスよ。アメリカはその時にもうバーベルとかウェートトレーニングとかやってたわけ

自分は終戦直後に生まれたかったッスね



佐山代表から学んだのは笑顔とリラックスですね（笑）

ですよ。肉を食ってコーラ飲んで戦争してたわけですから。

──ダハハハハ！　コーラ飲んで（笑）。

田中　やっぱアメリカは凄いッスよ。認めるとこは認めなきゃダメですから。アメリカ行って生活してみて、いいところも悪いとこもありましたけど学ぶことが多かったですね。アメリカ行って自分は変わったんスよ。こうやって人と会話できるようになったのもそうだし。

──それまでは全然話せなかったんですか？

田中　も～う、ホントぶっきらぼうで。それは佐山代表に聞けばよくわかりますよ。自分は人と話すのが苦手で、ほっとんど喋んなかったんですよ。話したかと思えば、思ったことすぐ口にしてましたから。「俺はお前が嫌いだよ！」と。

──ダハハハハ！

田中　当然友達とかもいませんでしたし、一番苦手なことは何っていったら人と会話をすることでしたね。

──会話が苦手だったから雑誌の取材とかも苦手だったっていうのがあるわけですか？

田中　苦手でしたね。「こっち来んじゃねえよ！」って思ってましたからね。

──ダハハハハハ！

田中　ちょっと睨み効かせたら去っていってくれましたけどね。それで、『格闘技探検隊』の荒井（勉）さんだけが、自分に親しんでくれて、やっと口を開いたっていう感じでしたね。あとは、『格闘マガジンK』の山田編集長は好きッスよ。やっぱ山田編集長は実戦志向ですからね。

──山田さんは実際やってますからね。

田中　いいッスよ。実際やって物言ってますからね。やらない人に言われるとムカつきますね！

──ダハハハ！　ムカつきますか（笑）。

田中　まあそれで、自分は目標を失っちゃった時期があったんですよ。これから先どうしたらいいんだと。日本のキックチャンピオンだったらムエタイとかあるじゃないですか。自分がやってた頃のシューティングって、いまでこそ外国人呼んだり、いろんな強いヤツ呼んだり国際色豊かになってますよね。でも、当時は日本人だけでしたから、これから先どうしたらいいかって思って。一時期シューティングの会場にも行かない時期もあったし。それで（ジムに飾ってある日の丸を指差し）こっちの方に行っちゃいましたね（キッパリ）。

──ダハハ！　愛国方面に（笑）。

田中　自分で言うのもなんですけど、凄いクソマジメだったんスよ。一回決めたことやんなきゃ気が済まなくて、太平洋戦争の本とか読んだり、日の丸系の人から話を聞いて、そっちにドンドンのめり込んでいったんスよ。別に三島由紀夫に憧れたとかそれはないッスけど。本音を言うと自分は子供の頃から右翼に憧れてたんスよ。

──右翼に憧れてましたか（笑）。

田中　憧れがあったんスよ。例えば、皆さんもよく知ってるとおり街宣車ってありますよね。で、自分が子供の時近所に自衛隊があったんですけど、その当時、自衛隊の人がなんか悪いことやったんスよ。それで街宣車が突っ込んでいったんですけど、自衛隊の人間は車が中に入れないようにバッと止めにきますよね。そしたら街宣車から降りて走っていったんですよ。これはカッコイイなって思って。これだと思ったんスよ（キッパリ）。

──ダハハハハ！　これが男だと。佐山さんもシューティングを天皇陛下に見てもらえるような競技にしたいって言ってましたね。

田中　あぁ、言ってましたね。でも佐山代表から日の丸っていう言葉はちょっと（声を大にして）合わないっていうか、なんか意外っていうか、（再び声を大にして）有り得ないっていうか、だいたい昔のシューティングだってアルファベットばっか使ってたじゃないですか？　ポスターとかも「SUPER SHOOT」とか「SUPER SPORTS」とか、みんなアルファベットじゃないですか。

──もっと「闘いを修める」系で行って欲しかったんですね。

田中　そうッスね。それで、「土曜の夜、何時試合開始、後楽園ホール」とかあるじゃないですか？　それを「SATURDAY NIGHT IN 後楽園ホール」とか、俺はアルファベットばっかりが嫌だったんで「もっと漢字を使って下さい」って佐山代表に言ったんスよ！

──ダハハハハ！　そういう文句も言ってたんですね。佐山さんも昔から日本の戦争の話とか大好きなんですよね。

田中　そうみたいですね。最近、そういう話聞くようになりましたよ。（再び声を大にして）でも、佐山代表に日の丸ってなんか似ても似つかないっていうか、合わないっていうか、性格もアメリカ人みたいな感じですよね。ドライですよね。ワイルドでドライですよ！

──ダハハハハ！

田中　でも佐山代表もいいとこありますから。格闘技と関係ない分野で学んだこともありますよ。例えば、笑顔ですよね（ニッコリ）。

──ダハハ！　笑顔ですか（笑）。

田中　佐山代表はいつも笑ってますもんね（笑）。



日本人で初めてヒクソンとスパーリングをした男、田中健一。桜庭vsホイラーについて聞くと、「ホイラーはタップしなかったッスけど、グレイシーの連中は体が柔らかいんスよ」。

──佐山さんは腰低いですからね。

田中　キレるときはキレますけどね。

──キレたときの佐山さんの話はよく聞きますよ（笑）。

田中　まあ佐山代表から学んだのは笑顔とリラックスですね（笑）。悪っていうのは全然ないッスもんね。やっぱり悪っていうのに染まってないですからね。格闘技関係の人って多少なんかあるじゃないですか。でも佐山代表はそういうの全然ないですもんね。

──そういう佐山さんだからこそ、いまでも慕っているわけですね。

田中　そうッスね。過去の経緯はどうあれ、やっぱシューティング作った創始ですからね。自分もアメリカ行ったとき、周りのアメリカ人がみんな俺のこと慕ってくれるんスよ。初めて会って、どこの馬の骨だかわかんない日本人の自分を家に泊めてくれて面倒見てくれて、メシ食っても向こうが金出してくれたんスよ。それはなぜか

っていったら、自分がシューティングのライト級のチャンピオンになったからですよ。アメリカ人って何か一つあれば認めてくれる国じゃないですか?

——そうですよね。

田中　人種もそうですし、考え方もそうですよね。自分も格闘技のチャンピオンになったことで凄い認められて、まあ、俺の努力でチャンピオンになったっていうのもあるんですけど(笑)。やっぱシューティング作ったのは佐山創始ですからね。

——である以上は背くことはできないと。それで、田中さんはアメリカに行ったときにグレイシーの道場に行ってるんですよね?

田中　そうッスよ。まだアルティメット大会が始まる前ッスよ。ヒクソン（・グレイシー）なんてまだ世に広まってないときですよ。

——早かったですねぇ(笑)。

田中　俺はヒクソンって名前だけ知ってたんですよ。エリックがヒクソンの道場に通ってるっていうんで、「絶対行こう!」って思ってて。「どんだけ強いのかな」と。どうやら自分が日本人で初めてヒクソンとスパーリングやった人間らしくて、ヒクソン初来日の時に、マスコミの人が来て、いろんなこと聞くんですよ。「ヒクソンと練習してみてどうでした?」とか。「どうでした?」って言われても、「人間でしたよ」って言いましたよ!

——そりゃそうですね(笑)。

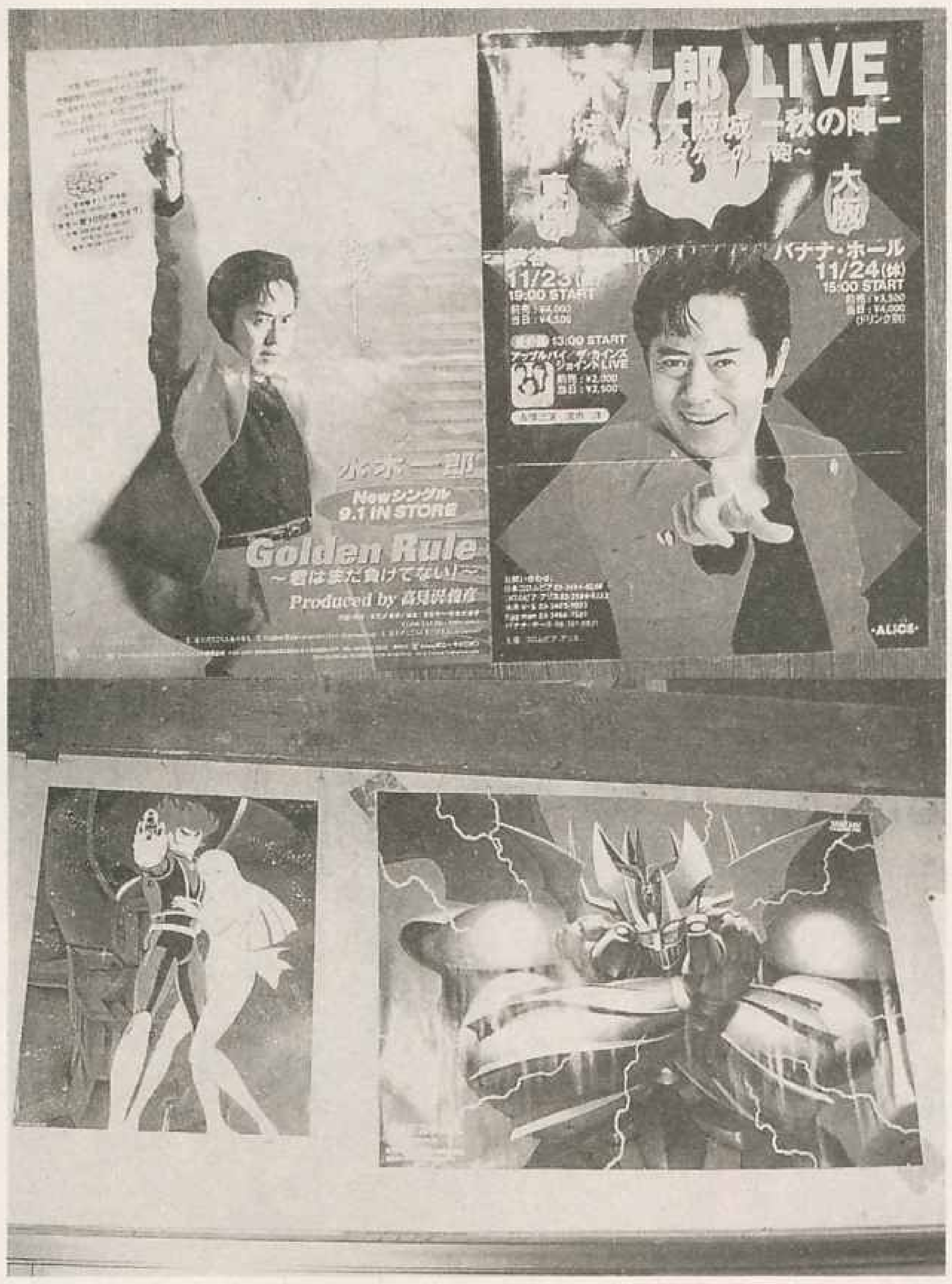
田中　「怒りもするし、笑いもするし、人間でしたよ」って。でもその時は道衣着てやったんですけど、自分は高校のとき柔道で合宿とか試合とか強い先輩や先生と乱取りやってましたからね。確かにヒクソンには絞めで何度もやられましたけど、みんなが言うほど強くないんじゃないかなって思ったのが当時の正直な気持ちですね。

——柔道の強い選手とやってる人は皆さんそう言いますよね。

田中　まあ寝技でパンチがあるルールになれば強いんでしょうけど。それで確かあの時は、ホイス（・グレイシー）が第1回のアルティメットに出場しましたよね。あの大会の直前にオレらがヒクソンの道場に練習に行ったら、ホイスはキックボクサーのスパーリングパートナーを雇って道場のはじっこで練習してたんですよ。それでTVでアルティメット大会を見て、「なんだこれ? 金網の中でやってる」とか言いながら中村（頼永＝USA修斗代表）会長と一緒に見てたんスよ。「いろんな格闘技が集まってやってるよ。スゲー!」と思って。

——1回目のUFCをリアルタイムで見てたんですね?

田中　リアルタイムですよ! 生中継ッスよ。それで、アルティメットでホイスのセコンドに付いたライト級のルイスっていうのと、大会直前にケンカながらのスパーリングをやっちゃったんですよ。ヒクソンなんかもスパーリングを中止してこっちをジッと見てるし、エリックもエリックで「コイツはシューティング・ライトウエイト・チャンピオン、ミスタータナカ」とか「コイツは凄いんだ!」って血の気の多い連中の前で言うもんだから、「なんだなんだ?」ってみんな来るじゃないですか?



『四角いジャングル』系ポスターの他に、『マジンガーZ』をはじめとじたアニメ特撮系ポスターも多数貼られているのが田中塾の特徴である。もちろん田中が好きな水木一郎ライブ告知も貼ってある。BGMもベニーのテーマから軍歌までバリエーションに富んでいる。

——当然潰しに来るわけですね。

田中　やっぱ潰しに来ますからね。まあ実際、彼らはみんな強かったですよ。

——そこでも世界の広さを感じたわけですね。

田中　感じましたよ。やっぱ井の中の蛙じゃダメだと思いましたね。ホントに世界には強いヤツいっぱいいますよ。

——そこでそういう体験をしても、グレイシーに技術を近づけるより、別の方向でいった方がいいと思ったわけですか?

田中　そうッスね。なにしろ立ってることが一番強いと思ってましたから。実際アイツらの打撃っていうのは、ボクサーやキックボクサーみたいに腰入れたパンチや蹴りじゃないんですよ。

——確かにそうですよね。

田中　あのルールではそれが正しいんでしょうけど、グレイシーとかバーリ・トゥードの連中ってパンチ（腰の入らないパンチを出し）こう打ちますよ。でも、パンチっていうのは腰入れて肩もちゃんと出して（腰の入ったパンチを実演）こっちのパンチの方が効くんですよ。ただ、これだとタックルに入られやすくなるし、テイクダウンされやすくなりますよね。

——そうですよね。

田中　腰砕けパンチはそんな効かないけど、タックルに入られてもすぐ対処できますよね。でも俺が言ってるのはそうじゃないんスよ。そんな寝技に来たら困っちゃうような打撃だったらやるなと。そんな生命保険に入ったような打撃はやるなと。第二希望みたいな打撃はやるなと。

——ダハハハ! 生命保険パンチですか(笑)。

田中　俺が言ってるのはそうなんスよ。シューティングの選手はミット蹴るにしても腰入れないで蹴ってると思うんですよ。ウチらはそんなのやってないッスよ。「そんな蹴り出すんだったらやるな。寝技一本に絞れ!」って言ってますから。「そんな打撃は効かないし疲れるし余分なことだからやるな!」って言ってるんですよ。「だったら寝技を極めろ!」って言ってんですよ。そんなタックル来られたら

生命保険に入ったみたいな
第二希望みたいな打撃はやるな!

昔のプロレステーマ曲は好きッス 猪木のテーマは燃えますすよ

どうしようみたいな感じでパンチ出すんだったら、出すなと！　パンチは腰入れてスナップ効かせたボクシングのパンチを出せと。ウチに来る道場生には口を酸っぱくして教えてるんですよ。生命保険キックは出すなって！

——ダハハハ！　素晴らしいですよ。非常に男らしいスタイルですね。

田中　男らしいって言うか、それが普通だと思いません？　俺が言ってることは間違ってますかね？　よく、「これは総合格闘技の蹴りとパンチだ」って言いますよね。パンチはやっぱりボクシングですよ。ボクシングのパンチの打ち方が正しいんですよ。蹴りはキックボクサーとかムエタイの蹴りが正しいんスよ。

——とにかく中途半端なことは嫌いなんですね。

田中　まあそうッスね。とにかく自分が言いたいのは「打・投・極」を全部やれってことですね。まあ自分はこういう思想なんで、こういう話を他のジムとかでするとと、「また田中の話がはじまったよ！」って顔されますからね。その程度にしか思ってないんスよ。まあ、あとは自分の性格が天の邪鬼っていうのもあると思うんですけどね。

——シューティングが流行ってるとか言われれば、ちょっと離れたくなったりするわけですね（笑）。

田中　ホントそうスッね！　逆にいま自分がやってきた格闘技がこうやって凄い有名になってきてるじゃないですか。客も常に満員で喜ばしいことじゃないですか。でも大盛況になればなるほど自分はなんかムカつくんスよね。

——ダハハハ！　ムカつきますか（笑）。

田中　でも、いいんじゃないスか、自分は天の邪鬼ですから（笑）。やっぱ、水木一郎の方がいいッスよ！

——ダハハハ！　やっぱり、昔1人で練習してた時も、水木一郎とかそれ系の音楽を聞きながらやってたんですか？

田中　そうですね。自分は必ずベニーのテーマを聞いてましたね。『四角いジャングル』のレコードに入ってるんですよ。

——ボクも持ってますよ！

田中　LP持ってるんスか？　ホントッスか！　俺も持ってるんですよ。いつ買いました？

——ここ2、3年ぐらいですね。

田中　中古屋ですよね？　探したんスか？

——探しましたよ。あの辺はだいたい揃いましたね。

田中　（悔しそうに）アレ持ってるのは俺しかいないと思ってたんだけどなぁ。

——ダハハハ！　ベニーのシングルは持ってないんですけどね。

田中　（声を大にして）アレないんスよね！　俺アレ欲しくって!!　でもダビングしたテープだったら俺持ってるんですよ。

——あっ、持ってるんですか？

田中　なんで手に入れたかったっていったら、マーシャルアーツ日本キックボクシング連盟が旗揚げ興行の時に会場入りの時に流してたんですよ！　それで俺は連盟の事務所まで行ってダビングしてもらったんですよ。あれは感動しましたねぇ。

——ダハハハハ！

田中　そっち方面は詳しいんスか？

——かなり好きなんで（笑）。

田中　俺はいまのプロレスは詳しくないけど、昔のプロレステーマ曲は好きでしたから。あっ、俺は『炎のファイター』持ってますよ。猪木のテーマはやっぱ燃えてきますよね。アレはいいッスよね！

——何回聞いてもいいですよね。

田中　アレ聞くと燃えてきますすよ。プロレスはそんな見てなかったんスけど、猪木さんの赤いガウン着ての入場、アレは最高でしたよね。

——ガウンの脱ぎ方からなにまで猪木さんは完璧でしたよね。

田中　そうッスよね！　自分は「アントニオ～猪～木～！」ってコールされたらチャンネル変えて他の番組見てましたね。

——ダハハハハ！

田中　入場するまでが格好良くて、あのテーマ曲が好きで好きで。

——面白いですねぇ、田中さん（笑）。

田中　（構わずに）『炎のファイター』は良かったですよねぇ。炎のファイター系のレコードも自分はだいたい持ってますね。（急に思い出したかのように）あっ、アレ持ってますか？　昔の『燃える闘魂』！

——2枚組LPですよね。持ってます（笑）。

田中　（悔しそうに）持ってますかぁ。アレの『炎のファイター』もいいッスよね。「♪チャンチャンチャチャランラン」って鈴の音から入るヤツ。

——ダハハハハ！　細かいですね。

田中　（悔しそうに）アレも持ってますかぁ。アレ持ってる日本人って俺しかいないなって思ってたんですけど。身近にいるもんなスね。

——やっぱり相当マニアックなんですか？　じゃなきゃ持ってないッスよね。

——あの辺に関しては金に糸目付けませんから（笑）。

田中　（ホントに嬉しそうに）いいですねぇ。一緒にベニーのシングル探し頑張りましょう！

——押忍！　頑張りましょう（笑）。

田中　なんだぁ、『紙のプロレス』とはこれから仲良くしなきゃいけないッスね。いやぁ～、今日は弱点つかれましたよ（苦笑）。

——ダハハハハ！

田中　（いきなり吉田豪の腕を掴み）ちょっと一緒にベニーのテーマでも聞きましょうよ！

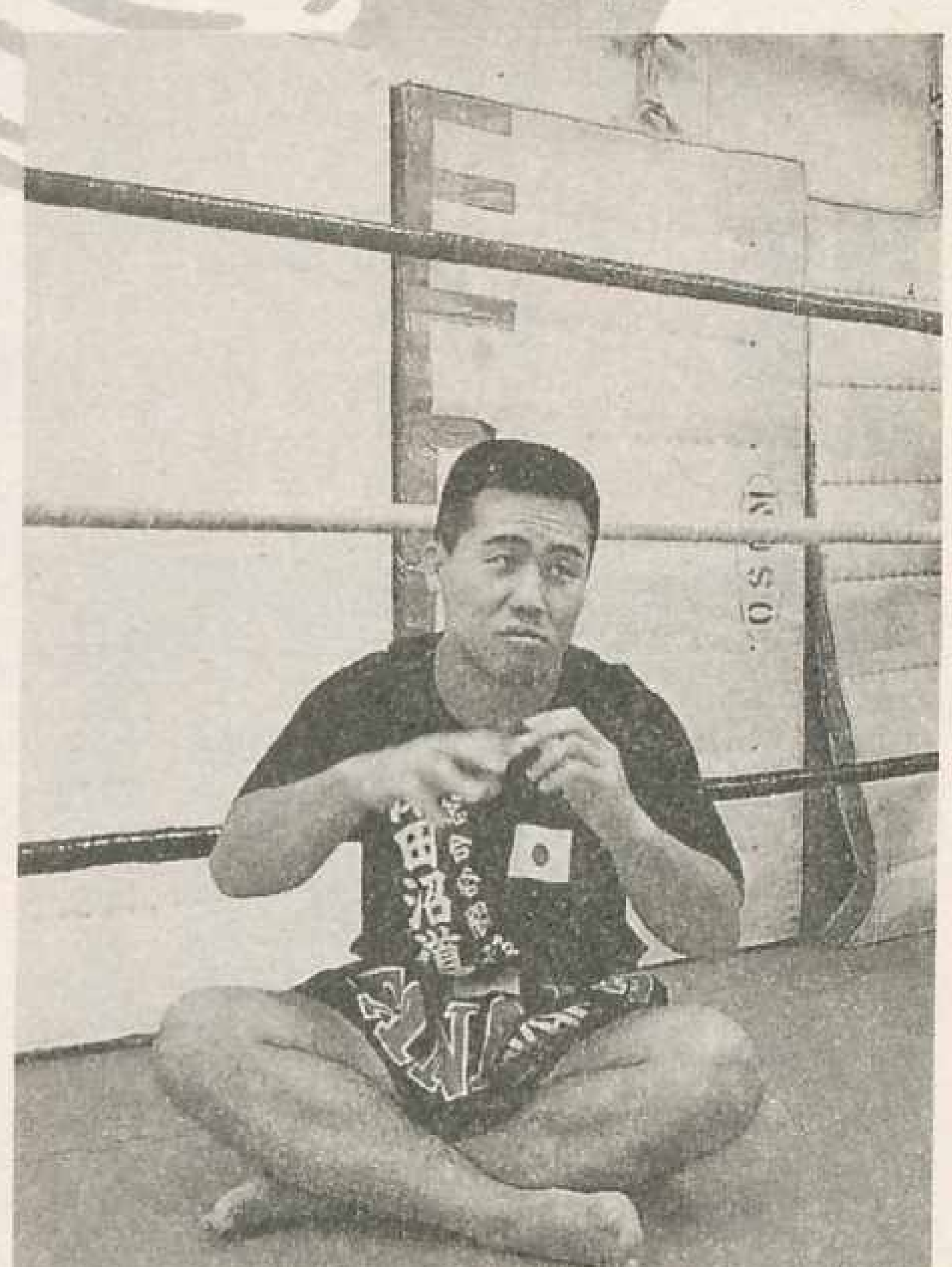
——ま、また今度（笑）。

田中　これもなんかの縁ですから！

——（弱々しく）も、もうすぐ終電なんで（苦笑）。

田中　いいから泊まっていって下さいよォ！

【99年9月27日、格闘結社田中塾にて収録】



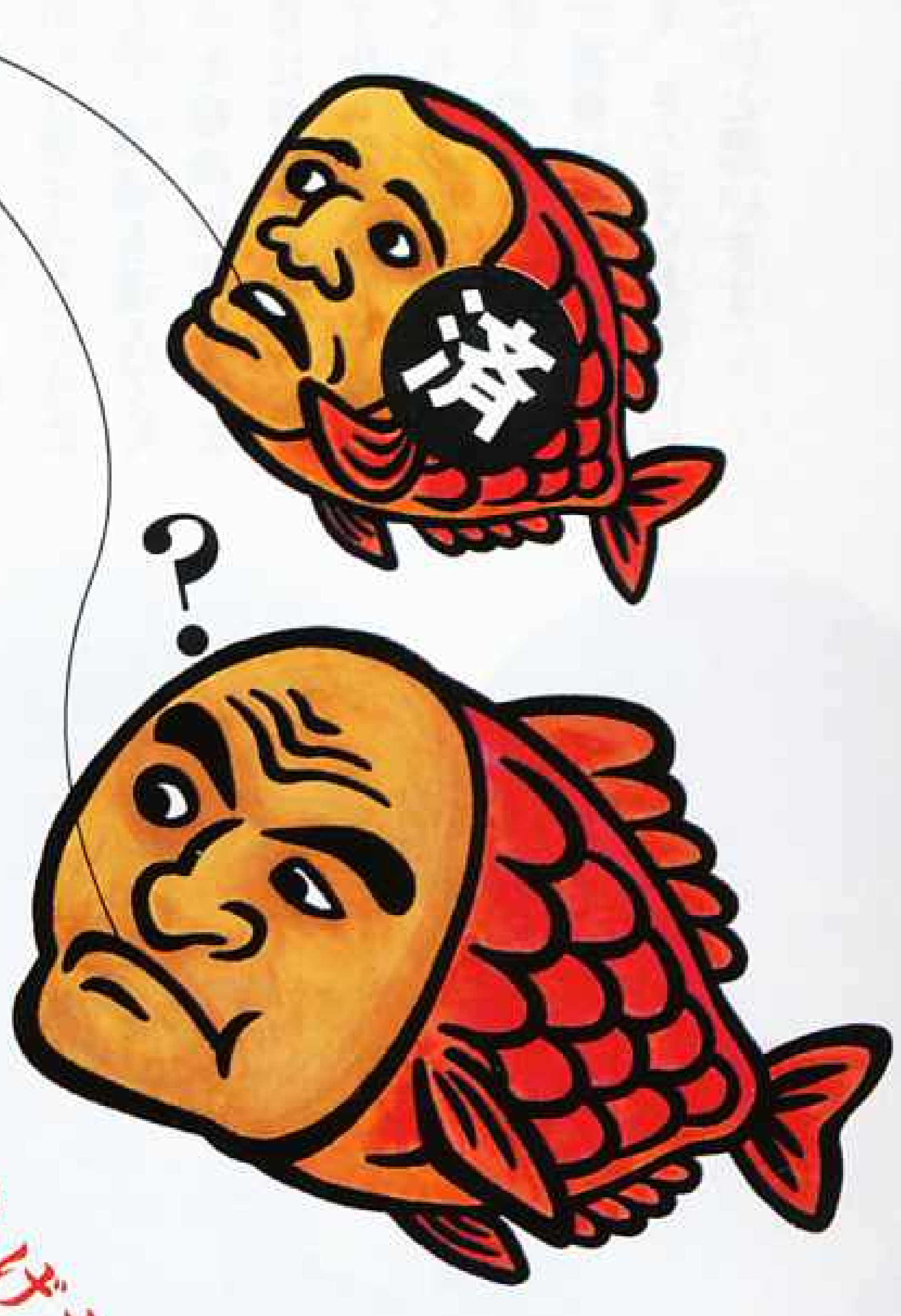
たなか・けんいち■現在、修斗プロデューサーの坂本一弘氏とは何度となく闘いライバル関係だった初期シューターであり初代修斗ライト級王者。現在は修斗創始者・佐山聡の“掣圏道”のジャッジとしても活躍中。巡業中にロープワークの練習をしてみたところ「センスありますね」とホメられたという。「万が一、プロレスのリングに上がるとしたら渡部さんみたいにマスク被って名前を変えてやるでしょうね」とのことだ。見たい！

格闘結社田中塾・塾生募集！　問い合わせ：TEL047（474）1841で押忍！

「ザマアミロ」って感じですね（ニコニコ）

快挙！遂に有明海で"グレイシー"を釣りあげた!! to be continue?







完勝この上ない記念INTERVIEW

桜庭和志

聞き手／山口日昇
interview by Noboru Yamaguchi
撮影／森"モーリー"鷹博
photographs by Takahiro "Morry" Mori
助手／大西タマリン＆堀江ガンツ
Help by Tamarin Onishi&Gunts Horie
イラスト／中川雅博
illustration by Masahiro Nakagawa

「ホイラーは負けていない」「桜庭はファイターではない」「桜庭は勝ちにこなかった」——それがホイラー側の定説らしいが、それはホイラー側の勝手なんです（ライフスペースの代表風）。11・23のサクvsホイラー戦後に高田延彦が言い放った、ちょっと聞き慣れない言い回しの言葉、「完勝、この上ない！」。これに本誌はノー問題で乗らせてもらいます。「完勝、この上ない！」誰がどう見ても、これが世界の結論です！

サク完勝！　完封！　これより、それを本誌の定説とさせていただきます!!（ニコニコ）

11・21――。大きな期待と小さな不安の中で迎えたホイラー・グレイシー戦。サクは、有明コロシアムを大炎上させる闘いぶりで我々の細胞を叩き起こしてくれた。さらには48年前、ホイラーの父・エリオが木村政彦に敗れた際の決め技、キムラロックを完璧に極めるという粋なフィニッシュまで披露してくれたのである。

そして試合後は、「次はお兄さん、ボクと勝負してください！」というバッグンのマイク！　プロレスファンの溜飲が下がったこと、この上ない！

しかし、試合前から注文をつけ、判定なしのルールで「引き分け狙い」という罠を張り巡らせてきた上に、試合2日後には難癖極まりないことをホイラー側が言い出したことで（P54参照）、これには温厚なサクもニコニコしながらも大激怒！　確かに、あとは折るしかないという状態でタップしなかったホイラーの意地と執念と根性は凄い。それは誰もが認めるところだろう。

だが――と、文句をここで言っても始まりません。まずはここは素直に〝めでたい気分〟を表そうということで、幸運を運んでくる七福神の大黒様と恵比寿様の折衷スタイルでニッコリ笑ってくれた桜庭様の、〝日本人のグレイシー狩り一番乗り後〟の生の声を、さっそくお届けしたいと思います。



最後は、なんかスッと取れちゃいましたね。あの状況なら、ウチの会員さんでも取れます（笑）

――いきなりですけど、ホイラーとの試合中に、観客席から「桜庭、愛してる～！」って声が上がってましたよ。

桜庭　男の人ですよね？（笑）。

――もちろんです（笑）。でも、その気持ちは凄くよくわかりますね。あの闘いぶりを見てたらそう言いたくなりますよ。

桜庭　ヒャハハハ。

――でもホント、心の底からお礼を言いたいです、なぜか。ホイラー戦完勝、おめでとうございます！

桜庭　あ、ありがとうございます。

――試合を振り返っての感想をひと言で言うとどうなりますか？

桜庭　ん～、「ザマアミロッ！」って感じですね（ニコニコ）。

――ガハハハ！　なんか妙に気持ちいいですね（笑）。

桜庭　「私は相手がミスするのを待っていただけだ。相手がミスするのを誘って相手を傷つけずに勝つ。この試合は高田道場の非常にいいデモンストレーションになった」（笑）。

――ガハハハ。ヒクソン調だ（笑）。

桜庭　でも、向こうが15分2Rか、30分1Rかどっちかにしてくれって言ってきたときは、ほら、ボクはよくスタミナ切れてバック取らせるじゃないですか？

――そこをアームロックという必殺パターンがありますね。

桜庭　そこで（チョーク・）スリーパーかなんか狙うつもりだったんじゃないですか？　でも実際はむこうのほうがバテてて、ホント、ザマアミロッ！　ですよ。「あなたの作戦そっくりそのまま使わせてもらいました」って。

――完全に作戦&実力勝ちですね。

桜庭　最後の最後は、なんかスッと（腕が）取れちゃいましたね。

――完璧に極まってましたね。でも、シロウト目から見ても、〝あんなに簡単に取れるなんて、すげーなーサク〟って感じでしたよ。

桜庭　いや、あの状況だったら、ウチの会員さんでも取れますよ（笑）。

――ガハハハ。今日は飛ばしますね！

桜庭　はい。だいぶムカついてたんで（ニコニコ）。

――試合前、〝対グレイシー〟っていう気負いはなかったですか？

桜庭　対グレイシーって、なんか膨らみすぎてる感じがするじゃないですか。

――ああ、幻想が。

桜庭　少しはプレッシャーありましたけどね。〝どのくらい強いのかなぁ〟っていう部分で。

――試合前のむこうの注文の多さについてはムカついてましたよね（笑）。

桜庭　あっちばっかり条件つけるんだったら、ボクも条件つけたいと思って、「ヒジとヒザをどんな状況でも使っていいことにしたい」って言ったんですよ。そしたら……。

――「バイオレンスすぎるからダメだ」みたいなことを言ったんですよね、確か。

桜庭　そうです。そうしたら、もし引き分け

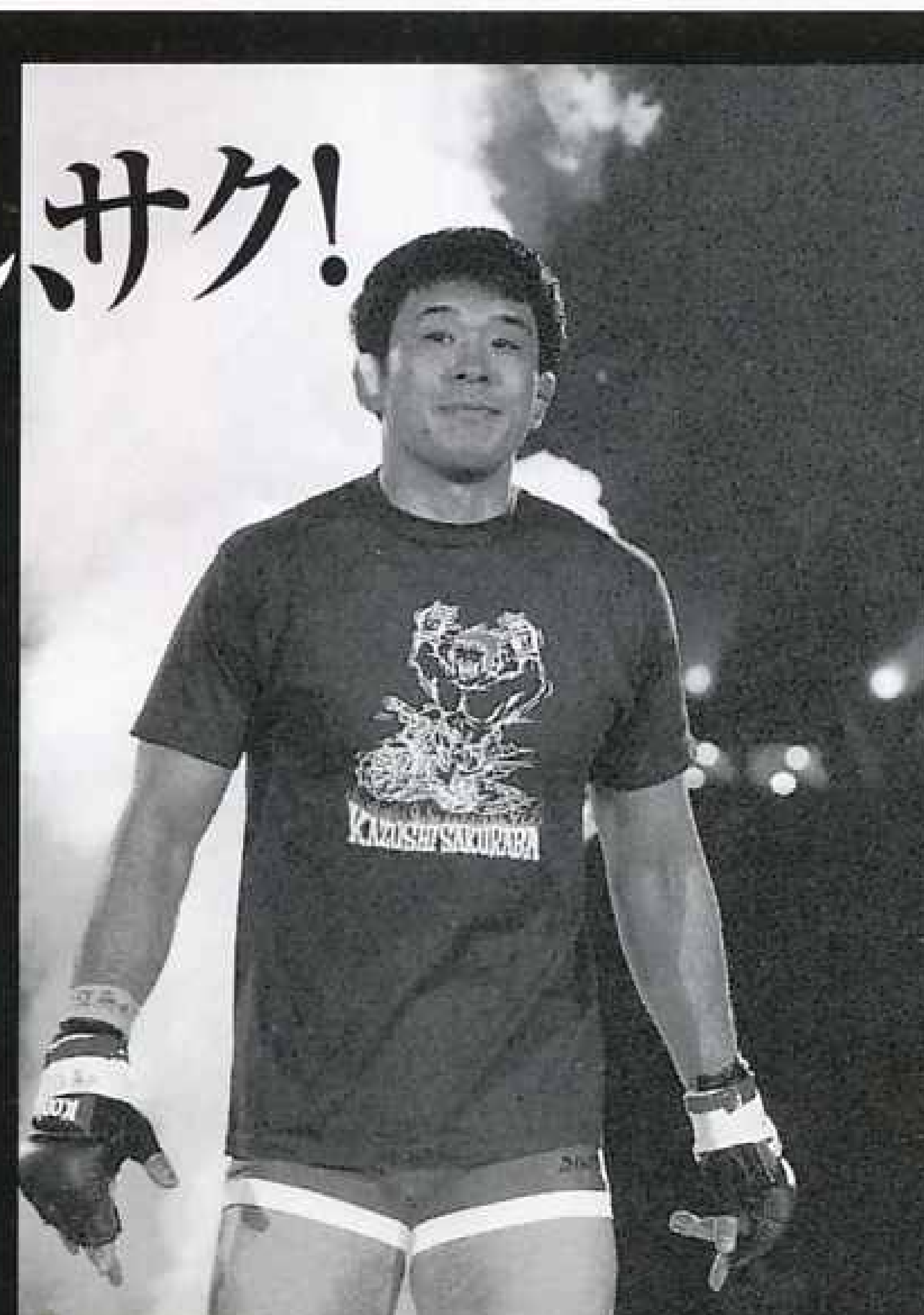
11・21 BOUT REVIEW サクvsホイラー

やっちゃってくれ、サク！

必要以上に気合い十分なホイラーに対して、サクは歴史的大一番を前にしても、平常心を絵に描いたような余裕の表情で入場。セコンドの高田も自分の試合以上と言ってもいい顔。サクはなんとグレイシー狩りを前にしても控室で昼寝してたらしい。「ゲームボーイ持ってくりゃよかった」（サク談）。最高！







た場合は体重が軽い分、むこうの勝ちにしてくれって言ってきたんですよぉ！（ムスッ）。高田さんがどっかのインタビューで、むこうのことを、"ああ言えばこう言う商会"って言ってましたけど、まさにその通りでした！

——しかし、あの人たちは試合前にいろいろなことを張り巡らせますよね。そこまでやったら、ある意味大したもんですよ。

桜庭　ボクとしてはヒジとヒザのことはどうでもよかったんですけど、もうムカつくから！　心のなかでは"最終的には『PRIDE』が決めたルールでいいや"って思ってたんだけど、とりあえずブツブツ言ってみることにしました（笑）。

——とりあえずブツブツ（笑）。

桜庭　精神的に撹乱してやろうと思って（ニコニコ）。だって、体重軽いのわかってて、自分からやりたいって言ってきたのに、それでいて「体重軽い分、勝ちにしてくれ」ですよ？　ボクは、ボクのほうが体重軽いのわかってたら、重い人とやりたいなんて言わないですから。だからボクは今度のトーナメントもあんまり出たくないんですよ。

——ガハハハハ！　またいきなり。トーナメントのことはあとで聞きます（笑）。

桜庭　はい（笑）。

——でも、相手より体重が軽いのに対戦表明してくるという勇気には感心しませんでしたか？

桜庭　いや〜、ただのバカですよ（微笑）。

——くぅ〜（笑）。

桜庭　ボクだって、体重の重い人に蹴られると痛いっていうのは知ってるし。それ知ってたのかなぁ？

——でも、ホイラーは30キロ差がある佐野（友飛＝現・なおき）さんとやったじゃないですか（98・3・14『PRIDE．2』）。

桜庭　あの試合は、（佐野が）殴ってないじゃないですか。だから、わからなかったんじゃないですかぁ。

——でも実際、佐野さんにホイラーが勝ったときは、"コイツけっこうやるなあ"とは思いませんでした？

桜庭　いや〜、全然。だって、あのときの佐野さんって、柔術のことなにも知らなかったし、バーリ・トゥードのセオリーみたいなのも、あの頃はほとんど練習してないですよ。そのなにも知らない人に対して、倒すのに30分もかかってるんですからねぇ。

——実際にホイラーと闘って、最初に「勝てる」と思った瞬間は？

桜庭　バシバシ蹴りはじめたころですね。

——ああ。そういえば、1Rの最初にグラウンドになったとき、ホイラーが"ダッコちゃん状態"で密着してきましたよね。あのときの桜庭さんの"脱力"ぶりは見事でしたね。

桜庭　あのときは、自分のスタミナのことを考えて、ここで変に動いても、こっちのスタミナが切れちゃうかなぁと思って、とりあえずひっくり返されないように、黙って座っとこうと思ってました。

——座っとこう（笑）。でも桜庭さんは、そんなにスタミナがないわけないでしょ？

桜庭　でも、疲れてくると、"バック取らせてもいいかな"って思っちゃうんですよ（微笑）。で、むこうのほうが手とか首が細いからスリーパーとか極められやすい。だから、バックだけは取らせないようにしようと思いました。バックを取らせないような闘い方っていうのは、ボクもアマレスやってたんで、それはできるかなって思ってたんで。

——しかしハイキック、フェイントのその場跳びジャンプ、ローリング・ソバット、カカト落としに、「アイ〜ン」まで、まさにサク劇場炸裂でしたね。

桜庭　だ〜って、むこうが出させてくれるんですもん（ニコニコ）。

——はからずも（笑）。

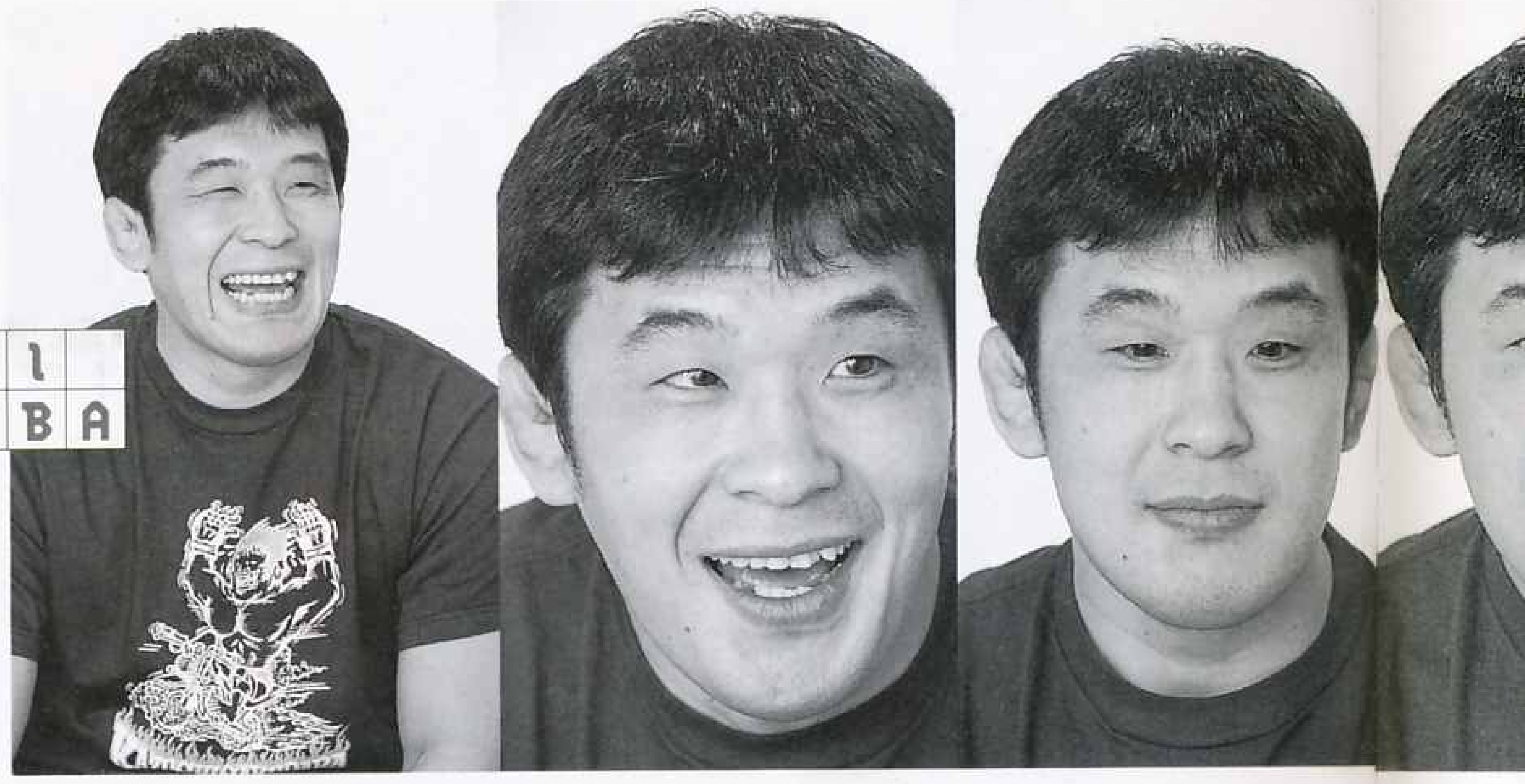
桜庭　「炎の人力車」も、もうちょっと引きずりたかったなぁ。

——そういえば、「猪木—アリ状態」のとき、ホイラーは手と足を器用に使って、あおむきのまま、まるでエイリアンのようにマットを這って追いかけてきましたよね（笑）。

桜庭　ヒャハハハハ。途中で追ってきましたねぇ。そう言われると、ホントにエイリアンみたいでしたね。気持ち悪いですよ（笑）。あれで100メートル走やったらむこうのほうが絶対速いんじゃないですか。

——ガハハハ。以前に「お客さんが楽しければ、たぶんボクも面白い」っていう言い方をしてましたよね。今回は、誰もが見てて面白かったと思うけど、桜庭さんは面白かった？

桜庭　う〜ん、技術的な面白さじゃなくて、変な言い方すると、イジメっ子的な面白さは



KAZUSHI SAKURABA

サク劇場、始まる!!

開始直後こそ密着されたものの、それ以降は「女の子のようなキック」（ホイラー談）でホイラーの足が紫色に腫れ上がるほど蹴りまくる。ホイラーはそうとう女の子に痛い目にあってるのか？　ホイラーが"エイリアンムーブ"からキックを出すも、サクはドッジボールの玉を避けるようにあっさりかわした







ありました(ニコニコ)。あの人、震えてましたよ。

——震えてた!

桜庭 なんか、口とかプルプルって。

——怒ってたんですかね?

桜庭 どうなんだろう。バチーンと蹴ったときは、ホントに痛そうでしたけどね。「アイテーッ!!」みたいな感じで。

——「アイ〜ン」対「アイテーッ!!」(笑)。

桜庭 そんな顔されたら、普通はそこ蹴りますよ。やっぱり頭悪いんですかね?

——ガハハハハ! 飛ばすなぁ(笑)。

桜庭 普通の顔してれば、ガマンしてるのかな?って思って、やらなくなるかもしれないけど、あれだけ痛い顔してたら、そこを蹴りますよ。だけど、ホント震えてるから、少しかわいそうな気になってもきたんですけどね。

——でも、やっぱりいままでの蓄積があるから、そうそう甘い顔もできない(笑)。プロレスファンの思いもあるし。

桜庭 あ、「タッチしてもいいよ」って言おうかと思ったんですよ。セコンドの人に。2対1でもいいよって(笑)。

——パチパチパチパチ!(絶賛拍手中)。

桜庭 昔、猪木さんがやった3対1みたいに。タッチすりゃあよかったのに。

——今日はかなりイケますね(笑)。ボクも含めて業界もファンも「ありがとう!」っていう気分なんだけど、ところが、ボクらが狂喜した桜庭さんの闘いぶりに対して、クレームをつける人たちがいるんですよ、実は(笑)。

桜庭 ヒャハハハハ。あー、あれですね。お兄さん(笑)。

——聞きました? この話。

桜庭 ほとんど聞きました。

※サクvsホイラー戦の2日後、台東区で行われた「グレイシー柔術セミナー」にて、ヒクソン&ホイラーは、試合についての不満&異議を唱えまくった。

桜庭 でもあれですよ、言えば言うほど、いま話題の〝なんとかスペース〟の人みたいに、自分で言いながらドンドン追いつめられていきますよね(笑)。

——なんとかスペース(笑)。

桜庭 「これがグレイシーの定説です」みたいな(笑)。

——ガハハハハ! ヒクソンは「桜庭選手にはとてもガッカリした。彼があんな闘い方をするとは思いもしなかった」と言ってますね。

桜庭 でも、ボクがああいう闘い方をすると思わなかった時点で、ボクの勝ちですよ。彼はバーリ・トゥードは〝なんでもあり〟って言ってるくせに、なんでもありじゃないんですね!(怒)。

——「ホイラーは桜庭より体重が軽く打撃もうまくないのに、桜庭が打撃を望んだときは立ち技につき合った。しかし、ホイラーが寝技を望んだときに桜庭はつき合おうとしなかった」ということです。

桜庭 それは、ホイラーが打撃につき合ったんじゃなくて、寝てると蹴られて痛いから立ったんでしょ。それに最後の最後につき合ったじゃないですか。あ、でもそのとき、むこうは寝技は望んでなかったんですかね?(ニコニコ)。

——むこうが望むときにつき合わなきゃいけないんですよ、きっと。難しいですね、つき合いって(笑)。それで、ホイラーも、「桜庭選手は私が寝技に誘っても来なかった。まるで、蟻が象から逃げているようだった」って言ってますね。これはどういう意味ですか?(笑)。

桜庭 ボクが蟻なんですか?

——そういうことでしょうね。

桜庭 …………(絶句)。

——続けます(笑)。「あの状態から逃げる方法はあったんですか?」というフィニッシュへの質問に対して、ホイラーは、「ビデオを見ればわかると思うが、私は動いて動いて体勢を変えていた。あそこでもし桜庭選手が動いたら、あの体勢を崩せた。あのときの桜庭選手は抑え込みをしているだけだった」という衝撃のコメントをしています。桜庭さん、抑え込みをしていただけだったんですか?

桜庭 で〜! だ、だって、はじめの時点で、手を2本、足を2本使ってボクを返せなかったのに、あの極められた状態で、どうやって返すんですか!(怒)。

——なるほど、それは理論的ですね。

桜庭 あ、でも、すいません。ボク、実は返されないように、足をロープの外にコッソリ出してました(笑)。

——コッソリ(笑)。でもそれはテクニックのひとつですよ。オクタゴンの金網を利用して抑える場面もよくあるし。桜庭さんは、ホイラーがタップしなかったとき、折ってやろうという気はなかったんですか?

桜庭 ムカついて、折るつもりでした! カッコうそ、カッコ閉じ(ニコニコ)。

——カッコうそ、カッコ閉じ(笑)。

桜庭 人間の腕はそんなに簡単に折れるもんじゃないですよ。折ったことないからわかんないですけど。でも、あの状態だと折れるっていうより、肩がはずれちゃいますよ。

——キムラロックは狙ってたんですか?

桜庭 ん〜、実は狙ってました。ホイラーは身体が柔らかいんで、十字とかは極まらないかなぁ、と思ってたんで。

——素敵です! 蛇足ですけど、ホイラーは、「桜庭選手の蹴りは、まるで女の子のようだった」とも言ってますね。

桜庭 (再び絶句)。女の子の蹴りに悲鳴をあげてたのは、どこの誰だったんですかね(アキレ顔)。

——フィニッシュの話に戻ると、ヒクソンは、サムライ・スピリット全開で「ホイラーは自分の腕が折れたとしても、それを望んだと思う」と言ってますね。

桜庭 でも、ボクが相手の腕を折っちゃったら、彼らが望んでなかったバイオレンスな試合になっちゃうじゃないですか。

——確かに、ヒジとヒザ使っちゃいけない理由はなんだったんだって(笑)。

やっぱり飛ぶ?







サクラバード・キックにいくフェイントから、ホイラーの顔面を蹴り飛ばすサク。こんなコンビネーション使う選手、世界中探してもどこにもいない。もうサクに猪木―アリ状態は通用しない。そしてホイラーが「女の子みたいなタックル」(サク談)を仕掛ければ、スカすようにパンチを叩き込む。サクに死角なし!

世紀末 SURPRISE



（本誌から贈る言葉）サク、カッコイイとはそういうことサ！（ニコニコ）

KAZUSHI SAKURABA

桜庭　単にあきらめが悪いんじゃないですか？

――桜庭さんからしてみれば、あの状態からは逃げられないっていう感覚はあったんですよね。

桜庭　絶対逃げられない！　もし仮にあそこから逃げる方法があったら教えてもらいたいです。

――受講料払ってでも（笑）。

桜庭　はい。セミナー料でもなんでも払いますよ。高いセミナー料（笑）。ボクが極めてるんだから、どのへんで返されるなっていうのはわかりますんで。〝返そうとしてた〟ってむこうが言っても、やってるボクはわかってますから。

――もうここまでくると、「それはヒクソンの勝手なんです」って言いたくなるんだけど、ヒクソンは、「桜庭選手はタフでテクニカルだとは思う。しかし彼には闘いのハートがないことがわかった。彼はウォリアー（戦士）ではなく、観客を相手に試合をするのが目的だった」と言ってますね。

桜庭　自分は、お金を相手に闘ってるんですかね（アキレ顔）。

――「桜庭がしていたのは、ファイトではなくアクションだ。お客さんにアクロバットのような技は見せたが、勝ちにはいかなかった」と。要するにヒクソンは、桜庭さんは自分から寝技にいこうとはしなかったって言いたいんですよね。

桜庭　でも最後に勝負にいってるじゃないですか！

――もちろん記者からもそういう質問は飛んでるんですよ。でも、それに対してヒクソンは「たまたま寝技の体勢になったときに、桜庭がたまたま有利なポジションになったことは事実だ。しかしそれはたまたまだ」と答えてるんですよね。

桜庭　ムカつきますねぇ。仮にたまたまでも、入ったら負けですよ。ホントに強い人

っていうのは、そのたまたまがないんですよ。
――ズバリ言って非常に明快です。ヒクソンは、〃たまたま説〃を裏付けるコメントとして、「それが偶然じゃないと言うのなら、なぜ始めからやらないんだ」とも言ってます。
桜庭　そりゃあ、単純に作戦ですよ。
――ガハハハ。それも実に明快です。
桜庭　ボクは自分のスタミナを考えていただけですから。だって時間が30分って決まってるわけだから、それ以内だったら始めに寝技やろうと終了ギリギリにやろうと、それこそボクの勝手ですよ。なんだったら、5分1Rの勝負でもしましょうか？（アキレ顔）。
――「桜庭選手の作戦は、逃げて30分過ごそうとしてるだけのように、私には思えた」ともおっしゃってますね。
桜庭　でも、そう言ってる人たちが、いちばんそういう作戦を使うんですよね！　お前らがよく使う作戦をやっただけだって！　それを客観的に自分の目で見れば、それがダメだってことがわかるじゃないですか。だから「お前ら、直せ！」って言ってるんですよ。
――なるほど！　そういう深い意味もあったんですね、あの戦法には。プロのハートを叩きこんだわけですね。
桜庭　そうですね。お金が欲しければ、それくらいの仕事はしろよと！（怒）。
――素晴らしい！
桜庭　炎系の技なら、ボク受講料もらって教えてあげますよ。高いですけど（笑）。
――ガハハハハ！　炎系の技！
桜庭「炎のコマ」と「炎のメリーゴーランド」と「炎の人力車」がありますから。何回も言いますけど、教えるのは高いっすよー（笑）。
――でもこういったコメントを聞くと、



KAZUSHI SAKURABA

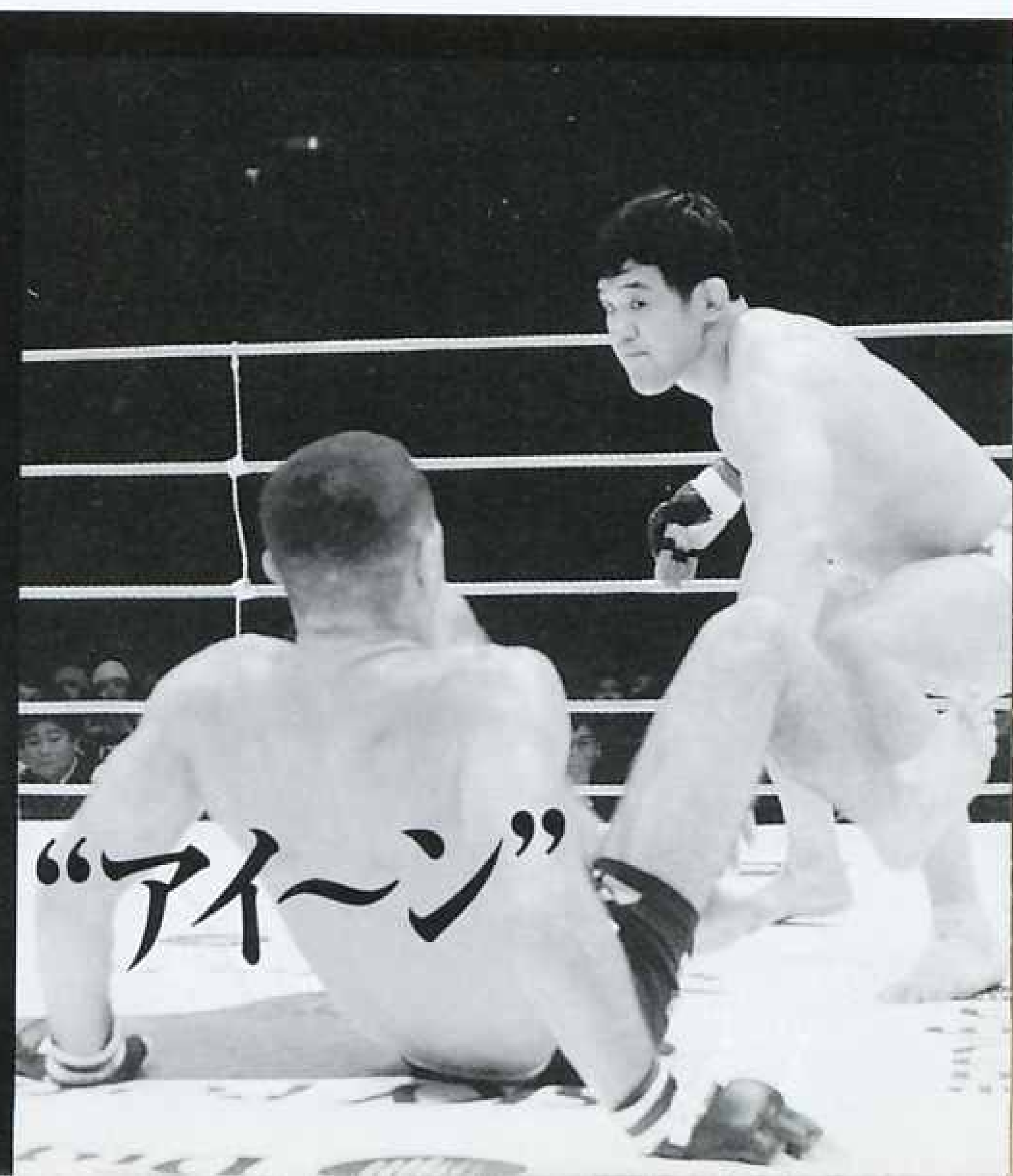
またまた〃怒りのエネルギー〃が充填されてきてるんじゃないですか？（笑）。
桜庭　ムカつきますよ！〃サムライ〃を名乗るなって感じですよ！
――あ、〃サムライ〃で思い出しました。「相手を殴って殴って、最後の最後に寝技に持ち込んだら勝てるのかもしれない。そういうことはありえると思うが、それは精神的に武士道が足りないと思う」ってことも言ってましたね。
桜庭　ハー……。俺のおじいさんは武士ですよ。
――ゲ！　そうなんですか？
桜庭　いえ、たぶん農家です（笑）。
――ズコッ！（笑）。でも、この一連の発言は、初めてヒクソンの生の声を聞いた気がしますね。幻想と鎧に包まれた、いつものヒクソンの発言ではないですからね。
桜庭　余計なことを言わなければ、まだそのまま幻想を保っていられるんだけど、こういうこと言っちゃうと、ドンドン崩れていきますからねぇ。
――そういう意味で、初めてヒクソンの生の声を引き出したのは桜庭和志ってことですよ。
桜庭（ホイラー戦を）契約する前はヘンゾ（・グレイシー＝『PRIDE．8』ではアレクサンダー大塚に勝利）とやる予定だったんですよ。そこをホイラーが横取りしてきた。でもボクは軽い人とやっても面白くないから、やる条件として、「もしむこうが負けたら、お兄さんが出てくる」っていうのを出したんですよ。だから出てきてください！
――最後のマイクもバッグンでしたね。「次はお兄さん、ボクと勝負してください！」。〃お兄さん〃ってとこがいいですよね（笑）。
桜庭　あれは前から考えてたんですよ。実は負けたとき用のマイクも考えてたんですけど。
――は？　ゼヒ教えてください。
桜庭「すいません。もうちょっと練習してきます」。もし負けたら〃もうちょっと練習してきますハチマキ〃とか作ってもらおうと思ってました（笑）。
――ガハハハハ！
桜庭　ボク、前に他の雑誌で、「ホイラーさんはグリコのおまけだ」って言ったんですよ（ニコニコ）。子どもは最初にオマケを見る。それで、それが飽きたらキャラメルを食う。だから、キャラメルがヒクソンですよね。
――グレイシー印のキャラメル。実に高そうですねぇ（笑）。
桜庭　でも、もうそのキャラメルは腐ってるのかなあって、いまは思ってます。正味期限切れてんじゃねえの？って（笑）。
――正味期限切れてるキャラメルって嫌ですね。嚙めば嚙むほどカビが出る（笑）。
桜庭　ぶっちゃけた話、試合するのかしないのかってことですよ。まあ別にしなきゃしないでいいんですけど（笑）。
――「あなたやグレイシー一族が、桜庭選手にリベンジする気はありますか？」っていう質問に対して、ヒクソンはなんて言ったと思います？
桜庭　なんて言ったんですか？
――「ホイラーは試合には負けてはいない。だから私はやるつもりはない」。
桜庭　ぐあ～。もう、ホントに正味期限切れてますね。
――レフェリングに関してもクレームをつけて、ヒクソンの息子のハクソン君が、島田（裕二）レフェリーにペットボトルを投げつけた

「タッチしてもいいよ」って言おうと思ったんですよ。セコンドの人に（ニコニコ）









アイ～ンチョップをホントに出したかと思えば、次の瞬間に強烈なロー！　足を掴まれそうになっても涼しい顔でスタコラサッサ。こりゃまた失礼しました的攻撃に激怒したヒクソンは翌々日「桜庭は『戦士の魂』がない！」と断罪。それを聞いたサクは「自衛隊紹介しましょうか？」といなす。これまた最高！

出たぞ！“アイ～ン”

世紀末 SURPRISE

んですよね。

桜庭　それこそ、お前の息子に言え！「武士道が足りない」って！（怒）。だいたい、契約書に“レフェリーが止めることもある”っていうようなことは書いてありますからね。それにサインしてるわけだし、“レフェリーには絶対服従だ”っていうのにもサインしてるんだから。それに、『PRIDE．1』（97・10・11）のときは、島田さんのことを「ナイス・レフェリー」って言ってた人たちが、自分たちが負けたときはクレームつけるんですかね。自分らが勝ったときだけ誉めて（ムスッ）。

――不思議なのは、むこうは、あの展開からだと良くて引き分けですよね。それなのに、まるで勝ち目があったかのような言い方するんですよね。

桜庭　そういえば、ボク、引き分けたときのマイクも考えてたんですよ！

――聞かせてください（笑）。

桜庭「すいません。引き分けましたけど、ここにいるみなさんが判定してください」って言おうと思ってました。

――あ！　表が桜庭カラーのオレンジで、裏が青かなんかのカードを入口で配って、ファンに上げさせれば良かったですね（笑）。

桜庭　ヒャハハハハ。「みなさん、判定お願いします」って言って（笑）。

――でも、この兄弟は、オレンジ一色になっても、「あれはオレンジ色じゃない」とか言いそうですよね、ここまでくると（笑）。

桜庭　ヒャハハハハ。そういえば、（試合の）当日、ヒクソンの40歳の誕生日だったらしいですね。当日わかってれば、勝ったあと、「ハッピーバースデー」って思いきり言ってやったのに。

――ガハハハ。タチ悪い（笑）。で、試合中、「危ない」って感じた場面はあったんですか？



桜庭　まったくないですね。マシアスとやったほうが危ないと思いましたよ。

――また（笑）。

桜庭　ホント。ハイキックとか速くて、当たったら危ないなあって思いましたから。

――ホイラーのタックルは……。

桜庭（すかさず）まるで女の子みたいなタックルでしたねぇ。

――ガハハハ。見事に返しますね（笑）。

桜庭　はい。今回は揚げ足取らせてもらいます（ニコニコ）。ボクが寝技につき合わないとかなんとか言ってましたよね？　でも、ボクがスタンドの状態からグラウンドに引き込みたいときは、まずタックルに行って倒しますよ。だから、あの女の子のようなタックルで倒せなかっただけじゃないんですか。

――飛ばすぜ、サク！（笑）。

桜庭　日体大の監督とか紹介しましょうか（ニコニコ）。

――そういえば偶然に昨日、1年半くらい前にやったTK（高坂剛）のインタビューを読んでたら、「近い将来“なんだあれ？”っていう技で、グレイシーを倒すことはありえるんじゃないか」って言ってるんですよ。

桜庭　グレイシーにしてみたら、わからない技ってことですか？

――そうです。「でも見る人が見れば、ああ、そういうことかって思う技」っていう注釈付きなんですけどね。それと「ヒクソンは馬力もないし、ハッキリ言って頭だけで闘ってる人。予想もつかない技をパッてやられちゃうと、もう次のアイデアが浮かばないんじゃないか」っていうことも言ってて、それはまさに今回の試合ですよね。

桜庭　彼らは、彼らの中で篭りすぎなんじゃないですか。自分たちのルールを外に出さないというか、グレイシー柔術を練習する人は、外で練習しちゃダメっていうルールがあるんですよね。



――そういう決まりがあるんですか？

桜庭　あるみたいですよ。みんなで交流しあえばいいじゃないですか。だから、炎系の技を教えてあげたいんですよ、ホントに。

――それがサクの定説です（笑）。

桜庭“なんでもあり”なんだから、摩擦だっていいじゃない、効けば（笑）。

――だから、バーリ・トゥードのセオリー以外のことをやるとダメなんですよ、きっと。彼らからしてみれば、桜庭さんは、1・4で純プロレスのセオリーを無視してしまった小川直也と一緒なんですよ。ちょっと強引だけど（笑）。

桜庭　ヒャハハハ。でも、べつにバーリ・トゥード協会の会長っていうわけじゃないんだから、関係ないですよ。

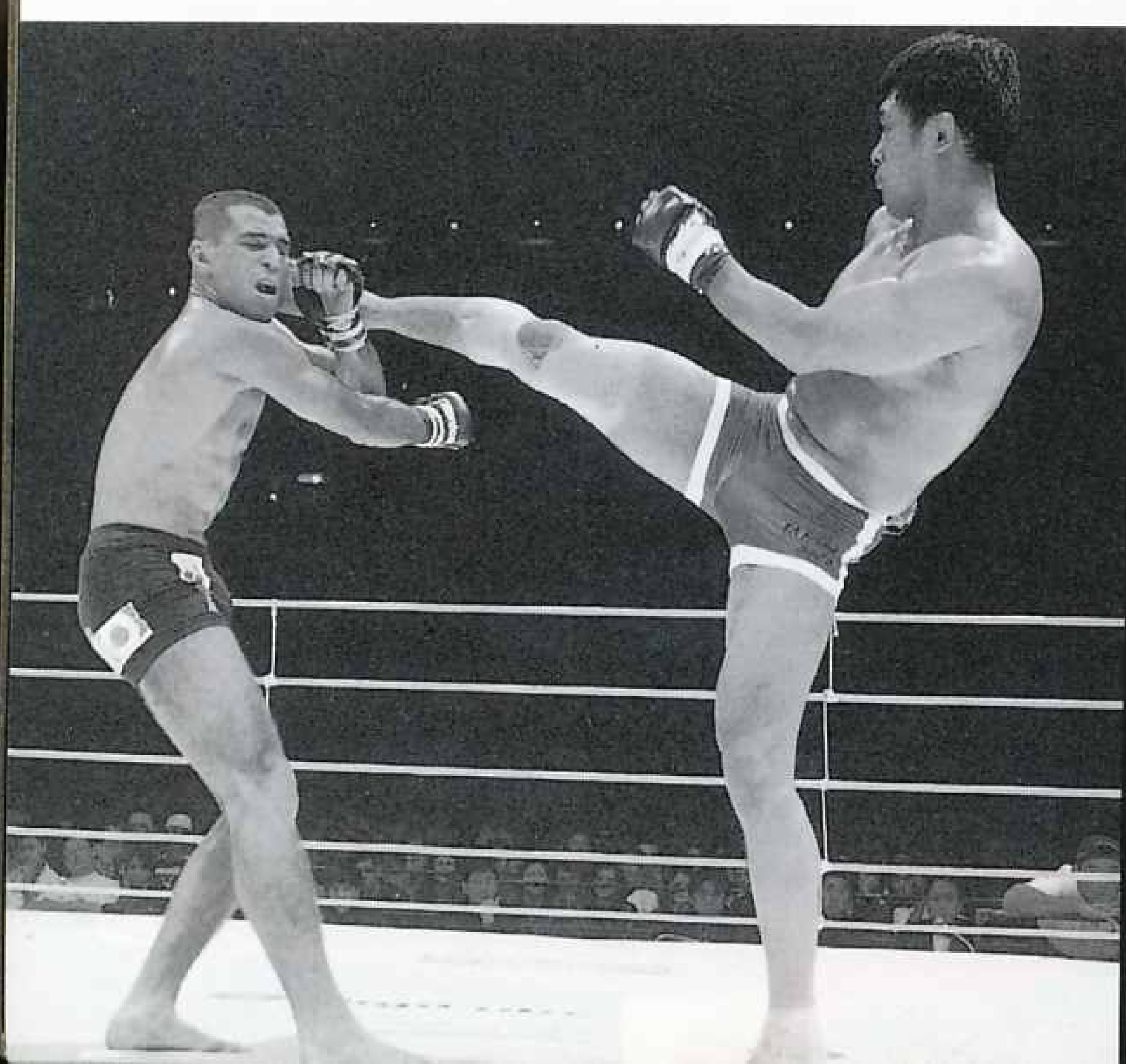
――それとも、グレイシー柔術のセオリーを知らないから桜庭はダメだって言いたいんですかね？

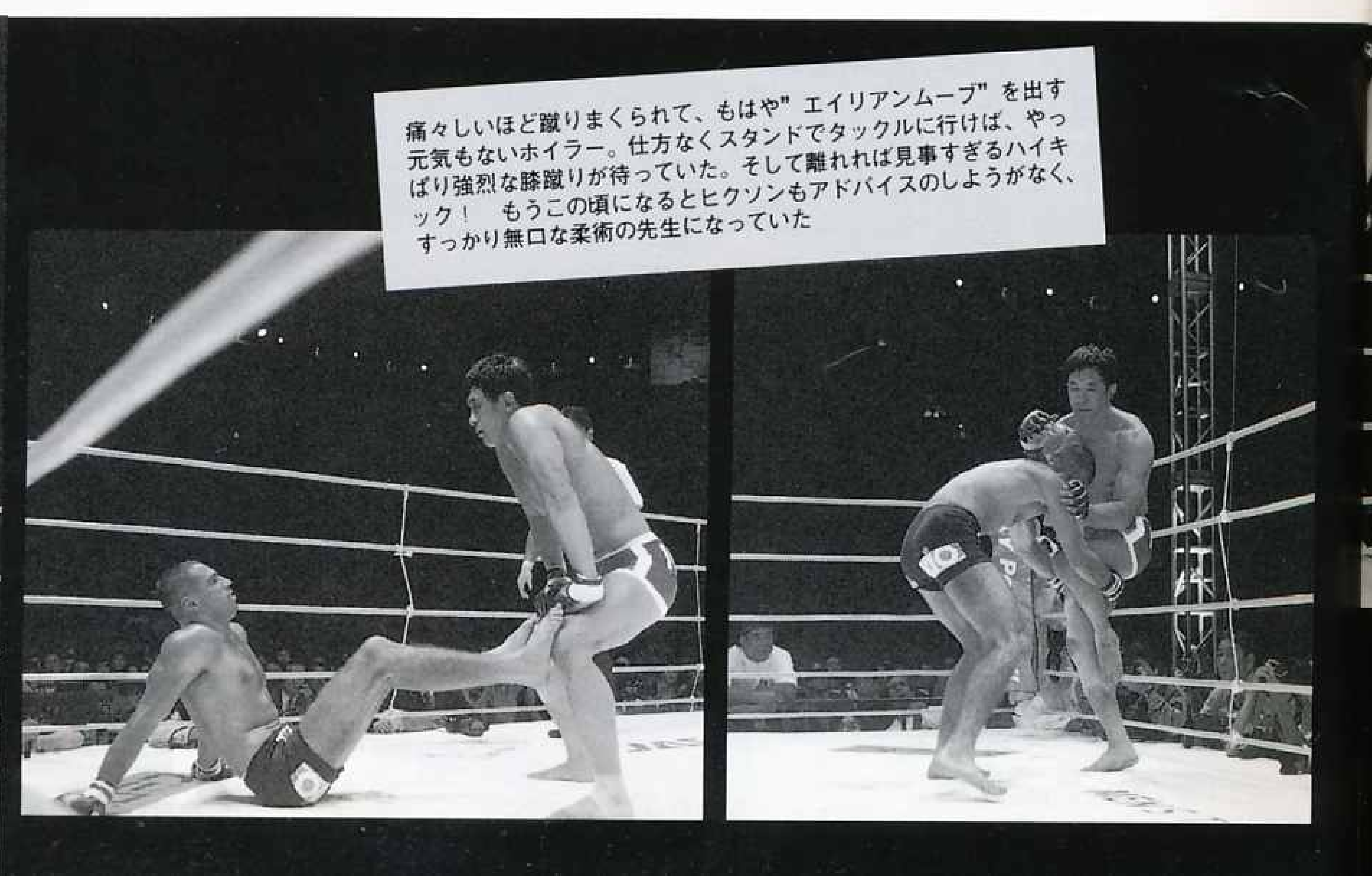
桜庭　知らないッスよ！　そんなもの知りたくもないですよ（笑）。でも、これは誤解してほしくないんですけど、ボクは“グレイシー柔術”が悪いって言ってるんじゃないんです。チャンスがあれば、ボクも柔術習いたいし、柔術自体は素晴らしいと思いますよ。でも、あの人たちの考え方には納得がいかないものがあるんですよ。“サムライ”だっていうんだったら、潔く負けは負けで認めてほしいですね。

――それは十分理解できます。

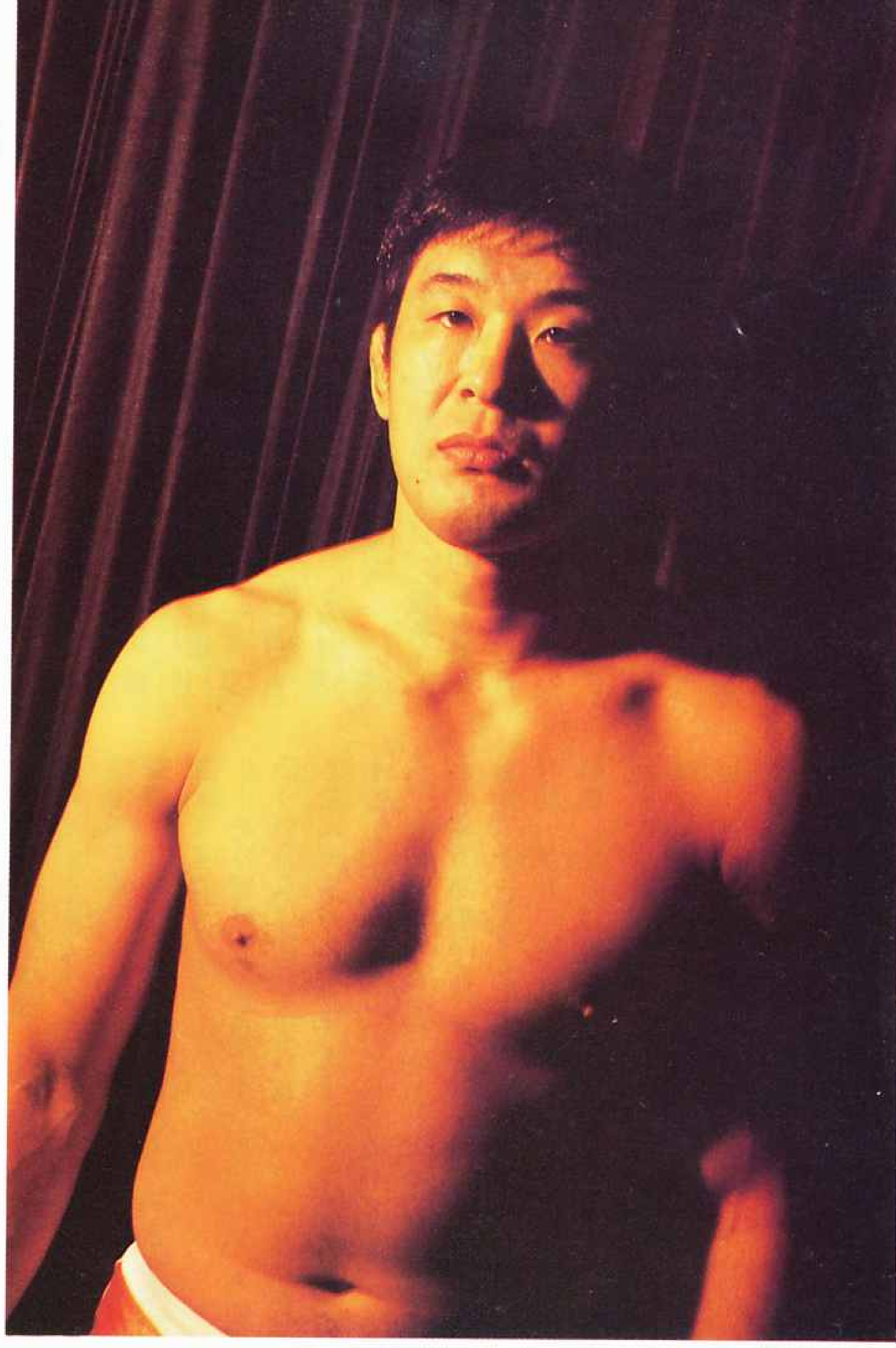
桜庭　あとね、自分でビデオ見たんですけど、2Rめから「『スタンドで行け』っていう指示がセコンド（ヒクソン）から出ています」って中継で言ってたんですよ。で～も、スタンドであなたたちは一体なにができるんですか？ってことですよね。なんか秘密の技があったんですかね？　炎系に対抗して氷系の技とか。

――氷系の技！　それは冷たそうだ（笑）。そういえば、お父さんのエリオは、フィニッシュのアームロックはキムラロックではない、と言ってるそうですね。これは





痛々しいほど蹴りまくられて、もはや"エイリアンムーブ"を出す元気もないホイラー。仕方なくスタンドでタックルに行けば、やっぱり強烈な膝蹴りが待っていた。そして離れれば見事すぎるハイキック！　もうこの頃になるとヒクソンもアドバイスのしようがなく、すっかり無口な柔術の先生になっていた



（タップしないのは）凄いことだと思いますよ。でも、根性焼きのガマン大会じゃないんだから

文句つけてるわけではないんだけど、極める体勢が違うそうです。

桜庭　あ、そうなんですか。でも、日本ではアームロックをキムラロックと言ってるからそれでいいんじゃないですか（笑）。

——で、そのキムラロックでむこうはタップしてないことを前面に主張してますけど、あのタップしない精神の部分についてはなにか言うことありますか？

桜庭　それは凄いことだと思いますよ。凄いことなんですけど、根性焼きのガマン大会じゃないんだから。

——根性焼きのガマン大会（笑）。

桜庭　勝敗つくまで延々やるっていうんだったら、あの状況が1時間も2時間も続くってことですよぉ。

——あの状態がズッと続いたら、桜庭さんは途中でガマンできなくなって「面白くないから、もう負けでいいです」とか言い出しそうだから怖いですね（笑）。

桜庭「ちょっと心臓弱いんで」とか言って（笑）。確かに、ホイラーの身体は柔らかいから、完全に極まってるとはいえ、ギブアップは取れないかなとはちょっと思いましたね。でも、あれ以上やったら肩はずれちゃうし。でも、〝はずしちゃうとテレビの放送のこともあるしなぁ〟とか思いました。

——そこでテレビのことを考えますか（笑）。

桜庭　あと、それ以上いけなかったのは、ロープが邪魔してたっていうのもありますけど。

——でも、ボクもあそこまでガマンできるのは、凄いことだとは思いますけどね。

桜庭　はい。でも、ガマンする練習じゃなくて、そこまで入らせないような練習をしたらいいじゃないですか。

——ごもっともです（笑）。

桜庭　だから、いま引退するなら別にいいんですけど、プロとして、まだこの競技を続けるんだったら、もっと考えたほうがいいですよって言いたいですよ。

——むこうの闘い方を見てると、完全に〝プロフェッショナル観〟が違うんですよね。

桜庭　はい。

——そうだ。ヒクソンが、これまた素晴らしいことを言ってるんですよ。「桜庭さんが腕を折らなかったのは、優しさからだ」というような質問に対して、「桜庭は優しくなんかない。優しいなら、紫色に腫れ上がるまで、弟の足を蹴らないだろう」ということです（笑）。

桜庭　ぶあ〜、それ聞きました！（笑）。でも、腕をはずすのと、アザができるのとは全然違うだろ！って。

——その後に「桜庭がウソつきだとはビックリした」とまで言ってますね！（笑）。

桜庭　いまごろ気づいたんですかね。ボク、ウソつきだって前から言ってますけどね（ニコニコ）。

——ちゃんと勉強しとけと（笑）。

桜庭『紙プロ』を毎号送ってあげればいいじゃないですか（ニコニコ）。

——そうしますか（笑）。でも、ズバリ言って壊れてますね、もはや。

桜庭　あの人、40歳なんですよね。恥ずかしくないんですかね。小学生が言い訳してるのと一緒ですよ、それ。

——さっきの「桜庭は観客を相手に闘っている」っていうコメントについては？

桜庭　ボクは、相手と観客の両方と闘ってるんですけどね。

——そっちのほうがよっぽどシンドイっていうことをわかってくれませんね、なかなか。そのシンドさがあって、ようやくファイト・マネーを稼げるっていうことを（笑）。

桜庭　もう、彼らはファイトマネーいらない







「炎の人力車」で引きずり回した後、タックルを潰したサクが遂にホイラー捕獲！　そしてゆっくりポジションを整えた後、"キムラロック"が完全に極まった！　島田レフェリーのシュートサインも輝いて見える。誰が何と言おうとも完勝！　案の定、裁定に文句をつけるホイラー側には、潔さという侍魂が皆無であることがわかった



んじゃないですか。プロじゃないから。ほら、あれですよ。「ながら勉強」とかできなかったんでしょうね。

――は？

桜庭　ボクは小学校のときからテレビ見ながら勉強とかできましたよ（ニコニコ）。彼らは、なんかひとつのことをやると、他のことができなくなるんですよ。でもねえ、お父さん（エリオ）とホイスは「あの試合はいい試合だった」みたいなこと言ってるって聞きましたよ。「ただ、試合を途中で止めるのはよくないんじゃないか」とも言ってはいたらしいんだけど、「それはルールだ」ってことを教えたら「だったらしょうがない」って言ってたみたいですよ。

――一族の中でもいろいろ見解があるもんですね（笑）。

桜庭　仲悪いんですかねえ。家族が仲悪いのは嫌ですねえ（ニコニコ）。

――でも、ホント凄い試合でしたね。このところ暗い事件が多かったけど、桜庭さんが吹っ飛ばしてくれましたよ。あ、ちょっと事件系のこと聞いてもいいですか？　ヤマケン（山本喧一）が田村（潔司）選手に爆弾発言した日に、バックステージで、前田日明さんが安生洋二さんに襲撃されるという事件があった。これは"U"クーデターとも考えられるんだけど、この二つの事件をどう思いますか？

桜庭　………その日、ボクは知人の空手の試合の応援に行ったのでわかりません。

――いや、応援に行くのはいいんですけど（笑）、それを聞いたときの感想は？

桜庭　でも、ボクは真相がわからないんで、軽々しいことは言えません。

――わかりました（笑）。でも、見方によっては、その二つの事件と、桜庭さんがグレイシーを倒したっていうことが、ポジとネガみたいな関係にも思えるんですよね。なにか大きな地殻変動が起こってるというか。

桜庭　うーん……そろそろ関東大震災が……。

――そうきますか（笑）。

桜庭　あ、マーク・ケアーさんが、キム夫人（ヒクソン夫人）が、なんかロウソクを立てて黒魔術みたいなことやってたのを見たっていう話を聞きましたよ！

――ゲ！　マジですか!?

桜庭　ボクは呪われるんですかねえ？

――呪われるんじゃないですか（笑）。

桜庭　じゃあワラ人形で対抗しようかなあ。

――ガハハハ！　見事に質問をスカされました。そういえば、この間、折原（昌夫）選手に後ろから襲撃されたらしいですね。

桜庭　あ！　ダイクマで（笑）。ビックリしましたよ。

――折原選手が後ろから「ワッ！」って驚かしたら、桜庭さんがパッと身構えたから、あわてて「いや違う違う。そんなつもりじゃない」ってポーズを取ったって（笑）。桜庭さんはいつでも臨戦体勢なんですね。

桜庭　そんな、身構えてないですよ！　ビックリしたけど（笑）。（ホイラーの真似で）こうやってエイリアンみたいに追いかければよかったなあ（笑）。

――ガハハハ！　でも、ホイラー戦に話を戻すと、抱き合って喜んでるファンも多かったし、桜庭さんは人に何かを与える闘い方をしてる。それに比べてグレイシーは自分たちの名誉を守るためだけに闘ってる。あの試合は、そういう差が出たような気がしますね。

桜庭　はい。

――ところで有明は、高田（延彦）選手やエンセン（井上）選手、マーク・ケアー、小川（直也）選手も出ないなかで超満員！　地から湧き出るような盛り上がりもありました。

桜庭　来てくれたお客さんには感謝してます。でも、ホントに最後にビッと締められたんで、よかったですよ。

――凄い男ですよ、桜庭和志は。

桜庭　…………（照）。

なにを!! サクNEW Tシャツ いっとく!?



「好評この上なし！」のサクNEW Tシャツを、太っ腹な高田道場＆サクよりプレ！　ワインレッドとネイビーの２種類を各２名様に。今回はサイズはＬのみプレでぃ。応募要項は、Ｐ175参照。希望の色を書くべし。なお、このＴは￥3800で高田道場でも売ってま～す（03・3755・1444）



VIVA！サク!!



サク、ありがとう！　有明大炎上！　誰もが喜んだ史上最高のハッピーエンド。ゲーリー・グッドリッジまでもがリング上で祝福。高田の笑顔も最高だ！「お兄さん、次はボクと勝負してください！」よく言ったサク！さあ次なるファンの夢はただ一つ！桜庭vsヒクソン、実現を信じて……（シッシー調）。逃げるなよ、ヒクソン！



――さて、もう一度聞きますが、ズバリ言って、残りはヒクソンですか？

桜庭　別にこっちから無理にやりたいっていうわけじゃないんですけどねぇ（ニコニコ）。

――やったら当然負けないし、ボコボコにしてやるっていうのはありますか？

桜庭　とりあえず、炎系のワザで乾燥させて、カビ取ってあげます！（ニコニコ）。

――今日は飛ばしまくりですね（笑）。

桜庭　でも、ここまでボクがボロクソに言ってるんだから、もう出てこなきゃいけない状況でしょう。もしお金の問題ならボクのファイトマネーあげてもいいです（笑）。

――頼もしい。『PRIDE』の超ド級のトーナメントにも参加すると発表されましたね。スーパーヘビー級やヘビー級ばかりですけど。

桜庭　厳しいですね。ボク、ホントに出るのかなあ？（笑）。

――ガハハハハ！　やる側は厳しいでしょうけど、見る側からしたら桜庭和志vsヘビー級の対決、これは見てみたいですよ。

桜庭　1ヶ月で110キロぐらいになれますかね？

――魔法を使えば（笑）。

桜庭　いや正直言って、キツいですね。打撃がなければいいんですけど。どうやってスッポカそうか、いまから考えてるんですよ。やっぱりケガしかないですかね（笑）。それか2～3ヶ月旅行に行ってこようかなあ。

――そりゃ失踪ですよ（笑）。まあでも、当面の目標はトーナメントになりますよね。

桜庭　う～………。

――だから、アイコンタクトはやめてください（笑）。

桜庭　しかし、あのベルトはデカいですよね。大きすぎてボクには合わないですよ。あれに合う人たちだけでやってくれればいいんですけど。でも、正直言えばやってみたいっていう気持ちもあるんですよ。でもトーナメントっていうのがねえ。だって、1月は1試合ですけど、決勝は1日3試合とかですよ。ホント、それはキッツイですよ。

――でも、そこを桜庭さんの頭脳で切り崩すところを見たいじゃないですか。

桜庭　ケガをしないようにがんばります（笑）。

――では、応援してくれたみなさんにひと言メッセージを、最後にビシッと（笑）。

桜庭　え～……応援ありがとうございます。またいい試合はこころがけますが、あんまり期待しないで、軽い期待で見てください。

――出た（笑）。でも、そのキャラも見事なぐらいに浸透しましたよね。ここに来る前に、ボクが以前にやった桜庭さんのインタビューを読み直したんだけど、2年くらい前に、「キャラクターを作られるのはいやだ。ふだんからヘラヘラしてる自分を出し続ければ、それがキャラクターになるんじゃないか」ってことを言ってるんですよ。

桜庭　ああ～、はい（笑）。

――ホントになっちゃいましたね（笑）。

桜庭　ヒャハハハ。そういえば『PRIDE』のパンフレットも、ボクだけ笑ってるんですよ。マジメな写真を撮っておいて、「じゃあ笑った顔を1枚だけ」って言われて撮ったら、その写真を使うんですもん。

――じゃあ来年はシリアス・バージョンでいきますか？

桜庭　そりゃキビしいっスね～。

――やっぱりキビしいんだ（笑）。でも、桜庭さんみたいなキャラは、ホントに強くないと成り立たないから、凄いことですよ。これが浸透したっていうのは、革命ですよね。

桜庭　みんなビシッとしてますからね。でもみんながヘラヘラし始めたら怖いですよね（笑）。

――そういうときは、またヘソ曲がりなもんだから、ビシッとするとか？（笑）。

桜庭　ああ、そういうのはありえますね（ニコニコ）。

――24時間直立不動の桜庭和志も見たい（笑）。来年は純プロレスの方向は？

桜庭　それはできたらやりたいですね。

――折原選手も、「俺もUスタイルで闘ったんだから、桜庭選手もプロレス・スタイルで闘ってくれ」って言ってたらしいです。

桜庭　おどかしっこなしでね（笑）。でも、プロレスでも腐ったものは食べたくないですね。

――なるほど。腐ったキャラメルは食べたくないと（笑）。また来年も期待してますんで、よろしくお願いします。

桜庭　ありがとうございます（ニコニコ）。

【ホイラー戦から4日後の99年11月25日／六本木アートセンターにて収録】

※サクからの追伸

『ホイラーさん、おカラダの具合はいかがですか？　ボクはダメージもなく、翌日から練習しています。それでは、お兄さんにもよろしくお伝えください』

『ホイラーさん、おカラダの具合はいかがですか？（中略）それでは、お兄さんにもよろしくお伝えください』



KAZUSHI SAKURABA

ホイラーの「アイ・ラブ・ユー！」を見事なスウェーで、見事にかわしている。この後、ヒクソンの息子・ハクソンが島田レフェリーにペット・ボトルを投げつけた



レフェリーとして語る
桜庭vsホイラー

ボクは試合後のルール・ミーティングで他のレフェリー陣に非難されましたよ、「止めるのが遅い」って、は〜い。まあ、グレイシーを納得させるためには、あれぐらいしないといけないのかもしれないね。でも、あれ以上やったら完全に折れてますよ。グレイシー一族が嫌ってる『バイオレンス』にしないためにレフェリー・ストップやドクター・ストップがあるわけだから、それに文句を言うのは筋違いでしょ。ハッキリ言って彼らは潔くないよ！



レフェリー島田裕二がグレイシー軍団のマナーの悪さに大激怒!!

ハクソン君、文句があるならかかってこい!!

世紀の一戦を最も近くで見た男 島田裕二レフェリーの独白!!

『PRIDE．8』の試合後、島田レフェリーが控室ですさまじい剣幕で激怒していた！ 怒りの感情はためると身体に悪いので、誌面で吐き出してもらいました。怒りの独白を思う存分堪能してください。では、どうぞ！

直接文句を言ってきたのはホイラーだけですね。「何で止めるんだ!?」って言うからさ、「完全に極まってるから止めた！ ドクターも危ないって言ってるから！」って説明したんですよ。まあ、グレイシーもライフスペースみたいなもんだね（キッパリ）。最後は、わざわざ自分から寄ってきて、オレの耳元で「ウガーッ!! アイ・ラブ・ユー!!」って言って帰っていきましたね。唾を飛ばされたように見えたかもしれないけど、罵声しか浴びてないですよ、は〜い。

マネージャーとして語る
アレクvsヘンゾ

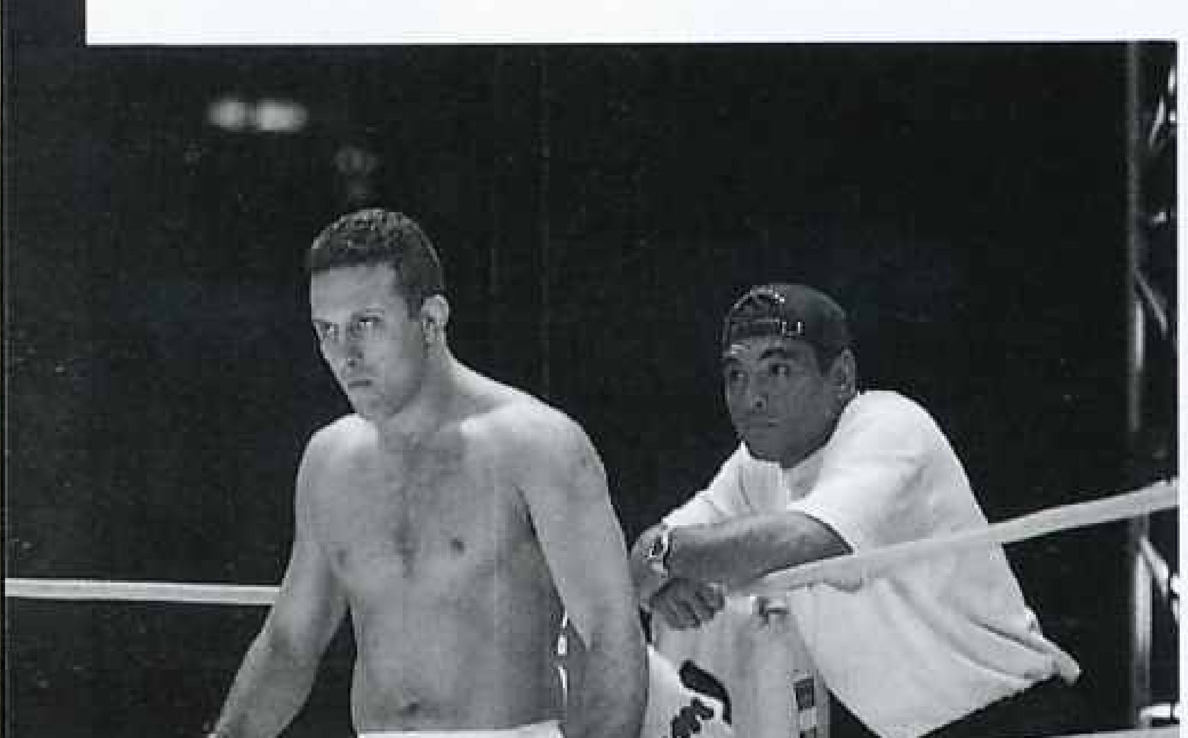
いや〜、ヘンゾはホイラーに比べると紳士ですよ。「8キロ減量しろ」って言わなければ。でもね、試合前にヘンゾが減量を要求してきたことをバンバン流さないとアレクがかわいそうですよ！ 計量の時もいろいろトラブルがあったし、そこらへんはDSEに文句を言いたいですね。でも、これは85キロ契約で受けたオレのミスです、は〜い。

ん〜、試合に関しては、アレクのテイクダウンは良かったんだけど、さすがにヘンゾはグランドがうまい！ 2Rでキャッチを取られたのが、ポイントに響いたかな。減量がアレクのスタミナに影響を与えましたね。でも、ここだけの話、アレクがあそこまでやるとは思わなかったですね、は〜い。「ちゃんと練習して再戦すれば？」って聞いたら、「ちゃんとやったらコンディション悪くなりま〜す、んむはぁ〜」って言ってました、は〜い（笑）。

これでは脱出不可能である。島田レフェリーの判断によって試合は止められた。グレイシーのメンツも、サクの勝利も、傷がつかない賢明な判断だった



世紀末SURPRISE



アレクの快進撃を止めたヘンゾ。ホイラーが島田レフェリーに難癖をつけて引き上げても、一人リングに残り桜庭を称えた姿勢は素晴らしかった

人として……
最後にひとこと言わせろ！

あのクソガキ（＝ハクソン）にペット・ボトルを投げられたでしょ？ じつは、あのペットボトルを記念に取っておいたんですよ。これは特別に『紙プロ』で誌上オークションするから！ いま決めた！ いちばん高い値をつけた人に売るから、ハガキに値段書いてダブルクロスに、ハガキを送ってね。ほんとに、あのクソガキだけは許さん！ 二度と来るな！って感じですね。ロスのヒクソン道場に殴り込みに行くつもりだったんだけど、金がないからやめた。だから、いつでもバトラーツ道場に来い！ オレが性教育してやる!! じゃあオークションに応募してね、は〜い！

なお、このオークション応募の宛先はP175参照。島田氏が満足する額に達しなかった場合は、12月25日（土）バトラーツのTOKYO FMホール大会（18:30開始）で再びオークションにかけられるそうだ。この大会のお問い合せはバトラーツ（TEL.0489-63-0005）まで。

オーちゃんまたもや髙田を襲撃!!

「調子にのってんじゃねぇゾ、オラァ〜」



史上最高の格闘技オリンピックで

PRIDE.GP2000 記者会見 激震ドキュメント

撮影(11・23会見)/黒田文夫
photographs by Fumio Kuroda
撮影(PRIDE.8)/乾晋也
photographs by Shinya Inui
文/ワンマン・ギャング
txet by Oneman Gang



小川vs髙田実現か!?

髙田激怒!! 「チンピラだよ、チンピラ!!」



世紀末SURPRISE

「これが本物」と誰もが納得する選手を出場させ、マッチメイクします（森下社長）

「世紀末、最強の男に結論がでる。」

これが、来年1月30日から行われる『PRIDE. GP2000』のキャッチコピーである。以前は、このトーナメントの優勝者が、ヒクソン・グレイシーに挑戦できるという話も出回っているが、ここに来てヒクソンは、パンクラス・船木誠勝戦実現が濃厚になってきている。だが、そんなことも吹き飛んでしまいそうな、ついついミイラも生き返るほどの超ド級のカードが急浮上してきた。

小川直也vs高田延彦——。

11・23に行われた『PRIDE. GP2000』の記者会見の席上で、オーちゃんが葬式用の菊の花束を持って乱入！ 過去、何度か対戦要求を蹴られている高田に対して花束を投げつけ、「ラストチャンス」として対戦を迫ったのだ。まさに格闘技オリンピックともいえるトーナメントだけでも刺激的過ぎるというのに……今世紀最高の豪華なリングで、高田vs小川が実現してしまっていいのか!? そんなゼイタクこの上ない大会を見てみたいが、果たしてこの対戦要求はかなうのか？ 現時点では、まだカードは何一つ発表されてはいないが……。この日の衝撃会見で一体何があったのか、詳細をじっくり読み込んで欲しい。

この日の会見では『PRIDE GRAND PRIX 2000』の概要についての発表があるということで、数時間前にFMWの横浜アリーナ大会があったにもかかわらず大勢の記者陣がつめかけた。

しかし、予定の午後8時になっても記者会見は始まらない。小川が来ていないので待っている状態だという。

結局、8時を15分を過ぎたところで会見はスタートした。はじめに、森下社長とDSE広報の笹原氏から、次のような説明があった。

●「これが本物！」と言われるような、誰もが納得する選手の出場ならびに、マッチメイクをすること
●出場選手は交渉中で、最終的には16人に絞り込むこと
●基本的にはPRIDEルール
●判定決着を含めたルールにすること
●無差別級のトーナメントなので、体重の軽い選手について、何らかのアドバンテージを設けること
●1月30日の東京ドーム大会は、16人の選手による8試合とトーナメントとは別に2試合の予定していること

そして、このトーナメント優勝者に送られるPRIDEチャンピオンベルトが披露された。



かなりバカでかいベルトを掲げた森下社長。これを腰に巻くのはどこのどいつだ!?

続けて、会見に出席したトーナメント参加予定選手が次々と抱負を述べていく。たしかに、あらためて見てみるとも凄い顔ぶれだ。

イゴール・ボブチャンチン、ゲーリー・グッドリッジ、マーク・コールマン、マーク・ケアーといった『PRIDE』ではすっかりお馴染みの選手の中にひとり異様なオーラを放つ男が混じっていた。ホイス・グレイシーだ。

現在、試合からはしばらく遠ざかっている。しかも、ホイスはいちばん最近の柔術の試合でW・イズマイウに落とされている。不安な要素はじつに多い。だが、そういったものを払拭するかのように、ホイスは自

PLAY BACK PRIDE.8

semi-final

アレク、惜敗!!

アレクサンダー大塚 VS ヘンゾ・グレイシー

エンセンがトークショーで「ヘンゾの技術9としたら、オオツカさん2くらいネ」と語ったことに代表されるように、下馬評では圧倒的不利が伝えられたアレク。11月に入ってから、掣圏道で佐山と闘い、松永と大流血戦を演じ、地元徳島ではマスクマンに変身するなど確信犯的な超ハードスケジュール。さらに8キロの減量までさせられてるのだから、不利の予想も当然と言えば当然なのだが、さすが我らがアレク。下馬評を遥かに越える活躍を見せてくれた。パーマンマスク片手に入場しながらも、試合ではヘンゾ相手に真っ向勝負を展開。”グレイシー”から4度もタックルを取り、ヒクソンをして「極まっていた」というヘンゾの腕十字を脱出するなど、敗れたもののあと一歩というところまでヘンゾを追いつめた。アレクは控室に戻る花道で「プロレスラーは強いんだから！　それはわかって！」と観客に地声で訴えていたが、この試合を見た観客の誰もが「アレクは、そしてプロレスラーは強い」と思ったに違いない。（次号でアレクの99年を振り返るインタビューを大々的に掲載予定）





鼻血を出しながらも奮闘したアレクだったが、グレイシーの奥深さは確実に引き出した。勝ち負けを超えたところでも、評価されていいVTである。アレクは「プロレスラー魂」を見せつけた。

「ハッキリ言ってトーナメントは全然興味ないし高田選手とやるために菊の花持ってきたしね」（小川）



小川は、全員揃っての写真撮影は拒否。あくまでも高田とのワンマッチを主張する小川が、他の参加選手と並ぶことはなかった。

信をたっぷり漲らせた発言を連発した。では、記者陣との一問一答を抜粋して紹介しよう。

――このルールは、時間制限があってかつ判定があるというのが基本です。ホイス選手は、体重差のある場合は時間無制限の闘いしか受けないとおっしゃってましたがどうなんでしょうか?

ホイス　いつかは、闘わなければならないと思う。そしてリングの上で、黙らさなければいけない人もたくさんいる。

――時間が制限のある中で、ヘビー級の相手でも闘えるという自信があるということでしょうか?

ホイス　自信がなければ、今日わざわざここには来ない。

――前回のファイトから4年たっているんですけど、フィジカルコンディションというのは、ほぼ完璧に戻ったと考えてよろしいのでしょうか?

ホイス　それは、1月の闘いでお見せします。

相変わらずのグレイシー節である。

それとは対照的にホイラーを破った桜庭和志は、いつも通りの肩に力の入っていないコメントで場内から笑いを取っていた。

「大会がつらそうなので1週間ぐらい前にケガをして、スッポかそうかと思っています。【場内大爆笑】　もし、ケガもなしで出場できることになれば一生懸命頑張ってベルトを取れればいいかなと思います」

こんな厳かな場でギャグをかますのだから凄い。グレイシーには、到底出来ない芸当である。

そんな桜庭によって和んだ雰囲気が急変したのは、ホイスとの対戦が噂されている高田延彦がコメントを始めたときのことだった。

「え～、今何言おうかなとちょっと考えたんですけど……」

ダァーン!!

威勢良くドアが開き、小川直也が村上一成を従えて登場してきた。小川はあたりを見渡すなり

「すいません。遅くなりました!!」

とギロリと場内を一瞥。報道陣が一斉に取り囲む！　そのまま高田めがけて突っ込んでいくのかと思いきや、

「どうぞ、続けてください」

と〝人のいいオーちゃん〟を垣間見せる。今日は何もしないのか!?　結局、そのまま記者席の最後部にどっかりと腰を下ろした。カメラマンが取り囲み、フラッシュを焚きまくる。

自分の発言を遮られた高田は、当然面白いわけがない。だが、憮然としながらも、平静な口調でコメントを再開した。

「続けていいですか?　え～、これだけのメンバーの中に自分がいること自体が、幸せなのか不幸なのかよくわかんないなっていうのが大きいんですよ。え～、ただ1つ名誉なことは、確かです。え～、もっともっと戦闘的な話をしたいんですが、いかんせん足の負傷がまだ完璧な状態じゃないんで、え～、そこに専念をしなければいけないという、え～、いま現在の現状に非常にジレンマは感じています。え～、早く良くなってスパーリングが出来るようにその状態に戻すよう、そしてそっからまた戦闘的な、気持ちが出てくるように、え～、頑張っ

PLAY BACK PRIDE.8



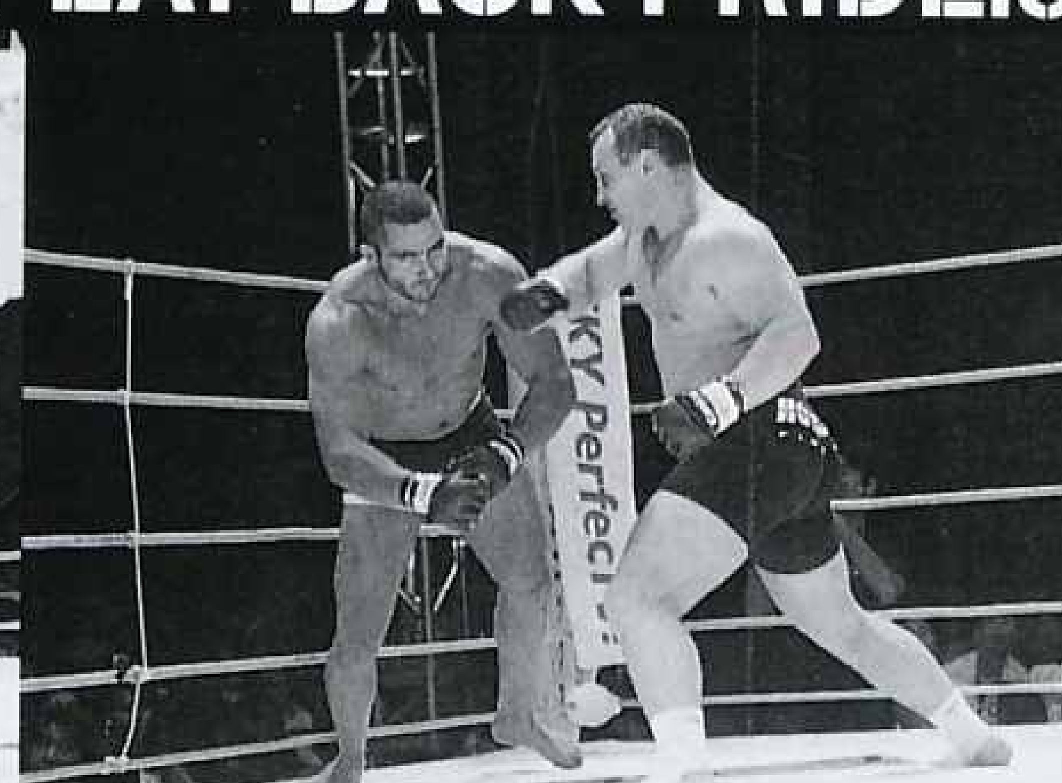
5th match

トム・エリクソン VS ゲーリー・グッドリッジ

バズーカ不発……

ファンの一部では"最強"の呼び声も高いエリクソンが満を持して『PRIDE.』初参戦。対戦相手が小川をKO寸前まで追い込んだグッドリッジだけに、これまたド迫力の一戦が期待されたが、前の試合に続いてまたもや膠着。その原因はエリクソンの調整不足にあり。グランプリには万全で出場して貰いたいものだ。





6th match

イゴール・ボブチャンチン VS フランシスコ・ブエノ

ブエノが死んだ!?　殺人パンチ、炸裂!!

見てみ、この（ブエノの）面！　襲撃された日明兄さんばりにやばい倒れ方をしたブエノ。これこそ「目ェ飛んどるやん」、「救急車呼んで！　救急車！」である。それにしてもボブチャンチンは『PRIDE.7』ではケアーを失神させ、沈滞ムードだった会場を一気に爆発させ、この日も恐竜たちの膠着マッチが2試合続き、どんよりムードだった会場をパンチひとつでお祭り騒ぎに変えてしまった。この強すぎるボブチャンチンを止める選手は現れるのか？　エンセン、ケアー出てこい！

て、日々調整していきます」

この後、記者の質問タイム。だが、高田に気を使ってか誰も小川のことについて質問をしない。

そのまま、選手全員の撮影に移行した。ここで、進行役から何回も「小川選手もぜひ選手の中へ」と促されるが、小川は

「あっ、いいです」

とあっさりと拒否。シビレを切らせた進行役から「何かコメントの方を頂たいのですが」と言われると、ようやく重い腰を上げて、壇上の小川直也と書かれたネームプレートの席へ立った。

「え〜、遅くなってすいませんでした。えっとね、今日は高田選手とやれるということが決定で呼ばれたと思って来ました。えっと、全然場違いなところに来たような気がしちゃって、オレ自身ちょっと戸惑っています。とりあえず、高田選手とやるっていうことで出てきてるんで、オレ自身はやれるということでね、来たんですが、どうなんでしょうね。まぁ、本人に聞けば一番いいんじゃないですか？」

と、言い終わると、マイクを高田に向けて投げた！　それを高田が元・野球部らしく見事にキャッチ！　そして、間髪入れずに厳しい表情で投げ返す！　これではラチが明かないと思ったのだろうか？　小川は突然、矛先を森下社長に向けた。

「社長！　やんないんですか？　わかんないですよ、全然！」

すると、困惑しながらもマイクを掴み、

「小川選手に関しましては、トーナメントに参加をして頂くということで、今日の記者会見に参加して頂いているはずです。」

と森下社長。再び小川がマイクを握る。

「ハッキリ言ってオレはトーナメント全然興味ないし、高田選手とやるってことで、そのために今日は菊の花持ってきたしね。まぁ、でもやらないとかやるとか言ってるようじゃ、まだまだだな。とりあえず今日は、これで引き上げようかなと思ってるんだけど……」

と言い終わると小川は、花束片手に高田めがけてゆっくりと歩き出した。

バシャ!!

オーちゃん、またもや襲撃三昧！いきなり高田に向かって菊の花束を投げつけたのだ！

さらにそのまま高田に殴りかかる体勢！

だが、その瞬間、ものすごい勢いで血相を変えたゲーリー・グッドリッジとイゴール・ボブチャンチンが止めに入り、事なきを得た。そのまま、引き離されて退出していく小川だったが、興奮冷めやらぬ状態で高田を挑発し続けた。

「ふざけんなよ、お前！　やれよ！コノヤロ〜！　（裏声で）調子に乗ってんじゃねえぞ、オラァ〜!!」

そんな小川の挑発には乗らないとばかりに、高田はクールに言い放つ。

「チンピラだよ、チンピラ！」

「オレはやるなんて一言も言ってないよ！」

小川が部屋から出ていくと、森下社長がマイクを取った。

「皆さん、大変申し訳ございませんでした。改めまして小川選手に関しましては、トーナメントに参加するということで意志の確認をしておりますので、高田選手にも申し訳ないと思っております。この『PRIDE GRANDPRIX 2000』は、本当に強い選手は誰か！　というのを決める闘いにしたいと思っております」

ここで記者会見は終了した。まだ、このトーナメント自体が波乱含みであることを見事に露呈した会見となったが、逆に言えば、まさに一触即発で何が起こるかわからない、一番面白い展開となってきたとも言える。

では、小川、高田、両者の言い分はどうか？　会見後の高田が記者陣との一問一答に応じたので、まずはそれを読んで頂きたい。

世紀末 SURPRISE



小川は、森下社長までも「バカ」呼ばわりまでした。もはや、この男の暴走を止めることは誰にも出来ないのか？



1st match

松井大二郎 VS ヴァンダレイ・シウバ

松井、初の大流血!!シウバ強し!!

サクやペドロ・ヒーゾを見ればわかるとおり、現在のＶＴは寝技プラス打撃の技術がある選手の天下である。それにぴったり当てはまるのがこのシウバ。柔術の確かな腕と、ムエタイの技術を併せ持ち、この日も恐怖の膝蹴りで松井を血の海に沈めた。大流血にもめげず最後まで闘い抜いた松井もプロレスラーの凄みを見せつけた。



2nd match

フランク・トリッグ VS ファビアノ・イハ

ゼヒ、桜庭と闘ってください!

昨年のバリ・ジャパでジアン・マチャドをＫＯしたトリッグがこの日もその実力を十分に発揮。イハに三角絞めからの十字を取られて危ない場面はあったが、最後はパンチだキックだ膝蹴りだでイハをＫＯ。”ミドル級頂上対決”として桜庭戦や桜井”マッハ”速人戦を実現させてほしい実力者だ。



3th match

カール・マレンコ VS アラン・ゴエス

ゴエス復活か?　サクとの再戦を熱望

桜庭が活躍すればするほど、試合もしてないのに”桜庭と引き分けた男”として評価が上がる運のいい男、ゴエス。この日はカール相手にワンサイドで一本勝ちし、運だけでなくやはり実力も一級品であることを証明。ヒザの不調が影響したか、敗れたカールは、リングが壊れるんじゃないかと思うほど思いきりマットを叩いて悔しがった。



4th match

マーク・コールマン VS ヒカルド・モラエス

巨獣vs究極の鉄槌なぜかこう着

実写版ゴジラＶＳキングコングなど、ほとんど人間扱いされない形容詞で語られ、超ド迫力マッチが期待されたこの一戦。しかし、なぜかこの日一番の膠着マッチとなってしまい見事に期待はずれ。映画のゴジラＶＳキングコングは引き分けたが、実写版は判定ながらコールマンが勝利した。

世紀末SURPRISE

ふざけんなよ、お前！ やれよ！ コノヤロ〜!!（小川） オレはやるなんて一言も言ってないよ!!（高田）

——小川選手には、絶対乗らない？

高田 乗らせないような行動とるからね逆に。逆なでってやつだね。まぁ、それが彼のやり方なんだから、しゃあないなというか。ずっとこういうことやってるのかなっていうね。

——光栄ですか？

高田 光栄じゃないよ。うっとおしいよ！ しょうがないもんね。

——せっかくの記者会見を踏みにじられたというか。

高田 う〜ん。まぁ、でもこういうことがいい形で取り上げられたら面白いかな〜と思うけどさ。手段としては、あんまりいいやり方じゃないね。

——気持ちの部分でですか？

高田 気持ちの部分？ 彼が？ そりゃ、オレもずっとヒクソンと闘いたいと思い続けてるし。それは、それで自然なことだと思うしね。ただ、そういう気持ちが相手に通じるか通じないかってその部分だけであってさ。とにかくオレは、このメンバーに入ってる以上は、ケガを早く治して気持ちを戦闘モードにやりたいなっていうか。実存的な練習以前の問題で、やっと歩き始めた状態なんでね。普通に。それを早くゼロに戻して、また一から足腰作り直すっていうことをして自分の気持ちが変わってくる。それを今、大事にやっていきたいなっていうね。（中略）自分の気持ちの中がなえてるんですよ。要するに運動したくてしょうがないんですよ。運動選手っていうのは、そういうの抱えてたら非常に、ネガティブになるから誰と闘いたいっていうよりも、横にホイスがいたけどもホイスじゃないと。（中略）とにかくケガを治すのが大前提です。それから考えます。今、乱入してきた人間のことも含めて全て。なんたってこのメンバーで最年長ですから。ベストでいかなければ、いい試合が出来ない。この相手じゃね。見たでしょ？ このメンバー。オレの右隣こう（桜庭和志）だって凄いし、その向こう（小路晃）も凄いんだから。日本人って言ったって。

対する小川は会見の翌々日、25日にUFOオランダ大会に出場するために成田空港から出発した。出発前に会見後初のコメントを出したのだが、そこでの小川は会見以上に言いたい放題で、聞いてる方が怖ろしくなる毒舌ぶりだった。

「トーナメントには出る気はないよ。（森下）社長もしつこいね。こっちはワンマッチって言ってるのに。『出てくれ』って言う？ バカかって！（会見の日時が24日から23日に変更した）原因は高田選手一人（のせい）でしょ？ どっちがチンピラかわかんねぇよな！ テメーこそ偽善者のくせによ。とりあえず、もうちょっと追い込みかけようかなと。（中略）こだわるつもりはないんだけど、『PRIDE』に上がるからには目的を持って上がっているわけだから。そう言ってる間は自分の気持ちは常に高まっているから。プロに弁明もクソもないんだよ！ アグラかいて座ってるのを叩き落としてやるって！」

高田を「偽善者」呼ばわり、森下社長は「バカ」とまで言い切った。こんな状態で、本当に高田vs小川は実現するのか？ ただ、大会が近づくに連れて、高田への挑発はエスカレートしていきそうだ。空前絶後のスケールになりそうな『PRIDE.GP2000のトーナメントと伴わせて、小川vs高田戦は「夢じゃありません」（CMの高田戦）ということになるのかどうか、要注目だ!!





小川が花束を投げつけると、ボブチャンチンとグッドリッジが、まるで試合の時のようなテンションで小川を押さえにやってきた。それでも収まらない小川は、あのPRIDE.5での「出てこ〜ひ!!」以来のファルセット・ボイスで、「調子に乗ってんじゃねえぞ、おら〜!!」と挑発した緊張感が会見場を支配した！







オーチャンのオランダ遠征リポートはP113〜読めんのかーッ!?

総合格闘家でもK−1戦士でもない。
ボクはプロレスラーです！

長井満也
Mitsuya Nagai

前田さん？ボクとはもう関係のない人ですから、何も言いません

聞き手／チョロ
interview Choro

助っ人／ガンツ
helper by Gunts

撮影／黒田史夫
photograraphs by Fumio Kuroda





RINGSからK−1

そして掣圏道でプロレスデビュー！羽ばたけ長井!!

長井満也といえばリングス旗揚げ直後から前田の最も近くにいた男である。そんな長井に今一番聞きたい事といえば、安生の前田襲撃事件についてだが「今のボクには関係のない話」ということでコメントはもらえず。そう、今の長井は過去は振り返らず、常に新しいものにチャレンジし続けている真っ最中なのだ。掣圏道のリングで空中殺法を披露し、バトラーツのリングでは前座でプロレス修行に励む長井満也の混じりっけなし100%プロレスラー宣言！

――押忍！（敬礼）。首都圏プロレスラーデビュー戦となった横浜の試合（11・5対ヤキメンコ・ブラデスラブ戦）は自己採点で何点くらいですか？

長井　そんなにいい点数ではないですね。まだ自分で頭で考えて、あれやろう、これやろうっていう段階で、ぎこちないというか試合が流れてないというところがあると思うし。でもそれは場数をこなさないとしょうがないっていうところがありますけどね。

――でも、ツームストン・パイルドライバーとダイビング・ヘッドバットには実に驚かされました！　ダイビング・ヘッドバットは足から落ちてるという声もありますけどね（笑）。

長井　いや～、あれはコーナーから遠くまで飛び過ぎちゃって（苦笑）。空中で逆噴射して手前に落ちようと試みたんですけど、そしたら足からついてしまいました（苦笑）。練習では成功したんですけど、ロープの張り具合で飛距離が違うんですよ。だからあの時は自分でも驚くほど飛んじゃったんですよ。

――飛び技の才能が自分の予想以上にあったわけですね（笑）。

長井　5代目タイガーマスクでいけるかもしれませんね（笑）。

――ヒャハハハ。飛び技と言えば、横浜で「次はムーンサルト・プレスを出す！」って言ってましたけど、失礼ですがホントにできるんですか？

長井　できません！（キッパリ）。

――ヒャハハハハ！　飛び技だけにフライング発言だったと（笑）。

長井　あんなとこからバック宙なんてできるわけないじゃないですか！

――確かに長井選手と同じくらいの体でやるのは武藤（敬司）選手と小橋（健太）選手くらいですね。ベイダーとかそれ以上もいますけど（笑）。

長井　狂ってます！（笑）。

――確かに狂ってないとできないですよね（笑）。それで群馬では、木村（浩一郎）選手とリングス時代以来の因縁対決もあったわけですけど(笑)。

長井　ボクは別に因縁も何もないんですけどね。彼が勝手に絡んでくるだけで（苦笑）。

――木村選手は前日の横浜大会でも花道で挑発したりしてましたけど、8年ぶりの一騎打ちとかはあまり乗り気じゃないんですか？

長井　乗り気じゃないって言うか、いまは日本人ともいい試合したいけど、外人といい試合ができる選手になりたいんです。やっぱりロシア人相手に4の字固めで勝てる日高（郁人）選手は凄いですよ。

――確かに日高選手は凄い！　ところで、そもそも掣圏道に参戦したのは、昔シューティングをやってた関係での佐山（聡）さん繋がりなんですか？

長井　いや、ボクはK－1出てる頃もK－1だけじゃなくてプロレスもやっていきたいなと思ってたんですよ。プロレスラーとしてK－1に挑戦というか、あくまで本職はプロレスだと思ってたんで。それで、たまたま知り合いが昔から佐山さんと付き合いのある人で紹介してもらったんですよ。

――K－1のときもプロレスラーっていう意識が強かったんですか？

長井　そうですね。ボクは昔っから「ボクはプロレスラーです！」って言ってましたから。

――その一言で前田（日明）さんに怒られたりしてましたよね（笑）。

長井　（しみじみと）山に飛ばされたこともありましたねぇ。

（注・前田が「リングスはプロレスではありません」と盛んに言っていた時代、長井は「ボクはプロレスラーです」と発言し、ペナルティーとして（？）3ヶ月間比叡山の寺で精神修行に出されたことがある）

――プロレスラーといっても、K－1に上がっているときは上がるリングはなかったわけですよね？

長井　なかったですね。その頃は、まさか佐山さんと同じリングに立てるとは思ってなかったんですけど。

――佐山さんといえば、長井さんの一番最初の格闘技経験はシューティングになるわけですよね。

長井　そうですね。

――それは三軒茶屋にあったスーパータイガージムですか？

長井　そうです。17歳ぐらいの頃でしたね。でもやってたっていうより、シューティング時代は、まだプロに向けてどうのこうのっていう感じじゃなくて、週に2回か3回通うっていうコースしかないときで。ボクは鎌倉から通ってましたね。

――えっ？　鎌倉から三茶って想像を絶する距離ですよね（笑）。

長井　ホント大変でしたよ（笑）。その頃はアルバイトして通ってたんですけど、とにかくお金がなくて、安い路線を使って遠回りして通ってた思い出がありますね（苦笑）。

――キツイ練習の後も「いざ鎌倉」って感じだったんですね（笑）。やっぱり初代タイガーマスクに憧れてということでいいんでしょうか？

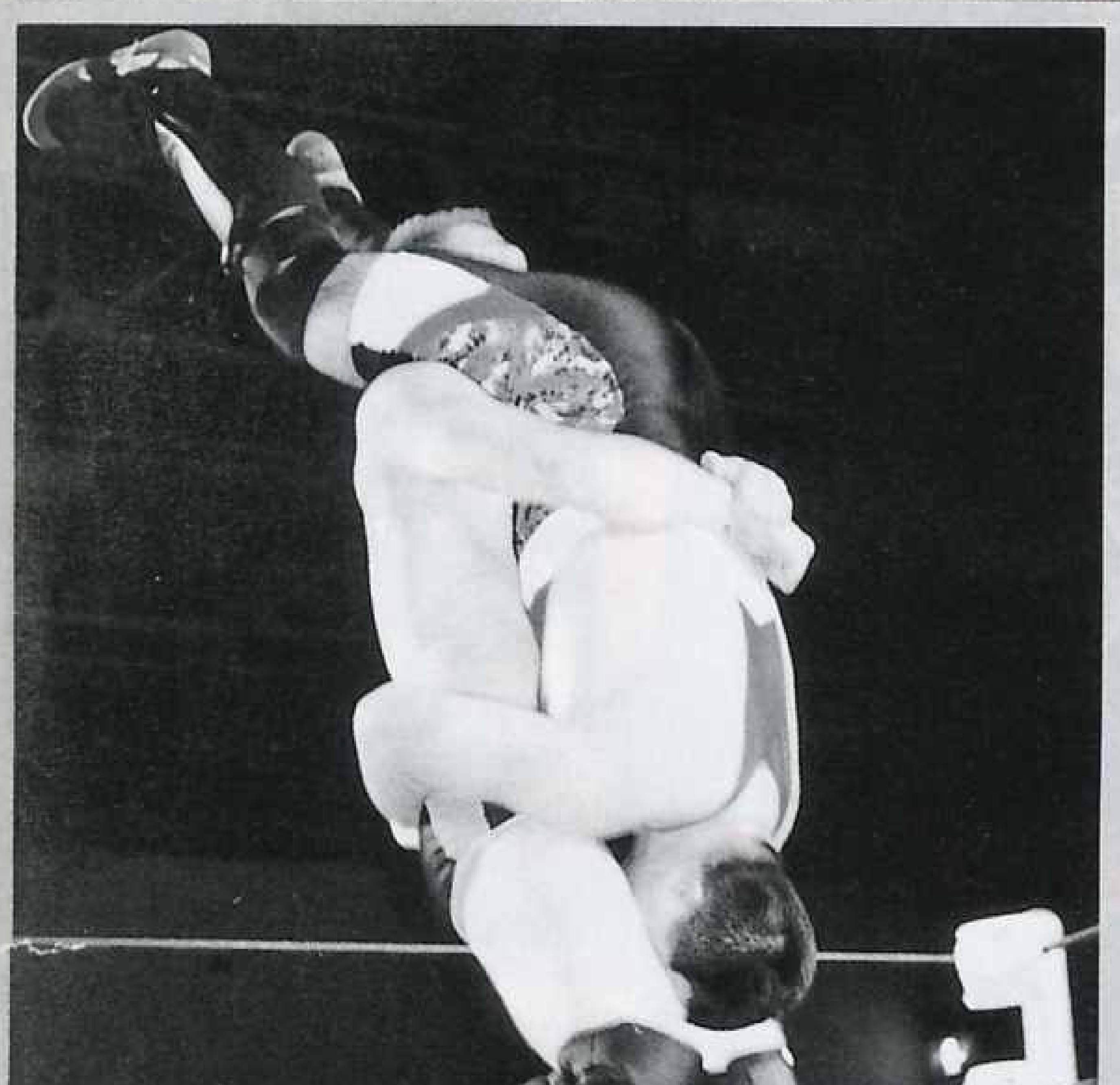
長井　そうですね。ボクがプロレスラーになろうと思ったきっかけが初代タイガーマスクなんですよ。そん時は漠然とプロレスラーになりたいなと思ってたんですけど、格闘技の経験がなかったんで、一番プロレスっぽいっていうか、総合的にできるっていったら、まあ自分の中では空手とか柔道をやるよりはシューティングをやった方がいいんじゃないかなって思って選んだんですよ。

――竹刀片手にキレまくってた頃の佐山さんを見てるわけですよね（笑）。

長井　厳しかったッスよ！　あの頃

「プロレスラー
言ってましたから





ボクは昔っから です!」って

は、よく竹刀でブッ叩かれてましたから。でも初めて佐山さんが来たときは、「うわっ！ 本物だぁ」って思って。当時はインストラクターに北原（光騎）さんとか、平（直行）さん、中村（頼永）さんとかがいたときでしたね。

——シューティングを一年ぐらいやって、その後シュートボクシングの方へ転身するわけですよね？

長井 やっぱり、キックも覚えてパンチも覚えて関節も覚えて投げも覚えるっていったら、いまの俺には無理だなって思って。

——確かに一辺に「打・投・極」全部覚えようと思ったら気が遠くなりますよね（笑）。

長井 それで、相手と向かいあったときに一番最初にやるのはキックとパンチだろうってことで、とりあえずそれをもっと上達させようと思ってシュートボクシングの方に移ったっていうのがホントのとこなんですけどね。

——佐山さんの次はシーザー（武志）さんに教わったわけですね。

長井 そうですね。シーザーさんがまだ現役でやられてた頃で、インストラクターに大村勝巳さんだとか阿部健一さんとかがいましたね。あと、平さんとか大江慎君もいたし、一番シーザージムが選手層が厚かった時期だと思うんですけど。

——その時期は、シューティングよりシュートボクシングの方が勢いがありましたよね。長井さんは、シュートボクシングでも何試合か試合もしつつ、その頃に今度は第2次UWFを見て衝撃を受けるわけですよね。

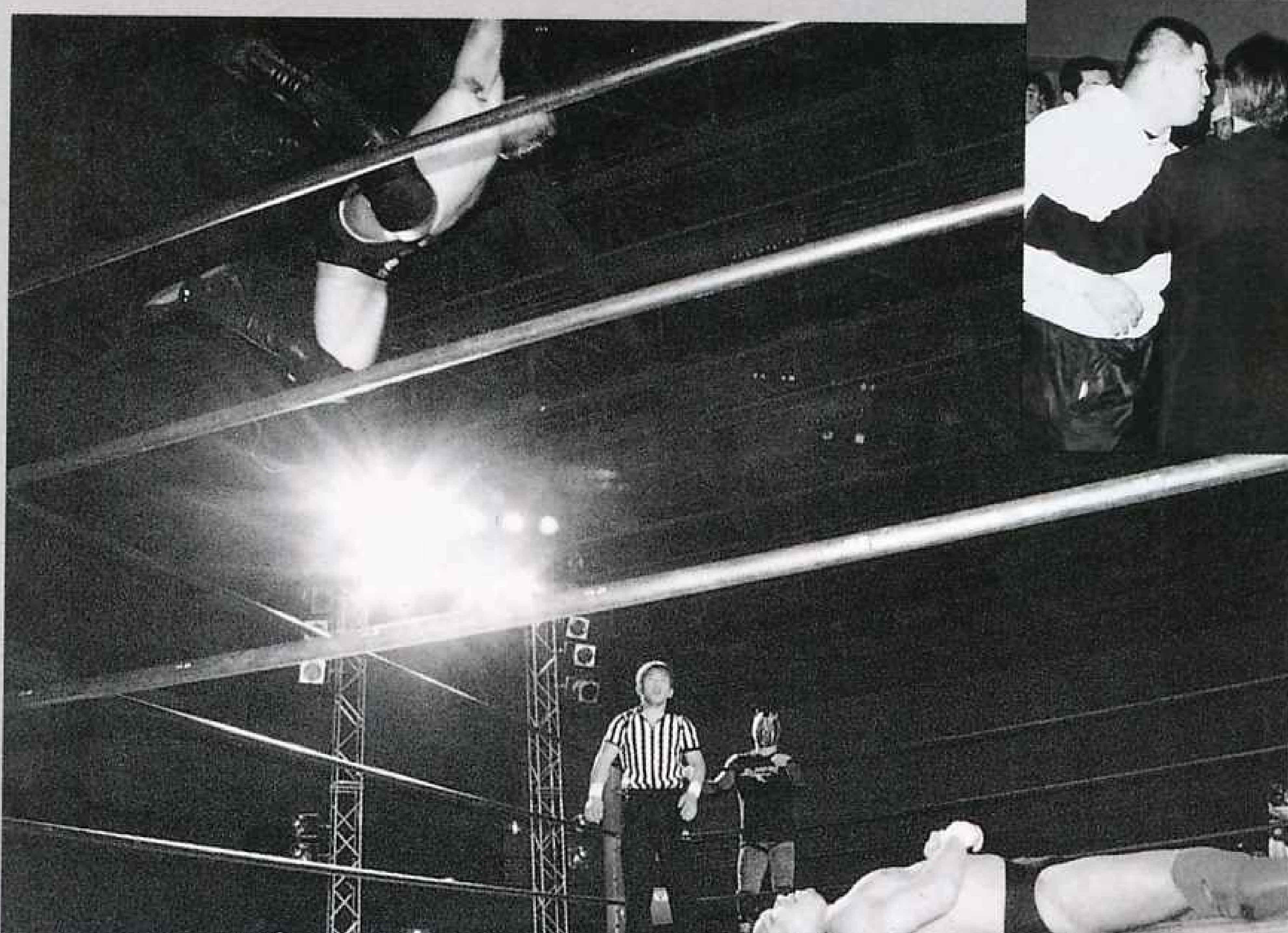
長井 そうです。やっぱりシュートボクシングをやりつつも、ホントはプロレスラーになりたいっていうのが常にありましたから。

——第2次UWFを見てその気持ちが甦ってきたわけですか？

長井 甦ってきたっていうか、ずっとあったんですけど（笑）。その時にちょうど20歳で、プロレスっていう世界に飛び込むんだったら、これがギリギリなんじゃないかなって思ったんですよ。シュートボクシングをやったことによってそこそこ打撃が上手くなったんじゃないかなと思ったし、当時「UWFのキックと関節技は凄い」って言われたんで、そういう凄いって言われてる人達の中に入って自分のキックはどれだけ通用するのかなと思って。それを試してみようと思ってUWFを選んだんですよ。

——全日本とか新日本は頭の片隅にもなかったんですか？

長井 いや、そんなことないですよ。ボクは最終的に選んだのはUWFだったんですけど、気持ち的にはプロレスラーになれれば団体はどこでもいいっていうところがありましたから。





11月5日・横浜大会で試合後の長井に木村浩一郎が突っかかった！ そして翌6日、群馬大会で両者は激突！ 7年前の敗戦の悔しさを叩きつける木村に対して、不慣れなルールながらも、鋭い蹴りやダイビング・ヘッドバットなどで応戦！ そこにスーパーライダーや池田大輔が絡み合い、リング上は格闘プロレスのスクランブル交差点状態となった。アクションか？ バチバチか？ 果たして長井はどのプロレス道を進むんだ!?

——当時のシューティングの選手とか「UWFは本物じゃない」って言う人もいましたけど、長井さんはどう思ってたんですか？

長井 ボクはそういうのはなくて「プロレスラーってどんだけ凄いんだろう？」って感じで自分で確かめてみたかったんで。やってみたらホントに凄かったですけど（苦笑）。

——第2次UWFにはどのくらいいたんですか？

長井 旗揚げ2年目の6月に入ったんですけど、次の年の4月にボクが首折って入院して自宅療養してる内に解散になっちゃったんで、練習生だったのは10ヶ月くらいですね。だから最後の解散の原因とか、いまだにボクわからないんですよ（苦笑）。

——いまだに謎なんですか（笑）。UWFでの同期は誰になるんですか？

長井 いま全日本の垣原（賢人）選手とパンクラスの冨宅（飛駈）選手ですね。でもいま思えばもの凄いメンバーですよね。前田さん、高田（延彦）さん、藤原（喜明）さんもいて、よく辞めなかったなと（苦笑）。

——やっぱり「夜逃げしよう」とか思ってたわけですか？（笑）。

長井 しょっちゅう思ってましたよ（笑）。「あと1日、あと1週間頑張ろう」って感じでしたね。

——シュートボクシングをやってた長井さんから見て、UWFの打撃はどうでした？

長井 やっぱり凄かったですよ。打撃のスパーはよく安生（洋二）さんとやらせてもらってたんですけど、その頃の安生さんはまだチャンプア（・ゲッソンリット）とやる前で熱心に打撃の練習をしてましたね。安生さんはあの頃マジメに練習してたから、いまでもK―1とか総合にも対応できるんだと思いますよ。

——それで、第2次UWF解散後、ほんの一瞬Uインターを経て、リングスでデビューするわけですけど、まあリングスの話は後でゆっくり聞くことにします（笑）。

長井 なくてもいいですよ（笑）。

——そうはいきません（笑）。リングス退団後はK―1で活躍して……。

長井 あんまり活躍はできませんでしたけど（苦笑）。

——結果だけ見れば1勝もしてないですからね（笑）。でもK―1用の練習はいまも続けてるんですよね？

長井 はい、やってますよ。

——プロレスと総合とK―1の練習までやってるんですか？

長井 ホント大変です！（笑）。でも

「いい感じで実力がアップしてきたのに、いま辞めたらもったいないから、プロレスやっててもK—1の練習も続けろ」ってアンディ（・フグ）親分から指令が出てますから（笑）。やっぱりK—1でやったことは自分の財産なんで、それを無くすのはもったいないですし、キックはプロレスやってても自分の大きな武器ですからね。

——木村選手も、群馬の試合での対角線ニールキックは「死ぬかと思った」って言ってましたよ。

長井　死んでもらいたかったですね（笑）。

——ヒャハハ。「まだプロレスはヘタだけどあれだけは効いた」って言ってましたよ（笑）。

長井　ボクも生まれて初めて喰らったラリアットが効いちゃいましたよ（笑）。

——長井さんはこれからどんなプロレスをやっていくつもりなんですか？

長井　ボクはこれまでいろんな格闘技やってきて、それで自分の中で理想のプロレスラー像っていうのがあるんですけど、それと自分が子供の頃に憧れたスタイルが一緒にできたら面白いなと思いますね。

——まだいまは試行錯誤？

長井　そうですね。やっぱりボクにしか出来ないプロレスがあると思うんで、早くそれを見つけたいです。いまはボクがロープに走ったりトップロープに昇れば、いままでやってなかったから、それだけで沸くと思うんですよ。でもそれが当たり前になったらお客さんもウンともスンとも言わなくなるだろうし、そうなる前に自分のスタイルを作りたいですね。

——掣圏道にカート・アングルが上がるっていう話もあったわけですけど、WWFに上がりたいっていう願望はあるんですか？

長井　まだいまのボクでは全然ダメですけど、最終的には上がってみたいですね。まあ、アングルが掣圏道に来るんだったら体格的にもスタイル的にもボクがあってると思うし、周りが「長井とアングルの試合が見たい」っていうまで自分を持っていきたいですね。夢は大きく「レッスルマニア」出場！（笑）。WWFに出られるんならスモーレスラーにでもなんでもなりますよ（笑）。

——スモー・ミツ誕生！（笑）。ところで長井選手の目標とするプロレスラーって誰になるんですか？

長井　やっぱり、すぐ近くに佐山さんっていう最高の手本がいますから。



は前田さんの話をしょうけど（苦笑）

ボクは佐山さんにはなれないですけど、佐山さんのプロレスを盗むっていうのがいまの目標ですね。

——プロレスラー長井満也の師匠は誰になるんですか？

長井　それは佐山さんですよ。本人に「ボクは違いま〜す」って言われるかもしれないですけど（笑）。

——佐山さんと前田さんっていう、2人の偉大な師匠を持つ長井さんですけど……。

長井　来ましたね（笑）。

——佐山さんと前田さんは、「仲は悪いけど実は似たもの同士」ってよく言われることもありますよね。長井さんは両師匠をどう分析してます？

長井　前田さんはボクが新弟子の頃からお世話になってる人で、佐山さんは他のところで選手としてやってきてからお世話になった人なんで、ボクに対して同じような接し方じゃないと思うんですよ。『紙プロ』さん的には前田さんの話をメインに持っていきたいんだと思いますけど（苦笑）。

——その通りです（笑）。

長井　とりあえずボクとはもう関係のない人ですから。まだ誌面でいろいろ言ってるみたいですけど、一応この世界でお世話になった人ではあるので、ボクは誌面でどうのこうの言うのは嫌ですから。ホントは、もうボクは違うところでやってるんだからつべこべ言われたくないですけど、この業界では先輩であるので、あちらを立てて何も言いません！

——黙して語らずですか。

長井　大人ですねぇ、ボクは（笑）。

——「ふざけるな前田日明！」って言ってくれたら誌面的には最高なんですけどね。まあ、それは冗談ですけど（笑）。それともうひとつリングスの話になっちゃうんですけど。

長井　なっちゃいますか（苦笑）。

——リングスで、最初に前田さんとやった時（95・11・25新潟市体育館）とか、最後の、やっぱり前田さんとの試合（97・11・20大阪市中央体育館）とか、常に長井さんにとって〝これだけは譲れないもの〟っていうのがあったように感じるんですけど、そういうのを貫く信念とかはあったんですか？

長井　その答えになるかわかんないですけど、小さい頃に佐山さんのタイガーマスクを見てからずっと持ってる、「プロレスラーになりたい」っていう気持ちは、変わらない信念だと思うし、その過程でシュートボクシングをやったり、首のケガをしたり、ずいぶん遠回りもしたけど、ボクがなりたかったのはプロレスラーという職業だし、やっぱりボクの中で弱いプロレスラーは許せないし、負ければ自分が悔しいし、そういう思いが爆発するときがあるんでしょうね。

——あの頃のリングスで、「ボクはプロレスラーです」っていうのはものすごい信念だと思うんですけどね。

長井　やっぱり前田さんには前田さんの考えがあって、ボクにもボクの考えがありますから。ボクはずっとプロレスラーになりたくて頑張ってきたわけですし、前田さんは前田さんの考えでリングスをやっていけばいいわけですから。ボクは職業欄にも堂々と「プロレスラー」と書きたいですし、だからいまボクは総合格闘家ではなくてプロレスラーであることに誇りをもっていますから。

——3ヶ月も比叡山の寺に送られても信念が変わらないっていうのは凄いですよね。

長井　2ヶ月や3ヶ月でそんな変わるもんじゃないと思いますよ。そんなんで変わるんだったら首折ったときに辞めてますよ！　やっぱりその辺は譲れなかったな。もっと前田さんに気に入られようと思ってやるんだったらどうにかなったと思うんですけど、そこは譲れなかったですね。比叡山で修行ねぇ……そんなこともありましたねぇ（苦笑）。

——弱いプロレスラーは認めないっていうことですけど、例えば「オレは弱いんじゃあ！」って公言してる大仁田（厚）さんなんかはやっぱり認められませんか？

長井　やっぱり強くなくてはダメですけど、強さだけ求めるんならプロレスじゃなくてもアマチュアでもなんで

長井満也

もいいと思うんですよ。強くてもファンの支持を得られなきゃ、それはプロじゃないと思うし。大仁田さんは「大仁田！」って叫んでくれるファンがたくさんいますから、プロレスの〝プロ〟っていう部分では凄いと思いますね。まあ強さとは別に「選ばれた人」であると思いますよ。

——大仁田さんにも「選ばれし者の恍惚と不安」があったと（笑）。

長井　それはどうか知りませんけど（笑）。でも世の中がもう大仁田さんをプロレスラーとして認めてますからね。その辺が難しいですけどね。

——長井選手の話を聞いてるとUFOの人達と考えが似てるような気がするんですけど。

長井　ああ、そうですかね。

——強さと魅せる能力、〝格闘芸術〟って呼んでるんですけど、小川（直也）選手とかには興味ありますか？

長井　ボクもああいうスタイルは嫌いじゃないんで、機会があればゼヒやらせてもらいたいですけど、小川選手とかもボクと同じような考えを持ってるっていうのは知りませんでした。

——それじゃあ、新日本とか全日本のメジャー団体と呼ばれてるところはどうですか？

長井　まあ、いまのボクがあの中に入っていっても同じような闘いはできませんからね。垣原君とも電話で話したりするんですけど、「大変だ！」って言ってましたよ。ボクもようやくその言葉の意味がわかってきました（苦笑）。

——でも、長井選手は全日本や新日本のリングに上がっても、体格的には遜色ないですよね？

長井　身長は187センチありますから。これ実数なんですよ。

——じゃあ新日本に行っても大きい方ですよ。武藤選手とか蝶野（正洋）選手がそのくらいですからね。

長井　じゃあサバ読んで190とか言っときますか（笑）。

——ノー問題です（笑）。体重はどのくらいあるんですか？

長井　ちょうど100キロくらいです。リングス2年目の時108キロありましたから、そのくらいにもっていきたいですけどね。やっぱりプロレスやる肉体って今までとは全然違うんですよ。体に肉を付けないと技は受けられませんから。

——アレクサンダー大塚選手もヘンゾ・グレイシー戦のために減量したとき、「減量したらひとつひとつの技が、体に響く」って言ってましたね。

長井　大塚選手は普段から太ってる選手じゃないから大変でしょうね。軽いと特に投げ技が効くんですよ。

——それと、掣圏道の超新星、坂本一世さんについてはどう思いますか？

長井　坂本君については、とにかくあれだけ注目されてるんだから男だったら根性見せて欲しいですね。

——一説には、根性が無いんじゃないかって噂もありますけど（笑）。

長井　そうなんですか？　ボクはわかりません（笑）。でも本当に本人のヤル気次第ですよ。芸能マスコミなんか色眼鏡で見てる人が多いと思うんですよ。それを見返してやるチャンスなんだから、根性見せて欲しいですね。ボクは佐山さんに「長井君教えてやって」って言われたらいつでも教えますから。

——まあ佐山さんは、坂本さんのことを「150％の素材」って言ってますからね（笑）。ところで掣圏道といえばロシア美女なんですけど（笑）、

『紙プロ』さん的に
メインにしたいんで

長井選手的にはどうですか？

長井　巡業では一緒のバスなんですよ（笑）。

——実に羨ましいですね（笑）。

長井　でも言葉がわかりませんからねぇ。それに「私達はモデルよ」みたいな感じでプライド高そうなんですよ。やっぱり日本人には日本人ですよ。まあ言葉がわかればボクも話は違ってきますけど（笑）。

——ヒャハハハハ。客観的に見て、これからの掣圏道はどうなっていくと思いますか？

長井　まだ始まったばかりなんで、ドタバタしてるところがありますけど、やってる内容自体はSAプロレスもSAボクシングも悪くないと思うし、これから営業の面でも軌道に乗ってくればもっともっといろんな人に見てもらえるんじゃないかなっていう気はするんですよ。これからWWFと絡んだりしてどんどん面白くなっていくと思いますよ。

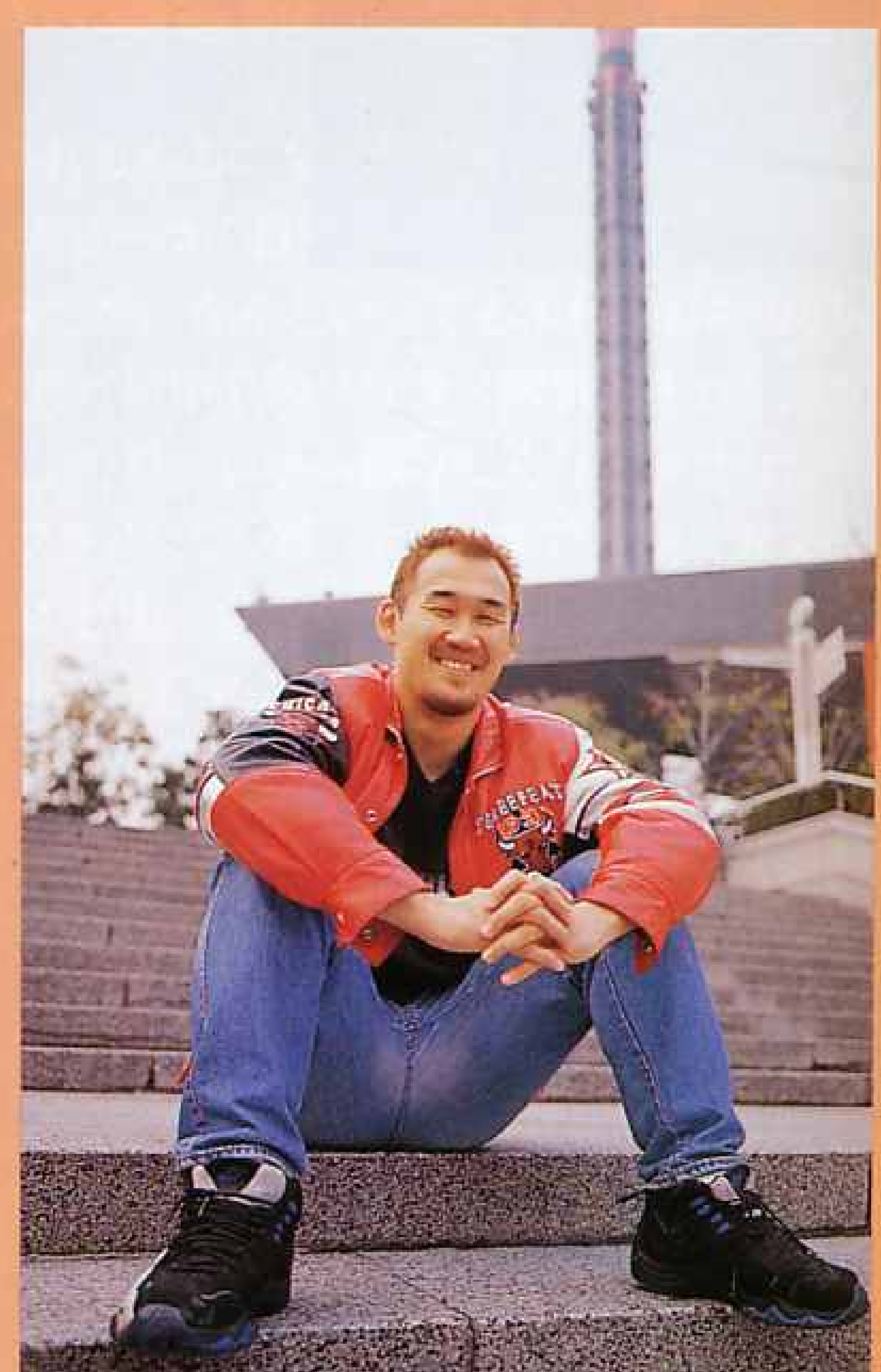
——でも佐山さんの言う〝アクション・プロレス〟を体現できる人ってなかなかいないですよね。

長井　まだ佐山さんの頭の中にあるモノを佐山さんがやってるだけですからね。でもこれから佐山さんが新弟子を教え込んで、4代目タイガーさんみたいな感じで選手が育っていったら全然違ってくると思いますよ。選手としたら当たり前かも知れないですけど、佐山さんはちゃんと道場に来てサンドバック殴ったり体動かしてますからね。なかなかトップに立つとそういうのができなくなるんですよ。まあ誰とは言いませんけど（笑）。佐山さんはボクのプロレスの師匠なんでこの辺で勘弁してください（笑）。

——わかりました（笑）。最後に、長井選手が総合というかプロレスの世界に戻ってくるのを待っていたファンも多いと思うんで、何かメッセージをお願いします。

長井　いるんですかね？（笑）。

長井満也【ながい・みつや】本名・長井弘和（みつや）。昭和43年11月10日、北海道砂川市生まれ。修斗～SB～第2次UWF～Uインターを経てリングスに所属。数少ない大型日本人選手としてリングス創世記を前田とともに支える。前田との見解の相違からリングスを離れ、闘いの場をK―1に移す。今年8月のK―1JAPAN大会で一区切りをつけ本業のプロレス界へ参入。掣圏道を皮切りに、バトラーツなどで実戦経験を積み重ねている。187m、100kg



——たくさんいますよ！　でも、「長井はプロレスに行ってしまった」っていうリングス時代のファンの嘆きも多いでしょうけど。

長井　そうなんですか。まあ、昔から言ってるように、ボクはずっとプロレスラーですから。だからいまは自分の本職に戻ってきたって感じなんですよ。戻るって言ってもリングス時代の長井に戻るんじゃ前に進めないというか、あまり意味がないと思うんですよ。だからこれからはU系のファンだけじゃなく、全日本とか新日本のファンにも長井満也を見て欲しいし、名前を覚えて欲しいですね。リングスでもK―1でもプロレスでも「俺はプロレスラーだ！」っていう気持ちはずっと変わってませんから、だからリングスの頃のボクを応援してくれたファンにも、いまのボクを見てもらいたいですね。……（満足げに）うん、いいシメになった（笑）。

——いや～素晴らしいシメですね（笑）。さすがプロレスラー！

長井　プロレスラー長井満也を見に来て下さい。よろしくお願いしま～す。

【11月12日、水道橋・フェスタカフェにて収録】

カート・アングル！ ダニー・クロファット！ ロシアン・ベイダー！ 結局一人も来やしねえ！（笑）

それでもウマいぞ!! 格闘闇鍋SAプロレス!!

SAプロレス首都圏初上陸!! 11.5横浜&11.6群馬



▶一見かつての風間ルミと見間違えてしまいそうな、誰一人として予想できるはずもない新コスチュームで登場の佐山。これもまたマスク屋への嫌がらせなのか？（11・5）

「マスクマンの常識を破った覆面で登場しま〜す」その言葉に偽りナシ!!

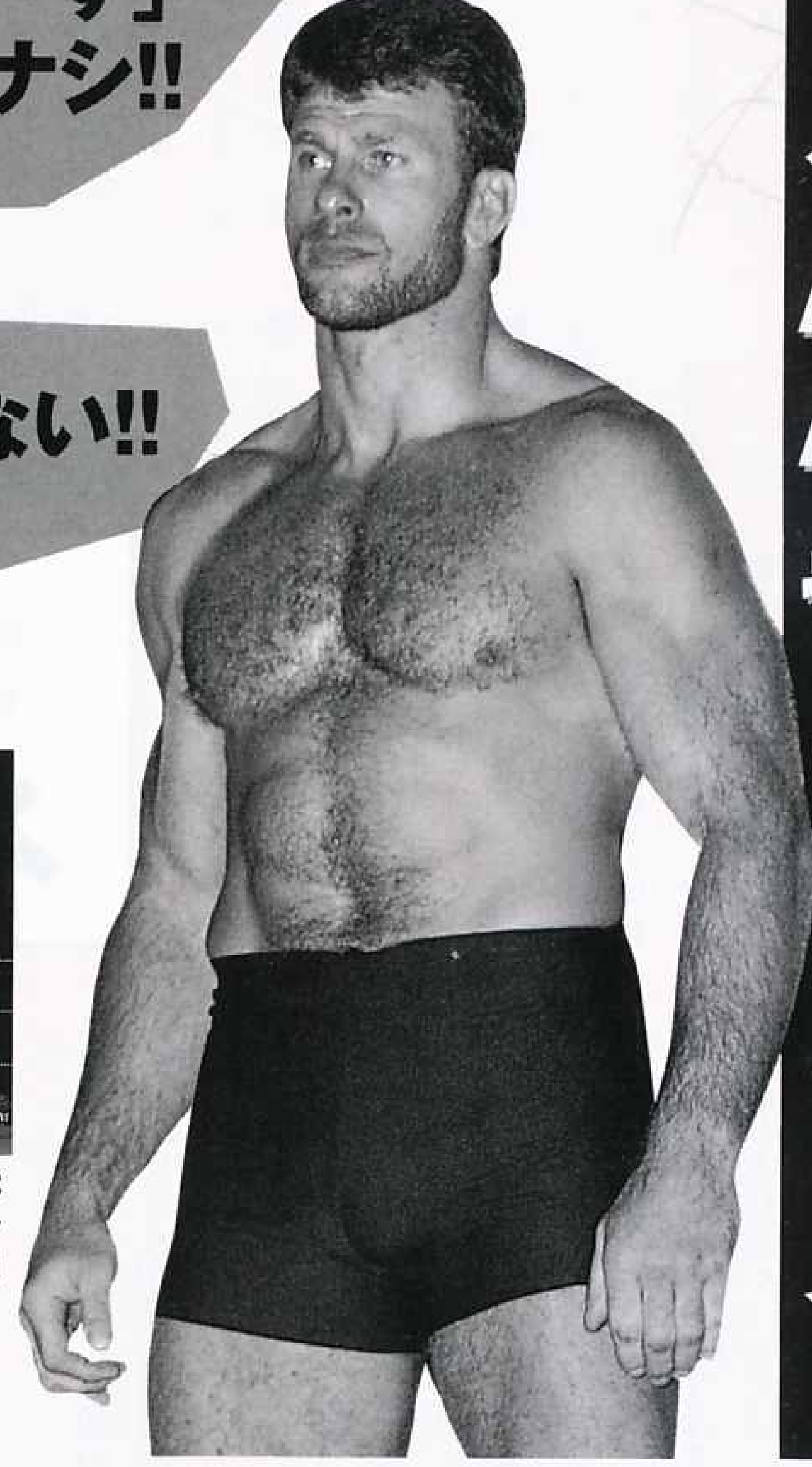


◀「これぞアクションプロレス」という試合を見せるべく、佐山はUFOのリングで2度敗れているアレクとメインで対戦（11・5）。佐山の必死な表情を見よ！



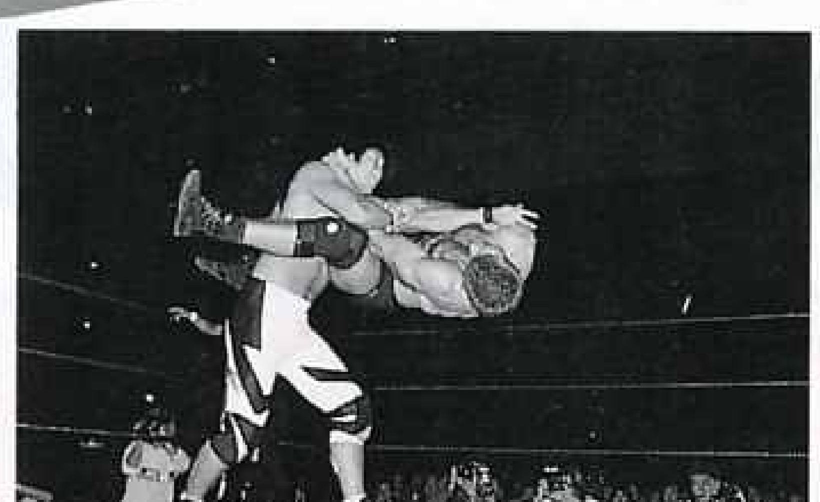
▶初代タイガーのセコンドには、直系の弟子である4代目タイガーと坂本一世がついた。"石川一家"ならぬ"佐山一家"と呼びたいスリーショットだ。（11・5）

ロシアから来たのは美女だけじゃない!! "肉体の終着駅"ボリソフ・イゴリ こいつは掘り出しモノだ！





◀気は優しくて力持ちを地で行くイゴリは、チビッコにも大人気。掣圏道の興行は昔なつかしいプロレス会場の雰囲気に溢れていて、心地よいのだ。（11・6）



▲ナチュラルに鍛えられた巨体が繰り出す、飛びつき十字固め！　島田レフェリー曰く「ヴォルク・ハン初登場時を超える衝撃ですよ〜」（11・5）

「ハイ、今日はプロレスの方なんですけども、よろしくお願いしま〜す」ＳＡボクシング旗揚げ戦の時と比べて、明らかに気合いの入り方が甘い佐山代表の挨拶（それが逆に佐山らしくていい）で始まったＳＡプロレス首都圏初大会。

このＳＡプロレス本誌前号では、異常にバラエティーに富んだメンバーがひとつのリングにに集まることから「格闘闇鍋」と定義させてもらったが、いざ大会当日を迎えると、目玉素材達が姿を消し当初の予定とまるで違うメンバーが顔を揃えており、鍋の蓋を開けるまで何が出てくるかわからないという意味でもまさに「闇鍋」なのであった。

カート・アングルらが急遽不参加となったたこともあり、今回鍋にぶち込まれた素材は、一見「適当にかき集めたの？」と思われがちであるが、よく見るとなかなかどうして、粒ぞろいの実力派、良質素材ばかり。

その中でも今回多く見られた一見さんのお客さんから大歓声を浴び、一番美味しく召し上がってもらったのは４代目タイガーマスク。佐山の言う"アクション・プロレス"を最も体現していると思われるのがこの４代目であり、顧客拡大を狙う佐山料理長の方向性は間違いなかったと言える。

個人的に特に美味だったのはボリソフ・イゴリ。その巨体から繰り出される技の数々に、ボクは鍋の中から思いがけず松阪牛が出てきたような感動を覚えた。まあ松阪ではなくロシア産なんだが。

セミで長井のダイビング・ヘッドバットという珍味も味わった後は"甘味王"佐山料理長の店らしく、特大のデザートが用意されていた。言わずと知れた初代タイガーマスクのことである。

いくらデザートは別腹とはいえ、そのもはやタイガーマスクであるかどうかも疑わしいボリューム満点のお姿に胃袋は破裂寸前。しかも途中で新マスク（最高！）を取って素顔になるという、一粒で２度おいしい品となっており、大満足だ。

いいものを提供していながら、まだまだ喰わず嫌いが多いと思われる掣圏道。ここは騙されたと思ってぜひ一度訪れてほしい。でも、あくまで「闇鍋」ですので喰い合わせが悪い場合は御了承下さい。よろしくお願いしま〜す。

（ガンツ）



▲ダイビング・ヘッドバットで見たまんま力持ちのヤキメンコを破り、首都圏プロレスデビューを飾った長井は、練習を手伝ってくれた田中、日高、4代目タイガーを呼んで、女子便所前で堂々プロレスラー宣言。キャリアでは後輩にあたる3人を「さん」付けで呼ぶのが長井らしかった。





▲創世期のリングスで、今や語り草のシバき合いを演じた長井と木村が8年ぶりに激突。長井は「DDTのリングで決着を付けてもいい」と衝撃発言。(11・6)

▼木村と大ちゃんのタッグも実現。(11・6)



▼掣圏道のロシア美女か、ロシア美女の掣圏道か!? もはや掣圏道は彼女たちナシでは語れない。その露出度はゼヒ各団体のラウンドガールにも見習って欲しいものだ。





▲キャップを被ってのセコンドが新鮮だった坂本一世。芸能界一の運動能力を持つこの男がアクションプロレスを完成させるか? 3月に噂されるデビューが待ち遠しい。



▲入江秀忠がニープレス! その体勢からカン高い声つきパンチを叩き込み内藤に勝利。浅野社長ばりのマイクも最高だった。(11・5)

▼SAプロレス首都圏旗揚げ戦のメインを務めたアレク。常にお客のことを考えるアレクとアクションプロレスが重なる部分は多いだろう。(11・5)





▶やっぱりここにも登場しました島田レフェリー。先日行われたトークショー「佐山イズムとは何か?」では司会者なのに、会場の誰よりも楽しんでいた。



▶"キック界のお笑い大魔王"と呼ばれた元ヘビー級キックボクサーの力王もなぜか参戦。日替りのテーマ曲は必聴!(11・5)

▼4代目タイガーVSムチャリブレ・ギロチン王アジアン・クーガーという、インディーファンの心をくすぐるカードもひっそり実現(11・6)





本誌緊急特派員のSAプロレス11・6群馬

観戦記

文・イナズマK

押忍（敬礼）!! 遂に首都圏初登場となった掣圏道SAプロレス。5日の横浜文体に続いて翌6日は群馬県新田町での開催だ。何でまたそんなとこでやるの、と思ったら佐山先生とのつながりも深いライダー選手のお膝元だったんですね。前日に負けず劣らずの好カード連発。こいつは要チェックというわけで紙プロ号も出動だ。途中の景色の田舎具合もイイ感じでヴァーチャル北海道気分!? いやがおうにも盛り上がる。

車で3時間半、たどり着きました新田町総合体育館。畑のど真ん中にそびえ立つ巨大かつ豪華な建物に度胆を抜かれ中に入れば、地方大会なのに入場ゲートまでセットアップされてる。オッチャンからチビッコ、東京からのお客さん（ほとんどDDTファン）も駆けつけてほぼ満員。

あのディレイ掛かりまくり『セイケンドドドーウ！』のテーマにのって「来年にはK—1と並び称されるものになりま〜す！」という佐山代表の衝撃挨拶でスタートだ。この日一番の目玉は池田＆浩一郎VS長井＆ライダー戦。バト十DDTも見物だが、なんといっても木村と長井の8年ぶり対決。当時大学の卒業試験真っ只中でのリングス敗戦を木村が忘れるわけがい。メラメラ感情燃えまくりボコボコ蹴りまくりオラオラ煽りまくり。長井も（足から落ちる）フライング・ボディプレスで元気一杯応戦!

そして初代タイガーマスクの登場。前夜のショッキングなニューマスク（SM風）はビッグマッチ限定だそうで残念ながら今日は無し。いつまでたっても痩せない無敵のボディー、スリムな足首、それにトラの仮面が妙なムードをかもし出してる。なのに相変わらず技の切れがイイからタチが悪い。最後はドスンと丸め込んでのジャパニーズ・レッグロールクラッチで臼田をフォール。あっさりといい感じだ佐山聡！

SAボクシングと共用（ロープも4本に張り替え可能）だけに堅いマットで選手全員頑張った。ロシア人美女もおケツ丸出しで新田町男のスケベ心をヒート・アップ！ ラストはあのライオネル・リッチー十エーちゃん風なナンバーでシメ！ ウンコの匂い（肥料？）が漂う体育館の外はもう真冬。すでにここは10年後の世界かも。押忍!! 最高！ 掣圏道!!

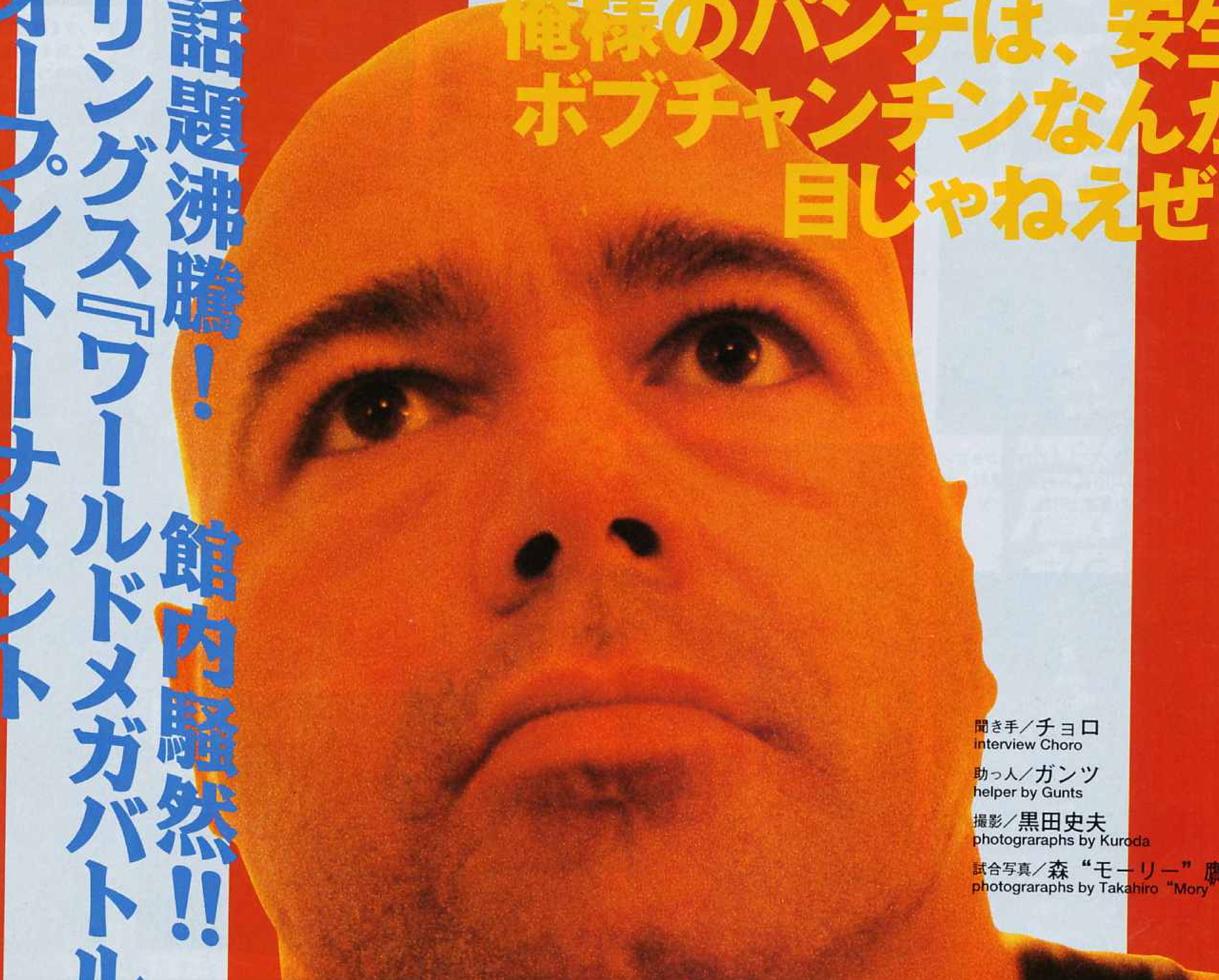
さい。よろしくお願いしま〜す。（ガンツ）

ブラッド・コーラー

Brad Kohler

俺様のパンチは、安生ボブチャンチンなんか目じゃねえぜ!!

話題沸騰！館内騒然!! リングス『ワールドメガバトル・オープントーナメント King of Kings』に



聞き手／チョロ
interview Choro

助っ人／ガンツ
helper by Gunts

撮影／黒田史夫
photograraphs by Kuroda

試合写真／森“モーリー”鷹博
photograraphs by Takahiro“Mory”Mori

波乱続出、日本全滅となった10・28リングス『ワールドメガバトル・オープントーナメント King of Kings』代々木大会。なかでも無問題(モウマンタイ)で圧巻だったのは、他誌に先駆け、いち早く前号の「怪物通信」で紹介した、ブラッド・コーラーとアニマル・ウォリアーの入場シーンであった。

ロード・ウォリアーズのテーマ曲「アイアンマン」が重低音で鳴り響くと場内は異様などよめきに包まれ、続いてペイント姿のアニマル・ウォリアーとブラット・コーラーが勢いよく姿を現すと盛り上がりは最高潮に。これだけでもつかみはイッツ、オッケーなのだが、ブラット・コーラーはそれだけでは終わらない凄玉頑固親父だった。

トーナメント1回戦、コーラーは山本宜久の脇腹を狙いすましたメガトン右フックで破壊。ガイジンムーブメントここにありを力づくで証明したのだ。続く2回戦でイリューヒン・ミーシャに破れはしたが、一夜にしてリングスファンの喉元に、ブラッド・コーラーという刺激の強い炭酸系の名前を叩き込んだのは間違いない。

試合前日、コーラー&アニマルとの接触に成功、ふたりの部屋を直撃すると、そこには、早くも気合い十分のコーラーと、セコンドとしての来日ながら、なぜか必要以上に鼻息の荒いアニマルがいた！

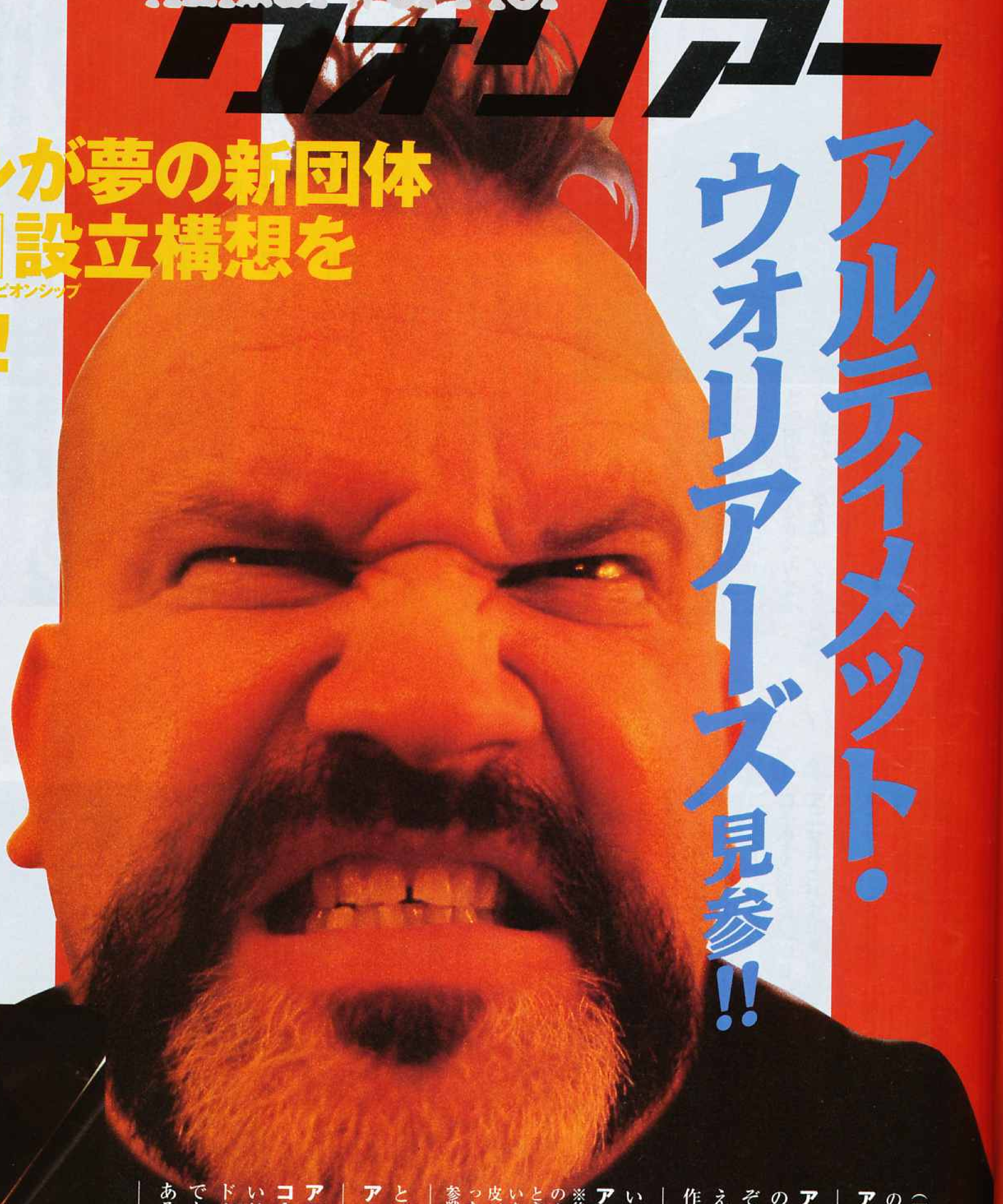


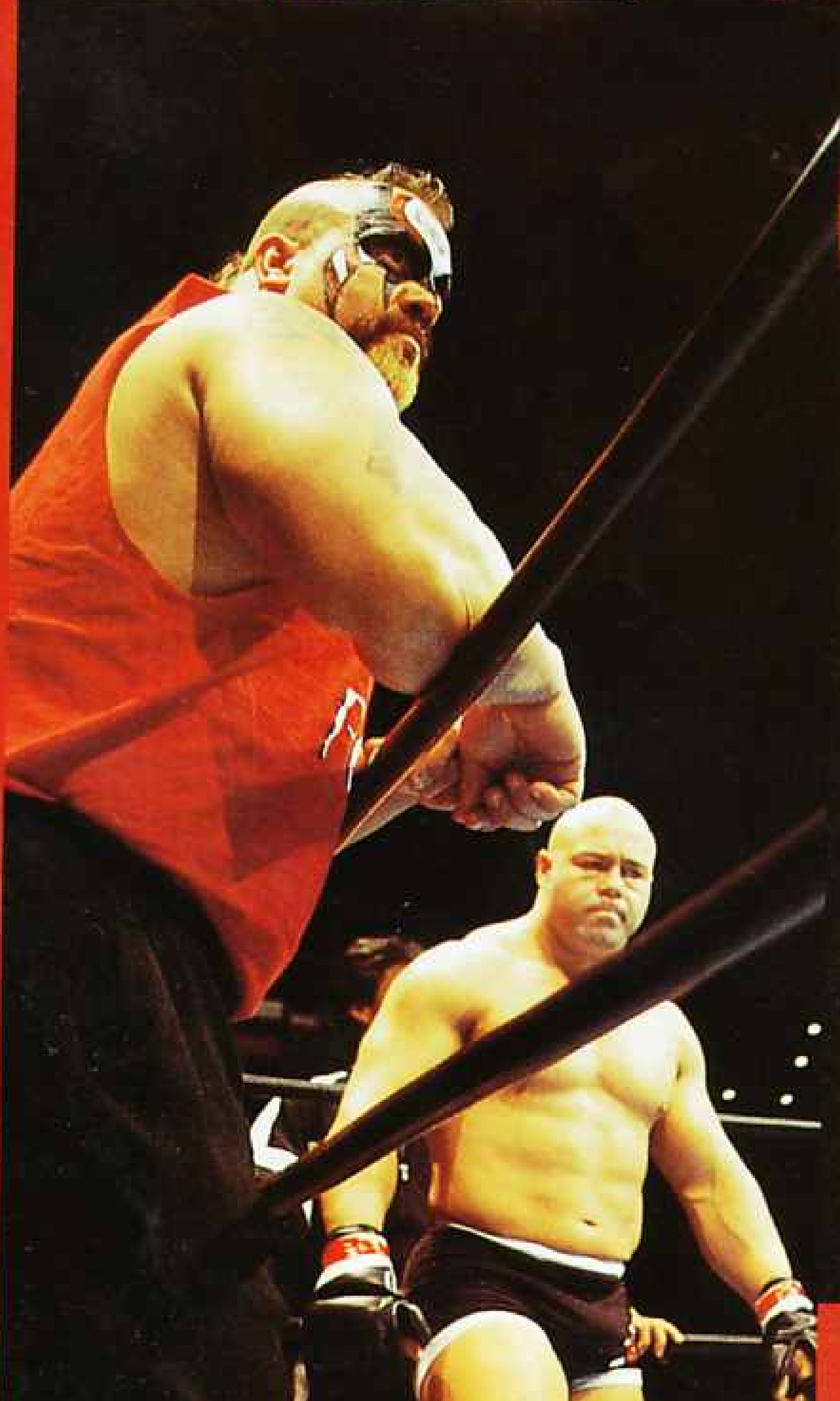
アニマル・ウォリアー

Animal Warrior

アニマルが夢の新団体『UWC（アルティメット レスリング チャンピオンシップ）』設立構想を大激白!!

アルティメット・ウォリアーズ見参!!





（『紙プロR NO21』のアレクサンダー大塚のインタビューページを指差し）

アニマル 俺はコイツと闘ってるよ。

——見ましたよ。あれはいい試合でしたね。

アニマル そういや、俺はまだバトラーツのジャケット（皮ジャン）をもらってねえぞ！ どうなってんだ!! 約束したじゃねえか、俺にピッタリの新しいジャケットを作っておくって!!

——そ、そんなにエキサイトしないで下さいよ。あとで聞いておきますから。

アニマル 頼んだぞ！

※後日、島田レフェリーに聞いてみると、「アニマルの皮ジャン？ あれは、『次にウチの大会に出場したときにあげるね』っていう約束だから、まだ作ってないんだよ。もちろん契約できたらあげますよ〜。あの皮ジャンは韓国製ですからね、は〜い」とのことだった。さて、皮ジャン目当てにアニマルのバトラーツ参戦はあるのか？ 要注目だ！

——ところでコーラーさん、アニマルさんとはどういった関係なんでしょうか？

アニマル どういった関係だと思うんだ？

——も、もしかして付き合ってるんですか？

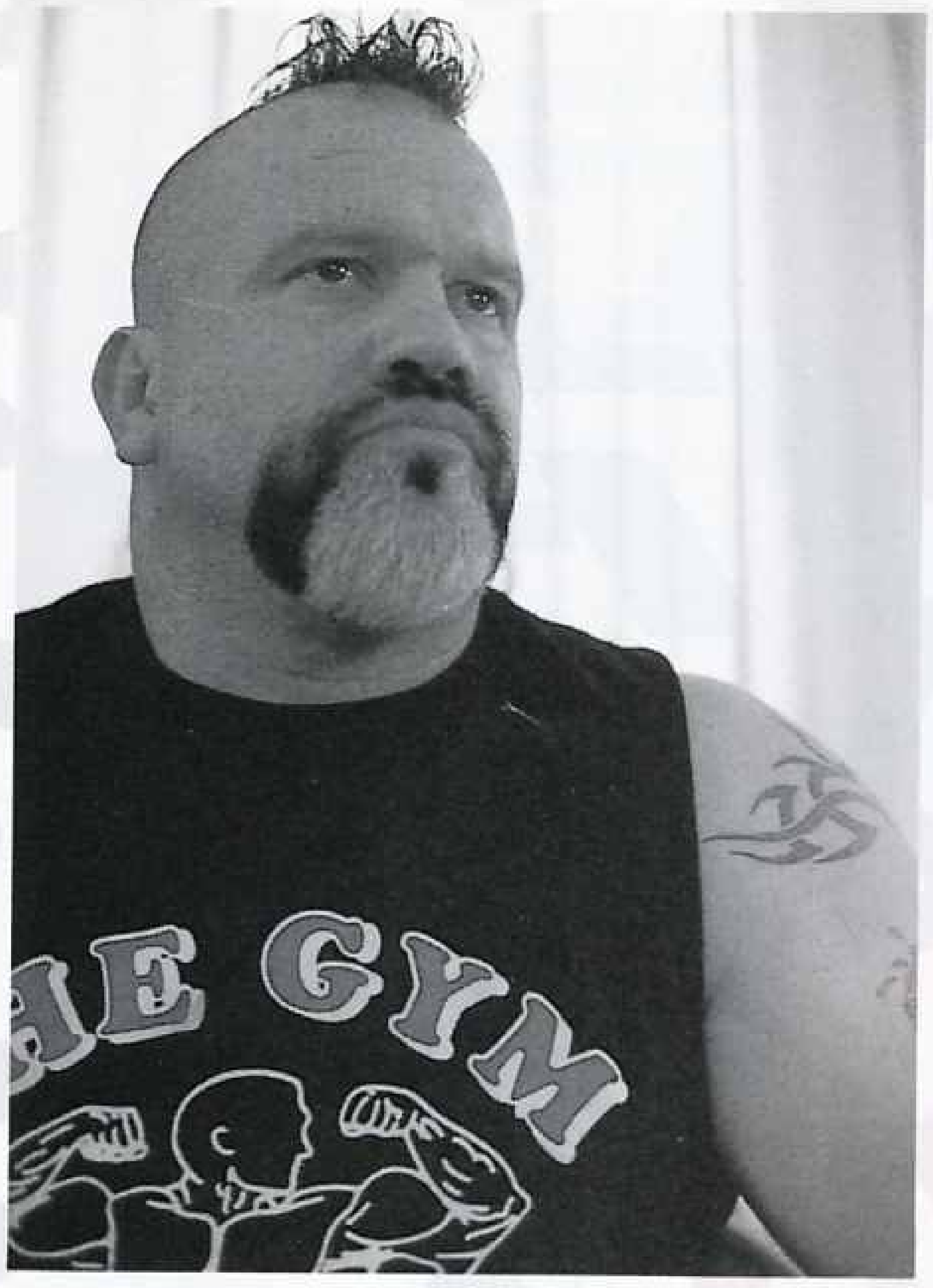
アニマル ダッハッハッ！ それはねえな。

コーラー アニマルは俺の親友だ。もう長い付き合いだよ。まあ、それだけじゃなく、ドージョー（道場）のビジネスパートナーでもあるし、トレーニングパートナーでもある。そういうことだ！

——それはどういった道場なんですか？

上に鼻息の荒いアニマルがいた！

いまのアメリカマット界はブルシット・カンパニーばっかりだ！（アニマル）



コーラー　プロレスをやりたいヤツ、シュートファイトをやりたいヤツ、まあ言ってみれば強くなりたいヤツが集まってるところだ。リングだって3つもあるんだぜ！

——3つも！　それはまた贅沢ですね。

コーラー　オクタゴンはないけどな（笑）。

——アハハハハ！　その道場には他にプロの選手はいるんですか？

コーラー　ああ、いくらでもいるよ。デイヴ・メネー、ダン・スバーンもそうだ。あとは、ベッキー・リーバイ、アンドレ・ロバーツ、Xーパック、〝ミスター・パーフェクト〟カート・ヘニングなんかも練習仲間だぜ。

——バーリ・トゥード系からWWFまで、まさにパーフェクトですね（笑）。ところで、アニマルさんは現在もWWF所属ということでいいんでしょうか？

アニマル　（険しい顔つきになり）WWFとは、まだ契約が残ってるんだ。WWFはファッキンカンパニーだぜ！

——最近のWWFでのアニマルさんの扱いは、あまり良くなかったですからね。やっぱり（ビンス・）マクマホン（Jr）さんにはあまり良い感情を持ってないんですか？

アニマル　（声を大にして）アイツはベリー・バッド・ビジネスマンだ！　アイツはロード・ウォリアーズの価値を全くわかっちゃいねえ！　あんなブルシットなカンパニーには二度と戻る気はないぜ!!　とにかくいまのアメリカはブルシット・カンパニーばっかりだ。だから俺たちはニュースタイル・アルティメット・カンパニーを作るつもりだ！

——それは新団体設立ってことですか？

アニマル　団体名は、アルティメット・レスリング・チャンピオンシップだ！

——略して？

アニマル　U・W・C！（コーラーのシャツを指して）見ろ！　もうすでにTシャツだってあるんだ。このカンパニーが出来たらスゲェーことになるぜ。

——どんな選手が参戦予定なんですか？

アニマル　どうしても知りてえのか？

——はい、どうしても教えて下さい（笑）。

アニマル　誰にもしゃべるなよ（笑）。男と男の約束だからな！

——約束します。誌面には載せますけど。

アニマル　ダッハッハッハッ！　しょうがねえな（笑）。まずは俺たちロード・ウォリアーズだ。あとは、ダン・スバーン、ドン・フライ、ケビン・ジャクソン、マーク・コールマン、ケビン・ランデルマン。まあ他にもたくさんいるけどな。こいつらが一堂に集まることになるだろうな！

——そ、それは凄い！　UWCは、どんなスタイルの団体になるんですか。

コーラー　プロレスだろうがバーリ・トゥードだろうが関係ねえ！　なんでもありだ!!

アニマル　UWCでは、ジャパンとアメリカを結ぶ新しい形のレスリングショーをやりたいと思ってるんだ。

——まだ未確認ですけど、アメリカ版UFOと思っていいんですかね（笑）。

アニマル　UFOと言うよりガイジンムーヴメントだ！

コーラー　できればUWCはリングスUSAという形でやれればいいと思ってるんだ。プロレスとバーリ・トゥードをミックスした興行をやっていきたいと思ってる。

アニマル　（再び険しい顔になり）WWFはノーテイクケアーだから、すぐにでも辞めちまいてえんだけどな。まあ、WWFのやり方が気にくわねえっていう奴等は何人もいるから、そいつらもUWCに加わることになるだろうな。将来的にはUWCでジャパンに来たいと思ってるよ。

——それは楽しみだ！　コーラーさんもWWFには興味がないんですか？

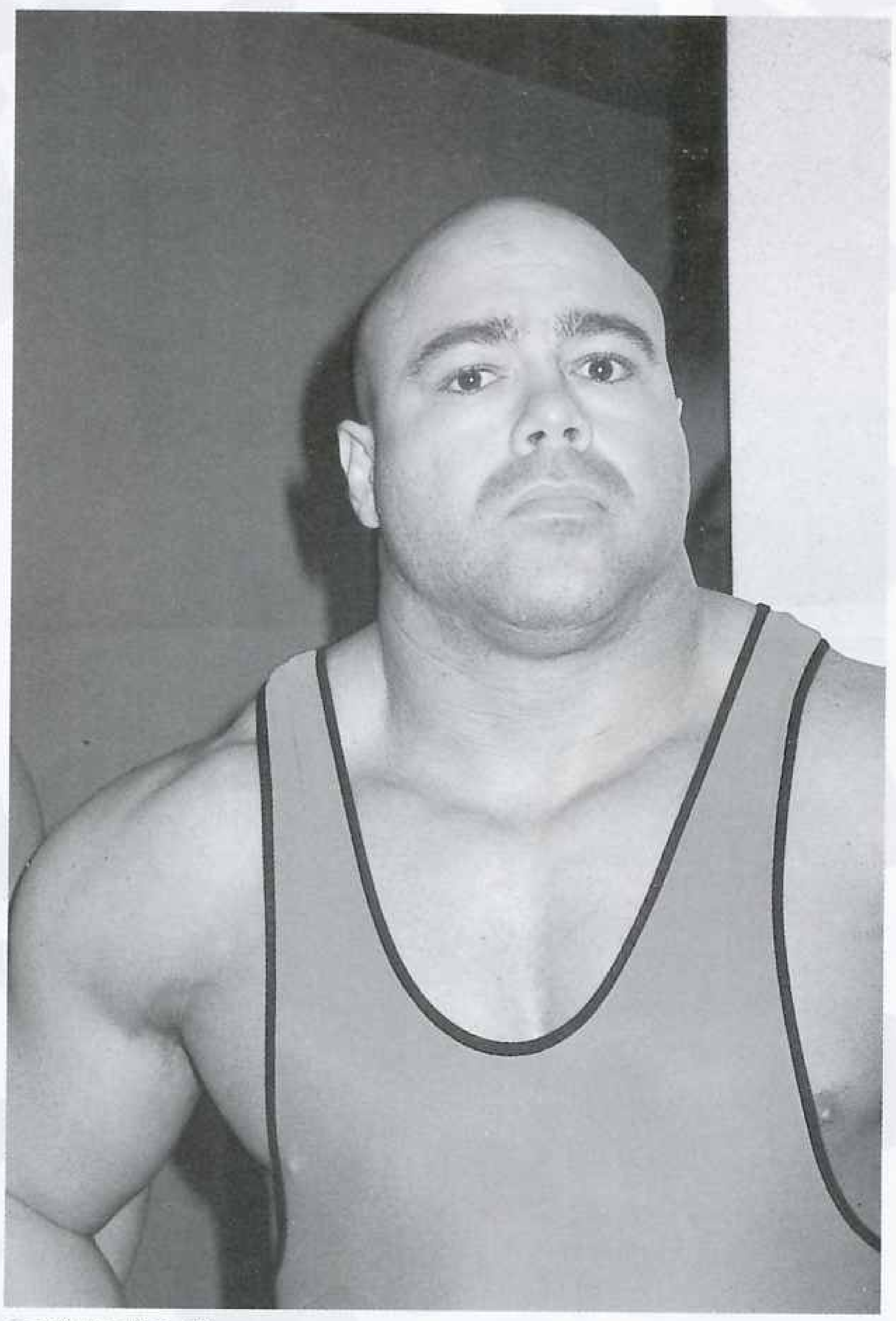
コーラー　（コーラーまで険しい顔になり）俺も興味ねえな。アニマルからWWFの悪いところは散々聞かされてるからな。

アニマル　WCWの方だってTVの視聴率はガタ落ちだし、WWFはレスリングじゃなくてトークショーの場になってるじゃねえか！　そんなところにコーラーを上げるわけにはいかねえよ！　俺はジャパニーズスタイルの団体をアメリカで作りたいんだよ。やっぱりジャパニーズスタイルがイチバンだ！

——コーラーさん、最近プロレスの方はやってるんですか？

コーラー　毎週やってるよ。お前のとこのマガジンにも載ってたけど、日本にも呼ば

これが今年1月『世界のプロレス』来日時のコーラーのコスチューム姿だ。このシリーズでは、バトルロイヤルで真っ先に退場、華☆激の川内大裕をコーラースラムで秒殺、KKK1号の3m級のチョークスラムでフォール負け、最終戦では青柳館長のニールキックで3カウントを許すなど、気分屋の頑固親父ぶりを大いに発揮した。



Ⓒスペルテポドン2号

ン、ケビン・ランデル

めちまいてえんだけどな。まあ、WWFのマガジンにも載ってたけど、日本にも呼ば

れて来てるしな。アメリカだけじゃなく、メキシコでもやってるよ。プロレスリング・イズ・ベリーハード！（笑）。その点、バーリ・トゥードはイージーだぜ！　プロレスは相手のことも覚えなきゃいけねえし、客の反応も考えなきゃいけないからな。それに比べてバーリ・トゥードは簡単なもんさ。「バンバンバン！」ってブン殴ればいいだけだからな。この間のUFC（22）で勝ったときは、ハードなトレーニングのおかげで「バン！」で終わっちまったけどな（笑）。今回のリングスのトーナメントもたっぷりと練習を積んできたから、なにも問題はない！

――凄い自信ですね。そういえばコーラーさんはマイク・タイソンとも一緒に練習をしているっていう話を聞いたんですけど。

コーラー　その通りだ！　オハイヨ州のクリーブランドにタイソンキャンプっていうのがあるんだ。そこにリッチ・ジッケディーっていうタイソンのトレーナーがいるんだけど、一緒にトレーニングをしたよ。

――アニマルさんは全日本の東京ドーム大会（99年5月2日）以来、日本では試合をしてませんが、試合の予定はありますか？

アニマル　背中に傷を負っちまって手術をしたんだよ。WWFとの契約が終わり次第スグにでもジャパンに戻ってくるよ。

――日本では、どの団体に上がりたいとか希望はありますか？

アニマル　やっぱり全日本がいいな。俺はロード・ウォリアーズを初めて日本に呼んでくれたババさんをモノ凄くリスペクトしてるから、全日本にカムバックしたいという気持ちが強いんだ。

コーラー　俺はプロレスもバーリ・トゥードも両方やりてえな。どっちのスタイルもできるし、どっちも好きだからな。ただ、いまはリングスのトーナメントだけに集中してえな。そのために昼も夜もトレーニングを続けてきたんだ！

――コーラーさんのプロレスのリングでの得意技とフリーファイトでの得意技をそれぞれ教えて下さい。

コーラー　レスリングはガキの頃からやってるんでもう飽きちまったから、今はボクシングが面白いな。プロレスではダブルインパクトだ！（笑）。あとは相手をブンブン振り回して、マットに叩きつける技だ。

アニマル　「コーラースラム」だ！

コーラー　やってやるから、ちょっとこっちへ来い！

――お、お手柔らかにお願いします。（フルネルソン状態でグルグルまわされ、そのままベットにブン投げられる。（グッタリしてロレツが回らなくなり）ほ、ほれは一撃必殺ですれぇ……。あ、明日の相手、山本宜久選手にはどんな印象を持ってますか？

コーラー　ヤマモトはビッグで強い選手だと思うし、対戦相手として尊敬してるよ。ただ、ヤマモトのファンには悪いけど、明日は俺の右フックがヤマモトの土手っ腹に風穴をあけることになるだろう！　とにかく俺の動きはクイックだから一瞬たりとも目を離すなよ。（ギロリと睨み）わかったな？

――は、はい。とにかく凄い自信ですね。そんなコーラーさんも認めるバーリ・トゥード系の選手って誰かいますか？

コーラー　世界は広いからな。強いヤツは星の数ほどいるさ。

――意外とロマンチストなんですね（笑）。

コーラー　意外とってどういうことだよ！　こう見えても俺はロマンチックな男なんだぜ（笑）。名前を言って欲しいんだろ？

――そういうことです（笑）。

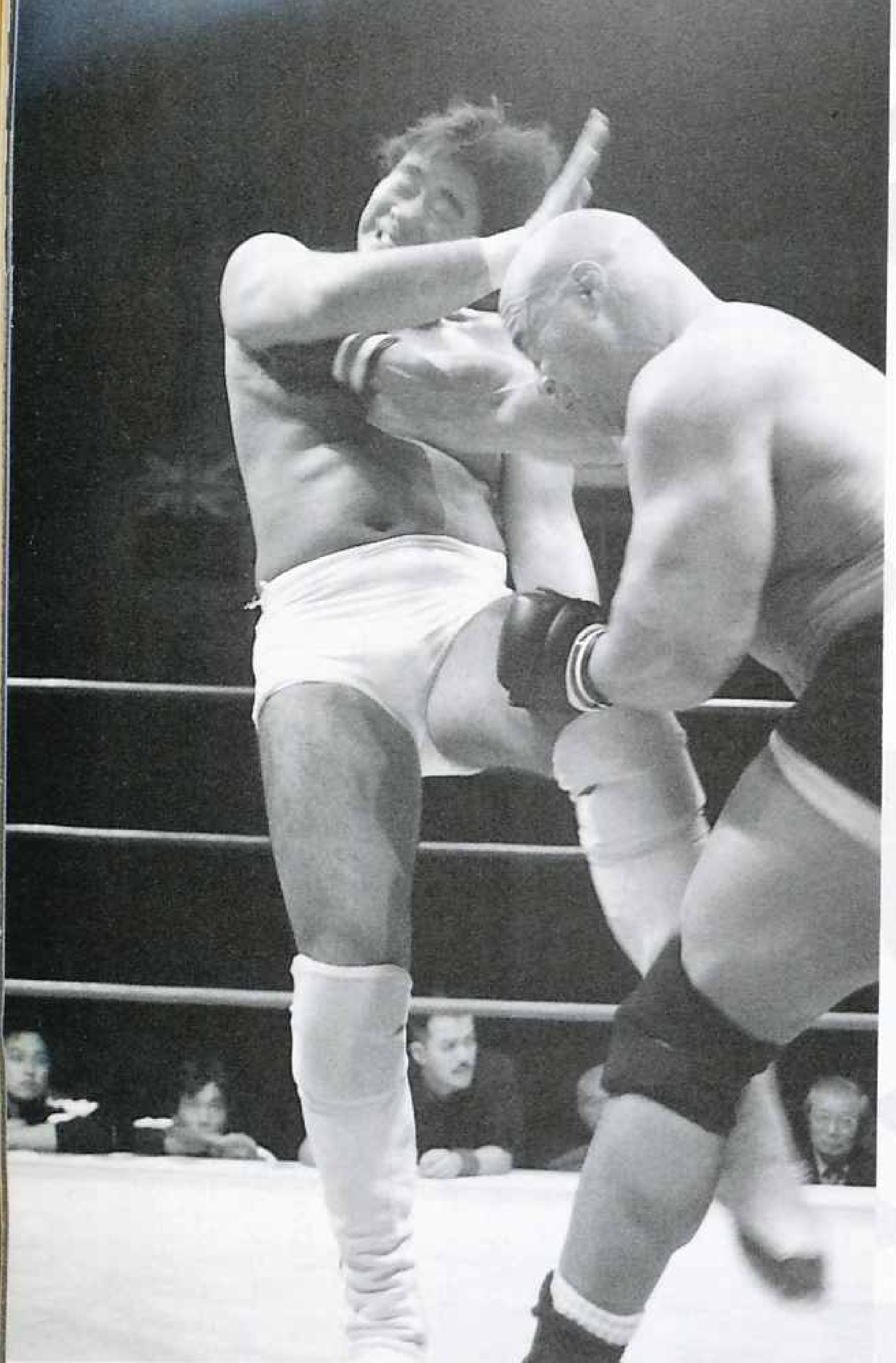
アニマル　アニマル・ウォリアー！

――ヒャハハハ。それはもちろんですけど、アニマルさん以外で頼みます（笑）。

コーラー　そうだな、マーク・コールマン、それにマーク・ケアーだ。ブラジリアンでも強いのはいるよな。あとはエンセン（井上）もグッドファイターだ。

――プロレス界で強い選手は誰ですか？　アニマルさん以外でお願いします（笑）。

コーラー　（即座に）ミング！



ローキックとロングフックが交錯する、ド迫力の一戦となったコーラーVSヤマヨシ。ヤマヨシは9・15後楽園で、マウントパンチをオーフレイムの鎖骨に叩き込み脱臼させたが、この日は逆に肋骨を折られてしまった。

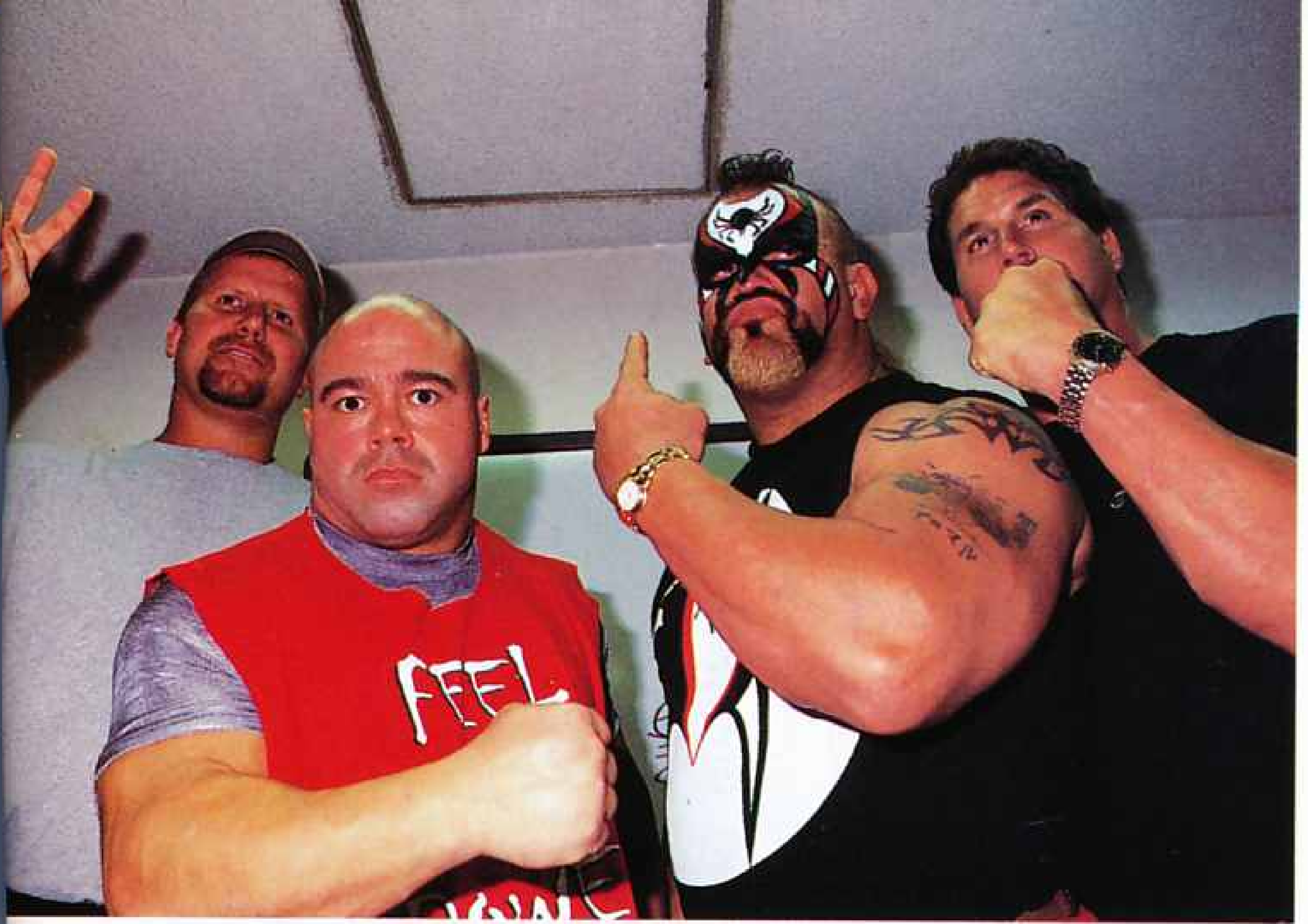




2回戦のミーシャ戦はメインイベントとなり、コーラー大張り切り。辰吉丈一郎ばりのノーガードでの軽快なフットワークや、慣れないローキックを披露したが、それが仇となり蹴り足を掴まれグラウンドに持ち込まれ敗退。破れはしたものの、この日一番盛り上がりとなり、結果としてメインイベンターの役目を果たした。さすが！

——おぉ〜、ミングですか！ ミング最強説は日本でもよく言われてますよ。
コーラー ヤツは強いぜ。それとスコット・ノートン、ダン・スバーン、ドン・フライ、ブライアン・ジョンストンだな。
アニマル スティーブ・ウィリアムスもだ。
コーラー あとは、バート・ガン。それにジョニー・エース。こんなところか？
アニマル おいおい、ホークを忘れてるぜ。
コーラー すまねえ、すまねえ（苦笑）。
——ホークさんとは、いまでも頻繁に連絡を取り合ってるんですか？
アニマル もちろんだ。２人揃ってロード・ウォリアーズだからな。
——俺たち、俺たち…。
アニマル ロード・ウォリアーズ！ ウガ〜ッ!! イッツ、オッケー？
——ヒャハハハ。オッケーです（笑）。そういえばアニマルさん、ＷＷＦで「ブロール・フォー・オール」っていうフリー・ファイト系の試合をやってましたよね。
アニマル チッ！ くだらねえ！ あんなことしてるからブルシットカンパニーだっていうんだ！ ＷＷＦはプロレスリングカンパニーなんだぜ、ＵＦＣじゃねえんだよ。ＷＷＦのスーパースターがグローブで殴り合うなんてバカげてるぜ!! スティーブ・ウィリアムスなんて、プロレスでもアマチュアレスリングでも「イッチバ〜ン！」だろ。世界のトップレスラーが、なんでボクシングをしなくちゃならねえんだ！
——（ド迫力にたじろぎ）は、はい。ボクシングがやりたかったら掣圏道のＳＡボクシングでやればいいんですよ！
アニマル （おそらく意味もわからず）そういうことだ！ 俺らはスーパーヘビーウェイトだから、ワンパンチでノックアウトされてしまうことだって有り得るんだ。バート・ガンだってボクサーじゃねえだろ。プロレスラーなんだよ。ＮＦＬのプロフットボーラーとかデニス・ロッドマンにいきなりプロレスをやらせようとしたって、それはムチャな話だぜ！
——た、確かにその通りです。アニマルさん、明日はもちろんペイントをしてセコンドに付くわけですよね？
アニマル ファンも期待してんだろ！ ファンのニーズに応えるのがプロってもんだよ。もちろん入場テーマはアイアンマンだ！
——それは間違いなく盛り上がりますよ！ コーラーさんだけじゃなく、アニマルさんにも大いに期待してます（笑）。
アニマル ああ、まかせておけ！ 乱闘にでもなったらクローズ・ラインでブッ飛ばすさ。最後はダブルインパクトだ!! ホントはコーラーもホークみたいにモヒカンにさせようとしたんだけど、もうハゲてるから無理だな。ダッハッハッハッハッ！
コーラー 勘弁してくれ（笑）。まあ俺もファンに喜んでもらえるよう頑張るよ。
——あと、コーラーさんにコーラ・パワーズからメッセージがあるんですよ。「キーラー、リングスの試合が終わったら『世界のプロレス』で待ってるぞ！ プシュ〜ッ!!」とのことなんですけど。
コーラー オォ〜、コーラ・パワーズか。奴等のことはよ〜く知ってるぜ。アイツらのおかげで俺のリングネームがブラッド・キーラーになっちまったっていう因縁もあるしな。コーラー vs コーラをやってどっちが本物のコーラーがわからせてやるよ。
アニマル そいつはトンチがきいてるな（笑）。ダッハッハッハッハッ！
コーラー トーナメントが終わったら、今度は「キーラースタイル」の試合も見せてやるよ。楽しみにしてな（ニヤリ）。
——やっぱりロード・ウォリアーズといえば、日本ではＴＶの『世界のプロレス』でブレイクしたわけですから、２人で『世界のプロレス』登場も期待してますよ。
アニマル わかった！ よ〜く考えておくよ。ダッハッハッハッ！
コーラー ヤマモトもコーラ・パワーズもみんなまとめてブッ飛ばしてやるぜ！
アニマル どいつもこいつもダブルインパクトでブチのめしてやる！ ダッハッハッハッ!!

【99年10月27日、都内某所にて収録】



10・28リングス代々木大会には、アニマルの弟ジョニー・エース、さらにマイク・バートンの全日本最強タッグ出場コンビも駆け付けた。彼らもアニマル&コーラーが構想しているＵＷＣの主要メンバーとなるのだろうか？ 今から旗揚げ戦が待ち遠しい！

Animal Warrior & Brad Kohler

ヤマモトもコーラ・パワーズもみんなまとめてブッ飛ばしてやるぜ！（コーラー）



【ブラッド・コーラー】 いつ何時どんな態勢からもブン投げられるスープレックスは対戦相手を恐怖のドン底に叩き落とす威力を持つ。さらにタイソン直伝のメガトンパンチ、アマレス仕込みの激烈タックル、そして必殺コーラースラムを引っ提げ、プロレスだけにとどまらず、ＵＦＣ、ＩＦＣなどＮＨＢでも大活躍中の35歳。

キング・オブ・キングスの座には
ボクが座らせてもらうよ

「リングス勢全滅もありうる！」前田の予言がズバリ的中し、他流派外人が大活躍した「ワールドメガバトル・オープントーナメント」。中でもブラジルのアントニオ・ノゲイラと並んで伏兵から一気に優勝候補に躍り出たのが、このダン・ヘンダーソンである。究極のアマチュアイズムを持ったレスリング・エリートが、プロの頂点を狙う！

文／堀江ガンツ
text by Gunts Horie

撮影／黒田史夫
photograraphs by Fumio Kuroda

試合撮影／森"モーリー"鷹博
photograraphs by Mory

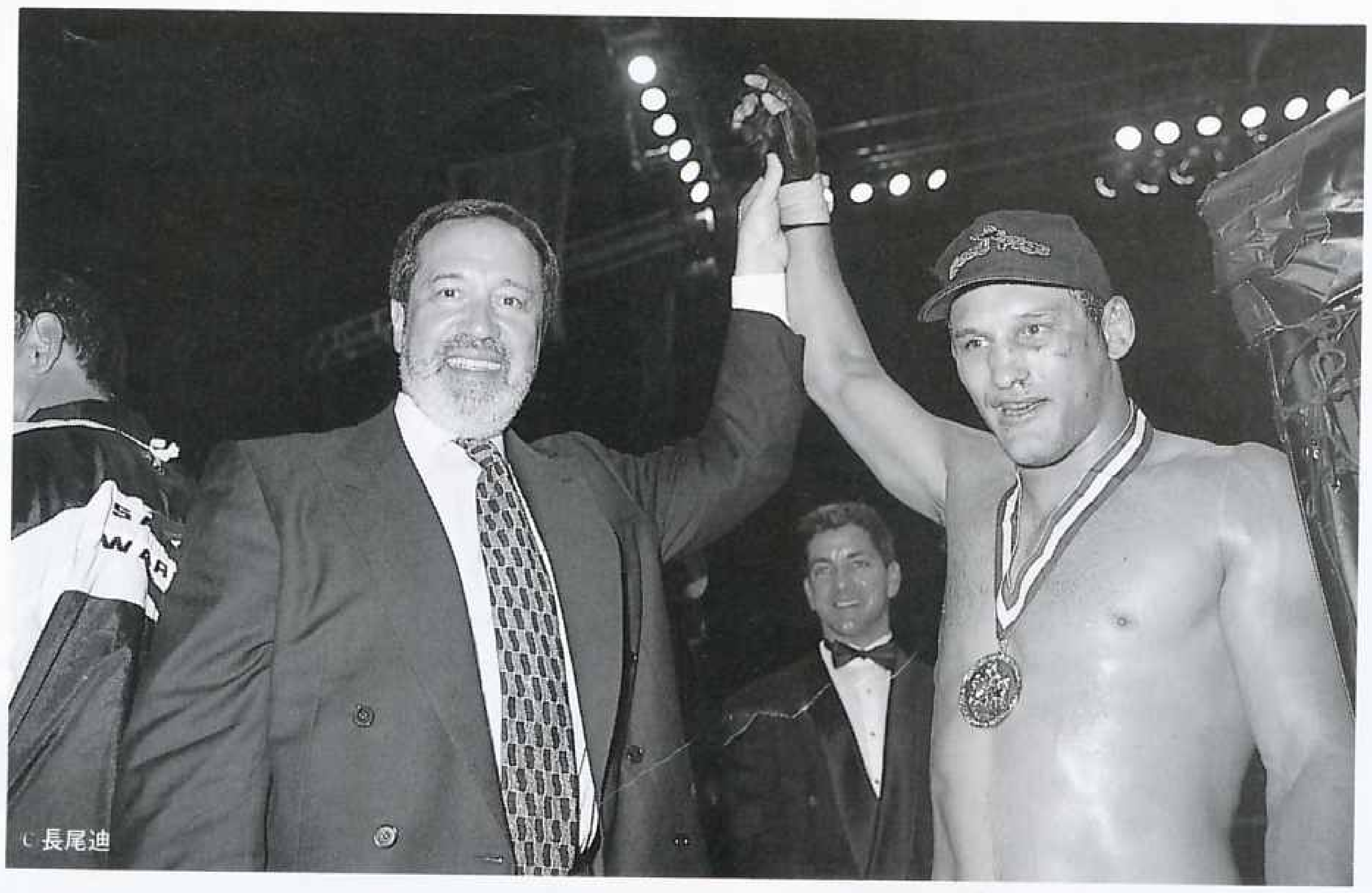


DAN HENDERSON
ダン・ヘンダーソン

「女々しい！」
「リングスは団体ではありません」
「オレが女やったらすぐやらせるね」など並んで使用頻度の高い前田語録に「リングスに来る選手はね、みんなその道のトップかトップ経験者ばかりですよ！」というモノがある。やはり今回のオープントーナメントでも例に漏れず「(アントニオ・)ノゲイラと(レナート・)ババルはね、柔術とバーリトゥードの現役バリバリのトップですよ！」と自慢していたが、Aブロック（10・28代々木）に参加した選手の中で、実績という点で文句ナシに凄いのは、このダン・ヘンダーソンである。

グレコローマン・レスリングではバルセロナ、アトランタとオリンピックに連続出場。全米選手権3度制覇などなど、まさに「トップやでトップ！」な実績を誇っており、同じ五輪レスラーである谷津嘉章がそうであるように、ヘンダーソンもレスリングと自分のキャリアには絶対的な自信と誇りを持っている。

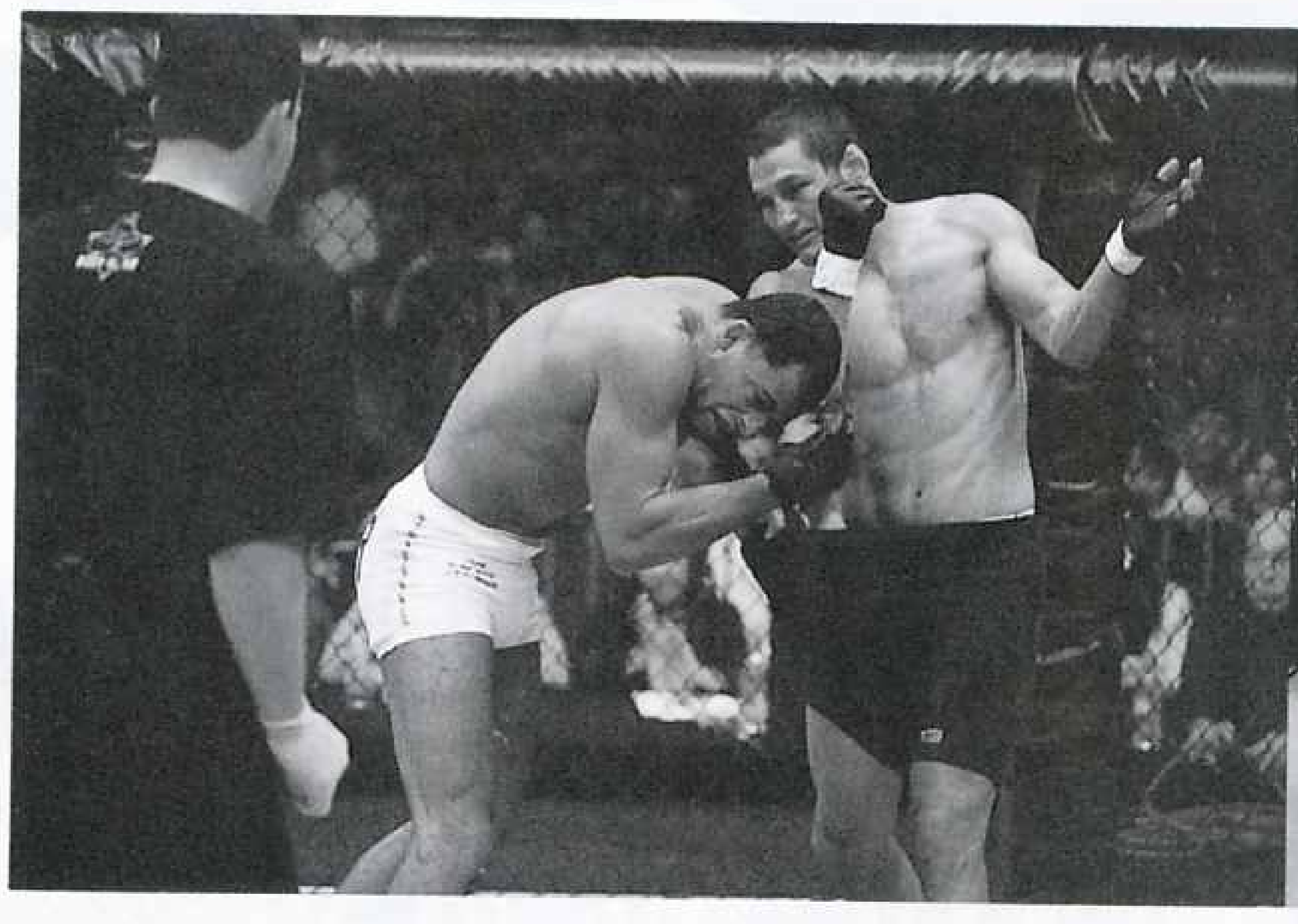
「レスリング・イズ・ナンバーワン。ボクにとって全ての闘いのキャリアは、オリンピックでメダルを取るためにあるんだ。だからミックスドマーシャルアーツ（アメリカでのバーリトゥードの呼称＝以下MMA）に出場する時は常に、金銭的効果とケガのリスクを考えて出ている。ケガでオリンピックに支障をきたしたくないからね。シドニーオリンピックが終了するまでは、MMAは趣味でありアルバイトだね」


©長尾迪

趣味がバーリ・トゥード！ 谷津の「日ェつぶって30秒！」に匹敵する余裕ぶっこきすぎな発言であるが、プロでの実績も趣味やアルバイトと言うにはあまりにも素晴らしいモノを残しているのでノー問題なのだ。

今回のリングスのオープントーナメント1・2回戦を勝ち抜いた以外に、ヘンダーソンは97年に「ブラジル・オープンファイト」ライトヘビー級トーナメント、98年にはUFCミドル級トーナメントに出場し、いずれも優勝。フリーファイトのキャリアはこれが全てであり、つまり現在フリーファイトでは全勝。しかも闘った相手がハンパじゃなく強豪揃い。「ブラジル～」ではマーク・コールマンが主宰する「ハンマーハウス」のエリック・スミス、カーウソン・グレイシー門下の強豪クレッツィオ・ジ・ソウザ、UFCでは『PRIDE.5』で桜庭和志と激闘を繰り広げたカーロス・ニュートン、同じく『PRIDE.4』で桜庭を苦しめ、『PRIDE.8』でカール・マレンコに完勝したアラン・ゴエスを破っての優勝なのである。

ボクが一番欲しいものは金メダル
フリーファイトは趣味であり、アルバイトだよ



UFC15（97・5・15）に於いて強豪ゴエス、ニュートンを下しミドル級トーナメントを制したヘンダーソン。この時点ではバーリ・トゥードわずか3戦目、なのだから驚きだ。

これだけの実績をもっているだけあって、今回のトーナメントも当然自信満々である。

「日本にわざわざ負けるために来たわけではないよ。優勝賞金の22万ドルでまず借金を整理したいね（笑）、それから将来のためにカイロプラクティックのスクールに通いたいから、そのために使うよ」

なんと優勝賞金で人生設計までしているという、皮算用にも程がある位の自信を持っての参戦なのだ。しかし、今回はバーリ・トゥードとは違いヘンダーソンが初めて体験するルール、そして初対戦の選手ばかりという状況に不安はないのだろうか。

「確かにUFCとはルールが違うね、グランドでの顔面パンチがない分倒すのに時間がかかるだろう。だからサブミッションのテクニックとスタミナが要求されると思う。でも、どちらもボクには全く問題ないよ」

「マークする選手は誰かって？ 実はほとんど知らない選手ばかりなんだ（苦笑）。だから誰が強いかはよく分からないね。カネハラについてよく聞かれるんだけど、彼の試合はビデオでも見たことがないんだ。なぜならオリンピックや世界選手権に出たら知らない選手と何人も試合をすることになるだろう？ だからボクには対戦相手をビデオで研究する習慣がないんだ。でも誰と当たっても勝てるだけの準備はしてきたつもりだよ」

対戦相手の研究もロクにしないで勝ち続けているというのが事実だとしたらその実力は本当に計り知れない。ヘンダーソンのこの強さの秘密は何なのか。

「たとえMMAの試合でも、レスラーがレスリングの攻防で勝つのは当たり前さ。ボクはボクシングでも勝負でもOKだよ」

レスリングの選手がバーリ・トゥードに出場する場合、マーク・コールマンなどに代表されるいわゆる「グラウンド・アンド・パウンド」、タックルでテイクダウンを奪い上のポジションをキープして顔面パンチで勝つ、という闘い方が大半であるが、ヘンダ

レスリングで勝つのは当然だ 立ち技でも負けない自信があるよ。



イエローカードを出される場面もあったが、金原をスタンド、グラウンド両方で上回り判定勝ち。UFC—J（11・14）で高阪を破ったペドロ・ヒーゾ同様、テイクダウンを取らせない技術とスタンドでの打撃を合わせ持つヘンダーソンを倒すのは困難だろう。

ーソンの場合は彼らと違いスタンドでの打撃とバランスが最大の武器なのだ。

事実リングス・オープントーナメント1・2回戦はスタンドの技術で勝ち上がっている。特に前田をして「立ち技の技術はトップクラス」と言わしめる金原を相手に、ストレートとアッパーを打ち分ける多彩なボクシングテクニックと膝蹴りで判定勝ちを奪ったことには本当に驚かされた。さらにヘンダーソンの最も素晴らしいところはスタンド状態でのバランスの良さである。（ゴキテゼ・）バクーリ戦、金原戦ではグランドで下になるどころか、遂に一度もテイクダウンすら許さず勝ち抜いてしまったのだ。

金原を上回る打撃テクニックを持ち、オリンピックレスラーであるバクーリにテイクダウンを奪わせなかったヘンダーソン。リングスの〝裏番〟的な実力者二人が簡単に料理されたとあっては、この試合内容的にはガイ・メッツァーばりの負けない闘いで面白味に欠ける男に優勝をさらわれかねない。

この男に付け入るスキはないのだろうか？

それについて1回戦で金原を破れば2回戦でヘンダーソンと当たるはずだったジェレミー・ホーンが試合前に興味深いコメントを残している。

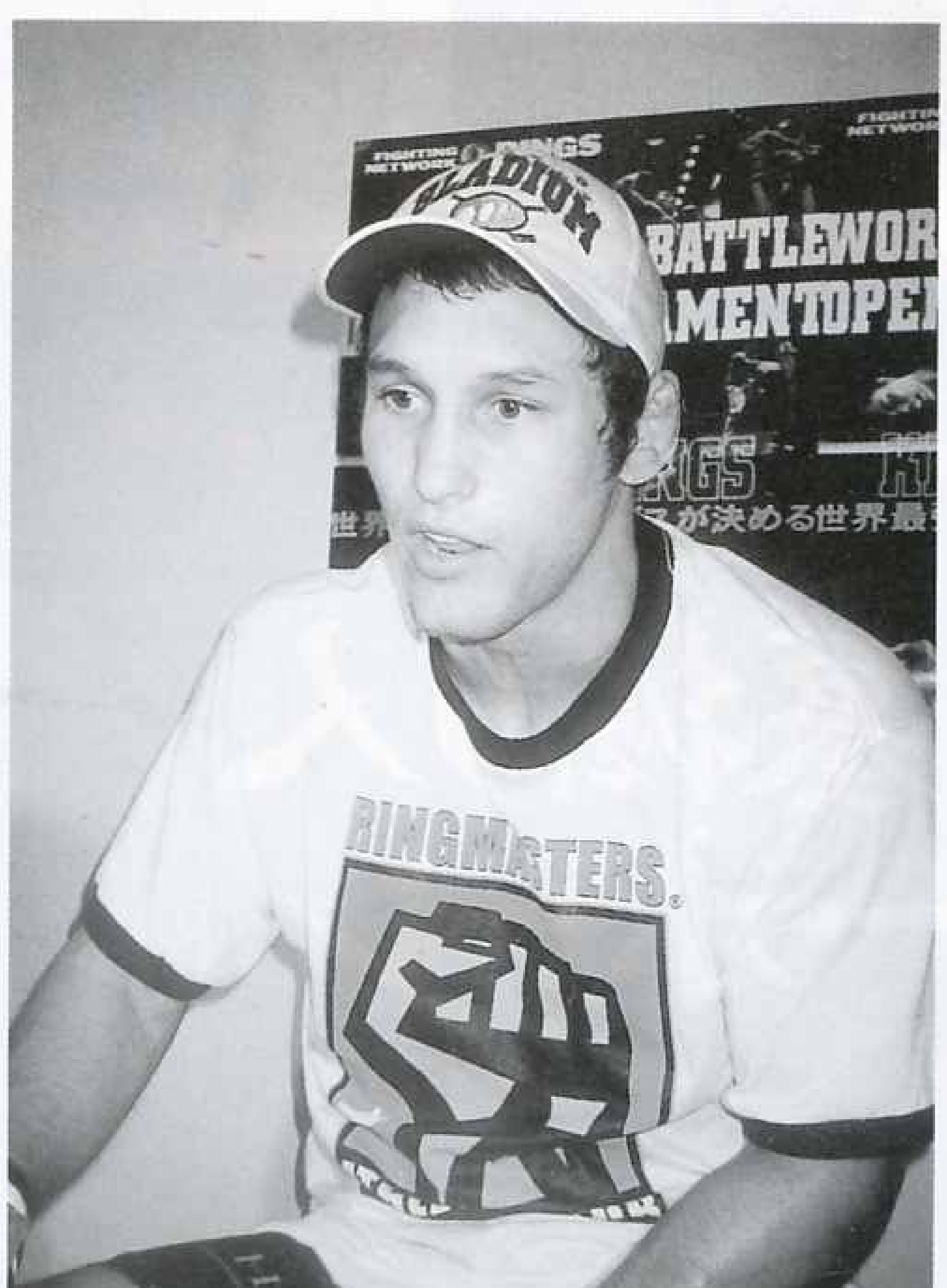
「ヘンダーソンはエクセレントなレスラーさ、テイクダウンを奪う技術は本当に凄いよ。でも彼はその先のサブミッションを持っていないんだ。だから彼はこのトーナメントではスタンドのパンチで勝負してくるはずだよ」

実に鋭い指摘である。確かにヘンダーソンはスタンドの勝負にこだわり、金原のグラウンドの誘いに乗らなかった。またヘンダーソンのプロの試合での唯一の敗北であるフランク・シャムロック戦はバーリ・トゥードではなく〝寝技なんでもアリ〟のザ・コンテンターズで行われており、〝極めっこ〟では結果を出していないのだ。こうなると決勝トーナメントではグラウンドになってからのヘンダーソンに注目したいが、ヘンダーソン自身はグラウンドになっても問題ないという。

「フランクとやったときのボクはレスリングの技術しか知らなかった。でもボクはいまrAwチームを離れてランディー（・クートゥアー）と一緒にリングマスターズというジムを開いているんだ。そこにはレスリング、ボクシング、キックボクシング、柔術の先生が揃っているんだよ。だから今のボクはトータルなテクニックを身に







グラウンドのサブミッション・テクニックに難があると言われるヘンダーソンだが、金原戦、バクーリ戦では常に有利なポジションをキープ。金原にはアームロックを仕掛ける場面もあった。インタビュールームで試合の感想を求められると「2人とも強いファイターでしたが、特に問題ありませんでした。それより今日はボクの日本デビュー戦です。みなさんはどう思いましたか？　ファンは喜んでくれたでしょうか？」と余裕のコメントを残した。



トーナメントで優勝してレスリングの素晴らしさをアピールしたい。

つけている。サブミッションだって問題ないよ」

ヘンダーソンのこの言葉に盟友ランディー・クートゥアーも同調している。「ダンは今回のトーナメントのために、本当にたくさんのトレーニングを積んできたんだ。心も体も完璧だよ。優勝は彼以外に考えられないね。そして22万ドルを獲得した後はシドニーでメダルを奪うだけさ」

どこまでいっても彼らの自信は揺るぎないモノのようだ。それどころかトーナメント優勝、そしてシドニーオリンピックと常に先へ先へと考えている。フリーファイトの大物は映画俳優やプロレスラーへの転向を希望する選手が多いが、ヘンダーソンはオリンピックの後はどのような道を歩むつもりなのだろう。

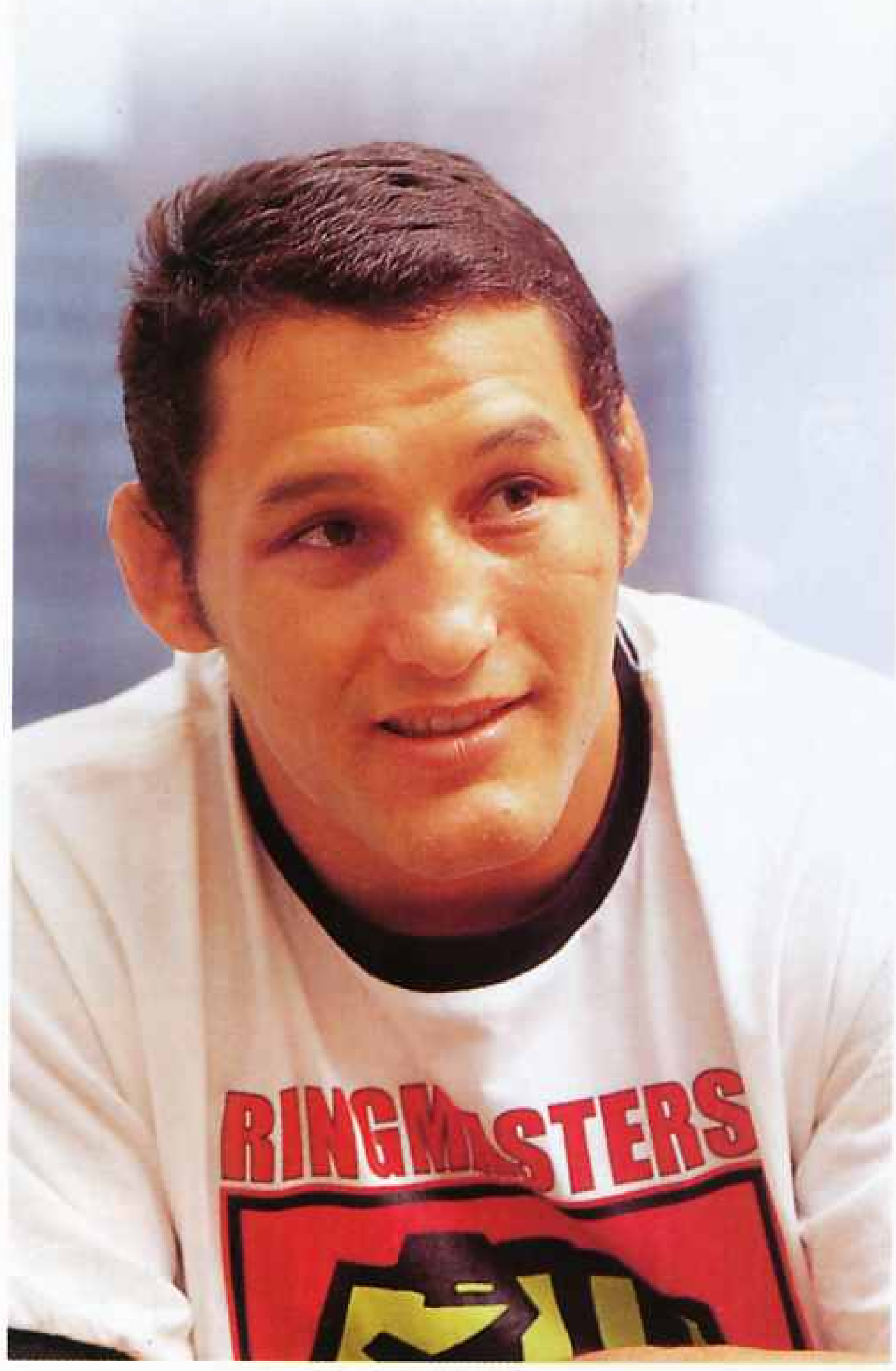
「カート・アングル（アトランタ五輪レスリング金メダリスト）がWWFに行ったことは知ってるよ。彼がヒクソン・グレイシーを1分で倒すって？ ヒクソンは『ロウ・イズ・ウォー』の出演者じゃないぜ（笑）。アングルもずいぶんアクターのセリフが上手くなったもんだね（笑）」

「映画はレスラーが出るものじゃなくて、アクターが出るものだよ。レスリング・イズ・マイライフ。ボクは死ぬまでレスラーさ」

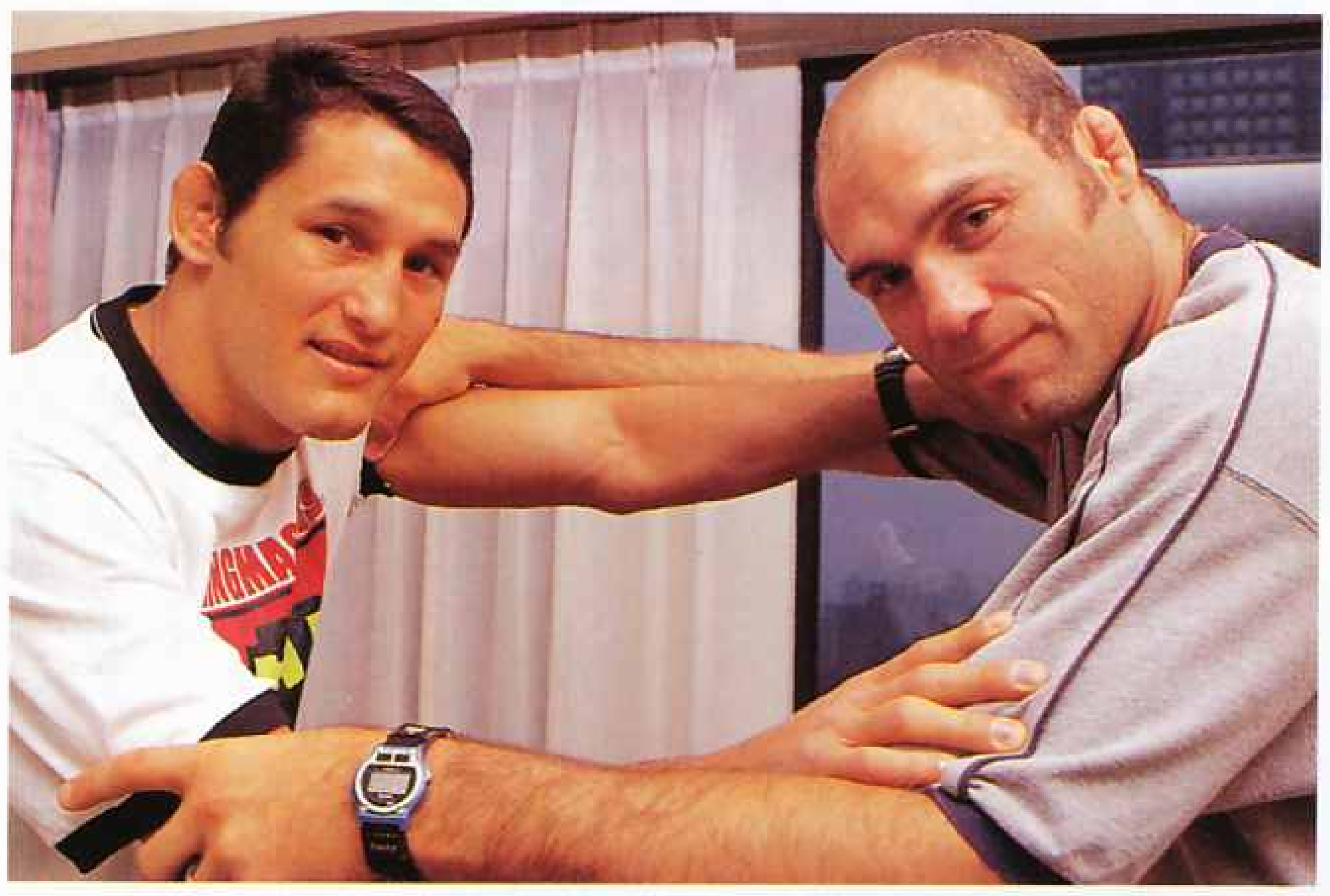
「アイ・アム・プロレスラー！」と言えば高田延彦だが、ヘンダーソンからは「アイ・アム・アマレスラー！」というプライドがビンビンに感じられる。しかし、リングスはプロ格闘技のリングである。いくらアマチュアのトップ選手であろうとも、プロの厳しさを叩き込まなくてはリングスの存在意義すら問われてきてしまう。ストップ・ザ・ヘンダーソンを実現する"プロ"は現れるのだろうか？

「リングスは非常にいい組織だ。UFCよりいいね。今回のトーナメントはこれまでのボクのプロ闘いで一番大きなチャンスだと思う。ボクはここでダン・ヘンダーソンとレスリングの素晴らしさを多くの人にアピールするつもりだよ」

マーク・ケァーがイゴール・ボブチャンチン戦（9・12横浜アリーナ）での幻のKO負け、そしてその後の体調不良でのエンセン井上戦キャンセルにより株を大きく下げている現在、このダン・ヘンダーソンこそが真の"リアル・アメリカンヒーロー"と呼ばれる日も近いだろう。『ワールドメガバトル・オープントーナメント』優勝した時、それが現実となる！



だん・へんだーそん●1970年8月24日、アメリカ・カリフォルニア州出身。身長180センチ、体重90キロ、グレコローマン・レスリングでバルセロナ五輪10位、アトランタ12位。来年のシドニー五輪出場も濃厚。本田多聞ばりの3連続五輪出場なるか？ 現在フリーファイト無敗を誇り、プロ、アマ両方でトップを狙う。

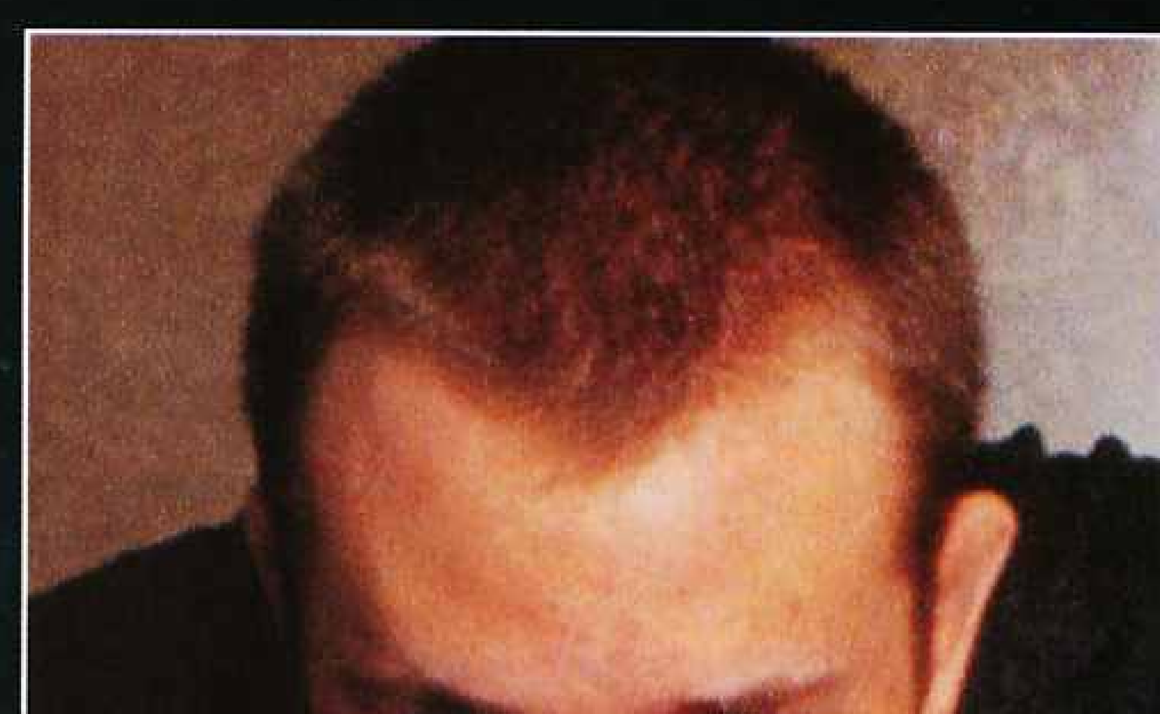


「シドニー五輪がおわったら、来年のトーナメントはダンと一緒に出場したいね」（クートゥアー）リングスに"五輪コンビ"誕生か!?

次回予告 パニッシャー

UFCの墓掘り人 ジェレミー・ホーン

人呼んで"バーリ・トゥードの墓掘り人"。わずか9ヶ月の間にVT25戦全勝を記録し、ヘンゾ・グレイシーをして「ミドル級最強の男」と言わしめるこの男、次号その全貌が明らかになる！



11.28UFOオランダ大会完了!!

おのおのがたっ!!
討ち入りコラムでござる!!

WWF WORLD WRITING FEDERATION



●花くまゆうさく『リングの汁』●プナニ酒井(エンセン井上マネージャー)『もうひとつの大和魂』
●梵婆家の店長『魁! 裏ビデオ御開帳』●掟ポルシェ(ロマンポルシェ)『業☆勝ちます』
●わかおはるか『THE ジョージ秘宝館』●椎名基樹&せき詩郎『ザ・検証～プロレス点と線～』

※杉作J太郎先生の『プロレスを見て女にモテろ!!』は今回、お休みします。そのかわり、P166～FMW横浜アリーナ大会のレポートを執筆しているのでヨロシク!!

ケツの青い感想文



11月はいろいろありましたが、昨日プライド8を見にいったのでまずはそれから。

ホイラーの寝技につき合わず、徹底的に打撃をブチ込み続けホイラーをなぶり殺し、時間が押し迫った頃に「さあ寝技してあげるよ」な感じでヘロヘロのホイラーの腕をグレイシー一族にとって運命的なキムラロックで極める今回の桜庭はまさに鬼（でも笑顔）のようであり、「役者やのォー」（©薬痴寺センパイ）でありました。まさに〝最強〟と名乗っても誰も異義を立てないでしょう。

そもそも巨強の桜庭に、なぜ階級の違うホイラーがやろうと言いだしたのか不思議でしょうがなかったです。もしかしてゴエス戦を見て寝技になれば少し勝機があるとでも思ったのか？　それともプロレスの格がわからず本気で高田より桜庭は下だと思っていたのか？　どっちにしろ考えが甘かったと言われても仕方ないと言うか桜庭をナメすぎてる。これでは怒った桜庭が、あのようななぶり殺しにきてもしょうがない。

柔術家として素晴らしいホイラーであるだけに、このような評価を落とす事をしてかなり残念ですが、自分からやろうと言ってきたのでしょうがないでしょう。

桜庭はゴエス戦の後から闘い方が変わってきてます。ゴエスは再戦したがってますが、今の桜庭の戦法ではゴエスに勝ち目はなく、ビクトーやホイラーの二の舞いのような気がします。ヒクソンでも同じだと思う。

スタンドレスリングが強く絶対にテイクダウンさせない。しょうがなく引き込んだ相手の寝技にはつきあわず蹴りまくるし、寝技にいったらいったで巨強！　そしてなぜか打撃がメチャメチャうまい！（というかヒットしてしまう）、もはや桜庭に死角なし、誰も勝てそうにない。いまプライドで最強のボブチャンチンがいるけど、体重が違いすぎるから見たいけどむずかしいかな。

ヒクソンの相手も桜庭でしょ。でも船木戦のウワサが……。でもでもさ、それってなんかズルくないですか？「実績でいったら全然上の桜庭選手のが相応しいのでヒクソン戦は譲ります。」って言ってくれないかしら？　だめですか!!

ヘンゾ戦でのアレクの頑張りも心打たれるもんがありました。松永戦からヘンゾ戦へとその幅のききは理想のプロレスラーではないでしょうか。しかしヘンゾのうまさや強さも会場のプロレスファンにも認めてほしかったです。私の近くでヘンゾやゴエスをやじりまくっていたプロレスファンがいて胸クソ悪かったです。ゴエスなんか完勝じゃねーか、それをナゼやじるの？　なぜヘンゾにブーイングするの？　アレクやカールを応援するだけじゃ物足りないのか？

ボブチャンチンは凄すぎ、エンセンもケアーにこだわらずボブチャンチンとやってほしかったです。

エリクソンはやっとプライドにきてくれたけど、メガトンマウントパンチは不発で残念。カーロス・バヘットもミーシャに勝った時すごくよかったけど、プライドではハズしてダメ野郎のレッテル張られてしまいましたが、エリクソンも今回のでそうなってしまうんでしょうか。来年のトーナメントでは一回戦でエンセンとやってほしいんだが……。



そのプライドトーナメントだが、当日会場で配られたチラシのメンバー凄すぎ！　ホントなのか！　ホントだったら凄いよ、初期K-1のようななんともいえぬ超ド級のワクワク感じゃないの！　こんなトーナメントしたら、アブダビ王子がポケットマネーで衛星作って打ち上げて自分の部屋の為だけに生中継するんじゃないでしょうか。

そんでUFC・J。いろんな意見があるでしょうが、私はヤマケン&安生支持だ。

ヤマケンの激白には、心打たれ揺さぶられた。佐山は別として、U系出身者からあそこまで堂々とカミングアウトしたのはヤマケンだけだ。それもなにかを変えようと大きな心志しを持って!!　もうビンビンに感動である。しかしどうもリングスファンには、なんも伝わってないようなのが残念。頭の病気の事やリングスで負けてたくせにとかで、あっさり話の核心を逸らされてるのがとても悲しい。

今回のトーナメントも負けたらもうなにも言えなくなるのを承知で出場し、苦戦しながらもキッチリ優勝しました。日本人だけでアマもいるトーナメントに、名のあるプロが出場するのはとても勇気があると思います。それで勝ったんだから、あれぐらい言っても別にいいじゃないですか。なんでヤマケンが非難されなきゃいけないのか、さっぱり判らない。

「逮捕されたらしょうがない」の覚悟で前田を殴った安生にも感激しました。

桜庭、アレク、ヤマケン、安生、そしてブラジルの柔術大会の黒帯の部で3位になった中井祐樹、今秋はこの5人の男にリスペクトして敬礼（掣圏道風に）。

はなくまゆうさく■「マトリックス」や「ファイトクラブ」を見て、中学生気質が肥大しています。



11.28UFOオランダ大会完了!!

賢い野蛮人のマネージャー日記

もうひとつの大和魂

ブナニ酒井（E-FORCE JAPAN）

第8回　「世界一」にうるさい男

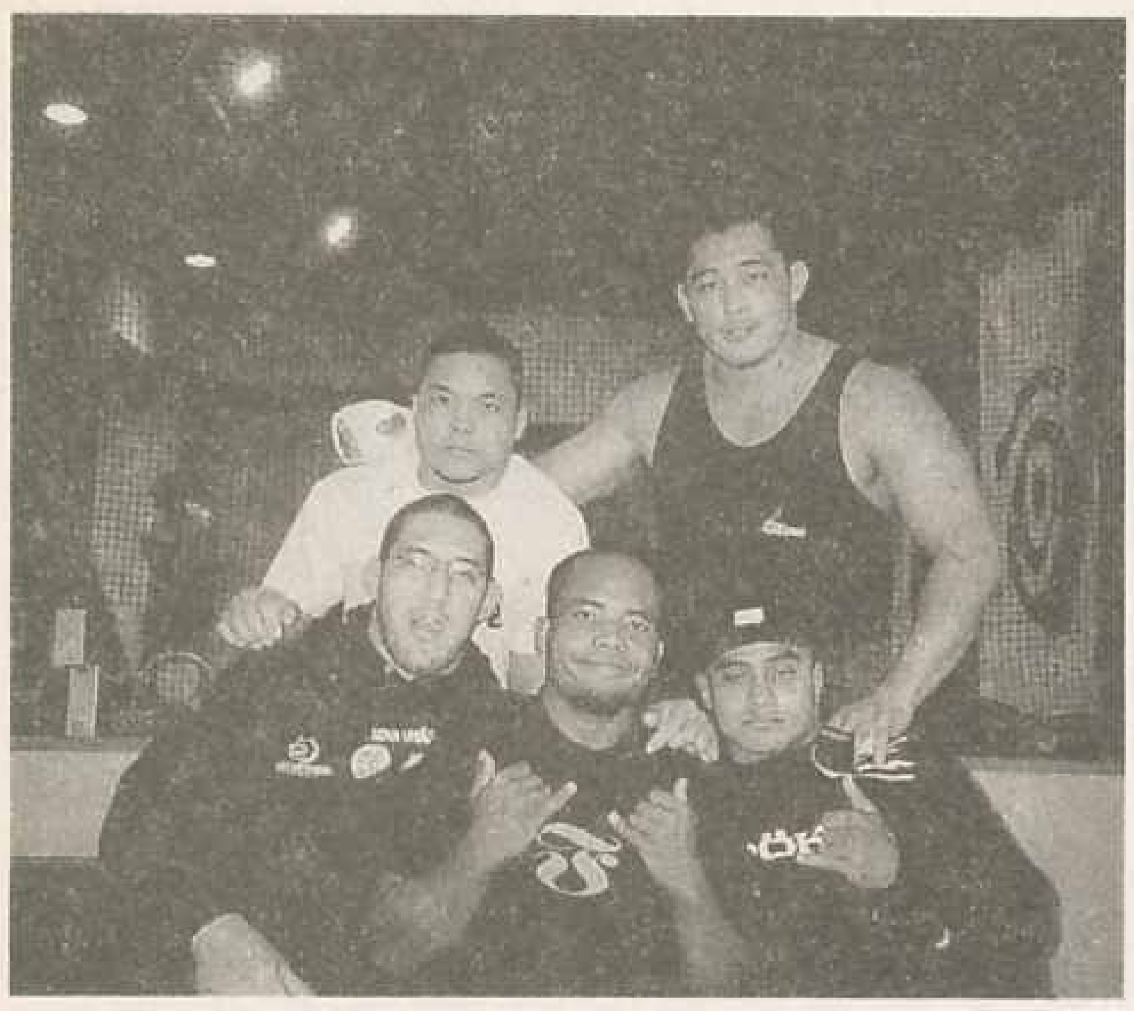
『PRIDE.8』では、またもやケアーの体調不良で試合が飛んでしまいました。でも、エンセンは思ったよりショックを受けた様子はありませんでした。今年の4月に対戦が流れたときは、エンセンの落胆も大きかったのですが、11月に再戦を組まれたので、エンセンはいつか必ずvsケアー戦が実現すると信じています。『PRIDE』との信頼関係もあるので、今回はさほど焦っていないようですね。

次の『PRIDE.GP2000』には「最強の男に結論がでる。」というキャッチ・コピーがついています。エンセンは「最強」とか「世界一」といった言葉にはこだわっているので、これを見て何と言うでしょうか?

昔からエンセンは「世界一」という言葉には敏感でした。格闘技を始める以前の話を紹介しましょう。ラケットボールの仕事の関係で韓国に行ったときに事件は起こりました。お土産のキムチを買おうとお店で選んでいたエンセンに、店員さんが無理矢理キムチを売ろうとしてきました。

「ウチのキムチは世界一おいしいから買って」

それを聞いたエンセンは突然、怒り始めました。



「なんでウソつく!? アナタのキムチがホントに世界一ってわからないはずだヨ!! 誰にも世界一って決められないネ!! これ、本当に世界一なの!?」

「世界一おいしいキムチ」にも噛みつくほど、エンセンは「世界一」や「最強」といった言葉には敏感です。

しかしながら、今度のトーナメントはホントに「世界一」と言っても過言ではない豪華なメンバーが集まりそうですね。ホイスをはじめとして、ケアーも、ボブチャンチンもいるのでエンセンも黙っていられないはずです。ですが、一方では「桜庭さんとか小路さんのような、友達と闘うならトーナメントには出れないヨ」とも言っています。

ですが、こういった最高の舞台でケアーと試合できれば、いいんでしょうね。ファンの皆さんは、たまりにたまっているエンセンの野性が爆発するのを楽しみにしていてください。エンセンは体調もバッチリで次の試合に臨めるように練習を続けています。

体調といえば、エンセンはカゼをほとんどひきません。その秘密は、ビタミンCにあります。ちょっとノドの調子が悪くなると、顆粒のビタミン剤を薬屋で山ほど買ってきては、ひたすら飲みまくります。「ビタミンCはカゼひかないネ」と言いながら、1日2～3袋でじゅうぶんなのに必ず20袋以上飲みます。「オシッコが黄色くなったら、もう十分ヨ」と言っています。大丈夫でしょう。

現在、エンセンは『VTJ'99』に出場する『PUREBRED大宮ジム』の加藤鉄史くん&池田久雄くん、12月にハワイの『スーパーブロウル』に出場予定のジョン・ガルボの練習相手を務めています。結構、後輩思いのところはあるので、ずっと付き合っています。エンセンも試合がなくなると、それこそ遊びほうけてしまうタイプなので、ちょうどいいかもしれません。

ぶなにさかい■エンセンのオフィシャルブックが出ました。タイトルは『大和魂で勝つ』（メディアグローブ刊）どうぞヨロシク。

魁!裏ビデオ御開帳

大庭敏幸（「梵婆家」店長）

第八回

昭和62年11月19日 後楽園ホール

前田日明&高田伸彦&木戸修vs長州力&マサ斉藤&ヒロ斉藤

これはUWFの内乱なんですね。じつに悲しい顛末です。

というわけで、今回紹介するビデオは前田が長州の顔面を襲撃した超定番クラシックです。事態が急変した後、速攻でフォールを奪われた高田に「タカダァ～、お前は大人だ!」と観客が叫んでいるのは、あまりに有名な話ですね。今回の事件でも、高田は大人な対応で「後ろで焚付けてるヤツがいる」説を真っ先に唱えていました。見事に歴史が繰り返しました。



じつは、このビデオはジャパン・プロレスが販売しようとしていたんです。実際に編集したテープをお客さんに見せてもらったことがあるんですが、キレイに写ってました。ふつうの裏ビデオだと客席からの隠し撮りだけなんですが（店にあるのもこのバージョン）、じつはリングサイドからハンディ・カメラで撮った映像も存在するのです。これで、リング上の声もバッチリと拾っており、過激な発言も丸聞こえ。試合後の前田が頬を突き出しながら、「長州、やるんかい!? このウソつき野郎!」と言って挑発しているのがバッチリ収録されています。ウソかマコトか、その発言が原因で発売できなかったとの噂でビデオはお蔵入り。誰か持ってませんかねえ。

今回の襲撃事件も、前田がのびずにやり返してたら面白いことになったと思うんですけど、どうでしょう? この事件の裏ビデオなんかないですかね? ぜひ見てみたいです。

じつは今回の前田襲撃事件は、てっきりアングルだとばっかり思ってました。この事件の第一報を聞いたときには、真っ先にタイガー・ジェット・シンが猪木さんを襲った〝新宿・伊勢丹襲撃事件〟が思い浮かびましたからね。あるいは、小林邦昭と誠心会館のイザコザのように、ホントのケンカがアングルに発展していくのかと思っていました。だから、12月のリングス・トーナメントに出るんだとばっかり思ってたんですけど……。

やはり小川が前田に挑戦をブチ上げたところで、前田現役復帰のキッカケにはならないじゃないですか。山本宜久、田村潔司、高阪剛……というふうに順番に倒していかないと、前田の復帰は有り得ないと思うんですよね。今回の安生だったら、その点一発で復帰するキッカケになるでしょうから。

でも、いろんな人の話を聞いていると、今回の襲撃事件はそういう類の出来事ではないらしいですね。結構、ウチの店にはいろんな裏情報が入ってくるんですが、いろんな情報が入ってくるにつれて、今回の事件は「シュート」かなと思い始めています。まだ半信半疑ですけど。

前田がタイガー・ジェット・安生を訴えるのか、リングに上げるのか、気になります。いつも過激な発言をしている手前、刑事事件になったらカッコ悪いですよ。それとも安生がパンクラスに行って、リングスvsパンクラスが開戦するのでしょうか? これは前田の踏み絵でしょう。

この件は昔からの新日派（というか猪木派）だったボクとしては、比較的冷静に眺めていられます。前田も安生のことをひっぱたいてますからね。どっちもどっちというか。結局、

ぼんばいえのてんちょう■秋の新・メニュー「小川」、「STO」など、続々登場! どんな料理かは来てからのお楽しみ。東京都世田谷区松原1－39－16 TEL.03－3323－5629

すべての業深きプロレスラーたちに幸多かれ！

掟ポルシェ（ロマンポルシェ）の 業☆勝ちます

殿様って、なんかいいよね！　程度の呑気な憧れを無闇に満面にたたえた男・辰っつぁんが新日の社長になって早半年。人の良さと世間知らずがない交ぜになった笑顔が忠犬ハチ公を想像させてなんともハートウォーミングな印象だったのが、やれ「ダミー社長だ」「かざりものだ」とナメられ続けた結果、すっかり世を呪うすわりまくった目つきに変わってしまった。「いい人、いい人、どうでもいい人」だなんて、おまえらドラゴンを何だと思ってんだ!?　腐っても飛龍、わかってんのか？　人一倍殿様願望の強い男がただ無策に天命を待っていたわけがない。藤波X社長というモヤモヤ感たっぷりの組み合わせに納得のいく理由を探すべく、独自に調査を続けていた俺が突き当たってしまったとんでもない真相。飛龍社長革命の血塗られた正体とは……!!

去る9月12日、静岡で天龍とタッグを組むはずだった一戦を欠場した藤波。「所用のため」とはしているがなんのことはない、愛娘の運動会の応援で毎年この時期休むのだ。一見これは単なる親バカのようだが……ちょっと待て。アレ？　前回の運動会の時も天龍とのタッグをすっぽかして駆けつけたんじゃなかったか？　それにもし本当に娘の運動会なら、ドタキャンしなくとも前もって休みを入れておくことぐらい出来るはず。それともこれは何かのアングルなのか？　……いや、これはアングルというよりトライアングルなのだ。

この謎を解くカギは、藤波が大の家康マニアであるという点にある。家康といえば江戸の町を四神相応の風水都市へと仕立て上げた稀代の呪術師でもあるということをご存知だろうか。天下を永劫のものとするため、家康は神社を多数建立し江戸に結界を張ったといわれている。その法則は、重要な神社同士が必ず二等辺三角形を描く形で置かれていることだ。

そう藤波のこの一連の行動は明らかな呪術行為なのである!!　寝室の電気スタンドに葵の紋を張りつけるまでに家康に心酔している藤波が、家康の呪術的側面をも踏襲しようとしていたのは間違いない。龍の血を継ぐ愛娘を現人神に見立て、もうひとつの龍の名を持つ男、アナザードラゴン・天龍の殺気を利用して、渋谷の新社屋にいる自分との三点で二等辺三角形になる結界を形作り、その中心にあるものの力を封じ込めようとしたのだ！　そしてそこには等々力、坂口前社長宅があるのだった……。

丑の刻ならぬ辰の刻参り（朝っぱら）の呪いで荒鷲の寝首を掻いたのか？　とすると、唐突に前髪を切り出したのも、あのラマーズ法のような切ない呼吸音も、全て何らかの呪詛なのか？　イヤ、あの人の良さそうな辰っつあんに限ってそんなことは……。

これ以上書くことは出来ない。俺の命にかかわるからだ。過去、ドラゴンの名を語る者がどんな末路を辿ったか？　ブルース・リー、ハル園田、すわ親治……ドラゴンとは血塗られた名前であり、その禁忌に触れる者は死あるのみ。千年王国の覇者の手は血まみれだ……。



おきてぽるしぇ（写真下）■男独自の曲がった価値観と80年代のミドルテクノロジーを無理矢理ニコイチにしたバンド〝ロマンポルシェ〟の説教担当員。

ジョージ高野・復活への道！

わかおはるかの THE・ジョージ秘宝館

ムラトー・アーツ・ヒット＆F.S.R.

「折れない心」の巻

第1回目の話（NO．20参照）で、ジョージさんからクレームが来た。「何で10億のこと言うんだヨ！　言うなって言ったろー!!　どうせなら100億って言えヨ!!」謹んで「10億残す！」から「100億残す！」へ一桁訂正してお詫び申し上げます（詳しくはNO．20を見てね！）。

さて今回は、イトコの高野十座が持って来たジョージさんの18歳の頃のスカイメイト（まだあるのか？）の証明写真から、ジョージさんが新日に入門する前までのお話。「ところで、どーしてこんなの持ってんの？」と私。「いやぁ～、焼き増ししとけって……」と十座。結局、今更なんでこんな18の頃の写真がジョージさんは必要なんだろ？　と考えつつも、とりあえず数枚、スカイメイトから直接、顔写真だけ複写した。結構お金かかったので、無断で当コラムに使用させてもらう。

さて、話は変わるけど、ジョージさんは、もともと相撲の大鵬部屋にいたらしい……入門のきっかけは、地元の有力者絡みという、お決まりのコース。地方の体の大きな子供は、とりあえず相撲界からスカウトされるといった仕組み。ジョージさんの場合は、その地元の有力者というのが、親戚の伯父さんだったということらしい。1年という約束（とりあえず顔を立ててくれということ）で、戦闘機のパイロットになりたかったジョージさんは伯父さんの顔を立て相撲界に入る。

それで入ったはいいが、やはりお決まりのコース……イジメ。どーやら相撲界の先輩は、股下98センチの均整の取れた、しかも褐色のスプリンターボディの新弟子は、ウンコが流れずテンコ盛りになった便器に落とした小銭を、手を突っ込んで取れ！……といった様な無理な注文をも引き受ける人物に見えたらしい。ヒザのケガで（中学の頃の十座が見舞いに行った）廃業するまでに、3度も同じ事をやらされたらしいジョージさん。スパイク・リーに映画化権を売っちゃろかと思う私だった。ジョージさんに言わせると、「おーっ！　3度もテンコ盛りのクソの中に手入れて取ったワイ！」とのこと。かわいそーなジョージさん。雑誌の記事とかには相撲学校の話（1度も休まず皆勤賞）がよく出るけど、書いてよかったのかなこの話……。少しブルーになる私。でもジョージさんはエライ。笑って（オフレコという約束で）話してくれた。書いてゴメンナサイ。

だけど、どんな世界でも「折れない心」を手に入れるには、こういったイニシエーションが必要なんだとジョージさんは言ってた。「強くなった。」とも言ってた。そしてプロレスに入ろうと決意するジョージさん。ヤクザかレスラーかふたつにひとつと考えたそうだ（極端だ）。……で、時々雑誌に出る話……。新宿の御苑前のベッドハウスの管理人（右寄りの人／たぶん故人）に「レスラーにしてやる!!」と言われ、世話になる。新日への扉が開き始めた……。





■ジョージ高野、18歳の頃。業界初登場!!　新日入門当時の顔写真。このジョージの様な精悍な顔の若者よ！　生ジョージに格闘技を習ってみないか！　入門希望者は〒807-1265　福岡県北九州市八幡西区大字笹田937　TEL．093-619-3933コブラジムまで

わかおはるか■ムラトー・アーツ・ヒットの命を受け、ジョージ高野のコラムの担当させられた漫画家。まんがタイムラブリー　まんが笑ルーム　他で連載中。漫画も見てね♥尚、F.S.R.はムラトー・アーツ・ヒット（℡03－3559－3358）に東京での連絡先を置いている。

11.28UFOオランダ大会完了!!

ザ・検証 プロレス点と線

今回より ザ・検証 フロレス点と線 とタイトルを変え、ヒマにまかせてフロレスとフロレスラーをストーカー行為まがいに考えていきます よろしくね

ザ・検証

【今月の検証】

藤波を襲ったのはどいつだ!?

ドラゴンの不思議世界――ワンダーランドの入口は、さあ、どうぞこちらから……。（藤波辰巳著『ライバルを作れ！ そして勝て！』より抜粋）

と、いうことで今回検証してみようと思うプロレス事件は、猪木寛至著『燃えよ闘魂』の「アフリカ冒険記―蟻と豹の襲来―」の中のこの一節である。

わたし達はキャンプのテントの中でねむっていた。（中略）

蟻の大群が襲ってくるということを夕方から現地人達が話をしており、キャンプのテントの周囲には灰を〝柵〟のようにまいてねむったのだ。

現地人の話によると、蟻はこの灰が嫌いで、灰のところはよけて通るのだそうだ。

わたしは突然、ものすごい絶叫でまどろんでいたねむりを破られた。テントをとび出して見ると藤波が転げまわっている。

すごい蟻が藤波の体にびっしりとくらいついているのだ。

わたしはあわてて手にしていた上着で藤波の体をたたきまくり、蟻を払ったが、その程度のことではどうにもならない。現地の人が「灰だ、灰だ！」と叫んで、まだ熱い灰の中に藤波を投げこみ、灰だらけにしてたたきまくり、やっと蟻を追い払ったが、藤波の体は見るも無残、蟻にくわれて赤くふくれ上がっていた。

藤波は「たかが蟻ぐらい」と思って、自分の周囲に灰をまくことを怠ったために、蟻に寝床へ侵入されたのだ。この蟻騒ぎが終わって、わたしはまたまどろんだ。

見るも無残に赤くふくれ上がった藤波を放って、まどろんでしまった猪木も驚きだが、もっと驚いたのは、この旅行は昭和47年に行われたもので『燃えよ闘魂』の発行は昭和49年だという点。この頃から、もう猪木は書かなくてもいい藤波の愚行をわざわざ書いて喜んでいるのだ。『猪木寛至自伝』の中で「藤波を後継者だと思ったことは一度もない」と書いて、みんなを驚かせた〝藤波イジメ〟というギャグの方法が、ずいぶん昔から出来上がっていたことがよくわかる。

では、藤波はこの体験をどう思っているのだろうか？ 前記した『ライバルをつくれ！ そして勝て』の中に、このアフリカ旅行のことが書いてあるので抜粋しておこう。

実は海外旅行といえば、このときのヨーロッパ行き（※筆者注・木戸と2人で海外初遠征）が、オレの初体験ではなかった。このおよそ1年前、オレは、猪木さんの付き人として、南米、アフリカを旅したことがあった。猪木さんが、アフリカなどの野生の動物を追いかける、というテレビ番組の取材にお伴したのだった。

テレビ局のスタッフや、猪木さんがいたから、大舟に乗った気持ち。ただ荷物を持ってあとからついていけばよかった。気楽な旅だった。

ところが、いざ日本に帰る、というときになって、オレはたった一人で放り出されてしまった。猪木さんは急用ができて、一人で先に帰ってしまったし、テレビ局の人は、まだしばらく滞在する、という。仕方なしに、オレは、ケニヤから一人で日本に向かった。途中、何度か飛行機を乗り換えて、日本に帰り着くことだけを念じて旅を続けた。

やっとのことで日本に帰ったら、猪木さんが、ニヤニヤ笑いながら、「よく一人で帰ってこられたな」と感心したような口調でいった。

あとになって考えてみると、この旅は、猪木さんがオレの度胸を試してみたらしかった。たしかに、このとき以来、オレは、何でもやればできるんだ、という自信みたいなものが身についたのだった。

と、いうふうに、蟻の記述は一切なく、また違う猪木のイジメが発覚する始末。そして、それにまったく気がつかない藤波という、もう完ペキと言うしかない「師弟関係」が浮かび上がるばかりなのである。また、名ビデオ『マッチョドラゴン』の中で、このアフリカ旅行で猪木から言われた、一生忘れられない大切な言葉が「時間を大切に」であると、思わずズコッとならざるをえないことを藤波が語るのは、あまりにも有名であろう。

ところで、ここまで読んで、読者の皆さんは「ボクらのドラゴンを襲った蟻ってなんだ!? ドラゴンより強い蟻って!?」と思われたことであろう。そんな熱いご要望にお応えして、藤波を襲った疑いがある蟻を調べてみた。この写真を見て、「ああ、コイツが藤波を襲った蟻かあ～」と、ボンヤリと思ってほしい次第である。

「蟻君はいっしょうけんめい生きているんだ、殺すのはやめようよ」（猪木寛至自伝より。別に意味なく）



グンタイアリ

こいつが最有力

ドラゴンを襲った可能性が最も高い凶暴なガイ。大行進が有名で、渡れないところは、大勢で連なって橋になったりするんだ。



ツムギアリ

名前のとおり、糸をつむいで木の上に葉っぱの巣を作ります。体は細いけど、大勢で敵（藤波）を囲んで引っ張ったりする、大変に気の荒い蟻です。



ハキリアリ

葉っぱを切り取って、培地を作り、菌を栽培する。とても利口な蟻さんだよ。アゴは強い！

つけている
いよ」
ヘンダー
ー・クート
今回のトー
さんのトレ
も体も完璧
ないね。そ
ドニーでメ
どこまで
モノのよう
優勝、そし
先へ先へと
大物は映画
望する選手
ンピックの
のだろう。
「カート・ア
ング金メダ
は知ってる



ザ・検証

【今月の検証】越中語録カルタ（その2）

「ちょっと昼ご飯食べに行ってもいい？」（藤波夫人・嘘）そういうわけで今回も前回に引き続き『越中カルタ』です。予定では今回で完成するはずでしたが、ページの都合上全部載せる事ができないために、あと少しというところで終わっています。でも、それもまた維震軍らしいではありませんか。それでは越中の発言を斜め読みして、ギョッとするほど影響を受けるなり、反面教師にするなり、個人個人で楽しんでください。



擦りきれるぐらい聴きましたね。

中3の時、ビートルズのアルバム『レット・イット・ビー』を買って。



1980年にポールが来日して大麻で捕まった時にも、前から15番目の武道館のチケット持ってたんですよ。

90年の来日時はスタンド席で。が、逆に遠くに見えるポールに感激。



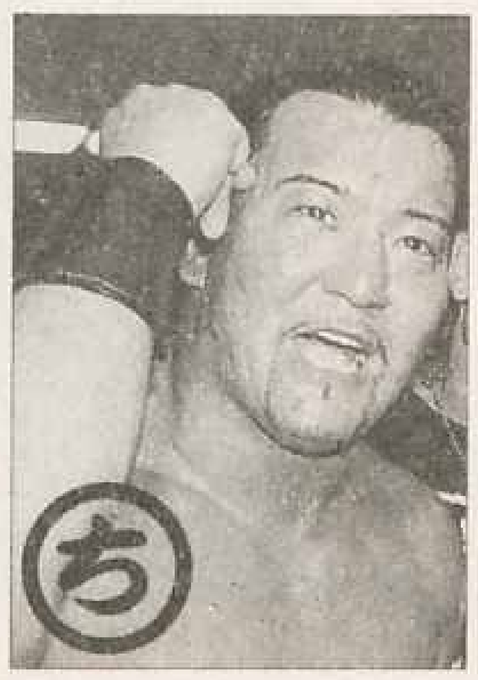
そこのけ、そこのけ天龍、越中ですよ。

天越同盟の勢いを、小林一茶の句を引用するという珍手法で、表現。



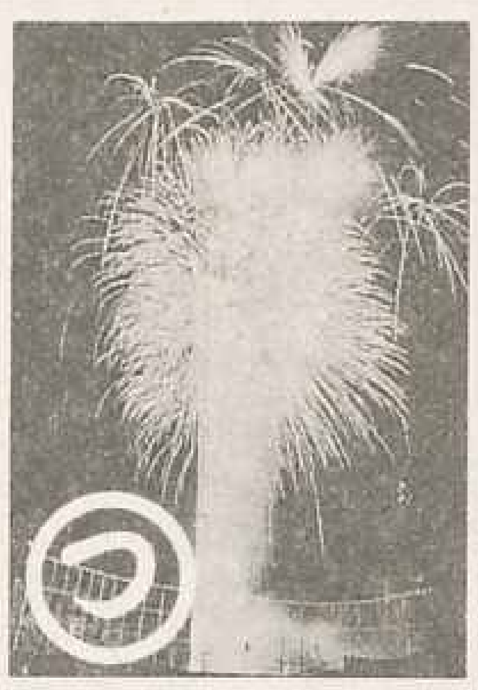
体調は良いし、夏は好きだし、GIは俺が取るって。みんなに言っとけ、みんなに！　俺がGI取ってやるって！

『波の数だけ抱きしめてやるって！』という映画を撮ったほどの夏好き（嘘）



蝶野は口先だけなんだよ。武藤はボロボロ。山本（天山）は、もう使い物にならない。

新日の未来を背負う第3世代の天山を早くも一蹴した越中（1.5世代くらい）



次は神宮で花火のようにパーッと防衛だよ。

一瞬の輝きしか持たない花火を比喩に用いた、字面とは裏腹に悲しいコメント。



テレビ朝日が、僕のドキュメント撮ってくれましてね。で、「最後は『ザ・ロング・アンド・ワインディング・ロード』流してください」ってお願いしたんですけど、駄目でしたね。

テレ朝には「リバプール魂」が無い模様。でも多分、テレ朝の判断が正しい。



引取先もないだろうし、新しい就職先でも考えておけ！

不況、就職難等の世相が越中の発言にまで影響を！（考えすぎ）



なんか、いねえよな。同じような体つきで、同じような技使って。

長州引退後の本隊に対して。小島とかあの辺を一刀両断！（待だけに）



西村あたりがなんで挑戦できるんだ。ふざけるんじゃないって。笑わせるなということだよ。

西村のIWGP挑戦が決まって。「ふざける」の意味を親切にも解説。



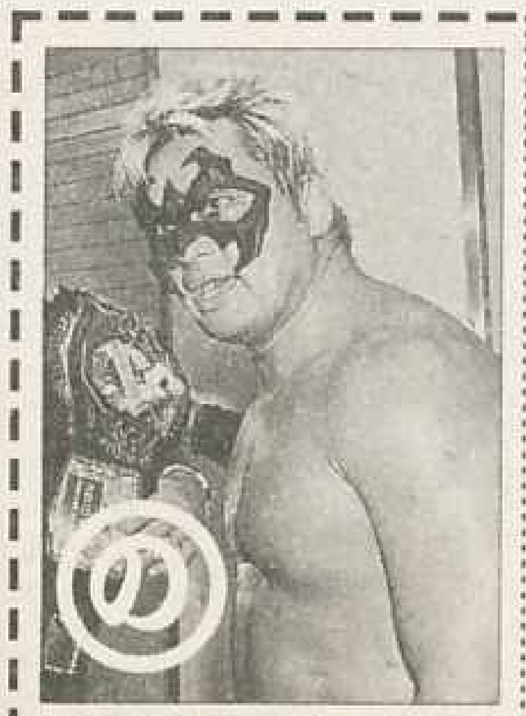
脱ぎ捨ててもらったら困るんだよ。大体、控え室にもあんまり入ってこないようじゃ困るね。

維震軍に加入した藤波。が、試合中袴を脱ぎ捨てた！　相変わらず不可解！



年齢的にも、40歳とか何とか言うけども、体力とか精神的には別に変わってないから。節目でもないし。なんて言うのかなあ…でも、見てろよ！という気持ちの方が強いよね。フザケンナよ！っていう気持ちじゃない？

40にして迷わずでお馴染みの孔子もビックリ！　40にしてフザケンナ！



野上にはね、腹くくってこいっていってあるから。腹くくってこいって。それだけ。本隊ぶっ潰すよ！　今シリーズ突っ走っていくから！

この頃、飽きるほど聞いた「本隊ぶっ潰すよ！」が今となっては懐かしい……

11.28UFOオランダ大会完了!!



橋本も藤波も覇気がねえ。

覇気なら人一倍（必要以上）持っている越中からみれば、あのラオウも覇気不足か？



まずはnwoを潰して俺たちの旗をもっとデカくさせてやることなんだよ。

まずはムタが旗に吹きかけた毒霧のシミをとることが先決だったのでは？



やるべきことはすべてやった。

解散会見にて。が、やるべきこと（ベルト総ナメとか）は何もやっていない。再結成熱望！



日にち、会場、はっきりと決めた指定試合だって。

「どっちでもいいから1対1でやってやるって。武道館でいいって」と犬軍団を挑発。



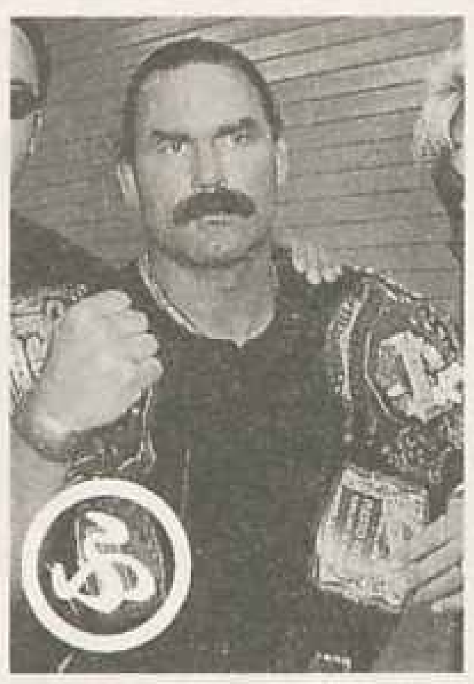
みんな、泣き言なんて一言もないですよ。

いろいろあった維震軍だけど誰も泣きませんでした（ほとんどが30代、40代）



Uインターに乗り込むということに意味を感じるし、相手は関係無い。みんなぶっ潰す。必ず高田を引きずり出して、ぶっ潰すから！

越中が原因かどうかはわかりませんが、Uインターはブッ潰れました。



フライにでかい顔されるのに腹が立つ。やりたきゃ次は開幕からこいって。プロレスの巡業についてこさせて、ヒーヒー言わせてやる。

年間試合数の多さはレスラーの武器。「ヒーヒー言わせてやる」と少々アダルトな表現。



武藤だとか蝶野に『行ってこいよ』って言ったんですよ。そしたら『誰ですか？』だって。

お馴染みの維震軍結成秘話。ジョージ・ハリスンのチケットを渡した越中だったが……



ヨーロッパ遠征行ったっていうから、「お前、リヴァプールは行かなかったのか？」って訊いたら、「あぁ、試合やりましたよ」って。「えっ、リヴァプール行ったのか、お前！」って言ったら、「何ですか？ 港町ですよ」で終わり。我々がリヴァプール行ったら、大変ですよ。もう、感激しちゃって。

これまた『リバプール魂』がないライガー。ちなみに藤波にも無いらしい。



ヘビー級（選手権）をすっ飛ばしてやるって！

とにかく勢いだけは伝わってくるコメント。越中は勢いが違うって！（勢いのみだが）



目いっぱい毎日ファイトすれば、それがメッセージだし。

女性シンガーのメッセージソングの歌詞みたいなコメント。元気を君に！（狂）



来年はニュー維震軍ということで、戦いの場に出ていきたいなと思っています。

95年の講演にて。ニュー維震軍とは野上の加入のことだったのだろうか？



ホレやすいんですけど、押すのが苦手というか……そういう気の小さいところがありますね。付き合うようになると、必ず「男はつらいよ」観にいこう誘うんですよ。そうすると、みんな濃い顔をしますよね。エッって言われて、次から会ってくれなかったりとか……。

恋愛までも寅さんに直結！　越中の寅さんフリークぶりが良くわかる発言。



燃やして、すっ飛ばしてやるって。

「アイツラの闘い方は俺が一番知っている。3分で十分だ」とまたまた犬軍団を挑発。

あそび方

前回のカルタと合わせて遊んでください。遊び方は普通のカルタとほぼ同じ。だいたい同じと言うことだよ。とにかくぶっ潰すという気持ちを忘れずに遊んでください。BGMはビートルズを流しましょう。



『PRIDE.0』初代殿堂娘　武田いづみの

げんこつ山のパルチザン日記

『PRIDE.0』二代目殿堂夫人
（真下家の）キッチンナビゲーター
真下純子の

ちょっと、昼ごはん食べにこない？（残り物）



某格闘技団体のボスも愛読中、本誌素人投稿選手権『PRIDE.0』で5戦勝ち抜いたスーパービジュアルライター、武田いづみちゃん&真下純子さんの日記のページの時間の時間なんじゃあ! 前田襲撃事件をはじめ、いろいろありすぎた11月を振り返りつつ、ガンガン行くぜ、ガンガン!

10月某日　"ジェシー・ベンチュラ氏、人気低下！　セクハラ発言「ブラジャーになりたい！」"というニュースを耳にする。それは「セクハラ」ではなく「ベンチュラギャグ」だ、アメリカ国民よ。

11月3日　友達の学校の文化祭を見に新宿へ行った。しかしその学校の校舎がでかすぎて途方に暮れ、「これをすべて見るのは無理」と判断してこのあと街の方で遊ぶことにした。アルタへ行ったら人だかりがあり、その中央のパネルに見覚えのあるバッテンマーク。そして元格コロファイター渡部謙吾発見。その他にも元格コロファイターじゃない人がいたと思うけどよく見えず。なんのイベントか気になったが、その間にも隣の帽子屋で帽子を次々と試着し、披露してくれている友達をほっとくわけにもいかないので見なかった。アルタのビルの中にもポスターが貼ってあり「パンクラス文化祭」と書かれていた。文化祭？　思わぬところで文化祭のはしご。どっちもほぼ素通り。

11月10日　今週末は私の学校の学園祭があるらしい。でもまわりの学生は誰も学祭に行く話などしない。私が通っている校舎は学部の3・4年生と短大1・2年生の校舎なので就職活動などいそがしく、学生は「祭りどころではない」らしい。そのため規模もスモールサイズ。当然私も行く気がなかったが、掲示板にあるポスターに「石川雄規講演会」の文字を見つけ、急遽変更。それ絶対行くー。

11月11日　友達の部屋でテレビを観ていると、「食わず嫌い王」にオーちゃんが。映った瞬間と「オッ!?」と全員が声をあげたのはアタシの影響かしらん？　よしよし。みんな、相手のTIMが一発で見破れなかったオーちゃんの嫌いな食べ物を「チーズケーキ。この人、チーズケーキだめだね」とやり手の占い師のような顔と口調で見破っていた。

11月13日　たったひとりで学祭へ。ちょっと密航気分。会場はいちばん大きな教室で、入ってみると人が少ない。なんでこんな地味な学祭なのにでかい教室使うんだろう……。学祭に来てる人全員座らせてもまだ席あまるぞ、きっと……、と余計な心配をしてドキドキしていた。でもはじまる直前にはけっこう入った。普段、心理学の講義とか受けている教室に石川社長。なんかフシギなかんじ。テーマが「中小企業プロレス団体経営者に話を聞く」で、藤原組時代からバトラーツ旗揚げ、そして現在までを経営の話をまじえながらの、おのれのやる気をおこさずにはいられなくなる講演だった。だから「もっとみんな来ればよかったのにー」と思った。最後に抽選会があり、わたくし、OVNI・Tシャツをゲットしてしまいました。ひょこひょこ前に出て行き、石川社長に握手もしてもらえました。抽選は賞品がたっぷりあったせいもあり、かなりの確率で当たっていたので、さっき思ったことを撤回し、「人数少なくてよかった♡」と思ってしまいました。



11月17日　えらいことになりました。姉さん、事件です。いや、そうではなくてホントに事件です。新聞やインターネットではいろんな意見が錯綜してます。私はアキラ兄さんも安生洋二も、もともと好きですので黙って見守るしかないと思いましたが、現場で『ア然』としちゃったから、「なんにもできまちぇんでちた～」、「ボクたち関係ありまちぇ～ん」、とか言ってる人はもともと好きじゃなかったけど、このたびめでたく「最低」へシフトしました。ところで事件後、安生とガッチリ握手した高橋はなにか商談でも成立したのかな？　それとも握手会かな？　一句詠んでいいかな？
"盆暮らす――……（二の句がつげず、断念）"



P.S神子佳世ちゃんとはひとつモンゴル相撲でもとって親睦を深めたいもんです。
頭を冷やすべく、今年も流れ星を見にいってきます。それでは……。武田いづみ

11月3日　友達と「IVYブックス」という本屋さんへ行きました。ここはプロレス・格闘技の書籍やTシャツ等のグッズが置いてあって、私の心のオアシスです。さて、この日は私たち、店の軒先に置いてある「YUJIN SRシリーズ全日本プロレス・ファンが選んだ人気レスラー＋馬場さんビクトリーバージョン」……そうです!!　あの全日本レスラーのガチャガチャ第2弾を発見したのであります。何とマイクを持ったラッシャーさんやベイダー、ロングホーンを作ったハンセンまでいるではありませんか!!　私たちは足がはまって動けなくなりました。ありったけの百円玉を使い、ついには飲みたくもないジュースを自販機で買い両替しました。結果は……、ジョニー→ハンセン→ジョニー→小川→ジョニー→ジョニー。ジョニー・エースばかり出たのです。ジョニーフィーバーです。友達も4回やった内ジョニーが2個。50%ジョニー。私は小比類巻かおるよろしく「両手いっぱいのジョニー」状態。ものすごくラッシャーさんウィズマイクが欲しかったのですが、この日の私はジョニーに憑かれているとしか思えないのでやめておきました。これ以上ジョニーが出たら暴れてしまいそうです。普段娘に「無駄遣いするな！」と口うるさいわたくしがこのていたらく。娘に合わす顔がありません。そして「無駄遣い」などとジョニーをまるでハズレ呼ばわりしてしまっているわたくし。ジョニーにもすまない気持ちになりました。でもこれは勝ち負けで言ったら負けだと思います。くやしかったです。帰りの車の中、ハンセンを組み立てていたら肝心の「ロングホーンを作った腕」を無くしてしまいました。これではハンセンではありません。ハズレ呼ばわりしたジョニーからの呪いでしょうか。そういえば「悲しみジョニー」って歌もあった気がする。ごめんねジョニー。



ただのジョニーじゃない。なんとマシジュンのプリクラ付きだ！（チョロ）

11月7日　実家が建て替えをすることになりました。嫁に行き、かなりの年月が経ってはいますが、生まれ育った家が無くなるというのはやはり寂しいものです……などと可愛いことを言っている場合ではありません!!　私はWOWOWのリングスを見るためだけに帰省を繰り返すとんだ親不孝娘です。家を取り壊すことになれば実家が加入しているケーブルTVもぶっちぎれではありませんか!!　WOWOWもGAORAも見られやしないじゃないですか!!　死活問題ですよ、死活問題!!……なんてことを母に言ったら「心からあきれている」という顔をされました。リングスKing of Kingの大阪大会はお友達に頼んで見せていただくことにいたします。

11月10日　娘がサンタクロースからのプレゼントを意識した行動を取る季節になって参りました。わたくしは「来年の『PRIDE.9』に行かせてもらう権」をサンタクロースに頂きます（『PRIDE.8』は大好きな小路さんがお出にならないので見送りました）。みなさまはサンタクロースに何をプレゼントしてもらいますか？（何言ってるんだか）

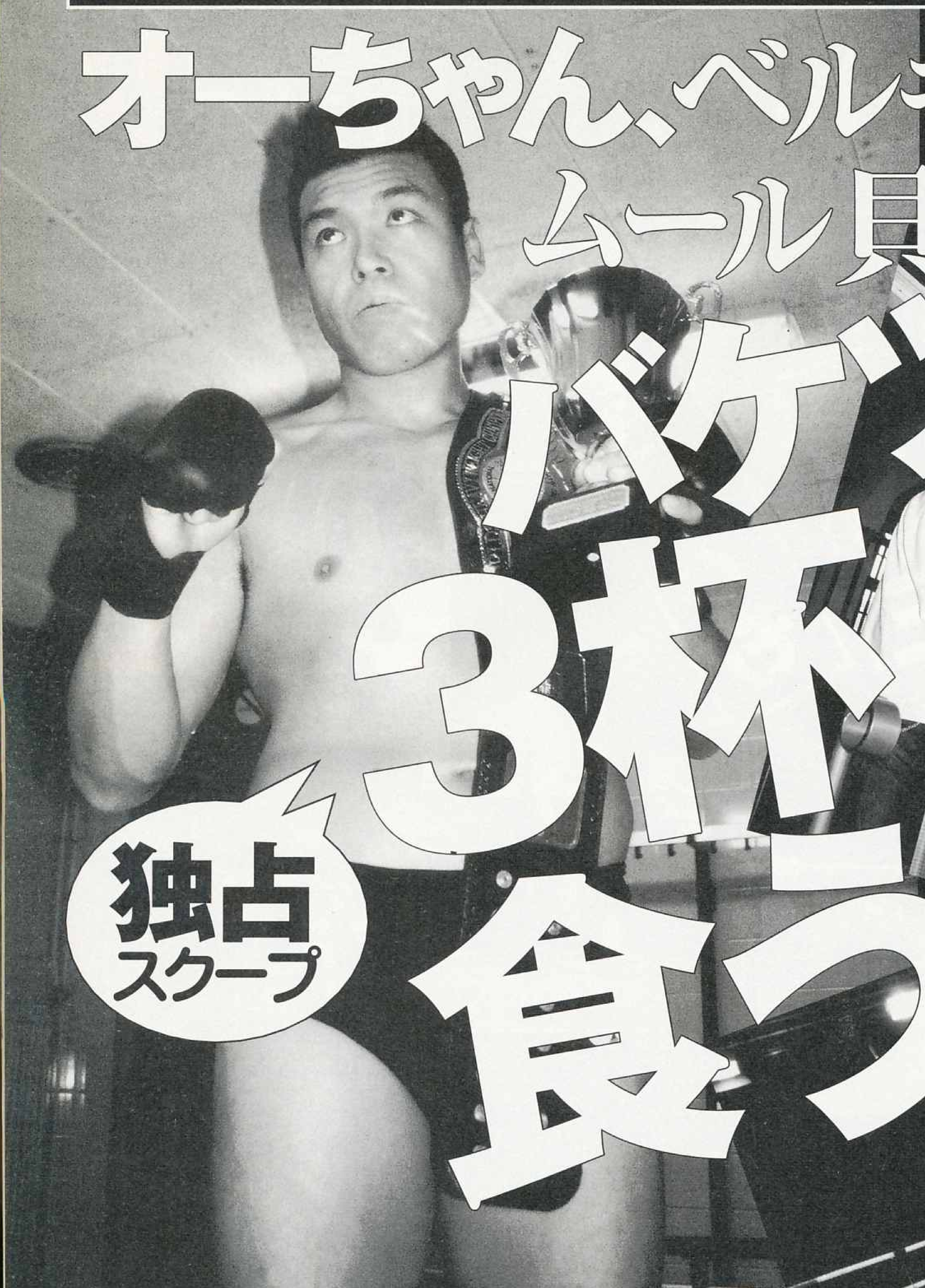
11月17日　子供のケンカは泣いた子が勝ち、というケースが多いです。泣かせた子は泣いた子に謝らなくちゃいけない。でもこれは「泣かせた」ということに謝るんであって根本的な解決になってなかったりします。例えばもし、ウチのムスメがお友達に「みんなの前で小突かれた」とか「悪口を言われた」とかいう理由で、あるいは「あの子はアレだからやっちゃって」と誰かにけしかけられたという事で、お友達を後ろから殴ってまぶたを4針縫うような怪我をさせて伸ばしてしまったら、親である私はどうするでしょう。理由がどうあろうと、やっぱり菓子折持って頭下げに行かなくちゃならないでしょうね。でも、それは怪我をさせたことに対するお詫びです。本当の解決は当人同士でしなくちゃいけない。子供といえども。ウチの子は「どこかの団体みたいに」ずるい子になってほしくないです。いくら損をしてもまっすぐ生きてほしい。卑怯な人間にはなってほしくないです。あの事件でそう思いました。

ということで私のいらないジョニーを1名様にプレゼント!!　私の代わりに可愛がってあげて下さい。
応募方法はP175です。真下純子（アララギ派）

11.28UFOオランダ大会完了!!
NWA世界王座2度めの防衛をはたす2日前に

オーちゃん、ベルギーでムール貝をバケツ3杯食う!!

独占スクープ







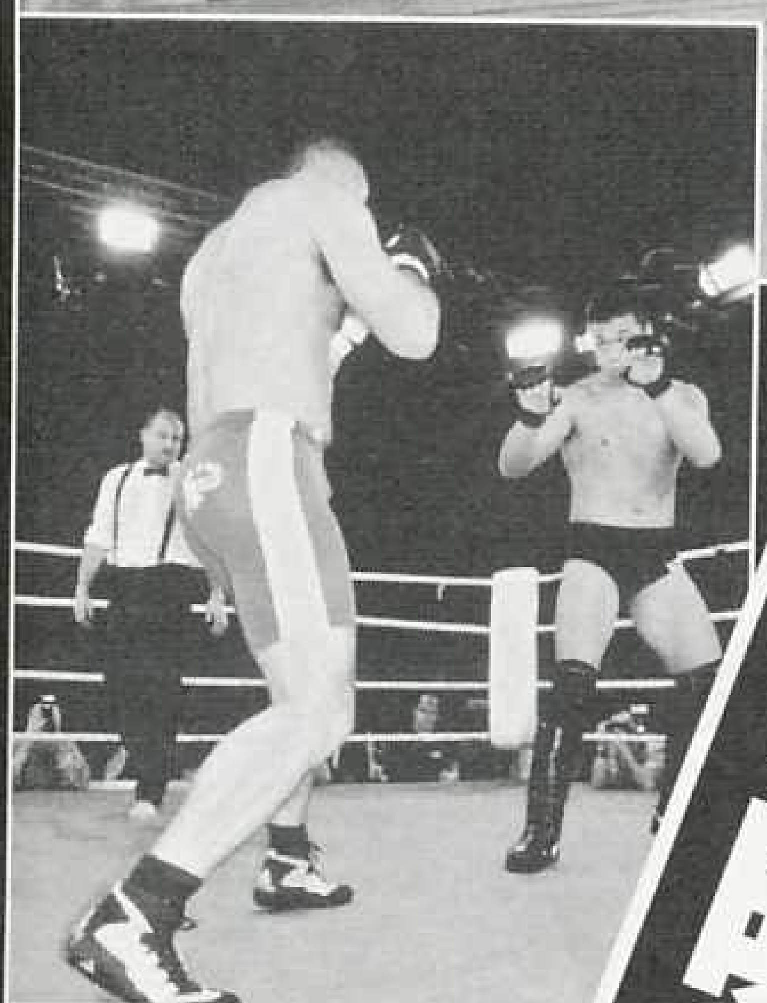
10・11新日・東京ドーム大会で橋本真也を完膚無きまでに粉砕した小川は、相変わらず格闘ロマンの道をばく進中だ！　vs高田戦か？　vs橋本戦か？　予測不可能な動きを見せる小川が、ＵＦＯオランダ旗揚げ戦に参戦後、ベルギーでムール貝を襲撃したという情報が入ってきた。一体、何があったんだ!?　急いでページをめくれ！

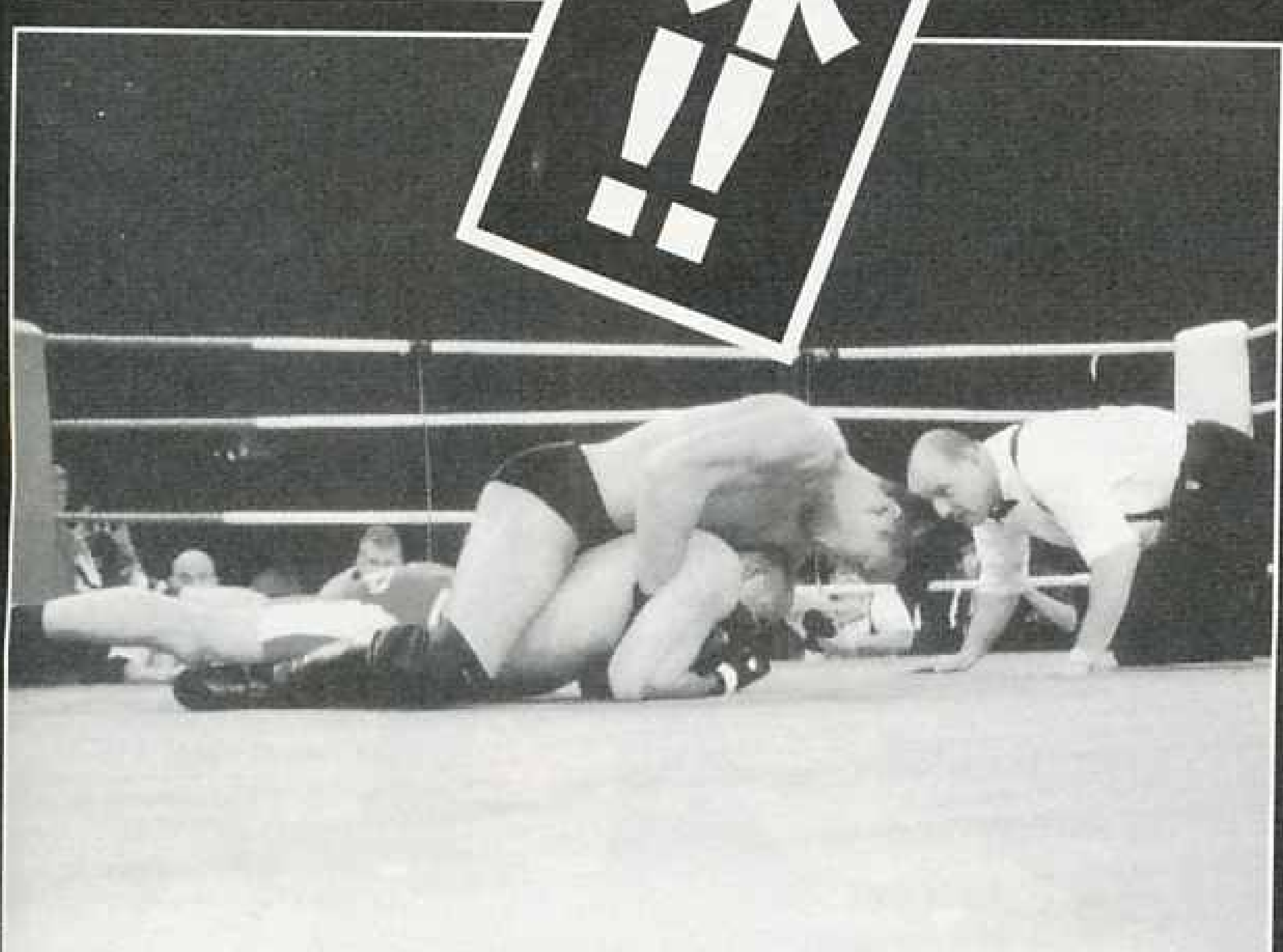
文／ワンマン・ギャング　写真提供／UFO

ムール貝パワー充てん!! 次は新日本、PRIDE連続攻撃か?

異国でも秒殺三昧!!









喧嘩屋ゴルドー率いる"ドージョー・カマクラ"の秘密兵器ロビー・ペータースが、オーちゃんのNWA世界王座に挑戦。一度はフロント・チョークを取るなど、健闘したが、地元の大声援には応えることが出来なかった



アルコールはOKで、リングサイドにはテーブル席まである。オランダの観衆は10年前の新日のような興奮&熱狂で大騒ぎする! 特に地元の選手にはひときわ大きな声援が飛んだという。

まさに襲撃三昧! 『PRIDE GP』の記者会見上、"菊の花束ミサイル"攻撃で高田を襲撃したオーちゃん。そんな失礼極まりないことをやらかした2日後には次なる襲撃地・オランダへ飛んでいった。今回のオランダ遠征は、11月25日~30日と短期間ではあるものの、非常に重要な遠征である。喧嘩屋ジェラルド・ゴルドーが主宰する"ドージョー・カマクラ"が母体となりUFOオランダが旗揚げした。

現地に着き、再会を果たした瞬間にゴルドーは「オガワ、闇討ちは気をつけろよ!」と声を掛けてきたという。なんと、前田襲撃事件の衝撃波はなんとオランダまで到達していたのだ! さらに、リングス・オランダの総帥クリス・ドールマンもこの事件が気になるらしく「闇討ちしたヤツはクレイジーだ。しかし、やられる方にも問題がある」と、格闘家らしい名言を残したそうだ。盟友・前田の立場は? しかもオーちゃんを前田に見立てて「前田はこう殴られたのか?」と、闇討ち現場を再現していたという。いや〜、凄い!

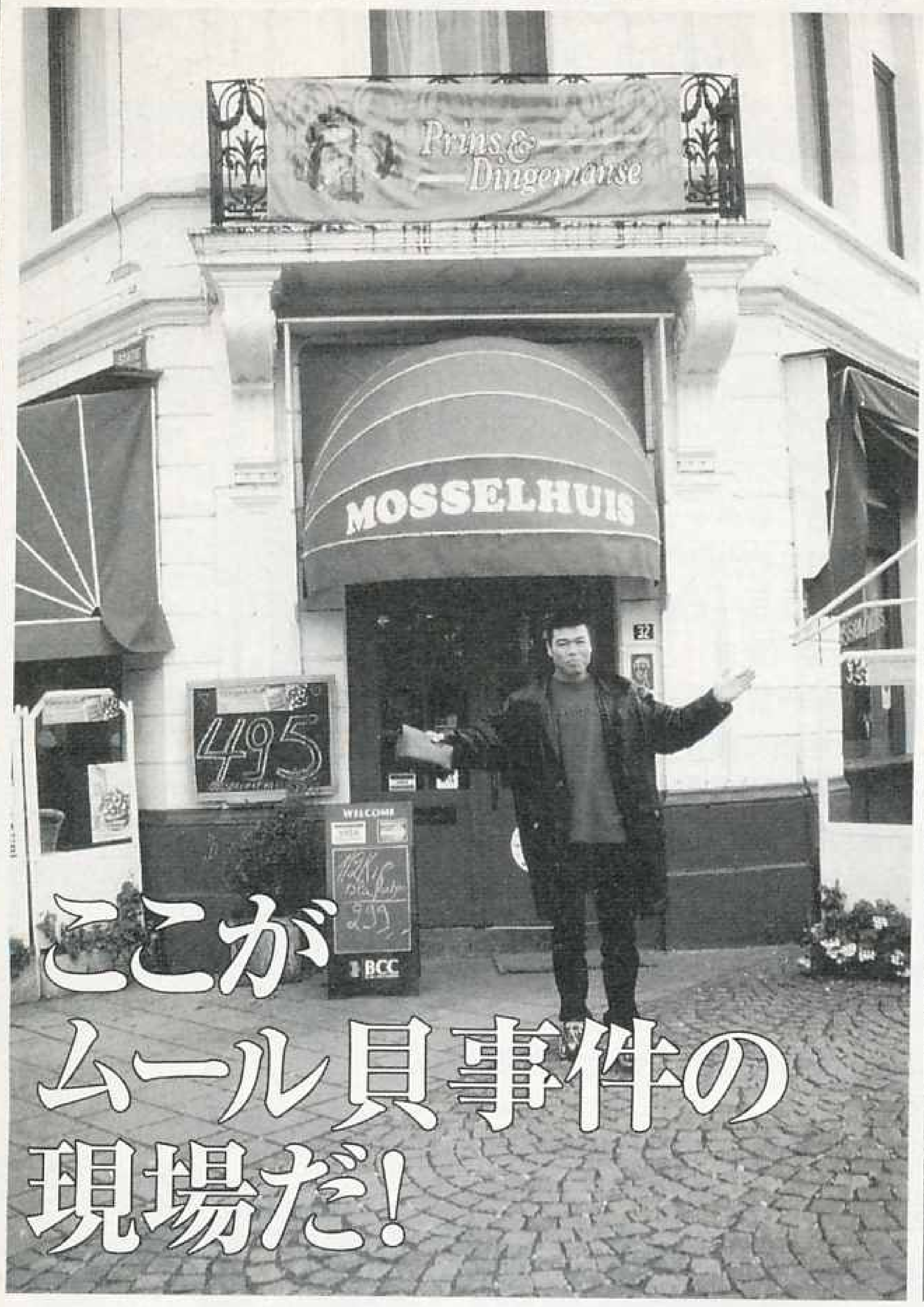
そんな根っからの格闘王国で、オーちゃんが持つNWA世界ヘビー級王座に挑んだのは"カマクラジムの刺客"ロビー・ペータース。何者かもわからない相手で、しかもルールは「お互いのプライドがルール」という宇宙で一番難しいUFOルールだ。果たして、オーちゃんは、こんな未知の相手に対して返り討ちに成功出来るのだろうか?

だが、ゴングが鳴ると、そんな不安も一気に吹き飛んでしまう。ゴングと同時に飛び出したオーちゃんが払い腰&キック&パンチでラッシュを掛ける! 結局、マウント・パンチからの胴絞めチョークスリーパーであっさりタップを奪ってしまった。かかったのは時間にして140秒! じつに完勝この上ない! どうやら小川は試合で古傷の右ヒザを再び痛めたらしい。だが、それも吹っ飛ぶくらいの痛快な快挙をやらかしてくれたという。

じつは試合の前々日、オランダから車で2時間ほどのところにあるベルギー・アントワープのレストランを襲撃! なんと、地元名産のムール貝をバケツ3杯も平らげたのだという!! いつ何時でもエネルギッシュ!! これはある意味、この閉塞しきった時代の中ではNWA王座を防衛したこと以上の快挙のような気がするが、いや、どっちもVIVA!

日本時間の30日、バケツ3杯分のムール貝パワーを充填して、オーちゃんは日本に凱旋帰国。さあ、次なる襲撃先はどこだ? いま現在、オーちゃんが上がる可能性があるのは、1・4新日での vs 橋本戦もしくは1・30『PRIDE』での vs 高田戦である。

ちなみに、本誌の極秘ルートからの情報によると、1・4でオーちゃんがプロレス人生初のタッグマッチに挑む可能性も出てきたらしい。しかも、カードは小川&村上一成 vs 橋本真也&飯塚高史だということだが……これはあくまでも未確認情報なので、あしからず。さあ、次にムール貝パワーの犠牲者となるのは誰だ!?



ムール貝をバケツ3杯も食べたのに、食べている瞬間の写真がなかった。トンマな『紙プロ』らしいオチ。仕方がないので襲撃したレストラン前で1枚。

オランダ格闘技界の重要地点ドージョー・カマクラ。喧嘩屋ゴルドーが仕切っている。日本びいきなゴルドーのセンスで道場名は付けられた





ゴルドー＆ドールマンというオランダ格闘界の首領2人とオーちゃん。こんなに強そうな3ショットはなかなかお目にはかかれない！　最高！



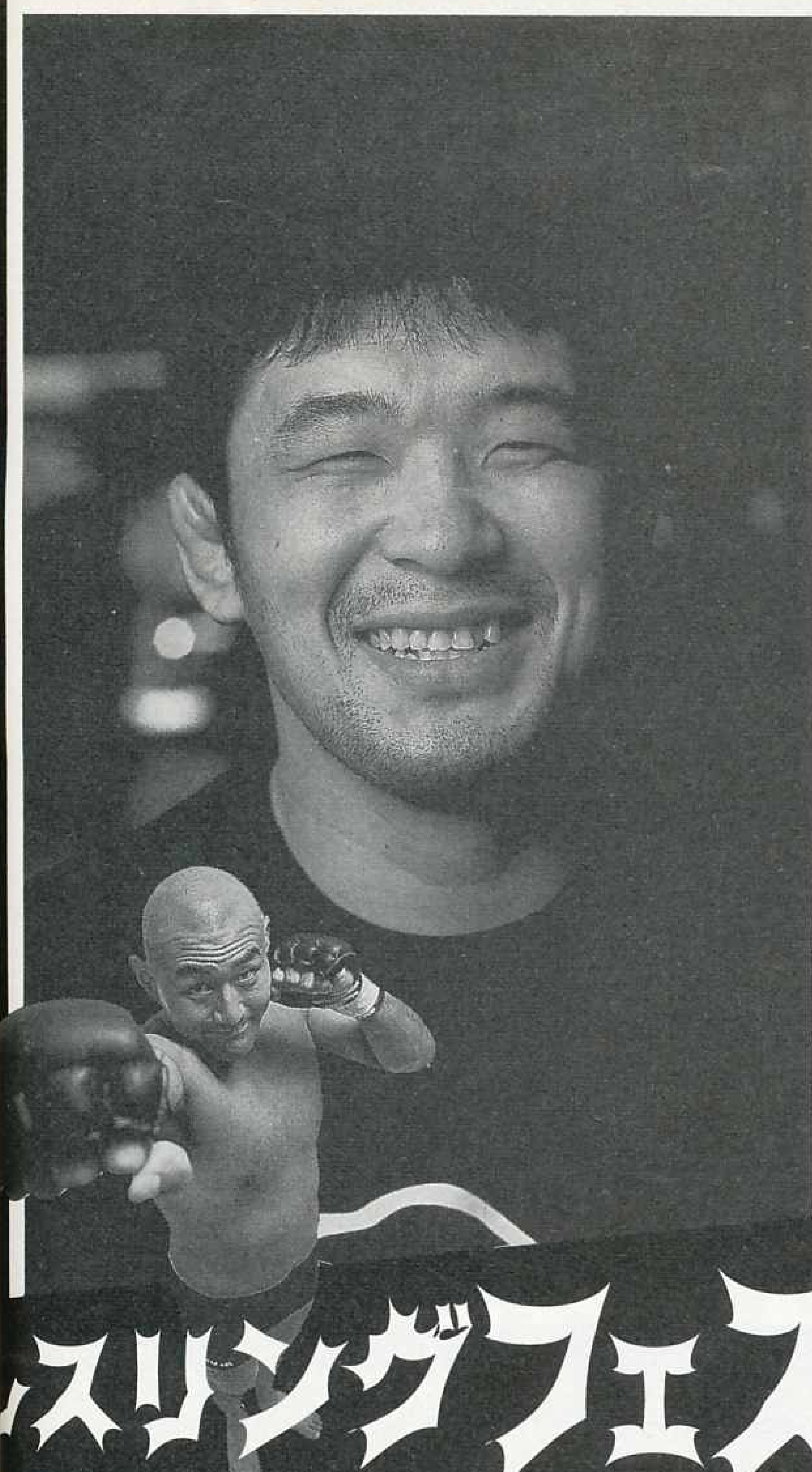
オランダ襲撃を成功させ、高田や橋本がいる日本へと飛び立つ。右ヒザの負傷もモウマンタイ!!



UFOに、この男は欠かせない！　今年6月のUFO大阪大会では石川雄規とも対戦したリー・ヤングガン。カンフームーブで大人気!!



上一成vs橋本真也&飯塚高史だということだが……これ
はあくまでも未確認情報なので、あしからず。さあ、次
にムール貝パワーの犠牲者となるのは誰だ!?



今回みごとな表紙を飾ってくれた桜庭和志大黒天が「レスリングフェスティバルっていうのに、ボク出るんです。それメチャクチャ楽しみにしていて、松井と毎日、練習してるんですよ！　何か変わったことをやるつもりですから！」と、まさか桜庭スペシャル、炎３部作を披露するわけではないとは思うが……。

このサクの言動がますます期待を膨らませる大会は、アマレス出身レスラーの祭典である。そして、新日本、全日本、高田道場……。絶対、一挙に見ることのできない顔ぶれが勢揃い。その中でも、『PRIDE.8』でサクとともに、グレイシー狩りに挑んだアレクサンダー大塚は、“目をつぶって30秒”がキャッチフレーズの谷津相手にどんな闘いをしかけるのか!?

２日目は、女子プロレスラー大会。３日目が全日本女子レスリング選手権大会（無料）という見逃せない３日間なのだ。そして、本誌が前々から注目している全女のフューチャースター・中西百重が、なんとアマレスの大会にも出場する！　中西は押さえ込みマッチで、名門ミキハウス柔道部出身の坂井澄江（Jd'）を撃破し、バーリ・トゥードでも同じくミキハウス出身の薮下めぐみ（Jd'）と60分フルタイムを戦った実績もある。松永家直伝の全女式押さえ込みマッチで鍛えた中西の強さが、まったくルールの違うアマレスのマットでどこまで発揮できるか？　これは全プロレスファン必見の他流試合だ！



見てみい！　この豪華な顔ぶれ!!

レスリングフェスティバル'99



12月21日～23日
～国立代々木競技場第2体育館～

第1日目

【シングルマッチ】
永田裕志（新日本プロレス）vs 大谷晋二郎（新日本プロレス）
谷津嘉章（ＳＰＷＦ）vs アレクサンダー大塚（バトラーツ）
中西学（新日本プロレス）vs 藤田和之（新日本プロレス）

【公開スパーリング】
桜庭和志（高田道場）vs 松井大二郎（高田道場）
高橋義生（パンクラス）vs X

【タッグマッチ】
本田多聞（全日本プロレス）丸藤正道（全日本プロレス）vs
渕正信（全日本プロレス）菊池毅（全日本プロレス）

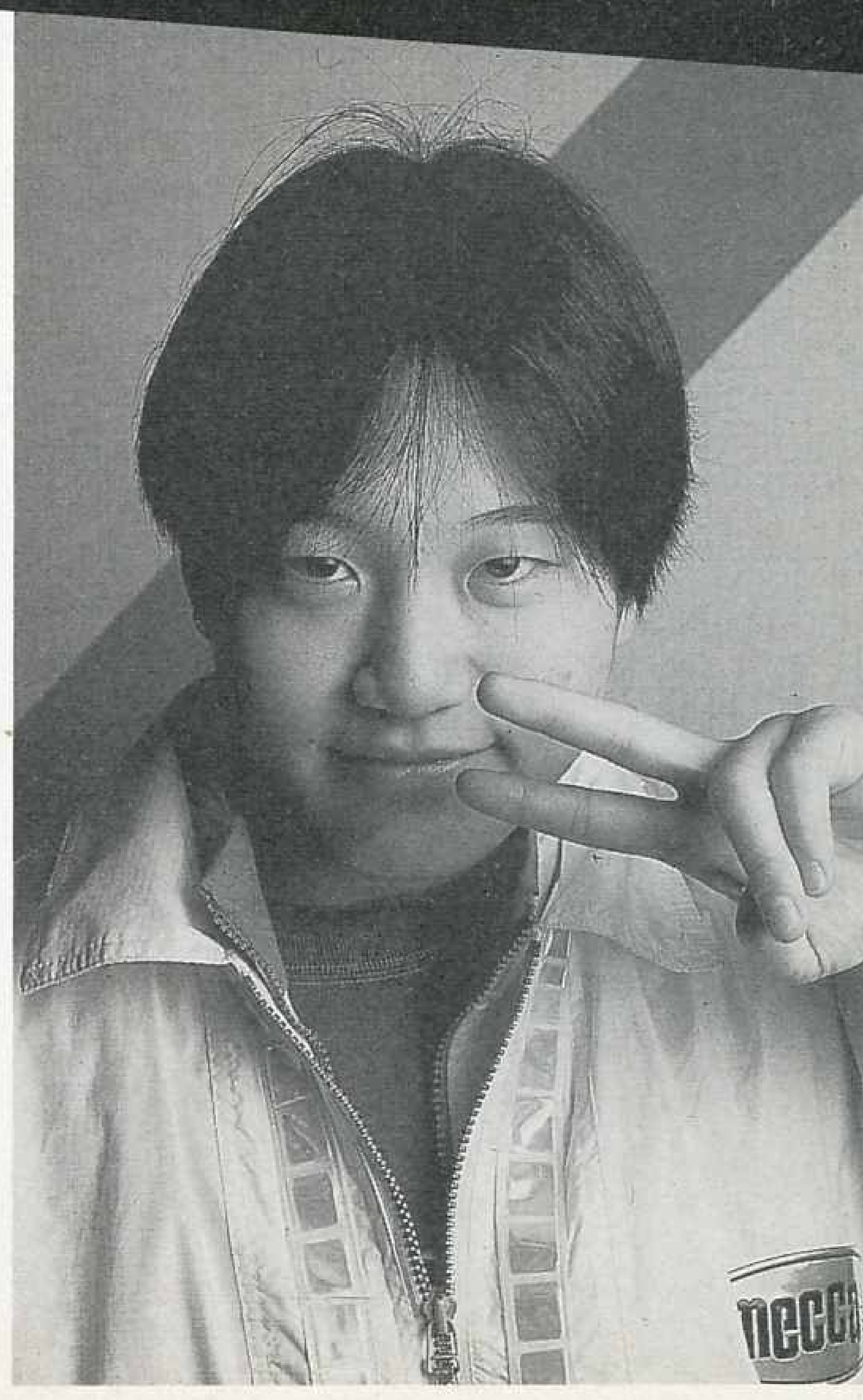
第2日目

【シングルマッチ】
豊田真奈美（全日本女子）vs 藤井巳幸（全日本女子）
ＺＡＰ・Ｉ（全日本女子）vs 前川久美子（全日本女子）
堀田祐美子（全日本女子）vs 渡辺智子（全日本女子）

【タッグマッチ】
下田美馬（フリー）三田英津子（フリー）vs
高橋奈苗（全日本女子）納見佳代（全日本女子）
ライオネス飛鳥（フリー）森　松（飛鳥組）vs
坂井澄江（Ｊｄ'）小杉夕子（Ｊｄ'）
井上京子（ネオレディース）井上貴子（フリー）vs 中西百恵
（全日本女子）脇沢美穂（全日本女子）

3日目は全日本女子レスリング選手権大会

※2日間ともアニマル浜口のトークショーが開催される。



【問い合わせ】
(財)日本レスリング協会
TEL03-3481-2354

■君もこれでマット界の目撃者ダ!!

News News Revolution

10月～11月のこれが マットの焦点

事件FILE

恐怖の大王が降ってきた！　と言っても過言ではないこの1ヶ月。衝撃の前田襲撃事件や小川乱入事件など数々の事件が勃発し、マット界は大きく動めいた。まさに世紀末状態である。そんな中で、『紙プロ』的にニュースを抜粋！　ここは、忘れちゃいけないニュースからちょっと小粋な小ネタまで勢揃い！　これを読まなきゃ年は越せない!!

11/1 ライガーが新日離脱!? 怒れる獣神はどこに行くのか？



広島でのシリーズ最終戦を終えたライガーが、新日離脱を表明した。「結局、ジュニアの枠の中でぬるま湯につかってたんだよ」と吐き捨てるように語った後、「自分を高めていく」ために新日を離れることを宣言した。たしかに、新日のジュニアは毎日限られたメンバーで闘っていたのが現状で、選手の立場とすれば新鮮味はなくなる一方だったのかもしれない。取材拒否中なので、そのへんのことは憶測でしか書けませんがね。

先シリーズは久々にワイルド・ペガサスとディーン・マレンコも来日。海外でヘビー級とぶつかりあっているペガサスのパワーに、刺激を受けたのだろうか？　どうやらメキシコやWCWに上がっていく意向のようだが、これなら面白い展開になりそうな雰囲気だ。

軽量級に関してはWWFよりもはるかにWCWの方が積極的だ。層も厚いし、いい選手も多い。WCWと提携関係にある新日本に、一流どころの選手たちが参戦したら面白いことになるだろう。さっそくライガーはメキシコ経由でWCWに登場。さっそくライガーはメキシコ経由でWCWに登場。いい選手をつれて帰ってきてくれ！　あと、デービッド・フレアーも見たい!!

10/29 これが修斗です!! byルミナ



修斗８年ぶりに行われた大阪大会。現在の修斗人気がどれだけ通用するのか未知数ではあったが、関西圏のファンにも熱望されていたことが痛いくらいに伝わった日であった。

今年修斗10周年を記念して行われた５月の横浜文化体育館。今まで、修斗ウエルター級の代名詞であった佐藤ルミナが和術慧舟會の宇野薫に破れた試合から、はや５ヶ月。３年前バーリ・トゥード・ジャパンでジョン・ルイスに見事１本勝ちを納め、誰もが『日本最弱』のレッテルを張った修斗の歴史を塗り替えた佐藤ルミナは、もう存在しないのであろうか？

大阪大会のメイン。ルミナは、あっさり秒殺で勝ち名乗りを上げることとなる。

今、確かにルミナは誰よりも練習し、どの選手よりも修斗のことを考えていることはものすごく理解できる。「スッキリ１本勝ちしたいです」というのもうなずける。大阪大会は、ある意味ファンに大きな期待を持たせた。

そして、12月11日、バーリ・トゥード・ジャパンで第１試合を務めることが決定した。佐藤ルミナがどのような勝ち方をするのか見物である。

11/4 怪獣王国という国が仲間入り。



正道会館、佐竹雅昭が、『Ｋ－１』を休部することが発表された。10月３日大阪ドーム『Ｋ－１グランプリ』開幕戦において、武蔵戦での判定を不服とした佐竹が「Ｋ－１」撤退発言をぶち上げ、正道会館離脱か!?　という噂も流れた。だが、この席で、離脱はキッパリ否定。あくまでも、休部と主張した。同席した石井和義館長も「今までは、正道会館所属選手としてＫ－１のリングで闘ってきましたが、これからは、怪獣王国所属として各団体、Ｋ－１などに出場します」と温かく見守ることを示唆し、会見中も温暖なムードが流れていた。

その後、佐竹は『リングス』『ＵＦＣ－Ｊ』などの会場に足を運んだり、『高田道場』での出稽古など精力的に活動を行っている。

そこで、あの前田襲撃事件とも遭遇するわけだが、佐竹は事件が起こる直前まで前田日明と談笑しており、今回の安生洋二の行動については「格闘家でなくても後ろから殴られたら倒れると思うんですよ。こういう卑劣な闘いみたいな形で見られるのは、僕たちも迷惑です。決して後ろから殴った安生さんが強いとは、思えないですし」と格闘家として、正々堂々１対１で面と向かっていかなかったことを指摘していた。

10/29 森下社長がビンズ・マクマホンJr.になる!?



『PRIDE』の興行会社ドリームステージ・エンターテイメントの代表取締役　森下直人社長がWWFの首脳陣と会談のためアメリカへ渡った。

各種マスコミは、『PRIDE』に『WWF』の選手が参加か!?と騒ぎ立てたが、森下社長はキッパリ否定した。『PRIDE』としてではなく、ドリームステージ・エンターテイメントと業務提携する様子で、ドリステがもしかしたら近い将来、『WWF』を日本のファンのために、何らかの方法で見せてくれるかもしれないというまさに、夢のような話である。

『WWF』で『PRIDE』と言えば、連想する人物は１人である。そう、高田延彦。高田自身『WWF』に参加することを熱望していることもあり、何らかのアクションを起こす可能性も高いのではないか？　というか憶測も飛んでいる。

『PRIDE』は世界イチのバーリートゥード大会を目指し、もう一方では、プロレスラーとプロレスファンを刺激する場を提供しようという考えのようだ。

そして、来年１月30日東京ドームにて世界最強の男を決める『PRIDE　GRANDPRIX　2000』が開催される。

11/4 ミスター林死去



日本プロレスと全日本プロレスで『林牛之助』『ミスター林』として活躍した林幸一さん（享年57歳）が心不全のためお亡くなりになられた。

大相撲の間垣部屋から昭和34年11月、日本プロレスに入団し、崩壊後アメリカ遠征へ。その時のリングネームは『トーア・ハヤシ』『チャーリー・ハヤシ』と名乗った。帰国後、全日本マットで、現役生活20年を迎えてレフリーへ転向した。

タイトル戦線には、無縁だったが常に前座で観客を魅了していた。関係者からは、『牛やん』の愛称で親しまれ、趣味は、切手集めというチャーミングな１面もあった。そして、たった今、裸足の帝王ことヒロ・マツダさんが、11月27日肝臓ガンのためお亡くなりになられたという悲報が舞い込んできた。ジャーマン・スープレックスを日本人で初めて操った人物である。

またもや、昭和プロレスの偉人を亡くすことになってしまった。ご冥福をお祈りします。

10/31▼11/12 大仁田厚に運命の日が来た!!



大仁田厚のヒザの命、余命半年。今年に入ってから大仁田は、１・４東京ドームから長州力の首を狙い新日本プロレスのリング上とリング下で、数々の大仁田劇場を存分に繰り広げてきた。その大仁田が、千葉県浦安市のかかりつけである整形外科にて『ヒザの状態は、あと半年。これ以上続けると日常生活にも支障がきたす』という宣告を医者から言い渡された。大仁田自身は、実にあっさりと『11・12後楽園ホールにて長州力から返答がなかった場合は、プロレス界にさよならする』と言ってのけた。

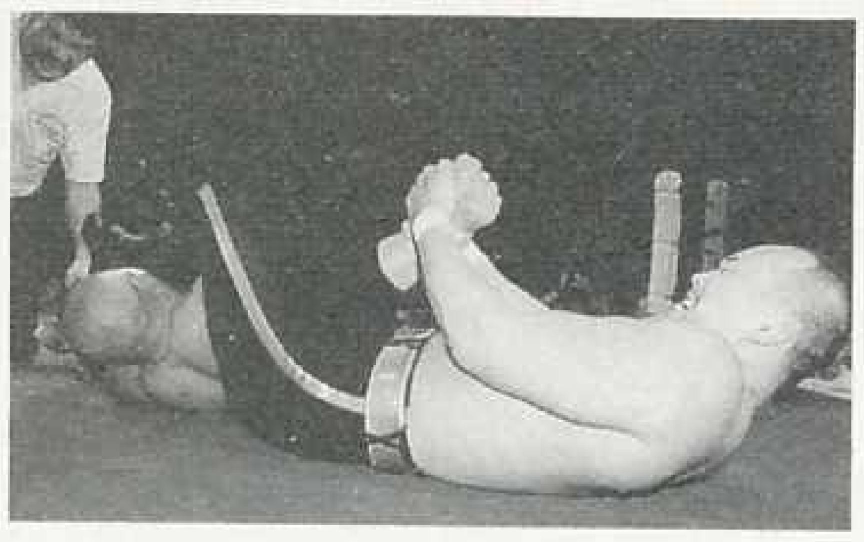
そして運命の日、なんと大仁田のもとに、新日本プロレス永島取締役が現れ、「長州のにおいを受け取れ！」と長州の長袖Ｔシャツを手渡した。その時、大仁田は確信した。「長州と闘える」と。その後この日会場いっぱいにつめかけたファンに、大仁田は涙を流しながら微笑んだ。大仁田がありとあらゆる手段を使ってでも闘うことを望んだ長州力戦は実現するのであろうか？

『長州の謎かけ』

この答えは、１・４東京ドームにて出される。



11/15 山ちゃん引退！ 1・4東京ドームで最後の勇姿を見ろ!!



おえーす！　（山ちゃんオリジナルあいさつらしい）新日本、ユニバーサル、ＵＷＦ、Ｕインター山崎一夫の歩いてきた19年間は、まさに格闘ロマンであった。

山ちゃんが自身のホームページで「両膝の後十字靭帯は切れ、腰もつらく、首はヘルニア、肩は脱臼、前髪はちと後退し、つねにちょんまげが結えなくなったのでそろそろ引退しようと思います」というコメントを出してるように、体（頭も？）はもうボロボロであった。

山ちゃんは、引退後、針灸と手技療法の『山崎バランス治療院』を2000年１月に開業し、新生ＵＷＦから思い描いていた人の体をケアする道に進むことになった。ちなみに、引退後の山ちゃんと直接触れあうのは治療院だけではない。山ちゃんホームページは途方もなく面白いので、１度アクセスしてみることをお薦めする。四角いリングのような堅い話から、人肌のこんにゃくまたはくずれかけたトウフのような、にゃらわか～い話（ホームページ抜粋）が聞けることは間違いない。そして必ず、や1・4東京ドーム永田祐志戦での山ちゃんを見届けようではないか！（http://www/teachrt.co.jp/YAMAZAKI/index2.html）

11/7 今年最後もクレイジーMAXで決まり！



みちのくプロレスの冬といえば、タッグリーグ戦『みちのく２人旅』。優勝候補筆頭であったサスケ＆望月成晃組は、バトラーツの土方の行き過ぎる手助けで後半まさかの連敗をし、優勝戦線から外れてしまった。そこで現在とどまることをしらぬ勢いのC-MAX、ＣＩＭＡ＆ＳＵＷＡ組の優勝となった。闘龍門からは、ＣＩＭＡ＆ＳＵＷＡ、スモーダンディフジ＆カレーマンの「カレーＭＡＸ」２組が参戦。今年のみちのくプロレス大量離脱事件以降、みちのくのリングで暴れ続けたC-MAXが、最後まで、大爆走し続けた。だが、彼らはデビューしてまだ２年足らず。いつも悪ガキぶってるＣＩＭＡも歓喜極まり涙を流すという感動的なシーンもあった。

そしてこの日、第３回スーパーＪカップが、来年４月下旬に開催されることが発表された。

今回は、みちのくプロレス主催で仙台スタジアムとＪカップの聖地、両国国技館にて２日間のトーナメント方式で行われる。

サスケ社長を全国区に押し上げたスーパーＪカップ。来年サスケプロデュースのもとに「スーパースター誕生なるのか！」期待は膨らむばかりである。

海外編 WCWの社長交代！ nWoも消滅！ おまけにWWFから超大物を引き抜き！

ＷＣＷの副社長であり、ｎＷｏの仕掛人でもあったエリック・ビショフが、その座を追われた。ｎＷｏ人気の翳りと共に中継番組の視聴率も低下。ライバル団体のWWＦとは思いっきり差がついてしまった責任を取る形となった。

現在、全米でWWＦがストーン・コールド人気やら、ビンスの大暴走やら、ロックがかっこいいやら……etcで爆発的人気を得ている。

ところが！　ＷＣＷにビル・ブッシュ新・副社長が就任した途端、ものすごい反撃を開始した。ＷＷＦ中継のプロデューサーをごっそり引き抜いたのだ。その中心人物であるビンス・ルッソは日本で言うところのゴールデン・タイムのドラマを手掛けていた人物らしい。ＷＷＦが極端にエンターテイメント路線になって、ＷＣＷを逆転したのもルッソらが手掛け初めてからだという。毎週２時間の中継番組にいくつものストーリーを張り巡らせ、練りに練ったストーリーでアメリカ国民を虜にしてしまったのが、このルッソ一派だった。いわば、ＷＷＦの頭脳である、ルッソをＷＣＷが引き抜いたのだ。昭和プロレス的に言えば、新間寿を全日本プロレスが引き抜いたようなものだ。さすが、アメリカ！　やることがハンパじゃない。

11/7 ターザン後藤道場入門希望者に告ぐ！ 入門テストは"根性"だ!!



インディー世直し番長、ターザン後藤が『インディレスラー養成所ターザン後藤一派』という道場をオープンさせた。（場所は、相模大野北里大学病院前）

「今のインディーは、どうしようもない奴らばっかりなのでそれをなくすために、この道場を作った」と言うように、ここは本物のレスラーを育てる「インディー虎の穴」なのだ。ちなみに、道場２階ではプロの作曲家による「あかね音楽教室」というカラオケ教室も併設される。

そして、やはり話はＩＷＡ浅野社長の話題に。「あいつはねぇ、財産家だから社長は辞めないよ」だの「あいつを社長から引きずり落とすとか言うよりも、財産かっぱらってやるから」と言いたい放題。もし、ＩＷＡ選手がここに通いたいと言いだしたらどうしますか？　との問いにも「ＩＷＡ所属選手たちにも高い金取るけど教えてやりますよ。浅野（ＩＷＡ社長）が練習に来ればおもしろいよ（笑）」と浅野社長をからかいっぱなしであった。どうします？　浅野社長！

11/上旬 佐野が入会したファンクラブとは？



高田道場の佐野なおきが、とあるミュージシャンのファンクラブに入会したことが発覚した。

その入会したファンクラブとは、「ジュディー＆マリー」。この一報を受けた時、正直言って編集部の人間たちも口をあんぐり開けてしまった。

だが、どうやら佐野選手は、ボーカルのＹＵＫＩがお気に入りで入会されたご様子。佐野選手のファンの方は是非ジュデマリグッズをプレゼントしてくださ～い。という事件なのか事件じゃないのか解らないが楽しい情報でした。

10/31 アキラ兄さん絶叫!?



小路晃が主宰する「A²-GYM」が１周年を迎え、ジム内で盛大なパーティーが行われた。アキラ兄さん特製チャンコとカツオのタタキで、宴も最高潮を迎えたところで、カラオケへ突入。もちろん「尾崎（豊）ッスよ！」という兄さんは、大絶叫！

そして１月30日のプライド参戦予定である兄さんは、「（ヒカルド・）モラエス）と闘いたいです！」とこちらも絶叫してくれました。もちろんガンガンいって下さい！　怪獣退治は任せたぞ！

10/17 宇野薫VS渋谷修身の同級生対決実現！



WK／NETWORK主催の『コンテンターズ』がＴＦＭホールで行われた。ここで宇野は高校の同級生であったパンクラスの渋谷とエキシビジョンで対決した。もちろん、お互いプロになっての初顔合わせ。終始、闘いながらも楽しそうな宇野の顔が印象的であった。

この大会は、Ｔシャツ付きでプナチナチケットになったというのもうなずける。そして会場内は、空気が薄く感じる程の観客で埋め尽くされていた。

11/16 まさにお笑い王国だ！

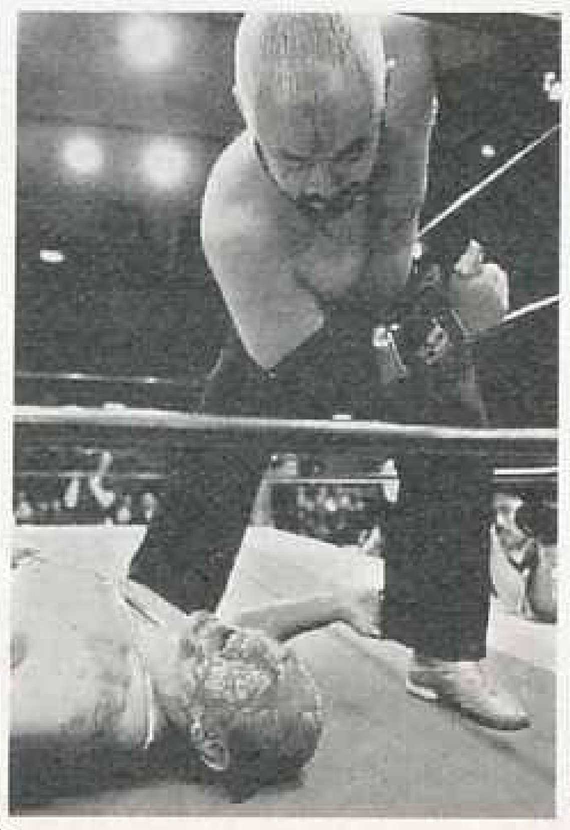


大阪プロレスが、お笑い王国『吉本興業』と提携することとなった。大阪プロレスをプロレス界の吉本興業にする！　というスペル・デルフィンの考えとリンクしてのことなのであろう。

大阪プロレスは、関西圏でのテレビやラジオの露出が激しく、もうお茶の間でもおなじみになりつつある団体になっている。

そのうち、スペル・デルフィンが吉本新喜劇に登場！　なんてことも近い将来ありえることになりそうだ。

11/13 やっぱ、アレクは凄い！



『PRIDE.8』でも素晴らしい闘いを見せたアレクサンダー大塚が、大仁田戦を熱望している。

大仁田が長州から返答を受けた次の日、今度はアレクのもとに大仁田から返事が届いた。その内容は、大仁田は1・4東京ドームで行われるであろう長州戦にプロレス人生全てを賭けており、中途半端なことは、アレクにとって失礼になるとのこと。そして、邪道の理解者が現れたことに感謝するとも記されてあった。どうするアレク！

10/26 押忍！『紙プロ』道場。



スペースシャワー『マタハリ』（司会は、ピエール瀧＆小日向しえ）に月イチで本誌編集長、山口日昇が絶賛出演中。この日のゲストは、リングス総帥　前田日明であった。

本番直前に、「これってテレビなん？」という爆弾発言も飛び出し、さすがのピエール瀧でもアキラ兄さんトークにタジタジ。そして、お客さんも最後には、アキラ兄さんトークの渦に巻き込まれるというとても不思議な音楽番組であった。

番外編-1 世界最恐!? 「チーム・OBAKE」のボスとは…?

日明兄さんが襲撃されることなど、まだ思いもよらなかったＵＦＣ－Ｊ前日。都内で大会直前の記者会見が行われた。会見にはＵＦＣ出場全選手（ヤマケン除く）とそのセコンド陣などが集結。格闘技界のオールスター勢揃いといった趣。

それぞれ自分のジム（チーム）のオリジナルＴシャツを着ている選手が多かったが、その中で特に目を引いたのはマーク・コールマン、ケビン・ランデルマンが着ているＴシャツ。「ＯＢＡＫＥ」の文字とイラスト。どこかで見たことあると思ったら、1・4闘強導夢2000に待望の初来日を果たす、ＷＣＷの”超人類”ゴールドバーグが『週プロ』の表紙（NO.930、眠そうな目をした藤波社長と握手している）を飾った時に着ていたモノと同じではないか！　よく見るとコールマンが被ってるキャップはゴールドバーグキャップである。コールマンとゴールドバーグの関係は？　もしかしてただのファン？　それとも噂されるコールマン、プロレス転向の布石？　謎を解明すべく質問してみると、なんとコールマンの隣に座るやたら屈強なオッチャンがゴールドバーグとコールマンの共通の師匠だというのだ。そう、この人こそ「チーム・ＯＢＡＫＥ」の首領、ティム・カタルフォさんその人なのだ。

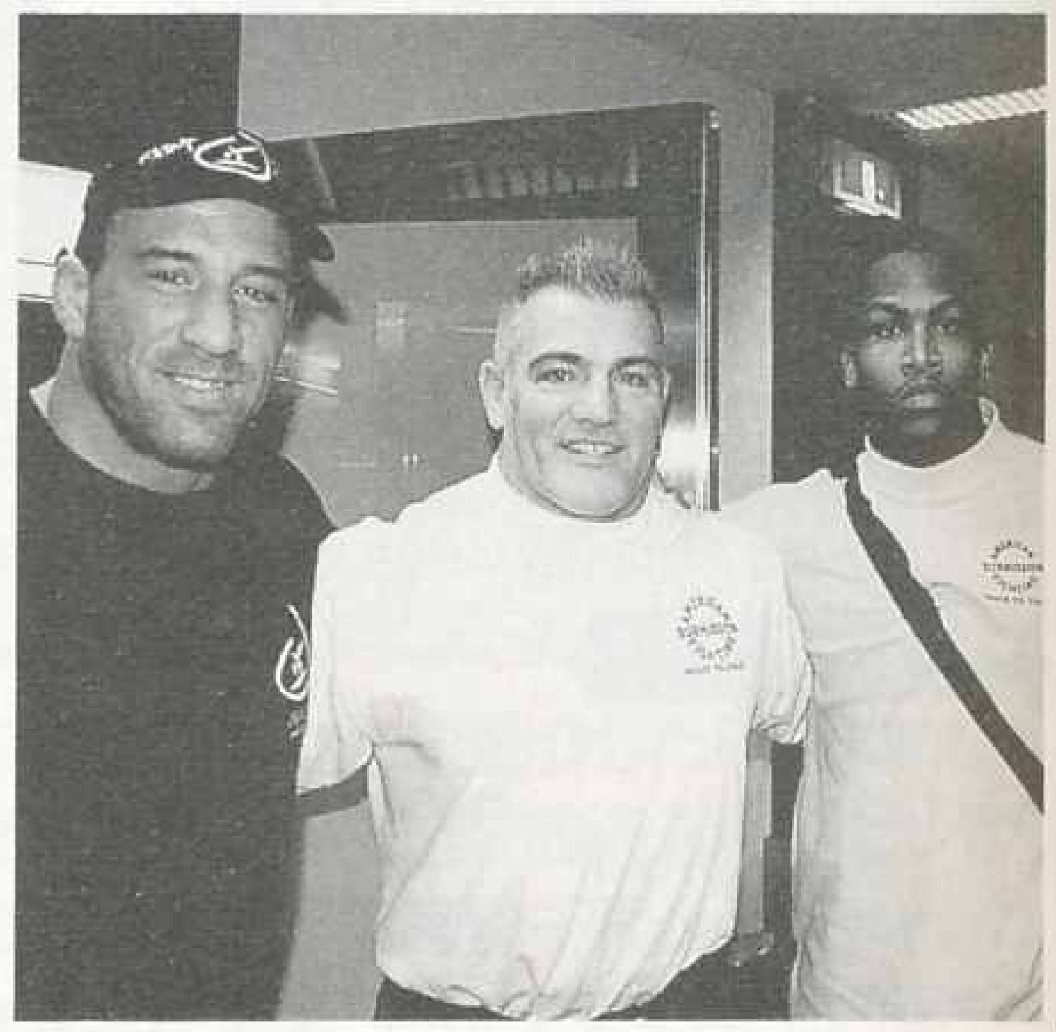


レスリング、ウエイト、プロレス、アルティメットの全てに精通するティムさんは、「ハンマーハウス」軍団にバーリ・トゥードのコーチをしながら、ゴールドバーグも鍛え抜く。さらに彼らの他に新日本の永田裕志がＷＣＷにいたときも指導。ケビンさんもビックリの敏腕トレーナーなのだ。ちなみに”オバケ”の名付け親は永田だという。きっと「モンスター」を日本語でなんと言うのか？　と聞かれて「怪物」ではなく「オバケ」と答えてしまったのだろう。

それにしても先日のリングス代々木大会（10・28）でのアニマル・ウォリアー＆ブラッド・コーラーの時もそうであったように、バリバリのアメプロとバーリ・トゥードのクロスオーバーはホントに夢が広がる。

夢が広がったついでに、将来的にはアニマルのＵＷＣ構想にこの「チーム・ＯＢＡＫＥ」も是非絡んで欲しい。

これぞガイジン・ムーブメント！



番外編-2 カリスマスクマン登場!! どすこ～い！ モヒカン!!



ある日、ボクの携帯に小野武志選手から電話が掛かってきた。「あのさぁ、リーダーが話があるっていってるんだけど、時間あるかな？」もちろん、リーダーとはトンパチ・マシンガンズのリーダー・折原昌夫選手のことである。

「オレの友人が美容師やってるんですけど、誌面で紹介してもらえないですかね？」

そういう売り込みは大歓迎！　しかも折原も取材に同行してくれるという。



で、行ってみると、マスクマンが髪を切っているではないか!?　なんだ、ここは！　このカリスマ美容師ならぬ、カリスマスクマン美容師のリング・ネーム（orバーバーネーム）は前田太尊さん。プロレス（ルチャ）好きが高じてマスクマン美容師になってしまったという相当のプロレスファン。折原がＳＷＳ在籍時代よりの友人関係だとか。お店には、折原もタマにきているらしい。

店にあるテレビでは、Fighting TV SAMURAI! が流れているし、マスク＋セーラー服のかわいい女の子はいるし、カット料は安いし、かなりいい感じ。客層は、サラリーマンから学生から幅広い層が利用している。「プロレスファンにも、どんどん来て欲しいですね」とのことなので、是非いちど行ってみよう。



ちなみに、このマスクマン美容師はいつもいるわけではないので要注意。行く前に電話で前田太尊さんを指名すると（指名料￥100）、マスクを被って待っていてくれるのだ。カットは￥1000と激安だけど、腕は確かなので、もはやこの店に行くしかない！

ちなみに、髪が伸び放題だったボクは、折原にカットをお願いした。撮影用に適当に切ってもらえれば十分だと思っていたら、「モヒカンにしませんか？」と折原が逆リクエスト。どうせ入稿で忙しくて外に出るヒマもないだろうと思い、気軽にＯＫしてしまったのが運の尽き。「ホントにやっちゃっていいの？」と言いながらも、嬉しそうにバリカンを滑らす折原の笑顔が忘れられない。10分後。見事なモヒカンになった。すると折原は満足げに「キミも今日からトンパチ・マシンガンズだ。役職は捕虜！」だそうだ。やったね！



AOYAMA ONLY CUT ZONE 3M　東京都渋谷区渋谷1―1―7セントラル渋谷246―201 TEL.03―3797―4737　営業時間　10：00～21：00　※カットは￥1000　指名料￥100！

番外編-3 青空地下道場にて、ターザン大炎上!! そして、なんと金髪鬼に変身だあ～！

♪ターザンを知らずに～僕は育ったぁ～……ってな具合に、ステッカー欲しさに『ビックレスラー』を購入、愛読していた筆者は、しばらくプロレスから離れていたのだが、カムバックしてみれば、もうターザン山本編集長の姿はなく、すでに落ちウォーリアーと化していたのである。だが、『週プロ』編集長としての凄さを知らないものの、狂い咲き53歳として、日夜、狂気ランブルしている、ターザンの姿は何度となく目にしているのである。

さて、この日は『青空地下プロレス道場』と題された、ロフト・プラスワンでのイベント。プラスワンといえば、前回のイベントの時に、ある遺恨が生まれたあの現場である。ターザンの元彼女がターザンへ三下り半を叩きつける衝撃映像を公開し、みんなで大笑いしていたところ、突如、バーニング・ターザンが吉田豪を黒幕と勝手に断定し、殴る蹴るの暴行を加えたはずが自分が負傷した、あの忌まわしき場所である。それから数カ月後の今日「遺恨再燃か？」と勝手に思いこんだ多くのもの好きたちが集結した。

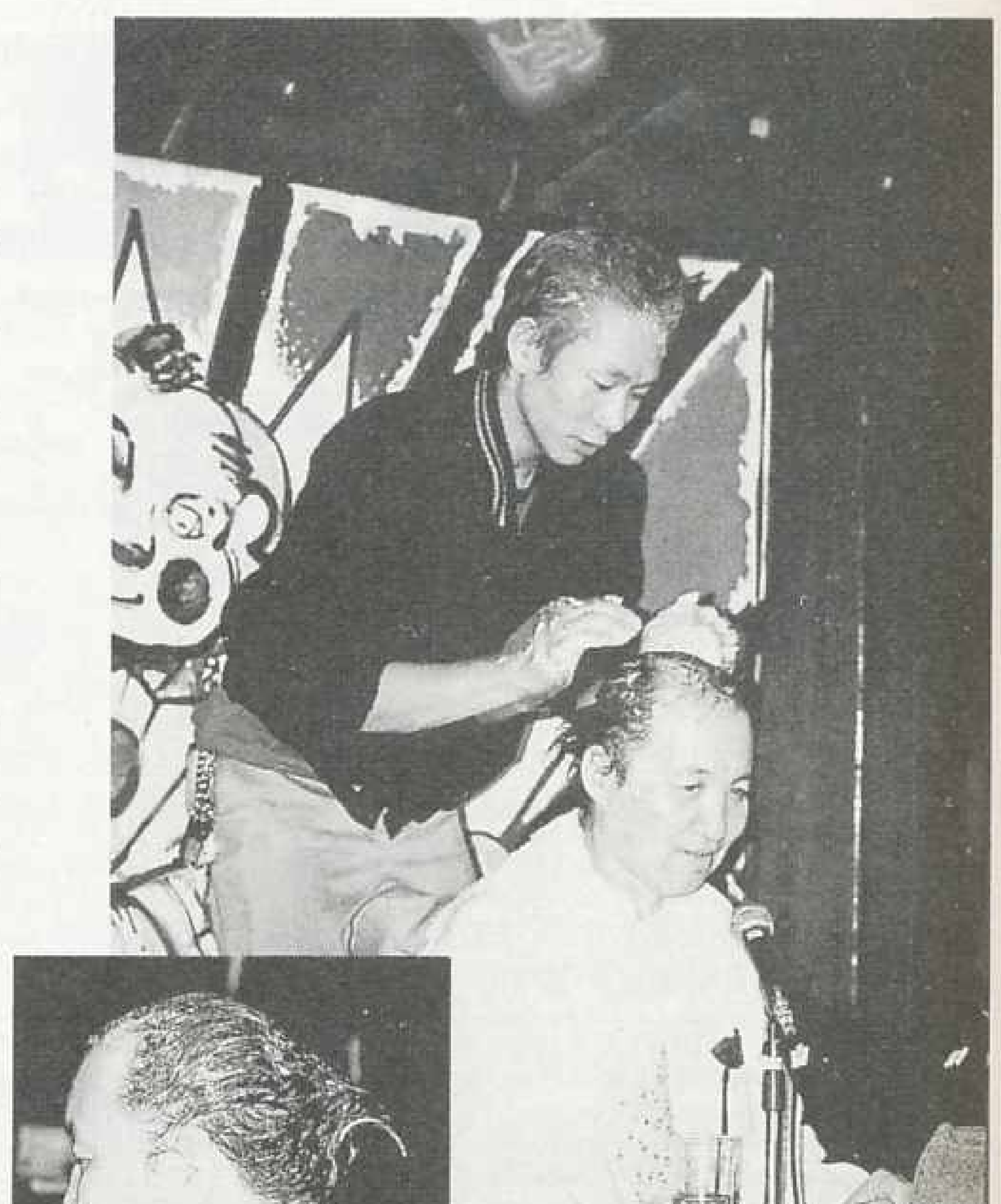
さて、その内容はというと、ターザンの背後から突如現れた吉田豪がターザンの顔面めがけてストレートを放ち、ターザンは即、気絶……後に某団体の影が……などということはもちろん起ころうはずもなく、ターザンは吉田豪に持ち上げられまくり、2階まで昇るような気持ち（中村カタブツ君調）になって、まったくもって上機嫌。なぜか壇上の松澤チョロ記者までも不必要に酔っぱらって上機嫌。それどころかターザンに「金髪にしましょう！」と唆し始める始末。そんな面白半分の誘いに、素直に飛び乗る”スーパー・ロデオ・マシーン”ターザン。壇上でブリーチし、見事に”まだら狼”として生まれ変わったのであった。あげく「これもアングルだからね。この自然現象的に起きたアングルは、ここに来るまで計画されてなかったでしょ？　そういう偶然には神が宿るんだよぉー!!」とは山口日昇言語である。”ゴッド・アングル”を思う存分、自分のモノとして乱用しまくるターザン。

「あんたかっこいいよ！」

このようにターザンの凄さは遅まきながら痛感させられた。だが、それを客にも驚かれない豪傑、山口日昇のような大人にもなりたくないということも痛感させられた。

（文／恒遠バカツネ）





ワールド メガ バトル
オープントーナメント

WORLD MEGA-BATTLE OPEN TOURNAMENT

KING of KINGS

世界最強の男はリングスが決める!

賞金総額50万ドル、優勝賞金総額22万ドル!
32名参加のオープントーナメント開催中!!

RISE 7th

予選Bブロック 1回戦／2回戦
12月22日(水) 大阪府立体育会館

OPEN 17:00　START 18:00

試合開始時間が変更となりましたので、ご注意下さい。





入場料金

ロイヤルリングサイド ¥20,000／アリーナリングサイド ¥15,000／リングサイド ¥10,000／アリーナSS ¥6,000
スタンドS ¥7,000／スタンドA ¥5,000／スタンドB ¥3,000／学生特別優待席A ¥2,000／学生特別優待席B ¥1,000
※学生特別優待席はチケットぴあのみでの販売となります。
なお、高校生以下に限らせていただき、ご購入の際、学生証の提示が必要となります。

発売場所

チケットぴあ	☎06-6363-9999
ローソンチケット (Lコード 57049)	☎06-6369-6633
ビデオショップ・チャンピオン	☎06-6645-5186
プロレスショップ・パディスラム	☎06-6645-1378
リングソウル	☎078-351-1550
リングス大阪インフォメーション	☎06-6364-9115

●お問い合わせ●
リングス大阪インフォメーション
06-6364-9115
WOWOW情報ダイヤル（24時間テープ案内）
045-683-8009

チケット絶賛発売中!!



GRAND-FINAL

世界最強の男がここで決まる!
2000年2月26日(土) 日本武道館

OPEN 14:30　START 15:30

入場料金

ロイヤルリングサイド ¥20,000／アリーナリングサイド ¥15,000
リングサイド ¥10,000／アリーナSS ¥6,000
スタンドS ¥7,000／スタンドA ¥5,000／スタンドB ¥3,000
学生特別優待席A ¥2,000／学生特別優待席B ¥1,000
※学生特別優待席はチケットぴあのみでの販売となります。
なお、高校生以下に限らせていただき、ご購入の際、
学生証の提示が必要となります。

発売場所

チケットぴあ	☎03-5237-9999	書泉ブックマート	☎03-3294-0011
CNプレイガイド	☎03-5802-9999	大山アメリカン	☎03-3962-6443
ローソンチケット	☎03-3569-9900	ビデオショップチャンピオン	☎03-3221-6237
後楽園ホール	☎03-5800-9999	フィットネスショップ水道橋店	☎03-3265-4646
レッスル渋谷	☎03-3464-0078	ファイター 新宿店	☎03-3354-1903
レッスル池袋	☎03-3989-0056		

●お問い合わせ●
オデッセー　03-3796-9999
WOWOW情報ダイヤル（24時間テープ案内）
045-683-8009

12月12日(日)午前10時より チケット発売!!

FIGHTING NETWORK RINGS

主催
BS-5ch WOWOW
FIGHTING NETWORK RINGS

紙のプロレスRADICALは、強くて凄くて美しい女子格闘家を応援します♥

誰か私と闘ってくださ〜い!!

元LLPWレフェリーから日本最強の女子柔術家へ



出てこいヒクソン(夫人)!!

前号の『書評の星座』で紹介した「闘うココロ闘うカラダ」。文中で吉田豪を最もシビレさせたのが、女柔術家渡辺千景と、「ファイブ、シックス、セブン、イレブン?」という場外カウントで脚光を浴びた元LLPWレフェリー前田絵美が同一人物だったという事実だ。渡辺はLL脱退後、国内柔術界では敵ナシ、残るは女ヒクソンことレカだけと言われるまでに成長した。そんな渡辺に話を聞いてみた。題して『戦国前田絵美=渡辺千景読本』



聞き手/吉田豪
interview Go Yoshida
撮影&構成/チョロ
photograraphs&text by Choro

渡辺千景
Chikage Watanabe
PUREBREDシューティングジム大宮

——それにしても柔術家の渡辺千景さんとＬＬＰＷ（以下ＬＬ）の前田絵美さんが同一人物だとは想像もつかなかったですよ。

渡辺　アハハハハ。もう、いまは「渡辺さん」って呼ばれてますね。

——本名は前田さんなんですよね。渡辺千景さんっていうのはどこから来たんですか？

渡辺　これは友達の名前で……。試合前に急いで書いたら字を間違えちゃって（笑）。本当は千景の「景」が「影」だったんです。

——名前を変えた理由としては、例えば前田絵美名義では格闘技にはいけないような状況だったりしたんですか？

渡辺　女子プロにいたことを知ってる人でシューティングも見てる人とかいるからっていうのもあるし。バレるとかじゃなくてちょっと変えていきたいなと思って（笑）。

——ビジュアル的にもＬＬ時代と変わってたから分からなかったですよ。

渡辺　変わりましたぁ？　アハハハハ。

——ＬＬ色がないですよね。

渡辺　ＬＬ色ってどんな色ですかぁ（笑）。でも、あの頃は疲れてましたね。いまはとっても自由で、それが一番いいです（微笑）。

——そんなにプロレス界は堅苦しいところだったんですか？

渡辺　他の人は分からないですし、好きなことがやれればいいのかもしれないけど、私にとってはかなり窮屈な感じでしたね。

——ＬＬは不思議と下の人が育たない団体ですからね。いろいろあるんだろうなぁとは、ぼんやり思いますけど。それで、渡辺さんがプロレスを始めたきっかけっていうのは、昔から全く根拠のない強さの自信があったっていうことですけど？

渡辺　昔から、「多分私なら大丈夫なんじゃない」って思ってたんです（笑）。

——それは、ヤンチャしてたからですよね（笑）。族方面に行ったのはいつ頃からですか？

渡辺　（照れくさそうに）暴走族は、中学3年ぐらいですねぇ。アハハハハ。

——その頃は世代的に族ブームは過ぎてるんじゃないですか？

渡辺　私が入ったときは、田舎だし暴走族はいっぱいいたんですけど（笑）、辞める頃にはだいぶ少なくなってましたね。

——族時代から素手ゴロ派だったんですか？

渡辺　どうなんですかね。でも喧嘩する相手を探して毎日ウロウロしてました（笑）。それで喧嘩したら「楽しかったね♡」って帰るんですよ（笑）。

——ダハハハハ！　まさにサーチ＆デストロイだったわけですね（笑）。

渡辺　いまはやってませんけど（笑）。

——そりゃ、いまやってたら問題ですけどね（笑）。それで当時は路上での闘いは、とりあえず無敗だったわけですか？

渡辺　そうですね。でも、いま思えばメチャメチャな喧嘩をしてたんで（笑）。

——どういう喧嘩だ（笑）。もしかして後ろから木刀で殴りかかるとかですか？

渡辺　いや、そういう武器らしきものは使わずにやってましたね。かかとの高いハイヒールで踏み潰したりはしてましたけど（笑）。あれは結構痛いですよね、多分。

——自分はやられたことがないから分かんないわけですね（笑）。やっぱり基本的にタイマンなんですか？

渡辺　そうです（キッパリ）。だから友達と取り合いですよ。「これは私の獲物」みたいな感じで（笑）。やっぱり若い頃って自分の中で伝説じゃないけど、みんなストーリーを作りたいじゃないですか？　それを人に話したりするのが楽しいってだけで。

——最終的に総長にまでなったんですよね。

渡辺　（恥ずかしそうに）なりました（照）。

——レディース名はなんていうんですか？

渡辺　いまもまだあるんですけど、名前出すのはヤバイっす!!

——ヤバイっすか（笑）。路上の女王的には、それでプロレスでもいけるんじゃないかって思いが出てきたわけなんですね。

喧嘩する相手を探して毎日ウロウロしてました（笑）

渡辺　その頃はプロレスは全然興味がなかったんだけど、引退して家で夜を過ごすようになってからテレビで見るようになって。それで試合を会場に見に行きはじめて「やりたいな」と思うようになって。族を引退しちゃったから「つまんないなぁ。なにも刺激がないなあ」って感じで（笑）。

——蝶野さんと同じパターンですね（笑）。でも、なんでＬＬを選ばれたんですか？　やっぱり三禁がなくて楽そうだとか（笑）。

渡辺　三禁がないっていうのは知ってましたけど、やっぱり全女とかだと人が多いから、なかなか上にはいけないだろうなって思って。試合を見てたのもＬＬが多かったんで。

——紅夜叉さんのレディース系ギミックとかを見て「偽物じゃねえか！」って思ってたりしたんですね（笑）。

渡辺　いやいや、それはないです（笑）。なんか全女は厳しそうな感じがしたけど、ＬＬはいろんなキャラクターとかがいて凄い自由な感じがしたんですよ。

——オーディションのときに空手着の写真を送ったっていうことですけど、空手もやってたんですか？

渡辺　2～3ヶ月かな（笑）。入りたいと思ってから始めたから。オーディションが受かっちゃったんですぐ辞めたんです。他にスポーツとかも全然やってなかったんで。

——やっぱり族的にはそういう爽やかなスポーツとかはやらないですよね。じゃあシンナーとかはやってたんですか？

渡辺　アハハハハ。一通りはすべて（笑）。好奇心旺盛だったんで。でも中学校を卒業するころには全部終わってましたね。あとは更正していくばかりで（笑）。

——三禁って言ったってシンナーまでは止め



ちゃいないですからね（笑）。でも、実際に入ってみてLLはどうだったんですか？

渡辺　やっぱり練習は厳しいですよ……。新人の時は（笑）。

――新人の時は（笑）。ずっと基礎練習みたいな感じですか？

渡辺　はい。なによりも朝練がキツかったですね。走ったりスクワットとか腕立てとかあれが嫌なんですよね。コツコツ地道にやるのは向いてないんで（笑）。でもあの時は「やらなきゃ強くならないんだなぁ」って思ってて。あの頃は素直だったんで（笑）。

――あの頃は（笑）。極めっこみたいなスパーリングはやってたんですか？

渡辺　少しだけやってましたね。十字固めとアキレス腱固めのふたつだけ教えてもらって、それを新人同士でやってました。全然形にはなってないんですけど、私はそれが面白いなと思って凄い好きになったんですよ。だから、先輩とかいないとき新人だけだとそういう寝技の練習ばっかりしてましたね。

――もともと選手を目指してたわけですよね。途中でケガをされたんですか？

渡辺　ケガは、いっぱいしましたね。私は喧嘩の時代から肩がすぐに外れちゃうんですよ（笑）。喧嘩してる最中に男の人に止められてガーッって引っ張られて、腕がおかしくなって。それで一回手術して、「普通の生活をするんだったら大丈夫」って言われてたんですけど、そんな言葉も忘れて……。

――レスラーになろうとしたわけですね。

渡辺　はい（苦笑）。その頃、初めてのL－1があって神取さんと遠藤（美月）さんを私が運転手としてシューティングジム大宮に連れて行ってたんですよ。私は練習するわけでもなく、ボケ～ッと体育座りで座ってたんです。その時はまだあんまりシューティングを知らなかったんで「退屈だなぁ」って思って（笑）。それよりも、眠さと、「帰りの運転どうしよう」ってことで「早く終わってくれ～」って思ってましたね。

渡辺千景のワル時代



前列右が、レディース時代の渡辺千景だ。

好奇心旺盛だったんで、シンナーとか一通りはすべてやりました（笑）

――L－1は見ててどうだったんですか？

渡辺　やっぱり興奮しましたね。なんか全然プロレスとは違うし、試合が終わるのも早いし、それに内容も濃いし。目が離せない感じになるのは、やっぱ凄いなと思って。ちょっと衝撃的でしたね。

――LLとしては、「ケガもあるから選手は無理だけどレフェリーとして続けてみないか」という感じだったんですよね。

渡辺　そうですね。とてもレフェリーに向いてるとは思えなかったんですけど（苦笑）。（頭を抱えて）あぁ～、私はいろいろ失敗したから。思い出したくない（笑）。

――有名なのがセブンイレブン事件ですよね（笑）。そういうのがあってLLを辞めようと思ったわけですか。それよりももっと単純な人間関係とかが原因ですか？

渡辺　やっぱりプロレス界は堅いところもかなりあるから。堅いところっていうか、なんだろ？　わかりやすく言えば厳しいィ！

――それは実にわかりやすいですね（笑）。

渡辺　やっぱり上下関係とかも凄いあるし。私には合ってないと思いましたね。

――でも上下関係が厳しい暴走族にいたわけじゃないですか？

渡辺　う～ん、またそれとはちょっと違う感じですね。それと、シューティングは「絶対にやりたい！」って思ったんで。その頃はまだ客はあんまり入ってなかったんですけど、「シューティングはこれから来るな。絶対これは流行る」って直感で（笑）。

――予想通りだったわけですね。それで、LLを辞めて大宮ジムに通いだしたと。

渡辺　そうですね。毎日行ってましたよ。バイトもあまり疲れないように、練習の時間はしっかり空けてって感じで。シューティングをやるためだけに生活してましたね。

――それだけシューティングとプロレスには決定的な違いがありましたか？

渡辺　う～ん、私にはシューティングの方が全然面白かったから。

――だけど女子プロ的にはもったいないですよね。LL時代、前田さんは関係者とかマニアの間とかでは結構人気ありましたから。

渡辺　いやいや、ないですよぉ（照）。

――巨乳レフェリーとか言われて一部で騒がれてましたよ（笑）。

渡辺　アハハハハ。でもあの頃は、雑用と、それと運転手もやってたんで全然寝る時間もなくて。毎日睡眠時間は2～3時間って感じだったんですよ。いつも眠くて高速道路でも何回寝たかなってくらい（笑）。お肌もボロボロでもう最悪でしたね。「普通の生活がした～い」とか思ってました。

――じゃあ、数々の失敗も寝不足のせいなわけですね（笑）。女子プロで人が持たない原因をボクも勝手に推理してるんですけど、入る前に普通の生活してた人とか自由を知ってる人は逆に持たないと思うんですよ。中卒でわけも分からないまま入って来た人とかの方が持つんじゃないかって。例えば三禁とかの問題にも絡んでくるかも知れないですけど、女子しかいない生活が嫌になるということも多々あるわけじゃないですか。

渡辺　あ～、それはあるかも知れない。それが普通だと思えばいいんでしょうけどね。

――暴走族とかでやりたい放題してたらそれは持たないだろうって気がするんですよ（笑）。渡辺さんは、あくまでも喧嘩の延長みたいな感じでLLに入ったんですね。

私は女子プロに入ったら一番上にすぐに行けるかなって思ってたんですけど（笑）

渡辺　そうなんです（笑）。あんまり考えないで、「またやっちゃったな」って感じで。私は女子プロに入ったら一番上にすぐに行けるかなって思ってたんですけど（笑）。

―でも行ってみたら違ったと。

渡辺　違いましたね（笑）。でもそれはそれで、その時はいろいろ考えることもあったけど、お客を喜ばせるとか違う楽しみもあったりしますからね。それもまた難しいなあと思ったから。レフェリーも、トミー（蘭）さんみたいにカッコよく上手く出来ればいいけど、なんか私は中途半端で（苦笑）。

―中途半端（笑）。それで、シューティングをはじめてスパーリングとかやると自分がどのくらいの強さを持ってるか把握できますよね。実際どうだったんですか？

渡辺　初級コースとプロ志望の上級コースがあって、まずは初級コースでいろいろやってたんですよ。その中では男の子を入れても結構強い方だったと思う（笑）。

―いままでアマシュートとかコンバットレスリングとかいろいろと試合をしてきて、とりあえず無敗なんですよね。

渡辺　でもハッキリ言ってそんなに試合は出てないですからね。トーナメントとか出ても4人とかなんで（笑）。4人でもトーナメントっぽくなってると嬉しいですけどね。ワンマッチで勝っても、「1試合勝っただけじゃん！」ってよく言われますから。

―まだまだ女子の競技人口が少ないですからね。ボクとしては、八木淳子さんとうまく絡んで欲しいんですよ。あの人も渡辺さんと同じように、自分がプロレスに向いてないのを分かってるから、総合方面に行きたいって言ってるんですよ。

渡辺　そうなんだぁ。辞めた者同士で（笑）。

―多和田（初美）さんっていう元LLの刺青レスラーも、いまはキックボクシングをやってるんですよ。だからLLを辞めた人の格闘技チームが出来るんじゃないかと思って。みんなビジュアル的にキャラが立ってるし、ヘタすればLL本隊よりも話題をさらえるんじゃないかって（笑）。女子版UFOみたいな感じで。

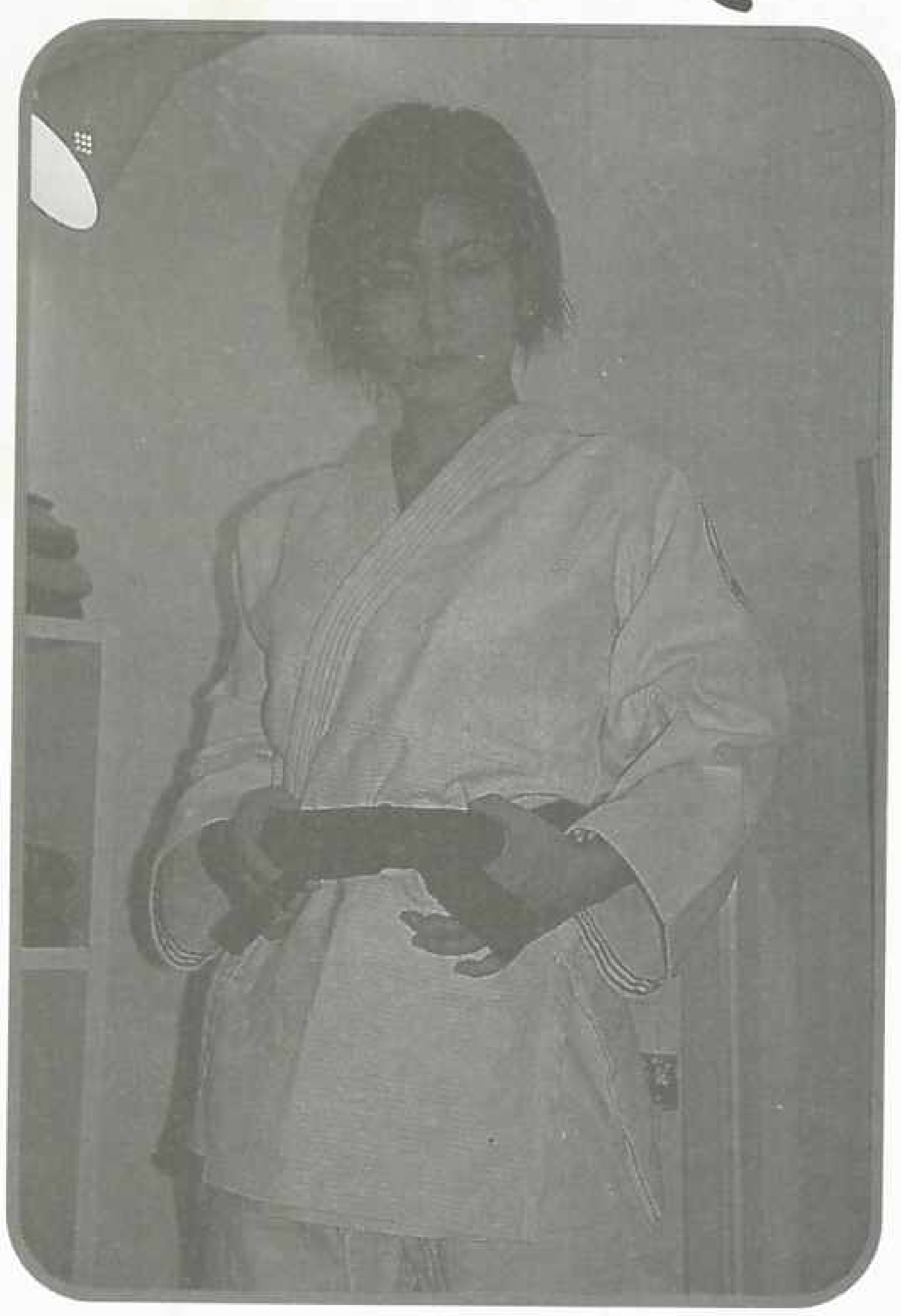
渡辺　凄いな、それは（笑）。私も頑張らないと。でも、最近ギターを習い始めたんですよ。いまはギターに夢中！　ヤバイですかね？（笑）。私はやりたいと思ったらすぐにやっちゃう方なんで。いまはフォークギターですよ（笑）。

―「ゆず」みたいな感じですか？

渡辺　「ゆず」も好きですよぉ。格闘技の練習も頑張りますけど（笑）。

―でも、ビジュアルだけ見ても、例えば『PRIDE』で渡辺千景vs山本聖子とかが組まれたら客呼べますよ。

渡辺　え〜、私じゃ呼べないよぉ（笑）。







PLOFILE●●●●渡辺千景【わたなべ・ちかげ】S50・10・19、愛知県出身。本名・前田絵美。H7・10・4浜松での立野&ハーレーvs紅&青野戦でレフェリーデビュー。その後、LLを脱走し大宮ジムで練習を積みシューターとなる。柔術（青帯）でも国内敵ナシで対戦相手を求め練習（ギター含む）に打ち込む毎日。デートはマンガ喫茶希望！153cm、50kg

―十分呼べますよ！　前から『PRIDE』は女子を絡めるべきだとずっと言ってるんですけど。海外とかでは女子のフリーファイトの試合が結構ありますからね。

渡辺　そうですよねぇ。私もブラジルに行きたいなぁ。ブラジルはいっぱい選手がいるじゃないですか。ホントに日本は何年先にいまのブラジルみたいになるのかなぁ？

―シューティングで女子の試合が組まれないんであれば、軽い気持ちでやりたいって人しか入ってこないでしょうね。やっぱり華々しい成功例がなければ土壌は広がらないですよ。渡辺さんがやるしかないですよ！

渡辺　私でいいのかなぁ（笑）。

―女子プロとかでも異種格闘技戦とかやってるじゃないですか。プロレスの興行と絡むのは抵抗があるんですか？

渡辺　特にはないですけど。ルールが分かりやすければなんでもいいです。シューティングのルールもだんだん分からなくなってきたし、柔術もよく分かってないんですよ（笑）。もう、全っ然覚えきれないんです。

―シンナーの後遺症ですかね（笑）。

渡辺　失礼な！（笑）。でも、やっちゃいけないことをやったら注意されるから、そしたら止めればいいかなって（笑）。ルールを覚える気は……ない！　アハハハハ。

―ギターは覚える気があるのに（笑）。ブラジルっていえば、キム・グレイシーと闘うっていうのはどうですか？

渡辺　キム・グレイシーってヒクソンの奥さんですよね。いいなぁ。それはやりたい！

―片っ端からグレイシー・ファミリーの奥さんを潰していくとか（笑）。

渡辺　いいですねぇ。ワイフ狩りですね（笑）。キム夫人って強いんですか？

―キムさんはちゃんと柔術やってるみたいですよ。顔も怖いし（笑）。「出てこいヒクソン！」って言っときましょうよ。ちっちゃく「夫人」って入れといて（笑）。

渡辺　グレイシーって名前が付いてるのはい

撮影協力：OCTAGON　〒150―0001　東京都渋谷区神宮前5―16―8　℡03-3486-5539
道衣協力：格闘技Shop「ファイター」〒160―0022　東京都新宿区3―3―9伍名館ビルB1F　℡03-3354-1903

グレイシーって名前が付いているのはいいなぁ。キムと闘いた〜い！

いなぁ。やっぱ、日本人とやるのも見る人は面白いと思うけど、ブラジル人とやるのも分かりやすいですよね。

——あとは神取さんとやるとか。感情のこもったファイトがみられそうですけど。

渡辺 あぁ〜、そうかもしれないですね。

——バーリ・トゥードとかだったら、渡辺さんが知ってる限りのプロレスラーには負ける気はしないんですか？

渡辺 う〜ん、どれぐらいのレベルか分からないからなんとも言えない。でも、ＪＷＰの（カルロス）天野さんとは練習したことあるけど、凄く関節技とか知ってますよ。私より知ってるかもしれない（笑）。

——ダハハハハ！ でもホントに目標を持って、いろいろ絡んでいった方がいいですよ。「対戦者募集」ぐらいしましょうよ。

渡辺 やっときますかぁ（笑）。でも、やるんだったら強い人とやりたいですね。誰か私と闘ってくださ〜い（笑）。

——ダハハハハ！ その調子で行きましょう。ようやく脚光を浴びてきてるんだから。

渡辺 24ですよぉ。遅いなぁ、も〜う（笑）。

——これからモテる時代がきますよ。

渡辺 でも、男は強くなると「素敵」って言われるけど、女の子は離れていくよ（笑）。やっぱり私が男だったら普通の子がいいなと思うし。男に生まれたら良かったかな。男だったらエンセンみたいになりたい（笑）。

——賢い野蛮人になりたい（笑）。

渡辺 エンセンは「みんな家族だ！」って可愛がってくれるし、ハートで闘うっていうのも好きだし、凄いカッコいい！

——リング上でもリング外でもあれだけ感情むき出しでやってる人って単純に面白いですからね。渡辺さんも〝女エンセン〟として、「キム・グレーシーを殺したいヨ！」って（笑）。

渡辺 アハハハ。でも、キム・グレイシーとはホントに闘いたい。レカ（柔術黒帯）も捨てがたいけど、キムの方がいいかな？

——キム夫人のセコンドにはヒクソンがいるんですよ。渡辺さんもエンセンさんにセコンドお願いしましょうよ（笑）。

渡辺 今度頼んでみます！

——負けそうになったら乱入してくれるんじゃないですか（笑）。

渡辺 乱入素敵！ でも、そのセコンドは豪華だなぁ（笑）。ホント頑張ります！ なんか今日は元気づけられた（微笑）。

——僕等に力になることがあれば何でもしますよ。プロレス界が活かし切れない人材ってたくさんいますし、そういう人にも、ちゃんと光を当てないともったいないですからね。ガツンといきましょう。押忍！

渡辺 押忍!?（笑）。ありがとうございました。

【11月8日／東京・神宮前／SKYLARK GARDENSにて収録】






コンバットレスリング、アマ修斗など、数々の大会で優勝を重ね、柔術界に進出した千景。そこでも順調に勝ち続け、狙うはキム夫人の首ひとつ!? 千景はエンセンより先にグレイシー狩りを果たせるのか？ 注目しろ！

「女で生きたい！ 女で死にたい！ 女になりたい！」
女の子も待ってるヨ!!





エンセン井上、朝日昇、加藤鉄史、池田久雄、J・ガルボ、A・ネツラー、運が良ければ山本美憂＆聖子、そして渡辺千景！ 死ぬまで大和魂を背負った一流選手が指導するシューティングジム大宮でキミも汗を流そう！ 初心者やプロ志望の人はもちろん、渡辺千景のような大和撫子になりたい女の子も大歓迎！ 埼玉県大宮市丸ヶ崎2919－1
PUREBREDシューティングジム大宮 TEL048-686-3328





時代を先取り
NEW POWER!!
紙プロ発掘
格闘家列伝

オレ、修斗のベルト獲って全日本へ行きますよ!!

佐藤耕平

J・J・A

うわっ、デカッ!　これが佐藤耕平の第一印象である。この男、今年修斗でデビューした選手の中でも、ひときわ異才を放っている。なんでも幼少の頃からプロレスラーに憧れ、総合のタイトルを制覇し、全日本プロレス入りするのが夢だという変わり種。その、実に恵まれた体格と格闘センス、そして豪快かつオチャメで怖いもの知らずな人柄といい、これからの格闘界で要注意人物なのだ!!

聞き手／タマリン
interview Tamarin

撮影／NAHOMIX
photograraphs by NAHOMIX

試合写真／長尾廸
photograraphs by Susumu Nagao



J・J・A館長　(UFO)　村上一成談

えっ、コーヘー？　ビック・ハート!!

(こいつ、試合で緊張することなんてないんだよ！)

修斗やってるからって「プロレスは強くない」なんて批判的なことを言うつもりはないです。

修斗をかなり前から見まくっている中で、見逃せない男を発見！　その口調と身につけてる物といい現代っ子バリバリなのだが、しっかりとした信念とシューターというプライドも持ち合わせた佐藤耕平。このインタビューは、テレコを回した瞬間から始まった。

耕平　ちょっと聞いてくださいよ。オレ、絶対、全日本入りしますから！

――な、何を言ってるんですか、突然!?

耕平　マジで！

――衝撃告白（笑）。マジって、修斗はどうするんですか！

耕平　（アキレ顔）わかってないなぁ～。今すぐじゃなくて将来的に。とりあえず、修斗ヘビー級のベルトを獲ったらですよ！

――なるほど！　いやぁ～、さすが村上（一成）さんの元にいるだけあって、かなりの格闘ロマン持ってますね。

耕平　オレ、プロレス入りを熱望していた人間なんで。「プロレス入りしたい！」と思って、高校から柔道やったら予想以上に、いい成績残してしまって……。

――じゃあ、大学推薦とかたくさんお誘いがあったんじゃないですか?

耕平　それが、高校の柔道部の監督に「お前卒業したらどうするんだ」って言われて、「イヤ、プロレス行きます！」って言ったんですよ。そしたら「そうか、わかった！」って。それで、1週間くらいして呼び出されて「お前、大学決まったから」だって。

――ギャハハハ！　勝手に決められちゃったんですね。

耕平　「お前、話聞いてないのか、ハゲ！」とか思って（笑）。すげぇ、ヒドイんですよ！　なんか推薦が、8校とか9校とかきてたらしくって。オレそんなの関係ないから、一生懸命『浜口ジム』とかに通って体を作ってたんですよ。

――アニマル浜口ジムに通ってたんですか!?

耕平　だから、リングスの滑川（康仁）さんとかと同期ですね。他に、極真空手にも通ってたんですよ！　そこまで準備してたのに、勝手に監督が大学決めちゃって、「お前、ふざけんなよ！」とか思って（笑）。

――アハハハ。でも、結局大学は卒業してないんですよね。

耕平　うん！　バックレちゃいました(笑)。

――バックレちゃいましたか（笑）。

耕平　辞めたらもう「好きなことやるしかないでしょ！」と思って。そしたら、実に偶然アマチュア・シューティングの試合があって、ポッと出たら優勝しちゃって（笑）。

――そこから、佐藤耕平プロシューターへの道が始まったんですね。

耕平　どうなのかなぁ?　今、修斗やってるんでそうですけど。別に「プロレスラー」って呼ばれようが何でもいいですよ。

――何でもいいんですか（笑）。じゃあ、「格闘技」と「プロレス」って耕平選手の中で区別がないってことですか?

耕平　違うもんだと思いますよ。でもオレは、例えば「修斗やってるからプロレスは強くないよ！」とか批判的なことを言うつもりは全くないです（キッパリ）。だって、全日本の選手とか見てても、あんなデカイ選手がバーリー・トゥードやったらハンパなく強いと思いますよ！

――そこで、全日本が出てくるんですね。

耕平　マジでしゃれになんないですもん！

――デカイやつが強い！

耕平　でも、デブはダメ～（笑）。実際ねぇ、プロレスっていうのは、自分らの非日常的な世界で、デカイ選手が鍛え上げられた体と強さを見せるから、お客さんもお金を払って見にくるわけでしょう。ミクロなやつらがどれだけもがいても、プロレスラーからしてみたら眼中にないって！

――だから、大きい選手がいっぱいいる全日本がいいんですね。

耕平　実にいいよ！　だって観客と対話できるなんてないですもん！

――でも、修斗やってて「プロレスやりたい！」っていう若い選手は珍しいですよね。

耕平　自分の中では、やっぱり「プロレスラーは強い！」っていうのがあって。だけど、総合やってる選手に限ってプロレスってものを批判しがちなんですよね。その辺は、どうかなぁ～と思うんですよ。

――でも、体は別としてルールの違いってありますよね。

耕平　だからオレ、ルールってこだわりないんですよ！　例えば、リングスに出たってそのルールに合わせればいいんですから。

――どんなルールでも「ドンとこい！」って感じですか?

耕平　そうそう。なんかよく、ルールにこだわる人っているじゃないですか。そんなの自分でルールは、対応すればいいことだし。それができないってことは、ある意味「頭堅いなぁ～」って思いますもん。

――耕平選手は、頭が柔軟だから何でも対応できますよってことですね。

耕平　実に柔らかいよ！（笑）だってね、ルールのせいで負けたなんてブーブー言っても「テメェが把握してないからじゃねぇか！」って思いますもん。

――おっしゃる通りです！　ちょっと話は変わりますけど、耕平選手は柔道出身ということで「打撃はできない」と言われてるじゃないですか?

耕平　実にできない（笑）。だから今、かなり真剣に練習してますよ。

――でも、藤井（勝久）戦（修斗公式戦2戦目）では打撃で勝ってますよね。

耕平　マウントパンチとか全然、練習してないです（キッパリ）。

――えっ、全然練習してないんですか!?

耕平　オレ、みんなに言われるんですけど、練習でやったことって試合で一つも生きてないんですよ（笑）。絶対、練習してないことが、なぜか出てきて勝っちゃうんですよね。スルッと（笑）。

――滑るように（笑）。ちなみに、得意技っ



今年3月、対アンソニー・ネツラー戦でデビュー。「勝ったことには、喜べますけど、技術面では実に反省した」と本人は言うものの粘り強い闘いでハートが強いことを証明した。ちなみに、この試合のビデオ解説で「ヘビー級の佐藤ルミナ誕生ですねぇ」と言われ、さらにガックシきたらしい。(なぜだ!?)

小川直也談



村上のとこに、デカくていいのがいるんだよ！

総合格闘技のタイトル全部持って全日本に入りたい!!

てなんですか？

耕平　三角絞めが得意！　でも、試合で1回も出したことってないんですよ（笑）。

——アハハハ。得意技を出したことがない！

耕平　デカイわりには、足が細いから。バリエーションは、いっぱい持ってるんですよ！　でも、試合では使えない（笑）。

——アハハハ。で、修斗なんですけど、ヘビー級はエンセンさんがベルトを返上して、ランキングが消滅状態ですよね。

耕平　う〜ん。だからやっぱ、ランキングを設定してもらわないと実に張り合いがない！　ランキングがあった時は、1位ポール・ジョーンズで、チャンピオンがエンセン（井上）さんで、「エンセンさん目指してやってやる！」っていうのが、凄いあったんですけどねぇ〜。

——だから、試合も組まれにくいし、「他団体にも出たい！」ってことになるんですね。

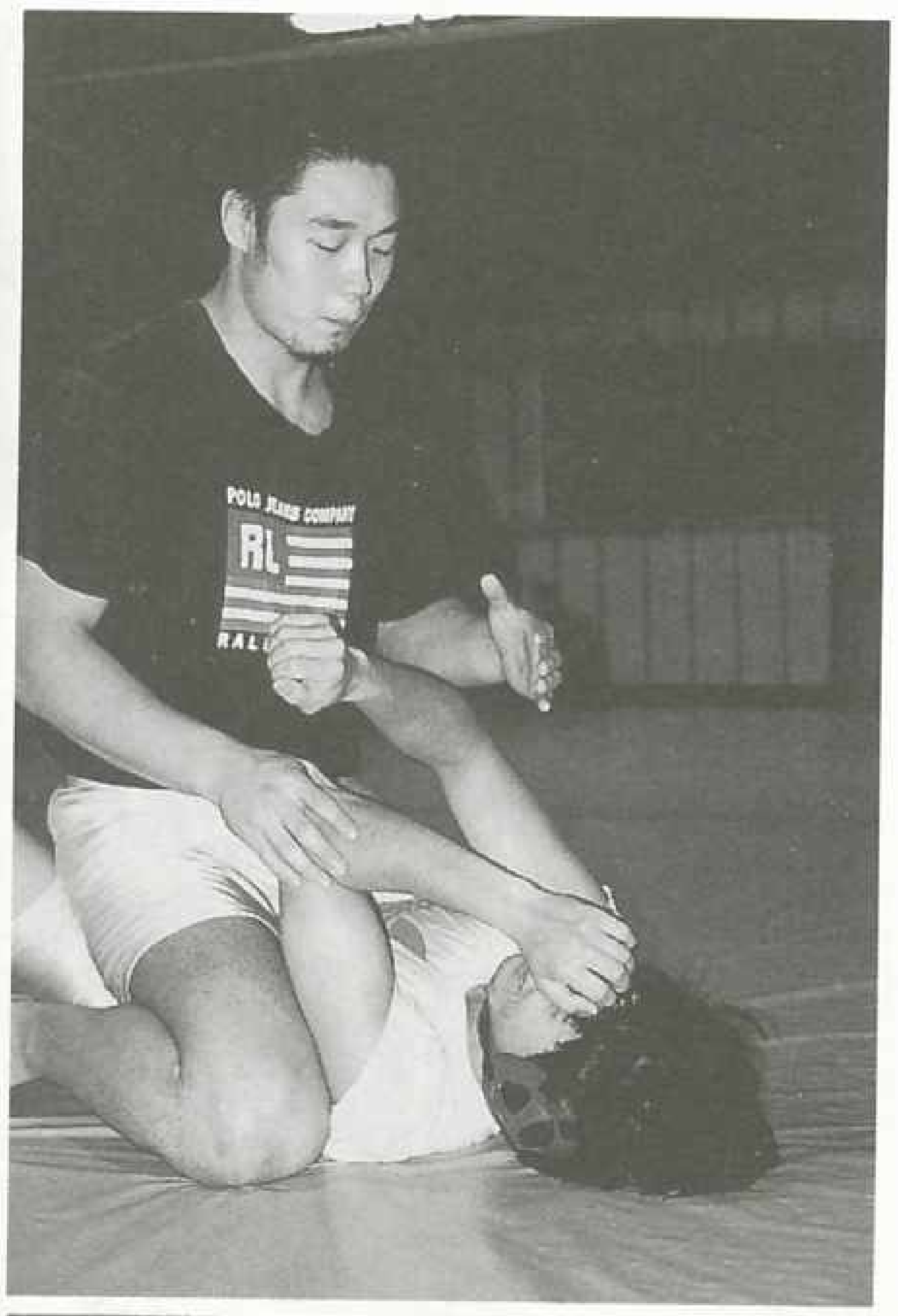
耕平　試合したいもん！　エンセンさんも結局そうじゃないですか。デカイ人間がいるところに自分からどんどん出ていかないと。だから、『PRIDE』出たりとか。プロの世界で食っていきたいんで、プロレスとか総合格闘技とか関係ないです（キッパリ）。やっぱ食えないとダメですよ！　だから永源（遥）さんは凄い！

——何ですかそれ（笑）。

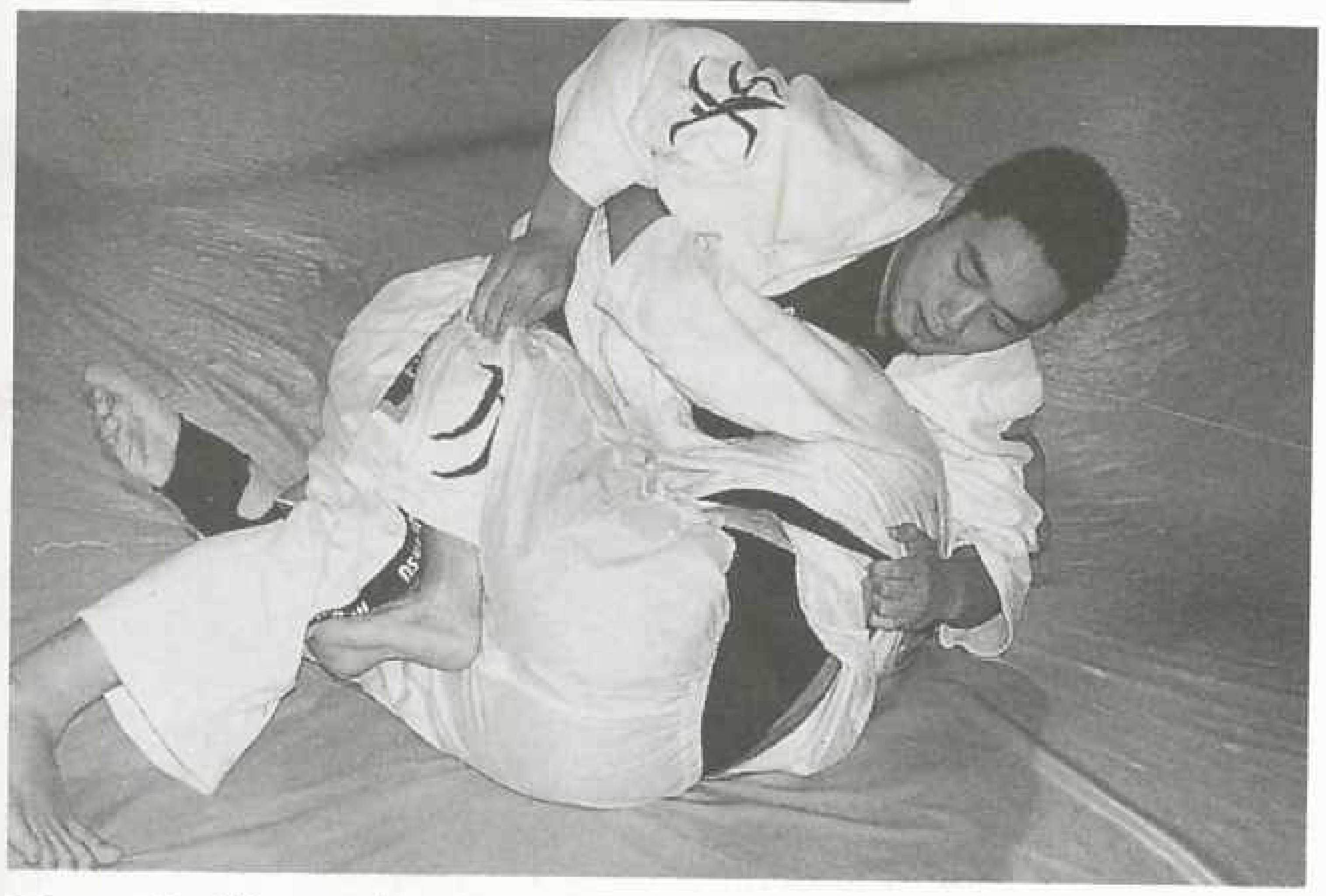
耕平　次のスパッツは、ショッキングピンクで決まり！

——ギャハハハ！　プロシューターになって、今のところ負けなしですよね。

耕平　はい、そうですね。



「今は練習するしかないですから」とガンガンスパーリングをしまくる姿は、次のページ「マメに行くならこんな道場」でも見れます。ちなみに、幼少時代のあだ名はジャンボ。「ジャンボジャンボジャンボって、アフリカの挨拶かい！　って思いました（笑）」と言うくらい連呼されていたそうだ。



——試合に対する意気込みみたいなのって、例えばエンセンさんとかは「殺しにいくヨ！」とかおっしゃってますけど、耕平選手の場合ってあるんですか？

耕平　いやぁ、特にないです（笑）。試合を試合って意識しちゃうと体が堅くなっちゃうんで。だから、だいたい試合の2、3日前くらいは、朝まで飲むことにしてるんですよ！

——ギャハハハ！　マジで飲んでるんですか？

耕平　もしかしたら、酒臭いまま試合会場へ行って闘ってるかも（笑）。

——酒臭いデビュー戦だったかもしれないんですね（笑）。

耕平　それで、試合の写真とか見ると、殴られてもないのに顔腫れてるんですよ。「なんでかなぁ〜」と思ったら「あっ、酒でむくんでるんだ」って（笑）。実に酒に責任転嫁！

——ギャハハハ！　顔パンパンなんですね。

耕平　でもね。酒飲むっていったら怒る人とかいて、最低1週間はダメだとか。どうなんですかね？

——いやぁ〜、コンディションが絶好調なら、文句を言う人がおかしいですよ。

耕平　（満面の笑みを浮かべて）心強い！　だってオレ調子いいもん。飲むよぉ〜！

——豪快だぁ（笑）。それが、勝つために必要だったらの話ですけどね。

耕平　実に体の動きがいい！　柔らかい！　いいねぇ〜、酒は凄い（笑）。

——1日どれくらい飲むんですか？

耕平　う〜ん。メチャクチャ飲みたい日だと、だいたいビールをジョッキでかる〜く4〜5杯飲んで、焼酎4〜5本くらい。で、たまに牛丼はしご（笑）。

——うわっ、凄いッスねぇ〜！

耕平　チーム千鳥足ですもん（笑）。でも、毎日じゃないですから（キッパリ）。1週間

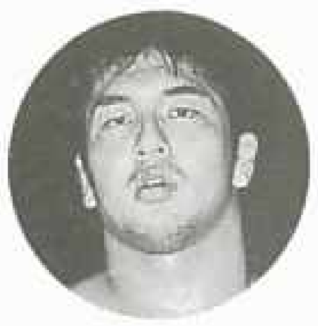


全日本の高山善廣選手と並んでもひけを取らないこのデカさ!!　そして、全日本を観戦したところ、「赤鬼サイコー！　あの小粋な低空ドロップキック！　もう、実にやられた!!」と渕正信選手がお気に入りの様子。しかし、和田京平レフリーとパスガード対決を熱望し「やつは強い！」と豪語。そして、田上明選手に、中学生の頃スカウトされていたことが発覚！　「キョウヘー」以上に「コーヘー」コールが起こる日も近い!?

エンセン井上談



ワタシの後、ヘビー級チャンピオンはコーヘーよ!!



(UFC−J終了後コメント)
「耕平君にも、悪いことをしました」

ヤマケンにベルト挑戦直訴!



『UFC−J』日本人トーナメント決勝戦。ヤマケンの相手は、耕平とも闘ったことのある藤井勝久であった。当初、耕平は「藤井選手に勝ったのに、なんでオレ出れないの?」と悔しがることこの上なし。そして試合終了後、「藤井選手頑張ったね」と言いつつも「オレ、あのベルト獲る!」と宣言。その直後、たまたまパーティー会場にいたヤマケンと遭遇したため、すかさず直訴! するとヤマケンは「自分デカイなぁ〜。まぁ、若いやつらで頑張って行こ!」とエールを贈った。この日残念ながら負けてしまった藤井も「ヤマケンさんには、ベルトをちょっと預けただけと思ってますから」とリベンジ魂がメラメラ燃え上がっていた。そしてこのベルトを狙う若いやつらでの闘いが実現するのか!? 乞うご期待!

のうち、抜く日は半分くらいありますよ!

——実に安心しました(笑)。プロになって、これは「強い!」って思った選手ってどなたですか?

耕平 (即座に)小川(直也)さん。いやぁ〜、あの人違いますよ!

——何が違うんですか?(笑)

耕平 絶対そのうちチーズケーキ仕込んでやろうと思って(笑)。

※小川直也選手は、とんねるずの番組の『食わず嫌い王』に出演。その時嫌いな食べ物がチーズケーキでした。

——ギャハハハ! こないだ「小川さんとスパーリングしたら誰と闘っても負ける気がしない!」っておっしゃってましたけど。

耕平 貫禄が違うんですよ! だから押さえ込まれるっていうのにしても、他の人だったら「この人だったらパワーつければ勝てるかもしんない」とか見えるんですけど、小川さんは見えないんですもん! 「アレ? どーしようかなぁ〜。この人って、ホント人間なのかなぁ〜」って首かしげっ放し(笑)。

——ギャハハハ。小川さんは人間じゃない!

耕平 だから、チーズケーキに勝てたら、小川さんに勝てますよ(笑)。

——目標がケーキですかぁ(笑)。

耕平 マジッスよ(笑)。でもエンセンさん、小川さん、村上さんはやっぱりそのうち超えないといけないと思うんで。

——よかったです。人名が出てきて(笑)。とりあえず、年内は試合がないんですよね。

耕平 (残念そうに)はい。

——闘いたい相手っているんですか?

耕平 「オレは修斗の選手だ!」っていうこだわりはないですけど、「今やってる」っていう誇りはあるんで、ポール・ジョーンズとはやってみたい!

——菊田(早苗)さんが判定で負けちゃった人ですね。

耕平 そうですね。あと、ヤマケン(山本喧一)さん。

——あのベルトいっときますか!

耕平 おう! オレ、あれ獲るわ。

——いやぁ〜、狙いはあのベルトですか。

耕平 欲しいねぇ。目録も欲しいね。

——アラララ、金かよ(笑)。

耕平 キャバクラ、何件行けると思ってるんですか(笑)。小岩とかじゃないよ、六本木行くよ!

——またぁ〜(笑)、目録抜いてもヤマケンさんとやりたい!

耕平 実にやりたい! オレ、あのベルト獲るっちゅうねん!

——ヤマケンさんも「若いやつがこい!」っておっしゃってますからね。

耕平 待っとけ! 田村(潔司)さんに挑戦する前に、オレができないくらい追い込んでやるっちゅうねん!

——ヤマケンさんを意識して大阪弁かい(笑)。つべこべ言わんと「挑戦させろ!」ってことですね。

耕平 そうそう! そうだよ!!

——ベルトといえば、エンセンさんに何か言われたそうじゃないですか。

耕平 「修斗のベルトを獲れ!」ってエンセンさんに言われてるんで。

——そうなんですか! 「ベルト獲って将来プロレス行きたい」とかって村上さんには、伝えてあるんですか?

耕平 「プロレス入りしたい!」とは、言ってありますよ。だからUFOにもやっぱ出たいですよ! 自分の中で、猪木イズム持ってますから。

——さっき全日派だって言ってたじゃないですか!

耕平 もう、(アキレ顔)わかってないなぁ〜(笑)。違うんだよ! 「いつ、何時、誰の挑戦でも受ける!」っていうのを持ちながら行くんですよ!(怒)

——それは、申し訳ないです(笑)。でも国内限らず、試合は出たいですもんね。

耕平 出たいよ! それで、勝ってうまい酒が飲めたらサイコー!

——アハハハ。とにかく、「試合をさせて欲しい!」と。

耕平 そうだよ。それで、打倒! 永源さんだから(笑)。

——ギャハハハ! やっぱり、最終的には全日本入り希望!

耕平 (急にまじめに)でも、今、寝技に引き込んじゃえば、負ける気がしないですよ! だから、修斗でベルトを獲って総合系のリングを総ナメにしたら、そのタイトル全部持って全日本入りしたいです!

【99年11月14日 さわめきあふれる『UFC−J』終わりのパーティー会場にて収録】



さとうこうへい■1977年9月21日生。191cm、105kg、足のサイズ31cm。総合格闘技初体験で、全日本アマチュア・シューティング、ヘビー級覇者となり、現在の修斗ヘビー級戦線を支える期待の新人である。後日、リングスの滑川選手に耕平の印象をたずねると「コーヘーは、高校時代から柔道やってたんでメチャメチャ強かったですよ!」とのこと。私生活では、練習と酒と洋服に溺れる日々を送り、そして海でも真剣に溺れるらしい。

Kamipuro® 特選

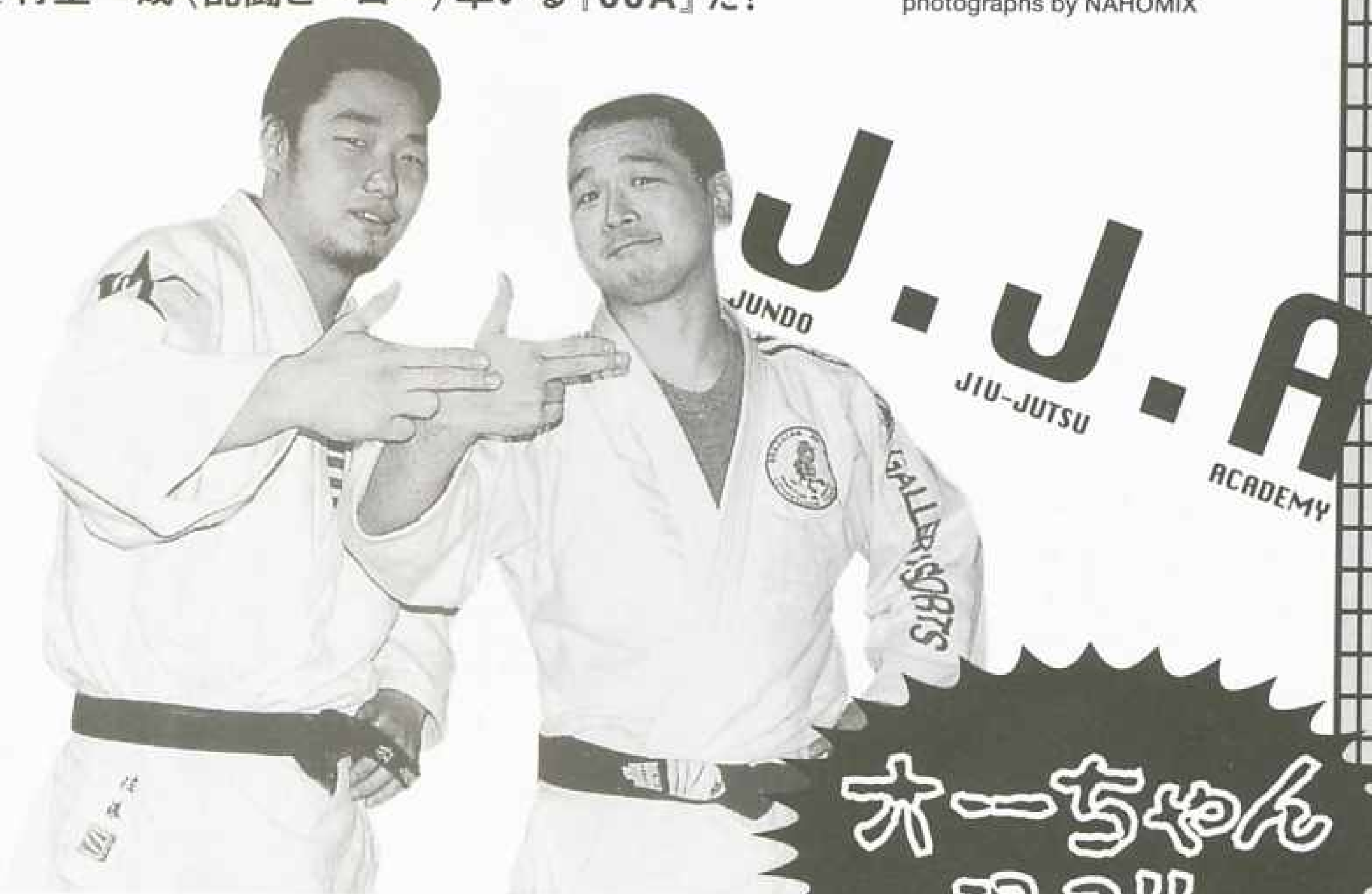
マメに行くならこんな道場(ジム)!!

思わずくぎづけ！ ヒーローは道場の中にいる！



「道場に通いたいけど、どこに行けばいいのかわからな〜い」なんて言ってるそこのキミ、キミだよ、キミ！　前号から始まった道場紹介のこのページを見て、強くなるんだ！　2000年まであと少し。日明兄さんのように、いつ何時、誰に襲われるのかわからない。だから、自分の身は自分で守り、自らの手でマット界を変えるんじゃ〜！　というわけで、今回紹介するのは、村上一成（乱闘ヒーロー）率いる『JJA』だ！

構成／チョロ&タマリン
text by Choro & Tamarin
撮影／NAHOMIX
photographs by NAHOMIX



「今日、本当は『マルちゃん』も来るはずだったんですよ。先週は、来たんですけどケガしちゃって」と、いきなり、指導員番長、小幡太郎先生の開口一番。「えっ、『マルちゃん？？？』って……」そう、『マルちゃん』とは修斗大阪大会で、中尾受太郎と闘ったマルタイン・デ・ヨングのことだったのである。というわけで、オランダからでも世界各国来るもの拒まず。「いつ何時、誰の来場も受ける!!」というUFOイズムを持つ道場『JJA』だ！

取材日当日。村上一成館長は、バトラーツの試合で暴れまくっていたためお休み。（大暴れのため骨折していた）変わりに、小幡太郎&佐藤耕平&米屋利展指導員が、道場生たちとスパーリングで実戦教育中であった。

ここの道場は、ゴールドジムの2階という恵まれた環境にあり、とにかく広くて、実に開放感があふれている。その中で『JJA』の皆さんは、「ふぅ、疲れた〜」と言っては、ゴロゴロしてみたり、道着着用でスパーリングしてたかと思えば、脱いで逆立ちしていたり、とにかくのびのび自由奔放で楽しそうに練習をしていた。そして、1年の締めくくりとして、年末には道場マッチが開かれる。その後、反省会と題した大忘年会が開催予定だ。

ガチガチの厳しい練習でピリピリとした空気が流れているというのは、ここには存在しない。「強く」なるには、まず「みんな楽しく」練習なのだ！　楽しいからこそ、「厳しく」ても「つらく」てもやっていけるというのを痛感させられた『JJA』で、和気あいあいと学ぶべし！（場外乱闘含む）







スパー、スパー、スパーリング！　の嵐で、練習生を指導する『JJA』熱血指導員3人衆。とにかく、ガンガンしごきまくります。こりゃ、強くならないわけがない！

オーちゃん現る!!

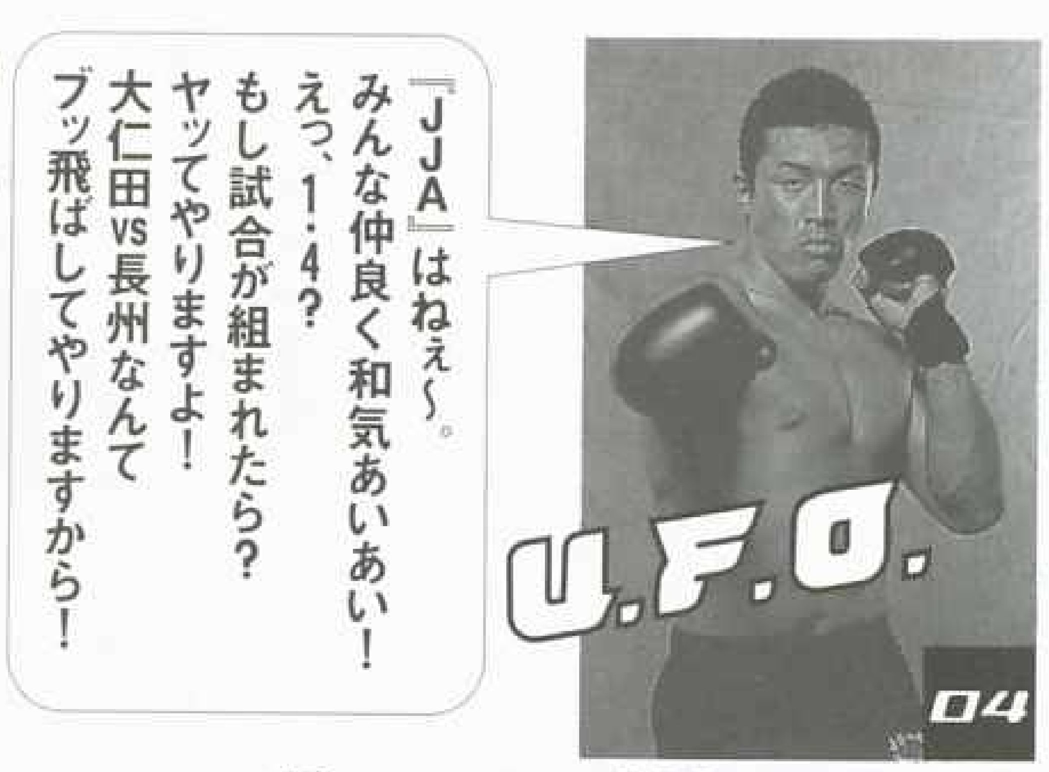


小川直也がやって来た！　さすが、オーちゃん「いつ何時、誰の挑戦でも受ける!!」精神で、指導員であろうと練習生であろうとバシバシスパーリングをするのだ！　これが、まさにUFOイズム！　ちなみに、佐藤耕平いじめられてますの巻（笑）。

Kamipuro®
特別版！
闘うココロ 闘うJJA







01
Kohei Sato
佐藤耕平

「小幡さんは、実に強いッスよ！　オレ1本取れないかもって思いますもん。でもね、夜のスパーリングは、7：3でオレは絶対負けないね（笑）」
●前ページのインタビューでも暴走機関車ぶりが実にステキな、未来の大物だ！

02
Taro Obata
小幡太郎

実に強い！　と評判の小幡さんは、UFO2戦2勝の実績を持つ実力者。対ジェイソン・ブレス（2回戦）で見せたチョークは見事であった。
●今年の3・14横浜アリーナにてUFOデビューを果たした『JJA』の番長。

03
Toshinobu Komeya
米屋利展

本誌16号にて、『JJA』門番（笑）として紹介された裏JJAボス。『UFC−J』を観戦中に、和術慧舟會の守山代表に間違えられてました（笑）。
●全く、目も合わせてくれない米屋さん。試合をしている姿が見たいッス！

04
Kazunari Murakami
村上一成

言わずと知れた乱闘ヒーロー館長。来年の1・4東京ドームはどうなるんだ！　館長に降り懸かる運命とはいかに……。　心して待て！
●道場では、指導者に徹し道場生の絶大なる信頼を持つ、頼りになる心のアニキ。

俺たち ジェイ・ジェイ・エー



指導員に聞け！

――指導員っていうのは、何人いらっしゃるんですか?

小幡　村上館長、オレ、コーへー、ブーちゃん（米屋利展）。

●ブーちゃんとは、『紙プロ』読者の方々なら、ちょこっとおなじみの米屋選手（24歳）のことである。ちなみに、ブーちゃんは撮影&インタビュー拒否でした。残念無念ッス！（でも隠し撮りアリ）

――平（直行）さんがここ（ゴールドジム行徳）で、曜日は違いますけど教えられてますよね。そこで、「ウチはここは違う！」っていうのはどこですか?

耕平　正道（会館柔術クラス）は道着の時間とか、時間で分けられているんですよ。ウチはそんなことは全然なくて「今日、道着洗っちゃったからな～い！」とか言って裸でやったりとか（笑）。ホント、自分の好き勝手にできるんで。

小幡　今日も、プロシューターが出稽古に来てるし、いろんな練習ができるよ！

――そういえば、小川（直也）さんも来られるんですよね。

耕平　（頭を抱えて）あぁ～、オレは、個人的に愛情たっぷりのスパーリングでいじめられるんで（笑）。

――耕平選手は、いじめられると（笑）。

小幡　でも、あの人、マジUFOだから（笑）。本当に突然現れるんだよ～。

――「小川さんともタイミングが良ければ一緒に練習できるかも?」ってことですね。

耕平　（うなずきながら）うちの道場生も結構、小川さんと練習して可愛がられてますけど（笑）。でも、絶対めったなことじゃできないんで、それは貴重だと思うんですけど。

――いやぁ～、メチャクチャ貴重ですよ！

小幡　見学で初めて来た人がいたんですよ。で、その時小川さんがいて、（こそっと）「あれ、本物ですか?」って言うから「本物です！」って（笑）。

――ギャハハハ。基本的に今日みたいな感じで練習が始まって、いきなりスパーリング中心って感じなんですか?

耕平　人数多ければ、いつも7時から基礎運動始めるんですけどね。人数が少なければ、とにかくスパーリングって感じですね。

小幡　今日は、練習生が少ないからね。

耕平　でも、ホント辞める人は、めったにいないですよね。

小幡　いないねぇ～。道場生は、今30人弱くらいだけど1人か2人くらいだね。

――皆さんで飲み会とかはあるんですか?

耕平　（勢いよく）メチャクチャ行きますよ！　みんな仲いいんで。

小幡　いっぱい練習生が来たら、豪華な忘年会できるのになぁ～（笑）。

――ギャハハハ。それで、村上さんは場外乱闘ヒーローだけに「鬼指導者」って感じがするんですけど、怖がられてはないんですか?

小幡&耕平　ぜ～んぜん（笑）。

耕平　村上館長が、筆頭で怖くないんじゃないですか!?　なぜか試合の時は、場外乱闘とかやってますけど（笑）。

小幡　みんなで楽しくやってるよ！

――それは、見ているだけで伝わってきます！　やっぱり、道場生の方は、プロ志望が多いんですか?

耕平　基本は「柔術の大会でやってみたい」という人なんですけど。「アマチュア・シュート出てみたい」って人はいますね。そういう人が、多いですよ。

小幡　そういえば、有望なヤツいるじゃん！

耕平　そうそう、柔道でインターハイ出てて、高校の時、近畿チャンプかなんかになってるやつで。メチャクチャ強いですよ！　今度、アマチュア・シュート出ますから。

――「まちがいなく、ここに来ると強くなる！」ってことですね。

小幡　強くなるよ（キッパリ）。楽しみながら強くなる！　これホント！

耕平　1年前までなんにもやったことがない子がいて、こないだ全日本の柔術大会でベスト8になってますから！

――それは凄いですね。そういえば女の子って来てもいいんですか?

耕平　もう、全然OKですよ！　できれば女の子は、友達同士で来てもらいたいですね。そのほうが教えやすいですし。

小幡　面接しちゃいますか?（笑）

耕平　水着写真で書類選考！　みんなで、大ハシャギしましょう（笑）。

――ギャハハハ！　そんなことしたら女の子来なくなりますよ！

小幡　じゃあ、特典つけちゃいましょう！『紙プロ』持ってきた人に限り、入会金タダ！　何人でもいいよぉ～。

耕平　えっ！　また小幡さんそんなこと言っちゃって（笑）。（心配そうに）村上館長の許可なくて大丈夫なんッスか?

小幡　大丈夫、大丈夫（笑）。無問題（モウマンタイ）！

耕平　（アセリながら）実に大変だ!!



プロレス技も教えてくれる?　なんてこともあります！　しかし、見事に吊り天井をかけられた練習生（高校生）は、「たすけて～」と笑いながら叫んでました（笑）。（写真上）逆立ちして、2m50cmのポールに届く佐藤耕平のこのデカさ！　持って生まれた才能ッス！





楽し過ぎてあっという間に時間は過ぎ、練習終了。そして、指導員のお言葉を真剣に聞く道場生たち。どんなにフランクでも、やはり礼に始まり、礼に終わるのだ。



JJA DATE

『紙プロ』だけの大特典！

『紙プロ』を持って『ＪＪＡ』に行こう!!
(今なら入会金無料だ！)

「楽しみながら強くなりたい！」というキミは、今すぐ『ＪＪＡ』で目を覚ましてくださ～い!!　村上館長を筆頭に、熱血指導員３人衆と、もしかしたらひょっこり姿を見せるオーちゃんの実に懇切丁寧な指導が待ってま～す。

【住所】千葉県市川市湊新田１－６－８
ゴールドジム行徳千葉

【ＴＥＬ】047（390）3434

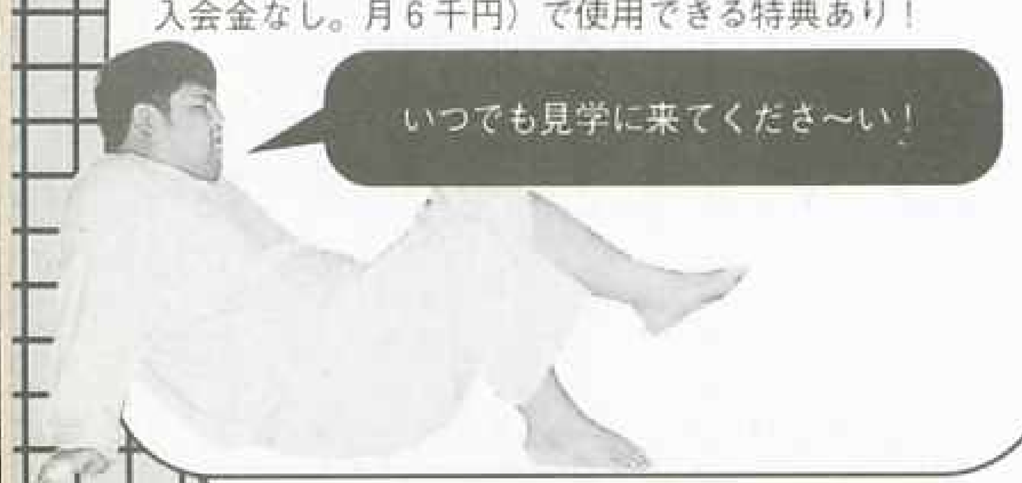
【料金システム】
入会金　１万円
月会費　８千円

【練習日】
火曜日、金曜日　19：30～20：30
日曜日　14：00～17：00

【用意するもの】
●入会申込書●印鑑●写真２枚

道場までの交通アクセス
東西線『行徳駅』より徒歩３分。

練習生は、ゴールドジム全店が、割引価格（年会費、入会金なし。月６千円）で使用できる特典あり！



最強最後のレスラー降臨!!

本格格闘プロレス小説

無比人

虚構と現実が交錯する
壮大な格闘ロマン

Mubito

Illustration/中川雅博

天性の格闘センスを持つ男、万無比人。その素質を見抜き、プロレスラーに仕立て上げたのがプロレス専門誌発行人の千堂であった。プロレスそして異種格闘技戦でもある程度の成果を残した無比人が、次なる標的と定めたのがヒクソン・グレイシー。ヒクソンへの挑戦権を懸けたトーナメントが開催されるはずだったのだが……。氷見子の用意した三億円の"実弾"で、無比人は挑戦権を強奪成功。かくして、遂に四百戦無敗の男と、並びのない男がリング上で運命の対峙を果たした——。

(42)

先に無比人がリングイン。

続いてヒクソンが、同じ側からロープを跨いで上がった。

二人はリング中央へと前後して歩を進め、そこで立ち止まって握手を交わすと、互いに背を向けて対角線で結ばれるそれぞれのコーナーへ。そして申し合わせたようにコーナーパットに身を凭せかけたところで、改めて相手を直視。どちらも見事に肩から力が抜け、眼差しもまた涼やかであった。

千堂は、グレート嵐や竜村勇らとリング下にいて、なんとなしに壁の時計を一瞥した。九時になんなんとしている。

同じく夜、似た時間帯でもあることからの連想だろうか、このリングで無比人と植野次郎が相対した三年前の記憶が脳裡をよぎって行った。

蒲田西口商店街も外れに近い、ここ新東都プロレスリングの道場では日中から所属レスラーたちを対象としたヒクソン・グレイシーによるグレイシー柔術のセミナーが開かれており、その締め括りともいうべきが無比人とのこの時間無制限一本勝負。決着はKOかギブアップのみ、ロープエスケープなしでバーリ・トゥードのルールに拠る、と千堂を立会人として二人の間で取り決められていた。

正時となるのを待ち、ゴング係を命じてあった選手の一人がそれを鳴らした。

無比人が両手をぶらんとさせた前傾姿勢で、やおらコーナーを離れた。出会いの夜、豹か狼といった四つ肢の動物のようだと千堂は彼を視たが、その折の印象そのままだ。

ヒクソンも背筋をぴんと伸ばし、いくらか顎を突き出し加減にしたいつものスタイルで、一歩一歩踏みしめるように出てくる。

双方、微塵も気負いや力みといったものは感じられない。

リベンジマッチのはずが、小川に橋本が完膚なきまでに痛めつけられて連敗を喫した同じその夜、十一月にはヒクソンは四十歳になる、四十男に勝ったところでと電話で無比人に訴えられてみれば正にしかりで、千堂としても尻に火が付くのを実感せずにいられなかった。

困ったときの佐山頼みで翌日、恵比寿に新たに構えた掣圏道のオフィスへ彼を訪ね、相談を持ちかけたところ、

——誕生日前にヒクソン戦を実現させたいって？　千堂ちゃん、いくらなんでもそれは無理、無理。

一笑に付された。

——素より無理は承知の上でのお願いでして。こうなっては新東都プロレスリング営業部長としての立場もあり、なんとしても一戦交えさせせんことには引っ込みがつかないんです。いまとなっては佐山ルートに縋って、ヒクソンに頚を縦に振ってもらうしか。

——だからさー。実現へ向け援護射撃をさせてもらうについちゃ吝かではないけど、でも来月の誕生日までにってのは。気持ちはわかるし、確かにヒクソン・グレイシーを日本のリングへ最初に上げたのは俺でいまもパイプはないではないけれども、いかんせん時間がなさすぎるよねえ、時間が。

——ですから、そこを佐山さんのお力でなんとか。金銭面のことにつきましても、やり易いようにやって頂いて結構ですので。

掣圏道の前に佐山が興したシューティングのリングでヒクソンを招聘して試合をさせ、その後も二人の付き合いは続いているという、そこのところが唯一千堂にすればよすがといえた。三億の大金を手にするに至った経緯については、前に会った際にひと通り話してあった。

食い下がられて佐山は視線を虚空へ移ろわせ、思いを巡らすふうだったが、

——日数がないから宣伝は行き届かないし、会場を押さえるのも難しいだろうね、スポーツ関係のイベントが目白押しのこの季節ともなれば尚更。となるとだねー、可能性として挙げられるのは一つ。

と、ややあって千堂にまた目を据えた。

——非公開ということにして、どこか適当な場所を定めて行う。これだとしかしヒクソンへ金が行くだけで、収入はまったく見込めないけど、いーい？

巨匠入魂 第19回 真樹日佐夫

本格格闘プロレス小説 無比人

は四十歳になる　四十男に勝ったところ

れども、いかんせん時間がなさすぎるよ

ったく見込めないけど、いーい？

——非公開ねえ。いまとなっては万も三十代最後のヒクソンと純粋に戦いたいだけで、ほかにはなにも考えておらんでしょうし、それでも別に構いませんが、果たして先方がオーケーするかどうか。

——新東都プロレスなんだよねえ、千堂ちゃん。新東都、新東都。

佐山はふと反芻するかのように、何度となく繰り返した。

——ええ。そっちの方の名刺もお渡ししてあるかと思いますが、取締役営業本部長というのが正式の肩書きで。

——新東都でヒクソンを呼ぶってのは、どう？

——道場で試合をさせる、ということでしょうか。

——試合もするが、それだけじゃ坐りが悪いんで講師という名目で招き、レスラー一同を出席させてグレイシー柔術のセミナーを開かせる。

と押しかぶせるように佐山。

——現に彼は、世界の至るところで柔術セミナーをやっていて、来月下旬にはこの日本でも東京と名古屋、それに大阪だったかな、確か三箇所を回って一般の希望者を相手に指導する予定が組まれているそうでね。来日を早めてもらい、新東都プロレスでもそれをやるということであるならば、なんとかまあ押せるとは思うが。勿論、セミナーの最後には万無比人の挑戦を受け、だから謝礼の方もその分を上乗せし納得のいく額を請求してくれて結構って条件でさー。

ということで交渉を一任し、月が変わってこの日、午（ひる）少し前にヒクソンは千堂らの待つ道場へ姿を見せた。案内してきたのは佐山であり、

——今日、本人と顔が合って初めて謝礼について具体的な話をしたんだけど、試合といってもセミナーの一環として行うわけだし、通常の料金と飛行機代、それと次のセミナーまでの滞在費を持ってもらえれば充分だって。金持ちの余裕なのかねえ、うーん。

そう言われていくら吹っかけられても、と覚悟していた千堂としては拍子抜けする一方で、さすが王者は偉大なりとの思いを新たにしないではおれなかった。

ヒクソンは千堂や無比人を見ても表情ひとつ変えるではなく、サイドビジネスとして割り切ってかかっている、それが如実に感じられた。所用があるとのことで佐山がそそくさと退出してほどなく、セミナーを開始した。

非公開という以上、マスコミが詰めかけてはヒクソンが旋毛（つむじ）を曲げるのではと自主規制したこともあり、千堂と無比人ら十人余りのレスラーのほかは、通訳として同席を許された氷見子だけであった——。

両者の出足は一旦止まったが、じきにまた相手の左へ左へと小刻みに歩を送りだした。

無比人の方のその足の運びが突如逆回りに変じ、戸惑うかのようにヒクソンが身を硬くした瞬間、右構えからの前足、即ち左足が低く鞭のように弧を描きつつ蹴り出された。奥足狙いのローキック！

奥足であるヒクソンの右足大腿部のやや外側へ、無比人の脛の部分が鈍い音を発してめり込み、がくっと腰が落ちかけた。

続いて右がフォローされて前足の左足を狙い、また左、さらに右とローキック一辺倒のコンビネーション攻撃に四百勝無敗のバーリ・トゥードの巨人が防戦一方の展開を余儀なくされるのを目の当たりにしながら、千堂は、

（グラウンドになったら、どう贔屓目に見ても付け入る隙はない。そのことを今日これまでのセミナーで厭というほど思い知らされた、となれば、こいつ以外に対抗策はなしか。いや、グラウンドに引き込むことを前提に重心を低くしているヒクソンに対して、蹴りがなにより有効だというのは高田戦でもすでに歴然としていた。なればこそ……）

骨折が完治して以降、この四ヵ月ばかりの無比人の試合内容を振り返り、ヒクソン戦を視野に入れて臨んでいたのだと

確信されるものがあった。
四ヵ月で五十試合は消化したろうか。大半がプロレス同士のカードだったが、それらのほとんどで随所に無比人は蹴りを繰り出し、ＫＯの山を築いてきたのである。

的場やシカティックなど立ち技打撃系の相手との異種格闘技戦を重ねた賜であろう、蹴りの威力、スピードともに倍増した感があり、ヒクソンは足を上げたりステップバックしたりで凌ぐのに精一杯。後退、また後退して遂にロープ際へと追い込まれた。

止めとばかりに、そこで無比人が初めてハイキックを放った。右の回し蹴りで、これで頚を刈りにいったのだが、ヒクソンはロープ伝いに幾分右へ回り込んで体を開くとともに左肘を上げ、辛くもブロックしてのけた。

(深くステップインしてのローキックは有効でも、これまでのレスラーたちが相手のときと違ってハイキックとなると通用せぬ、というのは類いまれなヒクソンの動体視力のせいなのか、やはり――)

千堂が眉を寄せるうちにも、後がないことを知って危機感を募らせたか、ブロックに用いた腕をそのままヒクソンは無比人の腰へ回して引きつけ、右腕も添えると胸を合わせんとした。

クリンチへ逃れたのを、しかし無比人は慌てるでもなく、両上腕部を外側から押さえて制し、次いで上体を捻って右肩を相手の左腋の下にこじ入れた。そうして逆に距離を確保したところで、腰を入れるや左の顔面パンチ一発。腰を両腕で抱えていてはかわしようとてなく、右側頭部にクリーンヒット。

続いて同じ左でエルボーに転じ、これは顎を捉えてヒクソンのポーカーフェースが一瞬歪んだ。

(誰が教えたというわけでもなかろうに、クリンチの対処法を完璧に実践している。天性なのだろうか、やはり……)

やはり、と千堂はここでもまた頷かずにいられなかった。無比人の健闘振りに嵐も竜村も早くも勝利を確信したような浮かれようだったが、逆になにやら厳粛な気分にならざるを得ず、それは不世出の王者を相手に万無比人なる若者の可能性の一旦をやはりというか改めてというか、垣間見せられたことに起因していようかとも思われた。



巨匠入魂 第19回

真樹日佐夫

本格格闘プロレス小説

無比人

エルボーを振った腕を引き、すかさず無比人は再度パンチに繋げようとした。が、それより先にヒクソンの両腕は腰から離れており、二撃目は鼻先すれすれに空を截る。

十全に腰を入れていたことが災いしてか、パンチを空振りした無比人の躰は右回りに反転し、くるり背中を見せることとなった。

待っていたようにヒクソンが後ろから取り付き、間を置かずバックドロップに運んだ。プロレスというより柔術の技に違いなく、柔道にいうところの真捨て身に近くて角度が急だったにもかかわらず、無比人は両手を先に伸ばしマットに突いて頭部を庇い、後転宙返りして着地を極めたのであった。

両者はリングの中程近くにてまた相対時し、しばしの睨み合いを経て今度はヒクソンから間合いを寄せた。蹴りを封じ込めようとの作戦か、ジグザグの動きを見せて組み付くことに成功するや、両腕を無比人の腋に差し込んで背中へ回し、あっさりクラッチして固めた。電光石火といってよかった。

そのままヒクソンは、自らも左へ体を傾けつつ左の足先で右足首を外側から払うようにしながら捻り倒しにかかる。

(不敗の王者が勝負を急ぎだした、ということは、万に脅威をおぼえたからと視て間違いあるまいが、さてどこまで抗し得るか……)

千堂の祈りにも似た思いが通じたか、無比人は大きく右方へ揺らいだものの、とっさに左足を前へ送り、ヒクソンの右足首の辺に内側から踵を引っ掛けるようにして踏み堪えた。相撲の内掛けを思わすこの技を嫌ってか、足払いを掛けようとしていた左がまず引かれ、次いで右足も左を振り解いた。

安堵の胸を撫で下ろしたのも束の間、組み合ったまま互いに下肢を引いた態勢から、いきなりヒクソンが右の膝蹴りを見せ千堂の心胆を寒からしめた。

ボディをめがけて跳ね上がってくる膝頭を、無比人は左手を腰から滑らすと掌でカット。そこまではよかったが、右腕に上から巻き付いたヒクソンの左手がすかさずさらに伸びてきて、左手首をキャッチしたのだ。

(あの膝蹴りが誘いだったとは——)

遅れ馳せながら千堂は得心し、背筋に冷たいものをおぼえた。受けを誘い、その受け手を狙い通りに捕らえて、ヒクソンの横顔には笑みが結ぼれたかに見えた。

無比人は手首を引き抜こうとするも叶わぬまま、ヒクソンの左手一本によって両腕とも殺された格好のうちに大きく右へ捻られ、堪らずに転倒。直後、逸早く横四方固めの形に入られた。

(——テイクダウンされはしたが、し、しかし、あの目……!)

千堂は仰向けに転がされた無比人を注視し、戦慄しながらも内面の深奥では、それほど慌てていないのを感じていた。なぜかと言えば、組み敷いたヒクソンを見上げる無比人の目色がおちょくっている——そのように受け取れたからにほかならない。

(カレリンに袈裟固めされたときにも、確か同じ目を)

顧みるうち、左側面に位置を占めて躰を十字に交差させたヒクソンの左脇腹を、無比人の左膝がすっと跳ね上がってきて蹴りつけた。二度、三度。

テイクダウンされたのを境に意気沮喪した様子だった嵐たちが、俄かにまた活気づいて声を張り上げた。黙したままなのは千堂と氷見子。氷見子は、千堂たちの向かいのリング下で一人所在なげにしていた。

ヒクソンが横四方固めにこだわる愚を悟ったか、マウントに転じようとした。と、その下からするりと無比人は抜け出してきて、バックへ。引き倒しチョークスリーパーにいくと見せ、ヒクソンが反応するや、その手は頚から左腕へと移行。

腕拉ぎ逆十字に入った——。

〈以下次号〉

桜井マッハ速人への道

#002

構成／大西タマリン
text by Tamarin

桜井マッハ速人。彼の口癖は「負ける気がしない！」である。決して高らかに吠えるタイプではない。マット上だけを見ると、「アグレッシブな闘いをするつよ〜い人」「修斗のリングで負けたことがない人」これで終わり。しかし、彼に幻想をいだく理由は、リング上だけに見えるただの強い人ではないからである。当然、それをひっくるめて格闘家・桜井マッハ速人なのだ。

修斗は今年10周年を迎えた。今や爆発的な大人気である。確かに、流行という言葉で片づけられてもしょうがないフシも見える。だが、マッハがいる限り「流行」に犯されないと断言できる。それは、彼自信「かっこいい」というイメージというものなど全くおかまいなし。流行に流されるという言葉など存在しない。「そんなことどーでもいいよ。とにかく強ければいいんでしょ」という人なので、枠にはめることなど絶対できない。今、修斗の強さを存分に引き出す闘いをするのは、断然マッハなのである。

固定概念などぶっ飛ばし、どこへ飛んで行くのか見当もつかない。そんな格闘家・桜井マッハ速人を追うことにより、格闘ロマンを突き進むのだ！（今回は、大阪＆タイでの珍行動ブリを追跡！）



強くて、凄くて、面白い格闘家
それはマッハ。これが、私の定説です。
そして、断言する！
いつ、何時、誰が何と言おうとマッハが
本誌登場まで、このコーナーは続けます!!

大阪編



スノードームを眺めているような光景に陥った修斗大阪大会も無事終了し、打ち上げで相当飲みまくったマッハは、かなりのいい気分。その後、修斗御一行様と御堂筋をプラプラしているところを発見！　すると道路で突然スパーリング（相手は、中尾受太郎）を始めた。いつでもどこでも練習三昧。これも強さの秘密なのだろうか？

その2日後、『黒商人の部屋』と題したイベントが行われた。坂本一弘プロデューサー＆桜井マッハ速人のトークイベントである。

この日主役のマッハは、少々遅れて到着。さっそく、「大阪大会どうだった？」と聞かれても「なんのことですか？」と2日前のこともお忘れであった。そして、飲んでたジュースの紙コップを空中浮遊させたり、突然着替えたり、手こずらせることこの上なし。

OSAKA OSAKA OSAKA OSAKA OSAKA OSAKA OSAKA OSAKA OSAKA OSAKA OSAKA

終始、坂本プロデューサーは「ルミナがラク〜。ルミナだけ担当にして欲しい〜。ルミナがイイッー！」と愛情たっぷりアキレ顔。だが、通訳＆的確なツッコミがなければ、マッハ語の理解にお客さんも苦しんだに違いない。

そして、爆裂トーク満載で、マッハマイク理論なるものを発表するも、坂本プロデューサーの「あー、ドラえもん漢和辞典で勉強したんだろ！」とひと蹴りいいのもらう塩梅。だが、全くきかず。

坂本プロデューサーの話を「ハイ、ハイ」と言いながら聞いてるのだが、時に全く違う答えを返してみたり、言いたくないことは、うま〜く隠せるという悪知恵を備えるマッハ。いかーん！　ボキャブラ増えてきてるよ、少々。

タイ編



11月上旬のこと。タノムサク鳥羽（二瓶組）と共に、タイへムエタイ修業の旅に出かけたマッハ。空港に到着するなり、「コウモリ」と「サソリ」と「ちょうちょ」の標本を購入してかなりゴキゲンモード。（ここで、すでに持ち金ゼロ）

そして、タクシーで目的地へ。タイのタクシーは手動なのだが、そんなことを知るわけもないマッハは、いきなりドアをバーン！　と開けたらバイクとドアがぶつかってベコベコに。そこで、怒り大爆発！　1人暴動カウントダウン開始!!　だが、なぜかタクシーの運ちゃんになだめられ、「うん！　大丈夫だよ」と知らない道をスラコラサッサと歩いていったそうな……。

その後、タイ人からもキックを褒められ猛特訓の日々も終了。（なぜか、散髪もした）

THAILAND THAILAND THAILAND THAILAND THAILAND THAILAND THAILAND THAILAND

楽しく過ごした旅の最終日。飛行機に乗る前に「お腹すいたぁ〜」と大連呼。最後の晩餐は「バーガーキング」と決め込むこととなった。もちろんパク食い！　そして、ジュースをガブガブ飲み干したら何かがおかしい……。ジュースのふたをパカッと開けるとそこには、なんとゴキブリの姿が！　しかし「あ〜、飲んじゃったぁ〜」と笑い飛ばしたそうだ。どこまで行っても実に豪快な人である。

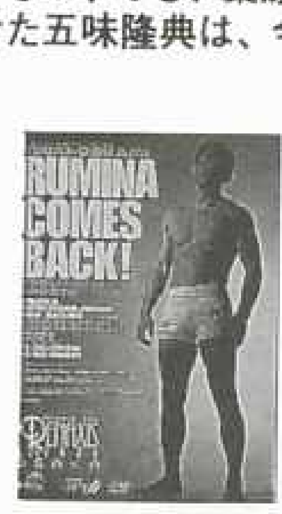
でもやはり気になることは、ヘビーウエイト。タイの写真を見てビックリ!?　だが、予想通り「全然へーキだよ！」の一言で片ずけられた。やはり、一見「大丈夫なの？」という言動ではあるが、この脳みそから何が飛び出すかわからない試合が生まれるのだ！



VALE TOUD JAPAN'99
12月11日　東京ベイNKホール

グレイシーという名を一躍世に浸透させたこの大会。だが、誰よりも早くグレイシーと名がつく人間を撃破したのは、プロレスラー桜庭和志であった。今年は、日本対ブラジルの7対7マッチ。今年活躍したシューターが勢揃いである。その中でも、桑原卓也をガンガン攻めまくり怖いモノ知らずな闘いを見せた五味隆典は、今回最も注目すべき選手である。

第1試合　佐藤ルミナvsハファエル・コルデイロ
第2試合　加藤鉄史vsアンジェロ・セウジオ
第3試合　五味隆典vsジョニー・エドゥアウド
第4試合　池田久雄vsジョン・ホーキ
第5試合　巽宇宙vsアレクサンドラ・フランサ・ノゲーラ
第6試合　宇野薫vsアンドレ・ペデネイラス
第7試合　桜井マッハ速人vsアロウド・ビクトリアーノ





修斗大阪大会のパンフレット（マッハサイン入り）を1名様にプレゼント！

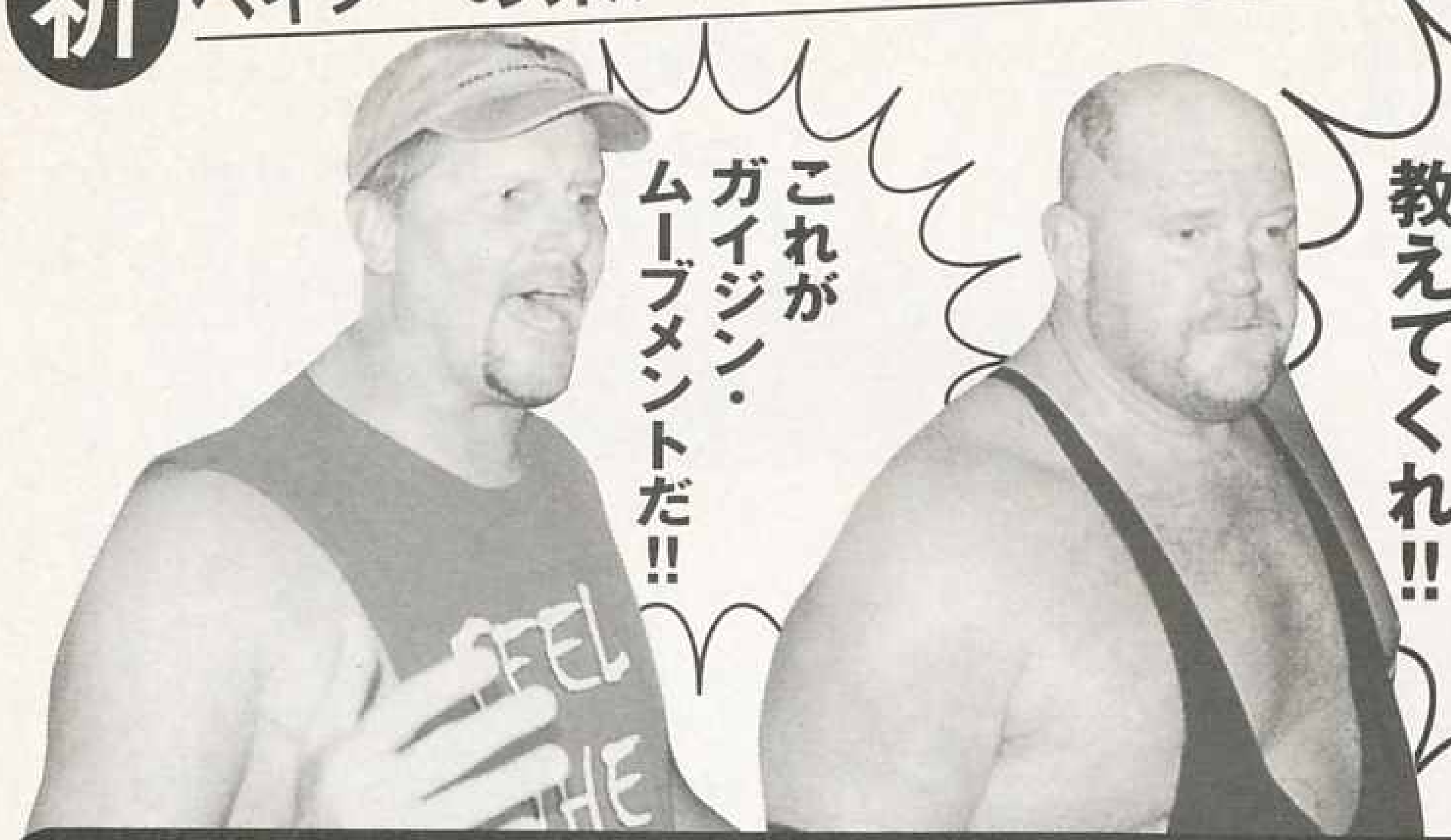
ホイラー・グレイシーと3年前、ＶＴＪで闘った朝日昇は「ホイラーは、あの状態でタップしなかったことは凄いですよ。でも桜庭さんは、もっとメチャクチャ凄いですけどね」と言いつつも、悔しさがにじみ出ていた。そしてもう1人、かなり悔しがっていた男マッハは、打撃ＫＯを狙い必殺技をあみだした！　その必殺技はこの日メインで、ジアン・マチャドを秒殺した黒帯柔術家相手に、必ず見せるはずである。

全日本プロレス 99・10・30 武道館大会で大演説!?

祈 ベイダーの東スポ大賞MVP奪取

紙のプロレス

本誌バックナンバーのお知らせ



モデル♥三冠王者ベイダーさん&ムーブメントの旗手ジョニーエースさん

※一部フィクションあり

This is Japanese Rule! な本誌バックナンバーたち!!



第5号
■特集「たたかいグランプリ」
特別寄稿鈴木邦男、杉作J太郎、竹本幹男／ロングインタピュー馳浩／デビル雅美vs氏神一番／脅威の連載陣! 高田文夫、ナンシー関、浅草キッド



第8号
■特集「さらば新日本プロレス」
ワイド座談会／初登場ザ・グレート・サスケにロングインタビュー／セメントインタビュー関根勤／恐山でジンギスカンを食い、八戸で仮面貴族を見た



第11号
■特集「狂気とは何か?」
怒涛の6人インタビュー堀辺正史、T・J・シン、西村知美、佐野量子、ガッツ石松、糸井重里／プチ特集「『週刊プロレス』とは何か?」初代編集長独占手記



第12号
■特集「色気とは何か?」
村松友視が前田日明を語る!／「前田日明が某格闘技雑誌編集長を女子便所説教」事件勃発記念座談会／蝶野正洋も登場!／色気王A・猪木も登場



第13号
■特集「道場破りとは何か?」
安生グレイシー道場破り失敗事件記念企画山本小鉄&上田馬之助に緊急インタビュー／サブ特集「ファミコンプロレスとは何か?」デルフィン登場



第14号
■特集「神秘とは何か?」
佐山聡、大槻ケンヂ、プロボディーガード・清水伯鳳、鈴木みのるが神秘を語る!／遠藤幸吉、高田文夫にロングインタビューを敢行!



第15号
■特集「インディペンデントの逆襲」
インディーレスラー10人斬り+大物インディー3人 高野拳磁、ポイズン澤田、中牧昭二／巻末特集「K-1とは何か?」石井館長インタビュー



第16号
■特集「新日本凸凹大学校」
『紙プロ』的昭和新日総力検証 マサ斎藤、キラー・カン、田中ケロ、破壊王、後藤達俊インタビュー／ユセフ・トルコvs由利徹対談



第17号
■特集「実況パワフル北朝鮮」
猪木×永島のナマハゲ対談(© 大仁田)、村松友視がミーハーヒロイズム宣言!? ブル中野、破壊王も登場／巻末特集「藤原組の逆襲」



第18号
■特集「高田延彦さんへ愛をこめて」
引退宣言の読み方座談会／サブ特集「すてきな奥さん」大山倍達、サスケ、ライガー、石川雄規の嫁が登場!／新間寿恒ヒザ蹴り事件勃発!



第19号
■特集「さようなら紙のプロレス」
『紙プロ』の廃刊騒動の顛末。新編集長誕生!／サスケ×高野拳磁『紙プロ』を偲ぶ座談会ミスター・ポーゴ、山崎一夫インタビュー



第20号
■特集「劇的格闘技」
真樹日佐夫、角田信朗、大槻ケンヂ、村松友視の四大インタビュー／山口昇と東京シュガーベイブ結成記念 ユセフ・トルコ、上田馬之助、遠藤幸吉が登場



第21号
■特集「幻的格闘技」
古武道を通じてプロレスを考えよう! 前田日明も登場! スクープ・寛水流空手二代目会長の世古典代氏登場!／高田文夫、ユセフ・トルコが登場



第22号
■特集「この人が喝っ!!」
巻頭インタビュー・ジョージ高野／プロレス雑誌を斬る!!／高阪剛、セッド・ジニアス、小佐野景浩、熊久保英幸インタビュー／M・マスカラス宣言号



■猪木とは何か?
スキャンダルにまみれていた時期の猪木を直撃! どうってことねえよ!／村松友視、立川談志、告発仕掛人・仙波記者が登場! 新間のPKO発言を誌上再録



■パンクラス公式読本
～矛～
97年夏当時、横浜道場にいたパンクラシストたちを中心に構成!／なぜか突然、佐山聡が登場!／故・長谷川悟史選手のロングインタビューも掲載



■パンクラス公式読本
～盾～
97年夏当時、東京道場にいたパンクラシストたちを中心に構成!偶然か、必然か?／故・ジャイアント馬場がパンクラスを語った衝撃のインタビューも掲載!!



■極真とは何か?
不撓不屈の極真魂が溢れる16人を直撃!／松井章圭館長、磯部清次南米支部長、F・フィリョ、黒澤、ニコラス・ペタス、某格闘技雑誌編集長らインタビュー



■紙の前田日明
～インタビューという名のエネルギー史～
『紙プロ』、『リンタマ』、『紙プロRADICAL』誌上で掲載した前田インタビューを再構成して再録!／引退直前の覚悟のインタビューも新規収録!／某団体が告訴を検討するほどの過激な言動を凝縮した完全保存版

申込み方法

●現在は1号～4号、6号、7号、9号、10号、『大山倍達とは何か?』『猪木とは何か? キラー編』は完売しました。ノーダウト!!●定価は『紙のプロレス』5、8号は700円、11号～22号は780円となります。●『猪木とは何か?』は1320円、『極真とは何か?』は1530円、パンクラス公式読本『矛』『盾』は1260円、『紙の前田日明』は送料込みで、サービス価格の2000円となります。●送料は1冊＝310円、2冊＝340円、3冊～4冊＝450円、5冊＝520円、6冊以上＝700円となります。●10号、『大山倍達とは何か?』は書店やプロレスショップで探せば若干残っているはずです。頑張りましょう。

【現金書留】
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
(株)ダブルクロス「本誌バックナンバー係」まで

【郵便振替】
00130-3-769154 (株)ダブルクロス
※どちらの方法にしても、必ず希望の号数を明記してください。

グレート・チョロの ハガキ劇場





先日の前田襲撃事件では、事前にリークがなかったため、日明兄さんの真横にいながら、激写することも助けることもできず、ただただ呆然としていた、チョロのハガキ劇場じゃあ!

前号の感想 面白かった記事

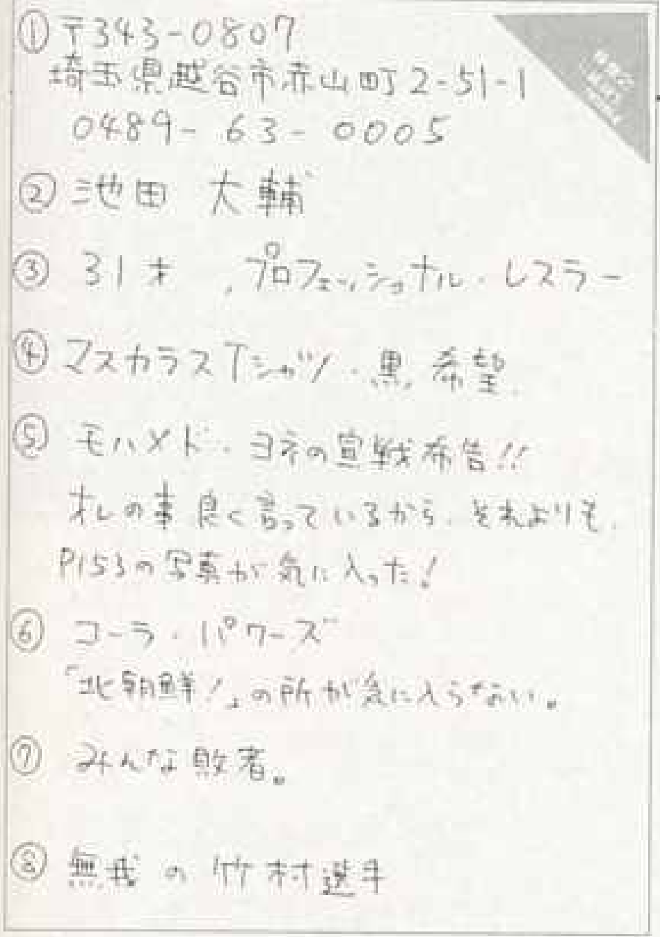
前田日明インタビュー。やっぱ兄さんスよ。カッコ良スギ。名言1は中坊にはちょっと早すぎたけど。もう卒業文集の内容は決まりましたね。ハイ。
(宮城県/千葉裕美/15歳) 4点
★名言1は「俺はオッパイと葉巻しか吸わない」か。確かに中坊にはちっと早いかもしれないな。でも卒業文集はいったいどんな内容になるん邪! できたら見せてくれんか?

小川選手のインタビュー。あえる・できる・今スグ 小川選手のキャラクターが好き。
(杉並区/柳瀬桃子/15歳) 5点
★あえる、できる、今スグ? 何のことかと思ったら、前号の



(東京都/柳瀬桃子/15歳) 5点★オイ、オイ、オイ、オイ! ♪オイオイオイオイオイオイオイオイオイオイ! 素晴らしすぎる! 浅野忠信以上の画才を感じさせる末恐ろしい15歳だ。

(埼玉県/池田大輔/31歳/プロフェッショナル・レスラー) 10点★池田大輔選手から読者ハガキが届きました。押忍!(敬礼)。他のレスラーからの投稿もガンガンお待ちしてるん邪!


① 〒343-0807
埼玉県越谷市赤山町2-51-1
0489-63-0005
② 池田大輔
③ 31才, プロフェッショナル・レスラー
④ マスカラスTシャツ・黒, 希望.
⑤ モハメド・ヨネの宣戦布告!!
オレの事良く言っているから。それよりも、P153の写真が気に入った!
⑥ コーラ・パワーズ
「北朝鮮!」の所が気に入らない。
⑦ みんな敗者。
⑧ 無我の竹村選手

(青森県/青木雄大) 10点★今号のイラストトリスト作品! 西村選手の衝撃告白に続いてカンちゃんが衝撃告白! 次はマイク・バートンか?「ボクはガンでした」。

(熊本県/塩本祐介/34歳) 5点★「お前はなんで前田を助けなかったんだ! 俺なら前田にタックルして助けてましたよォォォォ!」とターザンは大炎上!

P140の伝言ダイヤルのキャッチコピーだったんじゃあ! オイ、オイ、オイ! おぬし若いのになかなかやるな。15少女漂流記!

大仁田厚インタビュー。TVの大仁田の語りはつまらないけど『紙プロ』になるとこんなに面白くなるとは……『紙プロ』に脱帽。とくに「ニタ復活は笑ってナンボ」発言。自分でわかってやってんじゃん!! 大仁田の掌の上で遊ばせていただきました。
(愛知県/たっつあん/31歳) 5点
★オイ! ほめられると照れる邪ねえか!

『S多重アリバイ』鶴見五郎。『紙プロ』でしかできない内容。〝今〟を語るなら単なるバクロ話でしかないが〝あの時〟を語ると〝文化〟である!!
(広島市/浦野晋/35歳) 4点
★そうそうそう、いい表現だよ。それパクリだよ。俺の言葉にしておいて。ファイヤー!



ダーティーヒロイズム座談会。ほんとおもしれェから、2000年は座談会メインで行ったら!? 週刊誌じゃねェんだから、カラーページ減でいいから、その分出席者に金使って。司会者はタコヤキ君がベスト。キッド、ターザン、高田(文夫)先生、あとファン代表と、レスラー代表(小島とかライガーとか)そこらへんのオッサン(クサヤオヤジとかイカオヤジ【生ダラ】)結局小さい版の『紙プロ』を待ってんだよ、30代は。
(静岡県/横田賢どん/31歳) 4点
★30代は小さい版の『紙プロ』を待ってる? オイ、オイ! アレは笑ってナンボだよ!

八木純子インタビュー。飲みっぷり食べっぷりに感動。タバコにも感動。
(山口県/河杉けい子/20歳) 5点
★オイ、オイ、オイ! けい子ちゃんはかなりの感動屋さんじゃな? まあヤギジュンには早く試合で感動させてもらいたいもん邪!

桜庭インタビュー。いつもほがらかなサクが田村がらみの発言では一転してキラーモードに入るのが興味深い。
(青森県/青木雄大/24歳) 4点
★右に同じです。1、2、3、ファイヤー!

やっちゃってくれサク! 幼稚園の時のウンコ垂れ事件思い出しました(『紙プロ』はいつも見てま~す)。
(秋田県/桜庭優子/56歳) 5点。
★サクのウンコ垂れ事件を知ってる桜庭優子さん? もしやと思い桜庭夫人に確認したところ、やはりサクを産んだ偉大なお母様からと判明。これからもよろしくお願いしま~す。

田中健一の記事。キャラクターは地味だけど結構気に入ってます。
(大阪府/奥瀬康介/32歳) 5点
★田中塾長から、「『紙プロ』読んだっていう反響あんまないんスけど、売れてるんスか?」と心配されてしまったが、心配御無用! インタビューもかなり反響あったッス。押忍!

モハメド・ヨネ。ヨネちゃんらしい。本当にトップを狙ってほしい!!
(神奈川県/南椎ゆみ/28歳) 3点
★屁のツッパリはいらんですよ! 二千年のヨネは世界を股に掛けて活躍するんじゃあ!

CIMAのページ。プロレスのこと、素のCIMA、イラストなど、いろいろ知れて良かった。どんなレスラーでも素の部分や意外性など聞き出してのせてホシイ。
(新潟市/田中陽子/25歳) 4点
★オイ、オイ、オイ! CIMA、新しい4コマ漫画を早く送ってくれ! ちっとわかりづらいが、俺には無問題で面白いんじゃあ!

座談会。編集長が素敵だから。
(愛知県/真下純子/邪道姫) 4点
★オイ、オイ、オイ! ♪オイオイオイオイオイオイ! ハッキリ言って羨ましいん邪!

高瀬大樹インタビュー。さすがに菊田の仲間だけあって口が悪い。でも修斗に対する意見は納得させられる。
(東京都/高島有治/29歳) 4点
★山喧には負けてしまったけど、もう一回、もう一回だけアイツにチャンスをやってくれ! アイツは邪道魂を持ってるんじゃあ!

わかおはるかのTHE・ジョージ秘宝館。インタビューでもなく、解説めいた所もなく、それでいて何だか面白い。少し謎めいた部分もありますが、続きが読みたいです。よろしくお願いします。頑張って下さい。
(東京都/乾博) 3点
★局地的に人気爆発のジョージ秘宝館。やはりコブラにはミラクルパワーがついているのか。さらにセッド・ジニアスから挑戦状を叩きつけられたジョージ。回答はいかに?

チョロのハガキ劇場。充実してきた感じ。今一番『紙プロR』で面白い。
(東京都/島本直也/29歳) 5点
★オイ、オイ、オイ! ♪オイオイオイオイオイオイオイオイオイ! そんなこと言ってくれるのはお前だけなん邪! アリガトよ。

つまらなかった記事

ジャイ子『紙プロ』追放決定! すでに私のターゲットは大西タマリンだから(ストーカーは絶対しないけれど)
(港区/増沢洋明/28歳) 2点
★ターゲットはタマリン? タマリンはハッキリって強敵なん邪!「私は菊田早苗より強い!」と常々言ってるし、ホイラーに勝ったサクからは、「次は大西さん、ボクと勝負して下さい!(弱火)」と対戦要求されてるくらいだからな。ゴー・フォー・ブロック邪!

冬木選手のお小水プレゼント。してやったり

アントニオ文朱の部屋



「ホイラーと山口良一は似ている」との青春の大発見をした文朱のぶらり途中下車の旅。まずは俳句?劇場。■「テラニシツルミラッシャーヨシワラ　コクサイプロレス」■「ウノタカセ　ショウジヒラマツ　ケイシュウカイ」。う~んマダムヤン! 油断してるとチャンピオンの店長まで書いてくる男、アントニオ文朱。彼をハガキ劇場の闇討ち番長に認定! 全部合わせて20点やるん邪!





(三重県/エル・ナチョス) 5点★今年、格闘系Tシャツでバカ売れしたのはオーチャンの「目ヲ覚マシテクダサイ!!」Tシャツ。次はこれでいってみよう!(いかりや調介)



(静岡県/横田賢/31歳) 5点★目が覚めたのは破壊王でした。「オハヨウゴザイマス!!」と飛行機ポーズでフラフラ歩いて行ってしまいました。どこへ向かって行くんでしょうか?



(愛知県/たっつあん/31歳) 5点★愛知のたっつあんから、藤波社長のイラストが届きました。10・11での苦悩のレフェリングぶりがこの一枚にギッシリと凝縮されています!

投稿写真 デラックス

のつもりだろうが甘い甘いの糖尿病である。やはりコアなプロレスファンは「長●力のブッカケ用クソ」ぐらいプレゼントしてあげないと喜びません！

（福岡県／西尾徳博／34歳）3点
★プロレスファンの心理はよくわからんの邪！ 恋せよ乙女！ 1、2、3、ファイヤー！

坂井ノブ水死!! なんでカラーやねん!! ボケ!!

（兵庫県／大塩虎徹／27歳）3点
★同様多数じゃあ！ 気にするな、迷わず喰えよ！ 喰えば太るさ！ ごっつあんです。

大仁田厚。なんでインタビュアーは大仁田をヨイショする？

（石川県／杉本清隆／27歳）2点
★山は動いた！ 何と言われようとも俺を信じて支えてきてくれた諸君に、姑息・松澤チョロ、心から感謝する！ 1・4東京ドーム、スモー・ノブ対松澤チョロ、決定じゃあ！

自分の写真は見ていて腹が痛くなりました。「こんなもの捨ててやる!!」と田んぼへ突っ込みそうになりました。おいないです。あと、友達（同級生）が36歳の男性と交際中だということが発覚しました。果たして応援してやるべきでしょうか。そんな中、クラスでは「世界のミステリー～悪女伝説～」という小説が大流行中。合い言葉は「悪女ダレ？」みんな何を目指してんだ？ ビバ世紀末。

（千葉県／神子佳世／17歳）5点
★前号で読者モデルを務めてくれた神子佳世どんの登場だ！ それにしても佳世どんの周りには、乱交やったり援交やったりエキサイティングな友達が多いん邪！ でもな、俺はその友達を応援する！ 友達頑張れ！ それやったら俺は友達応援する。頑張れ頑張れ！ 俺セコンドでもなんでも付くよ（山喧節）。



（愛知県／ホタルイカ）5点★おデブちゃんも、ちょっと工夫でこの可愛さ。スモー・ノブにどすこいインタビューして欲しい相撲出身レスラーのリクエストも待ってるんじゃあ！

『紙プロ』で取り上げてもらいたい団体&選手は？

私にとって新日は全てでした。しかし、ストロングスタイル、猪木イズムを忘れた同団体は、小川に完全に潰された。私の中では新日はもう弱小軍団でしかない。21世紀のプロレス、それは「小川」そのものになるだろう。※小川直也、UFOをお願いします。

（大分県／三浦仁／27歳）4点
★いやいや、こちらこそ宜しくお願いします。

マグナム・トーキョー。夜の相談室をもう一度復活させて！

（大阪府／山内義久／31歳）2点
★夜の相談室？ それは『ケンファー』邪！

最近、女子プロの記事が少なすぎるゾ！ アルシオンの爆裂ユニット『CAZAI』なんてどうでしょう。

（山口県／河杉けい子／20歳）4点
★全女の2000年問題もブッ飛ばす大型新人・関綾子もデビューしたことだし、次号でドカンと女子プロ特集でも組みますかーッ！

最近よく高校生活を取材されている大仁田を見るが、ヤツはプロレスさえやらなければすごく好青年だと思う。夏休み編なんて結構感動した。

（東京都／高島有治／29歳）4点
★好青年っていってもやることはシッカリやってるんじゃあ！ あと半年だけ、俺にハガキ劇場をやらせてくれんか？ あばよ!!



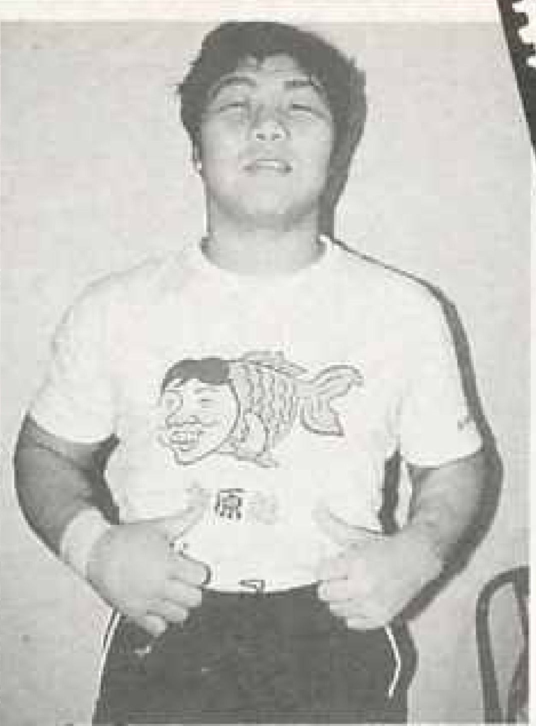


（東京都／キャプテン名倉）5点★「冗談じゃねぇぞ、ジャイ子追放！」と嘆くキャプテンが東京に越してきた。さあジャイ子はもう目の前だ。

（熊本県／塩本祐介／34歳）5点★DDT、掣圏道、UFC－J、PRIDEなど頻繁に会場で見かける篤っちゃん。その横には常にジャイ子の姿が。

（ダンディーでミレニアムな口調で）こんばんわ、弱火写真館『アトリエ・チョロ』の館長ことカメラマンのチョロです。いやぁ～撮影って本当に難しいですね（本日も反省の色ナシ）。ピンボケ万歳！ 投稿写真待ってます！

『UFC－J』NK大会。会場で金原魚Tシャツを着てウロウロしている人がいるとのタレコミが…。誰かと思ったら本人でした。この後にあんな事件が起こるとは、金原選手も…。





（川崎市／和田良覚／レフェリー）10点★取材で前田道場を訪ねると、な、なんとそこには、ビッグバンベイダー・RINGSの姿が！ もしかしてBブロックの隠し玉か？

大仁田が長州の汗だくTシャツを受け取った11・12後楽園。リングサイドをよく見ると、『紙プロ』Tシャツを着たA・クーガーの姿が！ クーガーに10点



『PRIDE.8』直前の桜庭&アレク&松井&カールによる公開合同練習IN高田道場（11・10）。サクの必殺あい～んチョップを受ける『紙プロ』Tシャツ着用のアレク。アレクにも10点



これは誰のタトゥーなん邪？



さて問題です。右の写真のタトゥーは誰のモノでしょう？（ヒント・イナズマではありません）。正解者には、タトゥーの持ち主の全身ナマ写真とサイン色紙を差し上げます。応募はハガキ劇場まで。

中川雅博画伯Tシャツ道場

前号で告知した「中川画伯のTシャツ&似顔絵道場」。そこでは、中川画伯の今まで数々の雑誌等に掲載（ボツも含む）されたイラストをTシャツ（しかもたったの1800円）にしてくれるという太っ腹サービスが行われていた！



貧乏人の俺もTシャツ2枚購入。その中から、1・4東京ドームでゴールドバーグと闘うリック・スタイナーTシャツ（サイズM）を1名にプレゼント！ 左腕には下のマークが入ってます。カリスマTシャツデザイナーの中川画伯に20点差し上げます。★コーラーイラスト（伊藤智彦／29歳）3点





★今号の最多投稿キング（防衛）★ 青木雄大じゃあ！



（青森県／青木雄大）各5点・計30点★それでも「俺はお金に困ったことはない！」と言い張り続けるグレートたこ社長なのである。



安生の前田襲撃事件をしっかり捉えているテレビカメラがあったが、裏ビデオとして出回る日はくるか？ 10万出しても見たいん邪！



ヒャッホー！ 酒井法子です。でも熱狂的な辻ファンは日本にどれぐらい生息するんだろう？ 俺は、俺は、真鍋が好きなんじゃあ！



顔パンマンvsボブチャンチン、顔パンマンvsグッドリッジ、顔パンマンvs安生洋二、顔パンマンvs小路晃。俺は、俺は、見たいん邪！





「塩本名人の『ハガキ劇場』でのコメントありがとうございました。何せ敬愛、崇拝している御方なんで感覚が激しています。『紙プロ』入手に東京の連中に比べて何日も時差がかかる田舎者同志頑張りましょう」○サク対ホイラー●

妖怪通信
Y2J magazine

ジャイ子が追放されて1ヶ月。その追放を惜しむ声が上がるかと思いきや、読者のリアクションは意外とあっさり系。みんな、そんなに嫌いだったの？　どうやら、今後「ジャイ子」という唯一無比のキャラクターが面白い方向に転がっていきそうなので、観察させてもらいます。皆さんも、街中や会場でジャイ子を見たら、本誌編集部まで報告してください。

文・坂井ノブ

なんと全女からジャイコにオファーがあった!!



オエ～！　寒気が襲ってくる脅威の顔面芸だ。これでもプロポーズされるんだから、幸せ者だ！

前号で見事『紙プロ』追放となったジャイ子。そんな妖怪の落ちぶれていく様子を逐一観察して読者の皆様に報告していくのがこのコーナーである。

「追放したんなら、ソッとしといてやれよ」とお思いの読者様もいると思うが、それは断じて違う。そもそもジャイ子は本当に追放されたわけではないからだ。まず今回はジャイ子が辞めるまでの経緯から書いてみよう。

ご存知のように本誌編集部は慢性的に人手不足。その中でジャイ子は別のお仕事をしながら、本誌を手伝っていた。つまりバイト。「そろそろ社員になろうという気はないの？」と聞いてみたことが何度かあった。しかし、蚊の鳴くような声で煮えきらない返事しか返ってこない。しまいには「私、一生就職できない！」と、巨体をクネらせ、上目遣いでダダこね始めた。オエ～！

まあいい。「入る」「入らない」でジャイ子を責めるつもりはない。問題はもっと違うポイントにあるのだ。

月日が経つにつれて態度は身体なみにデカく、広告担当の恵美ちゃんをはじめとする女子関係者に対して無闇に牙を剥きまくるようになる。ちょっとかわいい子がいると「なによ、あのブス！」ぐらいのセリフは軽く吐ける、典型的なヒガミ精神を発揮！　その結果、いたずらに（ジャイ子の中での）敵を増やしていった。

このような精神病一歩手前の気分屋この上ない性格も非常に災いして、ジャイ子は次第に無駄にデカいだけの置物と化していった。すると、このアマはとんでもない爆弾発言を投下した。「アタシもそろそろお休みをいただこうかと思ってるんですぅ」などと言い出したのだ。「そろそろ？」「お休み？」

この勘違い発言でブチ切れたのが誰あろう本誌鬼畜編集長・山口日昇である。なんだかんだと文句を言いながらも、期待してきただけにショックはデカかったようだ。「絶対にタダでは休ませない」と心に誓ったそうだ。

この発言を引き金に、ジャイ子の退職記念大作戦が始まった。早速、鬼畜編集長は本誌NO．20で新入社員・大西タマリンとの「ルーザーリーブ『紙プロ』マッチ」をマッチメイク。普通に考えればキャリアで勝るジャイ子に分があるはずだが、そうはいかない。

結局、「ジャイ子追放」という優しい審判が読者によって下されたのは、前号で報告した通りである。万人に認められて、ジャイ子は『紙プロ』を去った。これからは、大好きなDDTやキャプチャーをプレスとして見に行けなくなってしまったのである。これも、すべては本人と読者が望んだこと。

だが「捨てる神あれば、拾う神あり」。世の中うまく出来ている。『紙プロ』から捨てられたジャイ子にはいくつも素敵なオファーがあった。



読プレ等の企画では不気味な笑顔で誌面に出まくった。

なんと、ジャイ子にプロポーズする神様のような男性が現れたのだ！　人生最大のビッグ・チャンスだ！　編集部全員で結婚を勧めたところ、突然ジャイ子は泣きだした。理由は不明！

その後、彼氏とは別れたそうだ。理由はプロポーズされたから。「アタシ、一生結婚できない！　だって、バレちゃうもん！」だそうだ。本気で一生独身を貫くつもりでいるらしい。何がバレるのか知ったこっちゃないが、たしかにジャイ子の人間性がバレたら、普通の結婚生活はまず無理だろう。じつに賢い選択である。

ひとりになった寂しさからか、最近のジャイ子は酒浸りになり、毎日ビールを1リットルも飲まないと眠れない破滅的生活を送っているらしい。追放決定後、残務処理をしているときなど、チョロと会社で酒盛りを始める始末だ。挙げ句の果てには、酔った勢いで互いの乳をもみ合って、乳首の位置の当てっこをしていたというから、もはや閉口するしかない。

続けて、そんなジャイ子を拾いに来たのは、なんと全女だった！「ジャイ子さんは本当に追放されたんですか？　是非、ウチに上げたいんですけど……」と広報の今井さんから熱烈ラブコールがきた。本誌前号に掲載した八木淳子に「連絡を取りたい」という団体からは何本か電話が来たが、さすがに全女は目の付けどころが違う。ジャイ子は全女のオーディションには2回応募している（ちなみに2回とも書類審査で脱落）ので夢よ、もう一度である。

職場の女子とことごとく対立してきたジャイ子だけに、もし全女に入団したら、脅威の怪物新人・関綾子にも牙を剥くのだろうか？　ジャイ子のような人間が、いちばんイジメられそうな気がする。ガンバレ、ジャイ子！

スモー・ノブのごっつあん部屋



はぁ～、どすこ～い、どすこ～い！　このコーナーではタニマチを募集しつつ、『ごっつあん』してくれた人をご紹介して「ごっつあんです」を言うコーナーでごわす。

●バトラーツ・島田レフェリー↓おやつ段ボール1箱　●カリスマ司会者・原タコヤキ君↓体重計&鳩サブレなど多数　●SRS DX・井上きびだんご↓『ごっつあん銀座』登場　●キャプテン名倉&ソンソン須田&冨田さん↓ビール20本&ツマミ　●タマリン↓食べきれないごはん　●ダイエットブッチャースリムスキン・深民さん↓メチャクチャいろいろお世話になってます　●アタッカーズ・岩渕さん（＝初代マスクド店長）↓『痴漢伝説32』などなど、その他にも様々な皆様のごっつあんにより、スモーノブは今日も生きているでごわす。これからも一途に相撲の道に精進するでごわす。はぁ～、どすこ～い！

グレート・チョロのハガキ劇場

タマリンの 編集部 世紀末珍獣絵巻地獄観察日記

ようこそ、珍獣ワールドへ。ホント、ここの獣人たちはチンピラだよ、チンピラ！（BY高田延彦） ワタシがここへ来て4ヶ月。ほぼ毎日、珍獣たちと顔を見合わせ生活を送るムツゴロウ王国状態である。その珍獣たちの日常生活を今回は、勝手に超私極日記にしてみた。

イラスト／BV22・BORI



10月●日

修斗大阪大会を観戦するため大阪へ。そこに、待ちかまえていたのは平成のカリスマ司会者こと原タコ獣（鳥取県出身説アリ）。タコ獣は、「兄さんがメシ食わしたんで～」とやさしさライセンスたっぷり。そして、ケーキパフェなる食べ物を注文。その食べ物とは、パフェグラスに堂々と三角ケーキがそびえ立っている、という何とも不可思議な物体。しかし、タコ獣は「これが、大阪やねんでぇ～」と平気でパク食い。ワタシも大阪人ではあるが「ここは、どこやねん？」と頭を抱えた。そんな、タコ獣はいい人というステキな仮面着用の、マスクマンである。

11月●日

今日は、スモー・ノブことどすこい獣が、ここ最近著しい体重増加のため1日食べ物ウォッチング開始。

AM10：00 起床 起き上がった瞬間から、菓子パン8個を2分でペロリ。顔は寝てるのに、手だけは動くという不思議な光景である。

PM12：00 おむすび3個を世界最高速で食す。あまりにも速すぎて肉眼では、測定不可能であった。

PM12：30 激安ステーキハウスにて、ステーキセット&カレーライスを食べ満足気な様子。

PM2：00～6：00 じゃがりこ（スナック菓子）に湯を入れて食べ（スープ感覚!?）、チョコレートやせんべいなど、おやつとの終わりなき闘いが繰り広げられる。

PM7：00 大盛りコロッケカレーを3杯おいしそうに食べている。この時点で、どすこい獣付近のゴミ箱には、食いちらかしたゴミがあふれかえっている。

PM9：00 「う～ん、腹減ったでごわす！」と人が弁当食べてる横で、四股を踏みだした。あまりにうっとおしいので、食べかけ弁当をくれてやることにすると「ごっつぁんです！」とニコニコ食べ出した。

PM10：00 やはり、食べかけの弁当などでは、我慢できるはずもなく買い出しへ。この行動が寝るまで続き、観察するのも実に疲れた。スゴイ食欲だと思いハリキッてみたものの、書き出すとたいしたことがなくガックシ。まぁこれが、どすこい獣の定説です。はぁ～どすこい、どすこい！

11月●日

UFC―J取材のためNKホールへ。会場でリングス坂田選手が、ジュースを買うことができずチョロ獣に、助けを求めにきた。あいにく、チョロ獣も小銭を持っておらず、ワタシに白刃の矢が……。「倍にして返すから」と言う言葉を残しジュースゴク飲みで、坂田選手は消えてしまった。坂田さん！ 倍返しはいいので超豪華読者プレゼント下さい!! その後、数々の事件が起こり、帰りの車中でも、どんよりとした空気が流れていた。特に、目の前で一部始終を見ていた本誌編集長のびぃ～獣は、衝撃すぎて、ご飯もあまり喉に通らない様子。やはりのびぃ～獣パワーがなければ、獣人たちも元気がない。と思いきや、会社に到着するなりヤマケン以上に大爆炎!! いかなることもエネルギーにする、のびぃ～獣。この獣が三度のメシより占い好きだとは、決して思えない。ちなみに、のびぃ～獣の適職占い結果は、マスコミ才能ゼロ!? で予想屋が天職であった。

11月●日

大刀光インタビューが編集部内で話題騒然に。前代未聞のおもしろさとみんながほめまくる。（ここ最近、金髪獣こと吉田豪は、どすこい獣にとてもやさしくエサを与えている）その原稿を見たワタシの心のオアシス、キビ獣（職業、ブロック崩し）は、腹がよじれてねじれていた。

11月●日

リングス餅つき大会に5年連続通う男ガンツ（練習生）ことニヤケ獣の行動が、不信である。入稿中の忙しいさなか、酔っぱらい「オイ、どすこい！ やっぱ、デートはディズニーランドだよ～」と全く顔からは想像もつかない、メルヘンチックなことを言ったかと思えば、「ちょっと会合に行ってきます」と編集部を抜け出し、実はナンパに励んでいたり。そして寝起きの顔は、見たこともない不気味さである。エセ笑顔の中にあるハラ黒さが、尋常じゃないことを再確認させられた。

11月●日

世界一の熱弁カメラマンことモーリー獣は、結婚式という生涯初の晴れ舞台に、桜庭ハチマキで挑んだ。ここに男の意地を感じさせるが、何せ頭が狂ってるため、人々の体を芯から冷すモノマネタイムなどの超弱火行動を連発！（ちなみに、モノマネリストは、アラン・ゴエス、イゴール・ボブチャンチンなど……なぜ結婚式でやる!?）でも、なんだかわらない熱さが魅力である。とにかく、おめでとうございます。お幸せに。編集部一同より。



（愛知県／たっつあん） 5点★読者には、不評のスモー・ノブだが、関係者の間では大絶賛の声が巻き起こっている。どすこい大刀光インタビューでブレイクなるか？

★ハガキ劇場★ オフィシャルランキング

順位	名前	点数
1位	中川雅博	279点
2位	塩本祐介	157点
3位	青木雄大	152点
4位	ブルドッグ	139点
5位	キャプテン名倉	122点
6位	神子佳世	95点
7位	ホタルイカ	94点
8位	アントニオ文朱	91点
9位	まっき	85点
10位	告訴ブーム到来。	71点

オイ、オイ、オイ！ ♪オイオイオイオイオイ オイオイオイオイオイ！

「ハガキ劇場」では、皆様のご意見、ご感想、イラスト、投稿写真DX、俳句劇場等々、読者からの熱烈投稿を待ってるんじゃあ！ 宛先は……

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 （株）ダブルクロス

胸いっぱいの「ハガキ劇場」係まで。

合言葉は、「時代はU2 !?」邪!!

なんと全女からジャイコにオファーがあった!!

モーノブは今日も生きているでごわす。これからも一途に相撲の道に精進するでごわす。はぁ～、どすこ～い！

PRIDE.0（ゼロ）

「『PRIDE.0』を広めるため、もっと賞品などを用意してみてはどうでしょうか？（別に高価な物ではなく）。例えば、1戦勝ち抜くごとに賞状（あまりお金はかからないハズ）を送るetc。5戦勝ち抜いた人には『紙プロ特製チャンピオンベルト（ネーム入り）』を送るetc。私の目標は、既に殿堂入りした、武田いづみちゃん、真下純子さんです。あの2人は女性『紙プロ』読者の誇りです。私もあの2人に少しでも近づけるよう頑張りますので「ベルト」をつくって待っていて下さい。それとワガママな奴と思われるかもしれませんが、私の個人的なお願いをきいて下さい。毎回『紙プロ』についているポートレートに私の写真（プリクラでもいい？）を載せて下さい。私のポスターができたらいいな♥　最後に『紙プロ』の記者の方は『PRIDE』シリーズのパンフレットの記事を書いていますね。私も『紙プロ』戦士として、ちょこっとだけ『PRIDE』のパンフレットの原稿を書きたいです。DSE御中にお願いしていただけないでしょうか？　三代目魚武濱田成夫さんの詩をパンフレットに載せるような軽い感じで……」との斬新な提案&要望が埼玉県にお住まいのまこちゃんからよせられました。無問題！　まこちゃんの提案採用決定！　さっそく今号の勝者には表彰状、5戦勝ち抜いた選手には『紙プロ特製チャンピオンベルト（ネーム入り）』を贈呈することにしました（ベルトは次号でお披露目するのでお楽しみに）。まこちゃん、貴重な意見どもども。ちっとポートレートは無理ですが、DSEには軽い感じでお願いしてみます。どうですか、お客さん！　読書の秋、食欲の秋も終わり、『PRIDE.0』の冬が到来！　人は歩みを止め、闘いを忘れた時に老いてゆく。いまこそ『PRIDE.0』原稿を書きやがれッ！　よろしくお願いしま～す。押忍！（敬礼）

前号の結果発表！	感想
ライセンスナンバー18 **森下潤一さん** **『姉と高田とキラー・カーン』** **132票**	●「似顔絵番長！」（埼玉県／アントニオ文朱／100歳）●「姉って心の中のもう一人の自分ではないのか」（福岡県／倉地悟／28歳）●「姉さんと一緒に観戦してみたい」（新潟市／田中陽子／25歳）●「文体がシロウト的だから。“シロウト勝ち抜き”というタイトルに最もあっている」（広島市／浦野晋／35歳）●「26歳で似顔絵は学ラン着用というギャップが文によく現れています」（千葉県／神子佳世／17歳）●「知り合いがキラー・カーンの飲み屋で働いてます。元気かな？」（大阪府／村田忠陽／19歳）●「姉ちゃんの参戦求む。『ハガキ劇場』に載った私のイラストよりも森下さんの似顔絵が大きいのが気になります」（愛知県／たっつあん／31歳）●「私も同じようなことを感じたから」（千葉県／島野香織／21歳）
ライセンスナンバー20 **ベンベン・ダヨトさん** **『KING 001』「ヒーローリボーン」** **91票**	●「イラストで選んだ」（愛知県／堀田祐一朗／23歳）●「続けろ！」（福島県／森拓介／33歳）●「猪木さんのイラスト、マイクにON、OFFスイッチがついているところがよかった」（愛知県／真下純子／邪道姫）●「乱闘男がボディービルに燃える黄金の鷲ダニースパイビーならもっと良かったんだが」（大阪府／真室俊昭／27歳）●「ケムマキのペットの名は？」「…カゲチヨ？」この答えが出た時の様に僕は感動した」（愛知県／三鬼良平／25歳）●「謎の格闘家がマイナーレスラーという所がブラッド・コーラーチックでタイムリーだった」（北海道／大森伸也／25歳）●「11対6（ジャッジ藤原敏男）でベンベン・ダヨトの勝ち」（奈良県／楠田卓生／21歳）●「こうゆうの大好き!!　もっとして～!!」（奈良県／五置哲郎／21歳）
ライセンスナンバー17 **木村繁さん** **『コビーにくびったけ』** **～あるいは真樹が梶原を越えた日～** **87票**	●「各所にマニアなくすぐりが入っているこの人の文はいつも完成度高し」（青森県／青木雄大／24歳）●「木村繁さんに座ぶとん一枚！」（福岡県／西尾徳博／34歳）●「コバクニを語るうえでかかせないのはコテツヤマモト。テレビでコバクニの白黒パンツを絶賛してたんだよな。なんでだ!?」（千葉県／内野さとし／32歳）●「君の文章は“デンジャラス離れ際”（by辻アナ）だね」（札幌市／藤原章男／27歳）●「男はキムシゲ！　女もキムシゲ！（何のこっちゃ）」（愛知県／キャプテン名倉／30歳）●「私自身、白と黒のツートンカラーを見ると、コバクニを連想してしまうから（例・葬式）」（香川県／黒岩裕樹／24歳）●「寺西って舎弟だったの？と考えさせられた」（京都府／藤井実／23歳）

2戦勝ち抜き

ライセンスナンバー18

『こばしクンを訪ねて』

森下潤一（26歳）

一般に京都人というのは、上品だというイメージがあります。しかし、これは大きな誤解です。

僕の母は京都生まれの京都育ちですが、人前で「プ～」と平気で屁をたれます。

その上、「音が鳴るのはクサくない証拠どすえ～」と開き直ります。

また母は「昔は京美人と呼ばれてたんや」と自慢します。僕の友人に「女・ハナ肇」の称号を与えられている現在、とても若い頃の面影は見えません。

下品な京美人は母だけでなく、リングにも溢れかえっています。

キッツい関西弁（それも岸和田アクセント）を撒き散らす中西学さん。1・4の新日とUFOの乱闘の際、一人イスで暴れていた卑怯者、高岩竜一さん。顔が人食いの天山広吉さん。名前が名前なダイナマイト関西さん（TPG出身？）。などなど。

嘆かわしい限りです。「京美人の皆様、目をさましてくださ～い」と小川さんばりに吠えたくなります。しかし、そんな乱れまくる京美人の中にも、唯一、例外と言っていい人が全日にいます。

それは誰あろう、小橋健太さんです。

誰に対しても丁寧な言葉づかい、鼻を骨折しても休まない責任感、クリーンファイト。そして、あのいかにも平安貴族な狐顔に、京都人でない僕でさえ、ついつい「ほんに素敵どすえ～」と唸ってしまう程です。

まさに小橋さんは崩壊寸前の京都に咲いた一輪の可憐な花、といっても過言ではないでしょう。

そんな小橋さんの生い立ちで一つ、とても素晴らしいエピソードがあります。

それは小学生の頃、クラスでスカートめくりが流行っていて、特にHな意識は無いのですが、小橋さんも周りと一緒に面白がってやっていたそうです。

ところが、当時、習っていた少年野球チームの監督に「弱いモノいじめなんかしちゃダメだ！　か弱い女の子を守るのが男なんだ!!」と叱られ、ハッと目覚めた小橋さんは「よし、将来は女の人を守れる強い男になるぞ！」と固く誓ったそうです。

えらいです。かっこいい男です。これがもし冬木さんなら「うるせえな。てめえもパンツ見てえだろ！」で片付けてしまう所です。え？　勝手に決めるな？　いやいや。小学生時代、女の子を柱にくくりつけ、太股を下敷きでピシャピシャと叩いていた（ようなキャラの）冬木さんなら、絶対こう言うはずです。失礼ながら断定させて頂きます。

話がかなり横にそれたので元に戻します。

さて、先日、僕は仕事の出張で京都に行きました。時間が余ったので、僕はプロレス好きの同僚と一緒に、小橋さんが通っていた惇明小学校を訪ねることにしました。

福知山駅から歩いて15分ほどで、目的地に到着しました。

中に入る前に、僕らはとりあえず、校舎に向かって手をあわせ「今日の小橋さんの基礎を築いていただき、誠に有難うございました」と、感謝の意を表明しました。

それから小汚い校門をくぐりぬけ、グランドに出ました。そして砂場を発見した僕らは童心に返ってプロレスごっこをすることにしました。

聖地で打ち合うラリアットは格別でした。目をつむると、「コバシ！　コバシ！」の大コールが聴こえてくるような、そんな心境になりました。京都弁で言うなら「マロは幸せでごじゃる～」といった案配でした。

帰宅後、これを誰かに伝えたいと、精一杯、今日の感動を母に語りました。

しかし母は僕の話など全くうわのそらで、バクバクと土産の八つ橋を食べることに全神経を集中させていました。

母の喉元にラリアットを……と思いましたが還暦なのでやめました。



ライセンスナンバー21
『「U」って何じゃい?』
アキラコー1号。(28歳)

皆様は勘違いに気付いたとき、どのような対処をするだろう。うろたえる? なかったものとする? 私は面白がる。勘違いしてた自分ごと。

ズバリ、UFC-J。私はどうやら勘違いをしていたらしかった。だから面白がってる、今。結構楽しい。関係者じゃなくてよかった(自己紹介すると、私は28歳の運転手、女。コッチ系の観戦はちなみにまだ数回のビギナークラス。お見知りおきを)。

大会の詳細は本誌を参照'99。アルティメット、オクタゴン、山喧優勝(そして咆哮)、モモマスク参戦、あの団体との提携(友好関係?)、ランデルマンの常軌を逸した身体能力、巻舌が鮮やかだったリングアナ(インポート)、効果音付きの打撃を放つ選手の多いこと。どれをとっても印象深い大会だった。ある意味『PRIDE』よりも。というのも、『PRIDE』がプロレスとWクロスしだして先行きが非常に不安定になったので、どうも私は無意識のウチにこの大会に過大なファンタジーを抱いていたらしい。

それを自覚したのはもちろん「あの」瞬間。元200%の彼氏、前田日明兄さんを襲撃!(しかも後ろから)。おお〜! コレは喧嘩ッスか? だとしたら別に後ろからでもノー問題!つうか、彼の鉄砲玉魂が炸裂しただけのコト。私怨? それもまた結構。でも言っておくが私は安生ファンでもないし、かといって日明兄さんファンでもない。第3者から見て面白いと言ったまで。たとえ、隠しきれない何か(笑)を各種メディアから感じてしまっていたとしても。特に『東スポ』の写真、角度といい完璧ないい仕事ぶりである。

ぶっちゃけた話、みんなそうなんでしょ? だってあの後の安生、一仕事終えた男の充実感が出てたもん。背中に。それこそ「隠しきれない」何か、なんじゃないの? だから私は、そこから彼氏がどこへ向かうか興味がある。でも、言うだけ番長がチラチラ見えて非常に目障り。やりたきゃ手前がやれや!とも思う。

ハッキリ言ってイイっすか?「UFC」の「U」は「UWF」の「U」である(もちろんアルティメットの「U」でもあるが)。「U」の幻影はこんなところにドッコイ生きていたのだ。

この大会を『PRIDE』より面白いと感じた私、おかしいのかしら。

私が好きなのは格闘技なのかプロレスなのか分からなくなってきました。でも選手のマイクは大歓迎。だって私は小路ファン。これまたベタ。んぁ〜。〈続く……のかなぁ〉

追伸:ジム紹介、今度はRJW希望。



ライセンスナンバー22
『ヒマ潰しの告発』
匿名希望(23歳)

事情があり、最近暇になった。そんなことを投稿するのは我ながらいかがなものかと思うが、書き出したら止まらないこと土曜の天使の如くというか。ま、事情っつっても、某プロレス雑誌をクビになるという人生の汚点どころか句読点にもならないようなことなので大目に見ていただきたい。

ここで、私がプロレス業界に首を突っ込んでからおサラバするまでの2年弱がなんだったのかを確認するために、ヒマ潰しをかねて振り返ってみたい。興味ないか? なんなら日記調にしましょうか? しかも連載。勝てば次も載っけてくれんでしょ? みんなもダブルクロスのこと、知りたいでしょ? あ、言っちゃったぁ。バレちゃしょうがないや。全国3千万人の『ジャイジャイ日記』ファンの皆さんに一般人・ジャイ子から『ジャイジャイ日記〜誕生編〜』をお送りしま〜す。ジャイジャイ。

1998年

1月某日

いよいよ面接の日。スーツを着ていくべきなのか、正装で行ったらバカにされるのか、さんざん悩んだ末、おニューの普段着という中途半端な服装で編集部に向かった。しかしお目当ての編集長は不在。なんでもプレイステーションの『バイオハザード』に夢中になってるらしい。偶然のイタズラか、彼氏(当時)もゲームに没頭するあまり、一切口を聞いてもらえなかったことが甦り一気にダークになるも、「面白いことを言わなければ!」という本来の目的を思い出し、喋りまくって(会場で見かけたデイリースポーツの宮本記者のことなど)編集部をあとにした。帰り道、雑談しかしてないことに気付きションボリ。

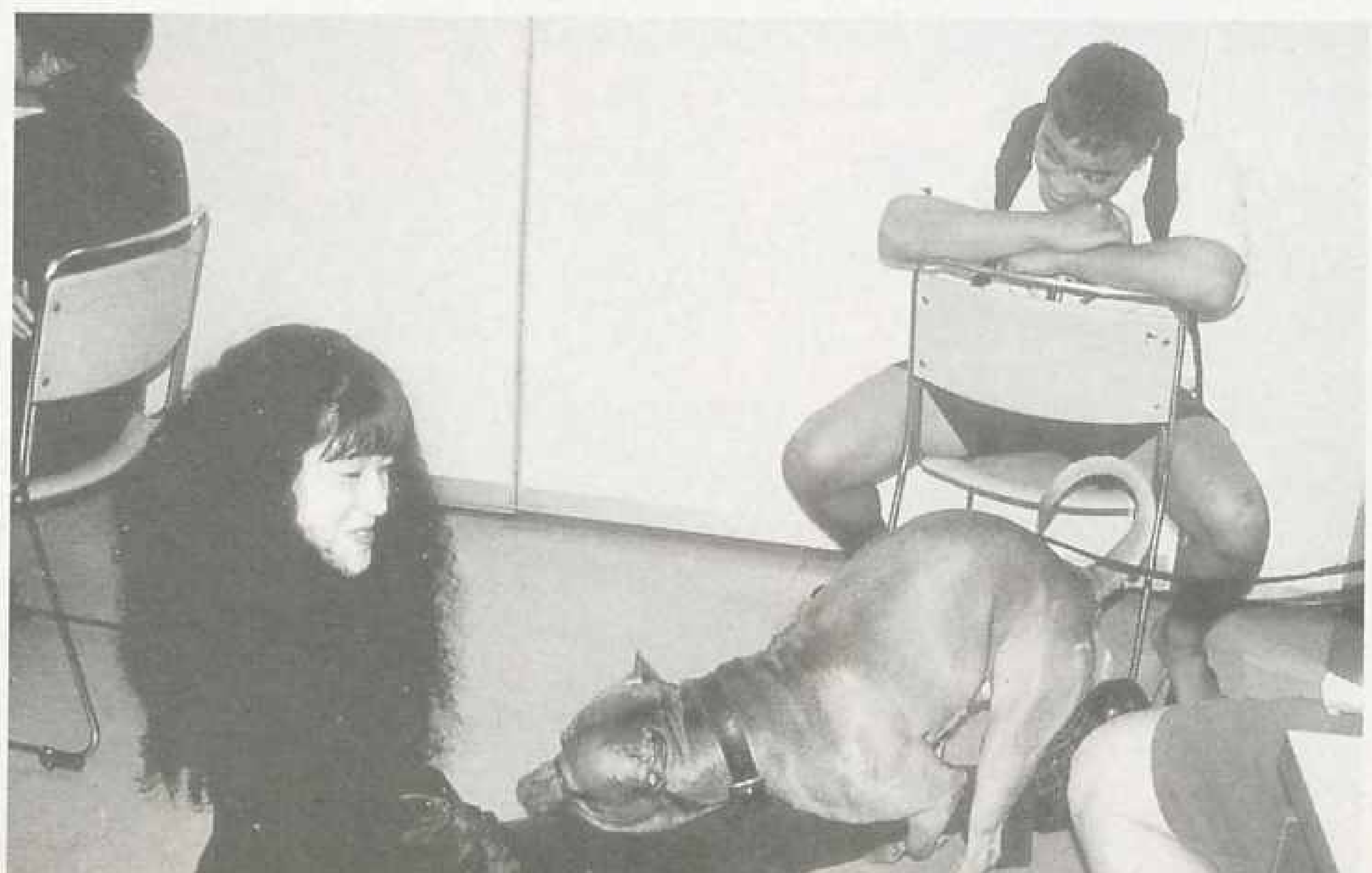
1月某日

「二次面接をやるので20時に編集部に来てください」という連絡が入った。「20時に会社に行くのぉ? なんて非常識な!」普通のOLだった私は当然のようにそう思った、にもかかわらず行ってしまった。しかし編集長は絶賛失踪中(泣)。坂井ノブ(当時)の「来るかも知れない、電話つながんないけど」という無責任(本人、悪気ナシ)な言葉に惑わされ、23時過ぎまで同志・バカツネ(現在音楽ライター)とドキドキしながら待った。もちろん無駄だった。挙げ句の果てには「ヒマなとき遊びに来てください。そのうち会えるから」と、ノブの適当(本人、もちろん悪気ナシ)な言葉で帰らされるという非常に後味の悪い一日であった。

後にこの会社には深夜だろうが早朝だろうが、普通に来客があるところだと判明(ホントに普通に来る。朝4時とか)。20時なんて昼みたいなもんだった。

2月某日

編集長と念願の対面。当然だが、初めて会場で浜部編集長(好み)を見たときとは違うサムシングを感じる。それが狂気だと気付くのに時間はかからなかった。「キミは明るいの?」と突然聞かれ、緊張のあまり「暗い……って いうか、腹黒い」と答えてしまったところ思いのほか受けたので、調子に乗って憎んだ人間への復讐の数々を語りまくる。帰り道、かなり反省。



4月某日

『青空プロレス道場』の見学に行く。第一回のゲストはバトラーツの石川社長。帰りにみんなで食事中、島田レフェリーが突然「オマエは今日からジャイ子だ!」と叫ぶ。ジャイ子誕生である。「ジャイ子」名付けられたこの夜から、周囲からの執拗なイジメが始まった。この続きは次回ね♥ ジャイジャイ。

『紙プロ』追放となったジャイ子さんから『PRIDE.0』に投稿がありました。まさかこんな手を使って復帰をもくろんでるとは。おそるべしシロナガス人間! ジャイジャイ。というわけで、今号参戦の3選手の中から一番良かったと思う作品と簡単な理由を書いて投票してください(応募方法はP175参照)。一番得票数を集めた選手は有無を言わさず次号も参戦してもらいます。読者の皆さん、『PRIDE.0』では、あなたの投稿を心よりお待ちしてます。内容はマット界にまつわることならなんでもアリ。掲載者全員に立派な表彰状、見事5戦勝ち抜いた方には『紙プロ』特製チャンピオンベルトを贈呈します。初代チャンピオンは誰の手に? 俺か? お前か? ノーフィアー! てな感じで、参戦希望選手は400字詰原稿用紙に一言〜5枚程度、住所、氏名、年齢、電話番号を明記し、ついでに顔写真(イラスト、顔面コピーでも可)を同封の上、

〒151-0051
東京都渋谷区
千駄ケ谷3-11-3-702
(株)ダブルクロス『紙プロ』編集部
「オッサンのインタビューなんかチョットでええねん!」係まで。

ただし、ページの都合上、文章を一部変更、割愛することもありますので各自注意!●締切は1月10日(当日消印有効)



©中川画伯

メールでも原稿&マメ情報を24時間年中無休で受け付けます。メールアドレスはE-Mail kamipuro@mail4.alpha-net.ne.jpまで。ヨロシクおま(原タコヤキ君調)。

グレート・チョロの

ハガキ劇場



僕にもできた、同伴プロレス！

「『激本』の佐藤ちゃんゲット!」というわけで、安生の前田襲撃、小川の高田襲撃など襲撃ラッシュの今日この頃、編集部でも襲撃事件が勃発した！「あの〜、吉本女子プロレスの小杉と申しますけど、（中略）勝手なお願いですけど編集部をうかがってもよろしいですか？」という実にファンキーな襲撃予告があったのだ。『紙プロ』はジャイ子のように去る者は追わず！来る者はいっさい拒まないん邪！（女子限定）。無問題（モウマンタイ）!!



小杉夕子の決断 シャーク土屋との再戦に向け動く

「襲撃娘。小杉夕子」愛用キーホルダー（キティー&うさぴょん）を1名にプレゼントするん邪！【送り先はP175参照】

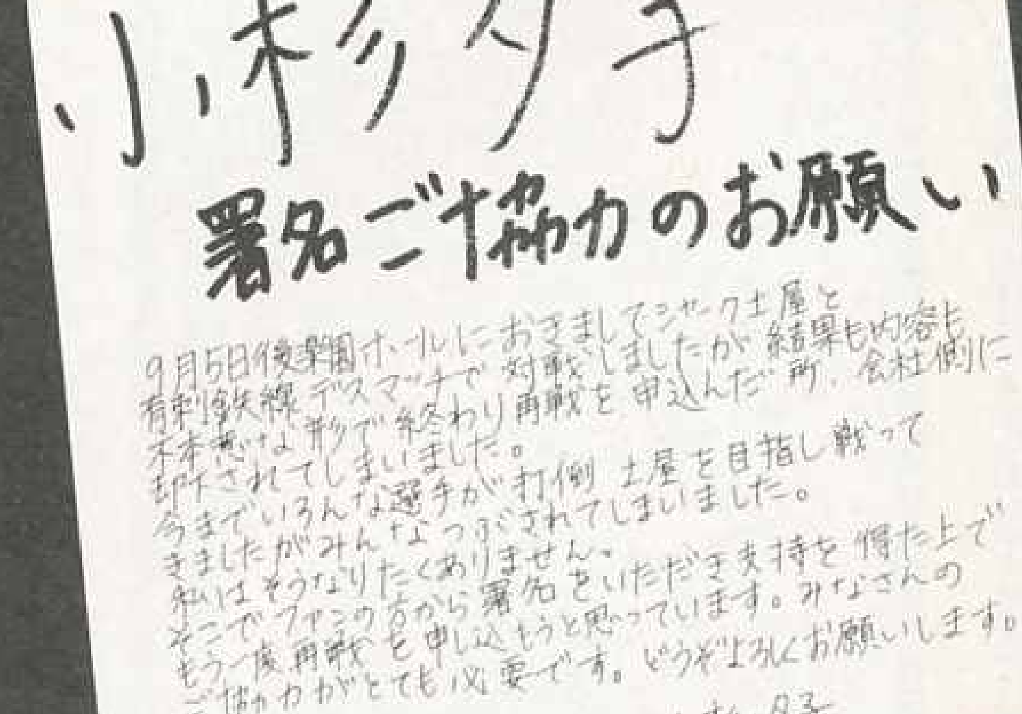






まわし姿でウロウロするスモー・ノブに冷ややかな視線を投げ掛けていた小杉だったが、「どすこ〜い！」と署名&手形をもらうとニッコリ。しかし「結びの一番をごっつあんです！」との願いは叶わず。残念でごわす。

この行動は誰かにたき付けられたわけではない。小杉の単独犯なんじゃ！「私は土屋の全てを受け止めたうえで勝ちたいと思ってます。皆さん署名の方よろしくお願いします」と必死に訴える小杉にお前らも協力してやらんかい！ 署名はP175を参照して、見たいか見たくないかハッキリ書くんじゃあ！「真鍋、お前は、小杉夕子vsシャーク土屋の金網有刺鉄線マッチが見たいか？」。真鍋アナの返答も待ってるぜよ！



小杉夕子

署名ご協力のお願い

9月5日後楽園ホールにおきましてシャーク土屋と有刺鉄線デスマッチで対戦しましたが結果も内容も不本意な形で終わり再戦を申込んだ所、会社側に却下されてしまいました。

今までいろんな選手が打倒土屋を目指し戦ってきましたがみんなつぶされてしまいました。

私はそうなりたくありません。

そこでファンの方から署名をいただき支持を得た上でもう一度再戦を申し込もうと思っています。みなさんのご協力がとても必要です。どうぞよろしくお願いします。

吉本女子プロレス　小杉夕子

署名運動にご協力お願いするん邪!!

去る者（ジャイ子）は追わず！来る者（女子レスラー）は拒まず!!



お久しぶりこの上ない！

「全日本プロレス」馳浩先生とのイッツ、〝クエスチョン・タ〜イム〟!!

小川vs橋本戦のこと、新日本のこと、
全日本のこと、そしてはたまた
チョコボール向井のことまで語り尽くした「10分」!!

聞き手／山口日昇
interview by Noboru Yamaguchi

撮影／モーリー
photographs by Mory

版型が小っちゃい頃の『紙プロ』本誌ではレギュラーといってもいい頻度で登場していただいた馳浩先生。その馳先生と、国会で日本初の、〝クエスチョン・タイム〟が行われた翌日、実に久しぶりに対面する機会がやってきた！　ドキドキワクワクしながら議員会館438号室に出向いたのだが、約束の午後1時を過ぎても馳議員は姿を現さない。しばらく馳議員の著書を読みながら待っていると、午後1時30分過ぎ、たくさんの荷物を抱えて、ようやく馳議員が仕事先からフーフー言いながら帰ってきた。

「お～、悪いな遅れて。お前とこんなとこで会うとは思わなかったな！」

第一声がこれである。それはこっちのセリフだ。元気そうに振る舞うものの、政務多忙のためからか、その表情には疲れが見え隠れしている。

自分のデスクに座って、ニッコリ笑いながら、「お前の知ってる馳浩はここにはいないからな」というセリフを言い終わるか終わらないかのうちに、たちまち数本の電話がかかってきた。「馳です！」甲高い声は相変わらずだが、もはや議員らしい応対が板についている先生は、電話と電話の間にも秘書との打ち合わせ、溜まった書類に目を通す、ノート・パソコンの充電など、テキパキと仕事をこなしていく。やらなければいけないことが山のように溜まっていることは、数分の間にこちらにもわかった。ひと区切りした後、「ヨシ」と言って馳先生がこちらを振り向いた。久しぶりこの上ない馳先生のインタビュー、甲高い声を上げつつ、腰振りダンスのように脳味噌を回転しながら読んでください。

――そろそろテープ回しましょうか？

馳　いや、いいよ。2時から次の取材が入ってるから。

――ゲ!?　あと10分しかないじゃないですか！

馳　（応接ソファーに座りながら）10分ありゃあ大丈夫だろ。お前、プロなんだから話作れよ（笑）。

――ひってえなあ。わかりました、作りましょう（笑）。しっかし、実に久しぶりですね。北朝鮮（95年5月『平和のための平壌国際体育・文化祝典』）以来って気がしますよ。

馳　いや、その後、何回かは会ってるはずだけどね。

――そうですか？　まったく覚えてません（笑）。

馳　いやあ、最近さあ、なんかマトモな人になってるんだよ。俺からいかがわしさが消えたら馳浩じゃないからさあ。いかがわしさを発揮できる場がなくてねえ。フッフッフ。

――じゃあ今日は、議員というのを一瞬忘れて、いかがわしいバージョンでバンバンしゃべってください（笑）。

馳　そうだな。どうせ『紙のプロレス』なんて、国民はあんまり読んでないからな。

――国民！（笑）。単位がデカすぎますよ。ということで、馳先生との〝クエスチョン・タイム〟です。

馳　じゃあ俺にも反論権があるんだな。

――もちろんです。でも、ホント感慨深いものがありますね。こういう場所に馳浩がいるというのは。

馳　猪木さんが議員会館にいるときには来たことあるの？

――ありますあります。

馳　猪木さんがいるのと、俺がここにいるっていうのは全然意味合いが違うだろ？　猪木さんだとあれだけど、俺んとこだと、仲間のとこに来たような気がするだろ？

――ガハハハハ！　仲間ときましたか。まさに邂逅って感じですね（笑）。

馳　あ～～～、疲れた！（ホッとひと息）。

――なんでいきなり疲れるんですか（笑）。

馳　やっぱりね、これはマジメな話なんだけど、政策のこと、自民党のこと、参議院のこと、地元のこと、基本的にこれが同時進行してるから。瞬間的に頭切り替えていかないといけないからさあ。

――そういうの得意じゃないですか。

馳　だから、女房のことを考えるとき、違う女の子のことを考えるとき……。

――全然マジメな話じゃない（笑）。

馳　まあ待て（笑）。プロレスでも、練習のことを考えるとき、試合のことを考えるとき、会社のことを考えるとき。と、同時進行で考えなきゃならなかったけど、それは全部最終的に自分に返ってくることだから。でも議員としてモノを考えるときは、まあ国民の代表というか、国民のみなさんに返ってくることだから。緊張感の種類が違う。それに話が環境とか外交とかだと、相手が「世界」だから緊張するよ！

――緊張しますか！　天下の馳浩が。

馳　って言いながら、この間、「日韓・国会議員親善サッカー大会」で、試合中に韓国の国会議員と激突して、相手の肋骨折っちゃった（笑）。

――ガハハハハ！　実に血気盛んですね（笑）。さっき地元って言葉が出ましたけど、10月31日に小川直也と地元の金沢大学でトークショーをやったんですよね。そのときに小川選手を褒めちぎってたらしいじゃないですか？

馳　だって政治家だもん（笑）。

――ガハハハハ！　先生いい！　素晴らしい！（笑）。

馳　まあ、大仁田厚なんかもそうだけど、プロレスやってる人間にそんなに悪い人間はいないって思ってるから。でも、褒めるところから入るんだけど、もちろん言いたいことは言うよ。小川にだって。

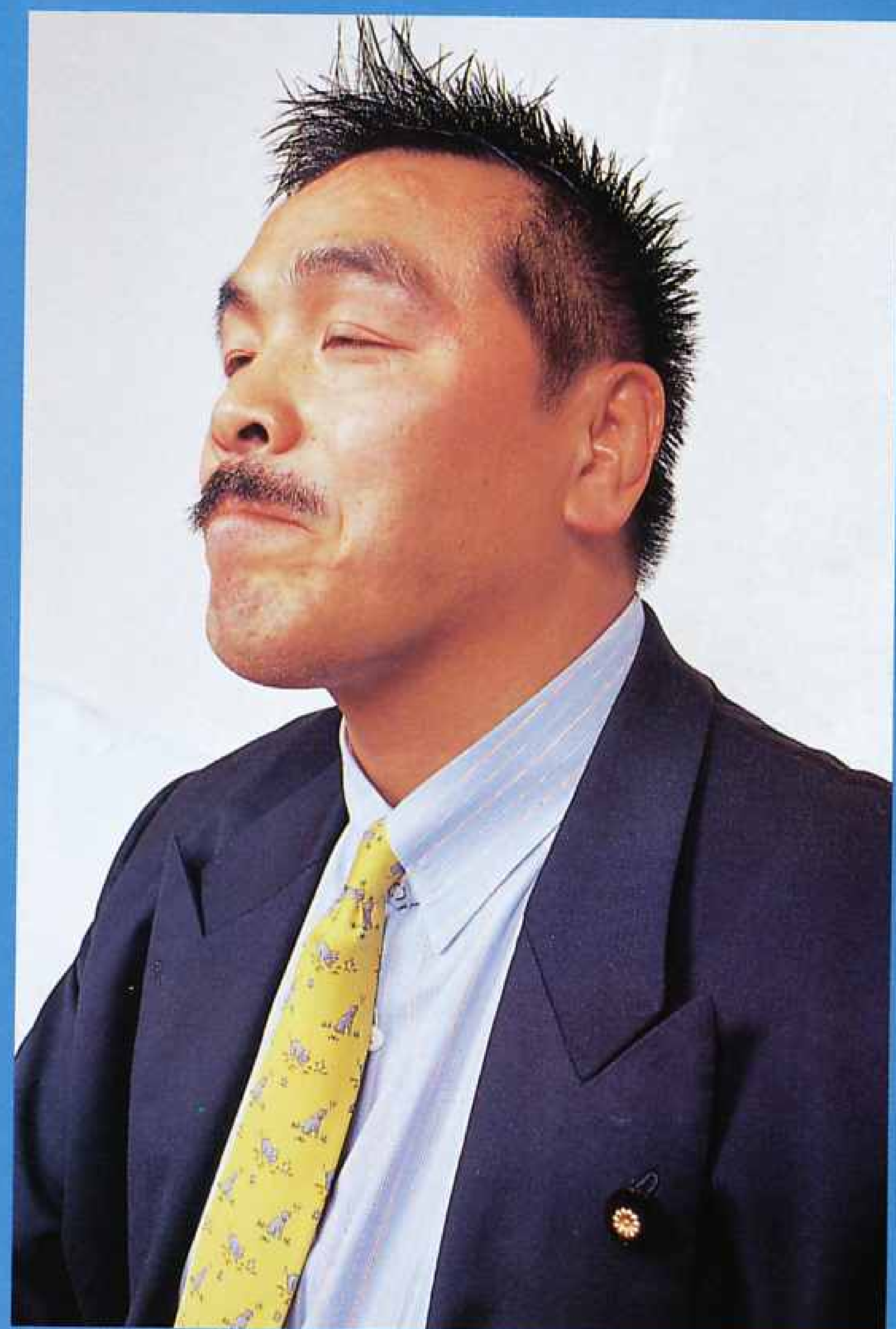
――〝1・4事変〟と言われた小川vs橋本（真也）戦なんかは、馳さんのポリシーとは相反するものですよね。

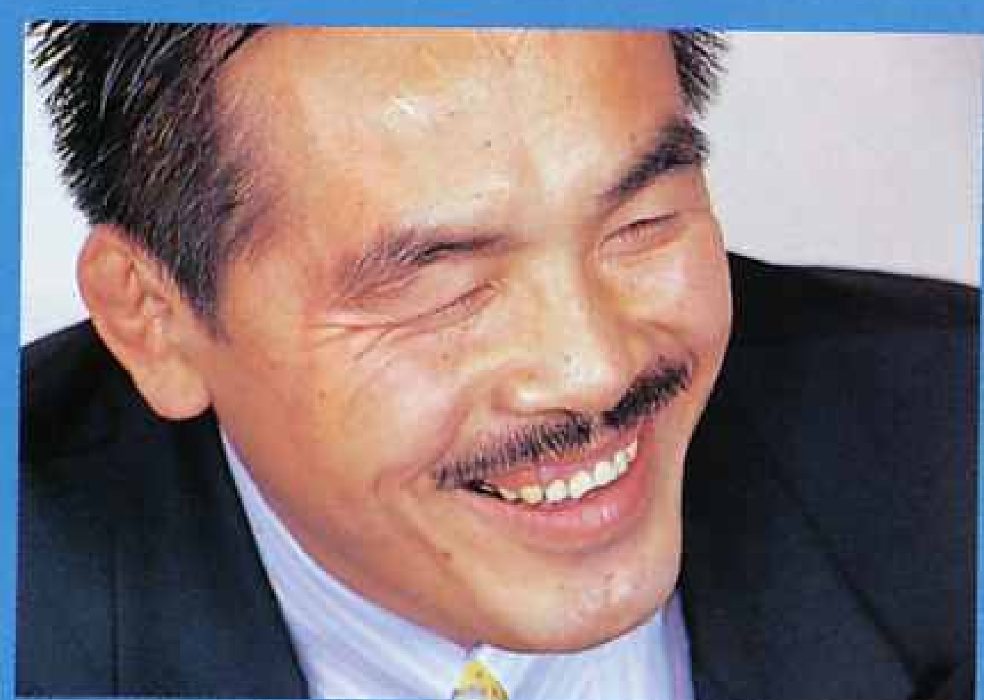
馳　それは相反するものなんだけど、それはあの二人をリングに上げるまでの経緯がね、「リングに上がって思いっきりやろうぜ」って感じじゃない気がしてさ。舞台設定そのものが。試合後に長州力がわざわざ出てきて小川を殴ったときに、「あれ？　なんかお門違いじゃねえかな」って思ったんだよ。そこんところかな。

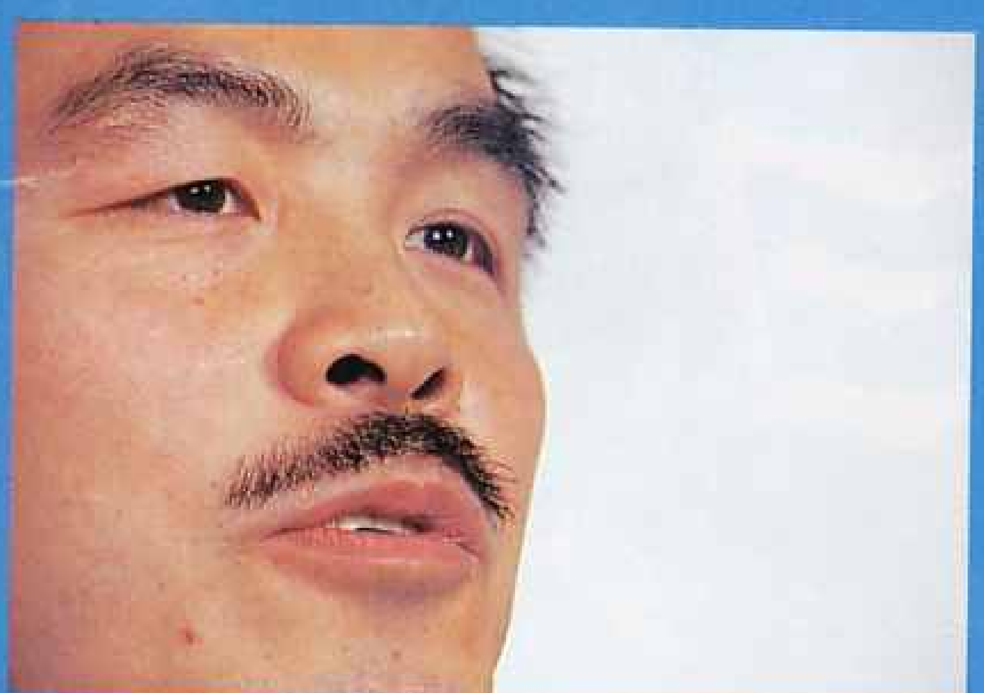
――舞台設定した側の問題だと。でも、馳先生が選手として考えた場合は嫌ですよね？　1・4の試合は。いわゆる純プロレスのセオリーを無視した闘いじゃないですか。

馳　それは小川なり橋本なり個人の問題であって、俺は関係ないもん。リングに上がったら、選手自身の問題でしかないんだからさ。まあ、あと、あるとしたらレフェリーぐらいでしょ。

――もし馳先生が、あのときの橋本選手の







立場だったらどうするかっていうのは考えました？

馳　それは考えるよな。ああいう状況で、〝どういうルールなのかな〟っていう、ある意味で暗中模索の中でやるとしたら……うーん、やっぱヒット・アンド・アウェイだな！

――出た！（笑）。

馳　でも、つかず離れずやって、〝あれ？なんか変だな〟って思っても、レフェリーは蹴っ飛ばさないな、俺は（笑）。それで試合後に長州力が出てきたら、俺が長州さんをブン殴るよ！　公衆の面前で！

――はー、それは面白い意見ですねえ。そういうことを言ったのは、たぶん馳さんが初めてですよ。

馳　そうかなあ。レスラーとしては当たり前の感情だと思うけど。あのときは、小川を殴った長州さんを、橋本選手が止めたんだよな。それを見て〝おかしいな？〟と思ったんだよ。〝それは逆だよ、やめてよ〟ってさ。

――じゃあ、1・4の橋本選手の行動は「残念」っていう感じ？

馳　残念っていうか、不可解だな。

――オーちゃんとのトークショーでは、「新日本の選手は誰の顔色をうかがって試合をしてるのか」っていう爆弾発言もありましたね。

馳　いや、それは前から言ってるじゃん。

――まあそうですけど、でも意味深な発言ですよ。

馳　全然、意味深じゃないよ。その後の質疑応答で、「長州さんのこと」って言ってるから（笑）。でもそれは、新日本の選手だけじゃなくて、全日本の選手も、「誰の顔色をうかがって試合をしてるのか」っていう部分はあると思ってるよ。顔色うかがうなら自分の顔色をうかがえっていうんだよ。それがプロレスラーの本分でしょう。〝俺はどんな試合がしたいんだ？〟っていうことを常に考えてないとさ。

――なんか、馳浩のセミナーを受けてる気分ですね（笑）。

馳　その選手自身の悩み、っていうか、気持ちの変化、精神的な成長を見るっていうのは、スポーツを見る側の楽しみの一つでもあるわけだしね。

――どういう試合をするかは、本人の気持ちの問題というわけですね。

馳　俺はそう思ってるから、ハッキリ言うんだよ。そのへんのことは、さすがの『紙のプロレス』でも言ってないだろ？

――いや、いまの馳先生と同じような意味のことは、よく言いますけどね。

馳　あ、そ。俺は自分の出てない雑誌は読まないから（笑）。

――そういうのを「当てずっぽ」って言うんです（笑）。

馳　俺、根本的にナルシストだから。ハッハッハッハッハッハ。

――それは重々承知してます（笑）。村松友視さんの言葉に、あの人は元編集者だったんですけど、「編集者には二通りしかいない、『編集者』か、『サラリーマン』か」っていうのがあるんです。同じことはプロレスラーにもいえるんじゃないかと思うんですよ。「プロレスラーには二通りしかない。『プロレスラー』か『サラリーマン』か」っていうね。

馳　さらにその「サラリーマン」っていうのにも二通りの言い方ができるよ。それは「羊の群の中のサラリーマン」か、「プライドを持ったサラリーマン」かっていうね。「プライドを持ったサラリーマン」っていうのは、組織の一員という役割以上の働きをするんだよ。だから俺は「サラリーマン」っていうのは悪いことじゃないと思ってる。

――馳さんなんかは、まさにそういう感じですもんね。

馳　俺はそうでありたいと思ってるから。そういう意味では、俺は「サラリーマン・レスラー」で十分！　だけどプライドがあるから！　新日本にいたときは、「俺が新日本プロレスだ」っていう意識でコーチもしたし、若い選手たちにも常に疑問を投げかけていたつもりだからね。いつまでも社長とかトップに寄りかかって試合してるようじゃダメだよ、と。「お前だけの、お客さんの目を惹く主義主張、個性を強烈に発することができれば、会社もプロレス業界も潤うんじゃないの？」って思うんだよ。そうすると、「誰の顔色をうかがってんの？」っていうところに行き着くわけだ。

――素晴らしい（笑）。

馳　いま、俺は自民党の石川県連の会長ですよ。

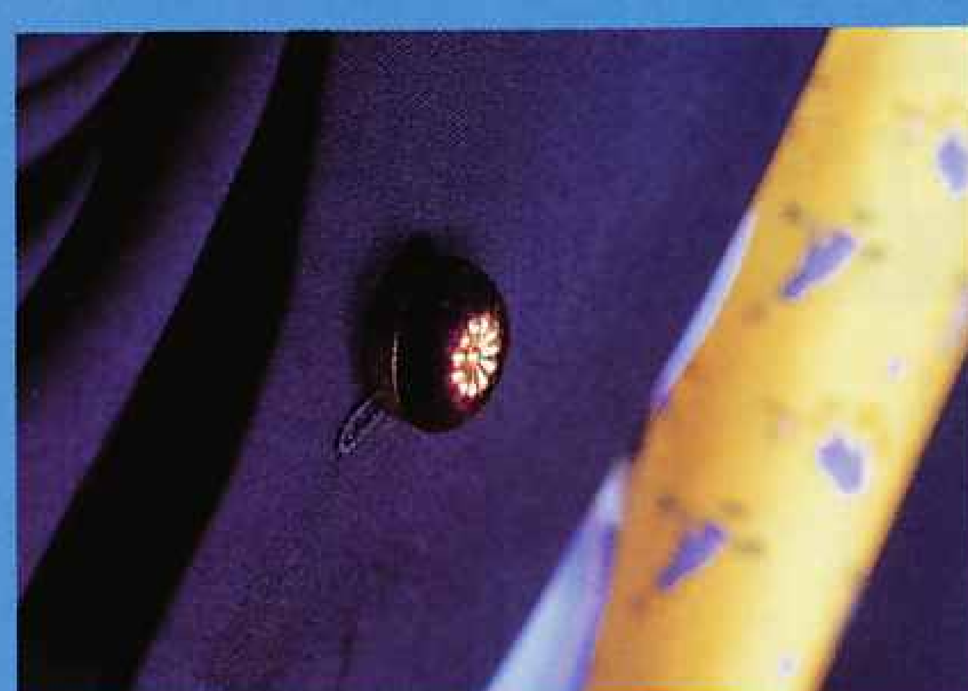
――いよっ、馳会長！

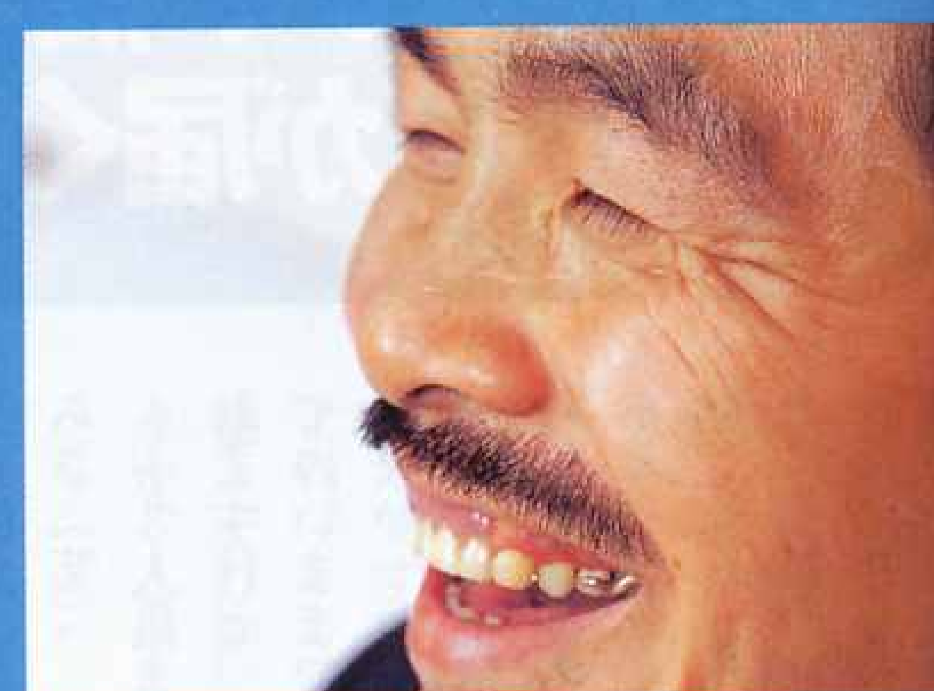
馳　それで、自民党の図体がデカイときにいろいろ批判されたけども、俺は、「俺が自民党だ」って思ってるから、中から自民党も批判した。ただ、組織のなかの役割もシッカリやってた自負があるから。そういう意味で自分の責任から逃げたくないからね。

――（同行したチョロに向かい）どうだいチョロ、生で聞く馳浩講演会は？（笑）。

俺はサラリーマン・レスラーで十分！ だけどプライドがあるから！







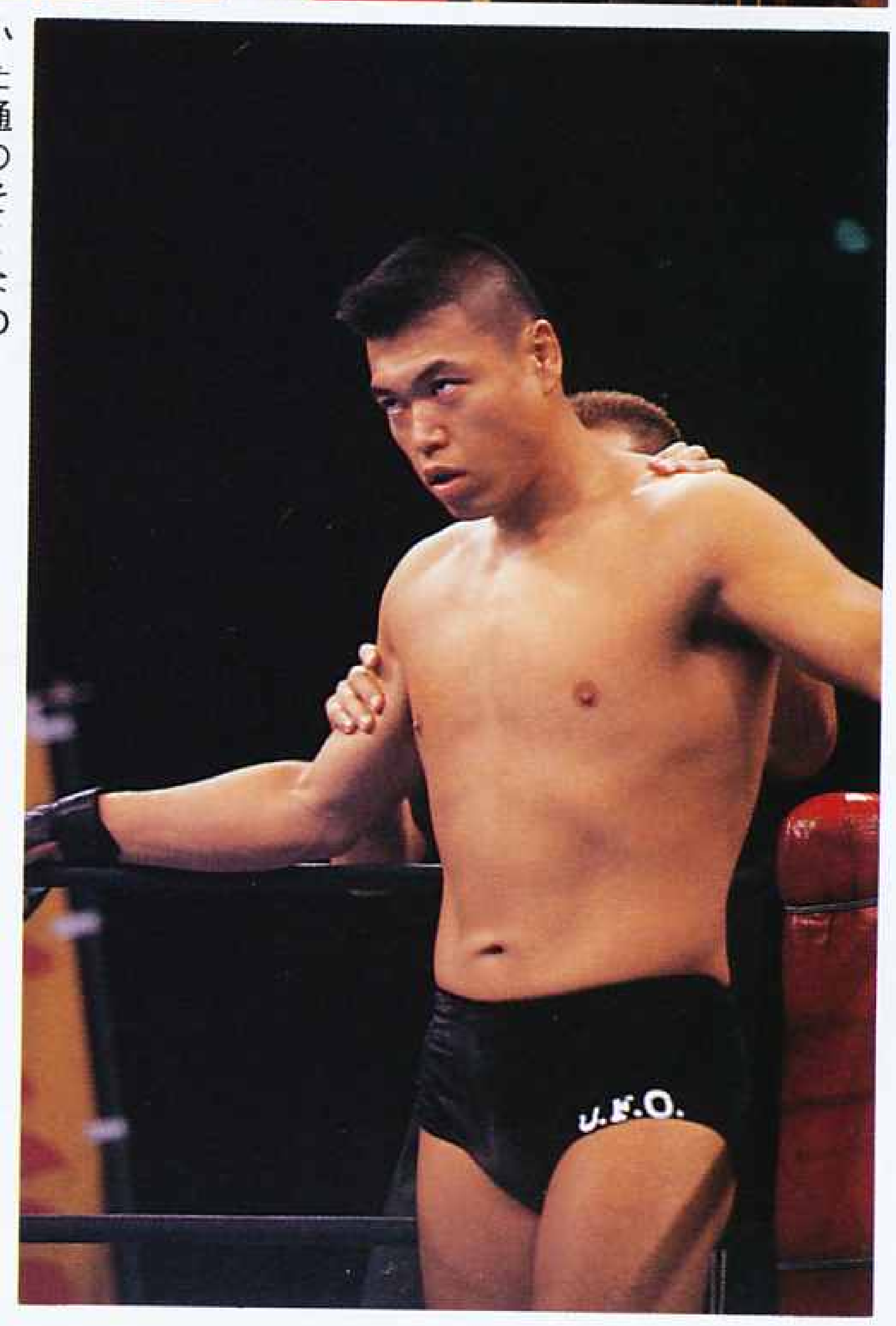
Question Time
紙プロvs馳浩

馳　またはじまったよ（笑）。
――これだけで、帰るときに８０００円ぐらい取られるぞ（笑）。
馳　あ、もう2時じゃん。次の人待ってるからもういいだろ？（笑）。
――勘弁してくださいよ！
秘書　（次の取材の人は）まだ来られてないですね。
馳　あ、そう。じゃあ、マズいのでいいから、コイツらにお茶出してやって（笑）。
――お気遣いありがとうございます、先生。で、あの１・４っていうものに対する、馳先生の寛大な見方というのは、「プロレス界にとって、いい問題提起になった」というところからなのか、「ホントは許しちゃあおけないんだけど、あのくらい許さなきゃケツの穴が小さいと思われるから、まあ許しとこう」っていうところなのか、どっちの方向から発生してるんですか？
馳　いや、俺としては、ああいうのをお客さんに見せるっていうのは許せないよ！　でも、プロレスっていうのは常に時代を反映してるもんだと思ってるし、人の気持ちっていうのも常に動いてるわけだから、あれは非常にいい問題提起になった。起きてしまったことの責任は小川と橋本にあるわけだから、どうこう言いたくない。繰り返すけど、許す許さないだったら、俺は絶対許さないよ！　でも、いいイベントっていうか、いい"事件"だったことは確かだな。
――１・４で終わらなくて、10・11があったっていうところで、これでまた小川選手はプロレスの怖さをまた知ったんじゃないですかね。
馳　それは長州さんの「これからいちばんシンドイのは小川だな」っていう言葉につながっていくよな。俺も小川に、その長州力の言葉に関して「小さな親切、大きなお世話」って言ったけど、それは小川本人も気付いてると思うよ。
――でも、10・11でボロクソに負けた橋本選手にとっても、プロレスラーとしては、大きなチャンス到来という気がするんですよ。
馳　俺もそう思うよ。だって、言葉は悪いかもしれないけど、橋本選手がリサイクルされる最高のチャンスじゃない。
――以前の破壊王を取り戻すっていうだけじゃダメだけど、より大きな新しいものを作れるチャンスですよね。
馳　新しいっていうか、橋本の心の叫びがよりわかりやすく届く時だよ。オブラートに包まれた状態じゃなく、橋本真也というのはいったい何なのか？っていうのを見せるチャンスだよ。これは、橋本だけじゃなく、新日本の肝っ玉のデカさも問われるけどな。
――馳先生は、新日本の他の選手に対しても「いまの状態にあぐらをかいてるようじゃダメだ」って言ってましたよね。
馳　それも俺は前から言ってることなんだけどな。新日本の道場でさ。
――猪木さんは、「こだわりを持ってる人は強いと思われがちだけど、こだわりを持ちすぎてる人は弱えんです」って言いますよね。
馳　こだわりっていうのは既成概念とか固定観念ってことだからな。それを破るというところを見たいっていうのが、一般市民がプロレスに期待している部分だと思うからな。

オブラートに包まれたものじゃない、橋本の"心の叫び"が届く時だよ

――なんか今日は、常に『君はまだプロレスを知らない』状態ですね（笑）。
馳　ハッハッハッハッハ！　面白いな。今度俺とお前の講演会でも企画しろよ。俺と小川だったら４３０人くらい来るけど、俺とお前だったら30人ぐらい集まりゃいいからさ（笑）。
――3人集まれば十分ですよ（笑）。話を戻しますけど、正直な話、橋本選手も新日本でのいままでのポジションに「まんざらでもない」っていうところはあったと思うんですよ。現状にあぐらをかくというか、これまで作り上げてきたものに、こだわりがあるというか。
馳　それ、本人に聞いてこいよ。そういうところはちゃんと聞かなきゃ。
――ウチは新日本さんは取材させてくれないですから（笑）。





1・4、10・11と続けて、小川直也に事実上、撃沈した破壊王。長州監督の言う通り、この先一番シンドイのはオーちゃんなのか？　それともNEW破壊王をつくらなければならない橋本なのか？　そして、橋本のUFO入りはどうなる？

馳　それこそ、まさしく現状に満足して仕事してちゃダメだよ。誰の顔色うかがって仕事してんだよ。え？（笑）。
――いや、馳先生にソックリな新日本プロレス広報・倉掛鉄也氏の顔色を、これまで、うかがいすぎませんでした。実に反省してます（笑）。
馳　ハッハッハッハ！　まあ、そしたら、菓子折でも持っていくとか、キャバクラで接待するかとかさ、なんかあんだろ、突破口が。そういう絡め手でいかないと。それが政治力なんだから（笑）。
――ガハハハハ！　さすが先生！　まあ、こだわりがあるときとか、安住してるときっていうのは、外側から打ち砕かれないと、自分からはそう簡単に打ち砕けないじゃないですか。
馳　だから、それを自分から打ち砕こうとしてもがいてる姿を、みんな見たいんじゃないのか？
――そういうことです！
馳　それがアングルという形で、誰かに出してもらうっていうのは、それじゃあ一人前とは言えないよ。
――橋本選手は自分で壊せるタイプだと思ってたんですけどね。

Question Time 紙プロvs馳浩



馳　うーん、俺はね、橋本はやっぱり安住してるっていうのももちろんだし、道場に対する認識っていうのも甘かったと思うんだよな。それは真摯に考えてほしいよな。ま、本人は考えてるとは思うけど。

――そういう意味では、10・11は橋本選手にとって、よりグレードを上げるためにはいいきっかけでしたよね。あ、それはそうと、馳先生は小川選手に「『紙プロ』ばっかりに出てないで、『週プロ』にも『ゴング』にも出なさい」って言ったらしいですね。

馳　うん（笑）。それはハッキリ言ったよ。自分の思いを書いてくれるところだけに出ればいいっていうのは、個人的にはいいと思うんだけど、対プロレスファンということを考えると、やっぱり小遣いには限りがあるんだから。いま言った雑誌だけじゃなくて、東スポでも日刊スポーツでもいいから、要求されたらどこでも出るっていう姿勢をリング外でも貫かなきゃな。思ってることがうまく伝わんなくても、何回も何回も、どこでも出りゃあいいんだよ。

――うまいこと言って、『紙プロ』には出ない方がいいとか言ってるんじゃないですか？（笑）。

馳　言ってない言ってない。あんまりアイツらと付き合うな、とは言ったかもしれないけど（笑）。

――ガハハハハ！　でもホント馳先生の言う通りですよ。どこでも出たほうがいいですよね。

馳　それが、まさしく猪木さんの強さというか、心の広さだよ。猪木さんは自分でエリア決めないもんな。

――なんせ宇宙が遊び場ですからね、UFOは（笑）。

馳　『紙プロ』はUFOの機関誌じゃないんだろ？

――実はそうです、な～んていったら面白いですけどね（笑）。

馳　だったら、小川もどこでも出なきゃ。

――話はいきなり変わるんですけど、もう何回も聞かれてるとは思うんですが、新日本と全日本の違いを、ひと言で言うとなんですか？

馳　〝鎖〟だな、やっぱり！

――へ？　鎖！

馳　新日本というのは、〝鎖〟から解き放たれた、いい意味で傍若無人の集団だな。全日本は〝鎖〟につながれてる。

――鎖を引きちぎれ、と。でも全日本には、〝鎖〟から解き放たれたら傍若無人に振る舞える人材はたくさんいますよね。

馳　いる！　その鎖っていうのは〝心の鎖〟ってやつだけどな。

――またいいこと言おうと思って（笑）。

馳　ダハハハハ！　最近すぐ見出しになるような言葉を考えちゃうんだよ（笑）。

――もう、なるべく時間を短くしよう短くしようと思ってますね（笑）。

馳　時間がないんだよ。早く進めろよ（笑）。

――ボクも長々と付き合ってられないんで、そうします（笑）。以前、耐久競技としてのプロレスでは、全日本のほうが遥かにレベルが上だって馳先生は言ってましたよね。

馳　それは間違いない。でもそれは、選手全員じ

やなくて、トップの5人だけどな。

——四天王と秋山（準）選手ですね。

馳　そう。あの5人の中に入って試合を成立させるってのは、もう大変だよ。

——馳先生でもシンドイですか。

馳　シンドイ。あれを1年中続けるっていうのは。

——馳先生と、三沢（光晴）選手のプロレスのうまさって、また別ものですよね。その質の違いってどういうところですか。

馳　三沢選手は努力に加えて、感性の天才でもあるんだよ。

——感性の天才！

馳　ただ、いち選手としては、技術的には嫌いなところもある。立ち技から寝技、寝技から立ち技っていう、スムーズなマット・レスリングの展開の部分とかね。

——繋ぎがないってことですかね。

馳　できないのかなと思ってたんだけど、やればちゃんとできるんだよ。そういう技術は持ってるんだから、それはちゃんと見せてほしいよね。

——その三沢選手が、「俺たちはバーリ・トゥードのリングに上がれるけど、ヒクソン（・グレイシー）にはプロレスは絶対できない」という発言をしていましたよね。それについてはどう思いますか？

馳　そりゃあ、ルールが違うもん。

——また簡単に済ませますね（笑）。

馳　俺が異種格闘技戦はナンセンスだって言ってるのと同じだよ。俺たちはバーリ・トゥードに出るような技術は学んでないし、またその逆も言えるよな。そんな状態で、どっちかのリングに上げるっていうのは、両方に対して失礼だよ。

——小川選手も、バーリ・トゥードの試合に出ましたね。

馳　でも、小川もやっぱり俺たちみたいなプロレスはできないから。だから、向こうを主体に上がってるレスラー、高阪（剛）や桜庭（和志）に近いんだな。

——桜庭選手なんかは、バーリ・トゥードの試合のなかでプロレス技を見せようとしてますからね。

馳　俺個人としては、桜庭に年間MVPをあげてもいいと思ってるよ。

——ぜひ馳さんの力であげてくださいよ。

馳　俺はそっちのほうには政治力ないから（笑）。

——ガハハハハ！　純プロレスにしかMVPはいかないんですかね。でも、いわゆる純プロレスという枠の中でも新日本と全日本の微妙な違いがあったり、プロレスってホント、広いですよね。

馳　なんだかわかんねえよ。

——なんでそこでわかんなくなっちゃうんですか！　馳先生がわからなくなったら終わりですよ（笑）。

馳　そうやってキミが疑問が出たときには『君はまだプロレスを知らない』を読んでね。PHPから文庫でも出てるから（笑）。

——ここで宣伝ですか（笑）。たとえば、1・4みたいに偶然が巻き起こす渦が多いのが新日。逆に全日本の場合は、そういう偶然が起こる土壌を封印した上で、お互いのレベルを高め合っていくっていう方向性ですよね。

馳　それは選手一人ひとりの裁量にまかせてる新日と、馬場さんが持っていた〝プロレスとはこうあるべきだ〟っていう信念をみんなで追求していこうっていう姿勢を持っている全日本の違いだよな。

——馬場さんは「プロレスはプロレス」という考えでしたからね。

俺個人は、桜庭和志に年間MVPをあげてもいいと思ってるよ



や桜庭（和志）に近いんだな。
――ガハハハハ！　純プロレ
――ここで宣伝ですか（笑）。たとえば、
いう考えでしたからね。

Question Time 紙プロvs馳浩

馳　でも全日本の選手もそういう殻を若手に破ってほしいよな。それにはやっぱり、あの5人の下にいる中堅とか前座っていう発想でやってたらダメだよ。

――馳先生もそうだし、長州さんなんかもそうですけど、アマチュア時代に実績がある人って「プロレスはプロレスだ」っていう割り切りが厳然とあるような気がしますけどね。

馳　そんなの簡単だよ。プロレスが好きか嫌いかだけだもん。俺はプロレスが凄く好きだからさ。長州さんもきっとそうだよ。

――そういう「プロレスはプロレスだ」っていう、純プロレス的な発想を持ってる人だと、そこから逸脱したものは一切認めないっていう雰囲気があるじゃないですか。

馳　関係者の側から言わせると、逸脱する前にホントにプロレスができるのかできないのかっていうのを問いたいよ。できねえのに、なに言ってんだっていうのはもちろんあるよ。

――その割り切りからこぼれ落ちた部分も許容するのが猪木イズムですよね。

馳　……そんなにワク作るなよ……。

――先生、目がトローンとなってますよ（笑）。

馳　だって俺、今日朝5時に起きて1時間走ったあとに、8時から政策勉強会があって、そのあとも飛び回って、さっきやっと席についたんだもん。

――うわー、毎日そのペースですか？

馳　まさしく会議に出る……ムニャムニャムニャ。

――まったく聞こえません！　馳先生、目を覚ましてくださ～い。

馳　起きてるよ（笑）。

――では、新日本から始まって全日本も知った馳先生からすると、最近の新日本はひと言で言うと喰い足りない？

馳　いや、ひと言で言うと面白い！　面白いということを前提に、アラを探してるんだから（笑）。

――あらあら。

馳　だって俺は厳しいことは言うけど根本的に人の悪口は言わないから。

――ぷぷぷ。すいません、吹いちゃいました（笑）。

馳　いやこれはホントだよ。厳しく指摘はするけど、プロレス大好きだから。その業界の人をおとしめたり低く見たりはしないよ。

――新日のどこが面白いんですか？

馳　まず未完成の面白さ。完成してるのは藤波（辰爾）さんと、平田（淳嗣）さんぐらいじゃないかな。あとはまだこれから成長していきそうな感じだもん。橋本にしたってそうなんだから。そういうキャパシティーの大きさというか、これからどうなっていくんだろうっていう面白さ。そういった意味で全日本はそういう伸び率が見えにくいよな。

――伸び率って。選挙じゃないんですから（笑）。

馳　三沢選手でも小橋選手でも、秋山選手でも、ある程度ワクのなかでどれだけやってくれるのかっていうのは見えるんだけど、どうなっちゃうんだろうっていう部分は少ないよ、やっぱり。

――そういえば、馳先生もデビュー以後、アスリート路線を突っ走るのかなと思いきや、いきなり黄色いパンツで腰振りですもんねぇ。ああいう見事な意外性があれば面白いですよ。

馳　俺はね、大臣になってSPをセコンドにつけて、リングに上がってさ、ベイダーかなんかにやられそうになったら、SPに「この人は日本に必要な人なんだ」とかなんとか言って止めに入ってもらうのが夢だもん！　もういろいろストーリーも考えてるからさぁ。

――ガハハハハ！　どんな夢だ！　ところで次に試合に出るのはいつなんですか？

馳　解散総選挙がなかったら、来年の1月3日から16日まで出ようと思ってます。

――巡業に出るんですか？

馳　もちろん！　巡業に出なきゃ。全国で俺のこと待ってる人がいっぱいいるから。

――根本的な質問なんですけど、プロレスの何がそんなに好きなんですか？

馳　（即座に）シンドイからじゃねえかな。プロレスっていうのは感性と知性と野生と、それを表現できる技術と体力がなきゃダメだ、っていうことが最近になってわかってきたんだけど、そこが魅力なんじゃねえかな。やっぱり知性がないと単なる野蛮人の喧嘩だし、それはつまんないよ。でも同時に、人間っていうか動物としての野生も表現しなきゃダメなんだから。それらをすべてリング上で叩きつけられる体力と技術が必要だから。たとえばインディーの試合なんか見てると、マゴマゴしてんじゃねえよ！とか思うことあるじゃん。

――ありますねえ。そういえば聞き忘れてましたけど、この前、小川選手と話してみて、どういう印象を持ちました？

馳　やっと小川選手が自分の言葉で自分を語れるようになってきたなって思ったね。気持ちは伝わるようになってるよ。前までは柔道界から来た遠慮とか、柔道時代に持ってたプライドを強く感じてたから。でもい



かつて「俺がUWFだ！」と叫んだカッキーこと垣原賢人とシングルで初対決。ロックアップからではなく、レスリングでいう“組手争い”で始まった一戦は、馳先生が巧さで制した（99・1・16後楽園）



右腕尺骨骨折で約3ヶ月欠場していた川田利明とG馬場「引退」記念興行で初めて相対した馳先生。若干空回り気味だったものの、そのハイレベルな攻防は、ドームを何度も唸らせた（99・5・2ドーム）



運命のイタズラ（ファンによる抽選）によって実現した「馳＆百田光雄＆泉田純vs秋山＆永源遥＆本田多聞」の一戦。馳先生は百田とタッグを組み、永源と絡めたことで大喜びだった（99・9・18後楽園）

まは彼の礼儀正しさとか哲学を伝えられるようになってきてるね。特に感じたのは前田（日明）さんに対して、「俺が何か言うと、常にステキな言葉を返してくれる」って言ってたとこだね。なるほど、〝小川らしい言い方だな〟って思ったよ。

——長州さんに対しても、長州さんが現場復帰したら絶対許さないし、闘いたいって言ってましたね。

馳　そこはなんか営業っぽく感じたけどな（笑）。

——ガハハハ。

馳　まあ、長州さんの魅力を肌で感じるのもいいんじゃねえかな。

——その発言こそ営業っぽいですよ（笑）。

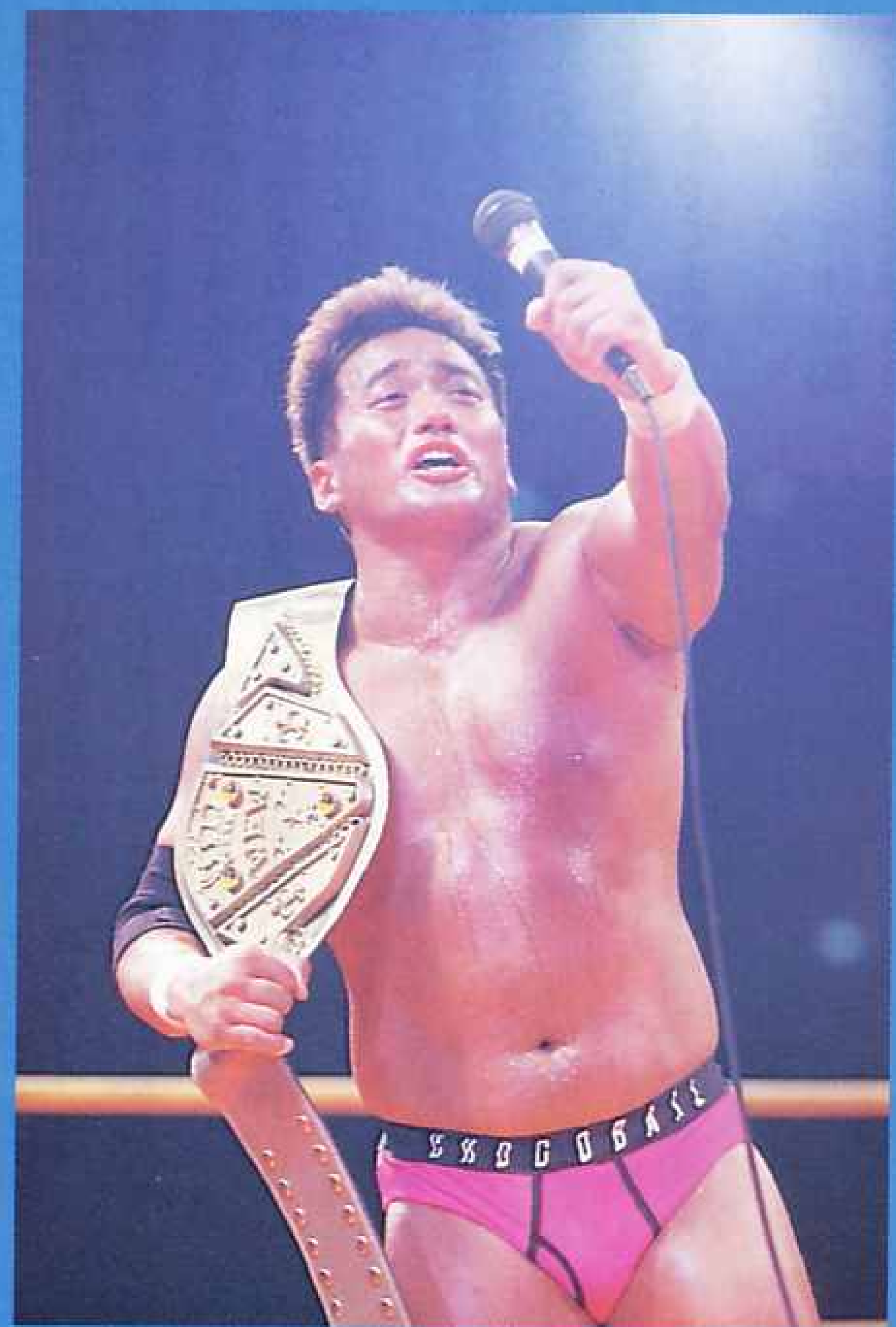
馳　いや、これはホントに。長州さんと闘えば、プロレスの面白さがもっとわかると思うよ。自分はなんて未熟なんだろうって感じるよ、きっと。俺も猪木さんと1回だけシングルやったけど、この1回は100試合に匹敵する重みがあった。

——その1回は何物にも代え難いと。たとえば夢として小川 vs 前田なんて、実に見てみたいですねえ。小川 vs 馳も別の意味で見たいけど。

馳　見てみたいねえ。小川 vs 前田だったら3万円払ってもいいけど、俺と小川選手だったら1万円ぐらいじゃねえかな（笑）。

——ダハハハ。2万円の差。馳先生自身は全日本の中での目標はあるんですか？

馳　いつも言ってるけど、タイトルマッチに絡んじゃいけないってことだな。それは常時出てる選手、秋山とか大森（隆男）がやっていけばいいことだし。ただ、俺にシングル戦組んでくれたら、三冠戦よりも遥かに面白い試合をやる自信があるよ。そういう意味では、三沢光晴、ジョニー・エース、スタン・ハンセンとはシングルでやっときたい。勝つか負けるかということより、俺自身の考えるプロレスが何なのかということを表現したいんだよ。俺は常に「プロレスとは何か」っていうことを追求しながらやっていってるから。



馳先生にお墨付きをもらったチョコボール向井。かつて新日本の練習生からAV男優へと転身し、さらにはFMWのリングに上がったこの男が、ベッドならぬ四角いマットで開花することはあるのだろうか

——ちなみに、エンターテインメント・プロレスを標榜するFMWは視野に入ってます？

馳　FMWというか、冬木（弘道）さんには注目してるよ。冬木さんの頭の良さとバカさ加減は、俺、凄ぇ好き（笑）。俺はWARと新日本の試合で冬木さんとやってるんだけどね（93・6・17／WAR／日本武道館）。

——あ〜、あれは面白かったですね。

馳　あの人のおかげで新しい自分の一面に気付いたってことがあるからな。あの時から冬木さんはこんなポジションにいる人じゃないって思ってたよ。それと、俺はチョコボール向井の顔は好きだけどね（笑）。俺もあいつにプロレスを手取り足取り腰取り教えてあげたいね。

Question Time
紙プロvs馳浩



——ガハハハハ！　腰取り。さすが以前、腰振ってた人は言うことが違いますね（笑）。でもそれは画期的ですよ。参議院議員がAV男優にプロレスを教えるっていうのは。

馳　俺も教えていただきたいしさ。いろいろな（笑）。

——AV男優とか素人がリングに上がるということについてはどう思ってるんですか？

馳　一旦リングに上がったら素人じゃねえんだよ。学生プロレスじゃないんだから。お金取ってるわけだしな。もしダメだったらお客さんによって自然淘汰されるし。でもチョコボールの試合はチラッと見たんだけど、けっこういいセンスしてるよ。歳だけど、ちゃんと鍛えたらかなり良くなるよ。

——馳先生お墨付きですか。どこがいいんですか？

馳　まず闘う姿勢がいい。ドタバタしてるとか技術の点はこれからのことだから。そういえば、この前、新日本の新人選手（井上亘、柴田勝頼、棚橋弘至）が3人同時期にデビューした試合も見たけど、あいつらもよかったよ。新日本は安泰だと思ったね。

——ボク、最近発見したことがあるんですよ。

馳　なに？

——一流のプロレスラーっていうのは、例えばプロレスを過剰に演出する東スポという媒体がありますよね。

馳　大好き（笑）。

——その一方で、まあそれだけじゃないんですけど、レスラーの素の部分を過剰に演出するウチみたいな媒体もある。普通、東スポの発言と、うちのインタビューだと落差のあるレスラーって多いんですよね。東スポでは過激な発言してるのにウチではいい人とか。で、一流のレスラーって『紙プロ』でも東スポでも変わらない人のことをいうんじゃないかと思ったんですよ。猪木さんも、前田さんもそうじゃないですか。つまり、いつ何時でも自分の言葉を吐ける人、考えを言える人。いつ何時でも、度を超えて自分自身でいれる人っていうんですかね。

馳　ふーん、そうなの。わかんない。だって俺、『紙プロ』読んでねえもん。

——ズコッ！　もういいです！　次の取材の人も待ってるみたいだし、この話の続きはまた今度ということで（笑）。

馳　また来いよ！（笑）。

——今日は時間のない中、いかがわしい話をたっぷりとありがとうございました。政務の方も頑張ってください。

【99年11月11日／参議院会館にて収録】

常時出てる選手、秋山とか大森（隆男）が
冬木さんはこんなポジションにいる人じゃな

ういえば、この前、新日本の新人選手（井

COUNT DOWN TO 全日 002

取材全面解禁に挑む連続企画

紙プロ読者に贈る あなたの知らない全日本プロレス

はじめに断っておくが、ここは単なる全日情報ページではない！ 『紙のプロレスRADICAL』がメジャー団体・全日本プロレス"取材全面解禁"に挑む連続企画である！
本誌は常々「強くて、凄くて、面白い人間こそがプロレスラーである」と提唱しているわけだが、それだったら全日を抜きにプロレスやプロレスラーを語ることなど出来るはずがない！ 本誌は「取材拒否だから」と開き直るのはやめて、これからは全日本プロレスの試合会場で他誌が書かない隠れた全日の魅力をお伝えしていく所存である。

構成／坂井ノブ（亡霊）
interview by Nobu Sakai
撮影／NAHOMIX
photographs by NAHOMIX

井上雅央＆本田多聞大ブレイク!!

野良犬だってね、玄関が開いてりゃ家の中で暮らしますよ!!（多聞談）

いきなりだが、前号で全日本プロレスへの秘めた愛（別に秘める必要はなかったのだが）を誌面で出したところ、さっそく様々な反響が各方面から返ってきた。中でも一番強烈だったのは、バトラーツ・池田大輔選手の「全日本の企画は面白いけど、『紙プロ』の中だと浮いてるね」というツッコミである。「浮いてる＝存在感がある」と、都合よく解釈していたら本誌鬼畜編集長には「それはお前の"遠い視線"のせいだ」と怒られてしまった。

遠い視線？ なんだそりゃ。お前の目は節穴か？ オレの視線は全日にもっとも近いぜ！ ノーフィアー!! だけど、確かに鬼畜の言うとおり、前号は遠慮気味だったのは弁解しない。しかし「ガンバって全日の選手のインタビューをしてください」といった嬉しい読者からのリアクションもあるのだ。このままガンガン行かせてもらうぜ！

さらに嬉しいついでにもうひとつ。10・30武道館大会の控室通路で、試合直前の井上雅央選手（以下、雅央）が「読みましたよ」とたまらない笑顔で声を掛けてくれたのだ。ありがとう！ これからも本誌の中では肩身が狭いかもしれないが、鬼畜編集長に負けずに志だけはデカく持って闘い続けていくつもりだ。

さて、今号が発売される頃には年内最終戦も終わっているわけだが、どうしてもこれだけは書いておかねばならない。

井上雅央＆本田多聞は素晴らしい！

この2人は、『99ジャイアント・シリーズ』で開催されたアジアタッグ王座決定リーグ戦で、並みいる強豪チームを撃破して見事に優勝してベルト獲得。その勢いのまま『世界最強タッグ決定リーグ戦』に殴り込み、開幕戦でいきなりノー・フィアー（大森隆男＆高山善廣）を撃破して、聖地・後楽園ホールで大ブレイクしてしまったのだ。

「当たり前に勝ってくれるチームより、『応援したら勝ってくれるかな？』っていうチームの方が応援したくなるでしょう！」（雅央談）

そう、この2人ほど応援しがいのあるチームは他にない。ボクも、試合中は思いっきり肩入れしてしまった。この応援しやすさの正体とは一体何なのか？

前号では雅央の"衝撃の☆ピアス"の話を書いたが、やはり全日本は何よりも試合内容が重視される団体なので、今回は試合について検証してみよう。

この2人の試合はスピーディーで洗練された四天王や秋山の試合とは、ひと味違った魅力がある。ファンクスやブッチャーやシークを敬愛する多聞と、初期ジャンボチックないでたちの雅央。そんな2人が醸し出す「懐かしいけど新しい」プロレスが、ブレイクに繋がったのではないだろうか？


試合後、じつに辛そうな表情で勝利の味を噛みしめる井上雅央＆本田多聞。この勢いのまま、先輩から白星を勝ち取っていってほしいものだ

オリンピック3期連続出場を果たした〝五輪の星〟多聞のジャーマン・スープレックスは、一見もっさりしている。だが、これが出るとメチャクチャ盛り上がる！　滞空時間が長いのは、受け身を取りにくくする効果があり、じつに理にかなっている。相手を頭から落として受け身を取りにくくする秋山や三沢のスープレックスとは違い、ジャンボがニック・ボックウィンクルをフォールしたジャーマンのように大きな弧を描く。その投げっぷりの良さは、見る者の記憶に鮮明に残るはずだ。

〝甲斐の怪力〟井上雅央は、得意技のアルゼンチン・バックブリーカーで相手を締め上げる。いにしえの必殺技を老舗・全日で蘇らせた功績は高く評価されていいだろう。こうなったら、同じくアルゼンチンの使い手である新日の中西学と激突して欲しいと願うファンは少なくないはずだ。もし実現したら、個人的には断固として雅央を応援したい。

さらに、2人は〝眠気ぶっとびダイナマイト〟な合体殺法も持っている。まず相手を雅央が担ぎ、多聞に託す。その足を多聞がブン回して叩きつけるのだ（左の写真参照）。非常に力任せな技だが、そもそもプロレスとはこういう原始的な力技から発展していったのではないのだろうか？　そういう意味では非常にクラシックな技である。

試合後のコメントにも魅力はいっぱいだ。特に11月14日にノーフィアーを撃破した試合後のコメントは抜群だった。

「野良犬だってね、ドアが開いてりゃ家の中で暮らしますよ！」（多聞談）

このもの凄い発言で、一斉に報道陣の頭の中に「？」マークが浮かんだようだ。すると多聞はすかさず、「あっ、日本語で言ったからカッコ悪かったですかね？『Underdog on the floor』という言葉があってですね」と説明し始めたのだが……要するに多聞の愛するバンド『原爆オナニーズ』の曲名なのだ。自分の心境を音楽的に表現するという、じつに型破りなコメントだった。決してチャンスに恵まれてきたわけではない雅央&多聞の野良犬スピリットをよく現したこの一言。今年の隠れ名言大賞を差し上げたい。

というわけで、いろいろ雅央&多聞の魅力を分析してきたわけだが、現在の日本のプロレスにはなかった型破りな存在であることがおわかりいただけたと思う。今年はノーフィアーが大きく台頭した1年だったが、来年はきっと雅央&多聞の年になる！　そんな期待を込めて、これからも本誌はこの2人を応援していく次第である。



この技が、いかにダイナミックかおわかりいただけただろうか？　2人の強引な力技で一気に叩きつける！　この2人にはしっくりハマっている。いずれはベイダーもブン投げて欲しいものである

『2000新春ジャイアント・シリーズ』

1月2日（日）東京・後楽園ホール（12：30）
1月3日（月）東京・後楽園ホール（12：30）
1月6日（木）高知・高知県民体育館
1月7日（金）広島・広島市佐伯区スポーツセンター（18：00）
1月8日（土）大分・大分県立荷揚町体育館（18：00）
1月9日（日）福岡・福岡国際センター（15：00）
1月10日（月）熊本・熊本市総合体育館（15：00）
1月11日（火）鹿児島・鹿児島アリーナ
1月12日（水）長崎・佐世保市体育文化館
1月15日（祝・土）岐阜・多治見美濃焼卸センター大ホール（18：00）
1月16日（日）石川・こまつドーム（15：00）
1月17日（月）大阪・大阪府立体育会館
1月18日（火）三重・津メッセウイングみえ
1月22日（土）東京・後楽園ホール
1月23日（日）神奈川・横浜文化体育館（15：00）

『ジャイアント馬場一周忌追悼興行』

1月31日（月）東京・後楽園ホール

～2000年代第1回日本武道館大会～
『2000エキサイト・シリーズ』最終戦

2月27日（日）東京・日本武道館（15：00）
※特に時間の記載のない大会は18：30試合開始

本誌編集部で巻き起こるマサオ&タモンFEVER!!



吉田豪絶賛!! 愛すべきジョーイ・タモーンのパンク精神!!

本誌スーパーバイザー・吉田豪は、多聞がVo.を務める“タモーンズ”（“ラモーンズ”のコピーバンド）をわざわざ観に行くほどの多聞フリークである。「狭いライブハウスでマイクスタンドを振り上げてるんだけど、デカいから天井につきそうになってたよ（笑）。歌は上手いわけじゃないんだけど、勢いだけは凄かったからね」（吉田談）。

そんな多聞のロック魂と、自衛隊で培われたレスキュー精神と、プロレスラーのパワーが重なりあった奇跡のような出来事が'97年の夏に起こった。富士山の麓で行われた野外ロックイベントで、土砂降りの雨と寒さででけが人や病人が続出する中、多聞は一人で倒れた人を何人も担いで救助したというのだ。おそるべし多聞！　多聞幻想は膨らむばかりである。

そんな多聞を吉田豪はこう分析する。「多聞の好きなラモーンズと、馬場プロレスは通じてるね。ラモーンズは曲も短いしシンプルでワンパターンなんだけど、そこが魅力なんだよ。それは馬場とか悪役商会の試合にも当てはまるでしょ？　とすると、今後、多聞のパンク魂が爆発するのは悪役商会との試合だね（笑）」。





大西タマリン絶叫!! マサオに首ったけ!!

全日の後楽園大会や武道館大会には、ほぼ毎回取材に同行している大西タマリン。馴染みの選手が少ない中で、大ちゃんを発見！　カメラを持っていたら、いきなり連れて行かれたのが井上雅央のところだった。「ま、雅央はいきなり男前のポーズを取ってくれるんですよ！　もうメチャクチャかっこよかった！」（タマリン談）。「写真取ってくださいよ。こんなポーズはどう？」と、いろいろサービス・ポーズを披露してくれたそうだ。

珍獣（失礼！）観察がライフワークのタマリン的には、雅央はストライクゾーンのど真ん中だったようだ。雅央のすべてがいちいち気になってしょうがないらしく、ひとりで恋のカラ騒ぎ状態に陥っている。WWFのロックばりに手入れの行き届いたモミアゲを観ては「あのモミアゲ、かっこいい……」とつぶやき、前号で書いたピアスを発見すると「星のピアスしてるよ！」と大騒ぎ。「もう、雅央のすべてが好き！」とまで言い切った。雅央はいま、いちばん母性本能をくすぐる男なのかもしれない。



池田大輔

全日から掣圏道まで、プロレス界を縦横無尽に駆けめぐる格闘吟遊詩人の魂の叫びを聞け！



明るく、楽しく、激しい現実改革論！



聞き手／坂井ノブ（亡霊）
interview by Nobu Sakai
撮影／森"モーリー"鷹博
photographs by Takahiro Mori

プロレスvs格闘技の闘いに注目が集まる昨今、「世界最強の人材派遣会社」バトラーツは相変わらず探偵活動の幅をガンガン広げて勢力拡大中だ。その中で池田はメジャー団体・全日本プロレスでの探偵活動を再開した。そして、その体験をバトラーツに還元し始めている。

たとえば11月9日の後楽園大会では、アレクvs松永に話題をかっさらわれたものの、池田が出場したセミ・ファイナルをベストバウトに推す声が多かった。旗揚げ当初のように強烈なバチバチ空間が蘇ったからだと、ボクは思う。珍しくオトボケ・モードを封印した大ちゃんが語る静かなるバトラーツ改革論に耳を貸すべき！

バトラーツと『紙プロ』を一刀両断!!



『紙のプロレス』なんでしょ? なぜバーリ・トゥードがメインなの?

―いきなりですけど、読者ハガキ(P138参照)ありがとうございました(笑)。

池田 ああ、あれか。読者プレゼントのマスカラスTシャツが欲しかったから送っただけ(笑)。

―「前号の面白かった記事」のところに、(モハメド・)ヨネさんのインタビューを挙げていましたけど。

池田 ヨネがオレのことを持ち上げてくれたから、それだけだよ。

―そういえば、あのインタビューテープをウチの会社に遊びに来たアレクさんがたまたま見つけて、ボクがいないときに聞いてたらしいですよ(笑)。

池田 ウソ?(笑)。あいつは、昔からそういうところがあるからね。まあ、いいよ。オレが話すことは誰に聞かれてもいいから。

―前号でヨネさんに「アレクの雑誌」って言われちゃいましたけど、ボク的には『紙プロ』は「それだけじゃないぞ」と思うんですよ。

池田 アレクとのものが結婚したからね、『紙プロ』が変わってきたのはそれが大きいんだろう(笑)。

―(ムキになって)それは関係ないですよ。

池田 何で、そこでカタくなるんだよ! ジョークの部分じゃんか(笑)。

―すみません。切り返しが下手なもんで(笑)。いま、ウチの雑誌はU系や格闘技の選手が多く載ってるけど、ボクはいわゆる純プロレスの凄さも取り上げたいんです。

池田 そもそも『紙のプロレス』なんでしょ? オレは「なんで、シューティングとかバーリ・トゥード系ばっかりメインで扱ってるんだろう?」って思うけどね。格闘技を見る人って、ほとんどプロレスファンが多いからね。

―そうなんですけどね。それをボクと、池田さんで変えていきましょう。

池田 ……なんか『紙プロ』も凄いね(笑)。ノブ、クビ覚悟なの?



10月10日、全日本の後楽園大会で小橋&秋山とトリオを結成して、J・エース&M・バートン&J・スミスと激突した池田。超ヘビー級の強烈な洗礼を浴びた。だが、エースに掟破りのエースクラッシャーをかますなど、爪痕は確実に残した!

―ええ。いつも編集長に「クビだ」って言われてますから(笑)。

池田 オレも、常にクビは覚悟してるよ(笑)。まあ、マスコミの取り上げ方に腹を立ててもしょうがないけどね。だって、レスラーもマスコミも、どっちも「作り手側」でしょ? オレが表現した方向と、マスコミが表現する方向がスレ違ってたら、「あ、合わないな。わかってくれる人だけでいいや」って感じになっちゃうよね。

―たしかにバーリ・トゥードでプロレスラーが勝つのも素晴らしいと思うんですよ。

池田 それは素晴らしいことだよ。昔で言うなら、アントニオ猪木の異種格闘技戦みたいなものだからね。

―でも、ボクは思うんですけど、バーリ・トゥードで勝って騒がれるプロレスラーは何人もいないですけど、全日本のメインイベントに出て、しかも他団体の選手で、輝けるプロレスラーって何人もいないと思うんですよ。そういう意味で、池田さんももっと評価されてもいいと思うんですけどね。

池田 ……今日はオレを褒めるインタビューなの?

―ええ、そうです(笑)。

池田 別に、人に褒められたくてプロレスやってるわけじゃないけど(笑)。

―そんなこと言っても、全日本の10月シリーズではバリバリ活躍してたじゃないですか。アジアタッグ王座決定リーグ戦も面白かったですね。

池田 一生懸命、頑張ったんだけど優勝できなかったね。

―全日本の選手はみんなデカいですけど、体格的なハンディは感じますか?

池田 うん! ゲーリー(・オブライト)のパワーボムは「痛い」なんてもんじゃないよ! 叩きつけるときの衝撃がオレの全身をブルブル震わせたからね。あんな衝撃は初めてだったよ。

―いずれ池田さんは、四天王や秋山選手の闘いの輪の中に入って行こうと思ってるわけですか?

池田 そりゃもう! 参戦させていただいてるのであれば、上を目指すのが当たり前でしょう!

―今回は、トップどころの選手や外国人選手とも対戦したけど。

池田 その闘いの中に入ってみて、やっぱり憧れを感じるよね。

―パワーとか大きな肉体にですか?

池田 うん。全日本の選手のデカさはなん

DAISUKE IKEDA

か、すべてを寄せつけないね（笑）。

——それはありますね。全日本の控室にいると、みんなケタ違いですよね。

池田　そうそう！　全日の会場で取材するようになって、やっとオレの言うことがわかるようになったでしょ。だから、オレはバトラーツの若手には「デカくなれ」ってずっと言ってるんだけどね。

——たしかに、選手の大きさって会場に行かないとわからないですよね。では、全日を体験した池田さんから見て、バーリ・トゥードはどう思いますか？

池田　バーリ・トゥードって、完全なケンカでもないし、プロレスでもない。違う競技って感じだよね。ただ、いまはみんなバーリ・トゥードとか『ＰＲＩＤＥ』に目が行ってるでしょ。一時の新日とかＵＷＦみたいに。

——そうみたいですね。

池田　オレも昔は猪木さんが好きだったけど、全日本を生で見たら何か変わると思うんだよね。オレもそうだったし。そういえば『紙プロ』は全日本を「スポーツライクなプロレス」って言ってるんでしょ？

——前田日明が長州力の顔面を襲撃したりする世界じゃないですよね。「遺恨」とか「私情」のない、洗練された部分を指して、そういう言い方をしてたと思うんですけど。

池田　じゃあ、バトラーツもそうじゃん。ウチも遺恨はないからね。

——でも、最近は変わってきてませんか？　前号でヨネさんがアレクさんに対してメチャクチャ厳しい発言をして、2人の関係はかなり遺恨が深そうですからね。池田さんは、アレクさんに対して何か思うところはありませんか？

池田　バーリ・トゥードに出続けなきゃいけなくなってるみたいだけど、この先どうなるんだろうね？

——いわゆるプロレス面でも、サスケ社長に勝ち、松永光弘に勝ちといった具合に実績は積んでますけど。

池田　でもね、オレはアレクと対戦するたびにガッカリしてる。

——えっ？　どういうことですか？

池田　マルコ・ファスに勝ってから、試合やってもガッカリすることが多いよ。たぶん、アレクの中で自分が出来上がっちゃってるんだろうね。ちょっと口では説明しにくい部分だけど。

——（石川）社長が新日のドームに出たり、（田中）稔さんが新日でブレイクしてるのを見て、触発されることはありますか？

池田　ないね。地道に我慢してやってるヤツがいいんだよ。ウチはすぐに鼻が高くなるヤツが多いからね。

——うおっ、爆弾発言ですね！　じゃあ、池田さんから見て、プロレスラーとして「あいつにはかなわないな」と思う存在はバトラーツにいますか？

池田　存在感の部分で？　難しい質問するね。「いつもオレが一番だ！」と思ってるのは、社長とかアレクでしょ。

——池田さんは、どちらかというと周りを気にしちゃうんですかね。

池田　いや。歌手が歌ってナンボなように、プロレスラーも試合してナンボでしょ。試合をして、その日に一番だったらいいと思うよ。オレはいつも、「今日は一番いい試合をしよう」と思ってるからね。

——それは全日に出ても同じですか？

池田　うん。

——試合といえば、最近のバトラーツはマッチメイクが変わってきましたよね。以前だったら、「石川＆アレク vs 池田＆小野」という関節技 vs 打撃っていうスタイル的な対立概念がありましたけど、最近は「石川＆小野 vs 池田＆アレク」って感じでチームを分解してスタイルが似た人も絡む方向性ですよね。

池田　……それをオレに言われてもなあ（笑）。確かに、こうした方が変化が出るだろうと思ってるんだろうけど、そこは変化すべきところじゃないと思うんだよね。これは、あくまでもオレが自分の中のファンの目で見たときの話だよ。

——プロレスラーは、なかなかファンの目を持ちにくいと思うんですけど。

池田　オレは、いつでもファン時代の気持ちは持ってるつもりだけどね。

——そういう話合いはないんですか？

池田　それを石川さんは「謎かけなんだよ」って、よく言うでしょ。

——ああ、そういえばヨネさんも「石川社長の謎かけって、オレはわからないんですよ」って言ってましたね。

池田　だって、オレらにとっても謎なんだから、お客さんにとっても謎だろ？　わかんないもん。謎を掛けてる人に全部聞きたいよ。オレも「謎かけ」は大嫌いだから。

地道にやってるヤツがいいんだよ ウチはすぐ鼻が高くなるヤツが多い！



——こないだの後楽園の試合（石川＆ヨ

合いになり、そこから30人を巻き込んで大乱闘に発展した事件）。さすがに長渕も30

とまんないんだよね。

——キレる基準ってあるんですか？

ウチはすぐ鼻が高くなるヤツが多い！

――試合といえば、最近のバトラーツはマ
んないもん。謎を掛けてる人に全部聞きた

いよ。オレも「謎かけ」は大嫌いだから。

――「謎かけ」って、そもそも猪木さんがルーツですよね。

池田　オレも猪木さん好きだったよ。

――石川社長も猪木好きですよね。

池田　猪木さんの謎かけは石川さんに比べると、わかりやすいと思うんだよ。やっぱ、そういうのって人間性が出るよね。だからといって、石川さんの人間性が悪いっていうわけじゃないよ。オレは社長とは、一緒に酒を飲める仲だから。

――ええ。でも、意見はぶつけ合った方がいいでしょう。石川社長の謎は込み入ってるんですかね？

池田　オレからすると「そんなに難しく考えなくてもいいじゃん！」って思うことをいつも考えてるね（笑）。そこらへんでズレが生じてくるのかな。

――石川社長って、なぜか「1、2、3、ナーシャ！」（＝バトラーツ版『ダァーッ!!』）をすごく嫌がりますよね。最後に締めなきゃいけないところなのに、「お約束は嫌いなんだよ！」って言って（笑）。

池田　それなのに、自分は試合で延髄斬りしたり、卍固め出してるからね。「それはお約束じゃねえんかい！」って感じなんだよ（笑）。オレは試合後に、気持ちよく「ナーシャ！」ってやりたいんだよ。でも、石川さんが本気で嫌がってんなら、やりたいヤツだけで勝手に盛り上がればいいじゃん。「あの人は変わり者だから、オレたちはオレたちで楽しもうぜ！」っていうぐらいの方がオレは好きだよ。

――石川社長が突っ走って、池田さんがフォローしてるから不思議とバランスは取れてますね（笑）。でも、池田さんはストレス溜まりそうけど。

池田　社長とは衝突してるよ。だから試合で思いっきり蹴れるんだろうね。

――こないだの後楽園の試合（石川&ヨネvs池田&村上）も2人のバチバチ・ワールドに他の人が入っていけない激しさがありましたね。

池田　つい試合中に「ムッ」となっていろんなものが出ちゃうから（笑）。

――全日本とは、また違った池田大輔が出てましたね。

池田　ホントは「ほのぼの大ちゃん」で売ってるんだけどね。

――リング上では、とてもそんな感じには見えないですけど。

池田　オレを『週プロ』とかで取り上げてくれるとき、寅さんや坂本龍馬や武田鉄矢をキーワードにすることが多いでしょ？ その3人も好きなんだけど、なぜか長渕剛にならないんだよ。

――ファンにとっても、マスコミにとっても「ほのぼのキャラクター」なんでしょうね。でも、他人の頭をボコボコに蹴っ飛ばしてしまうデンジャラスな試合は、かなり長渕系ですけどね（笑）。ちなみに長渕のどんなところが好きなんですか？

池田　歌かな。でも暗い歌は嫌い！

――しょっちゅうトラブル起こしてる部分なんかはどうですか？

池田　オレはそんなキレないよ（笑）。

――そうですか？ あんまり表沙汰になってないですけど、今年の7月の金沢大会で某格闘技道場の30人と大乱闘したって伝説があるじゃないですか（金沢大会のメイン終了後、興奮した客がマッハ純二とつかみ合いになり、そこから30人を巻き込んで大乱闘に発展した事件）。さすがに長渕も30人相手に大乱闘しないでしょう（笑）。



10・17みち&バト合同興行『兄弟愛♥』ではTNTと対決。だが、闘いのテーマを感じられなかった池田は不完全燃焼のうちに敗退。「あれはファンに対する会社の裏切りだよ」と怒り気味。こうした池田の怒りは、試合において度を超えたバチバチファイトとなって、激しく還元される。

池田　ああ、あれね。マッハが大勢ともみあってたから、割って入っただけだよ（笑）。ボス格のヤツの髪を鷲掴みにして、全部髪を引きちぎってやろうと思ってさ。でも、引っ張っても人間の髪の毛ってなかなか抜けないね。そいつも謝らずに口ごたえするから、鼻に1発アッパーを叩き込んだだけだよ。

――思いっきり急所ですよ！

池田　ええ、意識的にやりました（キッパリ）。鼻の骨は折れただろうね。手を離したら、血ィ、ダラーってたらしてたよ。騒ぎが収まったところで、小坪（弘良）選手が来て「プロレスをナメんな！ オラ！」って叫んでたね（笑）。

――アハハハハ！ でも、池田さんはキレるとおっかないですねえ。

池田　普段はキレないんだけど、キレたらとまんないんだよね。



――キレる基準ってあるんですか？

池田　自分でもわからないなあ。

――ケンカといえば、安生さんの闇討ち事件どう思いました？

池田　別に両者に特別な思いはないんだけど、安生さんに男を見たね。やっぱケンカってそういうもんだから。バーリ・トゥードとは違うよ。

――でも背後から襲うのは卑怯でしょう。

池田　オレも、闇討ちされそうになったことはあるよ。尾行されてたんだ。

――そうなんですか!? まさに長渕系ですね。市街地実戦型プロレスラーって感じじゃないですか（笑）。で、市街地といえば撃圏道なんですけど。

池田　強引に話題をつなぐね（笑）。

――いや、これもどうしても聞いておかないといけないんで勘弁してください（笑）。池田さんがSAプロレスの試合（11月6日・群馬・新田町大会）に出たんですよね。

未来が見えないから頑張れるんだよ！でも、近々詩集は出版するから！

池田　ホントは出たくなかったんだけどね。

——え？　なぜですか？

池田　全日本の巡業でバスに乗ってるとき、いきなり携帯にメールが来たんだよ。「11月6日、掣圏道よろしく。島田」って。

——いきなり了承もなしにですか？

池田　ビックリしたよ。どう、ねえ？

——勢いのあるブッキングですね（笑）。非常に島田さんらしいといえば、たしかに島田さんらしいですけど。そういった不満が試合の肥やしになるわけだから、いいじゃないですか（笑）。

池田　そうなのかなあ。

——でも、池田さんの掣圏道参戦は「絶対見なきゃ！」と思いましたよ。実際、試合も面白かったですね（※木村浩一郎と組んで、長井満也&スーパーライダーと対戦）。SAプロレスは、「アクション・プロレス」というものを打ち出しているんですけど。実際に試合をしてみて、いかがでした？

池田　いろんな意味で貴重な体験をさせてもらいましたよ。長井（満也）選手と闘うのも初めてだったし、ライダーキックされるとも思わなかったし（笑）。新鮮だったね。

——もちろん、関節技や打撃の攻防もあったんですけど、なぜか長井さんと池田さんがプロレスの攻防をしてたのは面白かったですよ。ズバリ言って、長井さんはそんなに上手ではなかったですけどね。

池田　不自然だったよね。もともと、プロレスっていうのはひとつだとオレは思うからね。長井さんは、こだわりがあるんじゃないの？

——前田さんのところにいた長井さんが、佐山さんの元でプロレスをやってるっていうのも因果を感じますよね。

池田　そう？　実際に話してみたら、長井さんはすごくいいなあと思ったよ。思わず速攻で携帯の番号を交換しちゃったぐらいだから（笑）。

——気が合うんですか？

池田　長井さんのフットワークの軽さは、自由な感じがしていいよね。

——同じような欲求があるんですかね？

池田　オレはいつでも1人でやってるつもりだけどね。プロレスラーってそういうもんでしょ。

——では、そのプロレスラー・池田大輔選手に聞きますが、プロレスラーとしての最終目標って何ですか？

池田　急に難しいこと聞くねえ（笑）。

——すいません。でも、全日本から掣圏道まで幅広く出場してる池田さんが何を目指してるのか知りたいんです。

池田　掣圏道はオレの意志じゃないから（笑）。難しいな……その質問はオレに「イスカンダルってどこですか？」って聞いてるようなもんだよ（笑）。イスカンダルに行って地球が助かるのか、どうかもわからないし（笑）。

——途中でデスラー総督が現れるかもしれないですからね。

池田　そうだよ。どうなるか分からないから、続けて行けるんだよ。そんなこと聞いてるお前だって、将来のことなんかわかんねえだろ!?　でも取りあえずの目標というか計画はあるよ。オレね、じつは詩集を出版したいんだよ。

——猪木さんも詩集を出すらしいですね。

池田　ウソォ!?　みんなが自伝を書くから、オレは詩集を出したかったんだけど……オレ、負けてんじゃん！

——どんな詩集なんですか？

池田　相田みつを風なんだ（笑）。詩をプリントしたTシャツも作るよ。

——どんな詩を書いてるんですか？

池田　たとえば、オレがケニーに身体をデカくするように、いつもメシのときは言ってる言葉なんだけど「噛まずに飲め！」っていう……（笑）。

——それは詩集じゃなくて、プロレスラー入門書じゃないですか（笑）。

池田　他にも、全日本の試合で感じることを詩にしてみたんだけど……。

——何ですか？

池田　「毎日が交通事故！」。

——バ、バッグンです。池田さん、コピーライターになれますよ（笑）。

池田　ホント？　じゃあ、引退後はコピーライターになろうか。「カレーは別腹！」ってのは、どう？

——わけわかんないですけど、今度ボクが作らせてもらってるバトラーツのパンフレットで連載しましょう（笑）。

池田　え～、ちゃんと詩集を出そうよ！

【11月15日、東京・『ラ・ポエム』にて収録】

DAISUKE IKEDA

いけだ・だいすけ■昭和43年２月13日、熊本県牛深市出身。平成５年12月５日、東京・後楽園ホール、vsドン荒川戦でデビュー。バトラーツだけにとどまらず、全日本プロレスにも探偵活動の足を伸ばしている。本人曰く「全日ではかわいがって頂いてますけど、バトラーツでは人が寄ってこない」とのこと。普段は呑気だが、キレると前後の見境なく殴りかかってしまう危険な男。愛車のミニ・クーパーで、今日も夜な夜な愛を求めて旅に出ている。身長１８５センチ、体重98キロ。



10・17みちのく&バトラーツ合同興行『兄弟愛♥』後、初の後楽園ホール大会で見えたバトラーツNEXT STAGE

"愛"の季節が終わり、バトラーツにバチバチが帰ってきた！





バトラーツの1999年は"愛"の一年だった。

年頭の後楽園大会は「原点回帰」を謳っていたのだが、いまから思えばそれが今年のバトラーツの方向性をどこか感傷的で、センチメンタルなものにしていったような気がする。ざっと思いつく限りのイベントを振り返ってみると、やはり今年のキーワードは"愛"だったことがよくわかる。

1月■アレクが涙で高校の先輩・新崎人生との夢の一騎打ちを熱望。

3月■ラヴ・ウォリアーズが別々の道を歩み始めた。

5月■愛着のある北の聖地で『ゴールデンタイム伝説』が再び蘇った。

6月■『ミスター空中追悼興行』で、故人の偉業とプロレス愛を語り継いだ。

10月■みちのくプロレスとの合同興行『兄弟愛♥』が大成功を遂げた。

だが、あの両国大会から1年経った今年の11月、ようやく愛の連鎖にひとつの区切りがついたようだ。愛の季節が終わり、バトラーツはいい意味でまたひとつ脱皮を遂げた。

では、具体的に何が変わったのか？　メキシコ帰りのアレクによる過激なバトラーツ批判が引き金になっていることは想像に難くない。それに対する選手間での反発はすさまじいものがあった。さらに9月からは村上一成（UFO）も熱く激しい闘いで参戦してきた。いろんな要素が絡み合った結果、11月9日の後楽園大会に旗揚げ1年目の頃のような殺伐とした緊張感が蘇ったのだ！

それがセミ・ファイナル、池田&村上vs石川&ヨネである。じつに激しいバチバチファイトだった。"愛"を超えた次元でお互いの主張を体ごとぶつけあっている。来年は、今年以上に殺伐とした、それでいてレベルの高い試合が増えていくはずだ。気の早いバト戦士たちの世紀末サバイバル・レースは、もう早速始まっている！

こんなにあるぞ、バトラーツの2000年

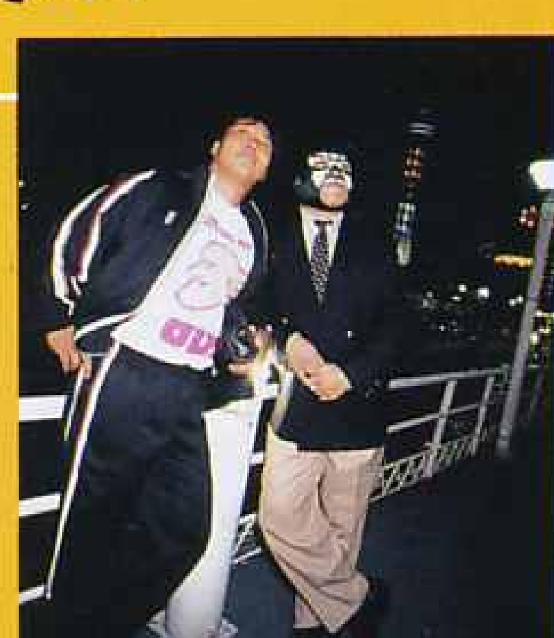
日高のECW遠征の成果はどうだ？ 2000年後楽園大会第1弾『B-BLOOD』



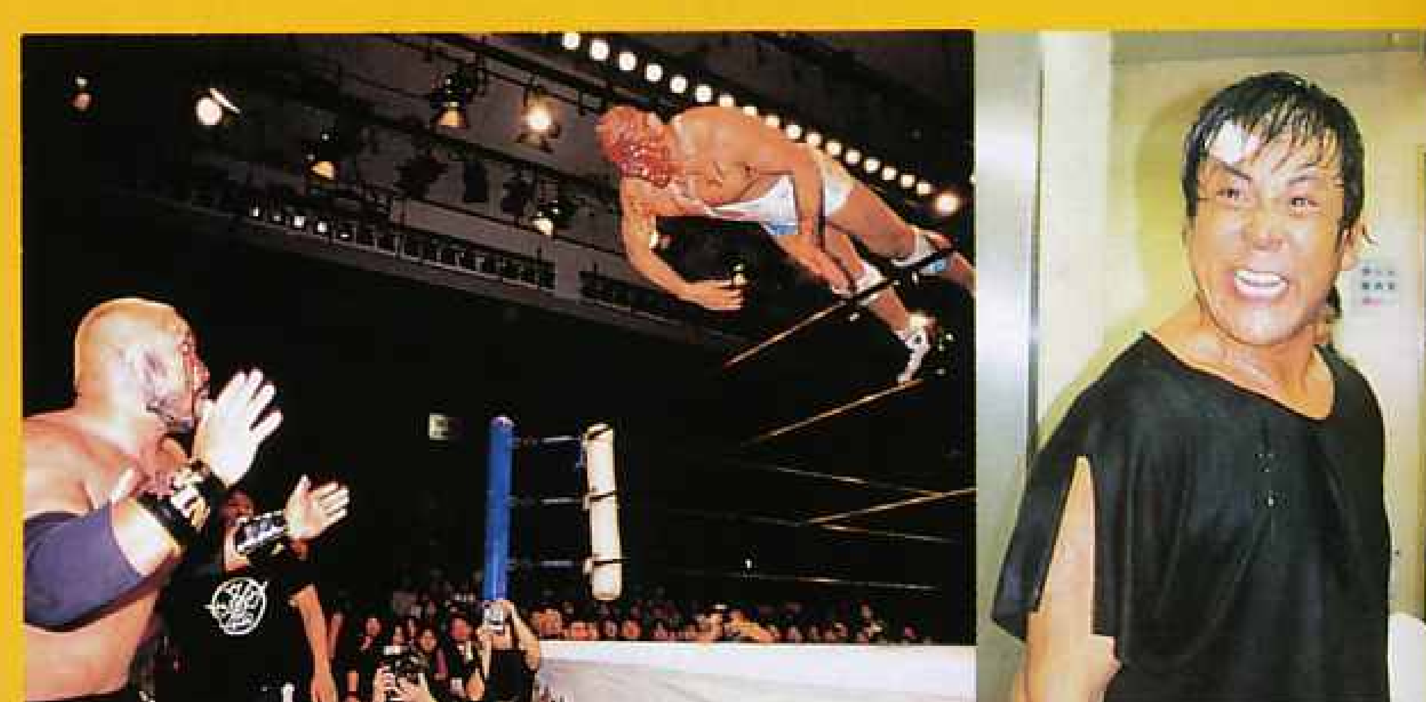
『タッグバトル'99』開幕直前で、日高郁人のアメリカECW遠征が急遽決まった！　1月の後楽園ホール大会では華々しく凱旋帰国してくれるに違いない。その際には、様々な企画がなされているようだ。3ウェイダンスやハードコア・マッチなどもあるのだろうか？　一回り大きくなったNEW日高郁人を見に行くしかないでしょ！

■『B-BLOOD』1月30日（日）東京・後楽園ホール（12：00）
【チケット料金表】
特別席￥6000　指定席￥5000　自由席￥4000　立見￥4000（当日のみ）
2000年プレミアムチケット￥2000（限定50席・バトラーツ通販のみの販売になります）
【お問い合せ】バトラーツ　TEL.0489-63-0005

バトラーツの鬼も笑わす来年の話　その1 来年からOVNIは本格発進します！



『兄弟愛♥』でプレ旗揚げした「チームOVNI」（OVNIとはスペイン語で「UFO」）が「来春から本格始動するらしい」という未確認情報が飛び込んできた。火のないところに煙は立たず。何らかの動きがあるものと思われる。『兄弟愛♥』のときには、「チームOVNI」が完全に浸透してなかったせいか、観客動員的には爆発しなかったが、行った人は「今年最高の興行だったよ！」と声を揃えて言うほど。いまからでも遅くない！　OVNIに乗っとけ！


バトラーツの鬼も笑わす来年の話　その2 大仁田VSアレクは実現するのか？

アレクは凄い!!　11月9日後楽園大会で、松永光弘に血ダルマにされながらも、試合後ハッキリと次のテーマを掲げてくれた！ なんと「大仁田挑戦」である！ じつは、このきっかけを作ったのは本誌である。その中の大仁田インタビューにおける「高田延彦、アレクサンダー大塚？　これ載せたって売れないよ」という発言に、アレクは素早く反応したのだ。すると、すかさず大仁田から返答が出てきた。「アレクサンダー大塚殿　邪道の心を理解して頂きありがとうございます。ただ、私　大仁田厚は今、長州力との戦いにプロレス人生の全てを懸けており、中途半端な戦いはあなた様にとって失礼だと思います。邪道の理解者がここに現われたことを嬉しく思います（以下略）」どうだろう？　丁寧な言葉の中から、長州戦の後に大仁田vsアレクの可能性が見えて来ないだろうか？　とてつもないビッグ・マッチはこの先、どう転がるのか？　マナベェ〜、お前はこの試合が見たいか!?

アメプロをナメるな!! 強くて、凄くて、面白い“まだ見ぬ強豪”先物買い不定期連載!!

WHO'S NEXT!?

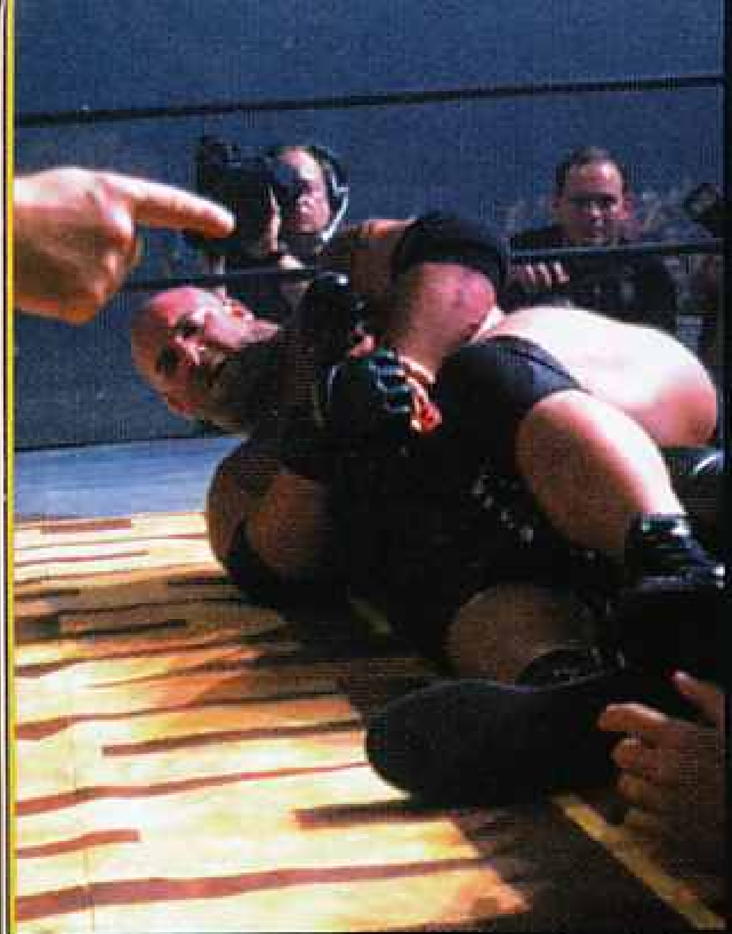


弾丸戦車 GOLDBERG

この男はヤバい！　ひとことで言うならば「アメプロのヒクソン」だ！　プロレス界から常勝チャンピオンが消え、「450戦無敗」のヒクソン幻想に日本のプロレスが蹂躙されたときに、もの凄い勢いで海の向こうから連勝街道を猛追してきたのがこのゴールドバーグなのである。アメリカではWWFの“ストーンコールド”スティーブ・オースチンに勝るとも劣らない人気と知名度を誇る90年代のスーパースターだ。なにしろ、今年の夏にドラゴン藤波率いる新日役員使節団が総出でWCWまで交渉に行って招聘に成功した超大物である。そんな今世紀最後の“まだ見ぬ強豪”が、遂に初来日を果たすのだ！　果たして、どんな闘いをする男なのか？　ゴールドバーグの日本版ビデオの制作スタッフだった元・VALiS（『闘魂Vシリーズ』をリリースしているるビデオ会社）の笠井修さんが、他では読めない内部情報も交えつつ送る！

文／笠井修
text by Osamu Kasai

写真提供／トイズファクトリー
photographs by Toys Tactory



スルリと入るヒザ十字。もしVTに出たら、かなり強そう！見てえ！

バウンサー稼業とアメフトで大暴れ!!

1・4、新日『闘強導夢』！ ついに「弾丸戦車」ゴールドバーグがやってくる！ みんなドームに集合ダゼ！ と、ちょっと無理して盛り上がろうとしたのだが、果たして健全なプロレスファンはゴールドバーグでどこまで盛り上がっているのだろうか？「175連勝」や「ジャックハマー」等の決まりきった紹介のされかたと、わかりやすすぎるあの体。専門誌が報じるゴールドバーグは、正直言っていまいち日本のファンに感情移入させづらかったのも確かなのである。

だが、それは非常に大間違い！ 彼は紙プロ読者の不健全なファンもビンビンになること間違い無しのかなりイカした男なのである。なんてったって、“未知の強豪”にはマスト経歴の「バウンサー（用心棒）」を学生の時につとめている。リングス・オランダ軍団同様、ヤバい客の相手をしていたはずだ。その一方で、アメフトでも大活躍して学校の人気者だった。こういう極端な二面性（orただの暴力性？）を持つ男なのだ。

しかし、大暴れした学生生活に比べ、憧れのアメフト界ではなかなかチャンスが巡ってこなかった。そのトラウマは現在でも引きずっているらしく、インタビューで尊敬するレスラーとして、なぜか「スティーブ・マクマイケル」という日本では無名の選手を挙げ、「奴はアメフトでスーパーボウル（プロ野球で言うところの日本シリーズ）に出場した唯一のプロレスラーだから」という、今の自分の評価とポジションを全く理解していない発言を残している。結局、未練たっぷりのままアメフトを引退後「最も尊敬する格闘技」サンボに出会う。

もともとアメフト復帰への体力づくりのためにサンボを習い出したらしいのだが、この1年後にはWCW専属のプロレス道場「パワープラント」に入門している。アメフトへの異常な愛情と、そのわりにはあっさりプロレス入りしてしまう直球的な生き方も「弾丸戦車」と呼ばれる所以なのだろう。たぶん。

ゴールドバーグの原点はパンクラス!?

ゴールドバーグの試合スタイルは最近のアメリカではまず見当たらない「秒殺」。試合時間はほとんど2分前後といった超スピード決着が基本だ。テレビに写ってナンボのアメリカで、ですよ。以前ゴールドバーグがインタビューでこんなことを言っていた記憶がある。

「今、アルティメットとパンクラスが人気があるんだよ。オレの試合スタイルはその2つをクロスさせているんだ。プロレスとアルティメットをクロスさせる。相手にもケガをさせない。だからオレは人気がある。そーいうことです！」（Numberよりうろ覚えで引用）

どーですか！「秒殺」「サンボ」そして「プロレスとUFCのリンク」。なんと、彼のバックボーンはパンクラスとUFCだったというわけなんですよ。アントニオ猪木が「アメリカのマット界には闘いがなくなった」と口にしていたが、このゴールドバーグの言葉を聞くと、改めてアメリカのプロレスを見直す必要があると思うのだ。カート・アングルやブラッド・コーラーなどの活躍によりアメリカンプロレスラーのノールール系での実力が見直されて来ている今、「グレイシーなんてスラムでポキッだよ」と語ったコーラーの言葉などを聞いてしまうと、ゴールドバーグも非常に生々しく見えてくる。

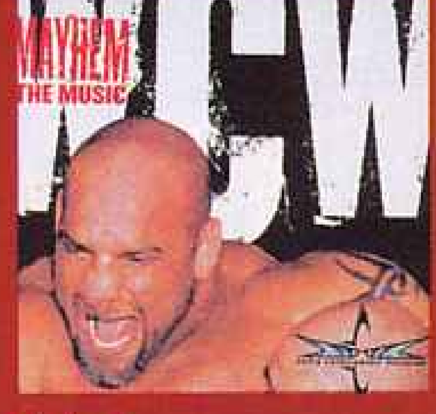
ゴールドバーグを見にいくにあたって重要なポイントは、まず入場シーン。入場ゲートの前に出現すると、「お笑いウルトラクイズ」でのダチョウ倶楽部を彷彿とさせる大量の花火を浴び続け、口から煙を吐き出しながら大咆吼！ 試合では、サンボの経験を活かしたビクトル式ヒザ十字をズバッと決める。最近、新日でも中西らが使うようになった高速タックル「スピアー」は必見だ。アメフト仕込みのタックルを活かした強烈な一発である。フィニッシュホールド「ジャックハマー」（ブレーンバスター十パワースラムの豪快な殺人スラム技）は、持ち上げられた相手がマットに叩き付けられた時、試合は100％終了する一撃必殺の技。パンクラススタイルにカウント2、9の攻防などありえないのだ。

初対面の人に、いきなり「ウガアー！」

じつは、ゴールドバーグの来日は今まで何度も発表されかけたことがある（vs安田忠夫戦など）。その度に流れてきたわけだが「今回は大丈夫かいな〜」と、ゴールドバーグと接触したことのある数少ない日本人で、ボクの師匠でもある「小路谷“闘魂V”カントク」に話を聞いてみた。すると、「彼にねぇ〜、最初に会った時にねぇ〜、ウガァー！ってやってきたんだよ！ ウガァーって！ 俺しかいないところでだよ！ トップに立つレスラーというのはあの位サービス精神が旺盛なものなんだよ！」という答えが返ってきた。今回、対戦相手がリック・スタイナーになったのも、数々の日程の都合による来日不可も「100％のゴールドバーグをアメリカから直輸入したい！」という彼の旺盛なサービス精神によるものと解釈できる。リックは新日マットのスタイルは熟知しているはずだし、最近はゴールドバーグとの試合も多い。つまり、それほどゴールドバーグは本気なのである。決して会社の命令でも、お金のためでもなく、わざわざ日本向けの相手を連れて乗り込んでくるのだ。今世紀最後にして最大の“まだ見ぬ強豪”の本気をボクらも受け止めきろうじゃありませんか。



勢いだけで叩きつけるのではなく、持ち上げて、止めて、スラムするので破壊力は底知れない。体重230キロのザ・ジャイアント（ビッグ・ショー）も投げきったパワーは必見！



なんと！ WCWが、音楽業界とのタッグで、5年がかりの一大エンターテイメント・プロジェクトに乗りだしはじめた！ その第一歩として、ヒップホップレーベルの老舗Tommy Boyと手を組み、コンピレーション・アルバムが発売したのだ。これは単なる入場テーマ曲集ではなく、ヘビーメタル、ヒップホップの楽曲の合間に選手の入場テーマ曲を挟み込んだ、WCWの「こった煮サウンド・トラック」なのである。史上初の「プロレス・サントラCD」を聞いてみよう！

【入場テーマ収録レスラー】
●ゴールドバーグ●“マッチョマン”ランディ・サベージ●ダイアモンド・ダラス・ペイジ●スティング●バフ・バグウェル●ハルク・ホーガン●ケビン・ナッシュ●コナン●カート・ヘニング＆ウエスト・テキサス・レッドネックス

【参加ミュージシャン】
●DJランジ●インセイン・クラウン・ポッセ●スレイヤー●メガデス●キッド・ロック●メタリカ●プレミール55●リンプ・ビズキット●リリカル・ジャイアンツ●ラフ・ライダース●スクリューボール●ビッグ・パニッシャー＆ファット・ジョー●サイプレス・ヒル＆デファリ

V.A.／
WCW MAYHEM
TFCK—87719
¥2548（税込）
NOW ON SALE!!
日本盤がトイズ・ファクトリーより発売中！



日本盤予約特典の特製WCWカレンダー（非売品！）をドカンと10名様にプレゼント！ ヒップホップテイスト溢れる抜群にクールなシロモノだ!! 応募方法はP175を参照！

【トイズファクトリー提供】

【追記】リックもいいんだけど、「強権発動により」われらがドラゴンvsゴールドバーグ（しかも、その試合を「所用欠場」）そんなキラーなドラゴンでゴールドバーグの真の怒りを引き出すシーンも見てみたい！ 日本のプロレスの怖ろしさを教えてやれ！

！

究極のバカ祭りが実現!!



FMW!!

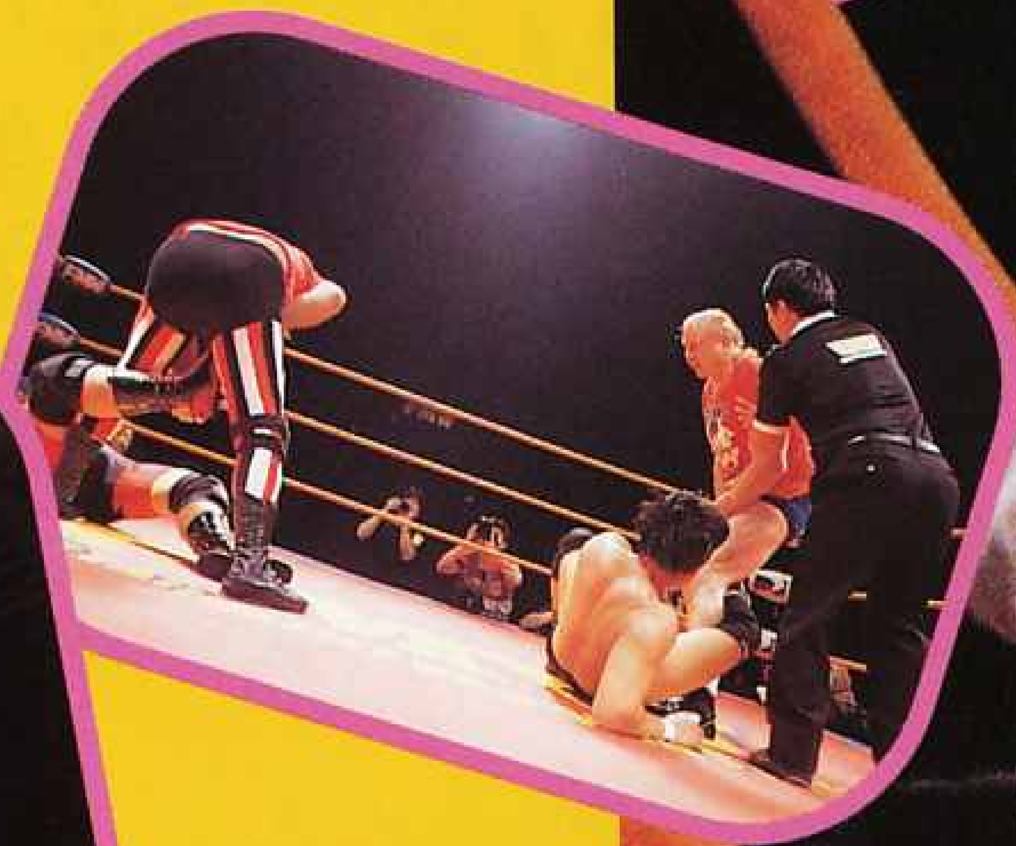
キを集めた。多くのプロレスファンが、最近

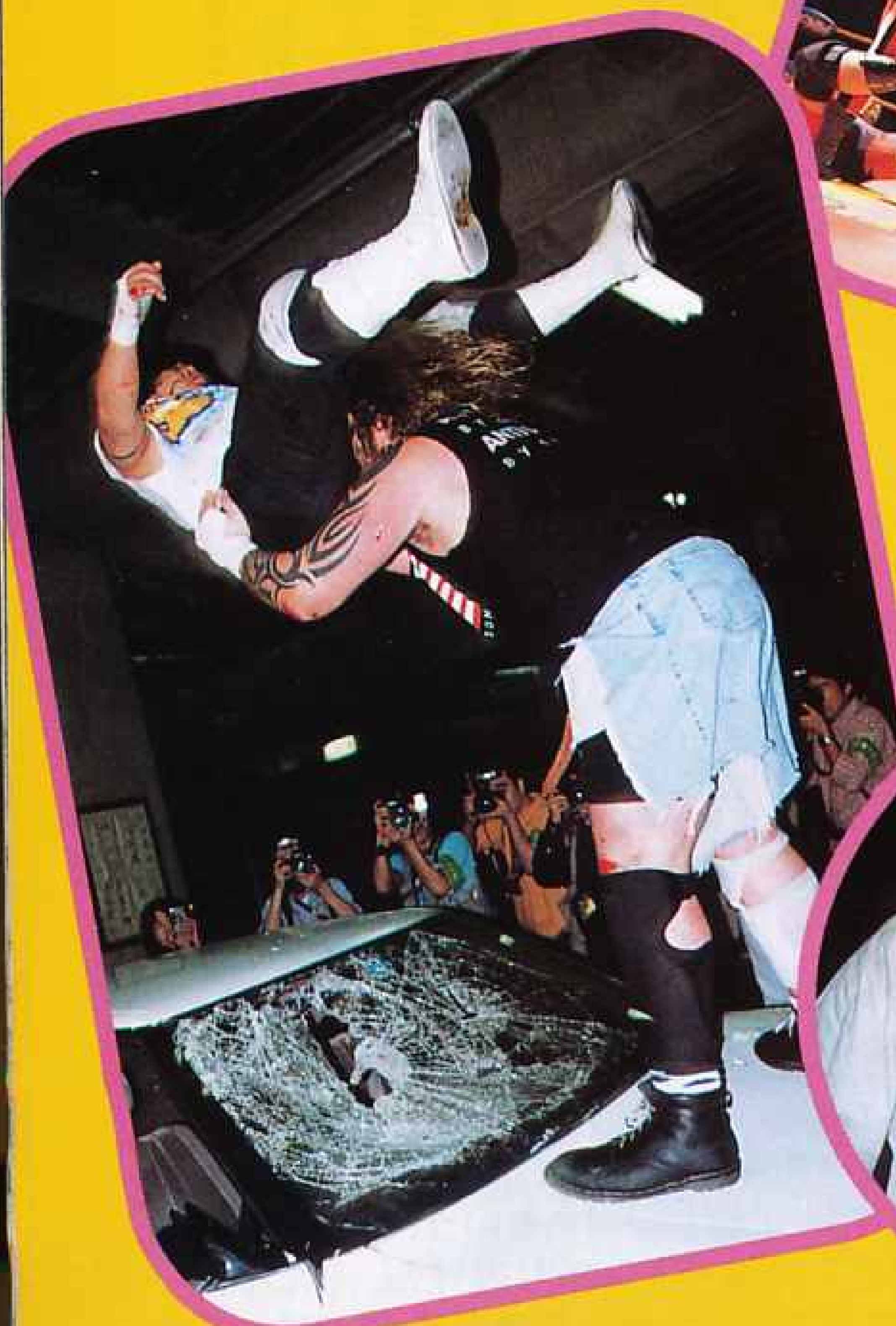
聞き手／坂井ノブ（亡霊）
interview by Nobu Sakai

撮影／平工幸雄
photographs by Yukio Hiraku

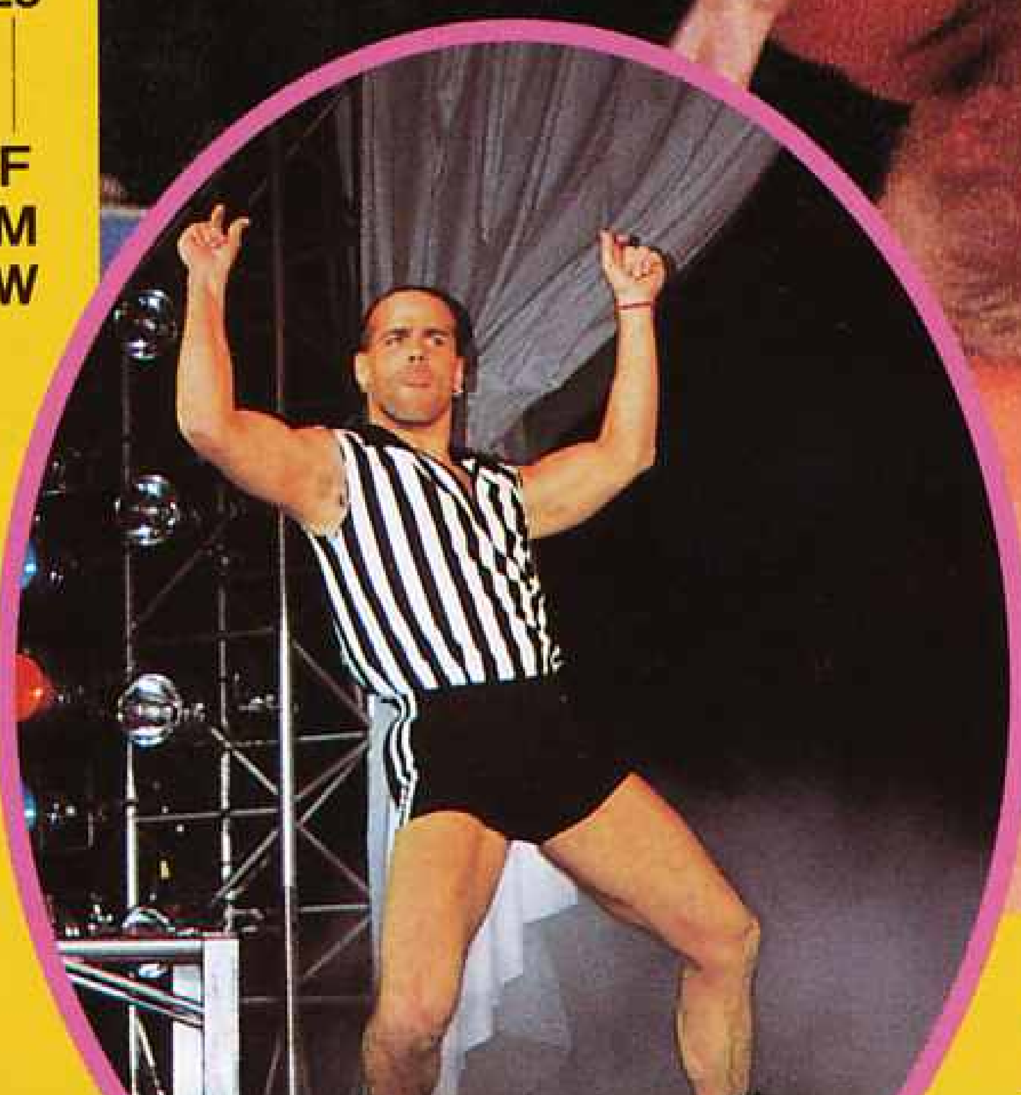
日本マット界史上初!!











11・23――FMWが、日本マット界に新たなる1ページを記した！

　冬木が実権を握った今年5月から、マスコミまでもが尻込みするような過激きわまりない仕掛けで果てしない暴走を繰り広げ、遂にたどり着いたのがこの大会である。いままでは本誌の誌面に載ることも少なかったFMWを、前号では「ゴー・フォー・ブロック」の精神で取り上げてみた。プロレス雑誌史上初の「オシッコ（十チケット）プレゼント」という、良識あるプロレスファンの方々にしてみたら非常にショッパイ（オシッコだけに）企画と思うかもしれないが、これが従来のチケットプレゼントよりも、かなり多くのハガキを集めた。多くのプロレスファンが、最近のFMWの暴走には興味を示し、何かを期待していたわけである。さもなければ、日本全国のオシッコマニアが大挙してハガキを送ってきたのか？　どちらにしても、FMWには間違いなく追い風が吹いている。

　いみじくも、この大会の象徴的な存在となった、WWFのコミッショナー"HBK"ショーン・マイケルズもFMWを絶賛していた。「ジャパンには全日本や新日本といった団体はあるが、FMWはこういった新しいスタイルでは日本で一番の団体だ！」本場のトップにそこまで言わせたのだから、レベルはかなり高いと思って間違いない。

　だが、こういった声とは逆に、思いっきり嫌悪感を抱く人もいる。たしかにFMWを「WWFのパクリだろ」などと揶揄する声や「キャラクター・プロレスは日本には根付かない」といった批判があるのは事実。

　だが、プロレスは外からの影響を受けないと変わらない！

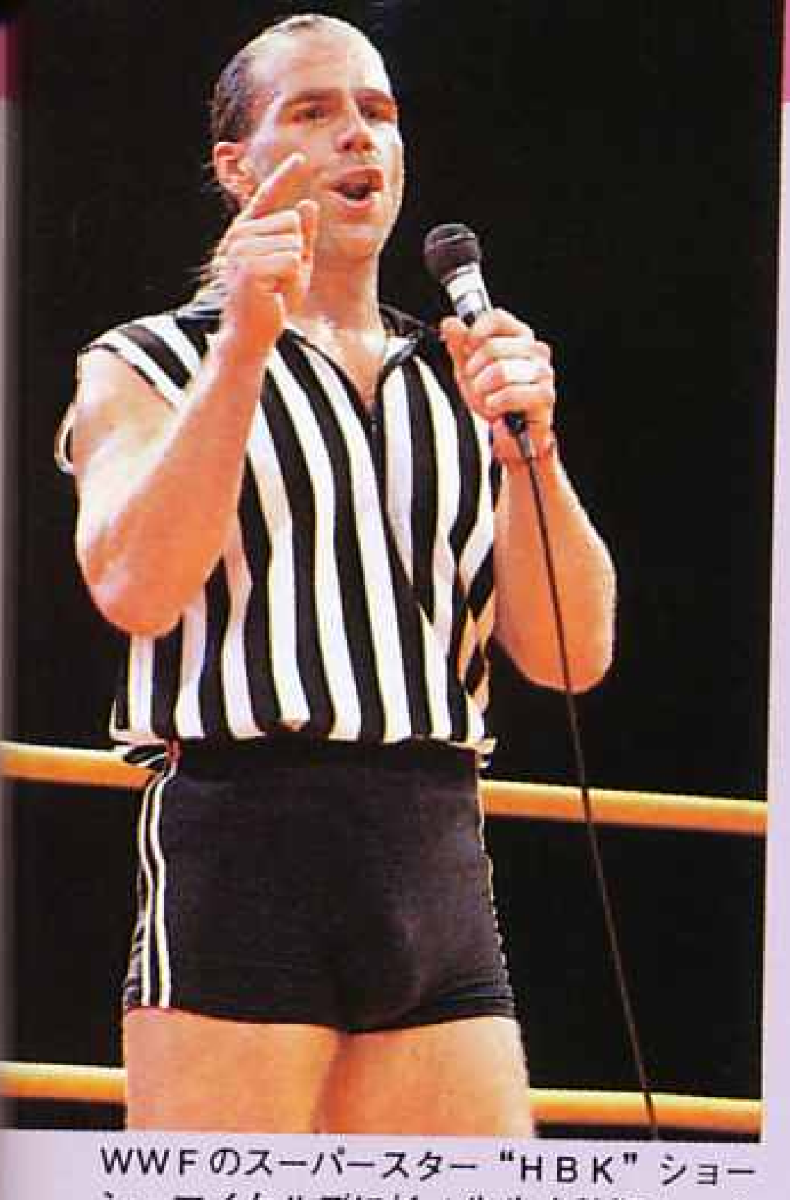
　たとえば、U系団体にいま現在起こっている地殻変動も、そのルーツはアルティメット（UFC）にある（バーリ・トゥードや柔術のルーツは日本だろうが）。なんだかんだ言っても、FMWのルーツはWWFに代表されるようなアメリカン・プロレスである。

　この日の興行を見る限り、いままでFMWが推し進めてきた、エログロな路線やストーリー仕立てのプロレスも日本で成功する土壌があることがボンヤリとだが見えた。この先はどう転がるか見えないが、この先を確実に見ていたいと思わせた。では、どんな内容だったのか、次ページから始まる杉作J太郎先生のレポートを読んで男魂をゆさぶられてしまえ!!

11・23横浜アリーナは壮絶なアホ絵巻だった

文／杉作J太郎

今回の横浜アリーナ大会には、レスラーもスタッフももちろん観客にも並々ならぬ思い入れがあった。本誌でコラムを好評連載中の杉作J太郎さんも放送開始以来、ずっと解説席に座ってきただけに感慨もひとしおだったようだ。しかも、野次る観客をナマ放送中に怒鳴りつけるという、エンターテイメント・レスリング確立記念日に相応しい快挙まで成し遂げた。そんなJさんが内側（番組製作側）から見た横浜アリーナ大会を書き尽くします！



WWFのスーパースター"HBK"ショーン・マイケルズに杉J先生も熱狂！　今大会を象徴する本物のエンターテイメント・プロレスラーだった

いや〜、ついに終わりましたなあ。横浜アリーナ。おもしろかったですねえ〜ってそんな感想じゃダメ？　ダメでしょうなあ。文字スペースはまだまだたくさんありますからなあ。ま、疲れましたね。これでもダメか。

でもホント疲れましたよね。レスラー、スタッフ、もーホント全員、倒れ込みそーになりながらの横アリですよ。当日の試合終了後、全員、生きていたのが不思議というよりも、改めて人類の生命力の強さを思い知らされましたね、ホント。動物なんかだと子供産んですぐ死んでしまうのとかいますけどね。植物なんかだと死ぬときがおしべとめしべの交配時だったりするのもあるんじゃないのか、よくわからんが。

今まで日本人には適さない、不毛であると言われてきたアメプロチックなエンターテイメントプロレス。これをこれをここまで成功さられればハイ、これでおしまい。死んでもしょうがないよーな。それほど険しい山に登っていたよーな気がするんですけどね、この半年。

いろんなことがありすぎて思い出すのも大変ですが、若菜瀬奈ちゃんの登場、そしてプロレスデビュー。市原選手と邪道選手の瀬奈ちゃん争奪戦。大矢さんの植毛命令＆ハゲ変身。演歌の超新星・谷本知美ちゃんの登場。非道選手の若菜瀬奈獲得宣言。冬木さんのコミッショナー就任にともなうルール変更やシステム改革。田中選手のリストラ。リッキーさんの本格的ロックンローラー始動。おばけ屋敷に出現した謎の大巨人。荒井さんとリッキーさんの確執が発展した社長vs従業員マッチ。さよならハヤブサシリーズ。さよなら札幌中島体育館のハヤブサフルチン大騒動……まだまだ続くよ！　雁之介選手のハヤブサ襲名。そしてセルAV出演。ハヤブサじゃなくなった江崎英二選手のニューキャラクターH。チョコボール向井クンのレスラーデビュー。TNRは荒井さんにマット上で放尿刑。非道選手の格闘家転身。ウィリー・ウィリアムス先生の登場と愛弟子バスカの襲来。H選手とハヤブサ選手の肛門爆破マッチ。外道選手の瀬奈ちゃん内臓破裂未遂事件。H選手とハヤブサ選手の大乱闘で大破した1000万円の中継カメラ。ハヤブサ選手に投げ飛ばされた『週刊プロレス』須山記者。H選手に鉄パイプ椅子の上にボディプレスされた俺。博多スターレーンでは荒井さんの腕が折られて大流血。丹古母鬼馬二さんの参戦。そして横アリではショーン・マイケルズの登場と、冬木さん追放、H選手と雁之介選手の友情復活。ま、きっと書き漏れもあるかとは思うが、これでもかこれでもかとビックリ仰天のドラマが展開されてましたなあ。

横アリ当日。生放送をお届けする放送席に座ってましたらそれらのすべてがガボッとカタマリになって思い出されてきましてな。ああ、そのすべてが今、結実しようとしている……そう思ったら涙が次から次へと沸いてきまして。言ってしまってもいいでしょうね。当日の朝、荒井さんもなにかのはずみに、全然泣くよーな状況の場所じゃなかったんですけど、気が付いたら声が震えて泣いているんですよね。誰もそれには突っ込みませんでしたけど、気持ちは同じだった。

マスコミだけじゃなく、ファンのみなさんからもずいぶん攻撃されましたしね。印象としてはボロクソ言われた気がします。ここまでボロクソ言われてど〜するよ？　堪忍袋の緒が切れるとはこのことだが、グッとグッとグッと。グッとこらえて誰が登れと命令したわけでもない、登らねばならない明確な理由があるわけでもない、登ったところで誰かが褒めてくれるわけでもない、そんな道のない山道を登り続けてきたのでありますから。たしかにFMW十周年記念大会という意味も大きいが、この横アリはそれ以上の大きさを持つ大会だったのであります。そこへ必死で走って走って駆け込んできて倒れ込んだ。そんな横アリでしたね。

俺と一緒にディレクの放送をやってる斉藤充アナウンサーも、本業がアナウンサーってわけじゃないですからね。本業はJCTVの放送デ

←PLAY BACK 11.23 BOUTS

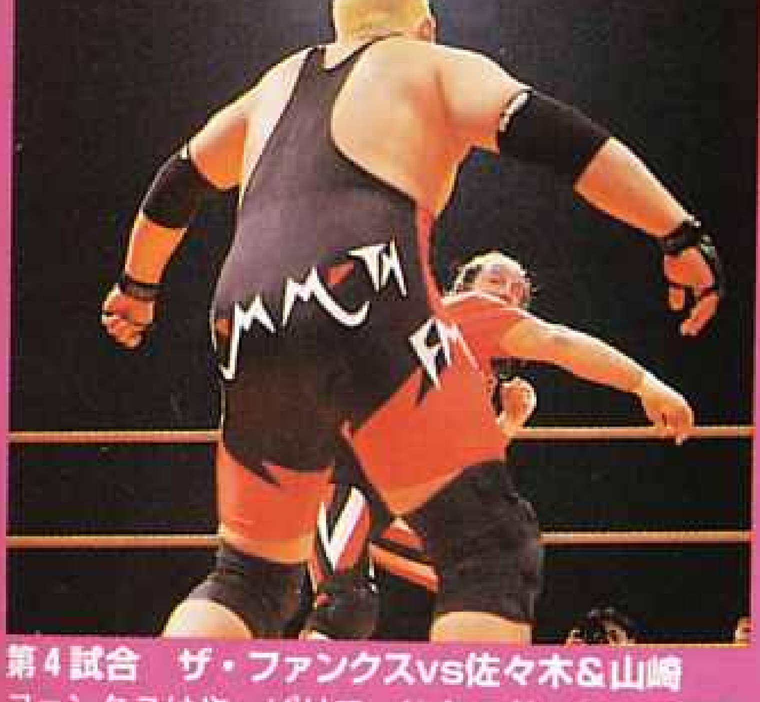
文／杉作J太郎



第1試合　邪道＆外道＆中川with荒井薫子vsR・フジ＆F・市原＆チョコボール向井with若菜瀬奈
性器の祭典……とまではいかぬが、お色気度200％増量の華やかな試合で歴史に残るビッグイベントはスタートした。試合内容の素晴らしさはモチロンだが、若菜瀬奈ちゃんと荒井薫子ちゃんの肉弾戦は欽ドン賞決定！



第3試合　ウィリー・ウィリアムスvs非道
中山、元川、モンゴル、ホサカ（WWF）、ジャズ（ECW）のスリル満点の変則タッグの後は、御大ウィリー登場。女房をアッと言わせたい一心で命懸けの試合に挑んだ非道だがそれも惚れた心の裏返し。ごっつあんです！

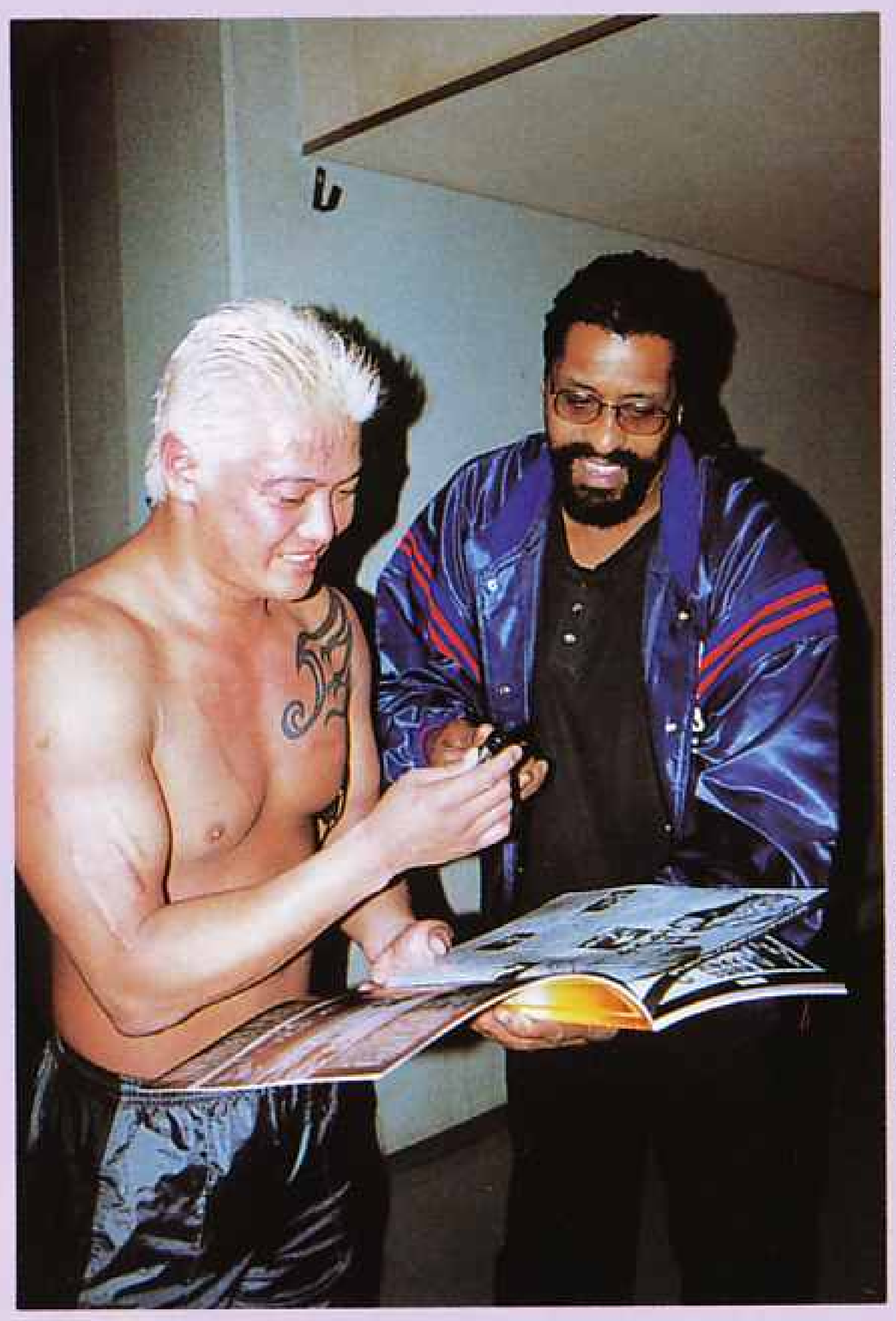


第4試合　ザ・ファンクスvs佐々木＆山崎
ファンクスはやっぱりファンクスだった！　超獣ブロディの遺品が見守る中、展開されたプロレスの神髄神髄また神髄。この日肉体で獲得したであろう全ての記憶を佐々木＆山崎が次の時代に伝えていく……大ロマンだよ！

ィレクターですからね。横アリ当日。生放送開始の寸前まで、当日設置されてた2台の巨大スクリーン。そこで流れるVTR素材を完成させて一睡もせずに到着した横アリ。俺と斉藤さんは放送の中でいつもは激しいけなしあいバトルを展開してるんですが、「これから1時間だけ車の中で寝てきます」そう言って歩いていく後ろ姿を見て、今日は突っ込めるかな……不安を覚えたのを記憶していますが、実際、突っ込む元気は俺にも残っていなかった。俺は2時間寝てましたけどもね。

ちなみにショーン・マイケルズ登場に興奮したリッキーさんも一睡もしてませんでしたけどね。なんてたって入場曲もソックリならばTシャツのハートマークもソックリで、もちろんそれは大好きだからなんですけどね。ただ権利問題には人間の情の部分を越えてシビアでしょ、アメリカは。とくにWWFですからね。リッキーさんが肖像権の侵害で告訴されて億単位の負債を抱え込むことにもなりかねないわけで、というのも決して冗談じゃない。ま、それが不安でリッキーさん、眠れなかったわけではないんですけどね。あくまでも夢にまでみた憧れの人に会えるからなんですが。こぼれ話になりますが、かなりおもしろい光景だったので書いておきますか。当日、横アリのバックステージで、セカンド・インパクトが起きてしまったんですよ。エヴァンゲリオンですね。出会ってはいけないものが出会ったら大変なことが起きてしまうという。ショーン・マイケルズが廊下で立ち話してるところへリッキーさんがやってきた。最初は普通に挨拶してたリッキーさん。次第にのってきちゃったんですなあ。徐々に、ショーン・マイケルズの大ファンであるということを小出し小出しにしはじめた。これはヤバイぞと思った次の瞬間。リッキーさんが見せたのはショーン・マイケルズの決めポーズだった。ビックリ仰天して目を大きく見開いたショーン・マイケルズの顔ったらなかったですよ。自分のももをあげてそこをビシッと叩きましてな。怒りのポージングですよ。そして次に見せたのはこまわりくんの死刑ポーズ。もちろん本気で怒ってるわけではありませんが、スリル満点の場面でしたな。ちなみにH選手とハヤブサ選手の試合で見せたショーン・マイケルズのスイート・チン・ミュージック。そのイントロ部分の足踏み。全試合終了後、これをナマで見たリッキーさんが早速それをマスターしたと見えてそっくりそのままやってみせてくれた。

誤解を恐れずに言おうか。アホですよ。リッキーさんだけじゃない。見た人にはわかるだろうが、全員アホ。大一番の日に口ゲンカして、ふたりまとめて追放だとショーン・マイケルズに怒られた荒井さんと冬木さんもアホ。六本木のビルの上でフルチンになったVTR撮影中に警察が出動した金村さんもアホ。ファンクス、レイヴェン、ドリーマー、マホーニー……もう誰がどうだかということではない、壮絶なアホ絵巻。生放送中に観客が「レフリー変えろ！」とショーン・マイケルズを攻撃したもんだから我慢の限界の限界がブチッと切れて大暴れしてしまった俺の場合はアホを越えて情けないが、泣いて笑って怒ってまた泣いて。世に存在するすべての感情が渦となり、とにかくひとつのかたちとなった横アリ大会。お疲れ様でした。


これだけの大物が集うと、バックステージもお祭り状態。いちばん精力的だったのは、なぜかウィリーだった。Hを見つけると「お前の飛び技は凄い」と褒めまくり、ゴキゲンでサインをねだっていた

冬木またもや暴挙!!

本誌関取に放尿!!

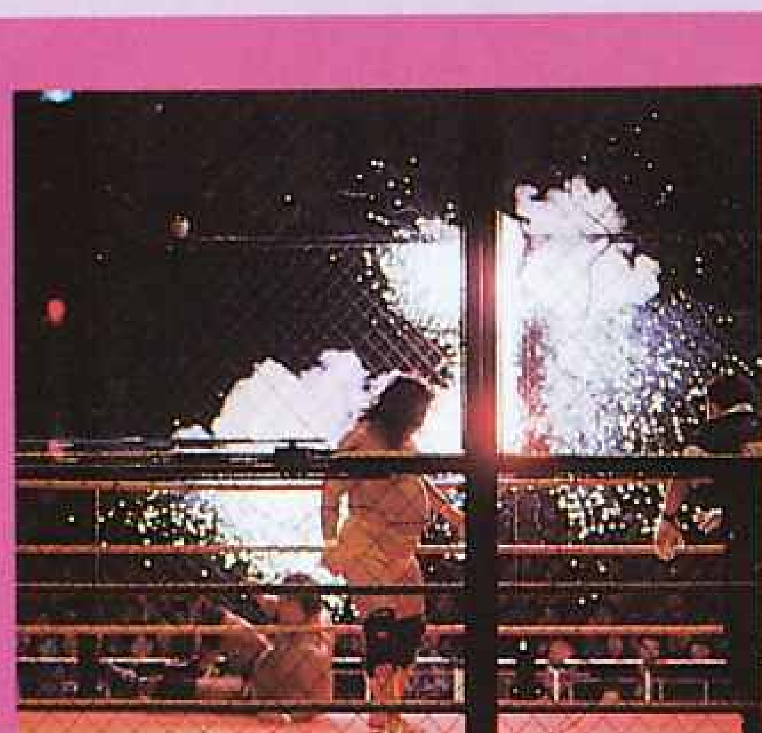
大会当日、本誌関取は冬木からプレゼント用のチケットをごっつあん。さらに「オシッコも、ごっつあんです」とお願いしたのだが、冬木は気味悪がって、さすがに拒否。前号で告知してしまった手前、引き下がれなくなった本誌関取は最後の手段で土下座を始める。すると、冬木は「そんなに欲しけりゃお前が当選者だ！」と冷たく言い放つと、いきなり放尿！ かくして、オシッコ当選者は、神奈川県のスモーノブさんただ一人となりました。


チケットを10枚も提供してくれた太っ腹なFMW（というか冬木）。こんな素晴らしい大会をタダで見た当選者は幸せだ


「やだよ！」と土壇場で冬木は尿プレを拒否。その前でオムツ姿のモヒカン男がしつこく食い下がる。


荒井社長公開放尿処刑の悪夢が再び蘇った！ 人気のない倉庫で起こった惨劇に、現場の空気は凍り付いた。まさかここまで理不尽な仕打ちがこようとは、誰が想像しただろうか？ この数時間後、冬木は廃品回収車で夢の島へ——。


第8試合　Hvsハヤブサ
雁之助の金的、イス攻撃がショーン・マイケルズに炸裂。信じられない光景に誰もが大きく目を見開いた目……その目が、目が、目が！ ガッチリ目撃したのは江崎、雁之助の10年戦争。その完全なるフィナーレだった！


第7試合　冬木vs田中
超高圧電流の待つ恐怖リングに向かうふたりの表情を見て、この試合は中止させるべきではないかとも思ったが、終わってみれば冬木追放のハッピーエンド。それでも頬を涙が流れるのはなぜ？ さようなら、冬木さん。


第6試合　ドリーマー&レイヴェンwithフランシーンvs黒田&大矢with谷本知美
試合中にマ×コを握ってる間にくっついたドリーマー&フランシーンと大型不良外人レイヴェンが登場。黒田の地獄車がレイヴェンに炸裂！ 大矢は股間に金髪美女を……。


第5試合　金村with丹古母鬼馬二vsマホーニー
「僕のマネージャーの若菜瀬奈ちゃんです」金村の紹介で登場した瀬奈ちゃんは丹古母鬼馬二だった！ 日米を代表する危険な野郎の激突は鬼馬二を巻き込んで高級乗用車クラウンをも大破。ラストの死のダイブも圧巻！

なぜだ!?

サスケ懺悔!!

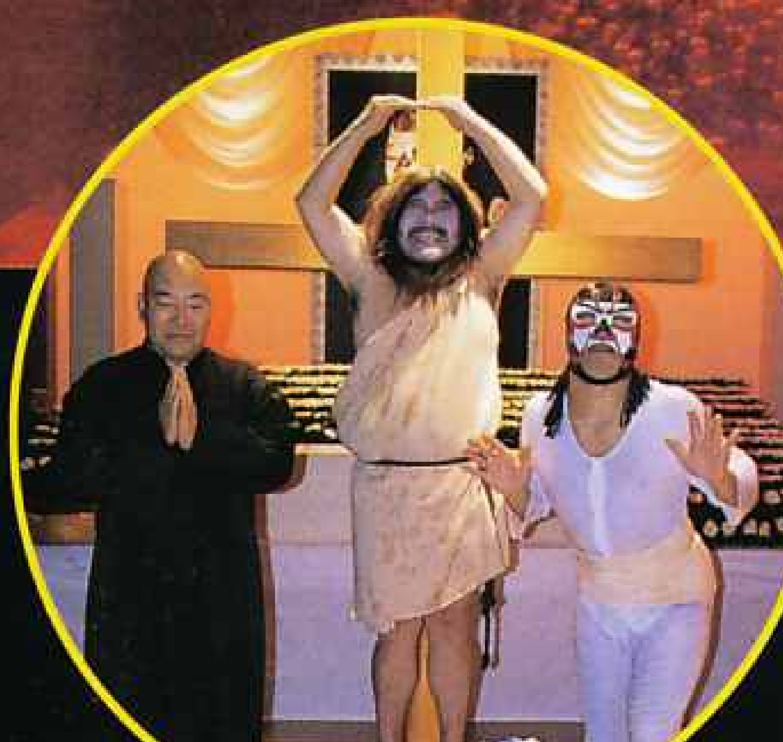




サスケ死す！　この衝撃の事件から早2ヶ月が過ぎようとしている。もちろん、サスケ社長がピンピンしていることは、周知の事実。大仁田風に解釈すれば、サスケ社長からの『謎かけ』である。そして、今月はサスケ懺悔!! これは一体どーいうこと!?

サスケ社長と言えば、かなり頭がヤラレまくっていることで有名である。（これも周知の事実）神の啓示を受けてレスラーになり、あっという間に10年の月日が流れた。「2000年まであと少し黙ってオレについて来い！」とリング上で絶叫していたのに、いきなりなぜか銃殺されることになる。そしてしめやか？ に都内某所にてお葬式も行われた。ちなみに、参列していたサスケ・ザ・グレートによると、その日の午前3時頃、彼のもとに1本の電話が入りました。「サスケ社長がお亡くなりになりましたので……」という風な内容だったという。彼は「あれだけ頭を打てば、死ぬよなぁ」と涙を流し葬儀場へ向かったそうだ。（実話）だが、それがフリーメーソンの陰謀ではなく、サスケ社長の陰謀であったことということに気づくまでにはかなり時間がかかったようだ。

一方、死んでしまったサスケ社長は、棺桶の中で走馬灯のように自身のレスラー生活を振り返り、「オレってスーダラ過ぎる……」と思ったかどうかはわからないが、サスケスペシャルを放って失敗した時のように記憶喪失に陥った。そして、気がつくとそこは、『オレたちひょうきん族』でお馴染みの懺悔室になっていたという。それを、再び神の啓示だと考え、今まで自分が犯した数々の珍事を懺悔しようと心に決めた。だが、目の前には、本物のブッチー武者となぜか山本小鉄神父の姿が……。そこでひたすらサスケ社長は祈り続けることとなった！　どうなるサスケ!?　その全貌はザ・グレート・サスケ10周年記念ビデオ【エピソード・3】で明らかになる！



最後にはマルをいただきました



プロレスラーは、芸人なんだよ！ということは、オレの芸人10周年記念ビデオ!?

【番外編タマリンのサスケ珍獣日記】

10月11日『サスケ死す！』という号外が流れた日。ワタシは、なぜか心が踊った。それは、サスケ社長のデスマスク写真を撮る唯一のカメラマンとして、呼ばれたからである。早速、地図を片手に葬儀場に到着すると「いや～、タマリンちゃんよく来てくれたねぇ～」と死体姿の幽霊社長が出迎えてくれた。なぜだ!?　そして、サスケ社長から約1時間に渡り、事情説明を受けすっかりサスケ組の仲間入りをした。サスケ社長は、『ガハハハ！　私は、本当に死んだのよ。でもね、みんな信用してくれないの！　だから、このビデオを見てよ！　大傑作だよ！』とのこと。とにかく異常なまでの自信をもつサスケDEATH社長に屈服である。（ちなみにビデオは絶賛発売中だ!!）



12・22DDT後楽園ではリングスファンも満足させるような20世紀の総決算の試合を見せてやりますよ！

『闘う連続ドラマ』これが現在DDTが掲げている団体のキャッチフレーズである。そのキャッチ通り、DDTでは「ガシャーン！ ファイヤー!!」とストーンコールドポーズを決める高木三四郎を筆頭に、WWF直系のエンターテイメント路線を突き進んでいる。しかしWWFを模倣するだけでは本場には到底かなわない。ならばDDTはアメプロ＋格闘系プロレスで勝負だ！ そこでガチンコからエンターテイメントまで柔軟にこなす男・木村浩一郎の話を聞いてみた！



木村浩一郎 [DDT]

聞き手／チョロ
interview by Choro
撮影／黒田史夫
photographs by Fumio Kurada



DDTはIQ180のオレ様にまかせろ！
ミュ～ジック、スタ～ト!!



Uスタイルが見たいんだったら

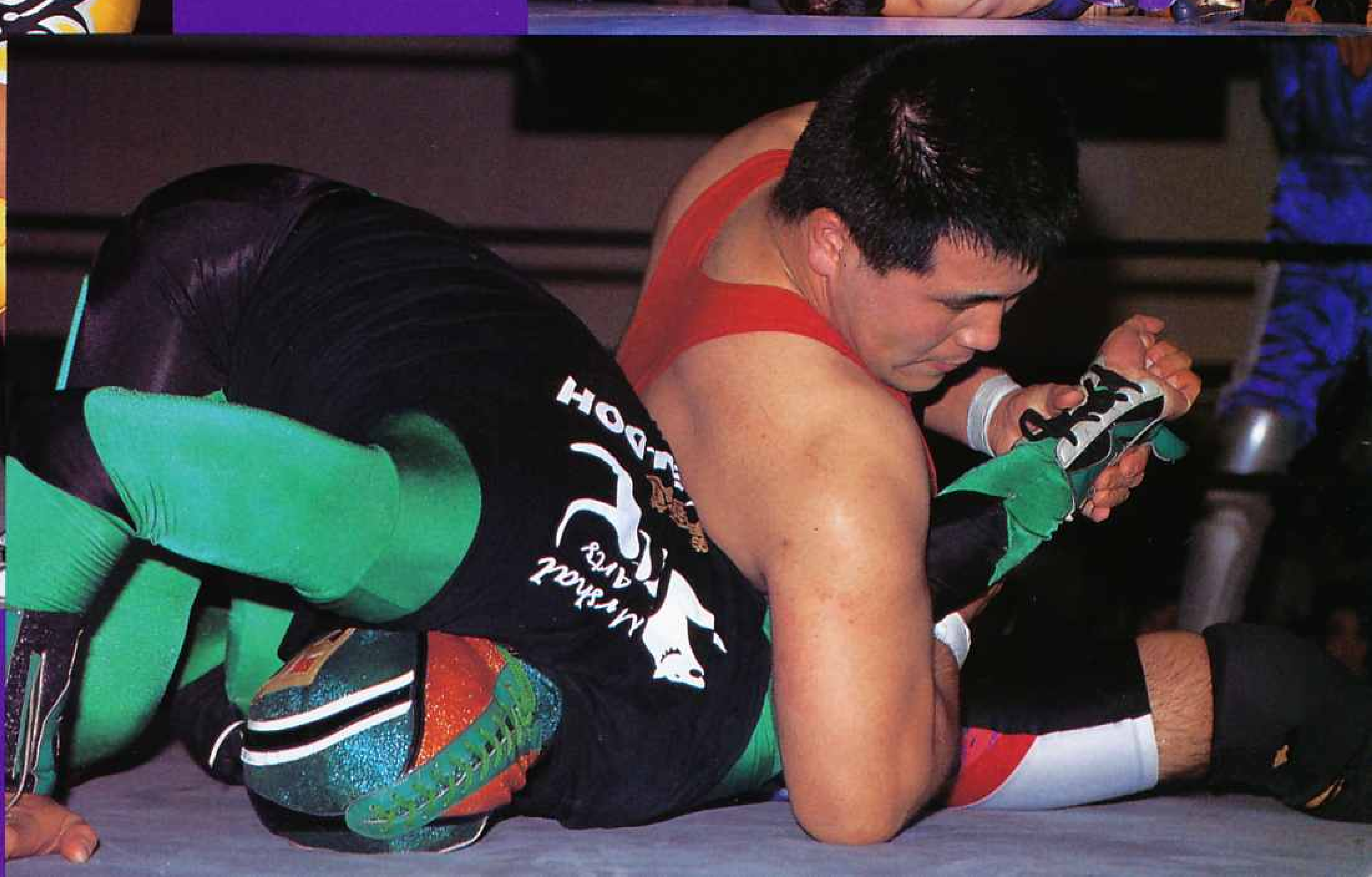
――木村さんとも ゆかりの深い前田日明さんが安生（洋二）さんに殴られるっていう事件が起こったんですけど？
木村　最初聞いたときはプロレス的なことかなって思ったんですよ。でも、次の日新聞とか見たらいろいろ出てるから、「ホントなんだぁ」って思って。ただ、やられたからやり返すっていうのは、ちょっとどうかなと思いますけどね。
――でも「やられたらやり返す」っていう言葉だけ取ってみたら、プロレスラーとしては当たり前のことですよね（笑）。
木村　当たり前ですけど、逆を言えば一般人がやったら、その場で警察に連れていかれるわけですから、あの場はプロレスラーだから許されちゃってる部分もあると思うんですよね。その辺の道徳的なものがちょっと安生選手は良くないんじゃないかと思いますね。まあでも、確かにひどいことやったけど、一概に安生選手ばっかり責めていいのかなぁっていうのもありますよね。背後からやったのはいけないことですけど、人間は堪忍袋の尾が切れたら何するかわかんないですからねぇ。だから事件というのは起きるんだから。
――それで、その事件があったから飛んじゃいましたけど、その前にヤマケンさんの「田村潔司、真剣勝負でやってくれ！」という爆弾発言が飛びだしたんですよ。
木村（呆れて）アレもねぇ。だから、田村選手に対してそういうことを言うのは勝手ですけど、とりあえず彼もプロレスをやってきたわけでしょ？　それをいまさら否定して、「真剣勝負をやりましょう」って、それはおかしな話だからね。
――ヤマケンさんが言うには、「時代が求めてるのは真剣勝負だ」ということなんですけど。それについてはどう思います？
木村　オレの中では基本的には「真剣勝負は面白くない」っていうのがありますから。やってる選手はもちろん凄いプレッシャーの中でやったり、背負ってるモノもでかいけど、でも、客を入れてチケット売って見せるという立場におけば、それがいろんなスポーツの中で成立するかって言ったら、オレはしないと思うんだよね。やっぱりバーリ・トゥードなんか、ヘタうちゃ抱き合って15分、20分っていくわけだから。
――常に面白い試合を見せてくれる桜庭（和志）選手とか、ああいう選手が何人もいれば、ファンも満足するわけですけどね。
木村　そうッスね。結局、「お前、オレと真剣勝負でやれ！」って言ったって、田村選手と、山本選手の背負ってるモノが違うわけだし。じゃあ逆に言えばね、山本選手が、パンクラスの選手、その他のプロレス団体の選手に対して「真剣勝負やって下さい」って言えるかって、それは言わないわけじゃない。それがもうおかしなことで。田村選手が「真剣勝負の世界を作ろう」とか何だかんだと言っておきながら、「またプロレスの世界に戻りやがって！」っていうのがあるんでしょうけど。で～も、裏切るのがこの業界では当たり前だからね。逆に言えば、それぐらいの感情持たないとやっていけない商売だと思うんですけどね。
――田村選手のようにチャンピオンは、団体の顔でもあるわけだから、ファイターとしてだけではなく、会社全体、業界全体のことを考えて欲しいということを、ヤマケンさんは言ってるんですよ。
木村　山本選手は、彼なりのポリシー持って業界というか底辺を拡大したりしていきたいっていう野望は持ってるみたいだから、別に否定はしないけど、だから山本選手のこういう発言が、例えばエンセン井上選手だったら、みんなも「ああ」と思うかもしれないけどね。エンセンがプロレスを否定したとして、「いろんな選手と真剣勝負やりたいヨ！」って言うんだったら、彼は真剣勝負しかやってこなかった人間だから、それはオレは凄いと思うんですよ。あとは受け





怒涛の強さで対戦相手はおろか観客まで震え上がらせている浩一郎。涼しい顔して相手の攻撃を受けたかと思うと、一転して反撃に移ると顔面といい背中といい関節といい容赦ない打撃とサブミッションを畳み掛けてくる。

製圏道（11.5横浜文体）に初登場の木村。対戦相手は現在フリーファイトにも挑戦中の力王（元全日本キック）。打撃をもらいながらも危なげなく勝利した木村は試合後お得意のマイクでＤＤＴと翌日の長井戦をアピール。



「オレとライダーが試合をすれば、それはＵスタイルになる」との木村の言葉通り、木村とライダー（修斗初代ウェルター級チャンピオン）の絡みは、クルクル回るハイレベルなグラウンドの攻防と激しい打撃が交差する試合となる。

すけど。一方で田村さんはUスタイルは守っていかなきゃいけないって言ってるんです
てなかったから（苦笑）、それは成し遂げなかったけどね。いま小川（直也）選手なん
…「PRIDE」での試合も「あれもプ

は面白くない」っていうのがありますから。やってる選手はもちろん凄いプレッシャー

負しかやってこなかった人間だから、それはオレは凄いと思うんですよ。あとは受け

Uスタイルが見たいんだったらプロレスを見ればいいんじゃないの？

手の方が「オレはエンセンには勝てないから」とか「オレはプロレスラーだから」って言ってればいいわけだからね。そういうことだと思うんですけど、基本的にプロレスをやった人間がそういうことを言うのはどうかなぁって思うんですよ。やっぱり桜庭選手とかアレクサンダー大塚選手みたいに、プロレスと格闘技でも線で結んでやってる人は「凄いなぁ」と思いますからね。だから逆に言えば山本選手はプロでガンガンやってきた選手で、かたや今回のトーナメントの相手は今回初めて聞くような選手なわけだから、すんなり勝ってでかいこと言えば「ヤマケン強くなったね。じゃあ田村選手とやったらどうなるんだろう」ってみんな思うけど、逆に「田村選手とやれるだけの力があるのか？ ホントに田村選手と真剣勝負でやってもヤマケン勝てないだろ」って思ってるのが事実だと思うんですよ。

——ヤマケンさんは、今回の相手は「みんな強い選手だった」って言ってて、そういうことを言うんだったら、「同じ土俵に上がって来い」って言ってるんですけど、木村さんどうですか？ 逆に「山本喧一、俺と真剣勝負して下さい！」とか（笑）。

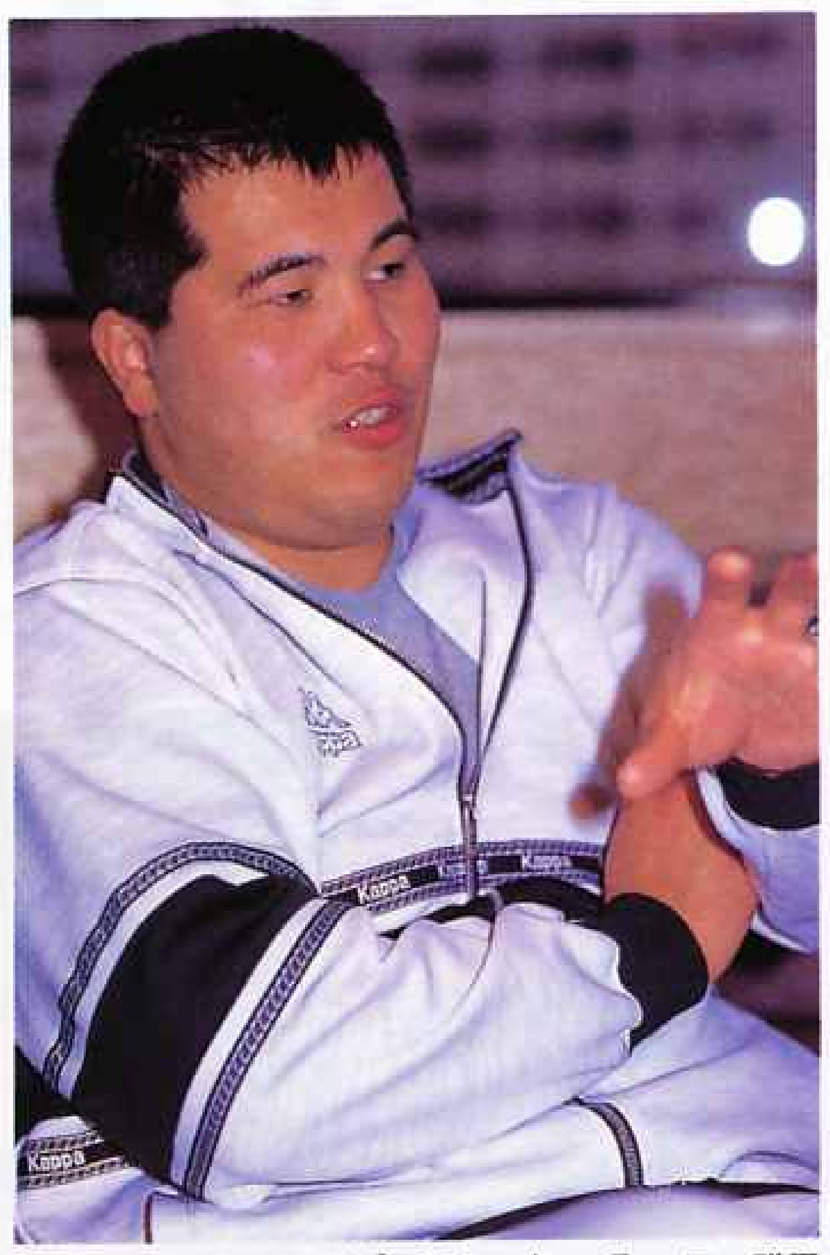
木村 ハハハハ！ 別にいいッスけどね（笑）。ホントにオレもやろうと思えばね、体作り直して、DDT辞めてでも出ますよ。自分も格闘技はもう一回か二回やるってあちこちで言ってますからね（笑）。

——だいぶ前から言ってますけど、いまのままじゃ言うだけ番長になっちゃいますよ（笑）。そろそろやりましょうよ！

木村 もうそろそろいこうかなって思ってるんですけどね。もう30ですから、ホントにラストチャンスですよ。でも、自分もガチンコの世界で生きてましたけど、やっぱりプロレスラーって負けたら全て失っちゃうでしょ？ プロレスの試合で負けたって、「次、頑張んなさいよ」って見方をしてくれるけど、格闘技の世界って負けたら、「あんた弱いよね」って言われるじゃない。だからもう、その差ですよ。歴然としてますよ。ヒクソンが金、金言うのは、あの人は異常だけど（笑）、わかるような気はしますよ。だって、負けたら失っちゃうんですから。

——そういう意味ではヒクソンはプロレスラーと一緒ですよね（笑）。

木村 プロレスの場合は負けてもね、生活は保障されてるわけだし（笑）。だからその辺の割り切りですよ。だから山本選手の発言にしたって、田村選手にすれば、「もっともっと名前を売って時期が来たらやりましょう」ぐらいの気持ちだと思うんですよね。でも業界も悪いところは、みんなUWFだけが真剣勝負だって思ってたわけだよね。オレらの年代のファンは特に。でも極論を言えばUが一番簡単なプロレスだったわけだよね。結局、あれはスパーリングだからね。



【きむら・こういちろう】昭和44年11月18日、群馬県館林市出身。高校時代はアマレスで活躍（同期は折原昌夫）。SAW3連覇。FMWでプロレスデビューすると、W★ING〜リングス〜新格闘プロ〜西日本と渡り歩き、現在はDDTの鬼軍曹として目を光らせている。ヒクソン・グレイシーと闘った数少ない日本人レスラーの1人でもある。

Koichiro Kimura

——前田襲撃事件があって、ヤマケンさんの爆弾発言があって、パンクラスも来年からグローブを付けて、Uスタイルから離れちゃうんで、UWF終焉なんて言われてますけど。一方で田村さんはUスタイルは守っていかなきゃいけないって言ってるんですが、木村さんは、Uスタイルはこれからどうなっていくと思います？

木村 だから、Uスタイルはプロレス見ればいいんじゃないの？ 例えば、オレと（仮面シューター・スーパー）ライダーが試合をすれば、それはUスタイルになるだろうし、Uスタイルってのはプロレスの言葉でしょ？ でもプロレスラーって一番、難しいッスよ（苦笑）。言っちゃいけないことが山ほどあるから。

——山ほどあるんでしょうね（笑）。

木村 バカなファンは、「プロレスは八百長だろ」って言うじゃないスか。そういうのと一緒で、プロレスラーが「真剣勝負やりましょう」って言うのは、八百長って言ってるように聞こえるでしょ。だから、山本選手に言えることは、言葉の選び方を勉強しろと、あとは一回プロレスに染まっておいて、なに今さら否定的なこと言ってんだってことですよ。一回もプロレスやってなくて真剣勝負しかやってない人間が、プロレスを否定するのは、それはいっくらでもいいと思うんですよ。そういう人間がプロレスを否定したって、「お前、ロープ飛んでみろよ！ 受け身とってみろよ！」ってプロレスラーは言えますからね（笑）。

——プロレスかと格闘技を行ったり来たりできるっていう選手が、木村さんにとっては理想形になるんですか？

木村 自分もそれを目指してたわけなんだけど、でもやっぱり自分は弱かったし、勝てなかったから（苦笑）、それは成し遂げなかったけどね。いま小川（直也）選手なんかも、『PRIDE』での試合も「あれもプロレスです」って言い切るわけでしょ。ホントそういう姿勢が一番いいですよ。だから山本選手も、「あなたは格闘技で名前を上げたわけじゃないでしょ？ あなたはプロレスをやっててここまで名前を上げたんだから、プロレスに感謝しなさいよ」ってことですよね。自分もプロレスをやってたから、ちょっと名前が上がってヒクソンとできて、またちょっと名前が上がって、またプロレスに帰って、インディーでやってますから、別に両方好きだしね。

——木村さんは頭堅そうに見えますけど、実に柔軟ですからね（笑）。

木村 割り切ってやってるからね。桜庭さんなんかは一緒に考えるんだろうけど。オレはやっぱり別もんと考えてるから、ただ別もんをうまく行き来できれば、いいかなぁって思ってるんだけどね。

——話は変わって、木村さん自身の団体の話に入りますけど、現在のDDTの満足度は何%ぐらいになりますか？

木村 う〜ん、8%ぐらいかな（笑）。

——そんな低いんですか（笑）。いまのDDTの主流となっているエンターテイメント路線は本意ではないと？

木村 どうなんスかねぇ。

——DDTとFMWは方向性が似ているようで、違いますからね。

木村 FMWにあってウチにないのは？

——やっぱりお金ですかね（笑）。

木村 だよねぇ（笑）。でも、向こうになくてウチにあるのは、みんなが「あっ、ホントかな？」って思ってくれるところが何ヶ所かあることですよ。ようはリアリティーの部分ですよね。例えばこの間、オレが「もうDDTには出ない！」ってキレたときとか、「おいおいマジかよ？」って声がほとんどでしたから。



──ボクもさっぱりわからなかったです。

木村　わかんなかったでしょ？　でもやってる人間にすれば、「あれもプロレスだよ」ってなりますからね。

──例えば、冬木（弘道）さんは、「なにも考えないで頭を空っぽにして見てくれ！」って言ってますよね。

木村　ただそれが、ホントに万人の客がわかりやすいかと言ったら、目を背けたくなるような、例えば肛門爆破とか、AV女優とか使ってますよね。ああいうのは、どうかなぁって思いますよね。まあウチらも金があれば考えるかもしれないですけど（笑）。

──FMWよりは金はないのかもしれないですけど、ああいう路線で突き進むんだったら、よく言われるのは、WWFとかのアメプロと比べたらどう逆立ちしてもかなわないということですよね。

木村　だから、ウチも発想はWWFですけど、やっぱり金がないからアイディアっていう感じですよね。ウチは（高木）三四郎がIQ180とか言ってるけど（笑）、それで引っかきまわしてくれてるんでいいんじゃないですか。オレは俗に言うアメプロはあんまり好きじゃないからね。やれって言われたことを素直にやってるだけでね。ただやる以上は、みんなに「うわっ」って笑われないぐらいやらないとね。照れとかが見えたらそこでおしまいだから。やるんだったらもうなりきっちゃって、キャラクターに徹底しますよ。

──いまは亡きスーパー宇宙パワーも完璧でしたからね（笑）。

木村　（声を大にして）やりゃできるんだよ、オレだって！　やりゃオレが一番うまいんだよ！っていうぐらいの勢いでやってますからね（笑）。ただ、いまのDDTの現状は、ちょっとねぇ。さっきの話じゃないけど、オレは格闘技出身者だから、どうしたってそういった試合展開を望んでても、みんながそういうアメプロチックなプロレスに走りつつあるからね。

──馬場さんみたいに「みんながアメプロに走るんで格闘技を独占します」とも言ってられない状況なんですか？（笑）。

木村　まあでも三四郎なんかは理解してくれてるんで、だからオレも使い分けしていくからいいんじゃないですかね。

──DDTも全編エンターテイメント路線だったら、ちょっとキツイかなって思うんですよ。

木村　やっぱりそうだよね！

──ああいう路線の中に、木村さんや、タノムサク（鳥羽）さん、内藤（恒仁）さんのガチガチの試合があって、（アジアン・）クーガーさんのような、ジュニアの派手な試合があってこそ、連続ドラマ部分が引き立つと思うんですよ。

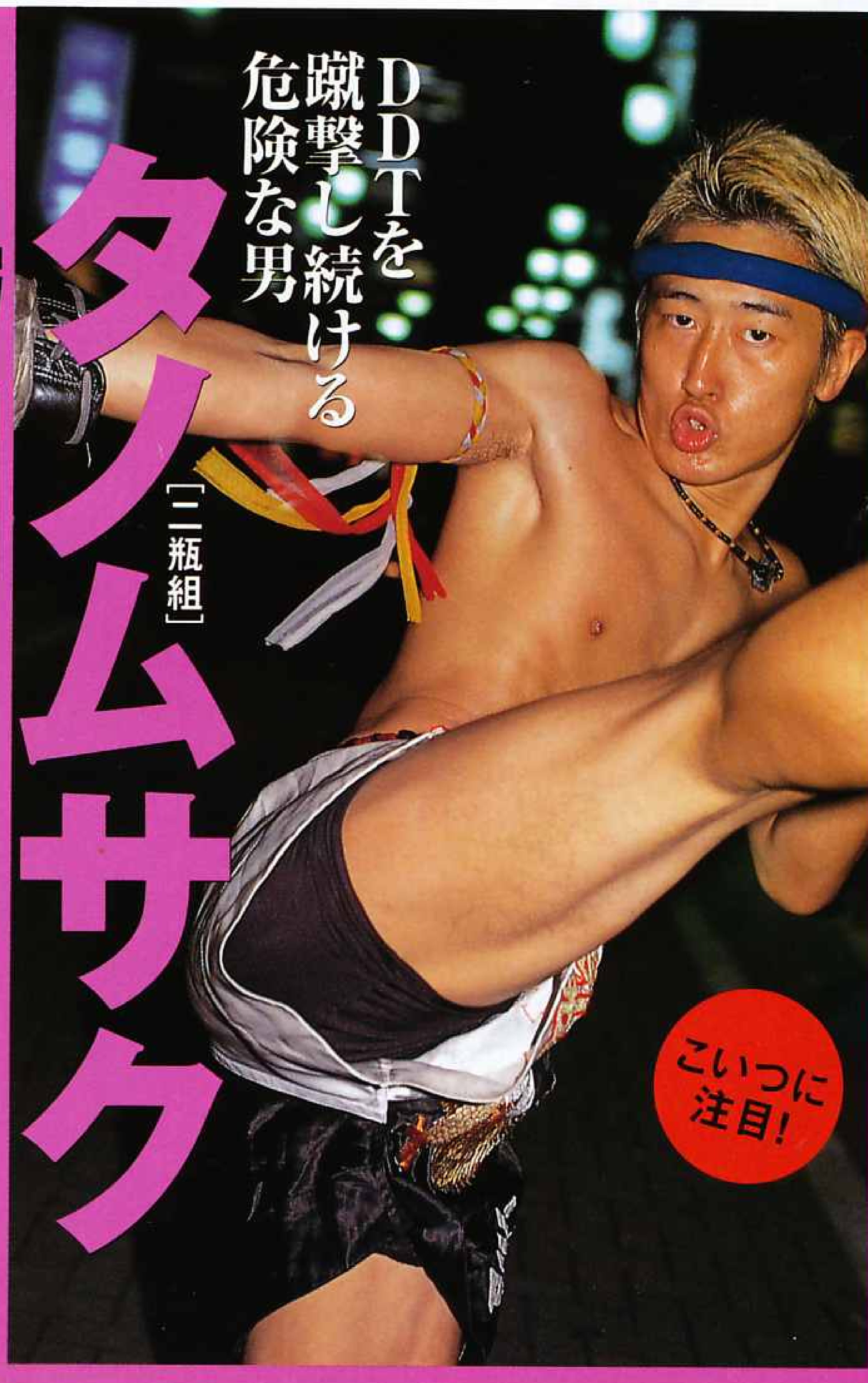
木村　だから、そういう試合をきっちりみんなもやってくれれば、ある程度レベルも落ちないと思うんだよね。それがあるから、DDTはいい調子だと思うんだけどね。でも、オレは周りが思ってるほど良くは思ってないんで。

──『連続ドラマ』ってくらいですから、一回見たら、「次も見たい」って思われるような興行にはなってると思うんですよ。当たり外れも大きいですけどね（笑）。

木村　当たり外れはあるよねぇ（笑）。

──でも、途中から見始めた人にも、わかりやすくアメプロ方式でビデオを使って親切に説明してますからね。

やるんだったらなりきってキャラクターに徹底しますよ！



DDTを蹴撃し続ける危険な男
タノムサク鳥羽［二瓶組］

蹴撃ファイター・タノムサク鳥羽！　この顔に見覚えのある人なら、その強烈な蹴撃っぷりと、豪快なやられっぷりがインパクトされていること間違いなしであろう。70キロあるかないかの体重ながら、世界最速といわれる打撃を引っ提げプロレスラーと互角に渡り合っているのだ。DDTマットでも大暴れのこの男。こいつに注目!!

──DDTマットでも大暴れしているタノムサク鳥羽選手とは何者なのか、ちょっと聞かせて下さい。

鳥羽　はい！

──タノムサクさんは、もともとプロレスファンだったんですか？

鳥羽　プロレスは好きでしたよ。三沢がマスクを脱いで、鶴田と天龍がやってた頃ぐらいからですね。ボクは全日派です、バリバリの！

──バリバリでしたか（笑）。

鳥羽　それで全日を見て、UWFをビデオで借りてみて、Uが分裂してからはリングスとか、実験リーグとかを見て、ちっちゃい人も出てたし、これなら俺もできるんじゃないかって思ってキックを始めたんですよ。それで格闘技をやり始めて、高校卒業して田舎では限界があるってことで、マッハ（桜井速人）と一緒に東京に出てきたんですよ。それでタイにも行ったりして、向こうでも試合しましたし。

──プロレスのリングに上がるのは抵抗はなかったんですか？　レスラーとの体格差はかなりありますけど。

鳥羽　逆にそれが目立てていいかなって思って。まあニールセンだとか、タイ人とかも藤原組とか上がってたじゃないですか。でもここまでちっちゃいヤツはいないだろってことで。まあボクは、目立てりゃいいです！

──確かにプロレスは目立ったもの勝ちってところがありますからね。

鳥羽　ですよね。キックの試合とかだと難しいんですよ。キックとか修斗系の試合に出る場合は、感情を殺しかないんですよ。練習してきたことを出そうとか、そればっかり考えちゃって自分が死ぬわけですよ。個人的にはプロレスのリングの方がやりたいことが思いっきり出来るっていうか、自分を出しやすいんで楽しいですね。キックだとやりたいことをやろうとしても……やろうとしたらしたら負けちゃうし。本当に強い人はやりたいことも出来るんだろうけど、そこまでボクはいかなかったし。むしろ、ボクはパフォーマンス先行型で！

──ヒャハハハ。自分で言う（笑）。あと、タノムサクさんは試合では投げっぱなしジャーマンとかガンガン喰らいまくってるんで「死んじゃうんじゃないか？」って見てる方がヒヤヒヤすることもあるんですけど。

──それが認知されて、北野武さんの息子の篤君もタノムサクさんのファン

鳥羽　その方が面白いですよね。

──他人事みたいですね（笑）。

凄いから！」とか言って。

──ヒャハハハ。試合後とかは、ボ～

木村　そうですね。だから新規の客もだいぶ増えてきてるみたいだしね。まあ、予告編とダイジェストを常にやるように心掛けてますからね。

——選手じゃなくて、一個人として見たら、いまのDDTは楽しめますか？

木村　いや、見たら面白いんじゃないの。見る側にとっては楽しいと思いますよ。ただ、作り手からしたら、こんなんでいいのかなってとこはありますね。所帯もでかくなって、興行も増えてきてるから、それはそれでいいんでしょうけど、個人的には、もうちょっと各選手にレベルアップしてもらいたいですよね。

——北沢タウンホールだと客席の異様なノリもあって目立ちませんけど、DDTの選手を他団体で見ると、正直言ってレスラーとして未熟な面も目に付くんですよ。

木村　だから、それはそのレベルに達してないのかもしれないですね。まあでも、所詮インディーですからね（笑）。

——それを言ったらおしまいです（笑）。

木村　そうなんスけどね（笑）。だから、DDTは、新日本、全日本に追い付け追い越せじゃないんで。DDTはDDTだけなんで、オリジナルのある闘い方と、オリジナルのあるレスラーになってくれればいいと思うんで。

——そういえば、一時期、木村さんは斉藤彰俊さんを探してましたけど、結局ダメだったんですか？

木村　そうなんスよ。連絡取れないことが判明したんで諦めました。いろいろ手は尽くしたんですけど、たぶんプロレスに疲れちゃったと思うんですよ。じゃあ、もうそっとしておいてあげようと思って。

——ダメだったとはいえ、彰俊さんを探していたのは、DDTとは別のプロジェクトでの話だったんですよね？

木村　そうですね。DDTとは全然別です。自分もいろいろと考えてますから。DDTはDDTで、ある程度流れはできたんで。まあ機会があれば、斉藤彰俊とのW★ING対決はやりたいですからね。

——徳田（光輝）さんも呼んでの格闘三兄弟揃い踏みは見たいですね（笑）。

木村　徳田は別にいいッスけどね（笑）。でもうまいね、引き出しが（笑）。そっちの話は喋るつもりなかったのに。

——ヒャハハハ。かなりのビッグプロジェクトと期待していいんですよね。

木村　そ〜んなビッグでもないですけど（笑）。もう動きますから（キッパリ）。でもそれ聞いたらホンット驚きますよ。

Koichiro Kimura

——それは、DDTで今やってるような『連続ドラマ』の一環じゃないんですよね？

木村　違います違います。支援者もいるんで、そういう人達と作っていきたいなぁという部分はあります。ただ別にそれは、新団体設立とか、DDT離脱とかじゃなくて、やれればいいかなぁみたいな感じなんで。まあ近いウチに面白い話が皆様にお伝えできるかと思います。（小声で）でもね、聞いたらビックリするよ！

——楽しみにしてます。でも今度の後楽園はリングスの大阪大会とぶつかってるんで、どっちに行くか迷ってるんですよ。

木村　あ〜、同じ日にリングスもあるんですよね。でも、後楽園は失敗したくないし、これを機会にステップアップしていきたいんで、まあリングスのファンも満足させるような試合をオレがするんで、20世紀総決算ぐらいの試合を見せてやりますよ！

【11月20日、金町文化ホールにて収録】





【写真上】リング上で号泣する木村。やるときゃやる男である。【写真右】取材当日は、6チーム参加のDDT6人タッグ・ファッションリーダートーナメントが行われ、並みいる強豪（おしゃれレスラー？）を破り優勝したのが高木組。この結果、99年プロレス界のファッションリーダーの称号が高木組に与えられた。仮面シューター・スーパーライダーのマントにW★INGTシャツでコーディネートしてきた木村に『紙プロ』からファッションリーダーの称号を与える。無問題！

鳥羽　その方が面白いですよね。

——他人事みたいですね（笑）。

鳥羽　ボクにとっては他人事なんですよ！　投げられてる瞬間とか、おいしいなとか思うんスよ（笑）。家で試合のビデオとか友達に見せるときも「これは笑えるぜ！　この落とし方なんか凄いから！」とか言って。

——ヒャハハハ。試合後とかは、ボ〜ッとしてることが多いですよね。

鳥羽　多いですねぇ。パンプドランカーとか、受け身ドランカーですかね。受け身取れないクセに頭ばっか打ってるから。まあ、昔からちょっとドランカー気味なんですけどね（笑）。

——ヒャハハハ。でもやられたら、倍返し以上の攻撃をしますからね。

鳥羽　やられたらやりかえさないとね。でも、ボクなんかプロレスの技術もないし体もないし、本当はプロレスをやっちゃいけない人なのに。

——技術はないながらも、打撃で充分対応できてるじゃないですか？

鳥羽　でもボクは、ムエタイチャンピオンでもないし、日本のベルトを巻いてるワケでもないですから。だから、なんとか気持ちっていうか、キャラクターを出せればいいのかなっていう。

——それが認知されて、北野武さんの息子の篤君もタノムサクさんのファンになったみたいですからね。

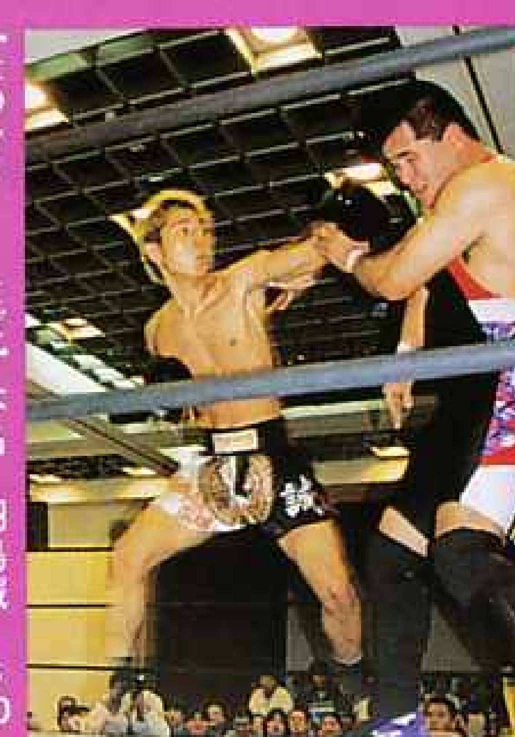
鳥羽　（しみじみと）ありがたい。

——自分の魅力を一言で語るとしたらなんでしょうか？

鳥羽　等身大のヒーロー（笑）。それか、隣のあんちゃん。それとヤマケンさんが、「2000年は個人闘争の時代や」とか、いろいろ言ってましたけど、あの発言を読んで共鳴しましたから。ボクはヤマケン賛成派です。

——最後に「俺のここを見ろ！」っていう感じのメッセージを下さい！

鳥羽　（考え込む）う〜〜ん。ヤマケンに追い付け追い越せ！　あとはマッハにも追い付け追い越せ！　ボクもポパイの表紙を狙ってたんですけど先に取られたんで（笑）。あとは、オレから目を逸らすな！　もしかしたら今が旬かもしれないですから（笑）。



【たのむさく・とば】本名・羽鳥誠　S50・7・14　茨城県出身　175センチ　70キロ　得意技・真空跳びヒザ蹴り、テッカンコー、高速パンチ、音速キック。特技・ワイクーH10・1・31、DDT昭島、江川英知戦でプロレスデビュー。来年早々にはタイのラジャダムナンでの試合も控えている。大好物は甘いお菓子。桜井速人とは高校時代からの友人である。

闘技をやり始めて、高校卒業して田

の試合に出る場合は、感情を殺すし

ることもあるんですけど。

念!

った破壊
目が覚め

産提供】

記念!

ナル

ス蔵入りにな
しか存在しま
ろの騒ぎじゃ

ー枝提供】

記念!

リーズ Vol.22

500シリーズ
ロレス』
在に操れるこ
! ちなみに、
自分だけのオ
マンを突き進
64-1031
ッシャー提供】

記念!

CD
いているエセCD
提供】

君記念!

言を吐いた中村
ました。スーパー
発売! これは、衝
代から思い起こせ
カタブツ君提供】

緊急速報『UFC−J』に続き、襲撃事件勃発!



前田日明襲撃事件後、『紙プロ』関係者内でも衝撃の事件が発生した。その一部始終をたまたま現場に居合わせたタマリンが激写! こんなことがあってもいいのだろうか? そして、「どうやら裏で焚き付けている人物がいるらしい」という噂も流れている。この事件を巻き起こしたガンツは、「オレは単独犯だから」と言い張っているが、なんとも不可解な後味の悪い事件であることは間違いない。

というわけで、『UFC-J』参加選手サイン入りTシャツ

ケビン・ランデルマン、ピート・ウイリアムスなど外国人選手から日本人選手まで全参加選手はもちろん、エンセン井上、モーリス・スミスと様々なセコンド人。そして、パーティーにいたバス・ルッテン、ケン・シャムロック、パンクラス勢などなど超豪華! そして話題の人、安生洋二選手のサインも入ってます!

【突然襲撃されたトメ兄さん&手タレのはなえさん提供】



2名様

PRESENT OF DREAM

祝! ヤマケン『UFC−J』ベルト獲得記念! ヤマケンさんは、「うどん、うどん言うてますけどねぇ、うどんのびてるっちゅうねん!」と吠えまくりであった。この言葉に感化された本誌編集部一同は、ヤマケンさんをうどん屋接待することに勝手に決定!? 旨い天ぷらうどん(鳥わさ6人前付き)食わせます!! ご連絡待ってま〜す!

誰が1番強いか決めたらええんや! 記念



セットで7名様

田村潔司サイン入り吊り広告ポスター(非売品)&カレンダー

「チーターのように速く逃げます!」と言う田村選手が、いっぱいサインをしてくれました。これは貴重です! Bブロックで勝ったらその賞金で何か読者プレゼント下さい! どうでしょう、田村さん!!

【リングス&タムタム提供】

サク、グレイシー襲撃記念!



1名様

『いつも不思議な人Tシャツ』

大人気を博している中川画伯新作サクTシャツ。今回もいい味出してます! 桜庭先生は奥様とお揃いで、中川画伯Tシャツをご愛用してるとか。『紙プロ』特選ジャイ子Tシャツもよろしくね!

【中川画伯提供】

『オイオイオイ! 俺と長州力の闘いが見れるんじゃあ〜!』記念!



各2名様

大仁田厚携帯ストラップ

オイオイオイ! 俺の携帯ストラップが欲しいかぁー! 欲しいんじゃったらハガキを書くん邪!

【ダイプロデュース提供】

オーちゃん、モンゴル襲撃記念!

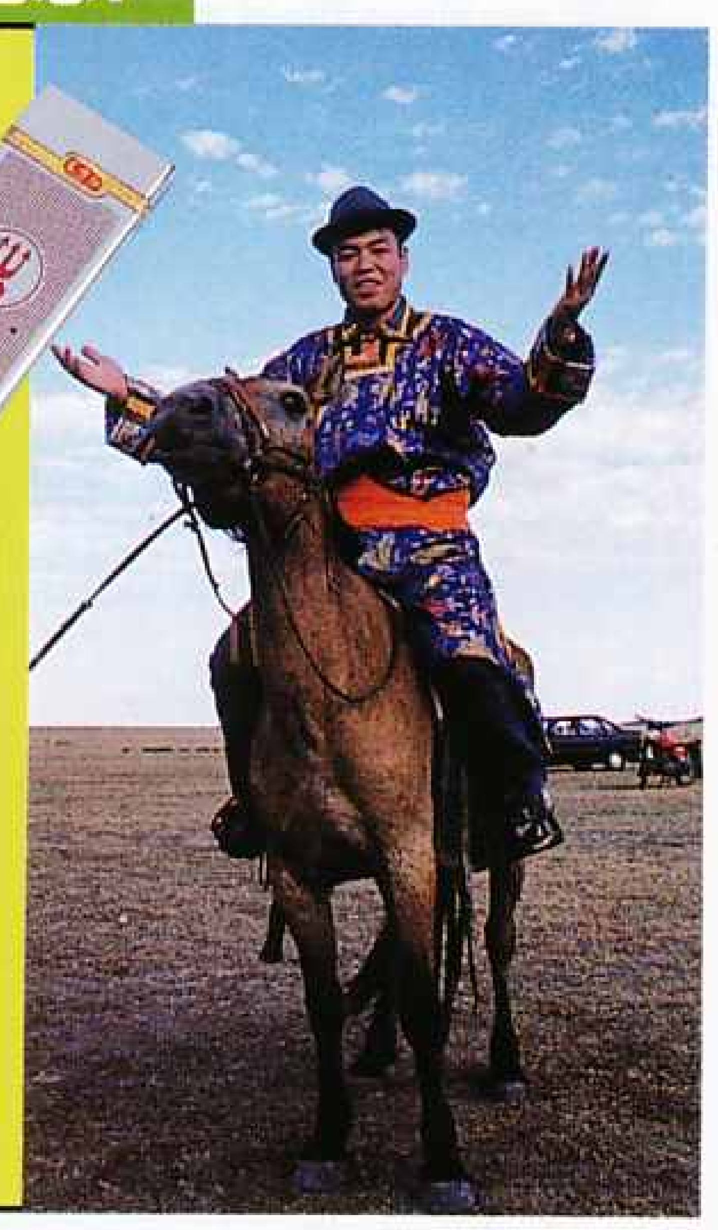


1名様



2名様

3名様



毛沢東(音が鳴る!)ライター モンゴリアンカレンダー UFOネックピース

最新UFOグッズは、メチャカッチョイーネックピース。そして、沢野さんから頂いたモンゴル土産物。このセンスにやられました! 沢野さんに完敗です。ありがとうございま〜す!!

【UFO沢野慎太郎名人提供】

サスケ社長レスラー生活10周年記念!



各2名様

芳名帳、TAKA&ライガーから届いた電報

ザ・グレート・サスケレスラー生活10周年記念ビデオ『エピソード3』で、お亡くなりになられたサスケ社長。そのお葬式には、数々のレスラーが参列されました。その時の芳名帳&電報を何故か死んだはずのサスケ社長サイン入りでプレゼント。

【天国のサスケ社長提供】



議員会館初上陸記念!



セットで5名様

「はせ浩とあゆむ会」入会申込書&会報『ノーザンライト』

まさか、はせ先生がオヤジチャリンコライダーズ所属とは……。と、何かとはせ先生の秘密がたっぷり載っている会報と1口1000円の「はせ先生とあゆむ会」入会申込書です!

【はせ先生提供】

スモー・ノブ初土俵記念!



1名様

大刀光サイン入り手形

大刀光さん、手形ごっちゃんです。また、稽古つけてやってください。はぁ〜どすこい! どすこい!

【大刀光さん提供】

大ちゃん詩人デビュー記念!


1名様

掣圏道Tシャツ
バトラーツの相田みつをこと大ちゃんが、掣圏道初参戦記念にTシャツをくれました。やっぱ詩人は気前がいいね!
【池田大輔提供】

イーフォースコーナー襲撃記念!



2名様

格闘結社田中塾Tシャツ
「イーフォースなんか目じゃない!」と吠えまくる我らがタナケン。「イーフォースの隣に載せろ!」とのことでしたが、残念ながら「イーフォース」からプレゼントが届かず……。なので、独占にしてみました。とにかく、男気あふれるTシャツだ!
【タナケン提供】

オクタゴン大盛況記念!


2名様

ダイエットブッチャー・ジップアッププルオーバー
某ファッション誌のカリスマブランドコーナーに名を連ねるダイエットブッチャー。この新作は、ちょっとしたところまで気くばりが利いているステキな作品。
【ダイエットブッチャースリムスキン提供】

破壊王、ダイエット絶好調記念!


各1名様

武藤敬司、橋本真也フィギュア
「小川、お前のおかげで目が覚めたよ」と言い切った破壊王。このフィギュアを眺めてるだけで、こっちまで目が覚めそうです。お問い合わせ☎048-255-3855まで。
【南武興産提供】

アニマル浜口万歳記念!



各3名様

お前とおれ、アニマルプリント、元祖維新軍、アニマルキュービック、アニマルジム、デルフィンTシャツ
こーんなステキなアニマル浜口Tシャツが存在するなんてご存じ? この他にもアニマルTシャツいっぱいあります。通信販売お問い合わせ☎0568-31-0727
【I・V・Yブックス提供】

マスカラスグッズ大人気記念!



各3名様

リスマルク、ブラックウォリアーTシャツ各2500円
前号のマスカラスグッズが大人気であったカカオから、CMLLTシャツを頂きました。VIVA! メヒコ! 通信販売も行ってます! お問い合わせ☎075-601-7816
【CACAOプランニング提供】

復刻記念!



各3名様

キャラクターヒーローズ タイガーマスクシリーズ
タイガーマスク、グレートゼブラ、赤き死の仮面、ミスターX 各900円
©梶原一騎・辻なおき/講談社・東映動画
懐かしのコミックヒーロー達が、かわいいプチサイズの2等身で登場!
※写真は開発中のものです。お問い合わせ☎03-3863-0576
【レッズ提供】

お蔵入り記念!


1名様

『紙プロ』オリジナル携帯ストラップ
この携帯ストラップは、お蔵入りになったため、世の中に3本しか存在しません! これは、レアどころの騒ぎじゃない!
【林ヘクション一枝提供】

激白記念!



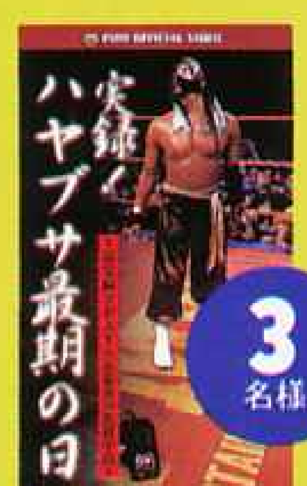
セットで3名様

『NBM V SPECIAL』1・2
パート1では、「ボクは、ガンです」と西村修が激白するシーンあり。パート2では、ムトちゃん、アントニオ猪木に会うためにアメリカまでブッ飛びました。どっちも実に見逃せないッスよ!
【VALIS提供】



3名様

『不死鳥伝説!』
話題沸騰のハヤブサAVビデオ。ちなみに、これを見たスモー・ノブは狂っておりました。
【Mrプレジデント提供】



3名様

『実録! ハヤブサ最後の日』
最後まで飛びまくりであったハヤブサを特とごらんあれ!
【東芝EMI提供】



セットで3名様

『GINGU CLIMAX BATTLEofLAST SUMMER』1、2
お前は、グレートニタが見たいか! これを見れば、あの真夏の伝説が蘇るん邪!
【東芝EMI提供】

グラップラー大爆発記念!


各2名様

『グラップラー刃牙』パーカー 白・黒
押忍! こちらは、神心館本部。このパーカーを着れば、キミも今日からグラップラーだ! 通信販売お問い合わせ☎075-255-2698 サイズはM・L。8900円
【CONQUEST提供】

300万本突破記念!



3名様

プレステソフトSIMPLE1500シリーズ VOL.22『THEプロレス』
20人のレスラーを自由自在に操れるこのソフトは絶賛発売中です! ちなみに、レスラーメイキングもでき、自分だけのオリジナルレスラーで格闘ロマンを突き進め!お問い合わせ☎03-5464-1031
【ディースリー・パブリッシャー提供】

応募要項

希望商品が決まった方は、直ちにハガキに下記の要領で記入の上、送ってくださ〜い。

応募券
❶郵便番号・住所・電話番号
❷氏名 ❸年齢・職業
❹希望商品
❺面白かった記事&その理由
❻つまらなかった記事&その理由
❼『PRIDE.0』(P142〜)の勝者は誰?
❽キミは、小杉夕子VSシャーク土屋が見たいかぁー!

【宛 先】
〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
(株)ダブルクロス
『紙プロRADICAL』編集部
「オヤジ度98%」係まで
※締切は1月10日です

DDTブレイク記念!



1名様

ストーンコールドプチライト
DDTの巨乳マネージャー、ナオミちゃんがジャイ子にプレゼントした物なのですが、いないので上げちゃいま〜す。
【ナオミ・スーザン提供】

エセアメプロ記念!



1名様

アメプロ、インチキCD
スモー・ノブもノリノリで聞いているエセCDだ! 【白夜書房坂本さん提供】

マッキーワルTシャツ人気爆発記念!


3名様

ワルTシャツ S、M、L、ちびT
大人気の真樹先生Tシャツは、2800円で通信販売開始! それを記念して、再び登場です。そして、ニューデザインがもうすぐ出ます! お楽しみでチュッ。お問い合わせ☎03-5690-1600
【AFGサービス提供】



10名様

カタブツ君記念!

空手本『極真外伝』
入稿中に「日曜日って何曜日?」と名言を吐いた中村カタブツ君(36歳)が空手本を作りました。スーパーバイザーは吉田豪です。本日絶賛? 発売! これは、衝撃事件です!! 本誌ダメ編集者時代から思い起こせばこりゃ、ホントに世紀末ですな。
【中村カタブツ君提供】

紙のプロレス RADICAL
No.22

2000年1月10日発行

STAFF

編集兼発行人
山口日昇

編集スタッフ
スモー・ノブ
松澤チョロ
大西タマリン
八木賢太郎（イカスミを食べすぎたため非番）

スーパーバイザー
吉田豪

広告営業
佐藤恵美

助っ人
堀江ガンツ
恒遠バカツネ
中村愚乱
金田謙太郎
村田英之

アートディレクター
出田さん（TwoThree）

デザイン
ヒサくん
マツ
村松さん
セッキー
グッチー（以上TwoThree）
トメさん
はなえちゃん（以上早乙女の事務所）

出前
出前持ち入江（TwoThree）

カメラマン
斉藤ユーリ
遠藤政文
森鷹博
黒田史夫
戸成ぶつぞう
森田友美

試合写真
平工幸雄
長尾迪
乾晋也
スペル・テポドン2号

お勘定
林ヘックション一枝

日曜日って何曜日？
中村カタブツ君（36歳）

フィニッシュ
ツー・スリー／早乙女の事務所

印刷
図書印刷株式会社

印刷人
大杉すぎすぎ昌也

えっ!? 全女
ジャイ子

発売元
株式会社ワニマガジン社
〒160-8580　東京都新宿区内藤町一番地
TEL.03-3357-2911（販売・営業）

発行元
株式会社ダブルクロス
〒151-0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
TEL.03-3403-5188（編集・制作）

編集内容等に関するお問い合せは
（株）ダブルクロスにするでごわす。はぁ〜、どすこい!!。

オイ、ホントかよ!?
No.23は2000年1月中旬〜下旬発売予定!! それが定説です!!

※地域によっては3〜4日発売日が異なります

ハイセンスこの上ない！『紙プロ』ブランド冬の新作!!



花くまゆうさく先生描き下ろし!!

U.M.F.ラグランパーカー

大出血サービス価格 **¥5800**

[サイズ] M or L
[カラー] ネイビー×ホワイトのみ！
[生産枚数] 完全限定100枚！

爆発的に売れてるU.M.F.Tシャツがパーカーになった！　これだけでも買うしかないが、さらに限定100枚しか世の中に出回らないのである。悪いこと言わないから、買っておくべき！　しかも、あくまでラグランにこだわるTシャツ部長・林ヘックション一枝が特注して作らせたボディーは、他では手に入らないシロモノだ。胸とフードに入ってるイラストは本誌で『リングの汁RADICAL』を好評連載中の花くまゆうさく先生が書き下ろしたもの。何回でも言うけど、買わないと後悔します！



中川雅博画伯描き下ろし!!

ジャイ子引退記念Tシャツ
～アンドレ・ザ・ジャイ子～

号泣売りつくし価格 **¥3000**

[サイズ] M or L
[カラー] ホワイト or アッシュ・グレー
[生産枚数] 完全限定100枚！

妖怪人間ジャイ子が『紙プロ』を追放されてから早1ヶ月。ごく一部のモノ好きな人を除くとジャイ子を惜しむ声はだいぶ沈静化したのだが、そこをあえてTシャツにしてみました。イラストを書いたのはなんと！　『ハガキ劇場』で絶賛投稿中の中川雅博画伯！　抜群のスキルで、ジャイ子の怪物性を見事に描ききってくれました。新キャラ、スモー・ノブもちゃっかり登場しているゾ！　ちなみに、売上金の一部はジャイ子救済基金に寄付されます。ジャイ子への退職金代わりだと思って買ってください。ジャイジャイ！

★どちらも完成予想図です。実際の商品と若干異なる場合があるのでご了承ください。

チンピラだよ、チンピラ！な通販方法

希望商品の代金＋送料¥500（何枚でも）を現金書留で、右記住所まで送ってください。あなたの住所、氏名、年齢、電話番号、希望商品（サイズとカラーをちゃんと書いてね♥）、枚数を明記したメモを必ず同封すること！　これがないと商品の発送が出来ないのであしからず。マジで枚数が少ないので、急いで現金書留を送れ！　さもなければ『チャンピオン東京店&大阪店』で販売中なので、こっちでゲットだ！

〒151-0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
（株）ダブルクロス「チンピラだよ、チンピラ！」係まで
お問い合せダイヤル：（株）ダブルクロス　TEL.03-3403-5188

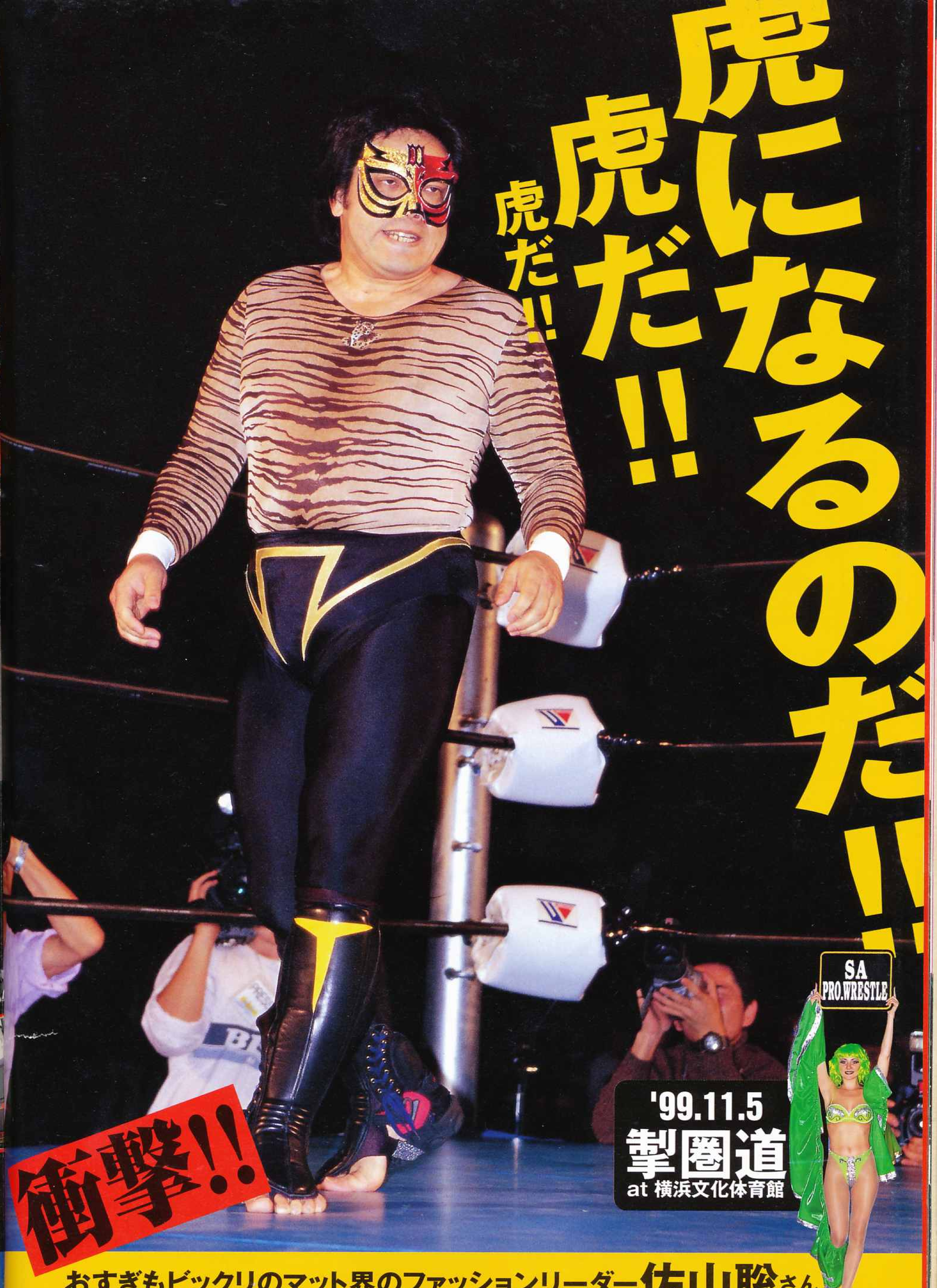
紙のプロレス RADICAL
WANIMAGAZIN MOOK 125
2000 NO.22
前田日明狙撃事件を斬る!
VIVA! やっちゃったね、サク!!
平成12年1月10日発行　編集発行人／山口日昇
発売元：(株)ワニマガジン社　〒160-8580 東京都新宿区内藤町1番地　電話／03-3357-2911
発行元：(株)ダブルクロス　〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702　電話／03-3403-5188
ワニマガジン社　定価：本体838円＋税

9784898296066
雑誌　69862-25
ISBN4-89829-606-8
C9476 ¥838E
1929476008381
印刷：図書印刷株式会社

Lets! 問い合わせ♥ テレINDEX

		栗栖ジム 06-6790-8896 〒547-0014大阪府大阪市平野区長吉川辺3-1-7
全日本プロレス 03-3403-7344 〒106-0032東京都港区六本木7-3-12	**UFO** 03-5447-2121 〒108-0071東京都港区白金台3-19-5O K白金台ビル7F	**ドリームステージエンターテインメント** 03-3552-6300 〒104-0033東京都中央区新川2-3-9 新川第二ビル
新日本プロレス 03-5468-3111 〒150-0011東京都渋谷区東2-1-11	**大阪プロレス** 06-6243-5131 〒542-0081大阪府大阪市中央区南船場3-1-7 日宝東心斎橋ビル301	**K-1事務局** 03-3796-2977 〒150-0001東京都渋谷区神宮前3-31-14
FMW 03-5496-0671 〒153-0064東京都目黒区下目黒2-23-15 ダヴィンチ下目黒6F	**闘龍門JAPAN** 078-362-0707 〒650-0022兵庫県神戸市中央区元町通り5-3-18	**修斗コミッション** 03-3961-2704 〒173-0001東京都板橋区本町34-4 石田コーポラス501
リングス 03-3461-0257 〒150-0036東京都渋谷区南平台13-1 サトウビル202	**ダイプロデュース(大仁田興行)** 03-5496-4900 〒141-0031東京都品川区西五反田1-28-3 ハイラーク五反田505	**WK/Network (和術慧舟會、A^{3}GYM、RJW)** 03-5200-3546 〒103-0021東京都中央区日本橋石町3-3-11 山田ビル5F
WAR 03-5477-0461 〒154-0015東京都世田谷区桜新町1-14-23 萬豊ビル2F	**世界のプロレス** 093-203-5170 〒807-0054福岡県遠賀郡水巻町二東2-8-6	**シュートボクシング協会** 03-3843-1212 〒111-0033東京都台東区花川戸2-2-8 ワコー花川戸ハイツ1～3F
みちのくプロレス 019-626-1333 〒020-0063岩手県盛岡市材木町9-8	**掣圏道** 03-5456-7333 〒150-0021東京都渋谷区恵比寿西2-6-14 恵比寿スカイハイツ607	**UFCJ事務局** 03-3343-2444 〒163-0430東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル30F
SPWF 03-3814-6371 〒113-0001東京都文京区白山1-17-4 クロサキビル	**キングダム** 0423-31-2797 〒206-0822東京都稲城市坂浜2305	**全日本女子プロレス** 03-3493-6541 〒153-0064東京都目黒区下目黒2-17-17
パンクラス 03-5792-0815 〒106-0047東京都港区南麻布4-2-25	**キャプチャー** 044-959-3333 〒215-0011神奈川県川崎市麻生区百合丘2-2-1 横山ビルB1	**JWP** 03-3839-4161 〒110-0005東京都台東区上野1-15-10 大秀ビル502
IWAジャパン 03-3352-3366 〒160-0004東京都新宿区四谷4-6-1 四谷サンハイツ401	**国際プロレス** 0467-86-0197 〒253-0052神奈川県茅ヶ崎市幸町20-14	**LLPW** 03-3945-7926 〒112-0005東京都文京区水道2-13-4 ビクセル文京105
大日本プロレス 045-937-0811 〒224-0053神奈川県横浜市都築区池辺町4347	**つぼプロモーション** 03-3498-4710 〒107-0062東京都港区南青山6-15-1 アパルトマン青山2F－E	**GAEA JAPAN** 03-3795-2555 〒154-0004東京都世田谷区太子堂5-15-3 COVAMOC BUILDING2F
バトラーツ 0489-63-0005 〒343-0807埼玉県越谷市赤山町2-158-1	**華☆激** 092-522-1901 〒810-0022福岡市中央区薬院4-8-29 エステートピア薬院302	**Jd'** 03-5561-0522 〒107-0052東京都港区赤坂2-12-10 国際溜池ビル7F
DDT 03-3356-8493 〒151-0051東京都渋谷区千駄ヶ谷5-17-18 オリエンタル千駄ヶ谷102プリントオフィス内	**喧嘩プロレス二瓶組** 044-244-8942 〒212-0055神奈川県川崎市川崎区南町18-17 第5大昭ビル502	**アルシオン** 03-5720-5217 〒150-0022東京都渋谷区恵比寿南3-7-1 代官山島田ビル3F
高田道場 03-3755-1444 〒146-0082東京都大田区池上4-27-13 トウセン池上ビル	**T.A.M.A** 042-572-6795 〒185-0031東京都国分寺市富士本1-23-5	**ネオ・レディース** 03-5759-1977 〒141-0013東京都品川区五反田6-24-2-801

●前号におきまして『LLPW』の電話番号がまちがえておりました。関係者並びにファンの皆様方に、多大なるご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。
「ジャイ子のバカァ～!」(モハメド・ヨネ調)



おすぎもビックリのマット界のファッションリーダー佐山聡さん



〜超ド級怪力女デビュー記念ピンナップ〜

世紀末の密林女
関綾子
［全日本女子プロレス］

【怪物的プロフィール】
1984年2月24日・鹿児島県出身
身長171センチ　体重105キロ

バケモノだ！ 12月8日の全女・代々木大会でデビューする関綾子は、なんと4トンバスを引いて動かすとんでもない15歳である！ 平地なら踏ん張らずに引っ張ってしまう上に、坂道までも登ってしまうからおそろしい。身体以上に巨大な可能性を感じさせてくれる。さらにバスを引いた直後に、1270ページもある電話帳を真っ二つに裂いてしまった！

こんなグレート・アントニオばりのパフォーマンスを堂々とやってのける女子は見たことない！ しかも経歴を見ると「中卒」「砲丸投げ出身」と書いてある。じつにA・猪木なプロフィールではないか！ さらに身体を見てもらえば、関がタダのデブではなく、ものすごい筋肉を隠し持ってることがわかるだろう。

記者陣との一問一答でも怪物ぶりをいかんなく発揮してくれた。好きな食ベモノは？「ご飯！」、嫌いな食ベモノは？「ない！」という分かりやすい答えをいちいち返してくれる。かなりの大食漢で、撮影中も絶えず「腹減ったぁ～」を連発していた。梅干しだけあれば白米一升は軽く食うそうだ。

松永高司会長も「最近はビジュアル系の選手が多いけど、こういう選手はプロレスに絶対必要なんです。新人時代のダンプ松本やブル中野以上の逸材だね」と絶賛！　新人に厳しい本誌だが、この新人ばかりは松永会長の意見に賛同し、今号のピンナップを差し上げて応援します！

驚愕!!
4トンバスを引く女、現る!!



電話帳もまっぷたつ!!





世界びっくり人間大賞受賞（予定）～超ド級怪

L CALENDAR

『紙プロ』編集部
おススメ興行

★ 山口日昇
◎ スモー・ノブ
♠ 松澤チョロ記者
大西タマリン
△ ガンツ堀江

1 January

2 SUN.
全日本■東京・後楽園ホール(12:30)
大日本■東京・後楽園ホール(18:30)△

3 MON.
全日本■東京・後楽園ホール(12:30)
大日本■三重・四日市オーストラリア記念館(18:30)

4 TUE.
新日本■東京・東京ドーム(15:00)
大阪■大阪・なみはやドーム(18:00)
● JWP&I・V・Y・BOOKS合同イベント『プロレス&格闘技グッズショー』(後楽園ホール5Fイベント展示場)1日店長、愚乱浪花。サイン会、美咲華菜。

5 WED.
FMW■東京・後楽園ホール(18:30)
大日本■静岡・ツインメッセ静岡(18:30)

6 THU.
全日本■高知・高知県民体育館(18:30)

7 FRI.
全日本■広島・広島市佐伯区スポーツセンター(18:00)
大日本■大阪・大阪府立体育会館第2競技場(18:30)
アルシオン■東京・後楽園ホール(19:00)

8 SAT.
全日本■大分・大分県立荷揚町体育館(18:00)
大日本■山口・防府スポーツセンター(18:30)

9 SUN.
全日本■福岡・福岡国際センター(15:00)
大日本■福岡・田川市武道館(14:00)
JWP■東京・後楽園ホール(12:30)

10 MON.
全日本■熊本・熊本市総合体育館(15:00)
大日本■福岡・博多スターレーン(16:00)
Jd'■東京・後楽園ホール(12:30)

11 TUE.
全日本■鹿児島・鹿児島アリーナ(18:30)

12 WED.
全日本■長崎・佐世保市体育文化館(18:30)
大日本■大分・大分県立荷揚町体育館(18:30)

13 THU.
大日本■鹿児島・鹿児島アリーナ(18:30)

14 FRI.
大日本■大分・竹田市勤労者体育センター(18:30)
修斗■東京・後楽園ホール(18:30)

15 SAT.
全日本■岐阜・多治見美濃焼卸センター(18:00)
DDT■神奈川・平沼記念体育館(16:30)
JWP■愛知・名古屋市中村スポーツセンター(17:30)

16 SUN.
全日本■石川・こまつドーム(15:00)
闘龍門■東京・後楽園ホール(18:30)
GAEA■東京・後楽園ホール(12:00)

17 MON.
全日本■大阪・大阪府立体育会館(18:30)

18 TUE.
全日本■三重・メッセウイングみえ(18:30)

22 SAT.
全日本■東京・後楽園ホール(18:30)
GAEA■静岡・アクトシティ浜松(18:00)

23 SUN.
全日本■神奈川・横浜文化体育館(15:00)
パンクラス■東京・後楽園ホール(12:00)
JWP■茨城・牛久運動公園体育館(18:30)
GAEA■愛知・名古屋市体育館(14:00)

30 SUN.
PRIDE■東京・東京ドーム(17:00)★
バトラーツ■東京・後楽園ホール(12:00)「石川単行本先行発売!」★
闘龍門■三重・四日市オーストラリア記念館(13:30)
DDT■東京・北沢タウンホール(18:30)♠
アルシオン■東京・Zepp TOKYO(16:00)

31 MON.
全日本■東京・後楽園ホール(18:30)◎

RADICAL CA

●はイベント情報です。

12 December

10 FRI.
新日本■大阪・大阪府立体育会館（18:00）
みちのく■愛知・中村スポーツセンター（18:00）
JWP■東京・北沢タウンホール（18:30）

11 SAT.
VALE TUDO JAPAN'99■千葉・東京ベイNKホール（16:00）
FMW■東京・後楽園ホール（18:30）◎
みちのく■岡山・卸センターオレンジホール（18:30）
大阪■大阪・なんばNGKスタジオ（19:00）
アルシオン■神奈川・横浜文化体育館（17:00）

12 SUN.
FMW■東京・後楽園ホール（12:00）
みちのく■広島・福山市みろくの里（15:00）
大阪■大阪・なんばNGKスタジオ（15:00）
IWA■福島・福島市国体記念体育館サブアリーナ（18:30）

13 MON.
IWA■宮城・若柳町中央公民館（18:30）
●バトラーツ島田レフェリープロデュースイベント「年忘れ大忘年会in渋谷ロックウエスト」（19:00）料金2500円（2ドリンク、軽食付き）　本誌編集長・山口日昇が、もしかしたら襲撃するかもしれません!!　㊐渋谷ロックウエスト☎03-5459-7988

14 TUE.
みちのく■新潟・新潟フェイズ（19:00）
IWA■東京・後楽園ホール（18:30）
つぼプロモーション■東京・北沢タウンホール(19:00)

15 WED.
みちのく■岐阜・岐阜産業会館（18:30）

16 THU.
WAR■東京・後楽園ホール（18:30）
みちのく■神奈川・小田原アリーナ（18:30）

17 FRI.
みちのく■神奈川・クラブチッタ川崎（18:30）
キャプチャー■東京・北沢タウンホール（19:30）♠
Jd'■静岡・アクトシティ浜松展示イベントホール（18:00）

18 SAT.
パンクラス■神奈川・横浜文化体育館（18:00）
みちのく■静岡・ツインメッセ静岡（18:30）
闘龍門■兵庫・神戸チキンジョージ（19:00）
Jd'■大阪・岸和田市総合体育館（18:00）

19 SUN.
みちのく■静岡・アクトシティ浜松（18:30）
全女■東京・全女事務所ガレージ（12:00）
Jd'■大阪・NGKスタジオ（14:00）

21 TUE.
みちのく■東京・後楽園ホール（14:00）★
レスリングフェスティバル'99■東京・国立代々木競技場第2体育館（18:00）

22 WED.
リングス■大阪・大阪府立体育会館（18:00）★△
DDT■東京・後楽園ホール（19:00）
レスリングフェスティバル'99■東京・国立代々木競技場第2体育館（18:00）

23 THU.
新日本■東京・後楽園ホール（18:30）

24 FRI.
大阪■大阪・ひらかたパーク（18:00）

25 SAT.
バトラーツ■東京・TFMホール（18:00）
大阪■大阪・ひらかたパーク（13:00）
大仁田興行■愛知・名古屋市公会堂（17:30）
全女■愛知・新庄市体育館（18:30）
ネオ・レディース■東京・駒沢屋内球技場（18:00）

26 SUN.
大阪■大阪・ひらかたパーク（13:00）
大仁田興行■兵庫・サンボーホール（15:00）
全女■東京・後楽園ホール（18:30）

27 MON.
GAEA■東京・後楽園ホール（19:00）

28 TUE.
Jd'■東京・後楽園ホール（18:30）

1

2 SUN.
全日本■東
大日本■東

3 MON.
全日本■東
大日本■三

4 TUE.
新日本■東
大阪■大阪
● JWP&I・V
ル5Fイベント

5 WED.
FMW■東京
大日本■静

6 THU.
全日本■高知

7 FRI.
全日本■広
大日本■大阪
アルシオン■

8 SAT.
全日本■大分
大日本■山口

9 SUN.
全日本■福岡
大日本■福岡
JWP■東京

10 MON.
全日本■熊本
大日本■福岡
Jd'■東京

11 TUE.
全日本■鹿児